愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第189集

石座神社遺跡（いわくらじんじゃいせき）

（第1分冊　本文編）

２０１５

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

天正３年（1575)、戦国時代の流れを大きく変える戦いが行われました。世に名高い「長篠・設楽原の戦い」です。柵をはさんで織田軍の鉄砲隊と武田軍の騎馬隊の戦いが行われた設楽原、その設楽原をのぞむ丘陵上に営まれた遺跡が石座神社遺跡です。

式内社である丘陵の麓の石座神社の歴史もさることながら、このたびの石座神社遺跡の発掘調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのおびただしい数の建物跡が見つかりました。中には大型の建物、特殊な構造の建物もみられ、集落を営んだ人びとの中には、やがて古墳に葬られるような集団のリーダーが生まれつつあったことも想像されます。当時、貴重だった中国鏡を割った破鏡や鉄製品の出土も集落がいかに栄えたかを物語っています。

本書はこの成果をまとめたもので、今後、本書の成果が学術的に活用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、地元住民の皆様をはじめ、関係者及び関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対して、厚く御礼を申し上げます。

平成 27 年３月

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長　伊藤克博

例　言

1．本書は、愛知県新城市大宮字狐塚に所在する石座神社遺跡（県登録番号 76045：愛知県教育委員会 1996『愛知県遺跡地図（III）東三河地区』）の発掘調査報告である。

2．石座神社遺跡の発掘調査は、第二東海自動車道横浜名古屋線（新東名高速道路）建設工事にかかる事前調査として、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター（平 22 年 3 月以前）、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター（平成 22 年 4 月以降）が実施した。

3．調査期間は平成 19 年 5 月から 6 月（範囲確認調査）、平成 20 年 6 月から平成 21 年 3 月、平成 21 年 8 月から平成 22 年 3 月、平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月である。

4．調査面積は平成 19 年度（範囲確認調査）が 400㎡、平成 20 年度が 5,200㎡、平成 21 年度が 4,720㎡、平成 22 年度が 10,330㎡で、計 20,250㎡（範囲確認調査を除く）である。

5．調査担当者は、宮腰健司（主査・調査研究専門員）、松田　訓（調査研究専門員）、岡久雅浩（主任）、早野浩二（調査研究主任）、白井克尚（調査研究主事）、日吉康浩（調査研究主事）である。

6．発掘調査にあたっては、次の各関係機関のご指導とご協力を得た。
愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター
中日本高速道路株式会社豊川工事事務所　新城市教育委員会・豊川市教育委員会

7．発掘調査において、平成 20 年度は安西工業株式会社、平成 21 年度は大成エンジニアリング株式会社、平成 22 年度は株式会社島田組より調査業務全般の支援を受けた。支援体制は以下の通りである。
平成 20 年度　水野結貴（現場代理人）　久富正登（調査補助員）　田村和久（測量技師）
平成 21 年度　浅見克己（現場代理人）　蒲　明男（調査補助員）　太田幸信（測量技師）
平成 22 年度　中川健二（現場代理人）　西村匡広　有馬啓介（調査補助員）　田村和久（測量技師）

8．報告書作成にかかる整理作業において、出土遺物の実測・トレースを株式会社イビソク、ナカシャクリエイテブ株式会社、テイケイトレード株式会社、株式会社アルカ、株式会社ラング、遺構図の編集作業をナカシャクリエイテブ株式会社、試料の放射性炭素年代測定、樹種同定、炭素・窒素安定同位体比分析、動物遺体の同定を株式会社パレオ・ラボ、青銅製品の鉛同位体比分析を別府大学文化財研究所、黒曜石原産地の蛍光Ｘ線分析を株式会社第四紀地質研究所、金属製品の保存処理を株式会社東都文化財保存研究所、馬歯の保存処理・復元品製作を株式会社スタジオ三十三、出土遺物の写真撮影を金子和久氏（有限会社写真工房・遊）、空中写真合成を株式会社アコード、鳥瞰図作成・映像編集をナカシャクリエイテブ株式会社にそれぞれ委託した。

9．発掘調査、報告書作成の過程で、次の各氏、各機関からご指導、ご協力を得た。
浅岡　優　浅田博造　石川明弘　伊藤秋男　伊東文弘　岩野見司　岩原　剛　岩山欣司　岡村秀典
岡安雅彦　長田友也　加納俊介　神谷真佐子　北村和宏　小林克也　小林芳春　柴垣勇夫　鈴木一有
鈴木敏則　鈴木とよ江　高橋照彦　寺澤　薫　中久保辰夫　中村賢太郎　贄　元洋　西川修一
西松賢一郎　坂野俊哉　平尾良光　福永伸哉　古屋紀之　三原翔吾　村上　昇　村木　誠　森　泰通
森　勇一　森下章司　安中哲徳　山内淳司　山川史子　余合昭彦　横谷朋子　渡辺　誠
新城市教育委員会　豊川市教育委員会　豊橋市美術博物館・豊橋市文化財センター

10. 本編の執筆は第３章第２節（４）・同第３節（16）を川添和暁（調査研究主任）、第４章（１）をパレオ・ラボＡＭＳ年代測定グループ、同（２）を中村賢太郎（株式会社パレオ・ラボ）、同（３）を山形秀樹・小林克也（株式会社パレオ・ラボ）、同（４）を西田京平・平尾良光（別府大学文化財研究所）、同（５）を堀木真美子（調査研究専門員）、同（６）を株式会社第四紀地質研究所、それ以外を早野浩二が担当した。
11. 遺構番号は原則として発掘調査時に用いたものを踏襲した。なお、使用する遺構記号は以下のとおりであるが、厳密な統一性はない。
    SK：土坑　SD：溝　SI：竪穴建物　SB：掘立柱建物　SA：柵　SL：炉　SY：窯体
    SX：その他不明遺構
12. 発掘調査および本書で使用した座標は、国土座標第Ⅶ系に準拠した。ただし、表記は新測地系（世界測地系）による。
13. 本編で使用する土層の色調については、『新版標準土色帳』を参考に記述した。
14. 発掘調査の記録（実測図、写真等）は、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターで保管している。なお、遺跡の略記号は「3SIJ」である。
15. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
    〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方 802-24
16. 本書の編集は早野浩二が担当した。

目　次

第１章　調査の概要 1

（１）調査の経緯 1
（２）調査の経過 2

第２章　周辺の環境 8

（１）地理的環境 8
（２）歴史的遺跡 9

第３章　遺構と遺物 16

第１節　微地形と層序 16

第２節　弥生時代中期以前の遺構と遺物 18

（１）後期旧石器時代・縄文時代の遺構 18
（２）縄文時代・弥生時代前期・中期の土器 22
（３）後期旧石器時代・縄文時代の石器・石製品 24

第３節　弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と遺物 30

（１）概要 30
（２）竪穴建物の調査の方法 32
（３）竪穴建物の諸属性・時期区分 34
（４）竪穴建物Ａ群 42
（５）竪穴建物Ｂ群 48
（６）竪穴建物Ｃ群 50
（７）竪穴建物Ｄ群 54
（８）竪穴建物Ｅ群 61
（９）竪穴建物Ｆ群 64
（10）竪穴建物Ｇ群 69
（11）竪穴建物Ｈ群 72
（12）竪穴建物Ｉ群 75
（13）竪穴建物Ｊ群 76
（14）竪穴建物Ｋ群 77
（15）掘立柱建物・柱穴（列） 78
（16）弥生時代後期から古墳時代前期の石器・石製品 82
（17）弥生時代後期から古墳時代前期の金属製品 84

第４節　古代の遺構と遺物 86

第５節　中世以降の遺構と遺物 88

第４章　分析・考察 92

（１）放射性炭素年代測定 92
（２）石座神社遺跡出土のウマ 119
（３）炭素・窒素安定同位体比分析 122
（４）金属製品の産地推定 126
（５）土器に付着した赤色顔料の蛍光Ｘ線分析 134
（６）黒曜石原産地の蛍光Ｘ線分析 136
（７）弥生時代後期から古墳時代前期の土器編年 141
（８）弥生時代後期から古墳時代前期における竪穴建物の諸属性 170
（９）弥生時代後期から古墳時代前期における集落の変遷 180
（10）弥生時代後期から古墳時代前期の特徴的な遺構と遺物 187
（11）古代・中近世の遺構と遺物 194

第５章　総括 197

遺物一覧表（土器） 201

遺物一覧表（石器・金属器） 221

報告書抄録

第２分冊　遺構図版・遺物図版編

第３分冊　写真図版編

付属 CD-ROM

〈挿図目次〉

第　1　図　遺跡の位置 1
第　2　図　調査区配置図 6
第　3　図　周辺地籍図 6
第　4　図　断上山の遺跡と古墳 7
第　5　図　遺跡周辺鳥瞰図（北方向から） 8
第　6　図　周辺遺跡分布図 9
第　7　図　断上山 10 号墳 12
第　8　図　遺跡層序断面 17
第　9　図　後期旧石器時代の旧石器の分布（08 区） 18
第 10 図　縄文時代遺構配置 19
第 11 図　出土土器重量分布（弥生時代中期以前） 23
第 12 図　石鏃と縄文時代の土坑（陥穴）の分布 25
第 13 図　縄文時代草創期の石器・石匙の分布 28
第 14 図　石材重量分布（熔結凝灰岩・チャート・黒曜石） 29
第 15 図　竪穴建物の分布と群別 31
第 16 図　出土土器重量分布（弥生時代後期から古墳時代前期） 31
第 17 図　竪穴建物の部分呼称 34
第 18 図　竪穴建物Ａ群の配置 42
第 19 図　竪穴建物Ｂ群の配置 48
第 20 図　竪穴建物Ｃ群の配置 50
第 21 図　竪穴建物Ｄ群の配置 54
第 22 図　竪穴建物Ｅ群の配置 61
第 23 図　竪穴建物Ｆ群の配置 64
第 24 図　竪穴建物Ｇ群の配置 69
第 25 図　竪穴建物Ｈ群の配置 72
第 26 図　竪穴建物Ｉ群の配置 75
第 27 図　竪穴建物Ｊ群の配置 76
第 28 図　竪穴建物Ｋ群の配置 77
第 29 図　柱穴列（掘立柱柵） 81
第 30 図　図像の復原 84
第 31 図　奈良時代の遺構配置 86
第 32 図　区画溝 010SD 土層断面 86
第 33 図　出土土器重量分布（古代） 87
第 34 図　中世以降の遺構配置 88
第 35 図　出土土器重量分布（中世以降） 88
第 36 図　縄文時代（早期前半）のマルチプロット図 102
第 37 図　縄文時代（早期後半から晩期）のマルチプロット図 102
第 38 図　弥生・古墳時代のマルチプロット図　1 104
第 39 図　弥生・古墳時代のマルチプロット図　2 105
第 40 図　古代・中世のマルチプロット図 106
第 41 図　近世以降のマルチプロット図 106
第 42 図　暦年較正結果　1 107
第 43 図　暦年較正結果　2 108
第 44 図　暦年較正結果　3 109
第 45 図　暦年較正結果　4 110

第 ４６ 図　暦年較正結果　５ 111
第 ４７ 図　暦年較正結果　６ 112
第 ４８ 図　暦年較正結果　７ 113
第 ４９ 図　暦年較正結果　８ 114
第 ５０ 図　暦年較正結果　９ 115
第 ５１ 図　暦年較正結果　10 116
第 ５２ 図　暦年較正結果　11 117
第 ５３ 図　暦年較正結果　12 118
第 ５４ 図　石座神社遺跡 5631SK 出土のウマ 121
第 ５５ 図　土器付着物の安定同位体比と炭素窒素比測定を行なった試料 123
第 ５６ 図　炭素・窒素安定同位体比 125
第 ５７ 図　炭素安定同位体比と C/N 比の関係 125
第 ５８ 図　石座神社遺跡出土青銅器の鉛同位体比（Ａ式図） 133
第 ５９ 図　石座神社遺跡出土青銅器の鉛同位体比（Ｂ式図） 133
第 ６０ 図　石座神社遺跡出土鉛玉の鉛同位体比（Ａ式図） 133
第 ６１ 図　石座神社遺跡出土鉛玉の鉛同位体比（Ｂ式図） 133
第 ６２ 図　設楽原他との鉄砲玉の鉛同位体比の比較（Ａ式図） 133
第 ６３ 図　設楽原他との鉄砲玉の鉛同位体比の比較（Ｂ式図） 133
第 ６４ 図　赤色顔料のスペクトル図　１ 134
第 ６５ 図　赤色顔料のスペクトル図　２ 135
第 ６６ 図　石座神社遺跡Ｒｂ－Ｓｒ図 138
第 ６７ 図　器種（形式）分類 142
第 ６８ 図　甕の型式変化と属性の相関 144
第 ６９ 図　大容量の甕（８期前後） 145
第 ７０ 図　鉢状の甕（６期以降） 145
第 ７１ 図　有段口縁甕Ａの加飾 146
第 ７２ 図　広口壷Ａａ 147
第 ７３ 図　加飾広口壷（６期） 147
第 ７４ 図　パレス系壷と関連資料 148
第 ７５ 図　有段口縁壷（広口壷Ｆ）の諸例 149
第 ７６ 図　内彎口縁壷の諸例 151
第 ７７ 図　手焙形土器 153
第 ７８ 図　石座神社遺跡出土土器の編年（く字甕・平底甕） 156
第 ７９ 図　石座神社遺跡出土土器の編年（有段口縁甕・Ｓ字甕等） 157
第 ８０ 図　石座神社遺跡出土土器の編年（広口壷） 158
第 ８１ 図　石座神社遺跡出土土器の編年（加飾広口壷） 159
第 ８２ 図　石座神社遺跡出土土器の編年（加飾広口壷・パレス系壷・袋状口縁壷・有段口縁壷等） 160
第 ８３ 図　石座神社遺跡出土土器の編年（内彎口縁壷・中型壷・小型壷等） 161
第 ８４ 図　石座神社遺跡出土土器の編年（鉢） 162
第 ８５ 図　石座神社遺跡出土土器の編年（高杯） 163
第 ８６ 図　遠江系土器 164
第 ８７ 図　南関東系土器 165
第 ８８ 図　宮沢遺跡における土器群の推移 167
第 ８９ 図　規模（長軸）の度数分布 170
第 ９０ 図　竪穴建物の規模による構成と時期の相関 170

第 91 図　小型竪穴建物集成 172
第 92 図　中型竪穴建物集成　1 173
第 93 図　中型竪穴建物集成　2 174
第 94 図　大型竪穴建物集成 175
第 95 図　拡張・建て替え各類型模式図 176
第 96 図　掘方各類型模式図 176
第 97 図　竪穴建物の掘方の諸例 177
第 98 図　地床炉の検出状況 178
第 99 図　橋良遺跡 SB11（中期後葉） 178
第 100 図　地床炉に伴う礫の石材の比率 178
第 101 図　竪穴建物 A 群における礫を伴う地床炉の動態 179
第 102 図　竪穴建物棟数の推移 180
第 103 図　集落の変遷（弥生時代後期） 181
第 104 図　集落の変遷（弥生時代終末期） 182
第 105 図　集落の変遷（古墳時代前期初頭） 184
第 106 図　集落の変遷（古墳時代前期前半） 185
第 107 図　東日本における集落出土の破鏡（中国鏡） 187
第 108 図　石座神社遺跡・周辺遺跡出土鉄製品 188
第 109 図　三河地域の大型竪穴建物と壁立ち式竪穴建物 189
第 110 図　石堂野遺跡と石座神社遺跡の大型建物 190
第 111 図「方形区画」に伴う大型建物 191
第 112 図　奈良時代建物の平面形の比較 194
第 113 図　馬埋葬土坑 5631SK と落川遺跡Ｋ―11―５号土坑 194
第 114 図　土坑墓 5631SK と杉山遺跡 SK3012・SK3020 195
第 115 図　火葬施設 0023SL と品野西遺跡 SZC24 195
第 116 図　石座神社遺跡と諏訪遺跡（環濠集落）の比較 197
第 117 図「雁峰山麓の遺跡群」と断上山 10 号墳の位置関係 198
第 118 図　豊川流域における弥生時代後期から古墳時代前期の集落と前期古墳の分布 198

〈挿表目次〉

第　1　表　縄文時代炉穴一覧……21
第　2　表　縄文時代土坑（陥穴）一覧……21
第　3　表　検出竪穴建物棟数一覧……30
第　4　表　竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）　1……37
第　5　表　竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）　2……38
第　6　表　竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）　3……39
第　7　表　竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）　4……40
第　8　表　竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）　5……41
第　9　表　掘立柱建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）……78
第１０表　柱穴列（掘立柱柵）一覧……80
第１１表　竪穴建物床面直上出土の石器と伴出状況……82
第１２表　竪穴建物一覧（奈良時代）……86
第１３表　掘立柱建物一覧（奈良時代）……87
第１４表　炭焼窯一覧……91
第１５表　測定資料と処理　1……94
第１６表　測定資料と処理　2……95
第１７表　測定資料と処理　3……96
第１８表　測定資料と処理　4……97
第１９表　放射性炭素年代測定と暦年較正の結果　1……98
第２０表　放射性炭素年代測定と暦年較正の結果　2……99
第２１表　放射性炭素年代測定と暦年較正の結果　3……100
第２２表　放射性炭素年代測定と暦年較正の結果　4……101
第２３表　同定された部位と歯冠計測値……119
第２４表　分析結果一覧……122
第２５表　鉄砲玉と青銅製品……130
第２６表　蛍光Ｘ線法による資料の化学組成（質量％）……130
第２７表　資料の鉛同位体比……130
第２８表　西側遺跡・瓜郷遺跡出土銅鐸片の鉛同位体比……132
第２９表　各試料に認められた元素……134
第３０表　分析結果一覧……139
第３１表　原産地対比表……140
第３２表　器種（形式）・型式分類一覧……143
第３３表　編年対比表……168
第３４表　主柱穴配置と規模（長軸）の相関……171
第３５表　主柱穴配置と分布域の相関（中型竪穴建物）……171
第３６表　礫を伴う地床炉一覧……178
第３７表　礫を伴う地床炉と分布域の相関……178
第３８表　竪穴建物棟数の集計結果……180
第３９表　東日本における集落出土の破鏡（舶載鏡）一覧……187
第４０表　石座神社遺跡出土・設楽原採集の鉛製鉄砲玉一覧……196

第 1 章　調査の概要

（1）調査の経緯

遺跡の位置と現況

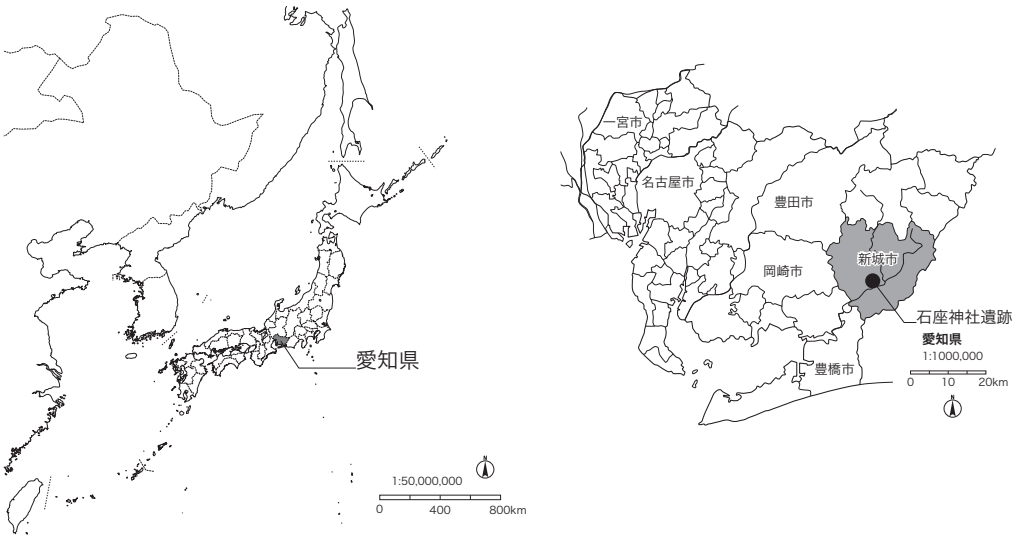
石座神社遺跡（県登録番号 76045：愛知県教育委員会 1996『愛知県遺跡地図（III）東三河地区』）は新城市街地の北東約 4 km、新城市大宮字狐塚（北緯 34 度 55 分 38 秒・東経 137 度 31 分 10 秒）に所在する。現況は石座神社境内地、山林である。

調査の経緯

発掘調査は第二東海自動車道横浜名古屋線（新東名高速道路）建設に伴う事前調査で、中日本高速道路株式会社豊川工事事務所より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター（2010 年 4 月に公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターに改称）が平成 19 年度、平成 20 年度、平成 21 年度、平成 22 年度に実施した。

調査期間・面積

調査期間と調査面積は、石座神社遺跡を含む範囲確認調査（「柿下遺跡始め 6 遺跡（地区）―柿下遺跡・石座神社遺跡裏山地区・長篠戦役設楽原決戦場跡儀徳地区・須長 10 号墳・篠原遺跡・中山砦」の確認調査）が平成 19 年 5 月 14 日から平成 19 年 6 月 13 日で計 400 ㎡（調査担当：宮腰健司・岡久雅浩）、平成 20 年度の発掘調査が平成 20 年 9 月 9 日から平成 21 年 3 月 24 日で 5,200 ㎡（調査担当：宮腰健司・早野浩二）、平成 21 年度の発掘調査が平成 21 年 8 月 6 日から平成 22 年 3 月 31 日で 4,720 ㎡（調査担当：松田訓・早野浩二・白井克尚）、平成 22 年度の発掘調査が平成 22 年 5 月 21 日から平成 23 年 3 月 14 日で 10,330 ㎡（調査担当：松田訓・早野浩二・日吉康浩）である。（範囲確認調査を除く）調査総面積は 20,250 ㎡である。発掘調査報告書作成にかかる整理作業は平成 24 年度と平成 25 年度に実施し、平成 26 年度、平成 27 年 3 月に本書を刊行した。



第 1 図　遺跡の位置

（2）調査の経過

範囲確認調査

石座神社裏山地区

石座神社遺跡を含む範囲確認調査は、「柿下遺跡始め 6 遺跡（地区）―柿下遺跡・石座神社遺跡裏山地区・長篠戦役設楽原決戦場跡儀徳地区・須長 10 号墳・篠原遺跡・中山砦」の確認調査として、平成 19 年 5 月 14 日から平成 19 年 6 月 13 日に実施した。調査は石座神社遺跡境内の裏山、東西約 350 m、南北約 100 mの範囲を対象として設定した 88 地点（T.T.01 ～ T.T.88）の試掘坑を人力によって掘削し、遺構・遺物の有無を確認する

広範囲の集落展開

方法によって実施した。その結果、丘陵頂部の平坦面を中心とする広範囲に古墳時代初頭の集落の展開が予測された。また、東向き斜面には須恵器の出土も確認された。

発掘調査

範囲確認調査の結果を受けて、平成 20 年度から平成 22 年度にかけて発掘調査を実施した。発掘調査は事業者による伐採後、重機によって表土を除去し、人力によって順次、包含層掘削、遺構検出・遺構掘削等の作業を進捗させた。遺構・遺物の精査と併行して遺構平面図、土層断面、遺物出土状況図等の作成、遺構検出状況・遺物出土状況等の写真撮影による記録作業を実施した。遺構掘削完了後は、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施し、各調査区の調査を完了した。

伐採・表土掘削

発掘作業

記録作業

平成20年度（08区）の調査

調査区設定

平成 20 年度は 7・8 月の伐採後、丘陵の東向き斜面から北向き斜面に東半の 08 A区、西半と 08 B区を設定し、9 月 1 日に発掘調査に着手した。丘陵頂部付近には上位段丘を構成する花こう閃緑岩の礫層が広範囲に露出し、概して遺構・遺物は希薄であったが、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物 2 棟を確認した。東向き斜面においては奈良時代の竪穴建物、掘立柱建物から構成される集落を検出した。その他、丘陵を横断する溝状の落ち込み、縄文時代の円筒状の土坑（陥穴）、中近世の土坑・溝等を検出し、後期旧石器時代のナイフ形石器、有溝砥石（矢柄研磨器）、鉛製鉄砲玉等も出土した。

上位段丘礫層

奈良時代の集落

出土遺物

範囲確認調査

また、調査区東端まで古代の集落が検出されたことを受けて、遺跡の範囲外とした東向き斜面について、改めて範囲確認調査を実施した。その結果、周囲に点在する平坦面は遺跡の範囲内であることを確認し、次年度に発掘調査を実施することとした。

調査前の状況

08区の調査（礫層上面の精査）

ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は08 A区を12月12日と24日に、08 B区を２月26日と３月16日に実施し、３月23日に現地での調査を完了した。発掘調査中の11月15日は加原遺跡の現地説明会に併せて発掘調査を公開し、２月28日には現地説明会を実施した。現地説明会には地元の方々を中心に約70名が参加した。

空中写真撮影
現地説明会

平成21年度（09区）の調査

平成21年度は６・７月の伐採後、丘陵の西向き斜面から北向き斜面に南半の09 A区と北半の09 B区、08 A区北東の小規模な平坦面に09 C区を設定し、７月22日に発掘調査に着手した。丘陵の西向き斜面は弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物が等高線に沿って稠密に分布し、斜面には遺物包含層も厚く堆積していた。また、埋積谷に堆積した黒色土上面における遺構検出は困難を極め、調査には当初の予想より多大な時間と労力を要した。結果、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物約100棟を検出し、その他、縄文時代の円筒状の土坑（陥穴）、丘陵斜面を縦断する中世の大溝等を検出した。竪穴建物からは土器群や炭化材が良好に検出されることも多く、鉄剣等の鉄製品も出土した。

調査区の設定
竪穴建物の検出
縄文時代・中世出土遺物

ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は09 A区と09 C区を12月25日に、09 B区を３月24日に実施し、３月31日に現地での調査を完了した。発掘調査中の10月17日にはモリ下遺跡の現地説明会に併せて発掘調査中の遺跡を公開する予定であったが、降雨により遺跡の公開は中止し、屋内での遺物展示と調査概要の説明を行った。屋内での説明会には約20名が参加した。３月27日には現地説明会を実施し、地元の方々を中心に約100名が参加した。

空中写真撮影
現地説明会

平成22年度（10区）の調査

平成22年度は４月から５月の伐採後、08区と09区に挟まれた丘陵頂部の平坦面に10 A区、平坦面から北東斜面に10 B区を設定し、５月18日に調査に着手した。丘陵頂部には09区と同様、弥生時代後期から古墳時代前期の大型竪穴建物を含む多数の竪穴建物が重複して分布し、大型の掘立柱建物等も検出された。夏の記録的な猛暑もあって、発掘調査は困難なものとなったが、調査の結果、弥生時代後期から古墳時代前期の200棟以上の竪穴建物、掘立柱建物を検出し、その他、縄文時代早期の炉穴、縄文時代中期後半の竪穴建物１棟、縄文時代の円筒状の土坑（陥穴）、中世前後の丘陵を横断する大溝、中世の馬埋葬土坑等を検出した。09区と同様に竪穴建物からは良好な状態で土器群が出土

調査区の設定
竪穴建物の検出
縄文時代・中世出土遺物

09区の調査（竪穴建物の掘り下げ）

09区の調査（土器群の精査）

10区の調査（表土掘削）

10区の調査（大型竪穴建物の精査）

10区の調査（遺構写真撮影）

現地説明会（2010年11月23日）

し、特に集落遺跡から出土した中国鏡としては県内で３例目となる方格規矩四神鏡の破鏡の出土が注目された。

空中写真撮影
記者発表
現地説明会

ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影は 10 A区を 11 月 19 日、10 A・10 B区を２月 24 日に実施し、３月 14 日に現地での調査を完了した。発掘調査中の 11 月 17 日には遺跡が大型建物を擁する中核的な集落であること、出土した破鏡の重要性を鑑みた記者発表を行い、11 月 23 日に現地説明会を実施した。現地説明会には愛知県内外の 160 名の方々が参加した。

普及啓発、その他

通信の供覧
公民館まつり
取材・見学等

発掘調査の期間中には、発掘調査の成果を周知する通信を近隣地区に随時供覧し、大宮公民館まつりの開催時（平成 22 年１月 17 日、平成 23 年１月 16 日）には、出土遺物の展示、写真の掲示等で参加した。また、平成 21 年度と平成 22 年度には地元のケーブルテレビを通じて発掘調査担当者が遺跡の紹介を行った。その他、新城市立黄柳野小学校生徒、同東郷東小学校教員、大阪大学考古学研究室等の団体による見学も随時受け入れた。

新出土品展

発掘調査後にも近隣地区の公民館まつりへの参加を継続した（平成 23 年 12 月４日に牛倉公民館、平成 24 年１月８日に須長公民館）。また、平成 24 年１月 28 日から３月４日にかけて豊田市郷土資料館で開催された「埋蔵文化財新出土品展」において、一般県民を対象とした調査成果の速報展示を行った。

公民館まつりでの展示（2010年１月７日）

整理作業（土器の接合）

整理作業・報告書作成

出土遺物の洗浄は各年度の発掘調査期間中に現地で実施し、洗浄した遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターにおいて仮収納した。遺物の分類・接合・実測・復元・図版作成・写真撮影・収納等の整理作業、報告書の執筆・編集は平成 24 年４月から平成 26 年３月までの２年間の期間内に実施し、平成 27 年３月に本書を刊行した。

整理作業

報告書作成

新城市教育委員会による発掘調査

愛知県埋蔵文化財センターによる調査後の平成 23 年度、遺跡は市道八束穂県社線改良工事（市道の拡幅）に伴い新城市教育委員会によって 1,600 ㎡の発掘調査が実施され、すでに発掘調査報告書も刊行されている。発掘調査が実施された地点は儀徳地区に含まれる石座神社境内南西側の丘陵斜面で、弥生時代中期中葉、瓜郷式の甕棺墓１基、弥生時代後期の竪穴建物２棟、平安時代の竪穴建物３棟が検出されている。また、特徴的な遺物として、弥生時代後期から古墳時代前期と推定される緑色凝灰岩製管玉が出土している。

市道拡幅

儀徳地区

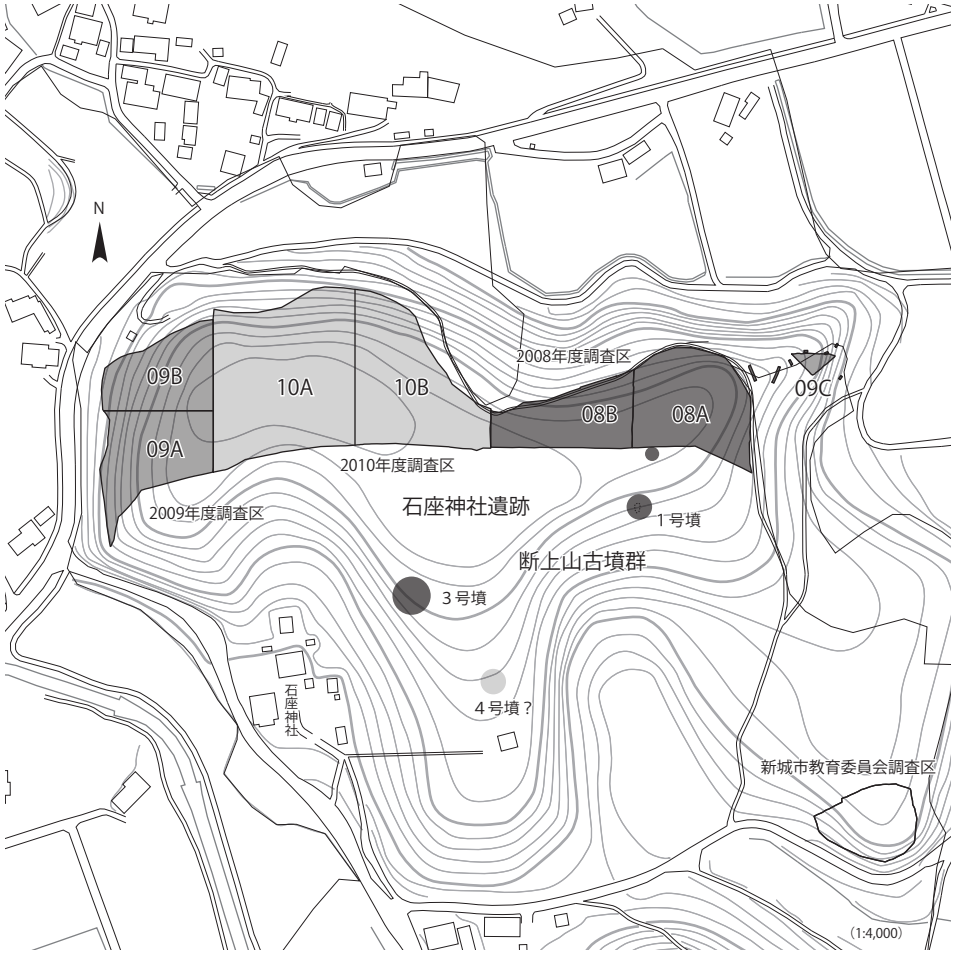
弥生時代中期

平安時代

出土遺物

参考文献

愛知県教育委員会1996『愛知県遺跡地図（III）東三河地区』
宮腰健司2008「柿下遺跡・石座神社裏山地区・長篠戦役設楽原決戦場跡儀徳地区・須長10号墳・篠原遺跡・中山砦」財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2009『石座神社遺跡現地説明会資料』
早野浩二2009「石座神社遺跡」『年報　平成20年度』財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2010『石座神社遺跡現地説明会資料』
早野浩二・白井克尚2010「石座神社遺跡」『年報　平成21年度』財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2010『石座神社遺跡現地説明会資料』
早野浩二・日吉康浩2011「石座神社遺跡」『年報　平成22年度』公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
早野浩二・日吉康浩2011「石座神社遺跡の遺構と遺物」『研究紀要』第12号　公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
早野浩二2011「石座神社遺跡の発掘調査」『新城文化』No.15　新城市文化協会
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2012『埋蔵文化財新出土品展』
新城市建設部・新城市教育委員会2011『石座神社遺跡発掘調査報告書』



第２図　調査区配置図

第３図　周辺地籍図

（1:5,000）

第４図　断上山の遺跡と古墳

第２章　周辺の環境

（１）地理的環境

地形と地質

静岡県と接する愛知県東部の県境付近には、赤石山脈から続く八名・弓張山地がある。八名・弓張山地の西北には標高 300 mから 1,500 mの北東が高く南西が低い三河高原が広がる。三河高原は茶臼山（標高 1,415 m）、鳳来寺山（695 m）、本宮山（789 m）等が連なり、本宮山を最高所とする中央構造線の断層線谷右岸（陸側の内帯）の丘陵は、本宮山南側が領家変成岩類、その北東側が約 8,500 万年前に形成された新期領家花崗岩類（新城石英閃緑岩、花崗閃緑岩類）より構成されている。なお、遺跡の北西方向に本宮山から派生して連なる山地は「雁峰山」と呼称されている。

河岸段丘

三河高原から三河湾に注ぐ豊川沿岸には東三河平野（豊橋平野）が発達する。東三河平野（豊橋平野）には、豊川が運搬した土砂の堆積した平坦な地形面が隆起して、最高位、高位、中位、低位の４段の段丘面が形成されている。

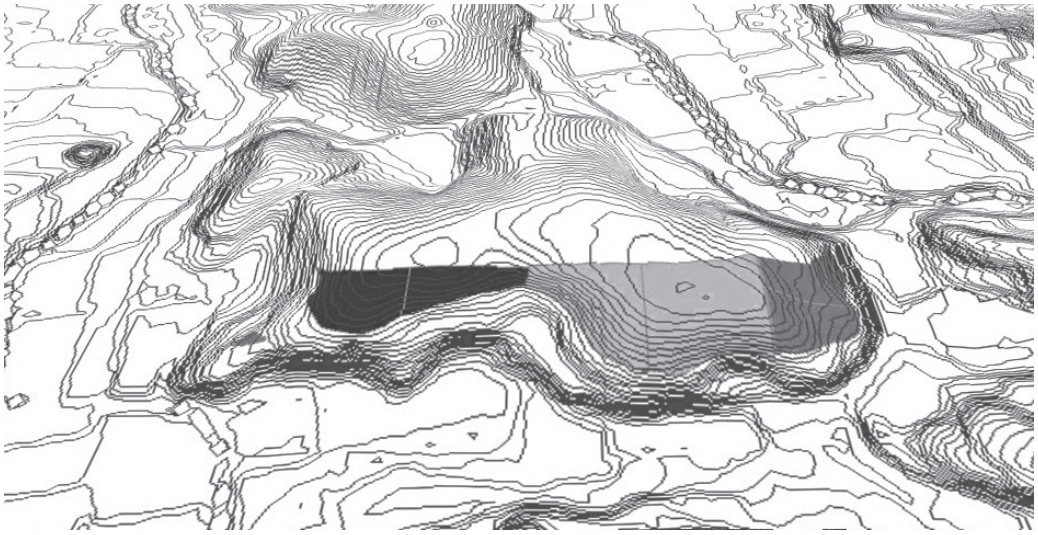
上位段丘

石座神社遺跡は豊川右岸、西側の大宮川と東側の連吾川に挟まれた南北に細長い高位段丘上の北端付近に立地する。なお、遺跡が立地する南北に細長い高位段丘は「断上山」、大宮川対岸の上位段丘は「茶臼山」と呼称されている。遺跡周辺の標高は丘陵頂部の平坦面が 117 mで、下位の段丘面との比高は約 20 mである。高位段丘を構成する堆積層は淘汰の悪い中礫から大礫から構成される厚さ３mから４mの砂礫層で、豊川上流域に分布する岩石の礫を含む。これらの堆積物は著しく風化して赤褐色を呈し、くさり礫も含む。遺跡の基盤層となるのも、この高位段丘上に特徴的な礫を多く含む赤褐色土壌である。

堆積層と土壌形成

参考文献

新城市1963『新城市誌』
日本の地質『中部地方II』編集委員会1988『日本の地質５　中部地方II』共立出版
愛知県2010『愛知県史　別編　自然』



第５図　遺跡周辺鳥瞰図（北方向から）

（２）歴史的遺跡

旧石器・縄文時代の遺跡

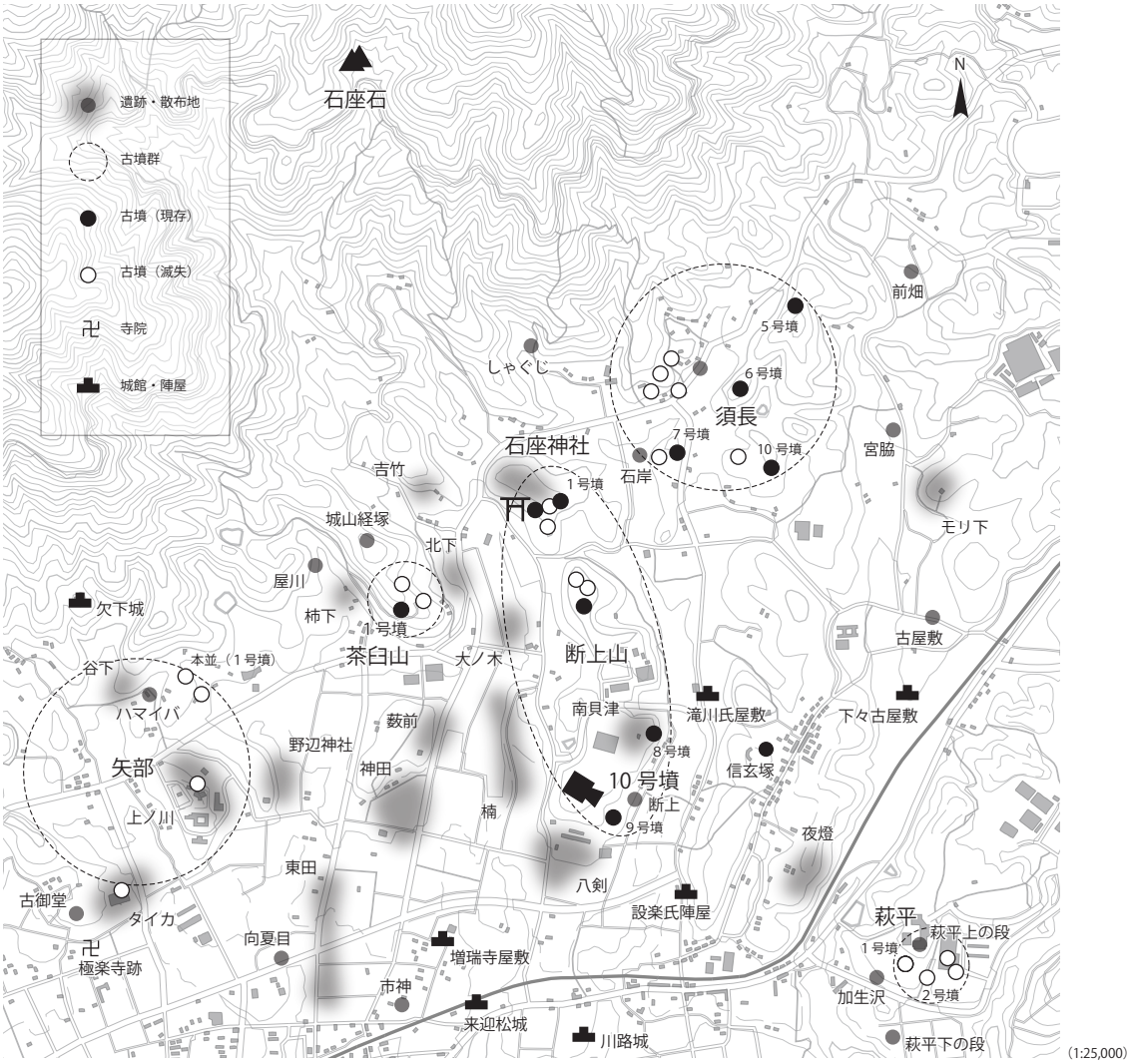
旧石器時代の遺跡は川路地区、豊川右岸の河岸段丘上に分布する。加生沢遺跡は高位段丘から中位段丘の斜面にかけて立地する遺跡で、前期旧石器時代に帰属する可能性がある石器群が採集、発掘されている。加生沢遺跡からやや低位の中位段丘上には萩平遺跡が立地する。萩平（下の段）遺跡は豊川用水事業等に伴い、1962 年と 1966 年にＡ地点、1964 年にＣ地点、1965 年にＤ地点の発掘調査が実施され、ナイフ形石器、尖頭器、石鏃等の石器と押型文土器等の後期旧石器時代から縄文時代早期を主体とする遺物群が出土した。D地点においては、縄文時代早期の炉穴も検出されている。萩平上の段遺跡は萩平（下の段）遺跡より上位の段丘上に立地する遺跡で、大学用地造成事業に伴う新城市教育委員会による 1996 年の試掘調査、1997 年の 2,500 ㎡の発掘調査において、ナイフ形石器、細石器核等の石器集中部分、礫群、配石が検出された。なお、後述の南貝津遺跡においては、ナイフ形石器が出土している。

加生沢遺跡

萩平遺跡

萩平上の段遺跡

南貝津遺跡



第６図　周辺遺跡分布図

大ノ木遺跡

大宮川右岸の低位段丘上に立地する大ノ木遺跡は 1948 年に久永春男氏らによる発掘調査が行われた結果、後期後葉の凹線文土器、晩期の櫛描文土器、突帯文土器がまとまって出土し、氏は櫛描文土器を晩期前葉の「大宮式」として型式設定した。遺跡はその後、県営ほ場整備事業に伴う新城市教育委員会による 1990 年の試掘調査、1992 年の 440 ㎡の発掘調査が実施され、後期前葉から晩期初頭を主体とする土器、石器が出土した。

大ノ木遺跡の現況

石岸遺跡
モリ下遺跡
須長10号墳

第二東海自動車道建設に伴い、愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した石岸遺跡は後期中葉、モリ下遺跡は早期前半と後期初頭を主体とする土器、石器が出土している。その他、須長 10 号墳においては、早期前半と推測される集石土坑が検出され、夜燈遺跡においては早期末葉、極楽寺跡においては晩期後半の土器が出土している。

弥生時代前期・中期の遺跡

弥生時代中期以前の遺跡として、1969 年から 1970 年に新城市教育委員会によって家畜市場建設に伴う発掘調査が実施された平井地区のタイカ遺跡、1964 年に第一期豊川用水事業に伴う発掘調査が実施された竹広地区の八剣遺跡がある。タイカ遺跡では水神平式の土器棺墓（合口の甕棺墓）、瓜郷式と長床式の竪穴建物、八剣遺跡では瓜郷式の竪穴建物が検出されている。

タイカ遺跡
八剣遺跡

南貝津遺跡

他に弥生時代中期以前の明確な集落は確認されないが、南貝津遺跡においては、土器棺墓、瓜郷式等の弥生土器、結晶片岩・緑色片岩製打製石包丁等の石器が検出されている。

弥生時代後期から古墳時代前期の遺跡

弥生時代後期から古墳時代前期に形成される遺跡は多く、遺物の出土も広範に認められるようになる。石座神社遺跡も 1951 年（昭和 26）、地元の夏目邦次郎氏が遺跡が断上山の開墾中に土器を発見したことによって、その存在が知られていた。同時代の遺跡としては、平井地区のタイカ遺跡、矢部地区の上ノ川遺跡、茶臼山、断上山付近の北下遺跡、吉竹遺跡、南貝津遺跡、八剣遺跡、神田遺跡、八束穂地区のモリ下遺跡等がある。タイカ遺跡、八剣遺跡では前述の発掘調査において、タイカ遺跡は竪穴建物と方形周溝墓、八剣遺跡は竪穴建物が検出されている。上ノ川遺跡は福祉拠点施設・公民館・市道建設に伴い、新城市教育委員会によって 1997 年に試掘調査、1998 年に 300 ㎡の発掘調査が実施され、９棟の竪穴建物が検出された。出土遺物には定角式鉄鏃等の鉄製品も含まれる。

タイカ遺跡
八剣遺跡
上ノ川遺跡

南貝津遺跡は 1952 年に久永春男氏らによる発掘調査が実施された。それに続いて大宮・竹広工場用地造成事業に伴い、1985 年に確認調査、1986 年に 2,000 ㎡の発掘調査が新城市教育委員会によって実施された。発掘調査においては、竪穴建物 22 棟、方形周溝墓３基、溝１条等の遺構が検出され、各遺構からは良好な土器群が出土している。他に、結晶片岩製磨製石鏃、硬玉製勾玉の出土が特筆される。

南貝津遺跡

吉竹遺跡

神田遺跡

吉竹遺跡は 2008 年・2009 年に愛知県埋蔵文化財センターによって第二東海自動車道建設に伴う 600 ㎡の発掘調査、神田遺跡は新城市教育委員会によって第二期豊川用水事業に伴い、2004 年に試掘調査、2007 年に 744 ㎡の発掘調査が実施され、吉竹遺跡においては弥生時代後期の竪穴建物４棟、神田遺跡においては古墳時代初頭の竪穴建物３棟等の遺構が検出されている。2008 年・2009 年に愛知県埋蔵文化財センターによる第二東海自動車道建設に伴う 6,600 ㎡の発掘調査が実施されたモリ下遺跡においても、古墳時代前期の竪穴建物が検出されている。その他、楠遺跡では菊川式の高杯が出土し、大ノ木遺跡付近の牛倉宮川においても遠江系の広口壷が採集されている。

モリ下遺跡

楠遺跡

古墳時代前期後半以降、古墳時代中期から後期を通じては、吉竹遺跡やモリ下遺跡において若干の遺構と遺物が確認されているものの、概して集落の形成は低調である。

古墳

古墳は断上山、茶臼山、矢部地区、須長地区、川路地区の各段丘上に数基単位で分布する。前方後方墳の断上山 10 号墳、方墳の９号墳は前期古墳の可能性が指摘されているが、他の古墳はいずれも後期古墳と思われる。

断上山古墳群

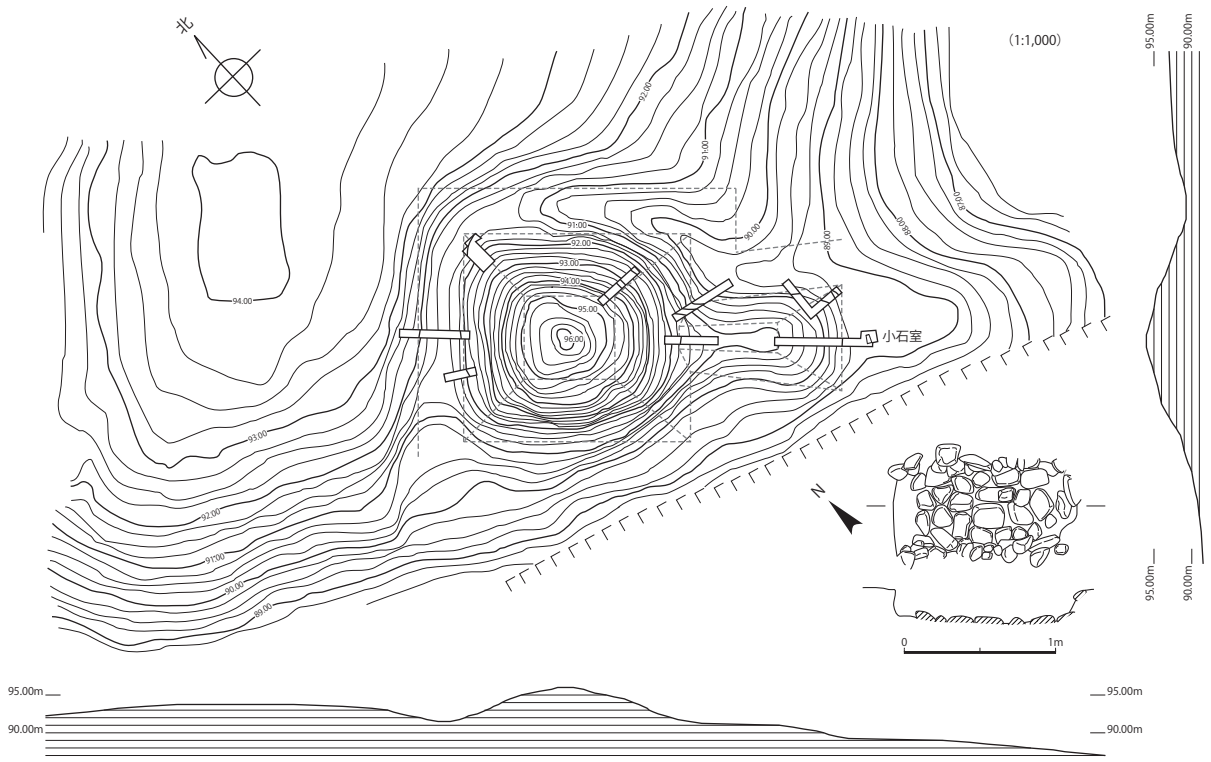
石座神社の境内には断上山１号墳から４号墳の４基の古墳が分布するとされるが、現状で確認されるのは１号墳と３号墳の２基である。１号墳は径約 14 m、高さ 2.0 ～ 2.5 m の円墳で、墳丘中央が窪む。過去に石座神社の「井戸石」を発掘したという伝聞があるこ

断上山１号墳

断上山３号墳

断上山６号墳

断上山10号墳



第７図　断上山10号墳

とから、横穴式石室を埋葬施設とする後期古墳であった可能性が高い。３号墳は径約18ｍ、高さ約２ｍの円墳である。なお、調査区（08 区）に接して、径約７ｍ、高さ約１ｍの円墳状の高まりが認められるが、調査においても周溝の痕跡等が認められなかったことから、古墳ではなく後世の盛土と思われる。

断上山６号墳は約 21 ｍ、高さ約 2.5m で、「方墳」の可能性もある。南貝津遺跡に隣接する８号墳は径約 16.5m、高さ約 1.2m の円墳で、大宮・竹広工場用地造成事業の設計計画の変更により現状保存された。５号墳と７号墳は現状での確認は困難である。

断上山９号墳

断上山９・10 号墳（粕塚・物見塚）は県指定史跡（1978 年指定）で、1972 年に名古屋大学による墳丘測量調査、1973 年に愛知県教育委員会による確認調査が実施されている。９号墳は約 17 ｍ、高さ約３ｍの方（円）墳で、斜面に葺石が認められ、二段築成の可能性も指摘されている。

断上山10号墳

断上山 10 号墳は残存状況が良好な全長約 50 ｍ、後方部長約 30 ｍ・幅約 27.5 ｍ・高さ 4.5 ～ 5.0 ｍ、前方部長約 20 ｍ・幅約 14 ｍ・高さ約 1.5 ｍの前方後方墳である。後方部平坦面は長約 12 ｍ・幅約 11 ｍと比較的狭い。なお、埋葬施設は確認されていない。後方部斜面の調査の状況から、三段築成の可能性も指摘されるが、表面観察からその状況を窺うことは難しい。葺石と埴輪も伴わない。墳丘の北側（丘陵側）には幅約６ｍの周溝が認められる。

小石室

断上山 10 号墳の前方部先端付近には「炉址」とされる長約 1.2 ｍ、幅約 0.5 ｍ石室状の施設が確認されている。出土遺物はなく、遺構の時期や性格を判断するのは難しいが、墳丘裾に沿うことから周辺埋葬施設としての（竪穴系の）小石室、あるいは開口部が南方向を志向することから、小型の横穴式石室の可能性がある。

茶臼山には３基の古墳が分布するとされるが、現状で確認されるのは１号墳（茶臼山古墳）のみである。１号墳は径約 12 m、高さ約 2.4 mの円墳で、横穴式石室が露出する。石室は崩壊が進むが、側壁と奥壁に三段以上の石材が積まれていることが観察される。なお、新城市教育委員会には「茶臼山古墳」出土とされる６世紀後半から７世紀前葉の須恵器蓋杯・提瓶・フラスコ形長頸瓶が保管されている。矢部地区には須恵器横瓶が出土した本並古墳（１号墳）を含む４基の古墳が散漫に分布するが、いずれも滅失している。

茶臼山古墳群

須長地区には 10 基の古墳が登録されているが、現状で確認できるのは５号墳、６号墳、８号墳のみで、10 号墳は第二東海自動車道建設に伴い、愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。すでに滅失した須長２号墳と４号墳は、滅失前に横穴式石室が露出していたとの伝聞があること、須長３号墳において大刀、須恵器蓋杯・短頸壷等が出土していることから、いずれも横穴式石室を埋葬施設とする後期古墳であった可能性が高い。

須長古墳群

古墳周辺を含めた 1,200 ㎡の発掘調査が実施された須長 10 号墳は径 12 m、高さ 2.6 mの円墳で、横穴式石室を埋葬施設とする。横穴式石室は全長 7.0 m、幅 1.5 mの玄門立柱石を側壁に組み込んだ無袖式、奥窄まり形の石室である。石室内には７世紀後半の須恵器長頸瓶が副葬され、石室の開口部付近には須恵器蓋杯・高杯がまとまって遺棄されていた。また、古墳周囲には同時期の竪穴建物も分布し、古墳との関連も注目される。

須長10号墳

川路地区の萩平には４基の古墳が分布するとされるが３基は開墾によって滅失し、１号墳は 1949 年に開墾に伴い、久永春男氏によって発掘調査が実施された。古墳は径９～11m、高さ 1.3m の円墳で、奥窄まり形の横穴式石室を埋葬施設とする。石室内からは須恵器蓋杯・高杯・壷、刀子、鉄鏃等が出土している。

萩平古墳群

前述の萩平上の段遺跡（東区）の発掘調査においては、墳丘がすでに削剥され、周溝と横穴式石室の基底部付近のみが残存する２基の古墳が検出された。古墳１は径 9.0 mの円墳で、全長 4.7 m、幅 1.0 ～ 1.1 mを計測する無袖式の横穴式石室を埋葬施設とする。古墳からは７世紀後半の須恵器蓋杯・高杯・長頸瓶に加えて、大刀、鉸具が出土している。古墳２は全長 2.0 m、幅 0.5 ～ 0.65 mを計測するやや小型の横穴式石室の基底部のみが残存する。遺物は出土していない。

古代の遺跡

神田遺跡においては奈良時代とみられる布目瓦が出土し、大ノ木遺跡付近、大宮塚田のほ場整備の際には複弁蓮華文軒丸瓦が採集されていることから、付近には寺院等を構成する瓦葺き建物の存在も想定される。2008 年に第二東海自動車道建設に伴い愛知県埋蔵文化財センターによる 800 ㎡の発掘調査が実施された石岸遺跡では、奈良時代の大型掘立柱建物が検出されている。富永松尾神社前（神田遺跡）に残る長地型地割の条里制遺構も含めて考えると、遺跡付近は延喜３年（901）に宝飫郡から分置される設楽郡の中心的な地域であったことが理解される。

神田遺跡

複弁蓮華文軒丸瓦

石岸遺跡

条里制遺構

その他、1965 年に豊川用水事業に伴う発掘調査が実施された竹広馬場遺跡（八剣遺跡）、第二東海自動車道建設に伴い愛知県埋蔵文化財センターによる 2,000 ㎡の発掘調査が実施された加原遺跡、ほ場整備事業に伴い新城市教育委員会によって 1993 年に試掘調査、1995 年に 1800 ㎡の発掘調査が実施された北下遺跡等においても、古代の遺構・遺物が検出されている。

竹広馬場遺跡

加原遺跡

北下遺跡

中世以降の遺跡

設楽庄

中世に遺跡周辺は松尾神社（山城国葛野郡松尾村）に属する設楽庄の庄域に含まれていたと考えられ、断上山南方の富永地区には領主であった設楽氏の陣屋跡や居館と推定される増瑞寺屋敷跡が所在する。茶臼山山頂の城山経塚は幕末､安政年間に経塚が掘り出され、出土した陶製経筒外容器は新城市教育委員会に保管されている。

城山経塚

楠遺跡

ほ場整備事業に伴い新城市教育委員会によって 1990 年に試掘調査、1993 年に 2456 ㎡の発掘調査が実施された楠遺跡においては、竪穴状遺構 5 基等の遺構が検出され、山茶碗、土師器皿等の中世の遺物が大量に出土した。第二期豊川用水事業に伴い新城市教育委員会によって、2004 年に試掘調査、2007 年に 146 ㎡の発掘調査が実施された極楽寺跡においては、遺構は検出されなかったが、瓦を含む中世の遺物が出土した。同じく 720 ㎡の発掘調査が実施された前述の八剣遺跡においては、中世の遺構・遺物が確認された。

極楽寺跡

八剣遺跡

欠下城跡

2010・2011 年に第二東海自動車道建設に伴い愛知県埋蔵文化財センターと愛知県埋蔵文化財調査センターによる 4060 ㎡の発掘調査が実施された欠下城跡においては、城館の存在は確定されなかったものの、中世の遺構・遺物が検出されている。その他、前述の北下遺跡、加原遺跡、モリ下遺跡等においても、中世の遺構・遺物が確認されている。

長篠・設楽原の戦い

「堀状遺構」

断上山､茶臼山の周辺一帯は､1575 年（天正３）に武田軍と織田･徳川連合軍が戦った「長篠・設楽原の戦い」の設楽原決戦場の主戦場で、周辺には合戦に関係する砦や陣地なども多く残されている。石座神社遺跡が立地する丘陵頂部の平坦面を囲うようにして存在する「堀状遺構」、堀状部分に点在する「土橋状の高まり」等についても、現地表面の観察や縄張り調査から陣城群の遺構と推定されることもある。その一方で、織豊系城郭の典型的な陣城形態と異なること、地籍図上の石座神社境内地の境界との位置関係の一致から、「堀状遺構」は石座神社の結界として掘削された可能性も指摘されている。

石座神社

式内社

石座神社は設楽郡唯一の式内社で、「延喜式」神名帳に宝飯郡六座（当時、宝飯郡設楽郷）中の「磐倉（石座）神社」とある。それ以前の「文徳実録」仁寿元年条（851）にも「石鞍神（石座神社）従五位下」､「三代実録」元慶元年条（883）にも「石鞍神従五位上」と記されている。神社の起源は雁峯山中腹の巨岩、「石座石（額岩）」で、社もこの山頂に

石座石（額岩）

雁峰山中腹の石座石

石座神社

鎮座していたとされるが、野火によりしばしば焼失したため、山麓に遷座したという。1575 年（天正３）の設楽原決戦には織田・徳川連合軍が戦勝祈願したともされている。なお、境内においては中世の瓦や陶器が採集されている。

参考文献

新城市1963『新城市誌』
澄田正一・安達厚三・近藤正市・中島義二・夏目邦次郎1965「萩平（C）遺跡」『豊川用水路関係遺跡調査報告』愛知県教育委員会
岩野見司・井上健・山本一二三・織田勇司1965「八剣遺跡」『豊川用水路関係遺跡調査報告』愛知県教育委員会
澄田正一・大参義一・安達厚三1967「萩平遺跡Ｄ地点」『豊川用水路関係埋蔵文化財調査報告』愛知県教育委員会
紅村弘・芳賀陽・増子康真・井関弘太郎1968『愛知県加生沢旧石器時代遺跡』言文社
愛知県教育委員会1971『川路萩平（Ｃ地点）遺跡』
名古屋大学考古学研究室1974「断上９、10号墳」『重要遺跡指定促進調査報告―地形測量調査の概要―』愛知県教育委員会
柴垣勇夫1977「新城市断上９、10号墳発掘調査報告」『重要遺跡指定促進調査報告II』愛知県教育委員会
新城市教育委員会1979『上平井タイカ・豊栄真向遺跡』新城市誌資料13
贄元洋1988「愛知県三河地方の前方後方墳」『古代』第86号早稲田大学考古学会
新城市教育委員会1989『南貝津遺跡』
池田誠1992「縄張り研究の視点による長篠合戦の再検討」『中世城郭研究』第６号　中世城郭研究会
新城市教育委員会1995『大ノ木遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書IX
新城市教育委員会1996『楠遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書Ｘ
高田徹1996「三河長篠及び長篠合戦陣所群に関する検討」『中世城郭研究』第10号　中世城郭研究会
愛知県教育委員会1997『愛知県中世城館調査報告III（東三河地区）』
赤塚次郎1997「愛知県内前方後円（方）墳等の測量調査概要報告Ⅰ」『愛知県史研究』創刊号　愛知県
新城市教育委員会1999『上ノ川遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書第17集
森田勝三2001「新城市大宮・塚田遺跡出土の古瓦」『伊勢灣考古』15　知多古文化研究会
豊橋市教育委員会2002『日南坂１号墳・神ヶ谷遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第70集
愛知県2002『愛知県史　資料編１　考古１　旧石器・縄文』
須川勝以2005「断上山古墳群」『愛知県史　資料編３　考古３　古墳』愛知県
新城市教育委員会2007『萩平上の段遺跡発掘調査報告書』
新城市教育委員会2008『極楽寺跡発掘調査報告書』
新城市教育委員会2009『愛知県新城市八剣遺跡・新田遺跡発掘調査報告書』
新城市教育委員会2010『市内遺跡発掘調査報告書III』
新城市建設部・新城市教育委員会2011『石座神社遺跡発掘調査報告書』
早野浩二・日吉康浩2011「石座神社遺跡の遺構と遺物」『研究紀要』第12号　公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2012『柿下遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第176集
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2014『須長10号墳』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第184集
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『吉竹遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第191集
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『欠下城跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第192集
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『加原遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第194集
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『石岸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第195集
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『モリ下遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第196集

第３章　遺構と遺物

第１節　微地形と層序

微地形

丘陵頂部の平坦面

石座神社遺跡は丘陵頂部から西向き、南向き斜面を中心にして形成される丘陵上の遺跡で、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物が稠密に分布する丘陵頂部の平坦面（現地表 115 mの等高線がほぼ対応）は北西―南東方向で約 140m、北東―南西方向で約 60 mの広さである。周囲の斜面の傾斜は 15°前後で、丘陵縁辺から切り通し状の崖付近まで約 50 m続く西向き斜面（現地表 110m の等高線がほぼ対応）にも同時期の竪穴建物が多く構築されている。丘陵の北西方向は緩傾斜面（現地表 107 mの等高線がほぼ対応する）が張り出し、緩傾斜面にも竪穴建物が多く分布するが、北向き斜面、北東方向の斜面は丘陵縁辺から約 20 mまでの範囲（現地表 110m の等高線がほぼ対応）に散漫に分布する。なお、竪穴建物は傾斜約 13°までの斜面を選んで構築されているようである。丘陵東部（長頭貝津地区）も北東方向の斜面と同様の様相を示す（第８図）。

斜面

遺跡の範囲

上記の微地形と遺構の分布様態から、（弥生時代後期から古墳時代前期の集落としての）遺跡の範囲は東西約 300m、南北約 100m と推定される。新城市教育委員会が調査した地点（儀徳地区）は地形が連続しないことから、同一遺跡の異なる地点として、または同時期の別個の遺跡として把握するのが適当であろう。

層序

基盤層

石座神社遺跡が立地する高位段丘面の基盤層は砂礫層が著しく風化した赤褐色土壌で、丘陵頂部の平坦面（10 区）は褐色を基調とする表土を除去すると基盤層に達する。なお、丘陵東部（08 区）においては、頂部付近に高位段丘を構成する花こう閃緑岩の礫層が広く露出する（0001SS）。

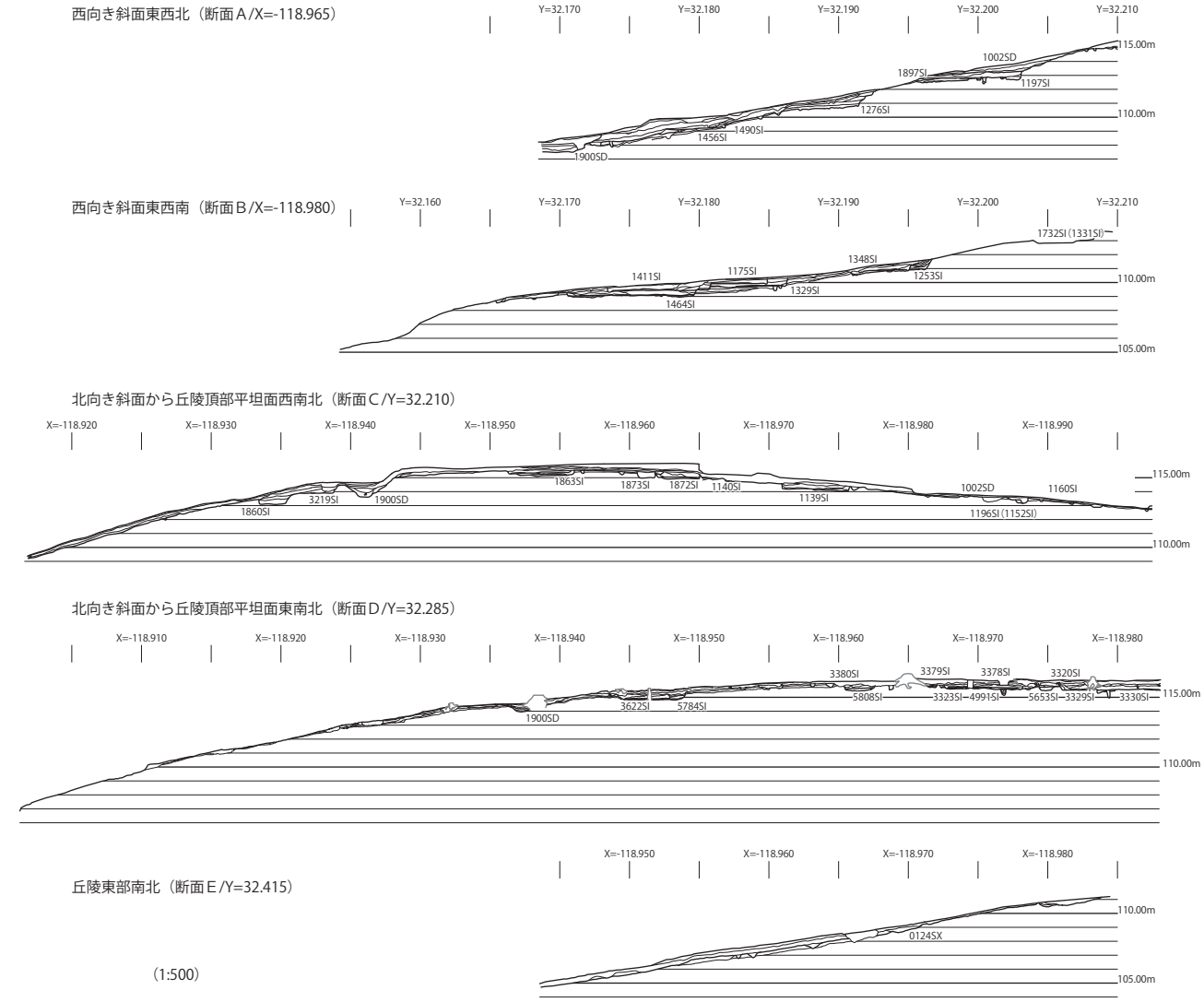
斜面の堆積相

丘陵斜面、特に西向き斜面（09 区）は、竪穴建物構築時における斜面の切り土と盛り土、竪穴建物廃絶後の竪穴建物内への土砂の流入、さらに斜面の流出が繰り返された結果、複雑な堆積相を示す。西向き斜面の竪穴建物は、斜面側が流出し、丘陵側の掘り込みが著しく深く検出されることが多く、竪穴建物の覆土には斜面からの流出土が連続して堆積する。

斜面の流出土は暗褐色を基調とする比較的均質な堆積で、斜面の傾斜が緩慢となる斜面のやや下方は層厚が 50cm 前後にも達する。堆積層中には遺物を多く包含するが、包含される遺物は破片が多く、二次的な移動を被っていることを示唆する。さらに、竪穴建物の一定の埋没後に生じた窪みには均質な黒色土が堆積する。

小支谷の黒色土

丘陵西向き斜面の中位から下位の緩傾斜面付近、丘陵尾根間の鞍部には小支谷が形成され（第８図）、小支谷内には均質な黒色土が 20cm から 50cm 程度の層厚で堆積する（2000SX・0130SX）。黒色土は遺物を包含しないが、0130SX の黒色土上面においてはナイフ形石器、縦長剥片、石核を含む後期旧石器時代の石器群が検出されている。丘陵西向き斜面は斜面の複雑な堆積と竪穴建物の著しい重複に加えて、遺構検出面が 2000SX の黒色土上面に重なる部分も多く、遺構の検出、精査は極めて困難であった。


西向き斜面東西北（断面Ａ/X=-118.965）
Y=32.170
Y=32.180
Y=32.190
Y=32.200
Y=32.210
115.00m
110.00m
1002SD
1897SI
1197SI
1276SI
1490SI
1456SI
1900SD
西向き斜面東西南（断面Ｂ/X=-118.980）
Y=32.160
Y=32.170
Y=32.180
Y=32.190
Y=32.200
Y=32.210
1732SI（1331SI）
1348SI
1411SI
1175SI
1253SI
1329SI
1464SI
110.00m
105.00m
北向き斜面から丘陵頂部平坦面西南北（断面Ｃ/Y=32.210）
X=-118.920
X=-118.930
X=-118.940
X=-118.950
X=-118.960
X=-118.970
X=-118.980
X=-118.990
115.00m
110.00m
1863SI
1873SI
1872SI
1140SI
1139SI
1002SD
1160SI
1860SI
3219SI
1900SD
1196SI（1152SI）
北向き斜面から丘陵頂部平坦面東南北（断面Ｄ/Y=32.285）
X=-118.910
X=-118.920
X=-118.930
X=-118.940
X=-118.950
X=-118.960
X=-118.970
X=-118.980
3380SI
3379SI
3378SI
3320SI
115.00m
110.00m
5808SI
3323SI
4991SI
5653SI
3329SI
3330SI
3622SI
5784SI
1900SD
丘陵東部南北（断面Ｅ/Y=32.415）
X=-118.950
X=-118.960
X=-118.970
X=-118.980
110.00m
105.00m
0124SX
（1:500）
Y=32.150
Y=32.200
Y=32.250
Y=32.300
Y=32.350
Y=32.400
Y=32.450
Y=32.500
（1:2,500）
X=-118.900
X=-118.950
X=-119.000
N
断面Ａ
断面Ｂ
断面Ｃ
断面Ｄ
断面Ｅ
黒色土
2000SX
黒色土
0130SX
0124SX
0001SS
高位段丘の礫層
［遺跡層序断面位置］

第８図　遺跡層序断面

第２節　弥生時代中期以前の遺構と遺物

（１）後期旧石器時代・縄文時代の遺構

概要

縄文時代の遺構

弥生時代中期以前の遺構として、縄文時代早期の炉穴（煙道付炉穴）６基、中期後半の竪穴建物１棟、後期前葉を中心とする陥穴と推定される土坑 50 基、晩期後半と推定される溝状の落ち込みを検出した（第 10 図）。

旧石器
土器・石器
出土土器量・分布

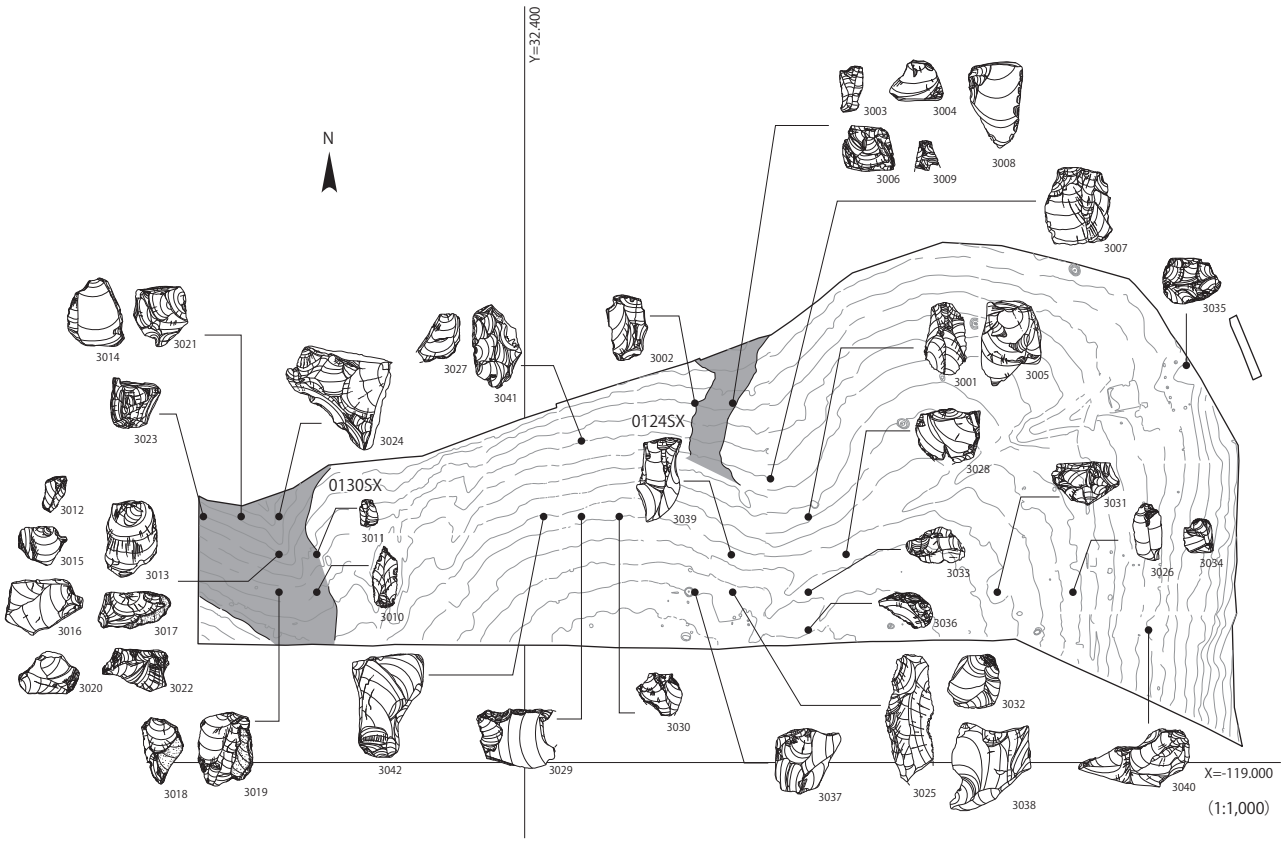
また、丘陵北東斜面（08 区）の小支谷周辺を中心に後期旧石器時代の旧石器、丘陵頂部の平坦面と西向き斜面の小支谷を中心に縄文時代各時期と弥生時代前期・中期の土器 6.4465kg（全出土土器の 0.32％）、各種の石器・石製品が出土している。出土土器は丘陵頂部の平坦面と西向き斜面の黒色土周辺に多く分布する傾向がある（第 11 図）。なお、弥生時代前期・中期の遺構は検出されていない。

小支谷0130SX・0124SX（遺構図版25）

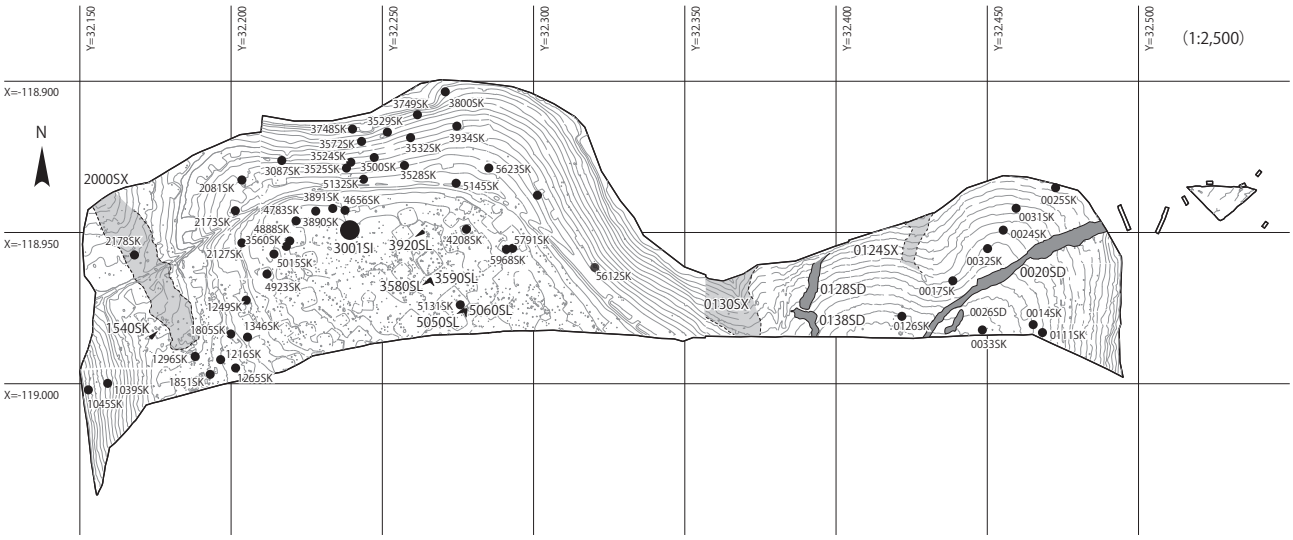
堆積状況

丘陵北東斜面（08 区）において検出した。0130SX の下層と 0124SX は基盤層に近似するくすんだ黄褐色シルトが堆積し、0130SX の上層は均質な黒色シルトによって埋積する。層中に遺物は包含されないが、上層の黒色シルト層上面において、ナイフ形石器、縦長剥片等の剥片､石核から構成される後期旧石器時代の石器群(3001 ～ 3024)を検出した。また、丘陵北東斜面（08 区）には同時期の石器（3025 ～ 3043）が散在する（第９図）。

遺物出土状況



第９図　後期旧石器時代の旧石器の分布（08区）



第10図　縄文時代遺構配置

炉穴3580SL・3590SL・5050SL・5060SL・3920SL・1540SK（遺構図版26）

縄文時代早期の炉穴（煙道付炉穴、以下、炉穴とする）は４基（3580SL・3590SL・5050SL・5060SL）、その可能性がある遺構２基（3920SL・1540SK）を含めて６基を検出した（第１表）。1540SK は丘陵西斜面下段に分布するが、他の５基は丘陵平坦面中央に分布する。　分布

3580SL・3590SL は弥生時代後期の竪穴建物 3147SI 床面下位で検出されていることからしても、炉穴はかなり削剥されていると思われる。いずれも天井部分は遺存せず、開口部と煙道部分（の底面）のみを検出した。また、3920SL は竪穴建物 3651SI の壁面が著しく被熱赤変した部分を炉穴の残存部分とした。同様に、遺構の全形は不明ながら、壁面の一部が被熱赤変した 1540SK も炉穴の可能性を想定した。　検出状況

全形がほぼ判明する４基の炉穴は 3580SL と 3590SL、5050SL と 5060SL の２基を一単位として構築され、いずれも開口部側を向き合わせてほぼ直角に配される。3580SL・3590SL の平面形はいわゆる「東海型炉穴」に通有の長二等辺三角形状を呈する（小濵 2003・筒井 2006）。5050SL と 5060SL は偏楕円形を呈するが、削剥の程度によるもので、3580SL と 3590SL と同様に、平面形は二等辺三角形状の平面形を呈すると思われる。　配置・平面形

いずれも床面は煙道部側が傾斜する。　床面

炉穴3590SL、5050SLにおいては、底面の焼土からやや浮いた位置で押型文土器（１～3）が出土した。その他、3580SL からは熔結凝灰岩製石核・剥片、安山岩製剥片が出土した。遺構内の覆土は土壌選別を実施したが、遺物は認められなかった。3590SL は煙道部付近に基盤層中の花こう岩が露出した状態で検出されたが、花こう岩自体は明確には被熱していなかった。土坑 1540SK の付近には、早期前半末葉の高山寺式土器（４）、早期末葉の東海条痕文系土器、天神山式（５・６）、玦状耳飾り２点（3430・3431）が出土している。これらから、1540SK は早期前半に後出する時期に帰属することも想定される。　遺物出土状況

なお、3580SL、3590SL、5050SL、5060SL において出土した炭化材の放射性炭素年代測定を実施した結果、いずれも縄文時代早期前半の年代を示した（第４章（１）を参照）。　年代測定

竪穴建物3001SI（遺構図版27）

分布　丘陵平坦面北緩斜面において縄文時代中期後半の竪穴建物１棟（3001SI）を検出した。

平面形　平面形は径 3.0 mの円形で、中央付近に方形の石囲炉を布設する。主柱穴に相当する柱穴は検出されなかった。

石囲炉　石囲炉から計測した主軸の方位は N-6.5° -E で、石囲炉の長軸は外法 0.75m、内法 0.50m、短軸は外法 0.60m、内法 0.35 mを計測する。石囲炉は花こう岩を用いて構築され、石材は被熱等によって著しく風化していた。また、約 0.2 m掘り窪められた炉の底面は被熱によって赤変硬化していた。床面においては土坑 4314SK が検出された。4314SK は石囲炉の掘方と形状、規模が類似する。

遺物出土状況　石囲炉付近、竪穴建物内の土坑 4314SK においては、中期後半の（台付）深鉢（16 ～ 23）、塩基性岩製磨製石斧（3389）、熔結凝灰岩・黒曜石・下呂石製剥片等の若干の石器が散在して出土した。

陥穴と推定される土坑（遺構図版28～33）

分布　丘陵斜面を中心に縄文時代の陥穴と推定される土坑を 50 基（08 区 9 基・09 区 13 基・10 区 28 基）を検出した（第２表）。

平面形・法量　土坑の平面形は円形か楕円形が多く、隅円方形に近いもの、不整円形のものも認められる。土坑の断面形は円筒形で、土坑底面には小土坑が検出されるものが多い。土坑の法量は検出面の削剥の程度にもよるが、径１m程度、深さ１m程度、小土坑の深さは 0.15 ～ 0.65 mで、小土坑を含めた土坑の深さが２mに達するものもある。

遺物出土状況　土坑からほとんど遺物は出土しないが、5791SK においては安山岩製打製石斧（3340）が出土した。その他、チャート製石鏃（4783SK）、砂岩製磨石（4888SK）、剥片・大型剥片、縄文土器が出土した土坑（3525SK）等がある。

年代測定　なお、土坑内から採取した炭化物の放射性炭素年代測定を実施した結果、測定した過半数（11 基中の７基）が縄文時代後期前葉の年代を示し、その他、早期後半、中期後半、後期初頭の年代を示した（第４章（１）を参照）。

溝状の落ち込み0020SD・0128SD・0138SD（遺構図版25）

0020SD　丘陵北東斜面において調査区を南西から北東に縦断する溝状の落ち込み 0020SD を検出した。溝の幅は約 1.6 ～ 4.5m、深さは約 0.2 ～ 1.2m と一定せず、溝の掘方もやや曖昧である。上層の埋土はやや黒み帯びるが、下層の埋土は色調の変化に乏しい。

0128SD・0138SD　0128SD・0138SD は、小支谷 0130SX に面した斜面を流下する。溝の幅は 1.0 ～ 2.0 m、深さは 0.2 ～ 0.5 mで、溝の形状や堆積状況は 0020SD と類似する。

遺物出土状況　これらの溝状の落ち込みの上層には古墳時代前期以前の土器がごくわずかに包含されるのみであるが、奈良時代の遺構に先行すること、溝内から採取した炭化物の放射性炭素年代測定を実施した結果、縄文時代晩期後半の年代を示したことから（第４章（１）を参照）、縄文時代の遺構に含めた。

年代測定

参考文献

小濵学2003「煙道付炉穴及び炉穴に関する一考察」『関西縄文時代の集落・墓地と生業　関西縄文論集１』六一書房

筒井京2006「炉穴考　東海地区における炉穴の分布と形態研究―静岡県を中心として―」『静岡県埋蔵文化財調査研究所　研究紀要』第12号　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

第１表　縄文時代炉穴一覧

調査区	遺構番号	グリッド	規模（m）			長短比	^{14}C 年代（BP/yrBP）		出土遺物
			長軸	短軸	深さ				
10区	3580SL	10C14m/14n	1.67	0.83	0.26	2.01	9515±30		熔結凝灰岩製石核・剥片、安山岩製剥片
10区	3590SL	10C14n	1.49	0.66	0.21	2.26	9565±30	9545±30	押型文土器（１）
10区	5050SL	10C16p	0.81	0.62	0.18	1.31	9425±35		押型文土器（２・３）
10区	5060SL	10C16p	1.09	0.84	0.19	1.30	9460±30		
10区	3920SL	10C11m	*1.24	-	0.15	-			
09区	1540SK	10B17o	1.75	1.40	0.25	1.25			

第２表　縄文時代土坑（陥穴）一覧

調査区	遺構番号	グリッド	規模（m）						^{14}C 年代（BP/yrBP）	出土遺物
			土坑			小土坑		深さ		
			長径	短径	深さ	径	深さ			
08区	0014SK	10E17n	1.45	1.30	0.80	-	-	-		
08区	0017SK	10E14h	1.25	0.95	1.15	-	-	-		
08区	0024SK	10E10l	1.20	0.75	1.00	0.25	0.20	1.20		
08区	0025SK	10E7o/8o	1.65	1.30	1.80	0.25	0.30	2.10	3620±25	
08区	0031SK	10E9l	1.65	*1.3	1.70	0.15	0.55	2.25		
08区	0032SK	10E11j/12j/11k/12k	1.75	1.40	1.60	0.25	0.60	2.20	3615±20	
08区	0033SK	10E17j	1.00	0.80	0.95	0.25	0.60	1.55	3965±20	
08区	0111SK	10E17n	1.15	0.95	1.70	-	-	-	7070±25	
08区	0126SK	10E16e	1.30	1.25	1.70	0.20	0.50	2.20		
09区	1039SK	10B20l/1B1l	1.15	1.15	1.00	0.25	0.15	1.15	3625±20	
09区	1045SK	1B1k	1.25	1.00	0.90	0.20	0.65	1.55	3630±25	
09区	1216SK	10B19t	1.00	0.85	0.95	0.20	0.15	1.10	3555±20	安山岩製大型剥片・剥片
09区	1249SK	10C15a	1.00	0.70	0.85	0.15	0.15	1.00		
09区	1265SK	10C19a/20a	1.15	0.70	1.05	-	-	-		
09区	1296SK	10B19r	1.05	0.70	1.45	0.25	0.35	1.80		安山岩製大型剥片、凝灰岩製剥片
09区	1346SK	10C17a/17b	0.90	0.80	1.00	0.25	0.25	1.25	3635±20	
09区	1805SK	10B17t/10C17a	0.70	0.60	1.40	0.20	0.25	1.65		凝灰岩製剥片
09区	1851SK	10B20s	1.70	0.95	1.10	-	-	-		
09区	2081SK	10C7a	1.35	1.00	0.90	0.25	0.55	1.45	3610±25	
09区	2127SK	10C11a	1.00	0.90	1.05	0.20	0.50	1.55	4160±20	
09区	2173SK	10C9a	0.95	0.75	0.85	0.15	0.40	1.25	4330±25	
09区	2178SK	10B12n	0.80	0.75	-	-	-	-		安山岩製大型剥片
10区	3087SK	10C6d	1.45	1.35	1.55	0.30	0.50	2.05		
10区	3500SK	10C5j/6j	1.25	1.10	1.45	0.20	0.55	2.00		
10区	3524SK	10C6h/6i	1.25	1.20	1.05	0.25	0.55	1.60		
10区	3525SK	10C6h	1.50	1.15	1.55	-	-	-		縄文土器
10区	3528SK	10C6l	1.20	1.00	0.85	0.20	0.40	1.25		
10区	3529SK	10C4k	2.00	1.45	1.50	0.25	0.35	1.85		
10区	3532SK	10C4l	1.60	1.50	1.70	0.20	0.40	2.10		
10区	3560SK	10C11d	1.20	0.85	0.85	-	-	-		
10区	3572SK	10C4i/5i	1.40	1.05	0.90	0.10	0.30	1.20		
10区	3748SK	10C4h/4i	0.90	0.70	0.6	0.15	0.55	1.15		
10区	3749SK	10C3m	1.50	1.25	1.1	0.25	0.40	1.50		
10区	3800SK	10C1o	1.15	1.00	1.15	0.15	0.35	1.50		
10区	3890SK	10C9f	1.20	1.05	1.15	0.15	0.30	1.45		
10区	3891SK	10C9ｇ	1.25	1.15	1.65	-	-	-		
10区	3934SK	10C3o/4o/3p/4p	1.10	0.85	0.6	0.20	0.50	1.10		
10区	4208SK	10C10p	0.95	0.95	0.9	0.25	0.35	1.30		
10区	4656SK	10C9h	1.30	0.90	1.4	0.30	0.35	1.75		
10区	4783SK	10C10e	0.85	0.85	1.05	-	-	-		チャート製石鏃、熔結凝灰岩製剥片
10区	4888SK	10C11d	1.10	0.95	1.2	0.15	0.25	1.45		砂岩製磨石
10区	4923SK	10C13c	1.20	0.90	0.9	0.25	0.45	1.35		安山岩製敲打のある礫、熔結凝灰岩製剥片
10区	5015SK	10C12c	0.85	0.60	0.8	0.15	0.25	1.05		
10区	5131SK	10C15p	1.10	1.00	1.2	-	-	-		
10区	5132SK	10C7i	1.35	1.00	0.8	0.10	0.60	1.40		
10区	5145SK	10C7o	0.90	0.70	0.85	0.15	0.35	1.20		
10区	5612SK	10D12e/13e	1.20	1.00	1.2	0.20	0.25	1.45		
10区	5632SK	10C6r	1.10	1.10	1.05	0.25	0.15	1.20		
10区	5791SK	10C11s/12s	1.30	1.15	0.95	0.15	0.20	1.15		安山岩製打製石斧（3340）
10区	5968SK	10C12s	1.25	0.75	0.7	0.20	0.45	1.15		

（３）縄文時代の土器・弥生時代前期・中期の土器

縄文土器（遺物図版１・２）

概要
出土状況

縄文土器として、早期前半、早期末葉、中期初頭、中期後半、後期前葉、晩期前葉に帰属すると思われる個体を抽出した（１～50）。１～３は丘陵頂部平坦面中央の炉穴（煙道付炉穴）、15 ～ 23 は丘陵頂部平坦面北部の竪穴建物 3001SI とそれに付属する土坑 4314SK に伴って出土したが、それ以外は、丘陵西斜面の黒色土周辺において弥生時代以降の堆積層中に混入した状態で出土したものが多い。

押型文系土器

１～４は早期前半の押型文系土器で、１は炉穴 3590SL、２・３は炉穴 5050SL より出土した。いずれも器表面の摩滅が著しく、施文原体を明確に把握することは難しい。

早期前半
高山寺式

１～３は「ネガティブな押型文」を施す大川式新段階萩平型または神宮寺式（矢野 2008a）に対比される。４は外面に楕円押型文、内面に右下がりの斜行沈線を施す早期前半末葉の高山寺式である。器壁の厚さは約 12mm とやや厚手で、楕円文は長径７mm、短径４mm 程度、斜行沈線の幅は約 10mm である。豊川市天井平遺跡における文様分類（豊川市教育委員会 2009）の押型文２類（長径８mm 以下の楕円形の回転押型文が施されたもの）、斜行沈線Ｂ種（沈線幅が 10mm 以上の幅広で断面が曲線的な波状を呈する斜行沈線）に対応し、高山寺式第２段階（矢野 2008b）に対比される。

早期末葉

５・６は早期末葉の天神山式（山下 2008）に対比される深鉢で、胎土中に繊維を含む。

中期初頭

７～ 15 は集合沈線文、連続爪形文を主文様とする一群の土器で、およそ中期初頭の北屋敷Ⅰ式（増子 2008a）または山田平下層式（山下 1998）に対比される。７は鉢状の器形で、口縁部の隆帯下端に「U」字形の文様を並列する。13 は底部下端が強く張る器形で、半裁竹管による区画内に集合沈線を充填する。14 はキャリパー形に大きく括れる部位に連続爪形文を水平に施す。

中期後半

16 ～ 23 は竪穴建物 3001SI から出土した厚手で立体的な装飾を施す深鉢（台付深鉢）で、多くは同一個体と思われる。中期後半の神明式（纐纈・高橋 2008）、加曽利Ｅ３式に対比される。16・17 は口縁部、18 ～ 20 は立体的な装飾、21 は隆起帯による方形区画文を配した体部上位の部分、22・23 は台付深鉢の脚台部分である。24 ～ 26 も隆起帯による渦巻文をもつ厚手で装飾的な深鉢の口縁部、27 は台付深鉢の脚台部分である。28 ～ 37 は隆帯や沈線を文様とする一群で、中期後半の範疇に含まれると思われる。

後期前葉

39 は口縁端部に横位沈線を施し、それ以下を無文とする深鉢で、後期前葉の縁帯文系土器とした。40 は後期以降の無文粗製の深鉢である。

晩期前葉

41・42 は器面を巻貝条痕によって調整する後期後葉から晩期前半の粗製の深鉢、43 ～ 47 は半裁竹管による沈線文を施した晩期前葉の深鉢である（増子 2008b）。これら晩期前葉の一群は、大ノ木遺跡を標識とする「大宮式」に関連する。48 は口縁部の端部と外面に突起を貼付して押圧を加え、口縁部外面には突起を起点とした玉抱き三叉文と弧線文による文様が展開する（山村 2008）。晩期初頭に対比される。49 は刻文帯によって区画された文様帯に下向きの三角形刳込文、滋賀里Ⅱ式の「橿原式文様」を配した晩期前葉の有文の精製土器である（大塚 1995）。50 は口縁端部に刺突列を施した小型の鉢で、晩期前葉に対比されると思われる。

弥生時代前期・中期の土器（遺物図版３）

弥生時代前期・中期の遺構は確認されていないが、弥生時代後期以降の遺構や包含層に混在して前期前半、前期後半、中期前葉、中期中葉、中期後葉の土器が少量出土している。　概要　出土状況

51 ～ 57 は前期前半、樫王式の砲弾形を呈する深鉢の口縁部で、いずれも横方向に条痕を施す。55 は先端の端面が窪み、56、57 は先端がわずかに引き出される。58 は前期後半、水神平式の甕で、口縁部が外反する。59 ～ 71 は前期の樫王式の深鉢または水神平式の甕の体部で、横方向から斜方向の条痕を施す。71 は底部付近に相当すると思われる。　前期

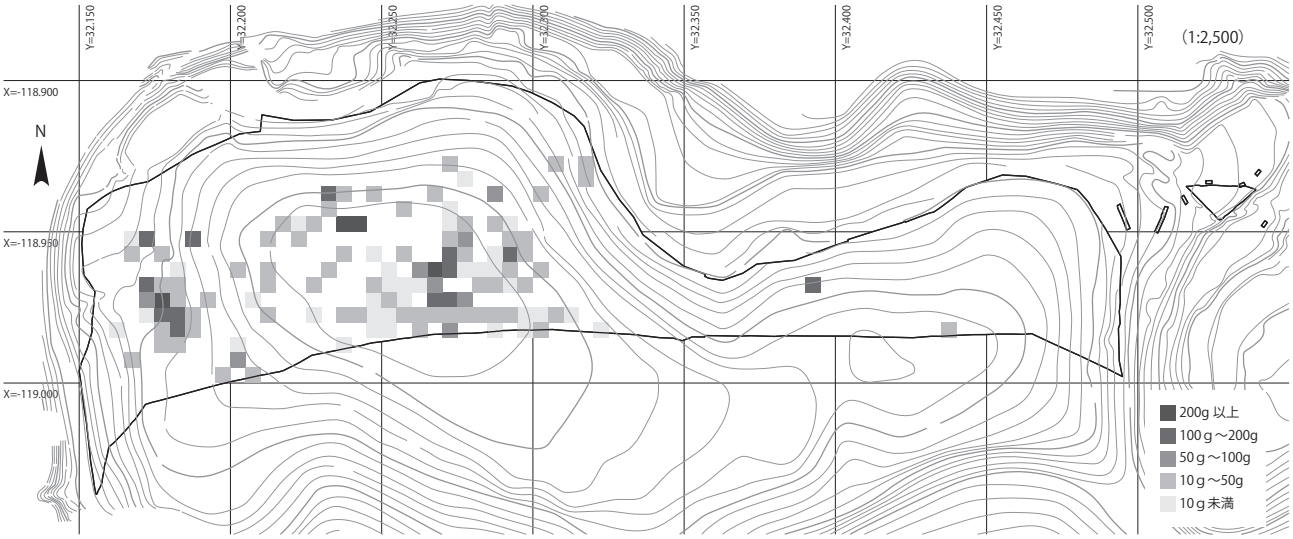
72 は遠賀川系（亜流遠賀川式、金剛坂式）の壷の体部で、貼付突帯に押圧を加え、半裁竹管による沈線を施す。色調は赤褐色で、胎土中には金雲母を含む。　遠賀川系土器

73 は中期前葉、岩滑式（条痕文系）の内傾口縁土器、74 は口縁部が袋状を呈する壷で、いずれも条痕を施す。78 ～ 93 は中期中葉、瓜郷式の甕で口縁部付近は横方向、底部付近は斜方向から縦方向に櫛条痕を施す。86 ～ 90 は口縁部先端に突帯を付し、押圧や刻みを加える。94 は瓜郷式の受口状口縁を呈する太頸壷で、口縁部外面の文様帯に櫛条痕を連弧文状に施す。96 は瓜郷式の壷の頸部付近で、刻み突帯より上位にヘラによる複合鋸歯文を施す。97、98 は瓜郷式の壷の体部で、櫛条痕を施す。　中期前葉　中期中葉

99・100 は中期後葉、古井式の壷で、櫛描波状文を施す。　中期後葉

参考文献

大塚達郎1995「橿原式紋様論」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第13号　東京大学文学部考古学研究室
纐纈茂・高橋健太郎2008「中富式・神明式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
豊川市教育委員会2009『天井平遺跡』
増子康眞2008a「北裏Ｃ～北屋敷II式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
増子康眞2008b「晩期半裁竹管文土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
矢野健一2008a「押型文系土器（大川式・神宮寺式土器）」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
矢野健一2008b「押型文系土器（高山寺式・穂谷式土器）」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
山下勝年1998「山田平遺跡出土の縄文中期初頭の土器」『伊勢灣考古』12　知多古文化研究会
山下勝年2008「東海条痕文系土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
山村貴輝2008「玉抱き三叉文」『総覧縄文土器』アム・プロモーション



第11図　出土土器重量分布（弥生時代中期以前）

（４）後期旧跡時代・縄文時代の石器・石製品

概要

時期

ここで報告する石器群は、後期旧石器時代から縄文時代に属する遺物がほぼ多数を占め、弥生時代前期および中期と特定できる石器資料は極めて少ない。ここでは、帰属時期が明瞭な定形的な器種や形態、および発掘調査で出土状況の同一性があると認められた資料をもとに、後期旧石器時代および縄文時代草創期の資料として報告する。その他の遺物については、縄文時代の出土遺物として一括して報告する。

後期旧石器時代の石器（遺物図版117～120）

剥片

0124SX出土石器（3001～3009）　3001～3005・3007・3009は剥片で、やや横長の貝殻状を呈する3004以外は、縦長に剥がされたものが主体である。3004・3005・3007では剥片作出前に打面調整が行われている。3006は各面で剥片が作出されており石核と考えたが、最右に図示した面では、一端からの打撃による作出が行われており、これ自体が菱形形状の剥片かもしれない。3008は削器で、打面調整が行われた後に縦長状に作出された剥片の側辺に、二次加工が加えられている。この辺には表裏に不連続な微細剥離が認められる。石材は3009のチャート以外、すべて熔結凝灰岩である。

石核

石材

削器

ナイフ形石器

0130SX出土石器（3010～3024）　3010はナイフ形石器である。断面形状がやや扁平な三角形を呈する縦長剥片の打点側を基部にして、先端部の一辺には刃潰し加工が、反対の一辺には不連続な微細剥離が認められる。3011～3014・3016～3020は剥片である。3011～3014・3016・3017・3018は縦長状に作出された剥片である。3011・3012のように長さ２cm程度と小ぶりのものと、3013・3014・3016のように長さ５cm程度のものとがある。3011・3014・3016は剥片作出前の打面調整が明瞭か。3017・3020は横長あるいは貝殻状の剥片である。3018は、裏面の斜方向に伸びる縁辺に微細剥離が認められる。使用痕かもしれない。3015・3021～3024は石核である。石材はすべて凝灰岩あるいは熔結凝灰岩である。

剥片

石核

石材

削器

その他08B区出土石器（3025～3043）　3025は削器とした。残存長で8.5cmを測る縦長剥片で、一側面の背になる側に剥離調整が加えられている。3026～3036は剥片である。3026は断面三角形の縦長様の剥片で、天地逆にみると、3010に類似する。その他の剥片は、横長あるいは貝殻状を呈するものである。3036は縁辺に不連続な微細剥離があり、使用痕かもしれない。3037～3043は石核である。3037・3039以外は礫の風化面を残すもので、3038・3041は風化面側から直接敲打が加えられている。3039は同一方向から縦長に剥片を作出していたものの、最後に打面を90度変えて横長の剥片を作出して終了したものと考えられる。石材は3035が安山岩、3036が下呂石以外は、すべて熔結凝灰岩あるいは凝灰岩である。

剥片

石核

石材

縄文時代草創期の石器（遺物図版121）

丸ノミ形石斧（3044）　長さ13.6cmを測る石斧で、中央に稜が立ち、断面形状は三角形あるいは五角形状を呈するものである。器面の風化が著しく不明であるが、もともとは刃部側に局部磨製が施されていたものと思われる。石材は安山岩である。　局部磨製　石材

有溝砥石（3045）　扁平な形状を呈するもので、片面の中央には断面Ｖ字状の深い溝が形成されている。溝の上端幅は最大１cmを測る。石材は砂質凝灰岩である。　溝　石材

有舌尖頭器（3046～3048）　いずれも、表裏同様に身部まで深く入る剥離調整が加えられている。3048は柳又型といわれるものであろう。3046は基部に対して身部が短くなっているが、同様であろう。3047は先端部側が半分欠損しており明瞭なことは言えないが、身部が細く長身気味に伸びるのであれば、萩平型になる可能性もあろう。石材は熔結凝灰岩あるいは凝灰岩である。　柳又型　萩平型　石材

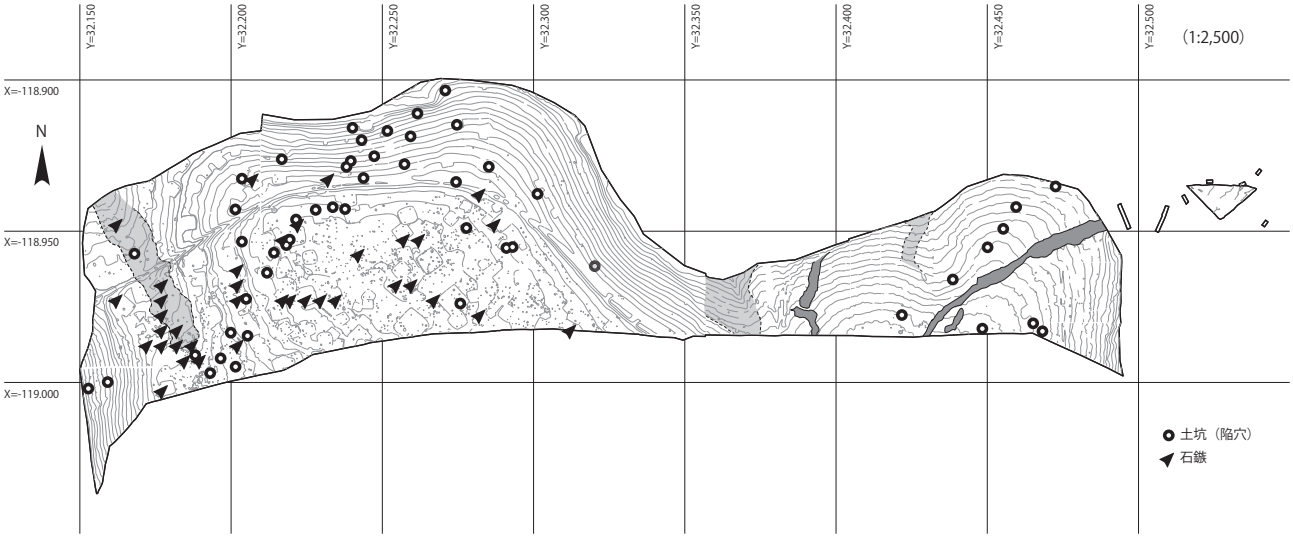
木葉形尖頭器（3049・3050）　いずれも半分欠損である。表裏とも同様に、身部まで深く剥離調整が入るもので、断面形状が菱形を呈する。石材は熔結凝灰岩あるいは凝灰岩である。　剥離調整　石材

使用痕のある剥片（3051）　打面調整が行われたあと縦長に作出された剥片が使われており、側辺には微細剥離が連続して認められる。後期旧石器がまとまって確認された08B区以外の出土であるが、石器群の中では古相を呈するため、ここで報告する。熔結凝灰岩製である。　微細剥離　石材

縄文時代に属する石器・石製品（遺物図版122～154）

石鏃（3052～3084）　38点出土し、33点を図化した。38点の基部形態は、無茎凹基が18点、無茎平基が７点、その他無茎が２点、有茎は８点、形態不明が３点である。石材は安山岩12点、熔結凝灰岩12点、黒曜石５点、凝灰岩３点、下呂石３点、チャート３点であるが、このうち、有茎鏃は安山岩５点と熔結凝灰岩３点である。　基部形態　石材

3052 ～ 3076 は無茎鏃である。3052 ～ 3057・3060・3061・3063 ～ 3066・3068 ～ 3071・3073 ～ 3076 は凹基、3058・3059・3062・3967・3072 は平基である。3073 は鏃身側辺が細かい鋸歯状を呈する。3077 ～ 3084 は有茎鏃である。鏃身部分が五角形を呈するものが多く、3081 は肩の張る、いわゆる飛行機鏃と言われるものである。　無茎鏃　有茎鏃　飛行機鏃



第12図　石鏃と縄文時代の土坑（陥穴）の分布

石錐（3085～3089）　５点出土し、すべて図化した。3086・3088・3089は一端が幅広となり摘部を有するもので、3087は摘み部を有しない、全体が棒状を呈するものである。石材は熔結凝灰岩、黒曜石、安山岩である。

摘部

石材

尖頭器（3090～3093）　４点出土し、すべて図化した。3090は長さ6cmとやや大型であるが、3091は長さ3.5cnと石鏃と同様の法量を示す。いずれも表裏同様に剥離調整が行われている。石材は安山岩、凝灰岩、熔結凝灰岩である。

石匙（3094～3106）　13点出土し、すべて図化した。13点の中で縦形は２点（3094・3095）、その他はすべて横形である。3094は素材剥片の様子が不明なほど、両面に剥離調整が加えられている。3095は縦長剥片の端部側に摘部をつけるものである。3097・3101・3104は横形ではあるが、素材剥片の長軸側に摘部をつけるものである。3105は両面に入念な剥離調整が施されており、平面形状はやや潰れてはいるが台形様を呈している。縄文時代前期に属するかもしれないが、本調査では当該時期の土器は認められない。

縦形

横形

スクレイパー・使用痕のある剥片（3107～3149）　使用と考えられる不連続な剥離が認められるものである。58点確認し、43点を図化した。このうち、3107～3116・3126～3137・3139～3143・3145～3148は、刃部側に二次加工と考えられる整った剥離が認められることからスクレイパーとし、それ以外を使用痕のある剥片とした。剥片素材としては、貝殻状を含めた横長が多いなか、3125・3127・3132などのように熔結凝灰岩および凝灰岩を中心に縦長様の素材が利用されているものもある。石材は熔結凝灰岩28点、凝灰岩21点、黒曜石３点、安山岩３点、下呂石１点・チャート１点、凝灰質砂岩１点である。

剥片素材

石材

楔形石器・両極打撃のある石器（3150～3152・3300～3302）　対向する両辺に階段状剥離が認められるものである。10点出土し、６点を図化した。10点中の石材は、安山岩５点（3150・3151）、チャート２点（3152）、凝灰岩３点（3300～3302）である。

階段状剥離

石材

刃器（3153～3160）　大型の剥片などの一辺を刃として使用したものである。10点出土し、９点を図化した。3153は長辺側に使用による不連続な剥離が認められ、刃部側が湾曲を呈する。3154は両面に剥離調整が施されており、スクレイパーの部類かもしれない。3155・3156は貝殻状剥片の側辺が使用されている。3157・3159・3160は横長剥片の縁辺に不連続な剥離が認められる。石材は安山岩５点（3158～3160）、熔結凝灰岩（3155～3157）、泥質凝灰岩（3154）、紅簾石片岩（3153）である。

大型剥片

貝殻状剥片

横長剥片

石材

二次加工のある剥片（3161～3179）　25点確認し、19点を図化した。主体となるのは石鏃の製作に対応するものと考えられる。3173は器面中央に瘤状残存部が認められるものである。石材は熔結凝灰岩11点（3161～3168）、凝灰岩４点（3169～3171）、安山岩５点（3172～3176）、チャート２点（3177・3178）、黒曜石２点（3179）、変塩基性岩１点である。

石鏃の製作

石材

異形石器（3180）　3180は、中央部の両側辺からの抉り入れが著しく、両頭様を呈するものである。安山岩製。

両頭様

剥片石核類（3181～3299）　上記報告以外で、剥片は1393点、石核は207点を確認した。一部、後期旧石器に属するものも含まれている可能性がある。剥片の中には、打面転位を行った結果、縦長様を呈するものもある（3181・3182・3231・3232・3271・

点数

3281）が、横長･菱形、そして貝殻状を呈するものが多い。

石材

主要な石材のみ取り上げると、熔結凝灰岩は 578 点・4351.7g（3181 ～ 3230）、凝灰岩は 542 点･5055.1g (3231 ～ 3256)､安山岩は 258 点･2038.0g (3257 ～ 3270)､チャートは 39 点・196.2g（3271 ～ 3280）、黒曜石は 46 点・99.1g（3281 ～ 3291）、下呂石は 12 点・30.2g（3292・3293）、瑪瑙は 3 点・10.6g（3294・3295）、オパールは 3 点・10.2g（3296 ～ 3298）、松脂石は 2 点・96.3g（3209・3299）で、その他石材のものは 98 点・589.4g である。

短冊形と撥形

打製石斧（3303～3349）　99点出土し、47点を図化した。平面形状は短冊形および撥形があると思われるが、撥形としたものでも基部側が若干すぼまる程度のものにとどまり、短冊形としたものと形態的には連続している。長さは10cm程度のものが多い中、3303の24cmを測るものは特異である。断面は扁平な板状など薄手のものが多く、3328・3341・3346などのように肉厚の形状を呈するものは少ない。刃部端には使用によると思われるツブレ様の打撃痕や、器面の磨滅や線状痕などがよく認められる。石材は安山岩32点（3340～3345）、緑色片岩32点（3303～3321）、泥質凝灰岩９点（3330～3336、3336は只持石か）、片麻岩９点（3322～3325）、変塩基性岩５点（3346～3349）、凝灰岩４点（3337～3339）、砂質凝灰岩２点、結晶片岩２点（3227・3228）、熔結凝灰岩２点、黒色片岩１点（3329）、泥質片岩１点（3326）である。

石材

大型の打製石器

大型剝片石器・大型剝片・礫器あるいは大型剝片石核（3350～3388）　大型の打製石器関係のものを集めた。この中で、大型剝片石器としたものは17点であり、一部は打製石斧の部分かもしない。石材は安山岩７点（3377）、凝灰岩４点（3356～3359）、片麻岩１点、変塩基性岩１点（3384）、熔結凝灰岩１点、泥質凝灰岩１点、珪質片岩１点、結晶片岩１点である。大型剝片としたのは457点である。貝殻状を含めた横長剝片が多い（3380・3382）。3379は長さ19cmを測るもので、大型の打製石斧に対応する素材剝片かもしれない。石材別に見ると、安山岩375点（3373・3374・3379～3382）、泥質凝灰岩20点、変塩基性岩16点、緑色片岩12点、凝灰岩10点、塩基性岩８点（3387）、黒色片岩は６点、熔結凝灰岩４点、塩基性凝灰岩２点、砂質凝灰岩１点、片麻岩１点、変玄武岩１点、花こう岩１点である。

大型剝片

石材

礫器・大型剝片石核

石材

礫器あるいは大型剝片の石核は 37 点確認した。石材別に見ると、安山岩 15 点（3371・3372・3375・3376・3378)、凝灰岩 10 点（3355・3360 ～ 3368)、泥質凝灰岩は３点(3352 ～ 3354)、泥質凝灰岩でも只持石と考えられるもの２点（3350・3351)、変塩基性岩２点（3383・3385)、砂質凝灰岩２点（3369)、凝灰質砂岩１点（3370)、珪質岩１点（3386)、長石１点（3388）である。

製品

定角式

非定角式

乳棒状

ノミ状

石材

磨製石斧と関連遺物（3389～3410・3499）　磨製石斧は製品と加工途上と考えられるものが出土している。製品は29点出土し、15点図化した。3389・3390・3499は側面に面取りが認められる定角式で出土した３点をすべて図化した。それ以外は、面取りのないもの（非定角式と仮称する）で15点を確認した。非定角式の多くは、断面形状が円あるいは楕円形状を呈し、かつ平面形状が細長いものであることから、いわゆる乳棒状であろう。少数ではあるが、3401など断面形状が扁平なものもある。3402は刃部が幅狭く、ノミ状を呈するものである。定角式の石材は塩基性岩２点（3389・3499）、凝灰岩

1点（3390）である。非定角式の石材は変塩基性岩10点（3392～3396・3398～3400・3402）、塩基性岩2点（3391・3397）、塩基性凝灰岩1点、泥質凝灰岩1点、片麻岩1点（3401）である。断面形状不明のものは、変塩基性岩9点、塩基性岩1点である。

製作途上

3403～3410は、磨製石斧の製作途上と考えられるものである。3403・3410は敲打調整の後で全面研磨が施されているものである。3403は刃部を中心として研磨が掛けられている状態であるが、これで完成品の可能性もある。3404～3409は敲打調整を施している段階のもので、調整が剥離様である段階（3404・3409・3407）と、緻密な敲打が進みツブレ状になる段階（3405・3406・3408）とが認められる。これらの石材はすべて変塩基性岩である。

石材

縄文時代

磨石敲石類（3411～3423）　後述するように、今回の調査では、古墳時代に属する磨石敲石類および石皿台石類が多量に出土している。資料群の中から、大きな凹みや敲打痕が認められるなど、縄文時代に属すると考えられるものを13点のみ抽出できた。円礫の中央･側辺に敲打痕、平面に磨痕が認められるものが多い。3422・3423は礫端部に敲打痕が認められるものである。石材は3411が軽石、3412が塩基性岩、3413・3416・3417・3423が花こう岩、3414・3419・3221が片麻岩、3415が砂質凝灰岩、3418が安山岩、3420・3422が変塩基性岩である。

石材

石棒・石刀

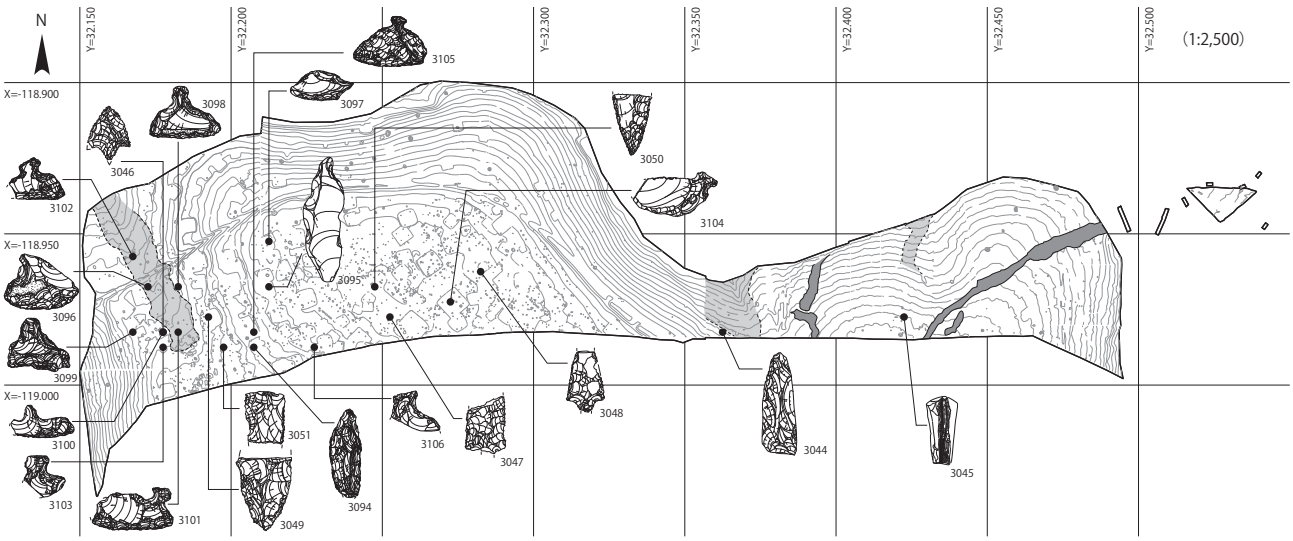
石剣

石棒石刀類（3424～3428）　3424は石棒の頭部あるいは石刀の柄部分であろうか。断面形状は扁平である。3425は断面形状が菱形を呈するもので、石剣になるかもしれない。3426・3427は細長い棒状礫を利用したものであろうか。石材は3424・3425が緑色片岩、3426が黒色片岩、3427が変塩基性岩、3428が片麻岩である。

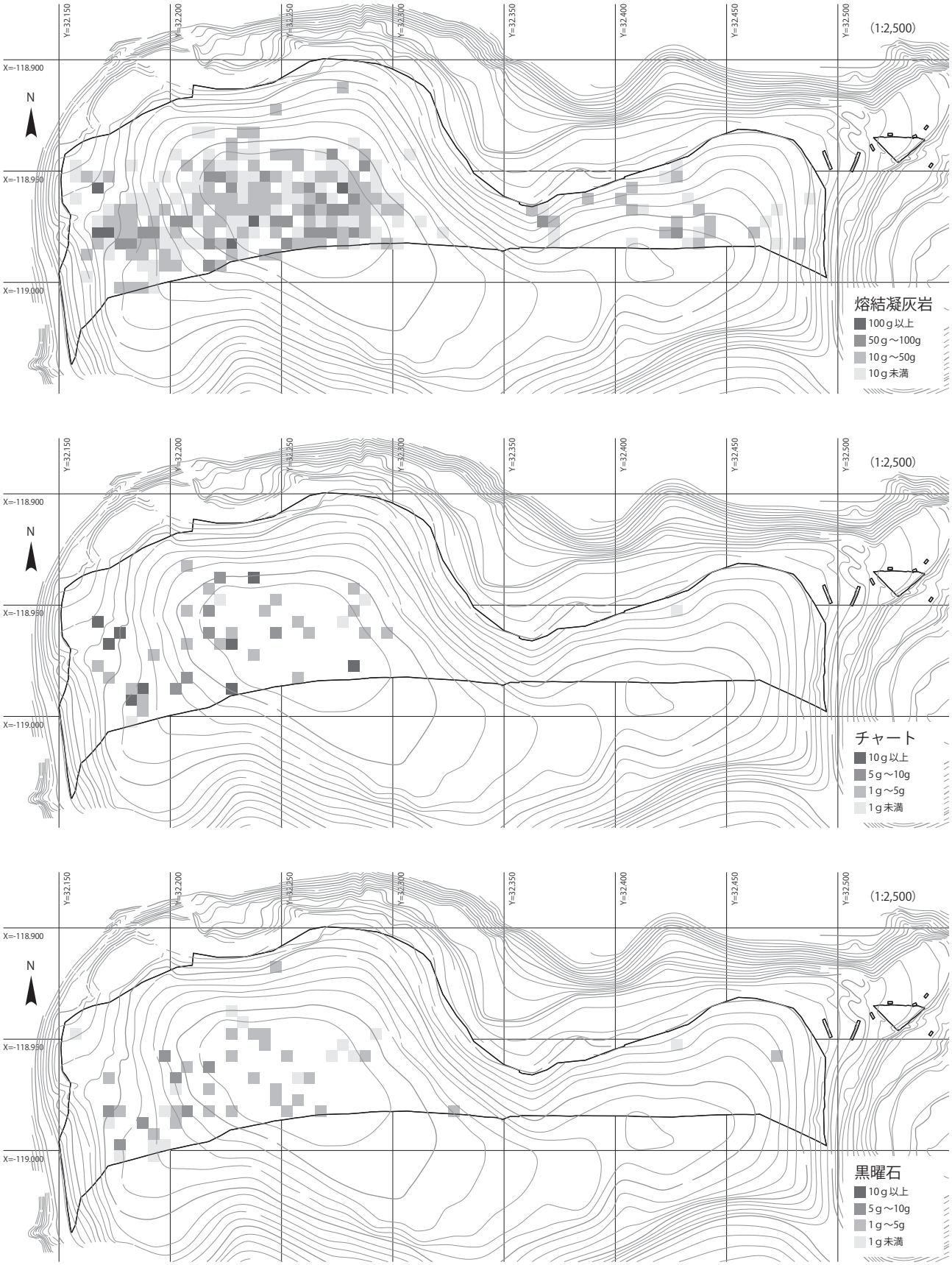
石材

玦状耳飾り（3430・3431）　2点とも半分欠失しているが、径4～5cm程度の法量になると推測される。中央の穿孔が径2cmほどと大きく開けられ、幅1cm強の環状を呈するものになっている。石材は両者とも滑石製である。

不明石製品（3429）　長さ10cmほどの棒状を呈するもので、中央にくびれを有する。全面研磨が施されており、器面は平滑である。一端部には、敲打痕が認められるか。変塩基性岩製である。



第13図　縄文時代草創期の石器・石匙の分布



第14図　石材重量分布（熔結凝灰岩・チャート・黒曜石）

第３節　弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と遺物

（１）概要

検出遺構

概要

遺跡の主体である弥生時代後期から古墳時代前期の主要な遺構として、竪穴建物 334 棟（実棟数 295 棟）と掘立柱建物８棟、柱穴列（掘立柱柵）とその他多数の小土坑を検出した。なお、環濠や集落内を区画する溝、方形周溝墓等の埋葬遺構は検出されていない。

分布

これらの遺構は西部丘陵（狐塚地区）の西向き斜面から丘陵頂部の平坦面にかけて稠密な分布を示し、丘陵の北寄りの斜面に散在して分布する。その他、東部丘陵（長頭貝津地区）、南部丘陵（儀徳地区、新城市教育委員会調査）にも散漫に遺構が分布する。

第３表　検出竪穴建物棟数一覧

		総棟数		実棟数		建替え	炉のみ	不確定
A群	Aa群	10	55	10	49			
	Ab群	12		10		1		1
	Ac群	7		6			1	
	Ad群	12		11			1	
	Ae群	14		12		2		
B群	Ba群	4	23	2	15	1		1
	Bb群	6		4				2
	Bc群	10		7		1		2
	Bd群	3		2				1
C群	Ca群	5	37	5	32			
	Cb群	13		12			1	
	Cc群	5		5				
	Cd群	9		6		2		1
	Ce群	5		4		1		
D群	Da群	12	71	11	65		1	
	Db群	19		18			1	
	Dc群	10		10				
	Dd群	6		5				1
	De群	9		8				1
	Df群	11		9		2		
	Dg群	4		4				
E群	Ea群	6	29	5	27	1		
	Eb群	4		4				
	Ec群	19		18		1		
F群	Fa群	9	37	8	31	1		
	Fb群	9		8			1	
	Fc群	12		9		1	2	
	Fd群	7		6			1	
G群	Ga群	9	21	9	20			
	Gb群	6		6				
	Gc群	6		5		1		
H群	Ha群	17	36	16	33	1		
	Hb群	9		9				
	Hc群	10		8		1		1
I群	Ia群	4	12	3	10		1	
	Ib群	3		3				
	Ic群	5		4			1	
J群	Ja群	3	11	3	11			
	Jb群	2		2				
	Jc群	4		4				
	Jd群	2		2				
K群	Ka群	1	2	1	2			
	Kb群	1		1				
L群（市）		2	2	2	2			
合計			336		297	17	10	11

建物の分布による群別

分布と群別

竪穴建物を中心とする建物群の全体的な配置について、分布の様態から西斜面下段のＡ群、北西斜面のＢ群、西斜面上段のＣ群、平坦面西緩斜面のＤ群、平坦面北緩斜面のＥ群、平坦面中央のＦ群、平坦面北東斜面のＧ群、平坦面南東斜面のＨ群、東斜面上段のＩ群、北東斜面下段のＪ群（以上、西部丘陵の狐塚地区）、東部丘陵（長頭貝津地区）のＫ群、南部丘陵（儀徳地区、新城市教育委員会調査）のＬ群の計 12 群に大別する。

分布の細別

さらにＡ群を５群、Ｂ群を４群、Ｃ群を５群、Ｄ群を７群、Ｅ群を３群、Ｆ群を４群、Ｇ群を３群、Ｈ群を３群、Ｉ群を３群、Ｊ群を４群、Ｋ群を２群に細別し、Ｌ群を加えて計 44 群として扱うこととする（第 15 図）。

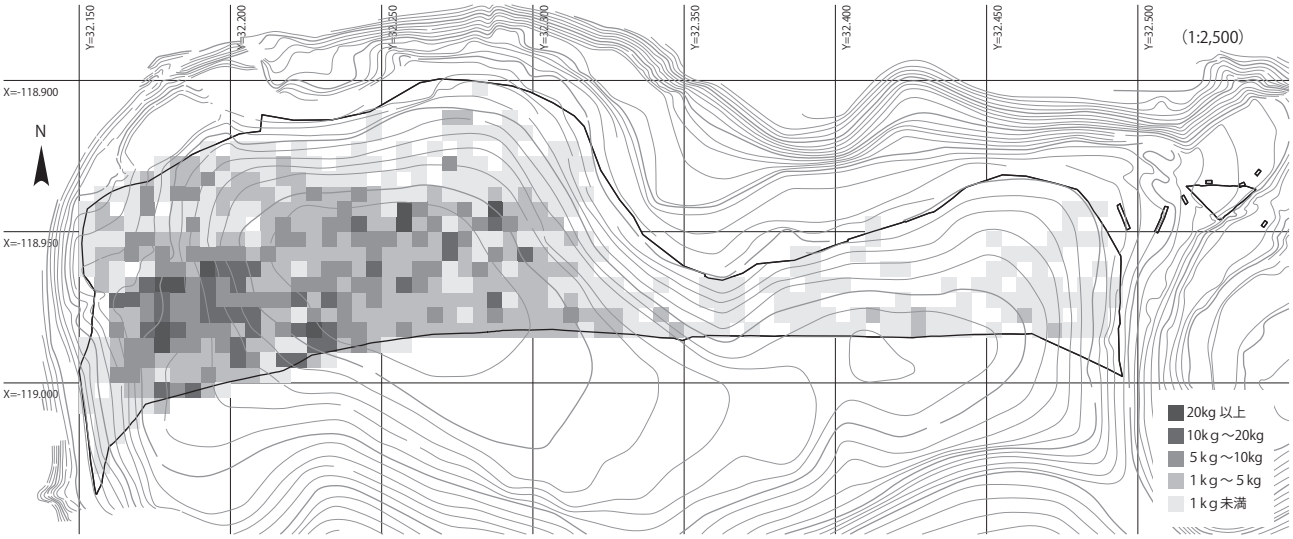
竪穴建物の検出棟数

総棟数

各群における検出された竪穴建物の棟数を第３表に示す。「総棟数」とした 334 棟は拡張や建て替え、地床炉や掘方、周溝のみを検出したもの、Ｂ群に散見される竪穴状の掘り込みの可能性があるもの（竪穴建物の埋没過程における再掘削）を含めた総数で、これらを除外した棟数を「実棟数」として同表に示した。

実棟数

第15図　竪穴建物の分布と群別



第16図　出土土器重量分布（弥生時代後期から古墳時代前期）

出土土器量・分布

出土土器量

分布

弥生時代後期から古墳時代前期の土器は 2020.856kg が出土した（全出土土器の総重量 2031.4201kg の 99.48%）。土器は北向き斜面を除いて、ほぼ丘陵全域に分布する（第 16 図）。また、丘陵頂部の平坦面（竪穴建物Ｆ群周辺）の出土量はやや少なく、丘陵縁辺から西向き斜面（竪穴建物Ａ群・Ｃ群・Ｅ群）にかけて濃密に分布する傾向がある。最も出土量が多いのは Ec 群 3742SI が重複するグリッドで 53.529Kg の土器が出土した。次いで、Ac 群 1456SI、Ad 群 1411SI・1464SI、Ca 群 1276SI・1474SI、Dc 群 3005SI、Gc 群 5770SI が重複するグリッドの出土量が多い。

（2）竪穴建物の調査の方法

以下、竪穴建物にかかる膨大な資料の前提となる調査の方法を明記する。

遺構検出と掘り下げ

遺構検出

遺構検出時には複数棟の竪穴建物が重複して検出されることが多く、平面的に遺構の先後関係を確定することは困難な場合が多かった。手順としては、平面による遺構検出後、覆土を除去する以前にサブトレンチを掘削して、先後関係を把握する方法も考えられたが、竪穴建物の残存状況は概して良好で、遺構掘削の深度が深くなる場合も多く、掘削幅を限定したサブトレンチによる土層断面の観察で先後関係を確定することは実際には困難であった。また、10 数棟前後の竪穴建物を同時に調査する状況で、サブトレンチによる土層断面の観察、先後関係の確定後に覆土の除去を開始する手順は、調査工程上現実的ではないと判断した。

掘り下げ

そこで、複数棟が重複する竪穴建物の調査に際しては、重複した複数棟の竪穴建物の先後関係を厳密には確定せず、土層の観察によって先後関係の確定、検証、記録が可能となるように土層観察用畦を設定し、重複する複数棟の竪穴建物の覆土を同時に掘り下げることとした。ただ、土層観察用畦の設定に際しては、土層断面による竪穴建物の先後関係の確定を優先させると、畦が竪穴建物の主軸方向に直交・平行しない場合や、中心付近から位置が著しく偏ってしまう場合も多く、さらに、複数棟の竪穴建物を一連とした長大な畦の設定は伐採後の根株によって妨げられることもしばしばで、土層断面の記録として全ての要件を満たすことは難しかった。

土層観察用畦

遺物の取り上げ

三次元情報の記録

重複する複数棟の竪穴建物を同時に掘り下げる過程において出土する遺物については、出土時にはそれが帰属する遺構を確定することができないので、個体識別が可能で、遺構の時期や性格の推定に関係すると考えられる遺物については、出土位置の三次元情報を記録し、平面・土層断面図上に位置を示すようにした。一方、竪穴建物の輪郭や先後関係が確定する以前に取り上げた微小な土器片などの遺物については、帰属が曖昧ながら竪穴建物の遺構番号を付し、「上層」として扱った。つまり、重複する竪穴建物の「上層」出土遺物（特に三次元情報がない遺物）は、帰属に厳密性を欠くことを示す。なお、遺物図版においては、取り上げ時の情報として、「上層」と明記した（以下の遺物の取り上げ時の情報も同様）。なお、竪穴建物の出土遺物の取り上げに際しては、通常の５ｍ四方のグリッドを（細分せずに）そのまま適用した。

「上層」出土遺物

土層断面の精査と記録

土層断面の精査

竪穴建物の覆土の掘り下げが一定の深度（実際には床面付近）に達した段階には、土層観察用畔に沿ってサブトレンチを基盤層（加工面）以下まで掘削し、一定程度に掘り下げが進行した段階の竪穴建物の調査状況も考慮して、土層断面上における覆土の堆積状況の観察、先後関係の確定、貼床以下、掘方までの精査と記録作業を行った。この前後、つまり、重複する竪穴建物の先後関係がほぼ確定した段階から床面上の精査までに取り上げた遺物については、「下層」として扱った。つまり、「下層」出土遺物の帰属に対する信頼度は「上層」出土遺物に対して相対的に高いことを示す。

「下層」出土遺物

床面の精査

床面の精査ではほぼ確実に地床炉が検出された。地床炉の焼土面の多くは明確に被熱によって硬化し、その認識は容易であった。その一方で、竪穴建物の帰属、平面上の位置関係の解釈に困難を来すことも少なくなかった。

地床炉

床面を精査する過程において床面直上で出土した遺物については、「床直」として扱った。床面付近においては、炭化材が検出されることも多く、出土状況が良好な竪穴建物については、放射性炭素年代測定用の試料を可能な限り採取し、分析を依頼した。

「床直」出土遺物

床面は掘方の掘削、整地後に貼床が施される場合も多く、床面上は一様に斑状を呈していた。このため、貼床や整地面の上面において、柱穴や貯蔵穴等の竪穴建物に付属する遺構を見落とすことなく調査することは難しかった。そこで、床面とそれに伴う地床炉を一通り検出した段階で、機能面までの調査を一旦完了し、「床面検出状況」の記録作業を行った。竪穴建物が重複する場合、先後関係で後出する竪穴建物の「床面検出状況」の記録作業までを完了し、先行する竪穴建物の調査に移行した。さらに竪穴建物が重複する場合、同様の作業工程を繰り返した。なお、平面図（遺構全体図、個別遺構図）上においては、最も先行する竪穴建物の調査が完了した時点の状況を掲載し（平面図上においては竪穴建物の先後関係を明示していない）、その過程ですでに調査を完了した個別の竪穴建物についての平面図上の記録は抽出して別に掲載した。

貼床

「床面検出状況」

竪穴建物の重複

付属施設と掘方の調査

「床面検出状況」の記録作業後は、地床炉の断ち割りと断面の記録作業、貼床の除去と掘方（基盤層）までの掘り下げ、柱穴、貯蔵穴等の付属遺構の掘削と精査を随時行い、加工面までの調査を完了した時点で、「完掘状況」の記録作業を行った。なお、貼床の除去、掘方の掘り下げ時に出土した遺物については、「掘方」として扱った。ただし、調査工程上、掘方の調査の作業工程を省略した部分がある。

掘方の調査

「掘方」出土遺物

結果的に多くを基盤層（加工面）上において検出した柱穴、貯蔵穴等を含む遺構は、竪穴建物の覆土上面または覆土中（竪穴建物の埋没過程）、竪穴建物の床面（竪穴建物の構築時）、竪穴建物の床面下位の基盤層上（竪穴建物の構築以前）の遺構が混在するが、それらが掘り込まれた面や帰属する竪穴建物の確定に厳密を期せないことから、（帰属の確定、未確定にかかわらず）検出した全遺構を重複する各竪穴建物の床面（機能面）上に反映させた。そのため、遺構図として掲載した平面、断面図には床面、主柱穴等の付属遺構との関係に整合を欠く部分がある（特に床面と主柱穴の上端の高さは調査方法の関係上、対応しない）。

柱穴・貯蔵穴

発掘調査後の検証作業

遺物の整理作業の進行状況に応じて、出土位置の三次元情報を取得した遺物については、土層断面図上に投影した出土位置から、帰属遺構・層位を確認し、必要に応じて出土時の情報を修正した。発掘調査時に決定した遺構の先後関係についても、出土遺物の様相も考慮しながら改めて検討して一部を修正したが、修正が困難で、全体の整合性を欠く遺構も残されている。採取した試料の年代測定結果との整合、不整合についても十分な検討ができていない。調査上の不備は依然として残されているが、本報告は現段階の成果として提示するもので、今後の再検討によって改められる余地もあることを付記する。

出土位置の確認

先後関係の検証

（3）竪穴建物の諸属性・時期区分

記述方法・方針

報告の方針

後段以下の竪穴建物群の報告においては、検出状況と先後関係、遺物出土状況にかかる遺構の所見と特記事項、遺構の性格や帰属時期の推定にかかる特徴的な遺物についてのみ記述することとする。竪穴建物についての各属性と推定される帰属時期については、一覧表に記載した（第４～８表）。記載した属性は、「方位」、「規模」、「平面形」、「主柱穴」、「周壁溝」、「炉」、「貯蔵穴」である。

属性一覧表

方位

「主軸」方向

竪穴建物の「主軸」（に平行、または直交する方向）が真北に対して東西に振れる角度（東西に 45°まで）を計測した。遺構図版（遺構図版 34 ～ 181）に掲載する竪穴建物の個別遺構図はこの方位を考慮して配置し、重複する竪穴建物を同時に配置する場合はいずれかの竪穴建物の方位を優先して配置した。竪穴建物の一部分を呼称する場合、方位が真北に近い場合（東西の方位の振れが 22.5°未満）は、各辺を北辺、東辺、南辺、西辺、（特に後述の貯蔵穴の配置が関係する）各隅を北東隅（「NE」）、南東隅（「SE」）、南西隅（「SW」）、北西隅（「NW」）、方位が真北から東西に振れる場合（東西の方位の振れが 22.5°以上、45°未満）は、各辺を北東辺、南東辺、南西辺、北西辺、各隅を北隅（「N」）、東隅（「E」）、南隅（「S」）、西隅（「W」）とする（第 17 図）。

部分呼称

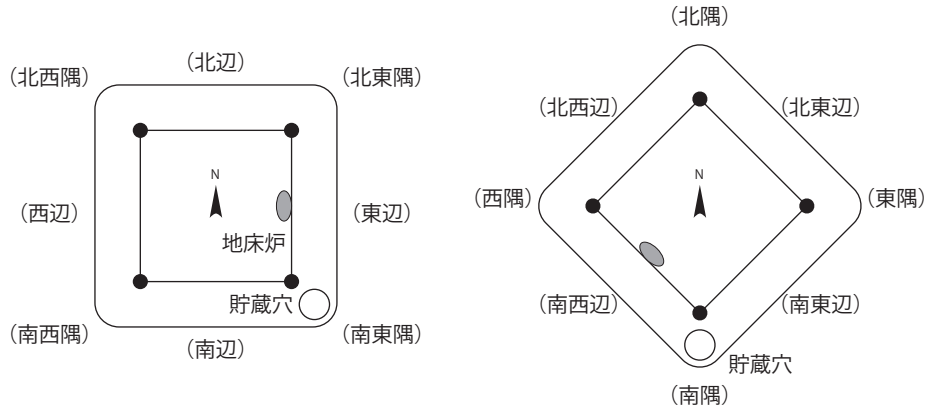
規模

長軸と短軸の計測

竪穴建物の長軸方向と短軸方向の距離を計測した。計測は遺構の上端の輪郭を基準とした。計測値は遺構の遺存状況に左右され、厳密性を欠くが、竪穴建物の著しい重複や根の撹乱等、他の多くの不確定な要素も考慮して厳密を期すことは難しいと判断し、あくまでも概算的な計測値として提示することとした。なお、部分的に残存する竪穴建物で、主柱穴配置（後述）が判明する場合、主柱穴との位置関係から竪穴建物の平面形を反転復原して長軸と短軸を計測した。また、主柱穴配置（後述）が判明する竪穴建物については、柱間の長軸方向と短軸方向の距離を計測した。

面積

竪穴建物の面積は便宜的に長軸と短軸の計測値を乗じて算出した。長軸と短軸の計測値が得られない場合は、一方を便宜的に長軸として、その計測値を２乗して算出した。



第17図　竪穴建物の部分呼称

平面形

竪穴建物の平面形は長方形または正方形に限られる。台形または五角形に近い形状も認められるが、検出状況が良好でなく、平面形を確定できるものではない。　長方形と正方形

正方形と長方形の区別については、便宜的に竪穴建物の長軸に対する短軸の比（長短比）が 0.9 以上を正方形、0.9 未満を長方形とした。短軸の計測値が得られない竪穴建物で、主柱穴配置が判明する場合は、柱間における長軸と短軸の比を適用した。　長短比

その他、竪穴建物の四辺が胴張り気味のものと直線的なもの、四隅の形状が曲線的なものと直線的なもので分類が可能と思われるが、客観的な基準を準備することができなかったので、属性としては採用せず、必要に応じて言及することとした。

周壁溝

竪穴建物の各辺に沿って掘り窪められる周壁溝については、掘方や貼床の上面における精査時に、その有無（掘り下げ）についての意識的な区別ができていない。さらに竪穴建物が相互に重複する場合や西向き斜面の黒色土中に掘り込まれている場合、その判断はより難しい。これらの不確定な要素を内包するが、周壁溝について、全周（四辺の約８割）するもの（「全」と記載）、四辺の約半分にあるもの（「半」と記載）、部分的（約４割以下）にあるもの（「部」と記載）、全く検出されないもの（「無」と記載）の４類型に区分した。　調査の状況　全周・半周　部分的・無し

主柱穴

確認された主柱穴の配置は４本配置（「4」）または主柱穴を欠くもの（「0」）で、２本配置、６本配置等の主柱穴配置は認められない。また、調査区の制約、遺構の重複や流出による欠失、発掘調査時における遺構の見落とし等によって主柱穴配置が完全に判明しない竪穴建物でも４本配置が推測される場合、確認した主柱穴の基数を示した（「（1）4」、「（2）4」、「（3）4」と記載）。主柱穴配置を確認した竪穴建物については、断面図を作成した。主柱穴としては浅いように思われる柱穴もあるが、前段に記述したような調査上、記録上の不備もあることから、主柱穴の認定にかかる明確な基準は設定しなかった。　４本配置

床面

床面は貼床を施すもの（「○」と記載）、掘り下げた面を直接床とするものがある。前者には硬化した面が認識されることも多く、（08区・09区のみ）その範囲を平面図上に示した。　硬化範囲

炉

確認した炉はいずれも床面が直接に火を受けた地床炉である（「○」と記載）。地床炉には一石（または二石）の礫を置いた、あるいは埋めた炉（いわゆる「埋石炉」、「置石炉」）も散見される（「◎」と記載）。竪穴建物の床面上に複数の地床炉が認められる場合もあるが、複数の焼土面が少し離れる程度、焼土が散在する程度の事例もあって、地床炉の基数を明確に示すことは難しい。また、地床炉の上面は著しく硬化した部分が確認されることも多く、（10 区のみ）その範囲を平面・断面図上に示した。　礫の使用　基数　硬化範囲

貯蔵穴様の土坑（貯蔵穴）

竪穴建物の一隅には径 0.5 mから１m程度の円形または楕円形の土坑が検出されることが多い。土坑には残存状況が比較的良好な土器を伴うことも多い。土坑の用途を明確にすることは難しいが、便宜的に貯蔵穴様の土坑（以下、単に「貯蔵穴」）として扱うこととする。貯蔵穴の位置は前述の竪穴建物の部分呼称（第 17 図）に従って示した。　規模・平面形　遺物出土状況　貯蔵穴

掘方

形状

竪穴建物の掘方は可能な限り調査し、記録した。確認された掘方の造作、形状としては、床下の全面を掘り下げるもの（「全」と記載）、中央付近の床下を方形状に掘り下げるもの（「方」と記載）、周壁に沿って床下を平面「ロ」字状（「ロ」と記載）、「コ」字状（「コ」と記載）、「L」字状（「L」と記載）に掘り下げるものに加えて、いずれか一辺のみを掘り下げるもの（「辺」と記載）がある。また、一部分を掘削するもの（「有」と記載）に加えて、斜面側に置き土をしたもの（「斜」と記載）もある。

その他

その他

周堤帯

粘土塊（溜まり）

竪穴建物の一隅に盛り土または基盤層の掘り残しによる土手状の施設（周堤帯）が確認されることがあるが、良好な検出事例は少ない。また、竪穴建物の床面付近や覆土中に未焼成の粘土塊（溜まり）が残されていることがある。建物の構築や土器の焼成に用いる目的で保管されていた可能性がある。

時期区分の設定と帰属時期の推定

時期区分

高杯の型式区分

竪穴建物の重複が著しい部分では、確実に５棟が重複するので、少なくとも 10 回程度の立て替え、つまり、10 段階程度の変遷が想定される。一方、出土土器として安定して組成し、型式区分が比較的容易な有段高杯は、有段高杯Ａ（山中型）が３型式、有段高杯Ｂ（欠山型）が８型式、計 11 型式に細分される。これらにより、遺構変遷と土器編年（第４章（7）を参照）は、１期から 10 期（11 期）の 10 期（11 期）区分が妥当であると判断し、以下の遺構・遺物の記述、分析に適用した。

大別時期

既往の様式

年代

時期区分が難しい遺構、遺物については、弥生時代後期（１期から３期）、弥生時代終末期（４・５期）、古墳時代前期初頭（６期から８期）、古墳時代前期前半（９・10 期）の４時期の大別を用いた（以下、単に「後期」、「終末期」、「前期初頭」、「前期前半」とする）。三河地域周辺の既往の様式区分との対応については、後期が「寄道式」、終末期が「欠山式」、前期初頭が「元屋敷式（古）」、前期前半が「元屋敷式（新）」の古相部分に重複する。年代としては「後期」を１世紀から２世紀前半（２世紀前半以前）、「終末期」を２世紀後半、「前期初頭」を３世紀前半、前期前半を３世紀後半と想定する。

帰属時期の推定

竪穴建物の帰属時期の推定に際しては、まず、有段高杯をＡ１からＡ３の３型式、Ｂ１からＢ８の８型式に型式分類し、Ａ１からＡ３、Ｂ１からＢ８の型式組列を想定した。ただ、高杯の型式分類に厳密を期して、それを直接に遺構の時期区分に反映させると、同一の竪穴建物（の床面直上）で複数型式の高杯が共伴する事例の扱い、遺構の先後関係、相互の位置関係との整合に困難を来すことになる。そこで、仮に高杯Ａ１とＡ２の両型式を伴う（ことが想定される）遺構の時期を１期、以下、Ａ２とＡ３を２期、Ａ３とＢ１を３期、Ｂ１とＢ２を４期、Ｂ２とＢ３を５期、Ｂ３とＢ４を６期、Ｂ４とＢ５を７期、Ｂ５とＢ６を８期、Ｂ６とＢ７を９期、Ｂ７とＢ８を 10 期として認識した。いずれかの型式が出土する竪穴建物については、遺構の先後関係、遺構配置との整合を考慮し、（高杯との共伴関係から検証した）他の形式の型式的な位置（土器の形式・型式分類と編年の詳細は第４章（7）を参照）を加味して、可能な限り帰属時期を確定することとした（以下、原則として「く字状口縁台付甕」を「甕」、「有段高杯」を「高杯」と呼称し、有段口縁甕、椀形高杯等、他の形式の甕、高杯に対してのみ形式名を使用する）。

第４表　竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）　1

	群	遺構番号	時期		方位	規模				柱間			平面形	周壁溝	主柱穴	貼床	炉	貯蔵穴の配置	掘方	その他
			大別時期	細別時期		長軸 (m)	短軸 (m)	長短比	面積 (㎡)	長軸 (m)	短軸 (m)	長短比								
1	Aa	2093SI	後期	1期	N-42°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(全)	1(4)	○	-	S		
2	Aa	2022SI	(前半)	(9・10期)	N-27.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0	○	-	-	有	
3	Aa	2034SI	(初頭)		N-27°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	1(4)	○	○	S		
4	Aa	2023SI	(終末)	(4・5期)	N-21°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-	有	
5	Aa	2006SI	前半	9期	N-27°-W	5.05	4.25	0.84	21.5	-	-	-	長方形	無	0	○	○	S		
6	Aa	2021SI	前半	10・11期	N-27°-W	2.90	-	-	8.4	-	-	-	-	(無)	0	○	-	S		
7	Aa	2005SI	(初頭)		N-27°-W	3.20	-	-	10.2	-	-	-	-	半	0		-	-		
8	Aa	1957SI	終末	4期	N-16.5°-E	4.15	4.05	0.98	16.8	2.25	2.15	0.96	方形	半	3(4)	○	(◎)	SE	方	
9	Aa	1958SI	前半	9期	N-8°-W	5.15	-	-	26.5	2.80	-	-	-	全	2(4)		○	-		
10	Aa	1959SI	(初頭)	(6・7期)	N-0°	-	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0		○	-	コ	
11	Ab	1991SI	終末	4期	N-21°-W	4.40	4.15	0.94	18.3	-	-	-	方形	無	0	○	◎	SE	方	
12	Ab	1993SI	(後期)	(1・2期)	N-37.5°-W	4.90	4.85	0.99	23.8	-	-	-	方形	無	0		○	-	辺	
13	Ab	1994SI	(初頭)		N-37.5°-W	3.45	3.25	0.94	11.2	-	-	-	方形	無	0		○	N		
14	Ab	1995SI	(後期)	(1・2期)	N-41°-W	4.00	-	-	16.0	-	-	-	-	(無)	0		-	-		
15	Ab	1992SI	(前半)	(9・10期)	N-41°-W	4.10	4.05	0.99	16.6	-	-	-	方形	全	0		○	-		
16	Ab	2077SI	後期	2期	N-32°-W	6.30	5.40	0.86	34.0	3.25	3.05	0.94	長方形	無	4		○	S		
17	Ab	2033SI	前半	10期	N-24°-W	5.30	-	-	28.1	-	-	-	-	無	0	○	○	-		
18	Ab	1967SI	後期	3期	N-32°-W	7.05	6.15	0.87	43.4	3.80	3.65	0.96	長方形	無	3(4)	○	○	-		
19	Ab	1952SI	前半	9期	N-12°-W	4.75	-	-	22.6	-	-	-	-	部	0	○	○	-	有	
20	Ab	1953SI	後期	2期	N-12°-W	2.85	-	-	8.1	-	-	-	-	無	0		-	-		
21	Ab	1954SI	終末	4期	N-12°-W	4.20	-	-	17.6	-	-	-	-	無	0		○	-	辺	
22	Ab	2129SI	初頭	6期	N-12°-W	2.85	-	-	8.1	-	-	-	-	(部)	0		-	-		
23	Ac	1454SI	初頭	8期	N-41°-E	4.95	4.85	0.98	24.0	-	-	-	方形	全	0		◎	E		
24	Ac	1444SI	前半	9期	N-20°-W	5.40	-	-	29.2	-	-	-	-	無	0		-	SW		
25	Ac	1455SI	終末	4期	N-41°-W	7.55	6.70	0.89	50.6	4.50	4.05	0.90	長方形	全	4	○	○	E	有	
26	Ac	1937SI	終末	5期	N-5.5°-W	3.00	-	-	9.0	-	-	-	-	(無)	0		-	-		
27	Ac	1456SI	初頭	8期	N-18.5°-W	5.50	-	-	30.3	-	-	-	-	半	0	○	○	SE	斜	
28	Ac	1490SI	初頭	6期	N-21.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	半	0		○	-		
29	Ac	1489SI	不明	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
30	Ad	1295SI	前半	9期	N-32.5°-W	3.10	3.10	1.00	9.6	-	-	-	方形	部	0	○	×	-		
31	Ad	1464SI	初頭	6期	N-33.5°-W	8.10	6.90	0.85	55.9	4.55	3.95	0.87	長方形	半	3(4)	○	◎	E	有	
32	Ad	1410SI	(初頭)	(7・8期)	N-34.5°-W	5.35	5.05	0.94	27.0	3.00	2.90	0.97	方形	半	3(4)	○	○	S	辺	
33	Ad	1495SI	(終末)	(4・5期)	N-38.5°-W	2.10	1.60	0.76	3.4	-	-	-	長方形	半	0		-	E		
34	Ad	1411SI	前半	10期	N-33.5°-W	5.00	4.80	0.96	24.0	2.30	2.10	0.91	方形	半	4	○	○	-		
35	Ad	1329SI	初頭	7期	N-29.5°-W	5.55	4.05	0.73	22.5	1.85	1.85	1.00	長方形	部	3(4)	○	◎	S		
36	Ad	1175SI	(前半)	(10・11期)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	○	-		粘土
37	Ad	1330SI	初頭	6期	N-41.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0	○	◎	-		周堤帯
38	Ad	1277SI	初頭	8期	N-30°-W	6.25	5.95	0.95	37.2	2.80	-	-	方形	全	2(4)	○	-	S	L	
39	Ad	1332SI	(終末・初頭)	(5・6期)	N-26.5°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-	有	
40	Ad	1402SI	(初頭・前半)		N-26.5°-W	2.65	2.45	0.92	6.5	-	-	-	方形	半	0		○	S		周堤帯
41	Ad	1403SI	終末	4期	N-15.5°-W	4.20	3.95	0.94	16.6	-	-	-	方形	部	0		○	SW	全	
42	Ae	1250SI	前半	9期	N-16.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		○	-	有	
43	Ae	1270SI上	初頭	7期	N-18°-W	3.15	2.95	0.94	9.3	-	-	-	方形	無	0		○	SE		
44	Ae	1270SI下	初頭	6期	N-18°-W	3.15	2.65	0.84	8.3	-	-	-	長方形	半	0		○	SE		
45	Ae	1220SI	後期	3期	N-14°-W	4.80	4.65	0.97	22.3	-	-	-	方形	無	0		○	SE		
46	Ae	1357SI	(後期)	(1期)	N-33.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
47	Ae	1200SI上	終末	4期	N-4°-W	4.55	-	-	20.7	-	-	-	-	無	0	○	○	-		
48	Ae	1200SI下	後期	3期	N-4°-W	4.55	-	-	20.7	-	-	-	-	無	0	○	◎	-		
49	Ae	1275SI	(後期)	(1期)	N-22.5°-W	3.60	2.65	0.74	9.5	-	-	-	長方形	半	0		○	-		
50	Ae	1240SI	終末	5期	N-6°-W	4.85	4.35	0.90	21.1	3.75	3.45	0.92	長方形	無	3(4)		○	-		
51	Ae	1225SI	(初頭)	(6・7期)	N-31.5°-W	3.40	-	-	11.6	-	-	-	-	無	0		○	-	有	
52	Ae	1224SI	初頭	8期	N-18°-W	4.05	4.00	0.99	16.2	2.20	2.00	0.91	方形	部	4		○	-		
53	Ae	1181SI	後期	2期	N-3°-W	6.20	5.00	0.81	31.0	-	-	-	長方形	無	0	○	◎	-	辺	
54	Ae	1167SI	(初頭・前半)	(8・9期)	N-17°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	全	0	○	○	-	有	
55	Ae	1178SI	(初頭)	(6・7期)	N-37.5°-W	5.20	-	-	27.0	3.05	-	-	-	部	2(4)		○	-	全	
56	Ba	1896SI	前半	9期	N-45°-W	4.55	-	-	20.7	-	-	-	-	無	0	○	○	S		
57	Ba	1930SI	初頭	8期	N-45°-W	3.75	-	-	14.1	-	-	-	-	無	0	○	○	E	コ	
58	Ba	1931SI	初頭	8期	N-6.5°-E	5.75	5.05	0.88	29.0	-	-	-	長方形	無	0		×	-		
59	Ba	1908SI	(終末)	(4・5期)	N-39.5°-E	4.45	4.00	0.90	17.8	2.65	-	-	長方形	無	2(4)		×	S	L	
60	Bb	1891SI	不明	不明	N-7.5°-W	3.75	-	-	14.1	-	-	-	-	無	0		○	-		
61	Bb	1895SI	初頭	6期	N-45°-W	4.20	4.00	0.95	16.8	2.35	2.20	0.94	方形	部	2(4)	○	○	S		
62	Bb	1906SI	初頭	8期	N-45°-W	3.35	3.30	0.99	11.1	-	-	-	方形	無	0		○	S		
63	Bb	1907SI	(終末)	(4・5期)	N-32.5°-E	2.90	2.50	0.86	7.3	-	-	-	長方形	無	0		○	S		
64	Bb	1922SI	前半	9期	N-9.5°-E	3.30	3.05	0.92	10.1	-	-	-	方形	半	0		-	-		
65	Bb	1917SI	初頭	7期	N-6.5°-W	4.80	4.65	0.97	22.3	-	-	-	方形	半	0		○	-	コ	
66	Bc	3218SI	初頭	6期	N-7°-W	4.90	3.70	0.76	18.1	2.50	2.25	0.90	長方形	半	3(4)	○	(×)	SW		
67	Bc	3220SI	終末	4期	N-0°	2.55	2.40	0.94	6.1	-	-	-	方形	無	0	○	○	-		
68	Bc	1859SI	(初頭)	(7・8期)	N-19°-W	2.95	2.20	0.75	6.5	-	-	-	長方形	無	0		-	-		

第５表　竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）　２

	群	遺構番号	時期		方位	規模				柱間			平面形	周壁溝	主柱穴	貼床	炉	貯蔵穴の配置	掘方	その他
			大別時期	細別時期		長軸(m)	短軸(m)	長短比	面積(㎡)	長軸(m)	短軸(m)	長短比								
69	Bc	3219SI	終末	５期	N-29.5°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		-	-		
70	Bc	1860SI	（前半）	（９・10期）	N-40°-W	3.90	3.20	0.82	12.5	2.15	-	-	長方形	無	2(4)	○	○	-		
71	Bc	1861SI上	終末	５期	N-32°-W	5.25	4.70	0.90	24.7	3.05	2.85	0.93	長方形	半	4	○	○	S	全	
72	Bc	1861SI下	終末	４期	N-32°-W	5.25	4.70	0.90	24.7	3.05	2.85	0.93	長方形	半	4	○	○	S	全	
73	Bc	1862SI	初頭	８期	N-31.5°-W	3.45	3.20	0.93	11.0	-	-	-	方形	無	0		○	-	斜	
74	Bc	1875SI	初頭	６期	N-37.5°-E	3.70	3.60	0.97	13.3	-	-	-	方形	無	0		×	-		
75	Bc	2128SI	不明	不明	N-35.5°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
76	Bd	1852SI	初頭	８期	N-26.5°-E	3.65	-	-	13.3	-	-	-	-	無	0		-	-	全	
77	Bd	3809SI	初頭	６期	N-10.5°-E	3.65	-	-	13.3	-	-	-	-	無	0		-	SE		
78	Bd	3810SI	終末	５期	N-11.5°-W	3.05	-	-	9.3	-	-	-	-	無	0		-	-		
79	Ca	1938SI	後期	３期	N-19°-W	5.55	-	-	30.8	-	-	-	-	部	0		○	NE・SE・SW		
80	Ca	1929SI	終末	５期	N-17°-W	3.45	3.25	0.94	11.2	-	-	-	方形	部	0	○	○	-	ロ	
81	Ca	1474SI	終末	５期	N-9.5°-W	3.80	3.55	0.93	13.5	-	-	-	方形	無	0		○	SE		
82	Ca	1276SI	初頭	７期	N-5.5°-W	7.50	-	-	56.3	-	-	-	-	部	0		○	-	全	
83	Ca	1338SI	前半	９期	N-13.5°-W	3.05	-	-	9.3	-	-	-	-	無	0		○	SE	有	
84	Cb	1349SI	（初頭）	（８期）	N-17.5°-W	3.75	-	-	14.1	-	-	-	-	部	0		◎	SE	有	周堤帯
85	Cb	1378SI	（初頭）	（６期）	N-17.5°-W	4.70	-	-	22.1	2.75	-	-	-	無	2(4)		-	NE・SE	辺	
86	Cb	1253SI	終末	４期	N-27.5°-W	6.80	6.15	0.90	41.8	3.70	3.40	0.92	方形	全	4	○	-	W		
87	Cb	1348SI	前半	10期	N-12°-W	4.05	-	-	16.4	-	-	-	-	無	0		○	(SW)	全	粘土
88	Cb	1231SI	後期	２期	N-21.5°-W	5.15	4.95	0.96	25.5	3.00	2.80	0.93	方形	無	3(4)		-	-	有	
89	Cb	1226SI	前半	９期	N-31°-W	4.85	4.85	1.00	23.5	2.40	-	-	方形	部	2(4)		○	-	全	粘土
90	Cb	1223SI	終末	５期	N-41°-E	5.90	5.05	0.86	29.8	2.85	2.70	0.95	長方形	部	4		○	E		
91	Cb	1271SI	初頭	７期	N-31°-W	4.70	4.60	0.98	21.6	2.85	2.45	0.86	方形	半	4	○	○	E		
92	Cb	1254SI	（後期・終末）	（３・４期）	N-20°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	半	0		○	-	全	
93	Cb	1176SI	前半	10期	N-33°-W	5.50	-	-	30.3	-	-	-	-	部	0		○	-		
94	Cb	1138SI	後期	１期	N-19°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	半	0		-	-		
95	Cb	1180SI	前半	９期	N-34.5°-W	5.85	5.30	0.91	31.0	3.40	3.25	0.96	方形	半	3(4)		◎	E		粘土
96	Cb	1217SI	（後期～初頭）		N-45°-W	-	-	-	-	2.85	2.65	0.93	方形	無	3(4)		○	-		
97	Cc	1918SI	前半	10期	N-9°-W	4.00	3.80	0.95	15.2	2.30	2.15	0.93	方形	無	4		○	SW		
98	Cc	1894SI	初頭	８期	N-3.5°-W	5.00	-	-	25.0	-	-	-	-	部	0		○	-	有	
99	Cc	1897SI	（初頭）	（６期）	N-3.5°-W	3.55	-	-	12.6	-	-	-	-	無	0		-	-		
100	Cc	1197SI	前半	９期	N-12.5°-W	7.20	6.35	0.88	45.7	-	-	-	長方形	無	0		○	-	L	
101	Cc	1218SI	（終末）	（５期）	N-19°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		○	SE		
102	Cd	1199SI	（終末・初頭）		N-35.5°-W	3.00	-	-	9.0	-	-	-	-	(無)	0		-	N		
103	Cd	1157SI	前半	10・11期	N-27°-W	5.70	-	-	32.5	-	-	-	-	無	0		○	-		
104	Cd	1252SI	（終末・初頭）		N-27°-W	3.70	3.30	0.89	12.2	-	-	-	長方形	無	0		○	-		
105	Cd	1251SI	後期	３期	N-34°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		○	-		
106	Cd	1732SI	前半	９期	N-29.5°-W	3.70	3.50	0.95	13.0	-	-	-	方形	無	0		○	-		
107	Cd	1331SI	前半	10期	N-29.5°-W	3.25	3.15	0.97	10.2	-	-	-	方形	無	0		○	-		
108	Cd	1196SI	初頭	６期	N-25.5°-W	5.35	5.30	0.99	28.4	-	-	-	方形	半	0		○	-	コ	
109	Cd	1152SI	初頭	７期	N-25.5°-W	5.35	5.30	0.99	28.4	-	-	-	方形	無	0		○	-	コ	
110	Cd	1160SI	（後期・終末）		N-19.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		○	-		
111	Ce	3026SI上	（後期・終末）		N-21°-W	5.80	-	-	33.6	-	-	-	-	半	0	○	○	-		
112	Ce	3026SI下	（後期・終末）		N-21°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	半	0	○	○	-		
113	Ce	3006SI	初頭	８期	N-1°-E	4.70	4.55	0.97	21.4	2.80	2.70	0.96	方形	無	3(4)		○	-	有	
114	Ce	3007SI	（初頭）	（６期）	N-21°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	全	0	○	○	-		
115	Ce	3082SI	（前半）	（９・10期）	N-5.5°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0		-	-		
116	Da	1873SI	（初頭）		N-13°-W	3.75	3.00	0.80	11.3	-	-	-	長方形	無	0		○	SW		
117	Da	1140SI	終末	４期	N-20.5°-W	5.35	5.20	0.97	27.8	-	-	-	方形	半	0		○	-	有	
118	Da	1139SI	後期	２期	N-18°-E	4.95	4.60	0.93	22.8	2.90	2.55	0.88	方形	全	3(4)		◎	-	L	
119	Da	3034SI	初頭	８期	N-23.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		○	-	有	
120	Da	3042SI	初頭	６期	N-24.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
121	Da	3003SI	前半	10期	N-10.5°-W	5.75	5.50	0.96	31.6	3.10	2.95	0.95	方形	無	4	○	○	-		
122	Da	1872SI	前半	９期	N-22°-W	4.90	4.75	0.97	23.3	-	-	-	方形	半	0		○	-	有	
123	Da	4343SI	（初頭）	（６・７期）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
124	Da	3028SI	（終末）	（４・５期）	N-18.5°-W	4.00	-	-	16.0	-	-	-	-	部	0		-	-		
125	Da	3002SI	前半	９期	N-36°-W	4.35	4.20	0.97	18.3	2.40	2.15	0.90	方形	半	4	○	○	S		粘土
126	Da	3027SI	（初頭）	（６・７期）	N-18.5°-W	4.85	4.15	0.86	20.1	2.75	2.25	0.82	長方形	半	3(4)		◎	SW	斜	
127	Da	3127SI	（後期）		-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-	有	
128	Db	4414SI	後期	３期	N-1.5°-W	4.30	-	-	18.5	-	-	-	-	無	0		○	NE		
129	Db	4460SI	終末	４期	N-25.5°-W	3.35	-	-	11.2	-	-	-	-	半	0		-	-		
130	Db	1863SI	後期	２期	N-24.5°-W	4.40	4.40	1.00	19.4	-	-	-	方形	半	0	○	○	-		
131	Db	4459SI	初頭	６期	N-38.5°-W	2.80	2.50	0.89	7.0	-	-	-	長方形	部	0		○	-		
132	Db	4502SI	初頭	８期	N-18.5°-W	5.20	5.10	0.98	26.5	-	-	-	方形	部	0		○	-		
133	Db	4790SI	（初頭）	（６・７期）	N-45°-W	2.25	2.00	0.89	4.5	-	-	-	長方形	無	0		○	E		
134	Db	4401SI	（後期）		-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		○	-		
135	Db	4413SI	（初頭）	（７期）	N-36.5°-W	3.05	2.75	0.90	8.4	-	-	-	方形	部	0		○	-	ロ	
136	Db	4360SI	（終末）	（５期）	N-21.5°-W	4.30	4.15	0.97	17.8	-	-	-	方形	半	0		○	-	有	

第６表　竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）　３

	群	遺構番号	時期		方位	規模				柱間			平面形	周壁溝	主柱穴	貼床	炉	貯蔵穴の配置	掘方	その他
			大別時期	細別時期		長軸 (m)	短軸 (m)	長短比	面積 (㎡)	長軸 (m)	短軸 (m)	長短比								
137	Db	4412SI	(後期)	(３期)	N-21.5°-W	4.95	4.40	0.89	21.8	-	-	-	長方形	半	0		-	-		
138	Db	4357SI	(後期)	(１期)	N-12.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0		○	-	有	
139	Db	4362SI	前半	10期	N-25.5°-W	6.00	5.95	0.99	35.7	-	-	-	方形	半	0		○	W	有	
140	Db	4359SI	(後期・終末)		N-18.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		-	-		
141	Db	3055SI	初頭	７期	N-25.5°-W	5.70	-	-	32.5	-	-	-	-	半	0		○	-		
142	Db	3128SI	前半	11期	N-18.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	○	-		
143	Db	3556SI	(初頭)		N-7°-W	2.60	2.35	0.90	6.1	-	-	-	方形	半	0		○	NW・SW	有	
144	Db	3029SI	初頭	８期	N-36°-W	5.30	5.25	0.99	27.8	-	-	-	方形	無	0		(◎)	S	L	
145	Db	3004SI	終末	５期	N-20°-W	4.95	4.80	0.97	23.8	2.80	2.55	0.91	方形	全	4	○	○	SE・SW	有	
146	Db	3025SI	前半	９期	N-20°-W	6.40	6.10	0.95	39.0	3.90	3.75	0.96	方形	全	3(4)	○	○	-		
147	Dc	3036SI	(前半)	(９・10期)	N-43.5°-W	4.05	3.40	0.84	13.8	-	-	-	長方形	無	0	○	○	-		
148	Dc	3037SI	終末	５期	N-23°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		○	-	方	
149	Dc	5167SI	(後期)	(１期)	N-22°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	(部)	0		-	-		
150	Dc	3056SI	後期	２期	N-11.5°-W	4.05	-	-	16.4	2.90	-	-	-	部	2(4)	○	○	-		
151	Dc	3035SI	終末	４期	N-18.5°-W	3.85	3.05	0.79	11.7	2.25	2.10	0.93	長方形	部	4		○	-		
152	Dc	3005SI	初頭	８期	N-23°-W	4.35	4.10	0.94	17.8	2.50	2.10	0.84	方形	無	3(4)		○	-	ロ	
153	Dc	3032SI	(後期)	(１期)	N-36°-W	4.30	3.90	0.91	16.8	2.55	1.80	0.71	方形	(部)	3(4)		-	-		
154	Dc	3076SI	初頭	７期	N-44.5°-W	4.15	3.45	0.83	14.3	-	-	-	長方形	部	0		-	-		
155	Dc	3079SI	前半	９期	N-13.5°-W	5.10	4.70	0.92	24.0	2.80	2.50	0.89	方形	全	3(4)	○	○	SW	有	
156	Dc	3075SI	終末	５期	N-9.5°-E	4.00	3.05	0.76	12.2	2.40	1.65	0.69	長方形	全	4		○	-	有	
157	Dd	4340SI	(初頭)		N-16.5°-W	3.95	3.25	0.82	12.8	-	-	-	長方形	無	0		×	-		
158	Dd	4341SI	(初頭)	(７期)	N-11.5°-W	3.05	2.35	0.77	7.2	-	-	-	長方形	無	0		○	SW	有	
159	Dd	4337SI	終末	５期	N-14.5°-W	6.10	6.10	1.00	37.2	3.50	3.50	1.00	方形	部	4		○	SE	辺	
160	Dd	4338SI	前半	９期	N-9°-W	4.20	3.95	0.94	16.6	-	-	-	方形	無	0		○	-		
161	Dd	4342SI	前半	９期	N-14°-W	4.80	4.70	0.98	22.6	2.50	2.20	0.88	方形	全	4		○	SE	ロ	
162	Dd	4336SI	初頭	７期	N-14°-W	6.45	6.40	0.99	41.3	3.80	3.40	0.89	方形	半	4		○	SW		
163	De	3797SI	前半	９期	N-2°-W	3.40	3.10	0.91	10.5	-	-	-	方形	無	0	○	○	SE	方	
164	De	3798SI	(終末)	(４・５期)	N-6.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	全	0		○	SW		
165	De	4770SI	(終末・初頭)	(５・６期)	N-14°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		○	-	有	
166	De	3832SI	後期	３期	N-13.5°-E	4.50	4.00	0.89	18.0	2.45	2.20	0.90	長方形	全	4		(×)	-		
167	De	3830SI	初頭	８期	N-2°-E	5.50	5.00	0.91	27.5	-	-	-	方形	半	0	○	○	-	L	
168	De	3831SI	(後期・終末)		N-6°-W	3.65	-	-	13.3	-	-	-	-	(無)	0		-	-	有	
169	De	3931SI	前半	10期	N-33.5°-E	3.80	3.55	0.93	13.5	-	-	-	方形	全	0	○	○	-		
170	De	3932SI	初頭	６期	N-13°-W	4.25	4.10	0.96	17.4	-	-	-	方形	全	0	○	○	SW	L	
171	De	4021SI	終末	４期	N-8.5°-W	3.40	-	-	11.6	-	-	-	-	半	0		-	SW	有	
172	Df	3057SI	後期	３期	N-8°-E	9.05	7.80	0.86	70.6	5.15	4.15	0.81	長方形	全	4		○	-		
173	Df	3261SI	後期	２期	N-8°-E	9.05	7.80	0.86	70.6	5.15	4.15	0.81	長方形	全	4	○	○	-		
174	Df	3308SI	後期	１期	N-8°-E	6.20	5.10	0.82	31.6	3.45	2.75	0.80	長方形	全	4	○	(◎)	-		
175	Df	3216SI	前半	９期	N-5.5°-W	3.65	3.45	0.95	12.6	2.00	1.95	0.98	方形	無	4	○	(◎)	-	有	周堤帯
176	Df	3217SI	初頭	７期	N-9.5°-W	2.65	-	-	7.0	-	-	-	-	半	0		○	-	有	
177	Df	3281SI	終末	５期	N-9.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0	○	-	-		
178	Df	3282SI	初頭	６期	N-9.5°-W	4.15	-	-	17.2	-	-	-	-	全	0	○	-	-		
179	Df	3215SI	初頭	８期	N-10°-W	4.45	4.15	0.93	18.5	2.90	2.50	0.86	方形	半	4	○	○	SW	有	
180	Df	3185SI	(後期・終末)	(３・４期)	N-25.5°-W	3.30	3.05	0.92	10.1	-	-	-	方形	半	0		○	-	有	
181	Df	3205SI	初頭	７期	N-40.5°-W	4.50	4.35	0.97	19.6	2.35	2.10	0.89	方形	半	3(4)	○	○	E		
182	Df	3206SI	前半	10期	N-34.5°-W	4.20	3.90	0.93	16.4	2.10	1.95	0.93	方形	半	3(4)		○	S	L	
183	Dg	3117SI	(初頭)	(６・７期)	N-31°-E	4.10	-	-	16.8	-	-	-	-	半	0		○	-	L	
184	Dg	3121SI	前半	９期	N-45°-E	6.40	5.70	0.89	36.5	2.90	2.60	0.90	長方形	半	3(4)		○	-	L	粘土
185	Dg	3099SI	後期	３期	N-14.5°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	(全)	1(4)	○	-	-	有	粘土
186	Dg	3098SI	不明	不明	N-32.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	-		-	-		
187	Ea	3811SI	(後期)	(３期)	N-15°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		-	-		
188	Ea	3306SI	初頭	６期	N-11.5°-W	5.80	5.10	0.88	29.6	2.70	2.55	0.94	長方形	無	4	○	○	SW		
189	Ea	3897SI	終末	５期	N-11.5°-W	5.15	5.10	0.99	26.3	2.70	2.55	0.94	方形	全	4	○	○	SW		
190	Ea	3814SI	(後期)	(１・２期)	N-25°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
191	Ea	3404SI	初頭	７期	N-12.5°-W	5.00	4.65	0.93	23.3	2.80	2.65	0.95	方形	部	4	○	○	SW	L	
192	Ea	3669SI	初頭	８期	N-24.5°-W	4.10	3.60	0.88	14.8	-	-	-	長方形	無	0		○	-	方	
193	Eb	3375SI	終末	５期	N-4°-W	5.50	5.30	0.96	29.2	3.15	3.05	0.97	方形	半	3(4)	○	◎	-	L	
194	Eb	3376SI	後期	３期	N-35°-W	4.10	3.85	0.94	15.8	2.30	2.05	0.89	方形	全	4	○	○	S	ロ	
195	Eb	3711SI	(初頭)	(８期)	N-40°-W	4.25	4.05	0.95	17.2	2.55	2.10	0.82	方形	無	4		○	-	ロ	
196	Eb	3710SI	(終末・初頭)	(４・６期)	N-5°-W	4.30	4.25	0.99	18.3	2.70	2.65	0.98	方形	半	4	○	○	-		
197	Ec	3908SI	前半	10期	N-34°-W	3.35	2.75	0.82	9.2	-	-	-	長方形	無	0	○	○	-		
198	Ec	3898SI	(後期)	(１・２期)	N-21.5°-W	4.60	4.25	0.92	19.6	2.60	2.15	0.83	方形	無	4		(◎)	SE		
199	Ec	3907SI	(終末・初頭)		N-29.5°-W	3.15	2.75	0.87	8.7	1.65	-	-	長方形	無	2(4)		×	S	有	
200	Ec	3906SI	(前半)	(９・10期)	N-40.5°-W	5.25	5.15	0.98	27.0	2.85	2.75	0.96	方形	半	4		○	E	コ	
201	Ec	3946SI	(後期)	(２期)	N-30°-W	4.35	3.85	0.89	16.7	2.75	2.20	0.80	長方形	(無)	4		-	-		
202	Ec	3933SI	終末	５期	N-32.5°-W	4.95	4.50	0.91	22.3	2.85	2.55	0.89	方形	全	4		○	S	辺	
203	Ec	3948SI	(初頭)	(７・８期)	N-33°-W	3.70	-	-	13.7	-	-	-	-	無	0		○	-	有	
204	Ec	3909SI	前半	10期	N-34°-W	4.00	3.95	0.99	15.8	2.25	2.10	0.93	方形	全	4	○	○	S		

第７表　竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）　４

	群	遺構番号	時期		方位	規模				柱間			平面形	周壁溝	主柱穴	貼床	炉	貯蔵穴の配置	掘方	その他
			大別時期	細別時期		長軸 (m)	短軸 (m)	長短比	面積 (㎡)	長軸 (m)	短軸 (m)	長短比								
205	Ec	3949SI	(後期)		N-29.5°-E	4.00	3.90	0.98	15.6	2.00	1.80	0.90	方形	無	4		○	-		
206	Ec	3947SI	(初頭)		N-31.5°-W	2.15	2.15	1.00	4.6	-	-	-	方形	無	0		×	-		
207	Ec	4173SI	(初頭)	(６期)	N-42.5°-W	5.55	4.95	0.89	27.5	3.25	3.15	0.97	長方形	部	4		○	S		
208	Ec	4174SI	(終末)	(５期)	N-42.5°-W	4.00	3.45	0.86	13.8	-	-	-	長方形	無	0		○	-	方	
209	Ec	3766SI	終末	４期	N-0.5°-E	4.00	3.50	0.88	14.0	2.40	1.55	0.65	長方形	(無)	4		-	SW		
210	Ec	3743SI	初頭	８期	N-33.5°-W	5.60	5.55	0.99	31.1	2.75	2.55	0.93	方形	全	4		○	-	ロ	
211	Ec	3884SI	(後期)	(１・２期)	N-37°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		-	-		
212	Ec	3741SI	前半	９期	N-39.5°-E	5.00	-	-	25.0	-	-	-	-	無	0		○	E	有	
213	Ec	3742SI	初頭	６期	N-20°-W	6.15	5.85	0.95	36.0	3.40	3.20	0.94	方形	全	4	○	◎	SE・SW		粘土
214	Ec	4121SI	(後期・終末)		N-42°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		-	-		
215	Ec	3651SI	前半	10期	N-39°-E	4.10	3.15	0.77	12.9	-	-	-	長方形	全	0		(◎)	-		
216	Fa	3211SI	終末	４期	N-5.5°-W	4.70	4.60	0.98	21.6	2.95	2.80	0.95	方形	半	4		○	SE	有	
217	Fa	4193SI	初頭	７期	N-5.5°-W	6.60	6.20	0.94	40.9	3.70	3.65	0.99	方形	半	4		○	-		
218	Fa	4311SI	初頭	６期	N-5.5°-W	6.60	6.20	0.94	40.9	3.70	3.65	0.99	方形	半	4		-	-	L	
219	Fa	4309SI	(後期)	(１・２期)	N-45°-E	5.90	5.60	0.95	33.0	3.05	2.85	0.93	方形	半	4		○	-	コ	
220	Fa	3188SI	初頭	８期	N-3.5°-E	3.75	3.10	0.83	11.6	-	-	-	長方形	全	0	○	◎	-		
221	Fa	3186SI	後期	１期	N-18.5°-E	3.40	2.90	0.85	9.9	-	-	-	長方形	無	0	○	×	-	有	
222	Fa	4310SI	前半	９期	N-17°-E	5.25	4.90	0.93	25.7	3.00	2.80	0.93	方形	無	4		○	-		
223	Fa	3190SI	前半	10期	N-40°-E	4.20	3.95	0.94	16.6	2.30	2.15	0.93	方形	全	4		○	-		
224	Fa	3150SI	(終末)	(４・５期)	N-37.5°-E	7.55	7.25	0.96	54.7	4.45	4.15	0.93	方形	全	4		◎	S	コ	
225	Fb	3149SI	前半	９期	N-42.5°-E	9.10	8.85	0.97	80.5	5.00	4.90	0.98	方形	全	4		○	E	L	
226	Fb	3257SI	(後期・終末)		N-35°-W	5.80	-	-	33.6	-	-	-	-	(無)	0	○	-	-		
227	Fb	3327SI	(後期～初頭)		N-42°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0		-	-		
228	Fb	3781SI	(後期～初頭)		N-42°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	1(4)		-	-		
229	Fb	3303SI	初頭	６期	N-20.5°-W	5.00	4.80	0.96	24.0	2.45	2.40	0.98	方形	無	3(4)	○	○	-		
230	Fb	3148SI	終末	５期	N-4.5°-E	4.00	-	-	16.0	-	-	-	-	無	0		-	-		
231	Fb	3221SI	(初頭)	(７期)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
232	Fb	3097SI	後期	２期	N-15.5°-E	3.70	2.50	0.68	9.3	-	-	-	長方形	(無)	0		(◎)	-		
233	Fb	3316SI	不明	不明	N-37.5°-E	-	-	-		-	-	-	-	(全)	-	○	-	-		
234	Fc	3223SI	終末	４期	N-17°-W	5.05	4.65	0.92	23.5	2.85	2.40	0.84	方形	全	4		○	SE	L	
235	Fc	3304SI	初頭	６期	N-43°-W	5.40	4.90	0.91	26.5	3.40	3.00	0.88	方形	全	4		○	E	コ	
236	Fc	3283SI	初頭	８期	N-29.5°-E	4.20	3.55	0.85	14.9	2.05	1.70	0.83	長方形	半	4		○	-	有	
237	Fc	3824SI	(後期)	(１期)	N-35°-W	5.65	4.85	0.86	27.4	3.15	2.65	0.84	長方形	無	4		○	-		
238	Fc	3305SI	(前半)	(10期)	N-14°-W	4.25	4.20	0.99	17.9	1.50	1.35	0.90	方形	無	4		○	-		
239	Fc	3815SI	(前半)	(11期)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
240	Fc	3389SI	前半	９期	N-40.5°-W	5.05	4.85	0.96	24.5	2.85	2.25	0.79	方形	半	3(4)		○	-		
241	Fc	3388SI	初頭	７期	N-35°-W	7.50	7.25	0.97	54.4	4.55	4.10	0.90	方形	全	4		○	-		
242	Fc	3623SI	初頭	６期	N-35°-W	6.85	6.45	0.94	44.2	4.20	3.75	0.89	方形	全	4	○	○	-		
243	Fc	3481SI	(終末)	(４・５期)	N-15°-E	4.00	3.95	0.99	15.8	-	-	-	方形	無	0	○	○	-		
244	Fc	3422SI	(初頭・前半)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
245	Fc	3147SI	後期	３期	N-23°-E	5.70	5.35	0.94	30.5	2.90	2.90	1.00	方形	半	4		○	E		
246	Fd	3145SI	初頭	８期	N-41.5°-W	8.15	8.10	0.99	66.0	4.90	4.80	0.98	方形	全	4		○	S・N	ロ	
247	Fd	3274SI	(終末)	(４・５期)	N-2.5°-E	6.50	6.10	0.94	39.7	3.70	3.50	0.95	方形	全	4		-	SW	有	
248	Fd	3146SI	前半	10期	N-21.5°-W	4.80	4.55	0.95	21.8	2.20	2.10	0.95	方形	全	4		×	NE	有	
249	Fd	3747SI	後期	３期	N-27.5°-W	5.00	4.80	0.96	24.0	3.20	2.70	0.84	方形	半	4		-	-		
250	Fd	3273SI	初頭	６期	N-44°-W	5.30	-	-	28.1	-	-	-	-	(無)	0	○	(◎)	E		
251	Fd	3275SI	(前半)	(９・10期)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
252	Fd	3321SI	(終末)	(４・５期)	N-11°-W	4.50	4.15	0.92	18.7	-	-	-	方形	(半)	0	○	○	SW		周堤帯
253	Ga	3606SI	終末	５期	N-32°-E	3.00	2.55	0.85	7.7	-	-	-	長方形	半	0		○	-	全	
254	Ga	3605SI	前半	10期	N-27.5°-W	3.80	3.75	0.99	14.3	2.60	2.55	0.98	方形	半	3(4)		○	-	有	
255	Ga	3620SI	(前半)	(９・10期)	N-11°-E	4.35	-	-	18.9	-	-	-	-	全	0	○	○	-		
256	Ga	3607SI	初頭	８期	N-43.5°-E	4.35	4.15	0.95	18.1	2.45	2.45	1.00	方形	全	4	○	○	-	ロ	
257	Ga	3608SI	(前半)	(９・10期)	N-8.5°-E	3.55	3.10	0.87	11.0	-	-	-	長方形	無	0		○	SE		
258	Ga	3609SI	初頭	６期	N-35.5°-E	4.75	4.70	0.99	22.3	2.85	2.70	0.95	方形	部	4		○	S	有	周堤帯
259	Ga	3728SI	終末	４期	N-24.5°-W	3.95	3.70	0.94	14.6	1.95	1.80	0.92	方形	無	4		-	S		
260	Ga	3624SI	(終末・初頭)		N-31.5°-E	3.65	-	-	13.3	-	-	-	-	(半)	0	○	-	-		
261	Ga	3668SI	(終末・初頭)		N-31.5°-E	3.25	-	-	10.6	-	-	-	-	(無)	0	○	○	-		
262	Gb	3409SI	終末	５期	N-36°-W	6.35	5.80	0.91	36.8	4.05	3.50	0.86	方形	部	4		○	S	全	
263	Gb	3406SI	後期	３期	N-17°-E	5.00	-	-	25.0	-	-	-	-	全	0		-	-		
264	Gb	3704SI	(初頭)	(７期)	N-28°-W	2.75	2.75	1.00	7.6	-	-	-	方形	無	0		○	-		
265	Gb	3405SI	(初頭)	(８期)	N-13°-W	2.75	2.70	0.98	7.4	-	-	-	方形	無	0		(◎)	-		
266	Gb	3408SI	(初頭)	(７期)	N-22°-W	4.50	3.65	0.81	16.4	-	-	-	長方形	無	0	○	○	-	有	
267	Gb	3407SI	前半	10期	N-26°-W	7.25	7.15	0.99	51.8	4.25	3.85	0.91	方形	半	3(4)		○	-		
268	Gc	3621SI	後期	２期	N-28.5°-W	5.30	-	-	28.1	-	-	-	-	全	0	○	○	S	辺	周堤帯
269	Gc	5785SI	終末	４期	N-38°-W	5.30	5.20	0.98	27.6	-	-	-	方形	全	0	○	○	S		粘土
270	Gc	6054SI	初頭	６期	N-44°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	半	0		(◎)	-		
271	Gc	3622SI	初頭	７期	N-44°-E	3.40	-	-	11.6	-	-	-	-	部	0	○	○	-		
272	Gc	5784SI	(前半)	(９・10期)	N-40°-E	4.10	4.05	0.99	16.6	-	-	-	方形	半	0	○	○	-		

第８表　竪穴建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）　５

	群	遺構番号	時期		方位	規模				柱間			平面形	周壁溝	主柱穴	貼床	炉	貯蔵穴の配置	掘方	その他
			大別時期	細別時期		長軸 (m)	短軸 (m)	長短比	面積 (㎡)	長軸 (m)	短軸 (m)	長短比								
273	Gc	5770SI	初頭	８期	N-30°-W	3.05	2.95	0.97	9.0	-	-	-	方形	無	0		○	E		
274	Ha	3380SI	(前半)	(９期)	N-39°-E	7.15	6.75	0.94	48.3	3.65	3.65	1.00	方形	(無)	4	○	○	S	L	
275	Ha	3791SI	(初頭)	(８期)	N-39°-E	7.15	6.45	0.90	46.1	3.65	3.65	1.00	方形	全	4	○	○	S		
276	Ha	5808SI	(後期・終末)		N-32°-W	3.20	3.15	0.98	10.1	-	-	-	方形	(無)	0		(×)	-	辺	周堤帯
277	Ha	3379SI	後期	３期	N-40°-E	3.60	-	-	13.0	-	-	-	-	無	0	○	×	-	全	
278	Ha	3323SI	(後期)	(１期)	N-36.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(全)	0	○	-	-		
279	Ha	6212SI	(後期)	(２期)	N-45°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		-	-		
280	Ha	4991SI	終末	５期	N-28°-W	6.50	6.40	0.98	41.6	3.85	3.55	0.92	方形	無	4	○	◎	-		
281	Ha	5653SI	初頭	７期	N-40°-E	3.60	-	-	13.0	-	-	-	-	全	0	○	○	-		
282	Ha	5637SI	前半	９期	N-40°-E	5.05	4.80	0.95	24.2	2.90	2.40	0.83	方形	全	4	○	○	S		
283	Ha	3378SI	前半	11期	N-29.5°-E	5.20	4.35	0.84	22.6	3.55	3.00	0.85	長方形	無	4		○	-		
284	Ha	5634SI	初頭	７期	N-37°-W	7.00	6.40	0.91	44.8	3.80	3.70	0.97	方形	全	4	○	○	S	L	
285	Ha	5635SI	(終末)	(４・５期)	N-1.5°-W	5.90	5.10	0.86	30.1	-	-	-	長方形	全	0	○	◎	SE・SW	辺	
286	Ha	5633SI	前半	10期	N-19.5°-W	4.45	4.30	0.97	19.1	-	-	-	方形	無	0	○	◎	SE	有	
287	Ha	3320SI	(後期・終末)		N-13.5°-W	5.20	4.80	0.92	25.0	3.10	2.40	0.77	方形	(半)	3(4)	○	-	SE		
288	Ha	3328SI	初頭	７期	N-44°-W	3.45	-	-	11.9	-	-	-	-	半	0	○	○	S		
289	Ha	3329SI	前半	11期	N-41°-W	2.95	2.60	0.88	7.7	-	-	-	長方形	全	0	○	◎	E		
290	Ha	3330SI	前半	９期	N-44°-W	4.70	4.55	0.97	21.4	2.55	2.45	0.96	方形	無	4	○	○	-	有	
291	Hb	5649SI	初頭	６期	N-36.5°-E	5.40	5.20	0.96	28.1	2.50	2.45	0.98	方形	半	4	○	○	-	辺	
292	Hb	5651SI	(後期・終末)		N-36°-W	5.00	4.05	0.81	20.3	2.75	2.6	0.95	長方形	無	3(4)		-	-		
293	Hb	5652SI	初頭	７期	N-36°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		(◎)	E	有	
294	Hb	5705SI	(後期・終末)		N-42.5°-E	4.55	4.30	0.95	19.6	2.20	2.05	0.93	方形	全	4	○	○	E		粘土
295	Hb	5700SI	前半	９期	N-40.5°-W	4.25	4.10	0.96	17.4	-	-	-	方形	無	0		×	-		
296	Hb	5703SI	初頭	８期	N-40.5°-W	4.10	3.65	0.89	15.0	-	-	-	長方形	無	0		○	-		
297	Hb	5704SI	終末	５期	N-21°-W	4.80	-	-	23.0	-	-	-	-	全	0		○	SE	有	
298	Hb	5706SI	(後期・終末)		N-35°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	無	0		-	-		
299	Hb	5702SI	前半	10・11期	N-40.5°-W	4.20	3.10	0.74	13.0	-	-	-	長方形	無	0	○	×	-		
300	Hc	5547SI	前半	10期	N-33.5°-E	4.10	3.65	0.89	15.0	-	-	-	長方形	無	0	○	○	S		
301	Hc	5545SI	終末	５期	N-33.5°-W	6.20	6.15	0.99	38.1	3.10	-	-	方形	半	2(4)	○	(◎)	S	辺	粘土
302	Hc	5668SI	(終末)	(４期)	N-23.5°-W	4.10	4.00	0.98	16.4	2.55	2.35	0.92	方形	全	4	○	○	-		
303	Hc	5667SI	初頭	７期	N-29°-W	2.25	2.25	1.00	5.1	-	-	-	方形	半	0	○	○	S	有	
304	Hc	5556SI	(後期)	(１期)	N-45°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(半)	0	○	○	-		
305	Hc	5636SI	初頭	８期	N-45°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		-	-		
306	Hc	5548SI	前半	10期	N-26°-W	3.50	3.30	0.94	11.6	-	-	-	方形	無	0	○	○	-		
307	Hc	5546SI	(後期)	(２期)	N-45°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
308	Hc	5650SI	前半	９期	N-41.5°-W	3.70	3.40	0.92	12.6	-	-	-	方形	半	0		○	S	有	
309	Hc	6189SI	不明	不明	N-41°-W	-	-	-	-	2.65	-	-	-	(部)	2(4)		-	-		
310	Ia	5911SI	初頭	６期	N-29°-E	4.35	-	-	18.9	-	-	-	-	半	0	○	○	-	辺	
311	Ia	5935SI	初頭	８期	N-27°-W	5.05	4.55	0.90	23.0	2.50	2.15	0.86	方形	全	3(4)	○	◎	-	有	
312	Ia	5913SI	(前半)	(10期)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
313	Ia	5807SI	終末	４期	N-20°-E	3.40	3.40	1.00	11.6	-	-	-	方形	無	0		○	-	有	
314	Ib	5909SI	前半	９期	N-45°-E	3.95	3.25	0.82	12.8	-	-	-	長方形	半	0	○	○	S		
315	Ib	5910SI	初頭	７期	N-28°-E	5.20	4.95	0.95	25.7	-	-	-	方形	全	0	○	○	-		
316	Ib	6027SI	不明	不明	N-35.5°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	(全)	-		-	-	有	
317	Ic	5914SI	後期	３期	N-38°-W	3.20	-	-	10.2	-	-	-	-	半	0		○	-		
318	Ic	6038SI	(後期～初頭)		N-28°-E	3.30	-	-	10.9	-	-	-	-	(全)	0		○	E	有	
319	Ic	6040SI	前半	９期	N-40°-E	4.55	4.50	0.99	20.5	2.40	2.40	1.00	方形	部	3(4)	○	○	-	有	
320	Ic	6007SI	前半	10期	N-31°-W	3.10	-	-	9.6	-	-	-	-	無	0	○	○	-		
321	Ic	6041SI	(後期～初頭)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	(無)	0		○	-		
322	Ja	3535SI	(終末～前半)		N-7°-W	2.45	-	-	6.0	-	-	-	-	無	0		-	-	全	
323	Ja	3515SI	(前半)	(９・10期)	N-7°-W	4.05	-	-	16.4	-	-	-	-	全	0	○	-	-		
324	Ja	3666SI	不明	不明	N-8°-E	4.35	-	-	18.9	-	-	-	-	無	0		-	-		
325	Jb	3602SI	初頭	６期	N-7°-W	3.70	-	-	13.7	-	-	-	-	無	0		○	-		
326	Jb	3603SI	(初頭・前半)		N-9.5°-E	3.25	-	-	10.6	-	-	-	-	無	0		○	-		
327	Jc	5600SI	初頭	６期	N-24.5°-W	3.20	-	-	10.2	-	-	-	-	部	0	○	○	E		
328	Jc	5555SI	不明	不明	N-21.5°-W	2.65	-	-	7.0	-	-	-	-	無	0	○	○	-	斜	
329	Jc	5553SI	初頭	６期	N-36°-W	3.15	-	-	9.9	-	-	-	-	無	0		○	-		
330	Jc	5554SI	不明	不明	N-30°-W	3.55	-	-	12.6	-	-	-	-	無	0		○	-	斜	
331	Jd	5550SI	終末	４期	N-19°-W	4.30	-	-	18.5	-	-	-	-	無	0		○	-	有	
332	Jd	5500SI	初頭	６期	N-19°-W	4.10	-	-	16.8	-	-	-	-	無	0		○	-	辺	
333	Ka	0121SI	前半	９期	N-5.5°-E	4.25	3.85	0.91	16.4	-	-	-	方形	無	0		○	SE		
334	Kb	0016SI	後期	３期	N-42°-W	4.25	3.75	0.88	15.9	-	-	-	長方形	無	0		◎	S		
335	L	SI1	終末	４期	N-35.5°-E	4.00	3.90	0.98	15.6	-	-	-	方形	無	0		×	-		
336	L	SI2	不明	不明	N-1.5°-E	4.15	-	-	17.2	-	-	-	-	無	-		-	-		

（4）竪穴建物Ａ群

棟数と構成

西斜面下段の緩斜面に分布する総棟数 55 棟（実棟数 50 棟）の竪穴建物群で、北寄りの 10 棟から構成される Aa 群、中央北寄りの 12 棟（10 棟）から構成される Ab 群、中央の 7 棟（6 棟）から構成される Ac 群、中央南寄りの 12 棟（11 棟）から構成される Ad 群、南寄りの 14 棟（12 棟）から構成される Ae 群に細分する。Aa 群から Ad 群は小支谷 2000SX に堆積した黒色土上面が遺構検出面となる部分も多く、遺構検出は困難を極めた。そのため、遺構の形状には不確定な部分が多い（第 18 図）。

検出状況

【Aa 群】
2093SI→2034SI→2022SI
2023SI→2006SI→2021SI
1957SI→1958SI
1959SI→1958SI

【Ab 群】
1991SI→1992SI
（1995SI→1993SI→1992SI）
（1993SI→1994SI）
2077SI→1967SI（拡張）
1953SI→1952SI
（1953SI→1954SI）

【Ac 群】
1455SI→1444SI
1490SI→1456SI

【Ad 群】
1410SI・1464SI→1411SI
1329SI→1175SI
1403SI→1402SI

【Ae 群】
（1357SI→）1220SI→1270SI（→1250SI）
1275SI→1240SI→1225SI→1224SI
1200SI→1225SI
1200SI→1178SI

第18図　竪穴建物Ａ群の配置

Aa群2093SI・2034SI・2022SI（遺構図版34）

北西向きの緩斜面で検出した竪穴建物の一群であるが、調査時、地形の傾斜変化に対する認識が十分でなく、表土掘削時に2022SIの覆土を誤って掘削した。2034SIの地床炉が露出した時点で、表土掘削の掘削深度を浅くしたが、遺構の形状が大きく損なわれた。2034SIの貼床除去後、その下位に2093SIを確認し、調査区壁面においても2093SI → 2034SI → 2022SIの先後関係を確認した。2022SIの覆土に最終埋没を示す黒色土が流れ込むようにして厚く堆積していることからも、この先後関係は追認される。　検出状況・先後関係

2093SI床面直上出土の広口壷（101）は体部にハケを連弧文状に施す。類例に乏しいが、装飾的な要素が弥生時代中期に近いことから、1期（以前）と推測した。共伴する甕（103）の（脚台上位の曲線的な）形状から推測される時期とも齟齬しない。2034SI床直出土の中型壷または内彎口縁壷（106）は外面全面を赤彩し、7期前後（前期初頭）と推測される。2034SIに後出する2022SIは前期前半と推定した。　出土遺物・時期

Aa群2023SI・2005SI・2006SI・2021SI（遺構図版35）　検出状況・先後関係

北西から西向きの緩斜面で検出した竪穴建物の一群で、表土掘削時に誤って2005SIの覆土を誤って掘削した。検出した平面形状からは2005SIと2021SIが同一の可能性も考えられたが、同一と理解した場合、竪穴が著しい長方形を呈すること、床面の高さが異なることから、別個の竪穴建物とした。竪穴建物の残存状況は良好でないが、2023SI → 2006SI → 2021SIの先後関係を確認した。2005SIとの先後関係は確定できなかった。2021SI上層においては、ほぼ同形同大の小型鉢（椀）が4個体（127 ～ 130）、台付甕の脚部（131・132）が集積された状態で検出された。　遺物出土状況

2006SI出土の高杯は杯部が著しく深いが、脚部の形状から9期と推定される。2021SI下層出土の広口壷（126）は10期に組成する加飾広口壷が無文化した個体でより後出的である。2005SIと2006SIに先行する2023SIは終末期と推定した。2005SIは明確ではないが、周囲の竪穴建物との位置関係を考慮して前期初頭に含めた。2005SI下層からは遠江系の折り返し口縁壷（116）も出土している。　出土遺物・時期

Aa群1957SI・1959SI・1958SI（遺構図版36・37）

西向きの緩斜面で検出した竪穴建物の一群で1958SIと1959SIは斜面側が流失する。重複部分は少ないが、先後関係を1957SI → 1958SI、1959SI → 1958SIと判断した。1958SIの覆土には最終埋没を示す黒色土が厚く堆積していることからも、この先後関係は追認される。　検出状況・先後関係

1957SIの地床炉は礫（炉石）を伴う位置に灰白色粘土が埋め込まれていた。1957SIは主柱穴間の床面が広範囲に著しく硬化する。1957SIの床面除去後、中央付近に竪穴状の掘り込みを検出した。先行する竪穴建物の可能性も考えられたが、主柱穴や地床炉等の付属施設は検出されず、遺物もほとんど出土しないことから、掘り込みは1957SIの掘方と判断した。　附属施設　掘方

1957SIは床面付近に炭化物が散布し、床面直上から下層において甕（133・135等）、有段口縁甕（136）、椀形高杯（141）等、4期の土器が良好に出土した。1958SIは下層出土の底部を輪台状とした内彎口縁壷または中型壷（148）から9期と推定される。1959SIは1958SIに先行することから前期初頭（6・7期）と推定した。　出土遺物・時期

Ab群1995SI・1993SI・1991SI・1994SI・1992SI（遺構図版38・39）

検出状況・先後関係　西向きの緩斜面から続く平坦面で検出した竪穴建物の一群であるが、削剥が著しく、1993SI、1991SI、1992SIは検出面付近ですでに地床炉が露呈していた。1995SIは（掘方の）一部を検出したのみで、竪穴建物としては確実性に乏しい。

1991SIの覆土上面に1992SIの地床炉が設置されていることから、1991SI → 1992SIの先後関係が確定する。他は竪穴建物の残存状況が良好ではなく、やや不確定であるが、先後関係を1995SI → 1993SI → 1992SI、1993SI → 1994SIと判断した。2169SKは1993SIに伴う可能性もあるが、位置関係から1994SIに伴う貯蔵穴とした。

遺物出土状況　花こう岩の棒状礫を伴う1991SIの地床炉の焼土面上には凝灰岩製台石（3524）が残されていた。その付近からは花こう岩製磨石（3432）も出土した。

掘方　1991SIの床面除去後、竪穴状の掘り込みを検出したが、主柱穴や地床炉等の付属施設は検出されず、遺物もほとんど出土しないことから、この掘り込みを1991SIの掘方とした。

出土遺物・時期　1991SIは床面直上出土の甕（168）から4期と推定される。他の竪穴建物は遺構の先後関係と竪穴建物相互の位置関係から（1995SIと）1993SIを後期（1・2期）、1994SIを前期初頭、1992SIを前期前半と推定した。

Ab群2077SI・1967SI・2033SI（遺構図版40・41）

検出状況・先後関係　小支谷2000SXに堆積した黒色土上面で検出した。遺構検出が困難であったため、遺構の形状には不確定な部分が多い。1967SIの貼床除去後、その下位に2077SIを確認した。2077SIが1967SIの竪穴状の掘方である可能性も考えられたが、主柱穴配置が二重に確認されること、2077SIの床面で地床炉が検出されたことから、2077SIを拡張して1967SIが構築されたと判断した。2033SIと2077SIの先後関係は明確にできなかった。

遺物出土状況　2077SIの貯蔵穴2141SKにおいては、中型鉢（182）等がややまとまって出土した。

出土遺物・時期　2077SI掘方出土の口縁部を有段状とする小型加飾広口壺（177）は後期、1967SI出土の高杯（183）は器壁が厚く、高杯A3またはB1を粗雑化した個体として、3期と推定した。これにより拡張前の2077SIを2期、拡張後の1967SIを3期と推定した。2077SIと1967SIの平面形が長方形であることもその傍証となる。2033SIは下層出土の高杯B8（172）から10期と推定した。

Ab群1953SI・1954SI・2129SI・1952SI（遺構図版42）

検出状況・先後関係　西向きの緩斜面で検出した竪穴建物の一群で、いずれの竪穴も斜面側が流失する。1953SIと1954SIは重複部分が少ないが、出土遺物の内容も考慮して1953SI → 1954SIと判断した。

出土遺物・時期　1953SI上層においては、西遠江系の小型鉢（202）が出土した。同じく上層出土の高杯A3（203）が示す時期（3期）に対応する可能性が高いと思われる。1953SIは複数時期の土器が混在するが、上層に含まれる3期の土器から、2期（3期以降に埋没）と推定した。1953SIに後出する1954SIは4期、1952SIは9期と推定される。2129SIは竪穴建物相互の位置関係も考慮して6期と推定した。

Ac群1454SI（遺構図版44・45）

検出状況・先後関係　1454SIは竪穴建物の全形を検出した。他の竪穴建物との重複関係はないが、南東辺には段が認められ、上層に竪穴建物が重複する可能性も考えられたが、土層断面からその存

在は認識できなかった。

1454SI においては北東から南東辺の床面付近に大量の土器（222 ～ 252）が廃棄された状態で出土し、周囲には炭化材も散在していた。その他、南東辺付近の床面直上において、片麻岩製手持砥石（3485）、熔結凝灰岩製砥石が出土した。貯蔵穴とした 1449SK からは高杯（253）が出土した。出土した土器群（222 ～ 253）は８期の良好な一括資料で、全形が判明する叩き甕（227）を伴うことも特筆される。　遺物出土状況　出土遺物・時期

Ac群1455SI・1444SI（遺構図版46）

1455SI・1444SI は小支谷 2000SX に堆積した黒色土中で検出した。遺構検出はかなり困難で、1444SI と 1455SI の２棟以上の重複も想定しつつ、竪穴建物の形状、先後関係が確定しないまま床面付近までを掘削したが、1455SI の地床炉が 1444SI の北東辺によって失われていること、1444SI の覆土に連続して厚く堆積する黒色土から、先後関係は 1455SI → 1444SI と判断した。　検出状況・先後関係

1455SI の床面直上で出土した加飾広口壷（278）の帰属は確実であるが、覆土中の遺物は帰属が不確かなものが多い。1455SI に伴う貯蔵穴 1785SK においては、中型壷１個体（296）が単独で、1444SI に伴う貯蔵穴 1804SK においては、平底甕２個体（273・274）、甕１個体（275）、内彎口縁壷１個体（276）が良好な状態で出土した。　遺物出土状況

1454SI 出土土器群（222 ～ 253）は 1455SI は床面直上、貯蔵穴 1785SK より出土した土器から４期と推定される。1444SI はパレス系壷（258）、椀形高杯（269）等、床面直上から下層に伴う土器は８期の様相を示すが、貯蔵穴 1804SK において出土した内彎口縁壷（276）は広く短い口頸部、突出した底部など、８期の内彎口縁壷に後出する要素が多い。また、近在の 1454SI には８期の良好な土器群が伴い、８期における両者の同時併存を想定することが難しいことからも、1444SI は８期よりむしろ９期を主体とすると想定される。　出土遺物・時期

Ac群1937SI・1490SI・1456SI・1489SI（遺構図版43・44）

小支谷 2000SX に堆積した黒色土中で検出した 1490SI、1456SI は竪穴建物の形状、先後関係が確定しないまま床面付近までを掘削した。斜面側はさらに検出が困難で、遺構の形状を示すことができないが、すでに流失した可能性もある。1937SI は後世の大溝 1900SD によって北西部分が大きく欠失する。1489SI は基盤層上において検出した焼土面を未検出の竪穴建物に伴う地床炉として、竪穴建物の存在を推定した。1490SI、1456SI は平面の検出時に先後関係を確定することはできなかったが、土層断面において 1490SI → 1456SI の先後関係を確認した。　検出状況・先後関係

1456SI は床面付近に遺物が集積し、検出面上面から覆土中にかけても大量に遺物が包含されていた（297 ～ 338）。土器群は混入と思われる個体もあるが、８期に帰属する土器が多い。体部球形の大容量の甕（297）は主に８期に組成する。貯蔵穴 1813SK から出土した加飾広口壷（340）は口縁部内面を段によって区画し、ヘラ状工具による羽状刺突文を施す。貯蔵穴 1813SK においては、甕（339）、加飾広口壷（340）が出土した。　遺物出土状況　出土遺物・時期

1490SI に伴う可能性がある貯蔵穴 1815SK においては、高杯（346）、大型（甕系）鉢（347）が出土した。土器群は６期に対応する。1937SI は床面直上において出土した椀形高杯（348）から５期と推定される。1489SI は時期不明とした。

Ad群1495SI・1464SI・1410SI・1295SI・1411SI（遺構図版47～49）

検出状況・先後関係　1464SI、1410SI、1411SI 東半（丘陵側）は小支谷 2000SX に堆積した黒色土中で検出し、特に 1411SI の遺構の形状、後述する 1329SI、1330SI 等との関係には不明確な部分がある。

1410SI、1464SI、1411SI はいずれも床面が明確で、土層断面において、1410SI → 1411SI、1464SI → 1411SI の先後関係を把握したが、1411 の北西側は検出することができなかった。1464SI と 1295SI は両遺構の一辺が接する程度で先後関係は明確でない。1410SI に重複する 1495SI は 1410SI との先後関係を土層断面等で確定できなかった。

遺物出土状況　1464SI の貯蔵穴 1741SK 付近の床面直上には比較的多くの遺物が散在していた（377～381）。その他、南隅の床面付近より花こう岩製敲石（3489）が出土した。1411SI の床面付近からは高杯等、比較的多くの土器が出土した（396～404・406～424）。土器群は 10 期の良好な資料である。その他、1411SI の貯蔵穴 1696SK より凝灰岩製置砥石（3486）が出土した。

出土遺物・時期　1411SI に先行する 1464SI は床面直上出土の高杯（377）、上層出土の内彎口縁壷（392）等から 6 期と推定される。1411SI に先行し、1464SI に近接する 1410SI は前期初頭（7・8 期）、1495SI は上層出土の有段口縁甕（375）から終末期、1295SI は床面直上において出土した内彎口縁壷（374）から 9 期と推定した。

Ad群1330SI・1329SI・1277SI・1175SI（遺構図版50・51）

検出状況・先後関係　1330SI、1329SI、1175SI の全体、1277SI の大部分は小支谷 2000SX に堆積した黒色土中で検出し、遺構の正確な形状を把握することは困難であった。特に 1175SI は明確に硬化した床面と地床炉を確認したが、平面形を検出することができなかった。1329SI は竪穴建物の規模と比較して主柱穴間の距離が著しく短く、焼土面とも重複することから、主柱穴が未検出の竪穴建物に伴う可能性、または竪穴建物が拡張された可能性も想定する必要がある。

1277SI は床面が広範囲に硬化していた。土層断面から 1329SI → 1175SI の先後関係は

1404SX　明確であるが、1277SI、1330SI にかかる先後関係は明確にできなかった。なお、1330SI の覆土上面に集積していた土器群（450～457）を 1404SX とした。

出土遺物・時期　1330SI 掘方出土の S 字甕 A 類（442）は 6 期に対応する。1329SI は床面直上において出土した高杯 B 5（431）等から 7 期、1277SI は貯蔵穴 1447SK において出土した口縁部を貝殻腹縁による連弧文で加飾した内彎口縁壷（463）から 8 期と推定される。1175SI は 7 期の 1329SI、8 期の 1277SI に後出することから 10 期（11 期）と推定した。ただし、遺構の確認が困難であったことから、遺物の帰属は不確かなものも少なくない。

Ad群1403SI・1402SI（遺構図版52）・Ad群1332SI（遺構図版52）

検出状況・先後関係　1332SI は東辺の一部と地床炉を検出したのみで、周辺に散在する小穴も、多くは黒色土下位の起伏や植栽痕である。1403SI は削剥が著しく、検出面付近に地床炉が露呈していた。1403SI の貯蔵穴 1417SK においては、内彎口縁壷（469）、甕（470）が出土した。

出土遺物・時期　1403SI は貯蔵穴 1417SK 出土の内彎口縁壷（469）から 4 期、1402SI は 1403SI との先後関係から前期初頭から前期前半と推定される。1332SI は上層出土の加飾広口壷（467）と周囲の竪穴建物との位置関係を考慮して、終末期から前期初頭（5・6 期）と推定した。

Ae群1357SI・1220SI・1270SI（下面・上面）・1250SI（遺構図版53）
・1275SI・1200SI（下面・上面）・1240SI・1225SI・1224SI（遺構図版54・55）

検出状況・先後関係

西向きから南西向きの緩斜面で竪穴建物が著しく重複した状態で検出された。遺構の稠密な分布に加えて、調査区の制約から面的な把握が難しい点もあって、全体の形状を正確に把握できなかった竪穴建物も多く、各竪穴建物相互の先後関係の整合にも不安を残す。複雑な遺構の重複に加え、遺構の誤認もあって、遺物の帰属も不確かなものが多い。また、未検出の竪穴建物に伴う可能性がある主柱穴３基（1550SK・1558SK・1491SK）を検出した。

出土遺物・時期

1270SI は拡張、1200SI は建て替えに伴う２面の床面と地床炉を確認した。1270SI 上面は高杯Ｂ４（508）から７期、同下面は６期と推定される。1250SI は上層に高杯Ｂ７(519)、口縁部の内彎が弛緩した内彎口縁壷（515）等、９期から 10 期の土器が多く含まれることから９期と推定される。1220SI は５期の 1240SI、６・７期の 1270SI に先行することから３期と推定した。その他、1220SI の貯蔵穴 1529SK において蓋の把手部分と思われる棒状土製品（541）が出土している。上層はパレス系壷（530・532）、Ｓ字甕Ｂ類新段階（540）等、９期の土器を多く包含する。1357SI は３期とした 1220SI に先行することから１期（以前）と推定した。

遺物出土状況

1200SI 下面においては加飾広口壷（542）と中型壷（543）に加えて緑色片岩製置砥石(3491)、同上面においては高杯（544）が良好な状態で出土した。1224SI は床面直上から下層にかけて比較的多くの土器（548 ～ 569）に加えて、片麻岩製磨石･敲石（3444）が出土した。

出土遺物・時期

1200SI 上面の高杯（544）は全体に厚手で脚部の透孔を欠く。柱状の脚部上位から脚部下位が内彎する形状を高杯Ｂ１の派生型式と理解して、４期に対応すると推定した。下面は加飾広口壷（542）と底径が大きい中型壷（543）からも３期と推定した。1240SI は椀形高杯（572）から５期、1224SI は甕（548 ～ 557）、高杯Ｂ５（558）を含む下層の土器群から８期と推定される。その他、1224SI においては、南関東（久ヶ原式･山田橋式）系の（複合口縁）加飾広口壷（562）が出土している。1225SI は５期の 1240SI に後出し、８期の 1224SI に先行することから、６期または７期、1275SI は５期の 1240SI に先行し、３・４期の 1200SI とも接することから１期（以前）と推定した。

Ae群1181SI・1178SI・1167SI（遺構図版56・57）

検出状況・先後関係

緩斜面における傾斜の変化と斜面の堆積に対する認識が十分でなく、表土掘削時に 1178SI 等の覆土を誤って掘削した。1181SI と 1178SI、1181SI と 1167SI の先後関係も明確にできなかった。1178SI と 1167SI は重複する部分に根が介在し、先後関係の確認は困難であった。1181SI 周辺には多数の小穴が散在するが、黒色土下位の起伏や植栽痕が多く含まれ、掘立柱建物の復原には至っていない。

出土遺物・時期

1181SI の床面直上においては、円板状の紐孔付蓋（586）が出土した。1181SI は高杯Ａ２またはＡ３（582・583）、口縁部が緩やかに外反するパレス系壷（585）から２期と推定される。３・４期の 1200SI に後出する 1178SI は６期または７期、1178SI と重複する 1167SI は８期または９期と推定した。その他、1178SI 床面直上において小型の板状鉄斧（3561）、1167SI において庄内式甕または布留式傾向甕（591）が出土している。

（５）竪穴建物Ｂ群

棟数と構成　北西斜面に分布する総数 23 棟（実数 14 棟）の竪穴建物群で、下位の４棟（２棟）から構成される Ba 群、中位の６棟（４棟）から構成される Bb 群、上位の 10 棟（７棟）から構成される Bc 群、丘陵縁辺の３棟（２棟）から構成される Bd 群に細分する。Bc 群以外、竪穴建物は重複せず、Bc 群の重複も２棟までに止まる。竪穴建物は丘陵側が著しく深く、斜面側が流失した状態で検出されるものが多い（第 19 図）。

検出状況

Ba群1930SI・1896SI（遺構図版58）

検出状況・先後関係　1930SI（1896SI）は拡張とそれに伴う上下２面の床面を確認した。1930SI と 1896SI の遺物は明確に分離できないが、甕（600）、平底甕（603）、高杯Ｂ７（604）は９期に対応することから、拡張後の 1896SI を９期、拡張前の 1930SI を８期と推定した。

出土遺物・時期

Ba群1908SI・1931SI（遺構図版60）

検出状況・先後関係　1931SI は 1908SI の一定の埋没後、やや方位を違えて掘削された竪穴状の掘り込み（再掘削）で、明確な床面や地床炉は構築されず、主柱穴も認められない。覆土中には土器（606 ～ 631）を多く包含する。土器群は、先行する 1908SI の遺物が混在している可能性もあるが、高杯Ｂ６（615・616）、椀形高杯（617 ～ 620）、中型壷（622）等、８期を主体とする。これにより、1931SI を８期、先行する 1908SI を終末期と推定した。

出土遺物・時期

Bb群1891SI（遺構図版59）

検出状況・先後関係　1891SI は地床炉が検出されず、遺物の出土もごく少ないことから、北向き斜面下位に散在する中世の竪穴状遺構の可能性もある。時期は不明とした。

出土遺物・時期

Bb群1895SI（遺構図版60）・1906SI（遺構図版60）・1917SI（遺構図版62）

検出状況・先後関係　いずれも他の竪穴建物と重複しない。1895SI の床面直上には炭化材が散在する。下層出土のＳ字甕Ａ類（633）、内彎口縁小型壷（637）等から６期と推定した。

出土遺物・時期

遺物出土状況　1906SI の床面付近においては、広口壷（640）、中型壷（641 ～ 643）、著しく杯部が

第19図　竪穴建物Ｂ群の配置

深い高杯（646）等が良好な状態で出土した。貯蔵穴 1928SK からは甕（652）、凝灰岩製台石（3527）が出土した。土器群は菊川式に関連する体部下位が強く張る中型壷（641・642）、著しく杯部が深い高杯（646）等の特徴的な個体を含む。８期と推定した。　出土遺物・時期

1917SI は床面直上に炭化材が散在する。時期は床面直上において出土した高杯（690）、下層出土の椀形高杯（691）、中型壷（687）等から７期と推定した。　検出状況・先後関係　出土遺物・時期

Bb群1907SI・1922SI（遺構図版61）

1922SI は Ba 群の 1908SI、1931SI と同様、1907SI の一定の埋没後にやや方位を違えて掘削された竪穴状の掘り込み（再掘削）で、明確な床面や地床炉、主柱穴は構築されない。1922SI の覆土中には多くの土器（653 ～ 679）が包含されていた。土器群は先行する 1907SI の遺物が混在している可能性もあるが、高杯Ｂ６・Ｂ７（672・673・677 等）等、９期を主体とする。1922SI に先行する 1907SI は終末期と推定した。　検出状況・先後関係　遺物出土状況　出土遺物・時期

Bc群3220SI・3218SI（遺構図版63）

3220SI と 3218SI は上下に重複するが、3218SI の床面に地床炉が確認されなかったことから、先後関係を誤認している（または地床炉を見落とした）可能性もある。3220SI は上層出土の高杯（700）から４期、それに後出する 3218SI は６期と推定した。　検出状況・先後関係　出土遺物・時期

Bc群1861SI（下面・上面）・1862SI・1860SI・3219SI・1859SI（遺構図版64・65）

1861SI は立て替えに伴う上下２面の床面を確認した。1860SI は上層に斜面からの流出土が厚く堆積する状況からも、重複する 1861SI、1862SI に後出することが推察される。1859SI・3219SI は部分的な検出で、先後関係の確認は困難であるが、1859SI と 3219SI の位置関係から、1859SI は 3219SI の埋没過程における再掘削の可能性がある。　検出状況・先後関係

1860SI の床面直上においてはヤリガンナ（3563）出土した。1961SI 上面の床面直上においては、散在する炭化材に混じって甕（712）、椀形高杯（716）等が良好な状態で出土した。土器は５期に対応し、同下面は４期とした。1861SI に後出する 1862SI は高杯（720）等から８期、1860SI は前期前半と推定した。3219SI は高杯Ｂ２（727）から５期、3219SI と前期前半の 1860SI に重複する 1859SI は前期初頭（７・８期）と推定した。　遺物出土状況　出土遺物・時期

Bc群1875SI（遺構図版65）

1875SI は地床炉が検出されず、遺構の形状もやや不整であることから、先行する竪穴建物が埋没する過程における再掘削の可能性がある。時期は上層出土の広口壷（710）が６期の 1464SI 出土の広口壷（386）に類似することも勘案して６期と推定した。　検出状況・先後関係　出土遺物・時期

Bc群2128SI（遺構図版63）

2128SI は削剥が著しく、北東辺の一部を検出したのみで、検出面付近には地床炉も露呈していた。床面直上においては、鳥形土製品（698）が出土している。時期は不明とした。　検出状況・先後関係　出土遺物・時期

Bd群1852SI（遺構図版66）・3809SI（遺構図版66）・3810SI（遺構図版66）

いずれも他の竪穴建物と重複しない。1852SI は床面付近から下層に土器（731 ～ 749）を多く包含する。また、床下全面を約 0.3 m掘り下げた掘方を確認した。1852SI の土器群は口縁部が中膨らみする甕（731）、底部が突出する中型壷（737・738）、高杯Ｂ５・Ｂ６（747 ～ 749）、退化した椀形高杯（750）等を含み、８期と推定される。　検出状況・先後関係　掘方　出土遺物・時期

3809SI は床面直上において出土した高杯（751）、加飾広口壷（752）から６期、3810SI は下層出土の有段口縁甕（758）から５期と推定した。

（6）竪穴建物C群

棟数と構成

西斜面上段に分布する総数37棟（実数32棟）の竪穴建物群で、下位北部の5棟から構成されるCa群、下位南部の13棟（12棟）から構成されるCb群、上位北部の5棟から構成されるCc群、上位中央の9棟（6棟）で構成されるCd群、上位南部の5棟（4棟）で構成されるCe群の5群に細分する。竪穴建物は等高線に沿って多数が重複しながら分布し、丘陵側が著しく深く、斜面側が流失した状態で検出されるものが多い（第20図）。各竪穴建物群の背後には斜面を段状に加工する造作（Ca群1938SIに1923SX、Cb群1253SIに1347SX・1336SX、1207SX、Cd群からCe群に3021SX）が認められ、Cc群からCd群の背後の斜面1002SDには大量の遺物と礫が廃棄されていた。

検出状況

斜面を加工した段

Ca群1938SI・1929SI（遺構図版68・69）

検出状況・先後関係

1938SIは人為的に埋め戻された堆積状況を示し、それが1929SIの構築によって掘り込まれていることも明確であった。最終埋没を示す黒色土も1929SI側に厚く堆積していることからも先後関係が追認される。

遺物出土状況

1938SIの貯蔵穴2086SKにおいては、椀形高杯（799）の脚部内面と中型壷（800）の体部下位が密着して出土した。高杯の脚径（11.3cm）と中型壷の口径（10.9cm）が近似することからも、高杯脚部は中型壷の蓋に転用された可能性がある。1929SIの床面直上には径25cm前後の炭化材が良好に遺存していた。

1923SX

1938SIの背後を加工した段1923SXにおいては、土製紡錘車（820）を含む土器（801～820）が散在して出土した。

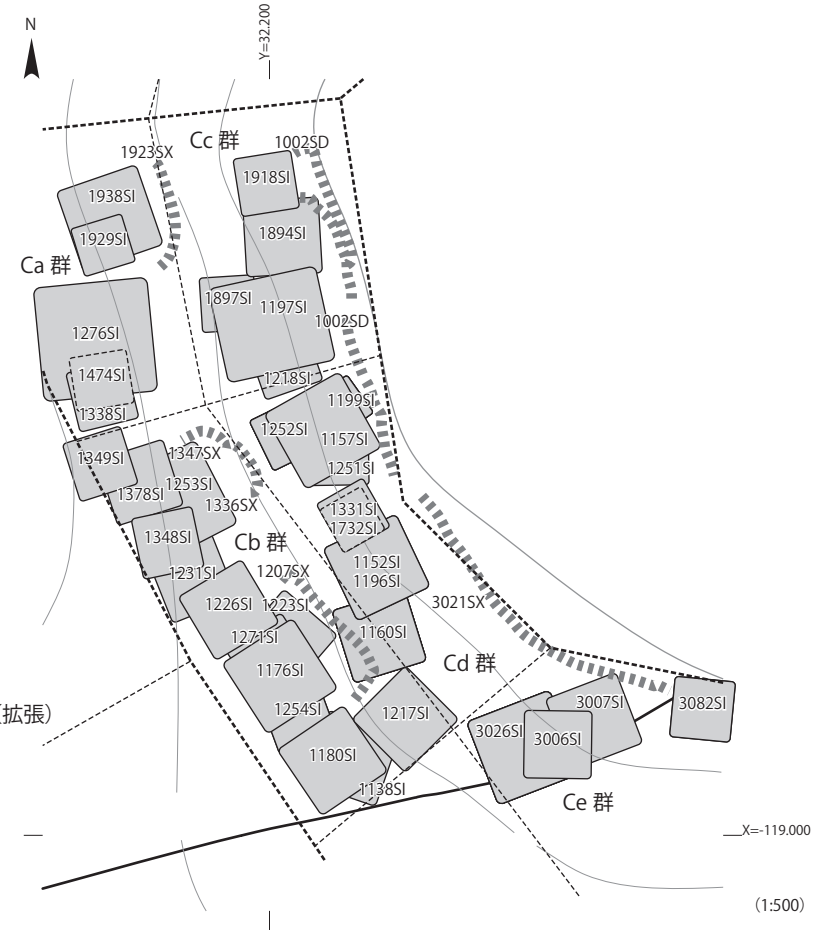
【Ca群】
1938SI→1929SI
1474SI→1276SI→1338SI

【Cb群】
1231SI→1253SI→1378SI→1348SI・1349SI
1223SI→1271SI→1226SI・1176SI
1254SI→1176SI
1138SI→1180SI

【Cc群】
（1894SI→1918SI）
1897SI→1197SI
（1218SI→1197SI）

【Cd群】
1251SI・1252SI（・1199SI）→1157SI
1196SI→1152SI（建て替え）→1732SI→1331SI（拡張）
（1160SI→1152SI）

【Ce群】
3007SI→3006SI
3026SI→3006SI



第20図　竪穴建物C群の配置

1938SI は重複する５期の 1929SI に先行すること、貯蔵穴 2086SK において出土した土器から３期と推定した。1938SI に後出する 1929SI は S 字甕（823）、菊川系の有段口縁壷（826）、内彎口縁壷（829・830）等を含む土器群から５期と推定される。　出土遺物・時期

Ca群1474SI・1276SI・1338SI（遺構図版67）

1276SI が調査区によって分割されたこと、斜面の堆積と竪穴建物の埋没過程に対する認識が十分でなかったこと、斜面側に小支谷 2000SX に堆積した黒色土が重なることから、遺構の精査には不備が多い。1338SI の地床炉を伴う床面が 1276SI の覆土上面に形成されていたことから、1276SI → 1338SI の先後関係は確定する。　検出状況・先後関係

1474SI の南東隅付近の床面直上においては、甕（871・872）、大型（甕系）鉢（873）、椀形高杯（874・876）等が良好に出土した。1276SI 南東隅付近の床面直上においては、炭化種子に混じって鉄剣（3564）と小鉄片（3565）が出土した。1338SI の東辺付近の床面直上においては、広口壷（878）が正位の状態で出土した。またその付近から、砂質凝灰岩製台石（3528）が出土した。　遺物出土状況

1474SI 床面直上出土の土器群（871 ～ 876）は５期に対応する。1276SI 下層出土の体部球形の大容量の甕（841）は、８期とした 1456SI の同形式の甕（297）に体部内面の調整等、先行する要素が認められることから、1276SI は７期（から８期）と推定される。1276SI に後出する 1338SI は、広口壷（878）等からも９期（から 10 期）と推定した。　出土遺物・時期

Cb群1253SI・1378SI・1348SI・1349SI（遺構図版70・71）

1253SI は Ca 群 1938SI と同様、人為的に埋め戻された堆積状況を示し、それが 1378SI と 1348SI の構築時に掘り込まれていることも明確であった。最終埋没を示す黒色土も 1348SI の覆土上位に連続して堆積していることからも先後関係が追認される。　検出状況・先後関係

1253SI の覆土中には複数時期の土器が混在するが、厚手で、高杯Ｂ１の粗製化した型式と考えられる高杯（902）と高杯Ａ３（903）が床面直上において出土していることから４期と推定した。1348SI は下層出土の甕（929）から 10 期と推定される。1378SI と 1349SI は、周囲の竪穴建物との位置関係も考慮して、４期の 1253SI に後出する 1378SI を６期、1378I に後出する 1349SI を８期と推定した。　出土遺物・時期

Cb群1231SI・1254SI・1223SI・1271SI・1226SI・1176SI（遺構図版72～74）

1223SI の地床炉が 1271SI によって欠失すること、1271SI と 1254SI の覆土上面に 1176SI の地床炉を伴う床面が構築されていることから、1223SI → 1271SI → 1176SI、1254SI → 1176SI の先後関係が確定する。1231SI と 1253SI、1348SI、1226SI、1254SI と 1180SI の先後関係は確認することができなかった。　検出状況・先後関係

1226SI 東隅の貯蔵穴 1294SK 付近においては、有段口縁甕（956）、椀形高杯（957）、広口壷（958）等がややまとまって出土した。1176SI の床面付近、覆土中には比較的多くの土器が包含されていた（972 ～ 987）。　遺物出土状況

1231SI は床面直上において出土した高杯Ａ２（944）から２期、1223SI は貯蔵穴 1294SK から出土した椀形高杯（957）から５期、1176SI は床面直上から下層にかけて出土した高杯（983・984 等）、中型鉢（978）等から 10 期と推定される。1223SI に後出する 1271SI は７期、1271SI に先行する可能性が高い 1254SI は３・４期、1271SI に後出する 1226SI は９期と推定した。　出土遺物・時期

Cb群1138SI・1180SI・1217SI（遺構図版74）

検出状況・先後関係　1217SI は基盤層上において検出した焼土面から想定した竪穴建物で、主柱穴配置を復原した。1180SI の床面直上においては花こう岩製台石（3526）が出土した。

遺物出土状況

出土遺物・時期　1138SI は床面直上において出土した高杯Ａ１（989）から１期、1180SI は床面直上において出土した中型壷（990）、上層出土の高杯（1002）等から９期と推定した。1217SI は 1138SI、1180SI との位置関係から後期から前期初頭（３期から７期）と推定した。

Cc群1894SI・1918SI・1218SI・1897SI・1197SI（遺物図版75・76）

検出状況・先後関係　Cc 群の竪穴建物群については、南北の調査区に分割されたたこともあって、整合を欠く部分がある。また、竪穴建物の覆土中に背後の斜面を段状に加工した 1002SD から包含層が連続して堆積していることを十分に把握して精査することができなかった。1894SI 南半の平面形も適確に把握することができず、出土遺物の採取にも混乱が生じた。

1894SI と 1918SI の先後関係は炭化材の散在状況も考慮して 1918SI → 1894SI としたが、出土遺物の内容から、先後関係を 1894SI → 1918SI に修正した。1218SI と 1197SI の先後関係については 1218SI → 1197SI と判断したが、土坑 2182SK の重複によって土層断面からは確認することができなかった。

遺物出土状況　斜面を段状に加工した 1002SD には大量の土器（1080 ～ 1163）と礫が包含されていた。包含層は 1894SI に連続して堆積し、1002SD の土器群と 1894SI に帰属する遺物を明確に弁別することは難しい。1894SI または 1918SI の貯蔵穴 2107SK においては、中型（内彎口縁）壷（1034）が良好な状態で出土した。1918SI の床面付近には炭化材が散在する。

1894SI にほぼ確実に伴う土器として、体部球形の大容量の甕（1015）、高杯Ｂ６（1016）がある。これらは（７期から）８期に対応する。1894SI または 1918SI の貯蔵穴 2107SK 出土の中型（内彎口縁）壷（1034）は頸部以下の全体的な形状は内彎口縁壷に類似するが、口縁部が著しく短い。型式的な特徴からは（７期から）８期とした 1894SI に伴う可能性が高いと判断される。1918SI 床面直上において出土したパレス系壷（1029）は砂粒を多く含む粗悪な胎土で製作され、体部文様はハケ状工具による短い単斜刺突、山形文を組み合わせ、文様帯の下端にヘラ状工具の先端による刺突列を加える。パレス系壷の著しい退化型式で、（９期から）10 期に対応する。1197SI は比較的多くの土器（1038 ～ 1079）が出土しているが、1002SD と 1897SI の土器が混在している可能性がある。時期は高杯Ｂ６・Ｂ７（1071 ～ 1076）を含むことから、９期と推定される。1218SI は床面直上において出土している椀形高杯（1035）から５期、1897SI は９期とした 1197SI に先行する可能性が高いことから６期とした。その他、特徴的な個体として、1197SI 出土の焼成前底部穿孔壷（1055）、菊川式の壷（1057）、叩き甕（1046）、焼成粘土塊（1079）がある。

1002SD土器群　1002SD 土器群として、口縁端部に刻みを施した甕（1080）、有段口縁甕（1081 ～ 1083）、甕（1084 ～ 1106）、加飾広口壷（1107 ～ 1113）、口縁部内面に結節縄文を施した広口壷（1114）、遠江系の折り返し口縁壷（1115・1116）、菊川式の壷（1117）、広口壷または直口壷（1118 ～ 1140）、内彎口縁壷（1141・1142）、高杯Ａ（1143・1144）、高杯Ｂ（1145 ～ 1152）、大型（甕系）鉢（1153・1154）、中型鉢（1155・1156）、小型鉢（1157）、小型壷（1158・1159）、木製容器を転写した楕円形土器（1160）、球状土錘（1161・1162）、焼成粘土塊（1163）がある。これらの土器群は３期から８期に対応する。

Cd群1251SI・1252SI・1199SI・1157SI（遺構図版77）

1157SI背後には、斜面を段状に加工した1002SDがCc群から連続する。Cc群1894SIと同様に、1157SIには1002SDから包含層が連続して堆積する。1251SIは地床炉が1157SIによって一部が失われていることから、1251SI → 1157SIの先後関係が確定する。1199SIは東辺付近の一部を確認したのみで、斜面を加工した段の一部である可能性もあるが、1256SKが1199SIに伴う貯蔵穴である可能性を考慮して竪穴建物とした。1157SIとの先後関係は1199SI → 1157SIと判断した。　検出状況・先後関係

1251SIの床面直上において炭化材に混じって出土した高杯（1165）は、高杯Ａ３に形状が類似する。著しく器壁が厚くハケ調整も表面化するが、３期と推定した。1251SIに後出する1157SIは床面直上出土の柳ヶ坪型壷（1172）、高杯Ｂ８（1173 ～ 1175）から10期（から11期）と推定される。1252SIと1199SIは1157SIに先行することから、終末期から前期初頭（４期から６期）と推定した。　出土遺物・時期

Cd群1160SI・1196SI・1152SI・1732SI・1331SI（遺構図版78・79）

1196SI（1152SI）は立て替え、1732SI（1331SI）は拡張に伴う上下２面の床面と地床炉を確認した。調査時には1152SIの床面、1331SIとの重複を見落としたまま部分的に下位の1196SIの床面付近までを掘削してしまったことから、1152SIの遺物には1196SIと1331SIの遺物が混在する可能性がある。Cd群南端の1160SIは残存状況が良好でなく、1152SIとの先後関係を確定することはできなかったが、1160SI → 1152SIと推定した。　検出状況・先後関係

1331SIの床面直上において、炭化材に混じって大量の土器が出土した。覆土中の土器の包含も多い。南東隅の貯蔵穴1653SKの上面には人頭大の粘土塊が残され、それに接するようにして甕（1185）が伏せられた状態で置かれていた。　遺物出土状況

拡張後の1331SIの土器群（1184 ～ 1216）は10期に対応することから、拡張前の1732SIは９期と推定される。1331SI･1732SIに先行する1152SIはパレス系壷（1229）等からも７期、1152SIの立て替え前の1196SIは下層出土の椀形高杯（1220）等からも６期と推定される。1196SIに先行する可能性が高い1160SIは４期以前と推定した。　出土遺物・時期

Ce群3026SI・3007SI・3006SI（遺構図版80・81）

Ce群は南西向き斜面に分布する竪穴建物群で丘陵側（北東側）の掘り込みが著しく深い状態で検出された。丘陵側には北西方向から南東方向にかけて斜面を加工した緩やかな段3021SXを検出した。3026SIは立て替えに伴う上下２面の床面と地床炉を確認したが、3007SIとの先後関係は確認することができなかった。　検出状況・先後関係

3006SIの主柱穴3083SK、3089SK付近の床面直上においては、甕（1288 ～ 1291）、高杯（1292）、加飾広口壷（1293･1294）、広口壷（1295）等の土器、安山岩製置砥石（3494）が良好な状態で出土した。なお、柱穴の掘方は大きく布掘り状に掘削される。　遺物出土状況

3006SIは床面直上において出土した土器群（1288 ～ 1295）に高杯Ｂ５（1292）等が含まれることから８期と推定される。3006SIに先行する3007SIは下層出土の椀形高杯（1258・1259・1261）等から６期、3026SIは４期以前と推定した。　出土遺物・時期

Ce群3082SI（遺構図版82）

3082SIは他の竪穴建物と重複しない（大部分は調査区外）。時期は遺構内に包含層が連続して堆積する状況から、前期前半と推定した。　検出状況・先後関係　出土遺物・時期

（7）竪穴建物D群

棟数と構成

平坦面西緩斜面に分布する総数71棟(実数65棟)の竪穴建物群で、下位の12棟(11棟)で構成されるDa群、中位北部の19棟（18棟）で構成されるDb群、中位南部の10棟で構成されるDc群、上位北西部の6棟（5棟）から構成されるDd群、上位北東部の9棟（8棟）で構成されるDe群、上位中部の11棟（9棟）で構成されるDf群、上位南部の4棟で構成されるDg群の7群に細分する。斜面から安定した平坦面に移行する緩斜面に中小の竪穴建物が稠密に分布し、Da群には掘立柱建物群、Df群には大型竪穴建物3308SI（・3261SI・3057SI)、布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物3300SBが含まれる（第21図)。

検出状況

【Da群】
1140SI→1872SI
1139SI・3042SI→3034SI→3003SI
1140SI→4343SI
3028SI→(3003SI・)3002SI
3127SI・3032SI→3027SI→3002SI

【Dc群】
3056SI→3037SI→3036SI
3032SI・3035SI→3005SI
5167SI→3076SI
3075SI→3076SI→3079SI

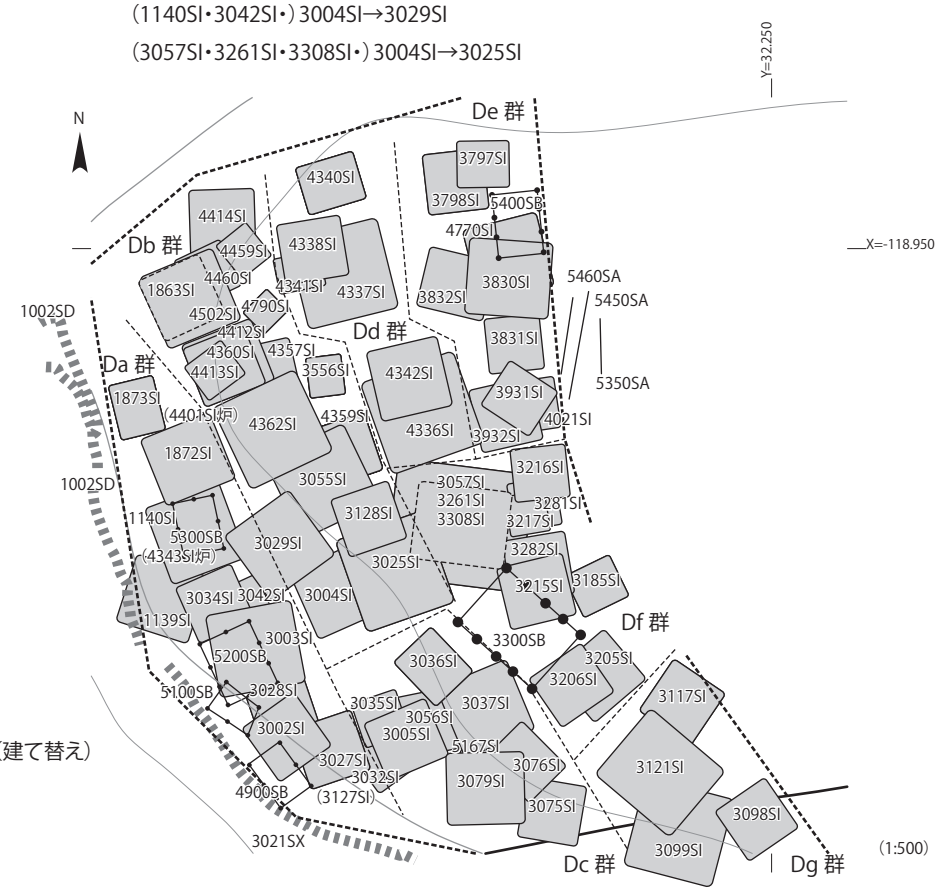
【Dd群】
4337SI→4341SI→4338SI
4336SI→4342SI

【De群】
3798SI→3797SI
(3832SI・)4770SI→3830SI
(3831SI→3830SI・3931SI)
(4021SI→)3932SI→3931SI

【Df群】
3057SI・3281SI→3217SI
3281SI→3216SI
3282SI→3215SI→3300SB
3205SI→3206SI
3308SI→3261SI(拡張)→3057SI(建て替え)

【Dg群】
3099SI→3121SI

【Db群】
4414SI→4459SI
1863SI・4460SI・4412SI→4502SI
4357SI→4412SI→4360SI→4413SI　4357SI→4362SI
4359SI→3055SI→4362SI
4401SI→1872SI
(3055SI→3128SI)
(1140SI・3042SI・)3004SI→3029SI
(3057SI・3261SI・3308SI・)3004SI→3025SI



第21図　竪穴建物D群の配置

Da群1873SI（遺構図版82）

1873SI は他の竪穴建物と重複しない。地床炉付近には炭化物が比較的濃密に散布する。　検出状況・先後関係

時期は貯蔵穴 1829SK から出土した甕（1317）等から前期初頭（７期前後）と推定した。　出土遺物・時期

Da群1139SI・1140SI・1872SI・4343SI・3042SI・3034SI・3003SI

（遺構図版83・84）

1139SI は 1140SI と重複するが、土層断面から先後関係を確認することができなかった。　検出状況・先後関係
1140SI の覆土上面（遺構検出面）において焼土面を広範囲に検出した。帰属する竪穴建物の平面形を確認することはできないが 4343SI とした。3003SI は南辺が 3028SI の北辺と接するようにして重複し、調査時には 3003SI → 3028SI としたが、出土遺物の内容、周囲の竪穴建物との関係を検討した結果、先後関係を誤認している可能性が高いと判断して、先後関係を 3028SI → 3003SI に修正した。

1139SI 下層からは花こう岩製台石（3530）、1140SI 下層からは片麻岩製磨石（3460）、　遺物出土状況
1872SI 南東隅の貯蔵穴 4887SK 付近の床面直上においては、砂質凝灰岩製台石（3531）、高杯（1318・1319）等が散在して出土した。3034SI の北東隅の床面直上においては、小型高杯（1343）、小型鉢（1344）、小型壷（1345）等が炭化材に混在して出土した。

1139SI は貯蔵穴 4920SK 出土の甕（1331）から２期、重複する 1140SI は下層出土の　出土遺物・時期
内彎口縁壷（1137）等から４期、1872SI は南東隅付近の床面直上において出土した土器群に含まれる高杯Ｂ７（1318）等から９期、3042SI は床面直上において出土した椀形高杯（1351）、上層出土のＳ字甕Ａ類（1352）から６期と推定される。６期とした 3042SI に後出する 3034SI は床面直上において出土した小型高杯（1343）、小型壷（1345）等からも８期、3034SI に後出する 3003SI は 10 期と推定した。その他、3003SI 上層から砂質凝灰岩製石製紡錘車（3552）が出土した。

Da群3127SI・3028SI・3027SI・3002SI（遺構図版86・87）

3002SI と 3027SI の近辺の基盤層上において焼土面を検出したが、焼土面は位置関係　検出状況・先後関係
から 3027SI に伴うとは考えにくいことから、別個の竪穴建物を想定して 3127SI とした（平面形は不明）。

全形を検出した 3002SI は床面直上のほぼ全面に炭化材が散乱した状態で検出された。　遺物出土状況
破鏡（3556）は竪穴建物の調査着手直後、根株の処理中またはサブトレンチ掘削中に出土し、出土状況を詳細に記録することができなかった。なお、破鏡に共伴する出土土器（1370 ～ 1383）は多くないが、床面直上においては不明土製品の紐部分（1382）、球状土錘（1383）が出土した。

3027SI は床面直上または下層出土の口縁部が屈折する広口壷（1360）、高杯Ｂ４　出土遺物・時期
（1366）、叩き甕（1367）等から６・７期、3027SI に後出する 3002SI は下層出土の口縁部の内彎が著しく弛緩した内彎口縁壷（1379）、上層出土の下膨れで、底部を輪台状とする小型壷（1381）等からも９期と推定される。６・７期とした 3027SI に先行する 3028SI は終末期、3127SI は後期と推定した。４期とした 1140SI の覆土上面を床面とする 4343SI は前期初頭以降と推定されるが、近接する 1872SI を９期としたことから、それとの位置関係を考慮して、６・７期と推定した。

Db群1863SI・4414SI・4460SI・4459SI・4502SI（遺構図版88・89）

検出状況・先後関係　4460SI は東辺が 4459SI の西辺と接するようにして重複するが、土坑 4552SK の重複によって先後関係を土層断面から確認することができなかった。

遺物出土状況　全形を検出した小型の竪穴建物 4459SI は北西辺から北東辺付近に高杯（1398）、広口壷（1400）、脚付内彎浅鉢（1399）、内彎浅鉢（1401）、有孔鉢（1402）、甕（1403）の各器種が良好な状態で出土した。その対向する位置には炭化材が散在していた。

出土遺物・時期　4459SI 下層出土土器群は 6 期に対応する。最も後出する 4502SI は下層出土の加飾広口壷（1397）も参考にして 8 期と推定した。4502SI に先行し、4459SI に重複する 4460SI は床面直上出土の高杯 B（1393）から 4 期と推定した。4414SI は 4459SI に先行することから 4 期以前と推定されるが、近接する 4460SI を 4 期と推定したことから 3 期と推定した。1863SI は 4502SI 出土とした口縁端部に刻みを施した甕（1396）が伴っていた可能性が高いと思われること、4460SI との位置関係から 2 期と推定した。

Db群4790SI（遺構図版87）

検出状況・先後関係　4790SI は他の竪穴建物と重複しない。時期は竪穴建物の平面形と規模が 6 期とした

出土遺物・時期　4459SI、3556SI と相互に類似することから、6 ・ 7 期と推定した。

Db群4357SI・4412SI・4359SI・4360SI・4413SI・
4362SI・4401SI・3055SI・3128SI（遺構図版90～92）

検出状況・先後関係　4357SI と 4412SI の先後関係は明確ではないが、4357SI → 4412SI と判断した。4401SI は基盤層上に焼土面が露呈した地床炉のみを検出した。地床炉は 1872SI によって一部が欠失することから、先後関係を 4401SI → 1872SI と判断した。3128SI は 3055SI、3057SI、3025SI を検出する過程で、遺物を包含する竪穴建物の覆土と思われる堆積層が残存するのを確認した。付近に地床炉も確認されたことから、竪穴建物の一部と判断した。覆土とした堆積層は 3055SI 等、周囲の竪穴建物の覆土上面に堆積していたことから、先後関係を 3055SI → 3128SI と判断した。

出土遺物・時期　4413SI は上層出土の 8 期に対応する体部球形の大容量の甕（1411）から 7 期と推定して、4413SI に先行する 4360SI を 5 期、（4360SI に先行する）4412SI を 3 期と推定した。4362SI は床面直上と上層出土の高杯 B 8（1426・1429）、下層出土の加飾広口壷（1428）、上層出土の甕（1431）等、9 期と推定される 3025SI にも近接（重複）する 3128SI は床面直上出土の高杯 B 7 または B 8（1435）等からも（10 期から）11 期、両者に先行する 3055SI は下層出土の内彎口縁甕（1416）、口縁部が屈折気味に外反する加飾広口壷（1423）、上層出土の中型壷（1425）等から 7 期と推定される。4357SI は上層から遠江系の折り返し口縁壷（1407）が出土しているが、4362SI と 4412SI に先行することから 1 期、3055SI に先行する 4359SI は後期から終末期と推定した。4401SI は 9 期の 1872SI に先行し、5 期と推定した 4360SI に先行する可能性が高いことから後期と推定した。

Db群3556SI（遺構図版92）

検出状況・先後関係　3556SI は他の竪穴建物と重複しない。地床炉周辺の床面直上においては、広口壷（1437）

出土遺物・時期　等が良好な状態で出土した。時期は下層出土の甕（1440・1441）から前期初頭（7 期前後）と推定される。

Db群3004SI・3029SI・3025SI（遺構図版93・94）

3004SI と 3025SI は先後関係を確定しないまま、先行して 3004SI の床面までを掘削したが、その過程で 3025SI の地床炉を検出したことで、上位の 3025SI の床面を誤って掘削していたことが判明した。その後、3004SI → 3025SI の先後関係を土層断面において改めて確認した。3025SI は北東隅の比較的広範囲の床面（基盤層）上が著しく被熱赤変していた。位置は地床炉としては不自然であるが、この位置に重複する他の遺構を想定することも難しく、被熱赤変部分の帰属や性格は判然としない。

検出状況・先後関係

床面の被熱赤変

3029SI と 1140SI、3042SI との先後関係、3025SI と Df 群 3057SI（・3261SI・3308SI）の先後関係は、重複部分は少ないが、1140SI と 3042SI が 3029SI に、3057SI（・3261SI・3308SI）が 3025SI に先行すると判断した。

3004SI は下層出土の口縁部内面の先端付近に沈線を施した高杯（1442）、椀形高杯（1444）等から５期、3029SI は床面直上出土の縁帯口縁甕（1452）、上層出土の加飾広口壷（1455・1456）、高杯（1460）等から８期と推定される。（10 期から）11 期と推定した 3128SI とも近接（重複）する 3025SI は下層出土の口縁部が中膨らみする甕（1462）、内彎口縁甕（1463）等からも９期と推定した。高杯Ａ２（1464）は Df 群 3057SI（・3261SI・3308SI）からの混入と思われる。

出土遺物・時期

その他、Db 群遺構外出土の小型鉢（1474）は、内面に水銀朱が付着する（第４章（５）を参照）。出土地点からは、4413SI 上層に伴っていた可能性も推測される。

Db群遺構外出土

Dc群3032SI・5167SI・3056SI・3035SI・3037SI・3005SI・3036SI
（遺構図版95～97）

3032SI と 3035SI は重複部分が少なく、土層断面から先後関係を確認できなかったが、3032SI が Da 群 3027SI に先行することを確認した。3035SI と 3027SI については、重複部分は少ないが、3035SI が先行すると判断した。5167SI は根株の除去後、竪穴建物の北隅付近のみが検出された。3056SI、3037SI との先後関係は明確ではないが、3076SI に先行することを確認した。

検出状況・先後関係

3005SI は上層に大量の礫が廃棄されていた。下層から床面付近にかけては、広口壷・直口壷（1492・1493 等）、椀形高杯（1512・1513）、甕（1519 ～ 1522）、大型（甕系）鉢（1529）等の各器種に加えて、塩基性岩製磨石・敲石（3455・3456）が良好な状態で出土した。床面直上には炭化材も散乱していた。

遺物出土状況

3005SI 出土土器群は下層が７期、上層が８期を主体とする。先行する 3037SI は上層出土の甕（1482）等から５期（から６期）、3037SI に先行する 3056SI は上層出土の高杯Ａ３（1479）から２期、3056SI に先行する 5167SI は１期（以前）と推定される。3037SI に後出する 3036SI は７期以降と推定されるが、3005SI との位置関係を考慮して、前期前半と推定した。3005SI に先行する 3035SI は、７期と推定した Da 群 3027SI に先行することから５期以前と推定されるが、５期とした 3037SI との位置関係を考慮して４期と推定した。下層出土の口縁部が屈折する広口壷（1486）は、重複する 3027SI の床面直上において同型式の個体（1360）出土していることから、3027SI から混入した可能性がある。3035SI と重複する 3032SI は３期とした 3056SI との位置関係を考慮して１期と推定した。

出土遺物・時期

Dc群3075SI・3076SI・3079SI（遺構図版98・99）

遺物出土状況　3079SI は南西隅の貯蔵穴 3228SK 付近で甕（1537・1539）、広口壷（1543・1544）、高杯（1552・1553）等の各器種、片麻岩製置砥石（3497）、花こう岩製台石（3551）等の遺物が集積し、主柱穴 3226SK 付近で甕（1536）が良好な状態で出土した。3076SI は東隅の床面直上において、内彎口縁壷（1559）が良好な状態で出土した。

出土遺物・時期　3079SI 床面直上出土の土器群は甕（1535 ～ 1537）、高杯Ｂ７（1552）等から９期に対応する。西遠江系の有段（複合）口縁壷（1545）は口縁部外面の文様帯をヘラ状工具による羽状刺突文で充填し、棒状浮文を付す。器表面の風化が著しく、覆土中に混入した可能性が高い。3079SI に先行する 3076SI は床面直上出土の内彎口縁壷（1559）、下層出土の椀形高杯（1570）等から７期、3076SI に先行する 3075SI は有段口縁壷（1573）から５期と推定される。

Dd群4340SI（遺構図版101）

検出状況・先後関係　他の竪穴建物と重複しない 4340SI は主柱穴、地床炉が検出されなかったことから、住

遺物出土状況　居としての利用を想定することは難しい。上層からは板状の青銅製品（3558）が出土した。

出土遺物・時期　出土遺物は少ないが、時期は上層出土の体部文様が羽状刺突文、直線文、単斜刺突で構成される加飾広口壷（1581）も参考にして前期初頭と推定した。

Dd群4337SI・4341SI・4338SI（遺構図版100・101）

検出状況・先後関係　4338SI は 4337SI、4341SI の覆土上面に地床炉とそれに伴う床面を構築していたことから

遺物出土状況　も、4337SI、4341SI に後出することが確定する。4337SI 床面直上においては、砂質凝灰岩製台石（3533）が出土した。

出土遺物・時期　4337SI 下層出土の小型高杯（1588）は形状が高杯Ｂ２に類似することから５期と推定される。4337SI に後出する 4338SI は下層出土の口縁部が著しく短い小型壷（1595）、上層出土の口縁部下端が肥厚する甕（1593）等から９期と推定される。4337SI に後出し、4338SI に先行する 4341SI は下層出土の小型鉢（1582）等からも７期と推定した。

Dd群4336SI・4342SI（遺構図版102）

検出状況・先後関係　4336SI と 4342SI は 4336SI の地床炉が 4342SI の掘削によって一部が欠失していることからも、4336SI → 4342SI の先後関係が確定する。

出土遺物・時期　4336SI は掘方出土の高杯Ｂ５（1601）、上層出土の粗製化した有段浅鉢（1608）から７期と推定される。4336SI に後出する 4342SI は周囲との竪穴建物との位置関係も考慮して９期と推定した。

De群3798SI・3797SI（遺構図版103）

出土遺物・時期　3797SI は床面直上出土の縁帯口縁甕（1612）、甕（1613）、小型丸底壷（1614）、加飾広口壷（1615）から９期と推定される。3797SI に先行する 3798SI は 3797SI の覆土中に包含された土器（1616 ～ 1620）が 3797SI から混入した可能性も考慮して終末期と推定した。

De群3832SI・4770SI・3830SI・3831SI（遺構図版104・105）

検出状況・先後関係　調査時に 4770SI → 3830SI → 3832SI としたが、3832SI の床面直上に高杯Ａ３（1622・1623）が確実に伴っていること、3832SI の平面形がやや胴張りの長方形、3830SI の平面形が方形を呈することから、3832SI は 3830SI に先行する可能性が高く、先後関

係を 3832SI → 3830SI に修正した。また、3832SI 出土土器群中には 3830SI に帰属する土器が混在する。4770SI の地床炉は 3830SI の掘削によって失われていることから、4770SI → 3830SI の先後関係が確定する。3831SI は平面形が不整で、地床炉も検出されなかったことから竪穴建物としては明確でなく、竪穴建物の掘方のみを検出した可能性がある。先後関係は 3831SI → 3830SI・3931SI と推定した。

出土遺物・時期

3832SI は床面直上出土の高杯Ａ３（1622・1623）から３期と推定される。覆土中に包含された土器（1625 ～ 1634）で下層出土の高杯（1624）、加飾広口壷（1625・1628）、内彎口縁壷（1626）、甕（1632）は８期に対応し、本来は 3830SI の床面付近に伴っていた可能性が高い。3830SI 上層出土の小型壷（1639）からも、3830SI は８期と推定される。小型壷（1639）は体部下位に剥離した痕跡が認められ、二連（三連）土器の可能性がある。3830SI に先行する 4770SI は上層出土の甕（1635 ～ 1638）から終末期から前期初頭（５・６期）と推定される。3831SI は８期の 3830SI に先行すること、周囲の竪穴建物との位置関係から後期から終末期と推定した。

De群4021SI・3932SI・3931SI（遺構図版106）

検出状況・先後関係

3932SI の地床炉が 3931SI の掘削によって失われていることからも 3932SI → 3931SI の先後関係が確定する。4021SI と 3923SI は重複部分に 3931SI が大きく重複するが、先後関係を 4021SI → 3923SI と推定した。

遺物出土状況

貯蔵穴 4823SK においては、脚台が分離した状態で有段口縁甕１個体（1656）が出土した。4823SK は 3931SI 南隅に配された貯蔵穴の可能性もあるが、周壁溝と重複すること、3931SI 出土土器（1646 ～ 1655）と時期が整合しないことから、4021SI 南西隅の貯蔵穴の可能性が高いと判断した。

出土遺物・時期

3931SI は下層出土の甕（1647）、上層出土の高杯Ｂ８（1652）等から 10 期と推定される。上層出土の小型鉢（1653・1654）は内面に水銀朱、外面にスス（1653）が付着する朱精製用鉢である（第４章（５）を参照）。3931SI に先行する 3932SI は下層出土の内彎口縁壷（1643）から６期、3932SI に先行する 4021SI は貯蔵穴 4823SK 出土の有段口縁甕（1656）から４期と推定した。

Df群3308SI・3261SI・3057SI・3281SI・3217SI・3216SI（遺構図版108・109）

検出状況・先後関係

3308SI（3261SI・3057SI）は拡張と建て替えに伴う３面の床面とそれぞれに伴う地床炉を確認した。3261SI・3057SI と 3216SI、3217SI と 3216SI の先後関係は確定することができなかった。3216SI は南東隅を囲う周堤帯を検出した。3217SI は覆土上層に礫が大量に廃棄されていた。

出土遺物・時期

拡張後の 3261SI は床面直上出土の底部が突出しない広口壷（1667）、高杯Ａ２またはＡ３（1668）、上層出土の口縁端部に刻みを施した甕（1671）等から２期、3261SI 上面の 3057SI は床面直上出土の高杯Ａ３（1672）等から３期と推定される。拡張前の 3308SI は１期と推定した。この推定は 3308SI（3261SI・3057SI）の平面形がやや胴張りの長方形を呈することからも追認される。

3216SI は甕（1676）、高杯Ｂ７（1677・1679・1680・1683）から９期と推定される。3281SI は３期の 3057SI に後出する可能性が高く、3217SI と 3216SI に先行することから５期、3217SI は 3281SI に後出することから７期と推定した。

Df群3185SI・3282SI・3215SI（遺構図版107）

検出状況・先後関係　3215SI と 3282SI は当初、１棟の竪穴建物として検出したが、3215SI の周壁溝の検出により、２棟の重複が判明した。これにより、一部の遺物の採取に混乱が生じている。

遺物出土状況　3185SI の床面直上においては、不明土製品（1690）が出土した。3215SI は貯蔵穴 3311SK 付近において甕（1691・1692）、広口壷（1698）が良好な状態で出土した。また、床面直上において高杯（1693・1694）、内彎口縁小型壷（1696）、広口壷（1697）、砂質凝灰岩製台石（3534）等が散在して出土した。

出土遺物・時期　3215SI の床面直上出土の土器群は８期（から９期）に対応する。下層出土の加飾広口壷（1701）は口縁部外面の文様帯と口縁部内面に羽状刺突文を施す。3215SI に先行する 3282SI は３期の 3057SI に後出する可能性が高く、５期とした 3281SI と７期とした 3217SI に近接することから６期と推定した。床面直上においては、底部を平底とする中型壷（1687）が出土している。3185SI は６期とした 3282SI、９期とした 3215SI、１期と推定される Fa 群の 3186SI と近接することから、３・４期と推定した。

Df群3205SI・3206SI（遺構図版110）

遺物出土状況　3205SI の床面直上において、凝灰岩製の円板状石製品（3555）、片麻岩製置砥石（3500）、凝灰質砂岩製手持砥石（3501）が出土した。円板状石製品は紡錘車未成品の可能性がある。貯蔵穴 3310SK においては、中型壷（1707）、甕（1708）が出土した。

出土遺物・時期　3206SI は床面直上において出土した平底の中型鉢（1710）、高杯Ｂ８（1711）、柳ヶ坪型壷（1712）等から 10 期と推定される。3206SI に先行する 3205SI は体部下位が屈曲気味の菊川式（系）の中型壷（1703）、口縁部が短く内彎する内彎口縁壷（1704）等、特徴的な個体が含まれる。時期は７期（前後）と推定した。

Dg群3117SI（遺構図版111）

検出状況・先後関係　3117SI は削剥が著しく北東辺付近のみを検出した。3121SI との先後関係も不明である。

出土遺物・時期　地床炉も薄い焼土面が残存する程度であった。時期は 3121SI との位置関係も考慮して、前期初頭（６・７期）とした。

Dg群3099SI・3121SI（遺構図版112・113）

3099SI 北隅の下層に高杯（1726・1727）、西遠江系の小型鉢（1730）等がややまとまって状態で出土した。北辺付近には床面からやや浮いた状態で人頭大の粘土塊が出土した。3121SI 北隅の床面直上にも粘土塊が残されていた。また、片麻岩製台石（3535）と花こう岩製台石（3536）も床面直上から出土した。

出土遺物・時期　3099SI は下層出土の高杯Ａ３（1726 ～ 1728）、底部が突出しない広口壷（1731・1732）から３期と推定される。これらの土器群には西遠江系の小型鉢（1730）と菊川式の（鍔状口縁）高杯（1729）が伴う。3121SI は床面直上出土の甕（1733）と高杯（1737）、下層出土の高杯Ｂ７（1738・1739）、パレス系壷（1741）等から９期と推定される。1734 は布留式甕とした。

Dg群3098SI（遺構図版111）

検出状況・先後関係　大部分が調査区外で、時期不明とした。器壁が厚い高杯（1747）は高杯Ｂ１が粗製化した型式と思われ、３期の 3099SI から混入した可能性が高いと思われる。あるいは 3099SI との重複を見落としていた可能性もある。

（８）竪穴建物Ｅ群

平坦面北緩斜面に分布する総数 29 棟（実数 27 棟）の竪穴建物群で、斜面側の６棟（５棟）で構成される Ea 群、中央の４棟で構成される Eb 群、丘陵平坦面側の 19 棟（18 棟）で構成される Ec 群に細分する。斜面側の Ea 群、中央の Eb 群は２群程度が一定の間隔を空けて分布するが、丘陵平坦面側の Ec 群は北東から南西方向にかけて竪穴建物が連続して分布する。また、中央の Eb 群は西傾斜面（De 群）側に複数の柱穴列（5350SA・5450SA・5460SA）を確認した（第 22 図）。

棟数と構成

検出状況

Ea群3814SI・3811SI・3897SI・3306SI・3404SI（遺構図版114・115）

3897SI（3306SI）は拡張に伴う２面の床面とそれに伴う地床炉を確認した。

検出状況・先後関係

3306SI は東辺の周壁に密着するようにして加飾広口壷の口縁部（1777）が出土した。3404SI は覆土中に比較的多くの土器（1789 ～ 1812）を包含していた。

遺物出土状況

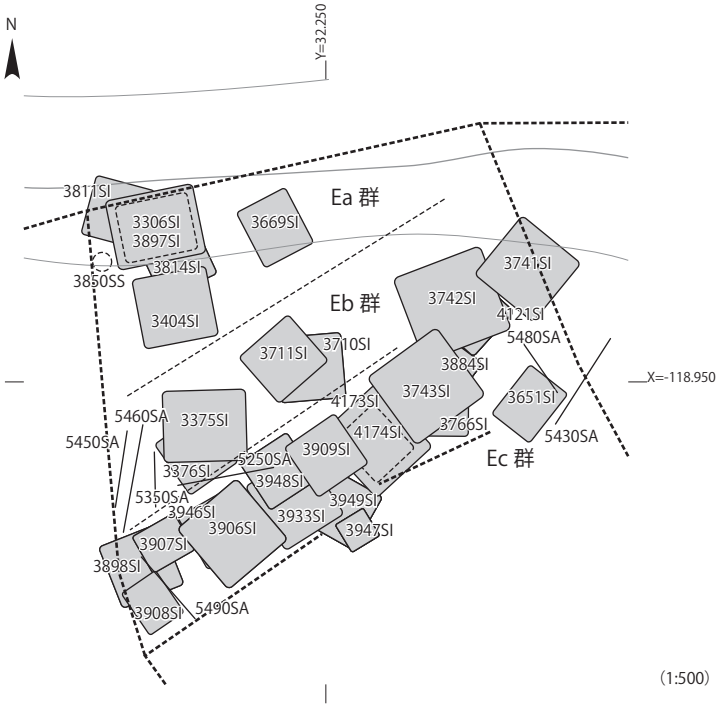
拡張後の 3306SI は高杯Ｂ３（1770）、パレス系壷（1777）、加飾広口壷（1778）、内彎口縁甕（1784）等から６期、拡張前の 3897SI は５期と推定される。3811SI は上層において高杯Ｂ５（1758）が出土しているが、3897SI との先後関係から３期と推定した。高杯Ｂ５（1758）は重複する 3306SI からの混入で、上層出土の袋状口縁壷（1765）が竪穴建物の構築の時期に関係する可能性が考えられる。3814SI は５期とした 3897SI に先行し、３期とした 3811SI に近接することから、１・２期と推定した。3404SI は床面直上出土の内彎口縁壷（1788）、下層出土の加飾広口壷（1789）に加えて、５・６期とした 3897SI・3306SI に近接することから７期と推定した。覆土中に含まれる土器群は、パレス系壷（1792）、有段口縁壷（1795）、中型壷（1803・1804）、S 字甕Ｂ類新段階（1805）、高杯（1809・1810）、小型鉢（1812）等、８期前後に対応する。

出土遺物・時期

【Ea群】
3814SI→3306SI・3404SI
3811SI→3897SI→3306SI（拡張）

【Eb群】
3376SI→3375SI
3710SI→3711SI

【Ec群】
3898SI→3907SI→3906SI
（3946SI→3906SI）
3933SI→3948SI・3906SI・3909SI
3949SI→（3933SI・）3947SI
4174SI→4173SI（拡張）→3743SI・3909SI
3766SI→3743SI
（3884SI・4121SI）→3742SI→3743SI



第22図　竪穴建物Ｅ群の配置

Ea群3669SI（遺構図版116）

検出状況・先後関係　3669SI は他の竪穴建物と重複しない。また、南辺付近を段状に掘り残した掘方を検出した。時期は下層出土の加飾広口壷（1813･1814）、高杯Ｂ６（1816）、高杯Ｂ５（1817）、椀形高杯（1815）から８期と推定される。

出土遺物・時期

Eb群3376SI・3375SI（遺構図版116・117）

検出状況・先後関係　3375SI は 3376SI の覆土上面に床面を構築していることから、3376SI に後出することは確実であるが、南辺に近接して主柱穴を検出したことから、（検出した 3376SI に重複する）南辺の位置を誤認している可能性が高いと思われる。3376SI は西隅の床面直上において甕（1821）、地床炉付近の床面直上において広口壷（1822）が出土した。3375SI は床面直上において高杯（1824）、甕（1825）、片麻岩製置砥石（3507）が出土した。

遺物出土状況

出土遺物・時期　3375SI は床面直上出土の高杯Ｂ３（1824）から５期と推定される。3375SI の覆土中からは組帯文とも思われる線刻を施した広口壷体部（1832）が出土した。同一個体の体部（1833）は 3375SI からやや離れた遺構検出面付近において出土した。3375SI に先行する 3376SI は床面直上出土の甕（1821）からも３期と推定した。

Eb群3710SI・3711SI（遺構図版118）

遺物出土状況　3710SI は南辺付近の床面直上において、片麻岩製大型砥石（3509）が出土した。

出土遺物・時期　時期は周囲との竪穴建物との位置関係を考慮して、3711SI を８期、3711SI に先行する 3710SI を４期または６期と推定した。

Ec群3898SI・3907SI・3908SI（遺構図版119）

検出状況・先後関係　3898SI は遺構検出面付近で床面の一部と地床炉が露呈していた。重複する 3907SI、3908SI との先後関係は 3898SI → 3907SI、3898SI → 3908SI と判断した。

出土遺物・時期　3908SI は床面直上出土の口縁部内面を段によって区画する加飾広口壷（1860）等から 10 期と推定される。3898SI は 3907SI に先行し、3908SI に加えて、４期とした De 群 4021SI、９期とした Df 群 3216SI に対しても先行する可能性が高いことから１・２期、3907SI は終末期から前期初頭（３期以降８期以前）と推定した。

Ec群3946SI・3933SI・3948SI・3906SI（遺構図版120・121）

検出状況・先後関係　3946SI は大部分が 3906SI と重複する。北西辺付近を検出したのみであるが、先後関係を 3946SI → 3906SI と推定した。3946SI の平面形が主柱穴配置から長方形を呈する可能性が高いと思われることも、平面形が正方形を呈する 3906SI に先行する可能性が高いことを示唆する。3948SI は 3933SI の覆土上面において検出した地床炉を伴う竪穴建物で、周辺に掘方の残存を確認した。

遺物出土状況　3933SI は床面直上から高杯Ｂ２（1846・1847）、下層から広口壷（1848）、内彎口縁壷（1849）、椀形高杯（1850）等、５期の良好な土器群に加えて、凝灰質砂岩製磨石（3463）と花こう岩製台石（3537）が出土している。3933SI に後出する 3906SI は床面直上において甕（1855）、袋状口縁壷（1856）が出土しているが、（７期以降における）両者の共伴は疑わしく、後者は 3906SI に先行する可能性が高い（主柱穴配置が）平面長方形の 3946SI に伴っていたことも考えられる。不確定な要素を含むが、遺構の先後関係と周囲の竪穴建物との位置関係、上記の想定を踏まえて、3946SI を２期、3906SI を前期前半（９・10 期）と推定し、3933SI に後出する 3948SI を前期初頭（７・８期）と推定した。

出土遺物・時期

Ec群3949SI・3947SI・3909SI（遺構図版124）

3949SI は床面付近に礫が集積されていた。時期は最も後出する 3909SI が下層出土の高杯Ｂ８（1883）から 10 期と推定される。3949SI は 10 期の 3909SI、５期の 3933SI に先行する可能性が高いことから後期、3949SI に後出し、５期の 3933 に近接する 3947SI は前期初頭と推定した。

遺物出土状況
出土遺物・時期

Ec群3884SI・3766SI・4174SI・4173SI・3743SI（遺構図版122・123）

4174SI（4173SI）は拡張に伴う上下２面の床面と地床炉を確認した。3766SI は 3743SI に先行することを確認したが、4173SI との先後関係は確定できない。

検出状況・先後関係

3743SI は床面直上に炭化材、遺物が散在する。有段口縁甕（1902）と中型壷（1903）が良好な状態で出土した 4399SK は 3743SI の貯蔵穴とも考えられるが、3743SI 出土土器（1887 ～ 1901）と時期が整合しないことから、先行する 3766SI の貯蔵穴とした。

遺物出土状況

3743SI は下層出土の甕（1887 ～ 1889）、中型壷（1900）、上層出土の縁帯口縁甕（1892）等から８期、先行する 3766SI は貯蔵穴とした 4399SK 出土の有段口縁甕（1902）、中型壷（1903）から４期と推定される。4174SI・4173SI は８期の 3743SI、10 期の 3909SI に先行することに加えて、4173SI 下層出土の口縁端部に刻みを施した甕（1873）から、拡張前の 4174SI を５期、拡張後の 4173SI を６期と推定した。大部分が 3743SI、3742SI、3766SI に重複（先行）する 3884SI は後期（１・２期）と推定した。

出土遺物・時期

Ec群4121SI・3742SI・3741SI（遺構図版125～127）

3741SI は遺構検出面に床面と焼土面が露呈し、3742SI との先後関係の確定も難しい。3742SI は覆土中から床面付近にかけて礫と遺物（1904 ～ 2053）を大量に包含していた。出土した遺物は相対的な上位を上層、下位を下層に区分した。床面付近には炭化材が散在する。中央付近に配された土坑 4300SK は炭化材、炭化物が濃密に含まれ、粘土塊、甕（2054）等も散見された。南東隅に配された貯蔵穴 4305SK は、土坑内に粘土が充填され、土坑周辺の床面上にも粘土が盛り上がった状態で残されていた。

検出状況・先後関係

3742SI の覆土中に包含された土器群は５・６期を主体とする。甕は有段口縁甕Ａ（1906・1907・1919 ～ 1922）が一定量組成する。その他、有段口縁甕Ｂ（1908）、内彎口縁甕（1923・1924）、庄内式と推定される大型甕（1904）が含まれる。く字甕は口縁部先端が先細りする形状（1912 等）を典型とする。鉢は大型（甕系）鉢（1959）を含み、その他、有段浅鉢（1957）、小型鉢（1966 ～ 1968）がある。1968 は内面に水銀朱が付着する。椀形高杯は著しく杯部が浅い個体（1969・1970）、杯部が深い個体（1973）がある。高杯（1981 ～ 1998）はＢ２、Ｂ３、Ｂ４で構成される。壷は大型の有段口縁壷（2002）、有段口縁壷（2003・2004）、直口壷（2005）、パレス系壷（2033・2034）がある。その他の加飾広口壷は口縁部に羽状・単斜刺突を多用する個体が多い（2035 ～ 2044）。

出土遺物・時期

3741SI は高杯Ｂ７（2057・2059）、内彎口縁壷（2056）、広口壷（2058）から９期、大部分が 3742SI に重複する 4121SI は後期または終末期（４期以前）と推定した。

Ec群3651SI（遺構図版119）

3651SI は上層に礫が集積され、礫に混在して遺物が出土した。高杯Ａ３（2061・2063）、内彎口縁壷（2072・2073）等、覆土中に３・４期の土器が混在するが、下層出土の高杯Ｂ８（2062）から構築は 10 期と推定される。

遺物出土状況
出土遺物・時期

（9）竪穴建物Ｆ群

棟数と構成

丘陵頂部の平坦面に分布する総数 37 棟（実数 31 棟）の竪穴建物群で、西（北西）側の９棟（８棟）で構成される Fa 群、南（南西）側の９棟（８棟）で構成される Fb 群、北（北東）側の 12 棟（９棟）で構成される Fc 群、東（南東）側の７棟（６棟）で構成される Fd 群に細分する。各群には大型竪穴建物が分布し、Fc 群にはやや大型の掘立柱建物 5000SB が混在する（第 23 図）。

検出状況

Fa群4309SI・3211SI・4311SI・4193SI・4310SI・3190SI・3186SI・3188SI
（遺構図版128～131）

検出状況・先後関係

4311SI（4193SI）は立て替えに伴う上下２面の床面とそれに伴う地床炉を確認した。

4311SI（4193SI）には 3211SI、4310SI、4309SI、3190SI が大きく重複し、各竪穴建物の平面形が正確に把握できなかった部分も多い。採取した遺物についても一部に混乱がある。3211SI と 4309SI の先後関係については、4310SI が大きく重複し、確認は困難であった。

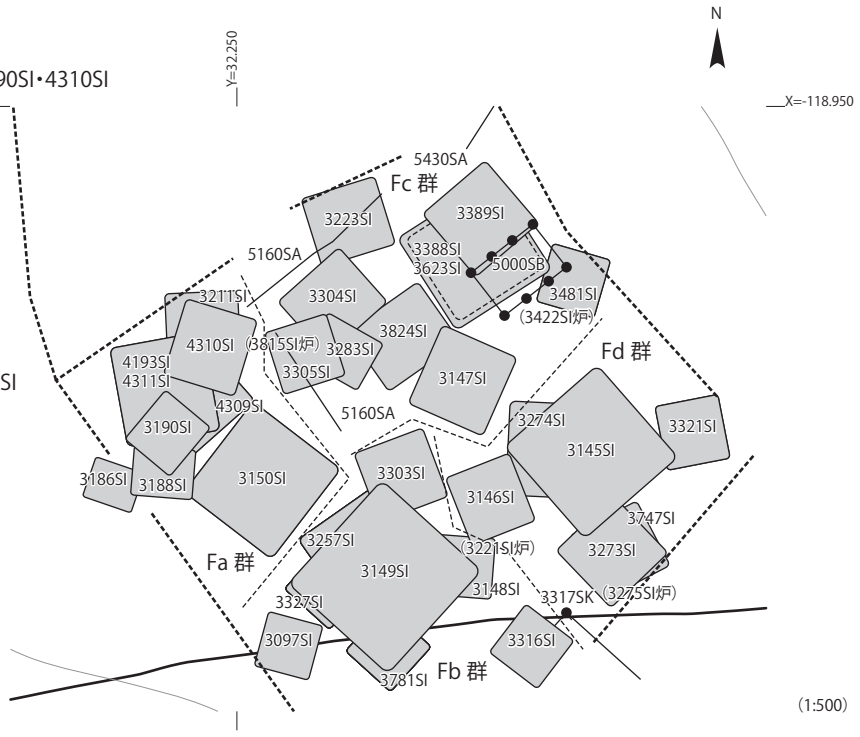
4310SI は調査時に 3211SI の地床炉の一部が 4310SI の掘削によって欠失していることを根拠として、北（北東）辺の位置を求め、それに含まれない北（北東）側の竪穴建物の掘り込みを 4310SI とは異なる竪穴建物として認識したが、4310SI の北（北東）辺と西（北西）辺が主柱穴と近接することから、4310SI の北（北東）辺と西（北西）辺は 3211SI の床面直上で出土した（4310SI の掘削が及ばなかった）土器群付近にまで求められる可能性が高いと思われる。3211SI の地床炉として検出された焼土面が小範囲であることも、4310SI と 3211SI の床面の高さを勘案すると、4310SI の構築に伴う削剥によるものと判

【Fa群】
3211SI→4310SI
4309SI→4311SI→4193SI（建て替え）→3190SI・4310SI
3186SI→3188SI→3190SI

【Fb群】
3148SI→3221SI
3257SI・3148SI・3327SI・3781SI→3149SI

【Fc群】
3824SI→3283SI→3305SI→3815SI
3223SI→3304SI→3283SI→3305SI→3815SI
3623SI（拡張）→3388SI→3389SI
3481SI→3422SI

【Fd群】
3274SI→3145SI・3146SI
3321SI→3378SI（Ha群）
（3747SI→3273SI）



第23図　竪穴建物Ｆ群の配置

断される。なお､4310SI の北東隅（の掘り込みとした部分）については､根の撹乱により、竪穴建物の形状が損なわれている。

遺物出土状況

3211SI の北辺付近の床面直上においては、土器群（2078 ～ 2086）を良好な状態で検出した。土器群には炭化材も混在する。遺棄時の土器群の大部分または一部分は後出する 4310SI の掘削によって失われていると思われる。4309SI の床面直上においては、安山岩製手持砥石（3514)、片麻岩製置砥石（3515）が出土し、上層からも安山岩製手持砥石（3513）が出土した。3190SI の床面直上においては、花こう岩製磨石・敲石（3465）が出土した。

出土遺物・時期

3211SI 床面直上の土器群は、高杯（2078 ～ 2080)、椀形高杯（2081)、甕（2082)、広口壷（2083・2084)、大型（甕系）鉢（2085・2086）により構成される。覆土下層出土の袋状口縁壷（2087）も含めたこれらは４期の良好な土器群である。高杯（2078）は脚部が内彎して開き､杯部は深い半球形を呈する｡形状が類似する高杯は西遠江地域に多い。

立て替え前の 4311SI は床面直上出土の高杯Ｂ３（2107)､Ｓ字甕Ａ類（2109）から６期、立て替え後の 4193SI は床面直上出土の中型壷（2112）からも７期と推定される。４期の 3211SI､６・７期の 4311SI(4193SI)に後出する 4310SI は下層出土の高杯Ｂ７(2127)、上層出土の高杯Ｂ８（2128）から９期、同じく 4311SI（4193SI）に後出する 3190SI は床面直上出土の高杯Ｂ８（2140)、甕（2131）等から 10 期と推定される。3190SI の床面直上出土とした高杯Ｂ２（2138)、Ｂ５（2139）は出土位置と層位から、前者は下位の 4309SI 上層、後者は 4193SI に伴う可能性が高い。甕（2130）も後者と同様の可能性がある。その他、４期に相当すると思われる袋状口縁壷（2146)、遠江系の折り返し口縁壷（2145)、７・８期に相当すると思われる加飾広口壷（2144)、庄内系高杯（2143）が混在する（混入または誤認)。

3190SI に先行する 3188SI は､下層出土の甕（2162)､上層出土の大容量の甕（2163)、加飾広口壷（2165・2166)、叩きを施したとみられる内彎口縁壷（2167）から８期と推定される。3186SI は床面直上出土の口縁端部に刻みを施した甕（2156)、下層出土の甕(2158)、上層出土の甕（2160）から１期と推定される。下層出土の口径が大きく口縁部が内彎する甕（2159)、上層出土の加飾広口壷（2161）は８期の 3188SI からの混入と考えられる。4309SI は６・７期の 4311SI（4193SI）に先行し、４期の 3211SI とも重複することから、後期（１・２期）と推定される。

Fa群3150SI（遺構図版132・133）

検出状況・先後関係

大型竪穴建物 3150SI は他の竪穴建物と重複しない。覆土の一部については、篩いによる土壌選別を実施し、凝灰岩製石製紡錘車（3553）を採取したが、他の特徴的な遺物は抽出されなかった。

遺物出土状況

出土遺物・時期

出土遺物は全体に少ないが、下層からは凝灰岩製置砥石（3510）が出土した。。下層出土の有段口縁甕（2168）は３期から４期、上層出土の有段口縁甕（2169)、口縁端部に刻みを施した甕（2171）は前期初頭に対応すると思われ、それぞれ遺構の上限と下限の時期を示す。１・２期と推定した 4309SI、２・３期と推定される Fb 群 3257SI（後述)、６・７期と推定した 4311SI（4193SI）と近接することからも、3150SI の時期は４・５期と推定される。

Fb群3257SI・3148SI・3303SI・3221SI・3327SI・3781SI・3149SI
（遺構図版134～136）

検出状況・先後関係　3149SIは各辺に壁柱穴をもつ壁立ち式の竪穴建物で、規模も最大である。3781SIは壁立ち式の大型竪穴建物3149SIの床面の構築に伴って埋め戻されている状況が土層断面によって確認される。3221SIは3148SIの覆土上面（遺構検出面）において検出した地床炉から想定した。平面形やその他の付属施設は確認されなかった。3303SIは3257SI、3149SIと重複するが、3303SIの南半は削剥され、先後関係を確認することはできなかった。

遺物出土状況　壁立ち式の大型竪穴建物3149SIは全体に出土遺物が少ないが、覆土下層と覆土上面において大型の管状土錘２点（2196・2197）、覆土上層において不明鉄製品（3567）が出土した。覆土の一部については、篩いによる土壌選別を実施したが、特徴的な遺物は抽出されなかった。3148SI上層（または3148SIの覆土上面を床面とする3221SI床面直上）においては、礫が集積され、遺物も混在していた。

出土遺物・時期　3148SIは床面直上出土の内彎口縁壺（2198）、小型壺または西遠江系の小型鉢（2199）から５期と推定される。上層は６期のパレス系壺（2204）、３期の高杯Ａ３（2210）、８期の高杯Ｂ６（2211）等を含む。3303SIは床面直上出土の高杯Ｂ（2212）から６期と推定される。

５期の3148SIに後出し、６期の3303SIにも後出する可能性が高い3149SIは、下層出土の高杯Ｂ８（2180）、上層出土の加飾広口壺（2187）、内彎口縁甕（2191）、有段口縁甕Ｂ（2192）、縁帯口縁甕（2193・2194）等、覆土中に９期から10期の土器を包含するが、10期と推定されるFd群3146SI（後述）に近接することから、９期（から10期）と推定される。これにより、3148SIに後出し、3149SIと重複（先行）する可能性が高い3221SIは７期（前後）と推定した。3148SI上層出土の土器（2203～2211）のいずれかが3221SIの時期に対応する可能性もある。その他の3149SIに重複する3257SI、3327SI、3781SIは出土遺物が少なく、時期の推定は困難である。3257SIは６期の3303SIと重複し、それに先行する可能性が高いことから、後期から終末期（４期以前）、3327SI、3781SIは後期から前期初頭（７期以前）と推定した。

Fb群3097SI・3316SI（遺構図版133）

検出状況・先後関係　3097SIは南半が調査区外に展開するが、壁面の土層断面を参考にすると竪穴建物の平面形は長方形に復原される。時期は床面直上出土の高杯Ａ２（2215）、下層出土の高杯（2216）から２期と推定される。８期以降に対応すると思われる加飾壺（2218）、甕（2219）は出土状態が不安定な個体で、混入（または誤認）の可能性が高い。

出土遺物・時期

3316SIは大部分が調査区外で、時期も不明とした。

Ｆｂ群遺構外出土　その他、Fb群遺構外出土の小型鉢（2221）は内面に水銀朱が付着する朱精製容器である（第４章（５）を参照）。3149SI等に伴っていた可能性も想定される。

Fc群3824SI・3223SI・3304SI・3283SI・3305SI・3815SI（遺構図版138～141）

検出状況・先後関係　3824SIは削剥が著しく、検出面付近で床面と地床炉が露呈する。土層断面から3824SI→3283SIの先後関係を確認したが、3304SI、3147SIとの先後関係を確定することはできなかった。3305SIも削剥が著しく平面形も不確定な部分が多いが、3283SIの覆土上面において地床炉を検出したことから、3283SI→3305SIの先後関係が確定す

る。さらに、3305SI の覆土上面（遺構検出面）において検出した地床炉を伴う竪穴建物を 3815SI とした。3305SI は主柱穴配置も復原されるが、検出した竪穴建物の平面形に対して柱間が著しく短いことから、主柱穴が上位の 3815SI（竪穴建物の平面形は不明）に伴う可能性、あるいは 3305SI から 3815SI への建て替え（拡張）も想定される。

遺物出土状況

3304SI 地床炉周辺の床面直上には礫が散在する。3283SI の覆土上層には大量の礫が投棄され、礫群中には比較的多くの土器（2245 ～ 2277）も混在していた。3304SI に伴う貯蔵穴 4373SK においては、甕の脚台付近のみ５個体（2240 ～ 2244）が出土した。

出土遺物・時期

3223SI は床面直上出土の高杯Ｂ１（2225）、底部の突出が弱い広口壷（2226）、下層出土の加飾広口壷（2277）、貯蔵穴 4398SK 出土の椀形高杯（2228）が４期に対応する。3283SI 上層出土土器群は後期から前期初頭の土器が混在する。高杯Ｂ５（2274）、底部が明確に突出する短頸直口の中型壷（2261）等が土器群の下限の時期に近いと思われ、４期の 3223SI、さらに 3304SI に後出することからも 3283SI を８期と推定した。これにより、3304SI は６期と推定され、床面直上出土の高杯（2234）等の出土土器とも整合する。3305SI は 3283SI に後出することから（９期から）10 期、3305SI に後出する 3815SI は（10 期から）11 期と推定した。3824SI は３期と推定される 3147SI（後述）と６期とした 3304SI と重複し、８期とした 3283SI に先行することから１期と推定した。

Fc群3623SI・3388SI・3389SI（遺構図版142・143）

検出状況・先後関係

遺物出土状況

大型竪穴建物 3623SI（3388SI）は二重に確認された主柱穴と周壁溝から、3623SI から 3388SI に拡張されたと判断した。3623SI（3388SI）の南隅に配された土坑 4015SK は貯蔵穴としては著しく深く、大型掘立柱建 5000SB の棟持柱に対応する柱穴とも考えられたが、Gb 群の大型竪穴建物 3409SI の貯蔵穴 4038SK、3407SI の貯蔵穴 4097SK の貯蔵穴も同様に深いことから、3623SI（3388SI）の貯蔵穴とした。4015SK からは２個体の甕の脚台（2328・2329）が出土した。主柱穴 4022SK においては、礫群に混在して大型（平底）鉢（2295）、甕の脚台付近のみ４個体（2296 ～ 2299）が出土した。また、南隅付近の床面直上において、花こう岩製台石（3540）が出土した。3389SI は 3623SI（3388SI）の覆土上面において地床炉とそれに伴う床面を確認したが、竪穴建物の平面形と地床炉、復原した主柱穴相互の位置関係は不自然であることから、いずれかを誤認している可能性がある。床面直上においては、花こう岩製台石（3541）が出土した。

検出状況・先後関係

遺物出土状況

出土遺物・時期

拡張後の大型竪穴建物 3388SI は床面直上出土の椀形高杯（2280）、下層出土の高杯Ｂ４またはＢ５（2281）、内彎口縁小型壷（2287）等から７期、拡張前の 3623SI は掘方出土の高杯（2279）からも６期と推定される。3388SI に後出する 3389SI は、10 期と推定される Gb 群 3407SI に近接することから、９期と推定した。

Fc群3481SI・3422SI・3147SI（遺構図版137）

検出状況・先後関係

3481SI の覆土上面（遺構検出面）において地床炉を検出した。平面形等は不明であるが、地床炉が帰属する竪穴建物を 3422SI とした。

出土遺物・時期

3481SI は体部外面下半を赤彩した加飾広口壷（2278）が４期とした 3223SI 出土の個体（2227）に類似することから終末期、3481SI に後出する 3422SI は前期初頭から前期前半（８期から 10 期）と推定した。他の竪穴建物と重複しない 3147SI は、床面直上・下層出土の高杯Ａ３またはＢ１（2307 ～ 2309）から３期と推定される。

Fd群3274SI・3145SI・3146SI（遺構図版144～146）

検出状況・先後関係　大型竪穴建物 3145SI は 3274SI と重複し、3274SI に後出することを確認した。

遺物出土状況　3145SI は床面直上出土のパレス系壺（2333）、下層出土の S 字甕（2339）等から 8 期と推定される。3146SI は床面直上出土の高杯 B 8（2532・2553）、下層出土の中型壺（2357）等から 10 期と推定される。3145SI に先行する 3274SI は出土遺物が少ないが、椀形高杯と思われる個体（2340）から、終末期と推定した。

Fd群3747SI・3273SI・3275SI（遺構図版147）

検出状況・先後関係　3747SI と 3273SI については、調査時に 3273SI が 3747SI に先行すると判断したが、3274SI の南西辺付近で 3273SI の地床炉と思われる焼土面が検出され、西隅付近でも甕（2342）等が良好な状態で出土したことから、3747SI が 3273SI 埋没後に重複して掘り込まれていることは考えにくく、3273SI の掘削によって、3747SI の大半が失われたと判断し、先後関係を 3747SI → 3273SI に修正した。3273SI の北東半は検出されていないことから、北隅付近は後出する 3145SI、後世の撹乱によって失われ、北東辺と南東辺の大部分は 3747SI との重複によって 3273SI の掘り込みを見落としたと思われる。この理解によれば、土坑 3871SK は 3273SI の東隅に配された貯蔵穴の可能性も考えられることになる。先行する 3747SI は 3273SI の重複によって大半が失われ、大部分は周壁溝と柱穴のみが残存したと考えられる。

なお、3747SI の北西辺の中央付近には基盤層を掘り残した（削り出した）高まりが認められた。高まりが残された部分には 3273SI も重複し、その解釈には窮するが、あるいは基盤層の掘り残し（削り出し）ではなく、土盛り（置き土）を誤認した可能性もある。断ち割り調査の記録や所見が確認できないので、これ以上の推断は難しい。

3747SI、3273SI に近接する位置の基盤層上では焼土面が検出された。平面形等は不明であるが、地床炉が帰属する竪穴建物を 3275SI とした。

遺物出土状況　3273SI の南西辺付近の床面直上においては、甕（2342）、広口壺（2344）等の土器に加えて、凝灰質砂岩製敲石（3470）、凝灰岩製置砥石（3516）、片麻岩製台石（3542）が出土した。

出土遺物・時期　3273SI は 3747SI の遺物が混在している可能性もあるが、床面直上出土の甕（2342）、高杯 B 4（2350）から 6 期と推定される。有段口縁甕（2341）は 3273SI に伴う可能性もあるが、型式的に先行すると判断して、3273SI に先行する 3747SI に伴う個体とした。これにより、3747SI を 3 期（から 4 期）と推定した。3275SI は周囲の竪穴建物との位置関係を考慮して前期前半と推定した。

Fd群3321SI（遺構図版145）

検出状況・先後関係　3321SI は削剥が著しく、大型竪穴建物 3145SI、Ha 群 3378SI と重複する部分もわずかで先後関係を確定することは難しいが、3378SI との先後関係を 3321SI → 3378SI と

出土遺物・時期　判断した。時期は床面直上出土の有段口縁甕（2358）から終末期と推定した。

（10）竪穴建物Ｇ群

丘陵頂部の平坦面北東斜面上段に分布する総数 21 棟（実数 20 棟）の竪穴建物群で、北向き斜面側の９棟で構成される Ga 群、丘陵側の６棟で構成される Gb 群、北東向き斜面側の６棟（５棟）で構成される Gc 群に細分する。丘陵側の Gb 群には（壁立ち式の可能性がある）大型竪穴建物が含まれる（第 24 図）。

棟数と構成

検出状況

Ga群3606SI（遺構図版148）・3605SI（遺構図版148）・3620SI（遺構図版149）

3605SI、3606SI、3620SI は他の竪穴建物と重複しない。

検出状況・先後関係

3605SI の北西辺付近の床面直上においては、花こう岩製台石（3544）が出土した。竪穴建物南半の床面直上においては加飾広口壷（2361）、広口壷（2362）が出土し、下層から上層にかけても、比較的多くの土器が包含されていた（2363 ～ 2382）。

遺物出土状況

3605SI は覆土中に各時期の土器が混在するが、床面直上出土の内面を段によって区画し、ハケ状工具による羽状刺突文を施した加飾広口壷（2361）から 10 期と推定される。上層から出土した広口壷と思われる個体の体部（2381）の外面には線の描出が明瞭な線刻がある。3606SI は床面直上出土の甕（2383）、加飾広口壷（2384）から５期と推定される。3620SI は床面直上出土の内彎口縁甕（2385）から前期前半と推定した。

出土遺物・時期

Ga群3624SI・3668SI（遺構図版149）

3624SI、3668SI は後世の大溝 1900SD によって大きく欠失する。両者の位置関係から１棟の平面長方形の竪穴建物の可能性も考えられたが、床面の高さが異なることから、別個の竪穴建物と判断した。いずれも時期の確定は難しいが、５期の 3606SI、６期の 3609SI、８期の 3607SI と方位が近似することから、終末期から前期初頭と推定した。

検出状況・先後関係

出土遺物・時期

【Ga 群】
3609SI→（3607SI・）3608SI
3728SI→3609SI

【Gb 群】
3406SI→3409SI→3405SI→3407SI
3409SI→3408SI・3704SI→3407SI

【Gc 群】
3621SI→3622SI
5785SI→6054SI→3622SI（拡張）→5784SI

第24図　竪穴建物Ｇ群の配置

Ga群3728SI・3609SI・3607SI・3608SI（遺構図版150・151）

検出状況・先後関係　3607SI と 3609SI は重複部分が少なく、先後関係の確定は難しい。3609SI は南東辺付近、貯蔵穴 3912SK をそれぞれ囲む周堤帯が伴う。

遺物出土状況　3609SI 南半の床面付近から覆土中には大量の礫が混入し、遺物（2395 ～ 2404）も混在する。

出土遺物・時期　3609SI は床面直上･上層出土の高杯Ｂ 4（2393･2395）、椀形高杯（2398）、広口壷（2401）等から 6 期、3609SI に先行する 3728SI は貯蔵穴 3921SK 出土の大型（平底）鉢（2387）、袋状口縁壷（2388）からも 4 期と推測される。3607SI は下層出土の加飾広口壷（2389）から（3609SI に後出する）８期、3608SI は下層出土の小型高杯（2391）、高杯（2392）から前期前半と推測した。

Gb群3406SI・3409SI・3405SI・3408SI・3704SI・3407SI（遺構図版152～154）

検出状況・先後関係　Gb 群は大型竪穴建物 3409SI、3407SI とそれに重複する中小の竪穴建物で構成される。3409SI は北辺と西辺、3407SI は残存する各辺に壁柱穴と思われる小柱穴が検出されたことから壁立ち式の可能性がある。各竪穴建物の平面形や先後関係の把握はかなり困難で、床面付近を精査する段階でようやく竪穴建物の棟数、平面形が確定した。帰属が不確かなまま採取した遺物も少なくなく、「3407SI 他」とした遺物（2458 ～ 2493）には、Gb 群中の帰属が曖昧な遺物を含めた。

出土遺物・時期　3409SI、3405SI、3704SI の覆土上面で 3407SI の地床炉とそれに伴う床面が検出されたことから、3409SI・3405SI・3704SI → 3407SI の先後関係は確定する。

（壁立ち式の可能性がある）大型竪穴建物 3409SI の貯蔵穴 4038SK、3407SI の貯蔵穴 4097SK は、他の竪穴建物に伴う貯蔵穴と比して著しく深い。前者は中層から上層にかけて小型鉢（2435）、甕（2436）、内彎口縁甕（2437）が出土した。後者は上層に礫が集積され、土坑の中位付近には広口壷の体部破片が敷かれたような状態で残されていた。

3407SI 床面直上・下層出土遺物（2445 ～ 2453）、貯蔵穴 4097SK 出土遺物（2454・2455）は 3407SI に帰属する可能性が高いが、3407SI への帰属が確実ではない遺物については「3407SI 他」とした（2458 ～ 2493）。後者には各時期の土器が混在し、変容したパレス系壷（2465・2466）、菊川式の広口壷（2467）、体部に連弧文を施した内彎口縁壷（2472）、Ｓ字甕Ａ類（2482）、低脚の（不明）器種（2487）等も含まれる。

小型の竪穴建物 3405SI は 3407SI と大きく重複し、10 期に対応すると思われる上層出土の小型の内彎浅鉢（2442）は Gb 群中で最も後出する 3407SI の床面付近に伴っていた可能性が高い。これにより、後出する 3407SI を 10 期、3407SI に先行する 3405SI を 8 期、3407SI に先行し、3405SI に近接する小型の竪穴建物 3704SI を 7 期と推定した。

3405SI と 3704SI に先行する 3409SI は床面直上出土の小型高杯（2421）、椀形高杯（2422）、下層出土の小型壷または小型鉢（2425）、上層出土の有段口縁甕（2433）等から 5 期と推定される。3409SI に先行する 3406SI は床面直上出土の広口壷（2409）以外に、良好な出土状況を示すものが少ないが、口縁端部に刻みを施した甕（2415・2416）、上層出土の有段口縁甕（2417）等から 3 期と推定した。上層出土の小型壷または小型鉢（2413）は、重複（後出）する 3409SI からの混入した可能性がある。3409SI に後出し、3407SI に先行する 3408SI は 8 期の Ga 群 3607SI と近接することから 7 期と推定した。

Gc群3621SI・5785SI・6054SI・3622SI・5784SI（遺構図版156～158）

検出状況・先後関係

6054SI は 3622SI の内側において検出された周壁溝から想定した竪穴建物で、6054SI から 3622SI への拡張と判断した。5784SI は 5785SI と 3622SI の覆土上面に地床炉とそれに伴う床面を構築していることから、5785SI → 5784SI、3622SI → 5784SI の先後関係が確定する。5785SI の床面はほぼ全面が硬化し、明瞭に検出された。

遺物出土状況

3622SI は床面直上において、高杯（2567 ～ 2570）が良好な状態で出土した。5785SI は床面直上において、有段口縁甕（2581）、椀形高杯（2583・2584）、短頸壷（2589）が良好な状態で出土した。5785SI の貯蔵穴 6018SK は主柱穴と同様に著しく深く、底面からやや浮いた位置で口縁端部に刻みを施した甕（2596）が出土した。また、南東辺付近の下層覆土中から銅鏃（3557）と思われる青銅製品が出土した。

出土遺物・時期

5785SI 床面直上出土の土器群（2581 ～ 2589）は４期の良好な一括資料である。有段口縁甕（2581）は加飾を伴わず、全体に器壁が薄い。椀形高杯は杯部が深い個体（2583）と浅い個体（2584）がある。覆土中に包含された土器（2590 ～ 2595）もほぼ同時期に対応する。

3622SI 床面直上出土の高杯Ｂ４（2567・2568）、上層出土の内彎口縁壷（2576）、Ｓ字甕Ｂ類古段階（2579）は６期から７期に対応する。有段高杯（2570）は出土状況から、内彎する円錐形の脚部ではなく、脚裾が大きく開く脚部が伴うと判断した。6054SI、3622SI は４期の 5785SI と接することからも 6054SI は（５期から）６期、3622SI は（６期から）７期と推定される。6054SI（3622SI）に先行する（5785SI にも接する可能性が高い）3621SI は床面直上出土の口縁端部に刻みを施した甕（2558・2559）から２期、後出する 5784SI は前期前半と推定した。

Gc群5770SI（遺構図版155）

検出状況・先後関係

小型の竪穴建物5770SI は他の竪穴建物と重複しない。覆土中には大量の礫と遺物(2494 ～ 2557）を包含する。取り上げに際しては、相対的に覆土の上位において出土した遺物を上層、下位において出土した遺物を下層とした。

出土遺物・時期

出土土器群は７・８期を主体とする。甕は有段口縁甕Ａ（2494）はごく少なく、内彎口縁甕（2498）、縁帯口縁（平底）甕（2523）、平底甕（2524）も散見される。内彎口縁壷（2527）、小型壷または小型鉢（2532）、内彎口縁小型壷（2533）は内彎が形骸化する。高杯は高杯Ｂ５、Ｂ６（2540 ～ 2550）で構成される。椀形高杯は少ない。2539 は遠江系とも思われるが、系譜や時期の詳細は不明である。

（11）竪穴建物H群

棟数と構成

丘陵頂部平坦面南東斜面上段に分布する総数 36 棟（実数 33 棟）の竪穴建物群で、丘陵北西側の 17 棟（16 棟）で構成される Ha 群、丘陵南西側の 9 棟で構成される Hb 群、

検出状況

北東向き斜面側の 10 棟（8 棟）で構成される Hc 群に細分する。竪穴建物は Ha 群と Hb 群に濃密に分布し、Ha 群には（壁立ちの可能性がある）大型竪穴建物、Hb 群には布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物 6000SB が混在する（第 25 図）。

Ha群5808SI・3791SI・3380SI（遺構図版159・160）

検出状況・先後関係

大型竪穴建物 3380SI の北東辺の周壁溝の内側に周溝が確認されたことから、それを拡張前の竪穴建物 3791SI に伴うものと判断した。

出土遺物・時期

3380SI（3379SI）は良好な出土状況を示す遺物は少ないが、床面直上出土の甕（2602）、中型壷（2608）、下層出土の椀形高杯（2615）、掘方出土の内彎口縁壷（2611）、上層出土のパレス系壷（2620）、広口壷（2621）等、8・9 期に対応する個体が多く、拡張を伴う 3380SI（3791SI）を 8・9 期と推定した。5808SI は 3380SI（3379SI）に先行することから、後期から終末期（6 期以前）と推定した。

Ha群3323SI・6212SI・3379SI・4991SI・5653SI・5637lSI・3378SI（遺構図版160～162）

検出状況・先後関係

3378SI は 4991SI の覆土上面に地床炉を伴う床面が構築されていることから、4991SI → 3378SI の先後関係が確定するが、3378SI の平面形は正確に把握することができなかった。

遺物出土状況

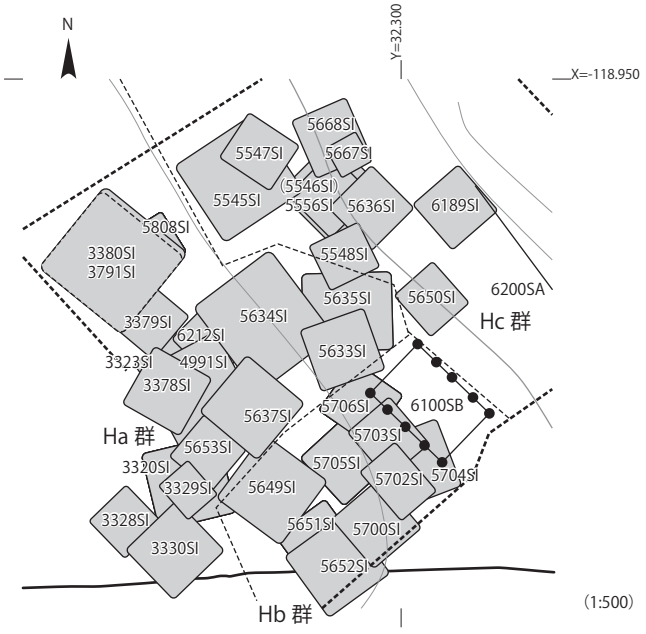
5708SK

5653SI の南隅付近の床面直上においては、花こう岩製磨石（3473）と凝灰岩製置砥石（3518）が出土した。5653SI に重複する小土坑 5708SK 内には、高杯 1 個体（2693）が逆位で埋置されていた。5708SK は竪穴建物または掘柱建物に付属する柱穴の可能性もあ

【Ha 群】
（5808SI→）3791SI→3380SI（拡張）
3323SI→4991SI→3378SI
6212SI→4991SI→5653SI→5637SI・3329SI
（6212SI→）3379SI→3380SI
5635SI→5633SI　5635SI→5634SI
（3328SI→3330SI）
3320SI→（5653SI・）3329SI

【Hb 群】
5651SI→5652SI
5705SI→5700SI→5702SI
5706SI・5705SI・5704SI→5703SI→5702SI

【Hc 群】
5545SI→5547SI
5668SI→5667SI
5556SI（下面）→5546SI（上面）→5548SI



第25図　竪穴建物H群の配置

るが、付属する建物は特定できなかった。その他、3378SI の覆土上面において、大型の板状鉄斧（3562）が出土した。

3379SI は口縁端部に刻みを施した甕（2629）、上層出土の袋状口縁壷（2631）、高杯Ａ２（2632）から３期と推定される。一部分のみを検出した 3323SI と 6212SI は 3379SI に先行する後期（１・２期）と推定した。3378SI は下層出土の高杯Ｂ８等から 10 期（から 11 期）、3378SI に接する 5637SI は下層出土の高杯Ｂ７（2642）、主柱穴 5974SK 出土の甕（2647）等から９期と推定される。下層出土の把手付容器（2645）は木製容器からの転写と考えられる。5634SI と接合関係にあることから、5634SI から混入した可能性もある。5653SI は 5637SI に先行することから７期、4991SI は 5653SI に先行することから５期と推定した。4991SI 下層出土のパレス系壷（2633）は７期に対応することから、本来は 5634SI（後述）に伴っていた可能性がある。　出土遺物・時期

Ha群5635SII・5634SI・5633S（遺構図版164～166）

5633SI は 5635SI の覆土上面に地床炉を伴う床面が構築されていることから、5635SI → 5633SI の先後関係が確定する。5634SI と 5635SI は重複部分が少ないが、先後関係を 5635SI→5634SI と判断した。5634SI と 5633SI の先後関係は確定できなかった。　検出状況・先後関係

5635SI の地床炉は花こう岩の棒状礫と花こう岩製台石（3545）を転用して使用している。5634SI の南東辺付近の床面直上においては、凝灰岩製台石（3543）が出土した。　遺物出土状況

5633SI は下層出土の高杯（2661）、上層出土の甕（2662）等から 10 期、5633SI に先行する 5634SI は下層出土のＳ字甕Ｂ類古段階（2648）、甕（2649）等から７期と推定される。5635SI は 5634SI に先行することから終末期と推定した。　出土遺物・時期

Ha群3320SI・3328SI・3330SI・3329SI（遺構図版163）

3328SI と 3330SI は 3328SI の周壁溝に沿って散在する炭化材が 3330SI と接する南東辺付近には認められないことから、先後関係を 3328SI → 3330SI と判断した。3328SI の地床炉付近の床面直上においては甕（2670）が出土した。　検出状況・先後関係

最も後出する 3329SI は下層出土の甕（2673・2674）等からも 10 期（から 11 期）、3329SI に先行する 3330SI は下層出土の高杯Ｂ７(2686)、庄内系高杯(2688)等から９期、3330SI に先行する 3328SI は床面直上出土の甕（2670）、上層出土の庄内式甕（2671）と手焙形土器（2672）等から７期と推定した。3320SI は７期の 5653SI に先行する可能性が高いことから後期から終末期（４期以前）と推定した。　出土遺物・時期

Hb群5649SI・5651SI・5652SI・5700SI・5705SI・
5706SI・5704SI・5703SI・5702SI（遺構図版167～169）

5649SI は 5651SI、5705SI と接するが、両者との先後関係は確認できなかった。5700SI は遺構検出面に地床炉が露呈した状態で、掘方のみを確認した。5652SI との先後関係は土坑 5851SK の重複により判然としないが、5652SI → 5700SI と判断した。5702SI は炭化材と炭化物が散在する範囲を考慮して検出したが、掘り込みが浅く、平面形が著しい長方形を呈すること、床面が曖昧で、地床炉と主柱穴も検出されなかったことから、竪穴建物としてはやや不確実である。　検出状況・先後関係

5652SI に伴う貯蔵穴 5844SK においては、内彎口縁（小型）壷（2708）が良好な状態で出土した。5705SI に伴う貯蔵穴 5830SK の上面においては、広口壷の体部（2712）が　遺物出土状況

敷かれたような状態で出土した。5649SI は床面直上に炭化材が良好な状態で検出された。

出土遺物・時期　良好な状態で遺物が伴う竪穴建物は少なく、時期の推定は遺構の先後関係に依拠する部分が大きい。5652SI の貯蔵穴 5844SK 出土の内彎口縁（小型）壷（2708）は 7 期に対応し、5652SI に後出する可能性が高い 5700SI は 9 期、5700SI に後出する 5702SI は 10 期（から 11 期）と推定した。5649SI は上層出土の加飾広口壷（2700）から 6 期、5703SI は床面直上出土の甕（2713）等から 8 期、5703SI に先行する 5704SI は床面直上出土の甕（2709）等から 5 期と推定した。7 期の 5652SI に先行し、6 期の 5649SI と接する 5651SI、8 期の 5703SI に先行する 5705SI と 5706SI はいずれも後期から終末期（4 期以前）と推定した。

Hc群5545SI・5547SI（遺構図版170）

検出状況・先後関係　5545SI は地床炉に土器片（未図化）が立位に埋め込まれていた。床面直上においては、炭化材に混在して高杯（2726 ～ 2728）、甕（2729）等が良好な状態で出土した。また、南西辺付近と南東辺付近の床面直上から下層には花こう岩製台石（3546・3547）が正位で置かれていた。

出土遺物・時期　5545SI 床面直上出土の高杯は高杯Ｂ 2（2726）、Ｂ 3（2727）、厚手粗製の高杯（2728）で構成され、5 期に対応する。5545SI に後出する 5547SI は下層出土の高杯Ｂ 7 またはＢ 8（2751）等から 10 期と推定される。

Hc群5668SI・5667SI（遺構図版171）

遺物出土状況　5668SI の北東辺付近の床面直上においては、片麻岩製台石（3548）が出土した。

出土遺物・時期　5667SI は下層出土の内彎口縁壷（2756）から 7 期、5667SI に先行する 5668SI は、5 期の 5545SI とも近接し、後期の 5556SI（5546SI）とも重複することから、4 期と推定した。

Hc群5556SI・5546SI・5636SI・5548SI（遺構図版172）

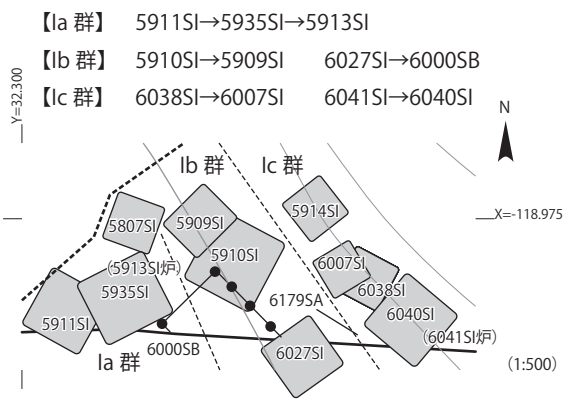
検出状況・先後関係　5556SI の覆土上面において検出された散在する焼土面を平面形は不明ながら、5546SI の地床炉とした（建て替えの可能性がある）。5556SI と 5545SI は重複部分が少ないが、先後関係を 5556SI → 5545SI と推定した。5636SI は周囲に撹乱が多く、平面形や先後関係を明確にできなかった。5548SI と Ha 群 5635SI は先後関係を 5548SI → 5635SI としたが、先後関係を誤認している可能性が高い。5548SI は焼土面が小範囲で、それも床面精査時に失われてしまった。

出土遺物・時期　5556SI（5546SI）は 5545SI、5668SI に重複すること、5556SI 下層出土の椀（ワイングラス）形高杯（2758）から、確実ではないが、後期（1・2 期）と推定した。5548SI は先後関係を誤認しているものとして、下層出土の高杯（2766）から 10 期と推定した。5636SI は床面直上出土の広口壷（2760）、内彎口縁甕（2761）、甕（2762）等から 8 期と推定した。

Hc群5650SI（遺構図版171）・6189SI

検出状況・先後関係　5650SI は他の竪穴建物と重複しない。6189SI は斜面の流出により、竪穴建物の周壁

出土遺物・時期　溝のみが残存する。時期は高杯Ｂ 6 またはＢ 7（2767・2768）から 9 期と推定される。6189SI は時期不明とした。



第26図　竪穴建物Ⅰ群の配置

(12) 竪穴建物Ⅰ群

丘陵頂部平坦面東緩斜面に分布する総数12棟（実数10棟）の竪穴建物群で、平坦面側上位の４棟（３棟）で構成されるIa群、中位の３棟で構成されるIb群、斜面側下位の５棟（４棟）で構成されるIc群に細分する。Ia群とIb群間には布掘り柱掘方をもつ大型の掘立柱建物6000SBが混在する（第26図）。

棟数と構成

検出状況

Ia群・5911SI・5935SI・5913SI（遺構図版173）

5935SIの覆土上面において検出された焼土面を5913SIの地床炉とした（平面形等は不明）。5911SIは下層出土の内彎口縁壺（2779）、甕（2781）等から６期、5911SIに後出する5935SIは高杯（2782・2783）等から８期と推定される。5935SIに後出する5913SIは10期と推定した。

検出状況・先後関係

出土遺物・時期

Ia群5807SI（遺構図版174）

5807SIは小範囲の焼土を検出したが、他の竪穴建物と同様の明確な地床炉ではなかった。南半の床面付近（下層）においては、甕（2773・2774）、有段口縁甕（2775）、高杯（2776）、中型壺（2777）等が散在して出土した。土器群は４期に対応する。

検出状況・先後関係

出土遺物・時期

Ib群5910SI・5909SI（遺構図版174）

5909SIの床面直上においては、高杯（2789）が良好な状態で出土した。時期は床面直上出土の高杯Ｂ７（2789）、上層出土のＳ字甕Ｂ類新段階（2794）から９期と推定される。5909SIに先行する5910SIは内彎浅鉢（2797）等から７期と推定した。

検出状況・先後関係

出土遺物・時期

Ib群6027SI（遺構図版175）

大部分が調査区外で時期不明としたが、掘立柱建物6000SBの布掘り溝6015SDと重複し、それに先行することを調査区壁面の土層断面から確認した。

検出状況・先後関係

Ic群5914SI（遺構図版175）

5914SIは他の竪穴建物と重複しない。時期は下層出土の甕（2806）、高杯Ａ３（2810）から３期と推定される。

検出状況・先後関係

出土遺物・時期

Ic群6041SI・6038SI・6040SI・6007SI（遺構図版176）

調査区壁面において確認した焼土面を地床炉とする竪穴建物を6041SIとした。平面形は検出できなかったが、土層断面から6041SI → 6040SIの先後関係を確認した。

検出状況・先後関係

6007SIは下層出土の高杯（2811）から10期、6040SIは床面直上出土の甕（2812）、口縁部の内彎が弛緩した内彎口縁壺（2813）、下層出土の加飾広口壺（2816）、上層出土の小型壺または小型鉢（2820・2821）から９期と推定される。6007SIに先行し、6040SIと接する6038SI、6040SIに先行する可能性が高い6041SIは後期から前期初頭（７期以前）とした。帰属する建物は不明ながら、6076SKからは、有段口縁甕（2823）と組帯文を線刻した高杯（2824）が出土した。土器群は４期に対応する。

出土遺物・時期

（13）竪穴建物 J 群

棟数と構成　北斜面から北東斜面にかけて分布する 11 棟の竪穴建物群で、北斜面上位の 3 棟で構成される Ja 群、下位の 2 棟で構成される Jb 群、北東斜面上位の 4 棟で構成される Jc 群、

検出状況　下位の 2 棟で構成される Jd 群に細分する。竪穴建物は相互に重複しない。竪穴建物の主軸方向は概ね地形の方向に一致する（第 27 図）。

Ja群3515SI・3535SI・3666SI（遺構図版177）

遺物出土状況　3515SI の南辺（丘陵側）付近においては、礫に混じって土器が散在して出土した。時

出土遺物・時期　期は床面直上出土の広口壷（2825・2826）、下層出土の高杯（2830）等から、前期前半と推定した。上層に包含される西遠江系の有段（複合）口縁壷（2833）、菊川式の広口壷（2834）、扇形文を施した加飾広口壷（2835）は混入と思われる。

3535SI は終末期（4 期）以降、3666SI は時期不明とした。

Jb群3602SI・3603SI（遺構図版178）

遺物出土状況　3602SI の下層から床面付近においては、甕（2840）、椀形高杯（2847・2848）、小型

出土遺物・時期　壷または小型鉢（2852）等の土器が良好な状態で出土した。土器群は 6 期に対応する。3603SI は下層出土の内彎口縁甕（2856）から前期初頭から前期前半と推定した。

Jc群5600SI・5553SI・5555SI・5554SI（遺構図版179）

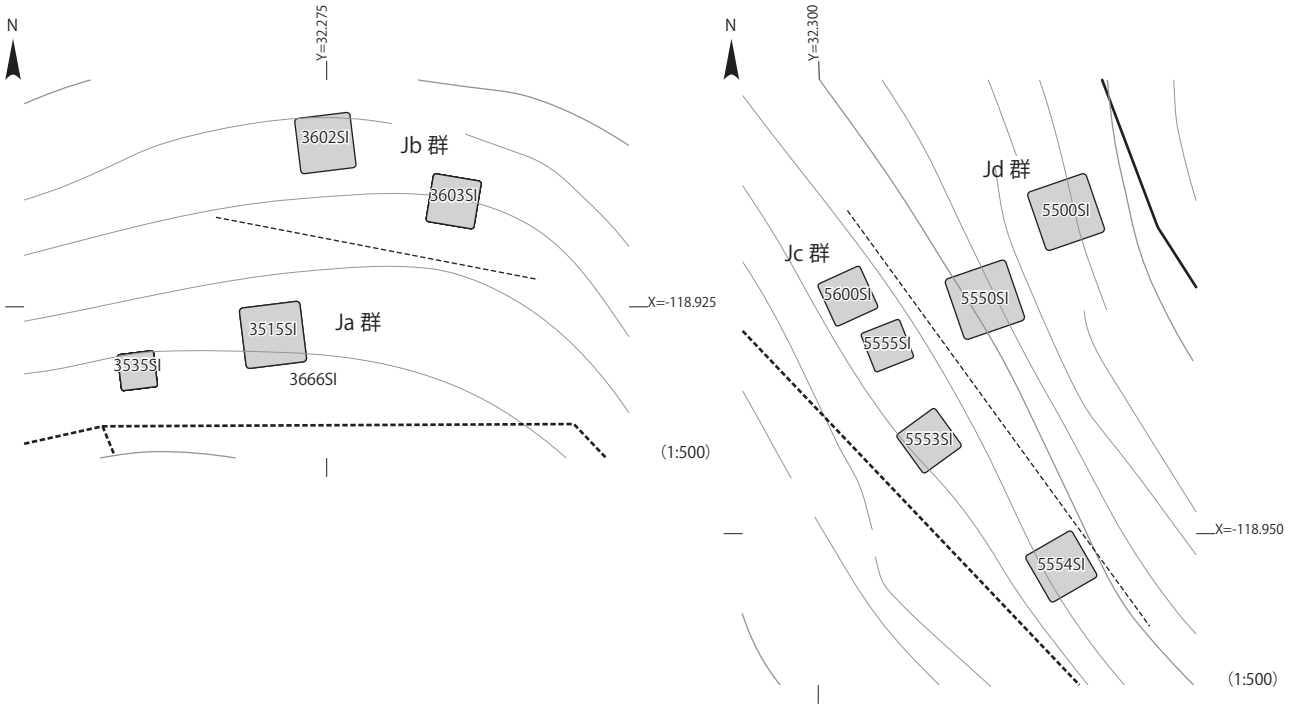
遺物出土状況　5600SI の床面直上において、内彎口縁小型壷（2857）等が出土した。時期は 6 期と推

出土遺物・時期　定した。5553SI は床面直上出土の口縁部が内彎する大型の平底鉢（2860）、下層出土の甕（2861）、広口壷（2863）から 6 期と推定される。5555SI、5554SI は時期不明とした。

Jd群5550SI・5500SI（遺構図版180）

遺物出土状況　5500SI 北西隅の床面直上においては、甕（2872・2873）、椀形高杯（2874）、小型壷（2875）

出土遺物・時期　が良好な状態で出土した。時期は 6 期と推定される。5550SI は上層出土の口縁端部に刻みを施した甕（2868）、高杯（2870）等から 4 期と推定した。



第27図　竪穴建物 J 群の配置

（14）竪穴建物Ｋ群

丘陵東端から北東端（丘陵東部の長頭貝津地区）は遺構検出面付近が高位段丘を構成する砂礫層に相当する。周囲は遺構の分布も希薄で、丘陵東端で 0016SI（Ka 群）、北東端で 0121SI（Kb 群）の各１棟を検出した（第 28 図）。　検出状況　棟数と構成

Ka群0121SI（遺構図版181）

覆土中にも礫が多く含まれ、礫に混在して遺物も出土した。床面直上においては花こう岩製磨石（3478）、下層からは泥質凝灰岩製手持砥石（3522）、片麻岩製台石（3549）が出土した。また、遺構に伴わないが、床面直上において、凝灰質砂岩製有溝砥石（3045）が出土した。貯蔵穴 SP1 においては、中型壷（2896）が出土した。　遺物出土状況

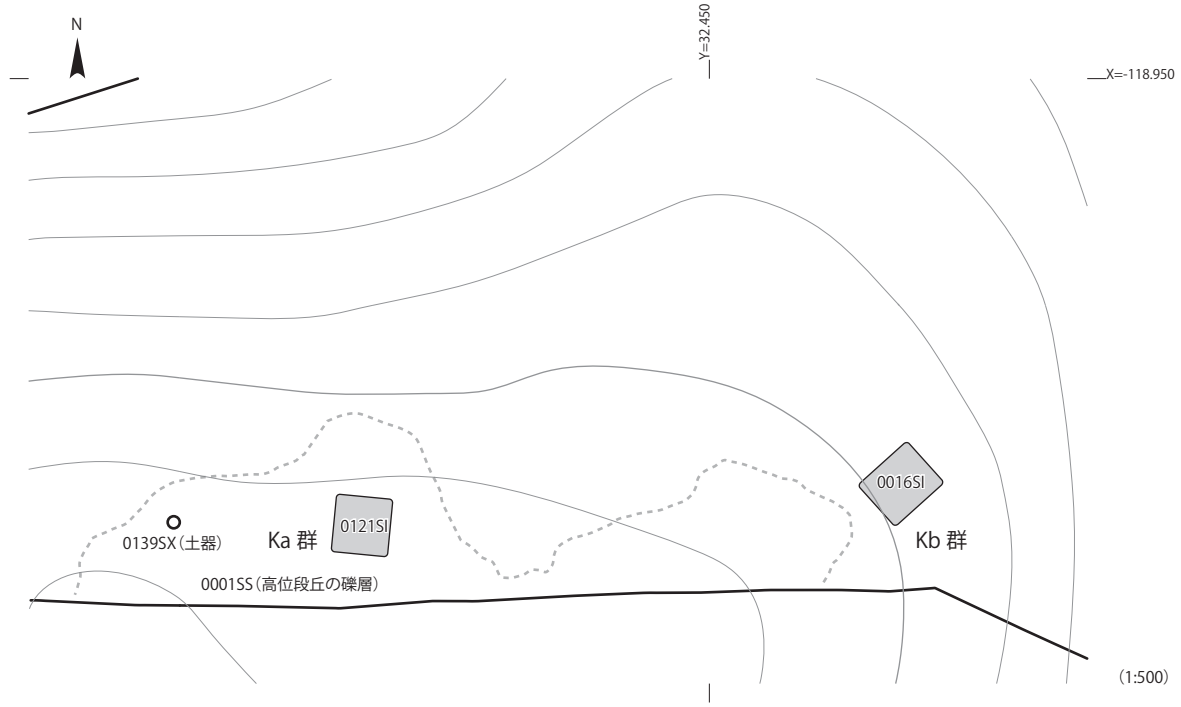
時期は下層出土の甕（2885・2886）、Ｓ字甕Ｂ類新段階（2889）、床面直上・上層出土の高杯Ｂ７（2890・2891）、床面直上出土のパレス系壷（2892）、貯蔵穴 SP1 出土の中型壷（2896）等から９期と推定される。　出土遺物・時期

その他、礫層が露出する西端付近（Ka 群西端付近）において、礫に混在して広口壷（2897）が正位の状態で出土した（0139SX）。広口壷の底部は丸底に近い。　0139SX

Kb群0016SI（遺構図版181）

竪穴建物のほぼ中軸線上の床面直上には花こう岩の棒状礫が置かれ、礫を地床炉に伴うものと判断したが、周囲はほとんど被熱していなかった。貯蔵穴 SP2 においては、小型壷（2884）が出土した。覆土上層には長大な花こう岩製台石（3550）も含まれていた。　床面状の礫　遺物出土状況

時期は下層出土の高杯Ａ３（2878・2880）、床面直上出土の高杯Ａ３またはＢ１（2879）等から３期と推定される。その他、杯部と脚部の接合部分に列点を施した高杯（2881）が覆土中から出土した。　出土遺物・時期



第28図　竪穴建物Ｋ群の配置

（15）掘立柱建物・柱穴（列）

概要

検出棟数
分布

弥生時代後期から古墳時代前期に帰属する掘立柱建物は８棟を確認（復原）した（第９表）。布掘り柱掘方をもつ大型の掘立柱建物 3300SB とやや大型の 5000SB は丘陵頂部の平坦面、布掘り柱掘方をもつ大型の掘立柱建物 6100SB と 6000SB は丘陵頂部北東の縁辺に分布し、丘陵の北西から南西の縁辺には複数棟の小型の掘立柱建物が配される。

その他

また、掘立柱建物が想定されるような柱穴列も幾つか確認したが、竪穴建物の著しい重複もあって確実性を欠く。また、桁行１間・梁行１間の柱配置は削剥された竪穴建物の主柱穴の可能性も十分に想定されることから、掘立柱建物としての復原は桁行２間以上の建物に限定した。その他、掘立柱建物の復原に及ばなかった柱穴列（掘立柱柵）、特に大きな掘方をもつ柱穴がある。

3300SB（遺構図版182）

規模・平面形
重複・先後関係

竪穴建物 Df 群中において検出した。桁行４間・6.6m、梁行１間 4.8 m、床面積 31.7 ㎡の遺跡最大の掘立柱建物で、両桁行方向に布掘り柱掘方をもつ。大型竪穴建物 3261SI（3057SI）、3215SI と重複し、3282SI、3206SI、3205SI、Dc 群 3037SI とも接する位置に構築される。柱穴 3276SK･5134SK が 3215SI の覆土上面から掘り込まれていること、3215SI の地床炉が柱穴 5133SK によって欠失していることによって、3215SI に後出することを確認した。

柱掘方と柱痕跡

布掘り柱掘方は桁行方向を溝状に掘削し、さらに各柱穴の位置を 20cm から 60cm 程度の深さで柱掘方を壷掘りする類型で、東隅の隅柱に相当する柱穴 3202SK は径 1.0m 前後と柱掘方も大きい。柱痕跡は 5131SK、5138SK、5140SK、5141SK、3020SK、5135SK、3145SK、5133SK で確認し、5140SK、5134SK では柱の自重と建物の荷重によると思われる窪み（柱の当たり）も確認した。柱痕跡と柱の当たりから、柱の径は 20cm 前後と推測される。

時期

先行する 3215SI は８期（から９期）で、建物の構築は 3215SI の埋没後（10 期から 11 期）、遺跡の最終末に近い時期と考えられるが、3300SB は 10 期（11 期）の 3206SI とも接することから、構築時期の推定には問題も残る。

出土遺物

遺物は布掘り溝 3040SD から広口壷（1716）、甕（1717）、高杯（1718・1719）、柱穴 5135SK から甕（1720）、柱穴 5134SK から中型鉢（1721）が出土している。上記に推定した時期に照らすと、高杯（1718・1719）は建物の構築時に混入した可能性が高いと思われる。

第９表　掘立柱建物一覧（弥生時代後期から古墳時代前期）

群	遺構番号	種別	大別時期	細別時期	方位	桁行	（m）	梁行	（m）	面積（㎡）	長短比
Df	3300SB	布掘建物	（前半）	（９期）	N-48°-E	４間	6.6	１間	4.8	31.7	0.73
Fc	5000SB	側柱建物	（後期・終末）	（５期以前）	N-52°-W	3間	5.2	１間	3.6	18.7	0.69
Hb	6100SB	布掘建物	（初頭）	（７期）	N-46°-E	４間	6.6	1間	4.5	29.7	0.68
Ia/Ib	6000SB	布掘建物	（前半）	（10期）	N-44.5°-E	（4間）	5.1以上	１間	5.0	25.5以上	-
De	5400SB	側柱建物	不明	不明	N-6°-E	３間	4.2	１間	3.0	12.6	0.71
Da	5200SB	側柱建物	不明	不明	N-25°-E	３間	4.5	２間	3.6	16.2	0.80
Da	5300SB	側柱建物	不明	不明	N-12°-E	２間	3.6	2間	2.7	9.7	0.75
Da	4900SB	側柱建物	不明	不明	N-36°-E	２間	3.6	１間	2.5	9.0	0.69

5000SB（遺構図版183）

竪穴建物 Fc 群中において検出した。桁行３間・5.2m、梁行１間 3.6 m、床面積 18.7 ㎡のやや大型の側柱建物である。大型竪穴建物 3623SI（3388SI）、3389SI と重複するが、3623SI（3388SI）の床面の精査時に建物の存在を認識したことから、それらとの先後関係は十分に検討することができなかった。　規模・平面形　重複・先後関係

柱痕跡は確認されず、いずれも抜き取られた可能性がある。柱掘方（抜き取り穴）が深さ 80cm 前後の深い柱穴も多い。なお、4753SK は柱の当たりと思われる窪みを確認した。　柱掘方と柱痕跡

出土遺物は柱穴 4354SK から甕（2330）が抽出されるのみで、時期を明確にすることは難しい。周囲の竪穴建物との位置関係を参考にすると、６期の大型竪穴建物 3623SI、3623SI から拡張された７期の 3388SI、3388SI に後出する９期の 3389SI に重複し、（壁立ち式の可能性がある）大型竪穴建物 Gb 群 3407SI にも近接することから、５期以前（後期・終末期）の可能性が高いと思われる。　出土遺物・時期

6100SB（遺構図版184）

竪穴建物 Hb 群中において検出した。桁行４間・6.6m、梁行１間 4.5 m、床面積 29.7 ㎡の大型掘立柱建物で両桁行方向に布掘り柱掘方をもつ。（一方の桁行が）5704SI、5703SI、5706SI と重複するが、先後関係は明確に確認することができなかった。　規模・平面形　重複・先後関係

布掘り柱掘方は 3300SB と同様の類型で、柱痕跡は 6152SK、6151SK、6162SK、6147SK で確認した。柱痕跡から、柱の径は 20cm 前後と推測される。　柱掘方と柱痕跡

遺物は 6154SK から小型壷（2723）と小鉄片またはヤリガンナ（3566）、6151SK から甕（2724）が出土した。6151SK においては粘土も検出した。6154SK の抜き取り穴の上面で出土した小型壷（2723）は、口縁部が著しく短い小型壷Ａ２で、体部全面にハケ調整を施すことからも、前期初頭（７期）以降に対応する。重複する 5706SI は４期以前、5704SI は５期、5703SI は８期、また、近接する 5702SI が 10 期と推定されることも参考にすると、構築は７期に求められる可能性が最も高いと思われる。　出土遺物・時期

6000SB（遺構図版185）

竪穴建物 Ia・Ib 群中において検出したが、南半は調査区外に展開する。桁行３間・5.1m 以上、梁行１間・5.0 m、床面積 25.5 ㎡以上の大型掘立柱建物で両桁行方向に布掘り柱掘方をもつ。確認した一方の桁行は３間分であるが、布掘り溝が調査区壁まで続くことを確認し、Hb 群中の 6100SB とほぼ柱筋を揃えていることから、6100SB と同じ規格の桁行４間、梁間１間に復原される可能性が高い。（一方の桁行が）5910SI、6027SI と重複し、柱穴 5936SK が 5910 覆土上面から掘り込まれていることから 5910SI に後出すると判断した。また、調査区壁において布掘り溝 6015SD が 6027SI に後出することも確認した。　規模・平面形　重複・先後関係

布掘り柱掘方は 3300SB、6100SB と比較して相対的に深く、各柱穴の深さは布掘り柱掘方の深さに近似することから、掘削した布掘り溝を埋め戻してさらに柱位置を壷掘りしたことも想定される。柱痕跡は確認されていないが、西隅の隅柱に相当する 6006SK は柱穴の底面に拳大程度の礫（栗石）を詰め込んで基礎を固めていた。また、6160SK、5936SK は柱の当たりによって、柱穴の底面の土質が変化していることを確認した。　柱掘方と柱痕跡　基礎固め

遺物は 5936SK から内彎口縁壷（2801）、布掘り溝 6015SD から縁帯口縁甕（2802）が出土した。内彎口縁壷（2801）は口頸部高が体部高を凌駕する小型の内彎口縁壷Ｂ１　出土遺物・時期

で、底部は安定した平底を呈する。縁帯口縁甕（2802）は折り返された口縁部が特に厚い。先行する5910SIは7期と推定され、8期の5935SI、9期の5909SIとも近接することから、6000SBの構築は10期に求められる可能性がある。ただし、この想定は5936SK出土の内彎口縁壷（2801）の時期（型式）と出土状況（遺構の帰属）に問題を残す。

5400SB（遺構図版186）

規模・平面形　竪穴建物Da群中において検出した。桁行3間・4.2m、梁行1間・3.0 m、床面積12.6 ㎡の側柱建物である。柱痕跡は4654SK、3832SKで確認した。南西隅の隅柱の柱穴がやや浅いことから、桁行2間に復原される可能性もある。出土遺物は抽出されず、詳細に時期を検討することは難しい。

柱掘方と柱痕跡

出土遺物・時期

5200SB（遺構図版186）・遺構図版5300SB・4900SB（遺構図版187）

規模・平面形　いずれも竪穴建物Da群中で検出した側柱建物で、丘陵頂部平坦面西緩斜面に等高線に沿うようにして分布する。平面形・規模は5200SBが桁行3間・4.5m、梁行2間・3.6 m、床面積16.2 ㎡、5300SBが桁行2間・3.6m、梁行1間・2.7 m、床面積9.7 ㎡、4900SBが桁行2間・3.6m、梁行1間・2.5 m、床面積9.0 ㎡である。いずれも柱穴の径は小さい。出土遺物は抽出されず、詳細に時期を検討することは難しい。

柱掘方と柱痕跡

出土遺物・時期

3317SK・3850SS（遺構図版185）

大型柱穴　3317SKは竪穴建物Fb・Fd群中で検出した径1.6m以上、深さ1.6 mを計測する大型の土坑で、調査区外に展開する掘立柱建物の柱穴を想定した。土坑底面から前期前半（9期）に対応する小型の平底甕（2359）が出土した。

集石（基礎）　3850SSは竪穴建物Ea群西端で検出した集石で、柱掘方は検出されなかったものの、緩斜面の整地後に、掘立柱の基礎固め（または礎石）のように拳大から人頭大の礫が敷かれていた。遺物を伴わず、時期も不明である。

柱穴列（掘立柱柵）

概要　柵の可能性がある柱穴列は丘陵頂部の平坦面とその縁辺で10基程度（5450SA・5460SA・5350SA・5250SA・5490SA・5480SA・5430SA・5160SA・6200SA・6179SA）を復原した（第10表・第29図）。

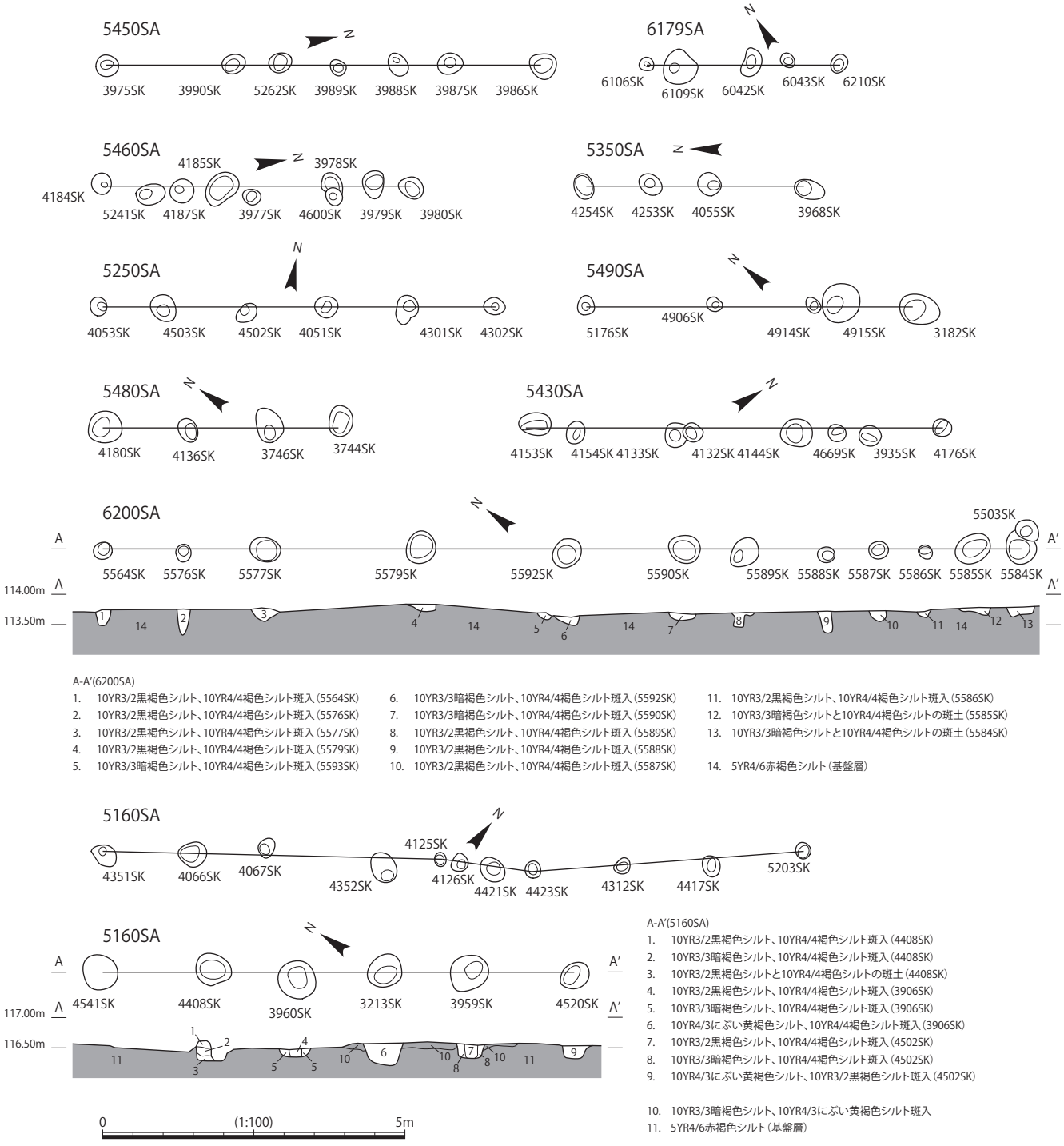
5160SA　Fc群中の5160SAは北東—南西方向の柱穴列と北西—南東方向の柱列で、やや大型の掘立柱建物5000SB、大型竪穴建物3623SI（3388SI）を区画することも想定されるが、

6260SA　柱穴列の復原にはやや難がある。Hc群中の6260SAは丘陵頂部平坦面の北東の縁辺において検出した。布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物6100SBとの関連も想定される一方で、中世の大溝1900SDにも沿うことから、中世以降に帰属する可能性もある。

第10表　柱穴列（掘立柱柵）一覧

群	遺構	方位	柱間	m	備考
Eb/De	5450SA	N-10°-E	6間	7.2	
Eb/De	5460SA	N-9°-E	5間	5.1	
Eb/De	5350SA	N-1.5°-W	3間	3.6	
Eb/Ec	5250SA	N-79.5°-E	5間	6.5	
Ec/De	5490SA	N-41°-W	3間	5.4	
Ec/Ga	5480SA	N-34.5°-W	3間	3.9	
Fc/Ec	5430SA	N-32°-E	6間	6.9	
Fc/Ec	5160SA	N-50°-E	8間	11.6	区画？
Fc/Fa		N-34°-W	5間	7.8	
Hc/Jd	6200SA	N-36.5°-W	11間	15.2	中世？
Ib/Ic	6179SA	N-58°-W	4間	3.2	

その他　他の柱穴列は長さも短く、明確な区画を構成する施設を想定することは難しいが、各竪穴建物群の縁辺（竪穴建物群間）で検出される傾向が認められ、竪穴建物群が何らかの簡易な施設によって区画されていたことを示唆する。



A-A′(6200SA)

1. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5564SK）
2. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5576SK）
3. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5577SK）
4. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5579SK）
5. 10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5593SK）
6. 10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5592SK）
7. 10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5590SK）
8. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5589SK）
9. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5588SK）
10. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5587SK）
11. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（5586SK）
12. 10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの斑土（5585SK）
13. 10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの斑土（5584SK）
14. 5YR4/6赤褐色シルト（基盤層）

A-A′(5160SA)

1. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（4408SK）
2. 10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（4408SK）
3. 10YR3/2黒褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの斑土（4408SK）
4. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（3906SK）
5. 10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（3906SK）
6. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（3906SK）
7. 10YR3/2黒褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（4502SK）
8. 10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/4褐色シルト斑入（4502SK）
9. 10YR4/3にぶい黄褐色シルト、10YR3/2黒褐色シルト斑入（4502SK）
10. 10YR3/3暗褐色シルト、10YR4/3にぶい黄褐色シルト斑入
11. 5YR4/6赤褐色シルト（基盤層）

第29図　柱穴列（掘立柱柵）

（16）弥生時代後期から古墳時代前期の石器・石製品

概要

記述の方針

この時期は、今回の石座神社遺跡の調査において、最も中心となる時期である。竪穴建物内などで、良好な状態で石器の出土を見た。ここでは、その石器群について、報告を行う。

遺物の配列は器種別のもと、遺構順やそれに準じた出土地区の順番になっている。

器種

出土した遺物の器種には、磨石敲石類、石皿台石類、砥石、そして紡錘車などがある。これらの中で、竪穴建物の床面直上で特に有意な出土状況を示すものの一例に、5653SI 出土の 3473（磨石敲石類）と 3518（砥石）がある（写真図版 82）。遺物図版の遺物番号上位に、「床直」と示したものは、遺構との出土関係が特に有意なものであり、今回図示した資料でいえば 34 例を提示できる（第 11 表）。

出土状況

第 11 表　竪穴建物床面直上出土の石器と伴出状況

群	遺構番号	時期	磨石敲石類	砥石	石皿台石類
9	Aa 1958SI	9期			3523
11	Ab 1991SI	4期	3432		3524
23	Ac 1454SI	8期		3485	
27	Ac 1456SI	8期	3436		
31	Ad 1464SI	6期	3439		
48	Ae 1200SI下面	3期		3491	
52	Ae 1224SI	8期	3444		
83	Ca 1338SI	9期			3528
95	Cb 1180SI	9期			3526
103	Cd 1157SI	10・11期			3529
107	Cd 1331SI	10期	3454		
113	Ce 3006SI	8期		3494	
122	Da 1872SI	9期			3531
155	Dc 3079SI	9期		3497	3532・3551
159	Dd 4337SI	5期			3533
179	Df 3215SI	8期			3534
181	Df 3205SI	7期		3500・3501	
184	Dg 3121SI	9期			3535・3536
193	Eb 3375SI	5期		3507	
196	Eb 3710SI	（4・6期）		3509	
202	Ec 3933SI	5期	3463		3537
222	Fa 4309SI	（1・2期）		3514・3515	
223	Fa 3190SI	10期	3465		
240	Fc 3389SI	9期			3541
241	Fc 3388SI	7期			3540
250	Fd 3273SI	6期	3470	3516	3542
254	Ga 3605SI	10期			3544
281	Ha 5653SI	7期	3473	3518	
284	Ha 5634SI	7期			3543
285	Ha 5635SI	（4・5期）			3545
301	Hc 5545SI	5期			3546・3547
302	Hc 5668SI	（4期）			3548
319	Ic 6040SI	9期	3475		
333	Ka 0121SI	9期	3478		

セット関係

これらの遺構は、特に保存状況が良好であったことを示唆するものであり、磨石敲石類と砥石あるいは石皿台石類とのセット関係が認められる 1991SI（3432・3524）、3933SI（3463・3537）、3273SI（3470・3516・3542）、そして 5653SI の各事例は、当時の具体的活動内容を示唆する事例として、注目できる。

磨石敲石類（3432～3480）

古墳時代

使用痕として、敲打痕や磨痕が認められるものである。縄文時代に属する可能性のあるものとして、先に 13 点を報告したが、それを除き 68 点を確認し、49 点を図化した。

形態による分類

形態としては、平円状・直方体状、棒状、三角柱状・球状・分銅状の 3 群に分けられる。

平円状・直方体状

平円状・直方体状（3432 ～ 3434・3437・3440 ～ 3444・3446・3447・3449・3452・3454・3457・3458・3460・3463・3465 ～ 3468・3471・3472・3474・3475・3477・3478）は、最も多く認められるものである。部分的に敲打痕が認められるものもあるが、ほぼすべてに磨痕が認められることから、磨石としての使用が主体であったといえる。

棒状

棒状（3435・3438・3439・3451・3453・3455・3456・3462・3469・3470）は、

平面および側面に磨痕が認められるものが多い。中には端部に敲打痕が認められるものもある。

三角柱状・球状・分銅状

三角柱状・球状・分銅状（3436・3445・3448・3450・3459・3461・3464・3473・3476・3479・3480）は、いずれも端部に著しい磨面が形成されるもので、スタンプ様を呈する。この一群が、石座神社遺跡出土の磨石の中で特徴的なものといえる。

石材

使用石材は、花こう岩17点、変塩基性岩13点、砂質凝灰岩８点、片麻岩８点、凝灰岩６点、砂岩５点、凝灰質砂岩３点、アプライト２点、安山岩３点、塩基性岩２点、角閃石１点である。

用途

法量・形状

蛍光Ｘ線分析

この磨石敲石類の中の最も顕著な特徴は、光沢を持つほど平滑になった磨痕である。用途としては、硬い砂状のものをさらに細かい粉末にする際に使用された可能性がある。対象物については断言できないものの、赤色顔料精製に関わるものの可能性もあろう。但し、器面に若干認められた赤色部分を蛍光Ｘ線分析で測定しても、水銀朱の成分は検出されなかったことを付言しておく。

砥石（3481～3498・3500～3522）

置砥石・手持ち砥石

今回の調査で71点を確認し、41点を図化した。法量および形状から、大きくは、台石形状の置砥石と、棒状などの磨石様の手持砥石とに分けられる。使用痕としては平坦部分の形成や浅い凹みが形成されることが多く、削痕状の筋に混じって、鋭く細い溝が形成されたものもある。また、3486や3492のように、削痕の進行方向に対して垂直方向に連続した筋が認められるものもある。鉄器などの金属製利器の加工などに使用されたものと考えられる。

作業工程と石材

砥石は、作業工程上、目の細かさによって荒砥石から仕上げ砥石まで複数段階に分けられるが、それは使用石材によってある程度分類が可能である。凝灰岩24点、片麻岩13点、砂質凝灰岩７点、安山岩７点、泥質凝灰岩４点、緑色片岩４点、凝灰質砂岩２点、凝灰質泥岩２点、熔結凝灰岩２点、花こう岩２点、黒色片岩１点、変塩基性岩１点、塩基性岩１点、泥岩１点で、花こう岩以外はキメの細かい石材が多く、仕上げ砥石に対応するものが多いか。

石皿台石類（3523～3551）

使用痕

大きく扁平な平石を用いたもので、使用痕には敲打痕や磨痕が認められるが、大多数のものには磨痕の分布が認められる。36点を確認し、29点を図化した。平面のみならず側面にも使用による磨面が認められるものもある。使用石材は花こう岩15点、片麻岩６点、砂質凝灰岩５点、凝灰岩５点、塩基性岩２点、アプライト１点、安山岩１点、ハンレイ岩１点である。

石材

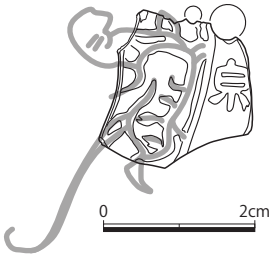
紡錘車など（3552～3555）

法量・用途

紡錘車は３点確認した。厚さはいずれも１cm弱であるが、推定径４cmほどのもの（3552）と推定径６cmほどのもの（3553・3554）があり、対象とする繊維など、用途などが異なるか。石材は砂質凝灰岩あるいは凝灰岩である。3555は紡錘車と同様な作り方をしているものではあるが、中央に穿孔が認められないものである。これも石材は凝灰岩である。

石材

（17）弥生時代後期から古墳時代前期の金属製品



第30図　図像の復原

概要

構成

弥生時代後期から古墳時代前期の金属製品として、破鏡（3556）、銅鏃（3557）、板状青銅製品（3558）、銅滴または青銅滓（3559・3560）、板状鉄斧（3561・3562）、ヤリガンナ（3563）、鉄剣（3564）、小鉄片（3565･3566）が出土した。

破鏡（方格規矩四神鏡）

出土状況・時期

破鏡（3556）は丘陵頂部平坦面南西端に分布する竪穴建物Da群3002SIから出土した。竪穴建物の時期は前期前半（９期）と推定される。

遺存状況

遺存状況は良好であるが、蛍光X線分析の結果、青銅の組成は本来の銅、スズの組成比が逆転し、スズが占める割合が多い結果を示すことから、銅成分はかなり土中に溶出したものと思われる。

研磨と穿孔

破鏡の鏡面、破断面は丁寧に研磨され、破断面には２小穴が確認される。

型式

破鏡は岡村秀典による編年の漢鏡５期（後漢前期、１世紀中葉）に対応し、型式は方格規矩四神鏡Ⅴ A 式である（岡村 1993）。

銘文

銘帯の「泉」の文字が明確に読み取れることから、銘文は樋口隆康による分類の（K）式銘（樋口 1983)､「尙方作竟眞大巧､上有仙人不知老､渴飮玉泉飢食棗、浮游天下敖四海、徘徊神山采芝草、壽如金石爲國保」で、文字は三句目の「泉」と思われる。（K）式銘は四神鏡に圧倒的に多いとされ、原鏡としては、七言六句の完銘から四句銘に省略が進んだ段階の四神鏡が（後述する図文との位置関係からも）相応しい。

字体

字体は岡村秀典による分類の「字体Ⅰ」、「細線で表現されるが、筆線の丸味を失ない、全体がこじんまりとした正方体のもの」で「一種の隷体」（岡村 1984）である。

図像の復原

方格内の十二支の銘帯と（K）式銘の配置関係から、「泉」の文字付近には白虎が配されることが多い。このことから推測すると、残存する主文の図像は右向きの白虎と推測され、不鮮明なものの、左から白虎の尾、後足、体躯、羽、首、前足の表現が見て取れる（第30図)。原鏡の類例としては、羽咋郡宝達志水町宿東山１号墳出土鏡（石川県立埋蔵文化財センター 1987）がある（出土破鏡については､岡村秀典氏より詳細なご教示を頂いた)。

その他の青銅製品

銅鏃

銅鏃（3557）は残存長 3.2cm、残存幅 1.2cm、厚さ 0.4cm、重さ 3.2 ｇで、鏃身は細身のようである。Gc 群 5785SI 下層出土で、終末期（４期）に対応する。

板状青銅製品

板状青銅製品(3558)は残存長 4.2cm､残存幅 6.5cm､厚さ 0.2 ～ 0.3cm､重さ 16.6 ｇで、全体に彎曲する形状を呈する。文様は確認できないが、全体の形状や厚さから銅鐸破片の可能性も想定される。Dd 群 4340SI 上層出土で、前期初頭に対応する可能性がある。

銅滴または銅滓

銅滴または青銅滓（3559・3560）は１cm から２cm 程度の大きさで、明確な形状を呈さない。西向き斜面の包含層中から出土した。詳細な時期は不明である。

板状鉄斧

小型板状鉄斧

板状鉄斧（3561）は刃部付近をわずかに欠損するが、全体に良好な状態で遺存する。

法量・形状

全長 6.5cm、刃部幅 3.4cm、身部幅 2.5cm、身部の厚さ 0.6cm、重さ 31.4 ｇを計測する小型品で、身部から刃部にかけて撥状に広がる形状を呈する。

型式

両刃の加工用で、川越哲志による分類のＡ２型板状鉄斧（川越 1993）に相当する。

出土状況・時期

竪穴建物 Ae 群 1178SI 床面

直上出土で、前期初頭（６・７期）に対応する。

板状鉄斧（3562）は身部で折損し、全体に層状の剥離が進行する。残存長 10.1cm、刃部幅 4.3cm、身部幅 3.9cm、身部の厚さ 0.7cm、重さ 109.1 ｇを計測する大型品で、刃部幅が身部より大きい梯形を呈する。両刃の伐採用で、川越哲志による分類のＡ１型板状鉄斧に相当する。竪穴建物 Ha 群 3378SI 上層出土で、前期前半以降（11 期）に対応する。

大型板状鉄斧
法量・形状
型式
出土状況・時期

ヤリガンナ

ヤリガンナ（3563）は刃部と身部で折損した状態で出土し、部分的に変形する。残存長 8.5cm、刃部幅 1.2cm、身部幅 0.9cm、重さ 12.0 ｇで、刃部が身部幅よりやや大きい（刃と身が分化する）。刃部には鏑と反りがあり、断面は「Ｖ」字状を呈する。身部の横断面形は長方形で、厚さは 0.7cm とかなり厚い。川越哲志による分類のＢ３型（「瀬戸内系鉇Ⅱ」）、古瀬清秀による分類の IIa 類（古瀬 1977）に相当する。竪穴建物 Bc 群 1860SI 床面直上出土で、前期前半（９・10 期）に対応する。

法量・形状
型式
出土状況・時期

鉄剣

鉄剣（3564）は剣身が折損した状態で出土し、折損した部分を中心に層状剥離や変形が認められるものの、切先から茎部分までが残存する。全長 11.7cm、刃部長 9.7cm、茎部長 2.0cm、刃部幅 2.3cm、茎部幅 1.8cm、刃部厚さ 0.5cm、茎部の厚さ 0.4cm、重さ 32.5 ｇを計測する短茎の短剣である。遺存状況により判然としない部分もあるが、関はほぼ直角に近く、茎には径 0.2cm の目釘孔を穿つ。関付近から茎にかけて把装具と思われる木質がわずかに確認される。装具は豊島直博による鉄剣の把の分類で、把縁が剣身まで及ぶ「一木造り式把縁穿孔型Ａ類」（豊島 2005）に対応すると思われる。大型竪穴建物 Ca 群 1276SI 床面直上出土で、前期初頭（７期）に対応する。

法量・形状
装具と型式
出土状況・時期

小鉄片・その他

小鉄片（3565・3566）は残存長 3.9cm、厚さ 0.6cm、重さ 2.1 ｇの断面円形のもの（3565）、残存長 3.7cm、残存幅 1.0cm、厚さ 0.2cm、重さ 1.5g の薄板状のもの（3566）がある。何らかの製品の断片の可能性もあるが、鍛打による鉄器製作の素材、半製品または製作切片（松木 1999）とも想定される。前者は竪穴建物 Ca 群 1276SI 床面直上、後者は Hb 群中の布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物 6100SB の柱穴 6145SK 出土で、いずれも前期初頭（７期）に対応する。不明鉄製品（3567）は壁立ち式の大型竪穴建物 Fb 群 3149SI の覆土上層から出土した。彎曲する背の反対側を鋸歯状に切り出し、歯は表裏交互に刃を研ぎ出している。3149SI は前期前半（９期）に対応するが、古墳時代以前に同様の形状の利器の類例は知られていないことから、混入の可能性がある。

小鉄片
不明鉄製品
混入の可能性

参考文献

石川県立埋蔵文化財センター1897『宿東山遺跡』
岡村秀典1984「前漢境の編年と様式」『史林』第67巻第５号　史学研究会
岡村秀典1993「後漢鏡の編年」『国立歴史民俗博物館研究報告』第55集　国立歴史民俗博物館
川越哲志1993『弥生時代の鉄器文化』雄山閣
豊島直博2005『弥生時代の鉄製刀剣』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
樋口隆康1983「中国古鏡銘文の類別的研究」『展望　アジアの考古学―樋口隆康教授退官記念論集―』新潮社
古瀬清秀1977「古墳出土の鉇の形態的特徴とその役割」『考古論集―慶祝松崎寿和先生六十三歳論文集―』松崎寿和先生退官記念事業会
松木武彦1999「岡山地域における弥生時代鉄鏃の展開」『古代吉備』第21集　古代吉備研究会

第４節　古代の遺構と遺物

概要

構成　丘陵の東向き斜面（長頭貝津地区）において、奈良時代の竪穴建物３棟、掘立柱建物５棟とこれらの建物群を区画する溝を検出した（第 31 図）。

出土土器量・分布　古代の土器（土師器・須恵器・灰釉陶器）は 1.3122kg（全出土土器の 0.06％）が出土した。出土土器は東向き斜面の建物群周辺に分布し、大溝 1900SD 周辺にも散在する（第 33 図）。

区画溝

検出状況　古代の建物群の丘陵側斜面を開削した溝 0010SD を検出した（第 32 図）。丘陵の東向き斜面をほぼ南北方向に通じ、北東向き斜面で東西方向に屈曲する。

出土遺物・時期　区画と遺構・遺物の分布範囲が対応すること、須恵器が出土したことから古代に帰属すると判断した。

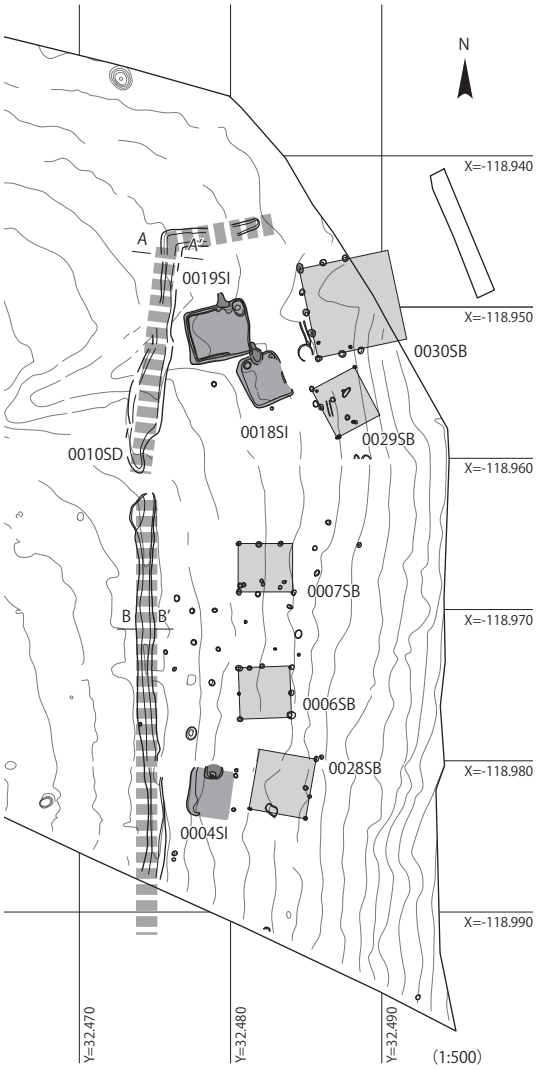
竪穴建物（遺構図版188）

検出状況・先後関係　区画溝 0010SD 付近において竪穴建物 3 棟 0019SI、0018SI、0004SI を検出した。0019SI と 0018SI は一部が重複するのみであるが、0019SI が 0018SI に先行すると判断した。

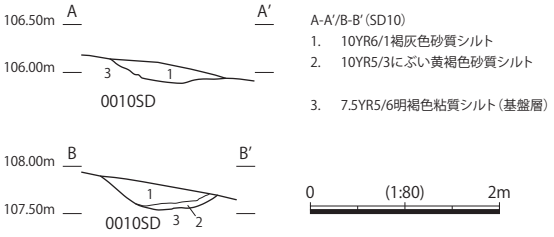
0019SI

規模・平面形　0019SI は残存状況が良好で全形を検出した。長軸 4.20 m、短軸 3.50 mの平面長方形で、北辺（長辺側）の東辺寄りに竈を布設する。竈は天井が落下した状態で遺存する。竈内の底面には炭化物が広がり、土師器甕が散乱していた。竈の東側には貯蔵穴様の土坑（以下、貯蔵穴）が付属する。主柱

付属施設



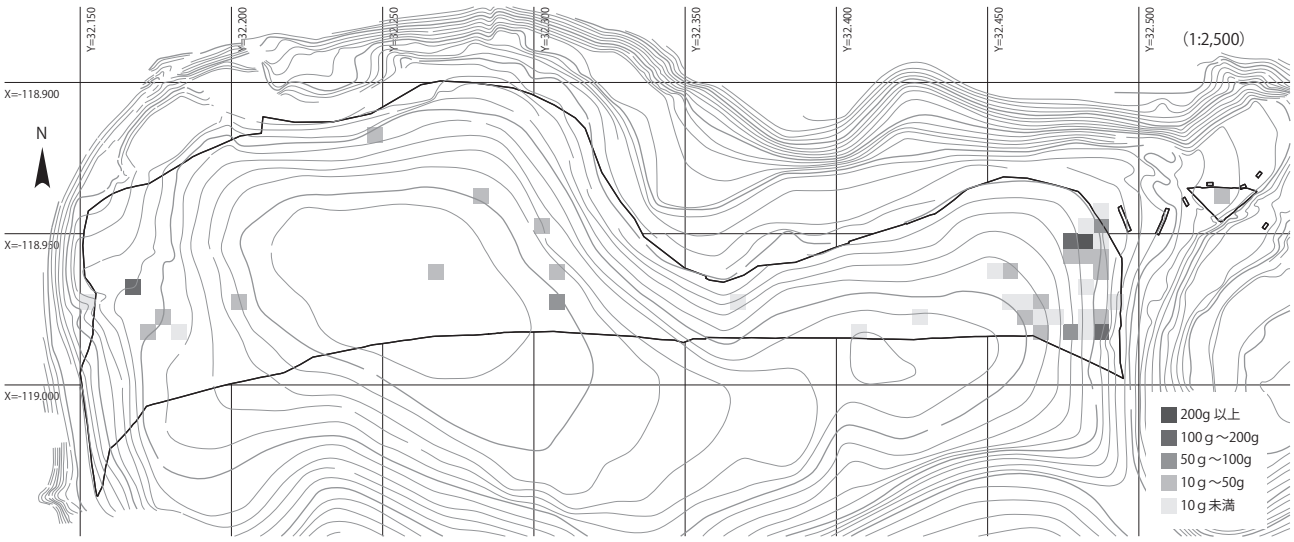
第31図　奈良時代の遺構配置



第32図　区画溝0010SD土層断面

第 12 表　竪穴建物一覧（奈良時代）

	遺構番号	時期	方位	規模				柱間			平面形	周壁溝	主柱穴	竈	貯蔵穴の配置	その他
				長軸 (m)	短軸 (m)	長短比	面積 (㎡)	長軸 (m)	短軸 (m)	長短比						
1	0019SI	8 世紀前半	N-12.5°-W	4.20	3.50	0.83	14.7	-	-	-	長方形	(全)	0	○	NE	
2	0018SI	8 世紀中葉	N-21.5°-W	3.40	2.85	0.84	9.7	-	-	-	長方形	無	0	○	NE・NW	
3	0004SI	7 世紀末葉～8 世紀初頭	N-8°-E	4.30	-	-	-	-	-	-	-	無	0	○	-	



第33図　出土土器重量分布（古代）

穴は検出されなかった。床面のほぼ中央には炭化物が広がる。南西隅付近の床面からやや浮いた位置で８世紀前半の須恵器蓋（2961）が出土した。　遺物出土状況

0018SI は中央付近が根によって撹乱されていた。長軸 3.40 m、短軸 2.85 mの平面長方形で、北辺（短辺側）の中央に竈を布設する。竈の遺存状況は良好でなく、焼土粒を包含する埋土が遺存するのみであった。竈の東西両側には貯蔵穴が付属する。主柱穴は検出されなかった。竈付近から土師器がわずかに出土した。　0018SI　規模・平面形　付属施設　遺物出土状況

0004SI は大部分が流失し、丘陵側の西辺と西辺寄りの竈の痕跡のみを確認した。北辺は試掘坑によって失われているが、一辺 3.40 m程度で、0018SI と同様の平面形、規模が想定される。主柱穴は検出されなかった。遺物は出土していないが、竪穴建物の斜面側のやや下方において出土した７世紀末葉から８世紀初頭の須恵器無台杯（2967）が竪穴建物に伴っていた可能性が高いと思われる。　0004SI　規模・平面形　付属施設　遺物出土状況

掘立柱建物（遺構図版189・190）

区画溝 0010SD による区画内には柱穴と思われる小土坑が散在し、不確実なものを含めて５棟の掘立柱建物、0030SB、0029SB、0007SB、0006SB、0028SB を復原した。掘立柱建物はいずれも側柱建物である。建物を構成する柱穴から遺物は出土していないが、遺構の分布状況から古代に帰属すると判断した。　分布

0030SB は桁行４間・6.0 mのやや大型の掘立柱建物で、梁行は斜面の流失により、２間・3.0 m分のみを確認した。他の掘立柱建物と比較して柱穴もやや大きく深いが、明確な柱痕跡は確認されなかった。　0030SB

0029SB、0007SB は桁行３間・梁行２間、0028SB は桁行３間・梁行１間、0006SB は桁行２間・梁行２間の掘立柱建物として復原した。いずれの掘立柱建物も 0030SB と比較して柱穴はやや小さく、明確な柱痕跡も確認されなかった。　その他

第 13 表　掘立柱建物一覧（奈良時代）

遺構番号	種別	方位	桁行	（m）	梁行	（m）	面積（㎡）	長短比
0006SB	側柱建物	N-2°-E	2間	3.4	（2間）	3.4	11.6	1.00
0007SB	側柱建物	N-0°	（3間）	3.6	（2間）	3.2	11.5	0.89
0028SB	側柱建物	N-10°-W	（3間）	4.0	（1間）	3.8	15.2	0.95
0029SB	側柱建物	N-28°-W	（3間）	3.6	（2間）	3.2	11.5	0.89
0030SB	側柱建物	N-12°-E	4間	6.0	2間以上	3.0以上	18.0以上	

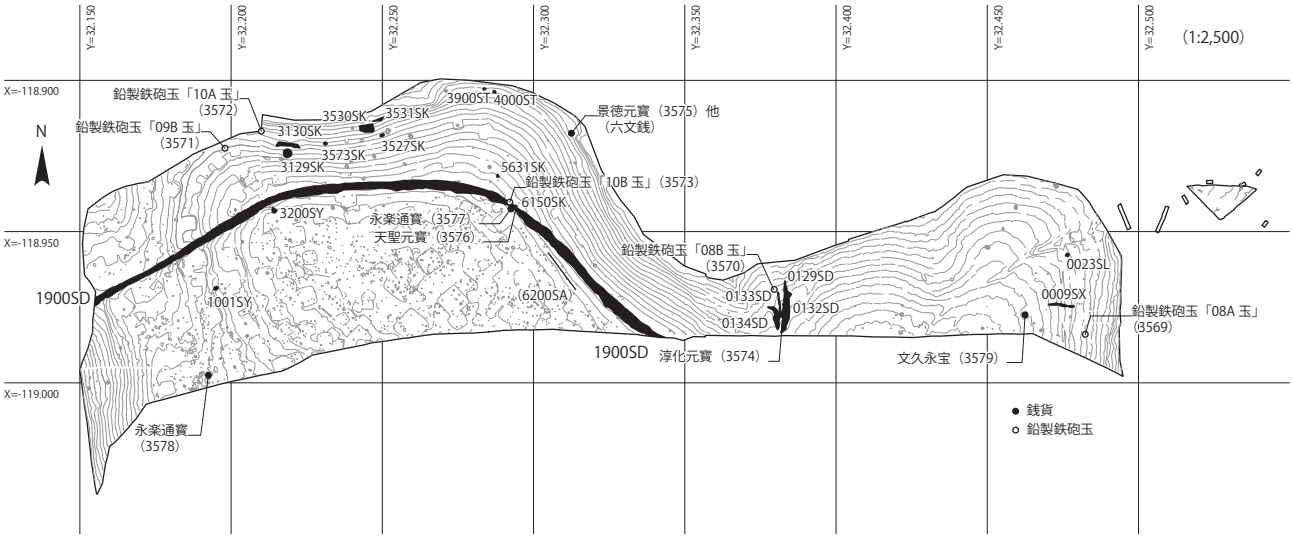
第５節　中世以降の遺構と遺物

概要

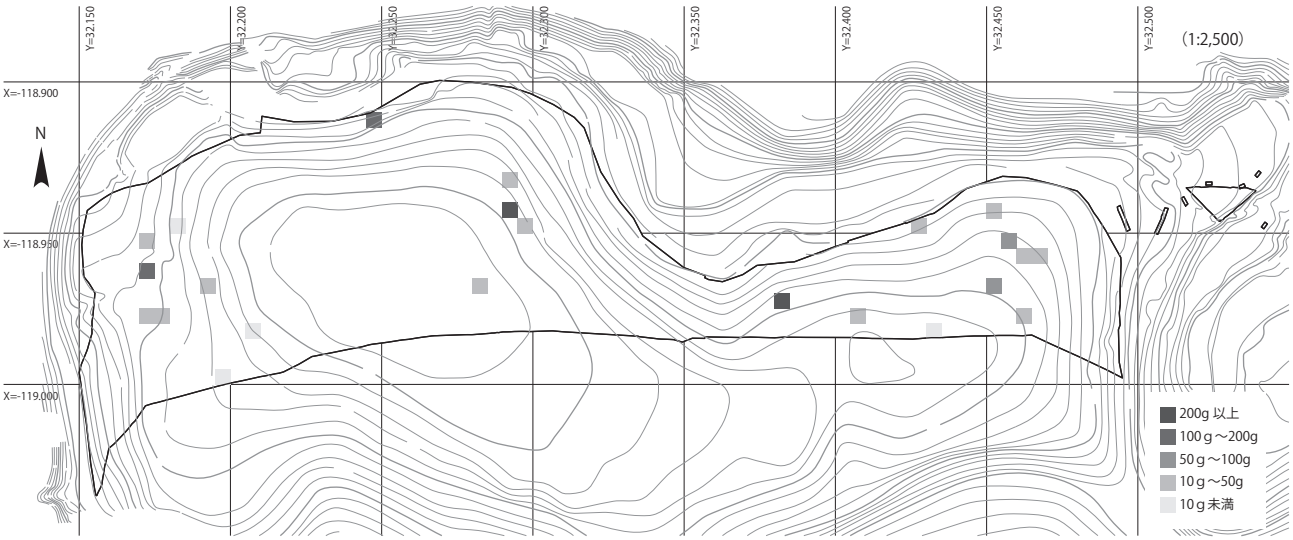
中世・近世の遺構　　中世前半の遺構として、丘陵を縦断する大溝 1900SD、溝 0129SD・0134SD 等、竪穴状遺構（土坑）3530SK 等、土坑墓 5631SK、中世後半（または近世）の遺構として、土坑墓 6150SK、火葬施設 0023SL、土坑墓 3900ST・4000ST を検出した（第 34 図）。これら中世の遺構は、大溝 1900SD の近辺に分布する土坑墓 5631SK・6150SK を含め、いずれも大溝 1900SD 以北、以東の北向き斜面、東向き斜面に分布する。

出土土器量・分布　　中世以降の土器（陶器）は 1.1838kg（全出土土器の 0.06％）が出土した。出土土器は大溝 1900SD の近辺、北向き斜面、東向き斜面、西向き斜面に散在して分布し、丘陵頂部の平坦面にはほとんど分布しない（第 35 図）。その他、鉛製鉄砲玉が５点出土した。

近世・近代の遺構　　また、近世から近代の遺構として、炭焼窯２基（1001SY・3200SY）を検出した。



第34図　中世以降の遺構配置



第35図　出土土器重量分布（中世以降）

溝0129SD・0132SD・0133SD・0134SD（遺構図版191）

丘陵北向き斜面の鞍部に掘削された溝群を検出した。溝は断面が「Ｖ」字に近い形状を呈する部分もある。溝群の付近に他の中世の遺構はほとんど認められない。出土遺物はごく少ないが、0129SDの底面において完形のロクロ成形土師器皿(2984)が出土した。成形、法量等から12世紀後半から13世紀前半に比定される(川井1993)。0134SDにおいては、銭貨淳化元寶（3574)、馬骨が出土した。

検出状況

遺物出土状況

大溝1900SD（遺構図版192・193）

大溝1900SDはすでに発掘調査前の地表から視認されていた遺構で、現地表面の観察や縄張り調査からは「陣城群の遺構」、あるいは地籍図上の石座神社境内地の境界との位置関係の一致からは「石座神社の結界」と推定されていた。

調査前の状況

大溝1900SDは東向き斜面から西向き斜面にかけて丘陵の縁辺に沿って掘削される一方、西向き斜面においては北東方向から南西方向に丘陵崖まで直線的に掘削される。溝の掘方も一様ではなく、「土橋」状に掘り残されている部分、「階段」状、「箱堀」状に掘削されている部分もある（グリッド10B14m・10B13o・10C10a・10C7m・10C7o・10C8r・10C9s・10C9t・10C10t・10D10a・10D11b・10D15e・10D16g付近）。溝は完全に埋没していない部分が多いが、西向きの緩斜面の部分（グリッド10B14n・10B13p、土層断面B-B'・C-C'）は人為的に埋め戻された状況を示すことから、掘削後、付近は土橋として利用されていた可能性がある。土塁等（の痕跡）は確認されなかったが、丘陵頂部平坦面北東の縁辺（大溝の内側）において検出された掘立柱柵6200SAが大溝に伴っていた可能性がある。

検出状況・形状

堆積状況

土塁・柵

大溝からは（先行する竪穴建物から混入したと思われる遺物が少量出土する以外に）ほとんど遺物は出土しないが、西向きの緩斜面の埋め戻された溝の底面において完形のロクロ成形土師器皿（2985）が出土した。成形、法量から、12世紀後半から13世紀前半に比定され、大溝の掘削時期も同時期に求められる。ただ、大溝の上層付近には須恵器(2969～2972）が散見されることから、より以前に掘削された可能性もある。

遺物出土状況

竪穴状遺構（遺構図版194）

北向き斜面の中位から下位において斜面を開削した竪穴状遺構（土坑）3129SK・3130SK・3530SK・3531SK・3527SK・3527SKを検出した。これらの竪穴状遺構（土坑）の多くは底面が鉄分の固着により硬化していた。東向き斜面において検出された溝状の遺構0009SXも遺構の底面が同様に硬化していることから、これらの竪穴状遺構（土坑）に類する遺構とした。遺構からほとんど遺物は出土しないが、3530SKより渥美窯編年２ｂ型式期、12世紀末葉から13世紀初頭（安井2012）を前後する山茶碗（2990）が出土していることから、これらの遺構は12世紀から13世紀に帰属すると推定される。

分布・検出状況

遺物出土状況

土坑墓5631SK（遺構図版195）

丘陵北向き斜面の上位、大溝1900SD付近において検出した。南北を長軸とする長軸1.30ｍ・短軸1.0ｍの隅円長方形の土坑で、土坑南端の下層において馬（ウマ）の上下顎の歯が並んだ状態で出土した。上下顎の位置からすると、馬一個体を埋葬したと推測される。

検出状況

規模・形状

馬遺体出土状況

馬（ウマ）遺体は体高140cm前後、６歳前後の雌（メス）と同定された（第４章（２）

同定・分析

を参照)。なお、馬（ウマ）遺体にわずかに遺存していた左下下顎骨については炭素・窒
遺物出土状況　素安定同位体比分析を実施している（第４章（３）を参照)。土坑からは渥美窯編年２ｂ
型式期、12 世紀末葉から 13 世紀初頭を前後する山茶碗（2990）が出土している。

土坑墓6150SK（遺構図版195）

検出状況　丘陵北向き斜面の上位、大溝 1900SD が土橋状に掘り残された部分の付近において検
規模・形状　出した。南北を長軸とする長軸 1.15 m、短軸 0.85 mの隅円長方形の土坑で、土坑北端
遺物出土状況　付近の下層において同形同大の非ロクロ成形土師器皿３点（2987 ～ 2989)、銭貨２点（天
聖元寶、3576・判読不能）がまとまって出土した。他に土坑付近から出土した銭貨１点（永
出土遺物　楽通寶、3577）も土坑に伴っていた可能性がある。非ロクロ成形土師器皿は杉山遺跡に
おける分類（北村 1988）の皿Ｆ（「内弯する口縁部。丸味をもつ底部との境は不明瞭。」)、
ｂ手法（「内側のみナデ調整。外面は未調整のまま。」）に対応し、時期はおよそ 15 世紀
から 16 世紀とされる。

火葬施設0023SL（遺構図版195）

検出状況　丘陵東向き斜面において検出した。付近に同時期の遺構は認められない。径 1.60m の
円形の土坑に通風孔と思われる突出部が伴う。床面は著しく被熱し、炭化材も多く残され
年代測定　ていた。出土遺物はなく、火葬骨も（収骨により）確認されなかった。出土した炭化材に
ついて、放射性炭素年代測定を実施した結果、17 世紀から 20 世紀の年代を示した（第
４章（１）を参照)。

土坑墓3900ST・4000ST（遺構図版195）

規模・形状　北向き斜面の下位において検出した。3900ST は長軸 1.25m、短軸 1.00m、4000ST
火葬骨出土状況　は長軸 1.30m、短軸 1.15m の隅円長方形の土坑で、覆土中からは火葬骨が大量に出土し
年代測定　た。火葬骨以外の出土遺物は認められなかった。出土した火葬骨について、放射性炭素年
代測定を実施した結果、火葬施設 0023SL と同様、17 世紀から 20 世紀の年代を示した（第
４章（１）を参照)。

その他

六文銭　北向き斜面の下位においては六文銭（景徳元寶他５枚、3575）が出土した。また、斜
渥美窯産　面の周辺では渥美窯産の蓮弁文壺（2898）も採集されている。六文銭は斜面下位に分布
蓮弁文壺　する土坑墓に関連する可能性がある。渥美窯産の蓮弁文（三筋文系装飾文）壺（2898）は、
並行する沈線間の上下段に上向きの半円弧文（花弁）を描出する。渥美窯編年２ａ型式期
または２ｂ型式期の製品で、12 世紀後葉から 13 世紀初頭に比定される（安井 2012)。

鉛製鉄砲玉

分布・出土状況　遺跡からは鉛製鉄砲玉５点（3569 ～ 3573）が出土、または採集されている。４点（3569
～ 3571・3573）は 08 Ａ区、08 Ｂ区、09 Ｂ区、10 Ｂ区の丘陵東向き斜面から北向き斜
面の表土直下から出土した。１点（3572）は 10 Ａ区の排土付近で採集した。出土状況
から鉛製鉄砲玉の詳細な時期を決定することは難しいが、他の中世の遺構と同様に、大溝
鉛同位体比分析　1900SD の以北、以東に分布する。なお、５点の鉄砲玉は鉛同位体比分析の結果、使用さ
れた鉛材料はいずれも「日本産材料」とされた（第４章（４）を参照)。

炭焼窯1001SY・3200SY（遺構図版196・197）

近世から近代の遺構として、炭焼窯２基（1001SY・3200SY）を検出した。1001SY は弥生時代後期から古墳時代前期の斜面を加工した段の痕跡（標高 111.5m）、3200SY は大溝 1900SD の掘削による斜面の段（標高 114.5 m）を利用して構築されている。

構築状況

1001SY は長軸 2.05m、短軸 1.40m、長短比 0.68 の楕円形（無花果形）、3200SY は長軸 2.10m、短軸 1.85m、長短比 1.85 の円形（無花果形）の半地下式窯である。いずれも炭化室は側壁が垂直に近い円筒状で、中軸線上に基盤層を掘り抜いた煙道を造り付ける。炭化室と煙道の壁面は被熱により著しく硬化する。炭化室の底面は平坦で、石材等は使用されていない。焚口には拳大から人頭大の礫が焚口を閉塞するように積まれていた。

窯体

焼成室・煙道

焚口の前面には斜面を加工した前庭部が付属し、炭化物層が広範囲に堆積する。前庭部には土坑（1001SY に 1003SK・1004SK 等、3200SY に 3058SK）が掘削され、土坑内は天井片や焼土、炭化物が濃密に含まれていた。

焚口

前庭部

1001SY の前庭部においては産地不明の陶器（2999）が散在して出土し、炭化室からは瓦、鉄板が少量出土した。3200SY の前庭部付近においては常滑産の土管（3000）が出土した。

出土遺物

出土した炭化材について、放射性炭素年代測定を実施した結果、1001SY は 19 世紀から 20 世紀前半、3200SY は 19 世紀の年代を示した（第４章（１）を参照）。年代範囲（２δ暦年代範囲）の下限は 1001SY が 1920 年、3200SY が 1939 年を示していることからも、少なくとも戦前の構築であることはほぼ確実である。

年代

第 14 表　炭焼窯一覧

調査区	グリッド	遺構番号	時期	方位	規模			平面形	構造	煙道	出土遺物
					長軸 (m)	短軸 (m)	長短比				
09区	10B14s/14t	1001SY	19世紀～20世紀前半	N-59.5°-W	2.05	1.40	0.68	楕円形	半地下	○	陶器・瓦・鉄板
10区	10C9d/9c	3200SY	19世紀	N-31°-E	2.10	1.85	0.88	円形	半地下	○	土管

参考文献

川井啓介1993「三河地域出土の土師器皿について」『年報　平成４年度』財団法人愛知県埋蔵文化財センター

北村和宏1988「杉山遺跡出土の「中世土器」について」『杉山遺跡』愛知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第５集　財団法人愛知県埋蔵文化財センター

高田繁1996「三河長篠城及び長篠合戦陣所群に関する検討」『中世城郭研究』創刊10周年記念号　第10号　中世城郭研究会

安井俊則2012「渥美窯」『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』

安井俊則・中野晴久2012「押印・刻文」『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』愛知県

第４章　分析・考察

（１）放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎・黒沼保子・小林克也

１）はじめに

概要

愛知県新城市に位置する石座神社遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお一部の試料を用いて、炭素・窒素安定同位体比測定（同章（３）を参照）と、樹種同定が行われている。

２）試料と方法

炭化材

試料は、90 点の出土炭化材と土器付着炭化物である。炭化材は、1411SI から５点、(PLD-21493 ～ 21495、PLD-21499、21500)、3742SI から４点（PLD-21447、21450 ～ 21452)、3034SI（PLD-21454 ～ 21456)、4459SI（PLD-21457 ～ 21459)、5545SI (PLD-21460 ～ 21462)、5649SI（PLD-21464 ～ 21466)、5785SI（PLD-21468 ～ 21470)、3002SI（PLD-21472 ～ 21474)、1331SI（PLD-21503 ～ 21505)、1861SI (PLD-21508 ～ 21510)、1929SI（PLD-21514 ～ 21516）から各３点、0019SI（PLD-13945、13946)、0121SI（PLD-13952、13953)、0023SL（PLD-13954、13955)、3005SI（PLD-21445、21446)、3743SI（PLD-21448、PLD-21449)、3590SL（PLD-21476、21477)、1001SY（PLD-21482、21484)、1253SI（PLD-21496、21497)、1454SI（PLD-21501、21502)、1917SI（PLD-21512、21513）から各２点、0009SX (PLD-13942)、0016SI（PLD-13943)、0018SI（PLD-13944)、0020SD（PLD-13947)、0025SK（PLD-13948)、0032SK（PLD-13949)、0033SK（PLD-13950)、0111SK (PLD-13951)、3211SI（PLD-21453)、5050SL（PLD-21463)、5770SI（PLD-21467)、3742SI に付属する 4300SK から１点（PLD-21471)、3580SL（PLD-21475)、5060SL (PLD-21478)、4041SK（PLD-21479)、3900ST（PLD-21480)、3200SY（PLD-21481)、1001SY に付属する 1004SK（PLD-21483)、1045SK（PLD-21485)、1039SK（PLD-21486)、1216SK（PLD-21488)、2081SK（PLD-21489)、2127SK（PLD-21490)、2173SK（PLD-21491)、1200SI（PLD-21492)、1464SI（PLD-21498)、1346SK（PLD-21506)、1002SD（PLD-21507)、1907SI（PLD-21511）から各１点の、計 85 点である。0016SI の PLD-13943、0019SI の PLD-13945、0023SL の PLD-13954、13955、3034SI の PLD-21454 ～ 21456、5785SI の PLD-21469、21470、1001SY の PLD-21482、1004SK の PLD-21483 では最終形成年輪が残っており、4459SI の PLD-21457 ～ 21459 では、辺材部が残っていたが、それ以外の炭化材の採取部位は不明であった。

土器付着炭化物

土器付着炭化物は、1455SI から出土した甕（288）の体部内面（PLD-24861)、3215SI から出土した壷（1696）の底部外面（PLD-24862)、6076SK から出土した甕（2823）

の体部外面（PLD-24863）、3404SI から出土した壷（1794）の体部内面（PLD-24864）、5785SI から出土した甕（2581）の体部外面（PLD-24865）の５点である。測定試料の情報、調製データは第 15 ～ 18 表のとおりである。

方法

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

３）結果

第 19 ～ 22 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ13C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、第 42 ～ 53 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730±40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に２σ 暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

４）考察

マルチプロット図
暦年代と編年

以下、各試料の暦年較正結果のうち２σ 暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して、時期別に結果を整理し、年代順のマルチプロット図（第 38 ～ 41 図）にまとめた。なお、暦年代と考古学編年との対応関係については、縄文時代は矢野（2008）、金子（2008）、纐瀬・高橋（2008）、千葉（2008）、中村（2008）、工藤（2012）、弥生時代は小林（2009）、山本（2007）、古墳時代は赤塚（2009）を参照した。また炭素・窒素安定同位体比分析の結果では、いずれの土器付着炭化物も陸産の C_3 植物や草食動物に由来すると推定されており、海洋リザーバー効果の影響は受けていないと考えられる。

またマルチプロット図の順序について、複数点の測定が行われている遺構については、測定結果の内で最も新しい暦年代を示した試料が、古木効果等の影響を最も受けていない試料であると想定し、配置した。

第 15 表　測定資料と処理　1

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-13942	グリッド:10E15p 遺構:0009SX 試料No.1（AMS-1）	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13943	グリッド:10E16m 遺構:0016SI 試料No.2（AMS-２）	種類:炭化材(枝材) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13944	グリッド:10E 遺構:0018SI 試料No.3（AMS-３）	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13945	グリッド:10E11p 遺構:0019SI 試料No.4（AMS-４）	種類:炭化材(枝材) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13946	グリッド:10E11p 遺構:0019SI 試料No.5（AMS-５）	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13947	グリッド:10E12n 遺構:0020SD下層 試料No.6（AMS-6）	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13948	グリッド:10E8p 遺構:0025SK 試料No.7（AMS-7）	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13949	グリッド:10E12h 遺構:0032SK 試料No.8（AMS-8）	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13950	グリッド:10E17m 遺構:0033SK 試料No.9（AMS-9）	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13951	グリッド:10E17o 遺構:0111SK 試料No.10（AMS-10）	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13952	グリッド:10E16f 遺構:0121SI 試料No.11（AMS-11）	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13953	グリッド:10E17f 試料:0121SI 試料No.12（AMS-12）	種類:炭化材 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13954	グリッド:10E12o 遺構:0023SL 試料No.13（AMS-13）	種類:炭化材(丸木) 試料の性状:最終形成年輪 状態:wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-13955	グリッド:10E12o 遺構:0023SL 試料No.14（AMS-14）	種類:炭化材(枝材) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21445	グリッド:10C17f 遺構:3005SI床直 試料No.49（AMS-49）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21446	グリッド:10C17f 遺構:3005SI床直 試料No.50（AMS-50）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21447	グリッド:10C10l 遺構:3742SI上層 試料No.51（AMS-51）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21448	グリッド:10C10l 遺構:3743SI下層 試料No.52（AMS-52）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21449	グリッド:10C11l 遺構:3743SI下層 試料No.53（AMS-53）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21450	グリッド:10C9m 遺構:3742SI下層 試料No.54（AMS-54）	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21451	グリッド:10C10m 遺構:3742SI下層 試料No.55（AMS-55）	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21452	グリッド:10C10l 遺構:3742SI下層 試料No.56（AMS-56）	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21453	グリッド:10C13j 遺構:3211SI床直 試料No.57（AMS-57）	種類:炭化材(モミ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)

第16表　測定資料と処理　2

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-21454	グリッド:10C15c 遺構:3034SI床直 試料No.58（AMS-58）	種類:炭化材(ツバキ属) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21455	グリッド:10C15c 遺構:3034SI床直 試料No.59（AMS-59）	種類:炭化材(モチノキ属) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21456	グリッド:10C15c 遺構:3034SI床直 試料No.60（AMS-60）	種類:炭化材(ヒサカキ) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21457	グリッド:10C11d 遺構:4459SI床直 試料No.61（AMS-61）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:辺材部 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21458	グリッド:10C11d 遺構:4459SI床直 試料No.62（AMS-62）	種類:炭化材(ヌルデ) 試料の性状:辺材部 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21459	グリッド:10C11d 遺構:4459SI床直 試料No.63（AMS-63）	種類:炭化材(ヌルデ) 試料の性状:辺材部 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21460	グリッド:10C12r 遺構:5545SI下層 試料No.64（AMS-64）	種類:炭化材(クスノキ科) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21461	グリッド:10C12r 遺構:5545SI下層 試料No.65（AMS-65）	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21462	グリッド:10C12r 遺構:5545SI下層 試料No.66（AMS-66）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21463	遺構:5050SL 遺物No.1065 試料No.67（AMS-67）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21464	グリッド:10C16s 遺構:5649SI上層 試料No.68（AMS-68）	種類:炭化材(クスノキ科) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21465	グリッド:10C16s 遺構:5649SI上層 試料No.69（AMS-69）	種類:炭化材(クスノキ) 試料の性状:辺材部 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21466	グリッド:10C16s 遺構:5649SI上層 試料No.70（AMS-70）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21467	グリッド:10C9r 遺構:5770SI下層 試料No.71（AMS-71）	種類:炭化材(キハダ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21468	グリッド:10C10s 遺構:5785SI床直 試料No.72（AMS-72）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21469	グリッド:10C10s 遺構:5785SI床直 試料No.73（AMS-73）	種類:炭化材(コナラ属アカガシ亜属) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21470	グリッド:10C10s 遺構:5785SI床直 試料No.74（AMS-74）	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21471	グリッド:10C9l 遺構:4300SK 試料No.75（AMS-75）	種類:炭化材(樹皮) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21472	グリッド:10C17d 遺構:3002SI上層 試料No.76（AMS-76）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21473	グリッド:10C17d 遺構:3002SI上層 試料No.77（AMS-77）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21474	グリッド:10C17d 遺構:3002SI床直 試料No.78（AMS-78）	種類:炭化材(ケヤキ) 試料の性状:辺材部 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21475	グリッド:10C14m 遺構:3580SL 試料No.79（AMS-79）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21476	グリッド:10C14m 遺構:3590SL 試料No.80（AMS-80）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)

第 17 表　測定資料と処理　3

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-21477	グリッド:10C14m 遺構:3590SL 試料No.81（AMS-81）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21478	グリッド:10C16p 遺構:5060SL 試料No.82（AMS-82）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21479	グリッド:10C12p 遺構:4041SK 試料No.83（AMS-83）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21480	グリッド:10C1q 遺構:3900ST 試料No.84（AMS-84）	種類:炭化材(マツ属複維管束亜属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21481	グリッド:10C9c 遺構:3200SY 試料No.85（AMS-85）	種類:炭化材(シャシャンボ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21482	グリッド:10B14t 遺構:1001SY 試料No.15（AMS-15）	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21483	グリッド:10B14s 遺構:1004SK 試料No.16（AMS-16）	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:最終形成年輪 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21484	グリッド:19B15s 遺構:1001SY焚口 試料No.17（AMS-17）	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21485	グリッド:1B1k 遺構:1045SK 試料No.18（AMS-18）	種類:炭化材(クリ-シイノキ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21486	グリッド:10B20l 遺構:1039SK 試料No.19（AMS-19）	種類:炭化材(クリ-シイノキ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21488	グリッド:10B19t 遺構:1216SK 試料No.20（AMS-20）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21489	グリッド:10C7a 遺構:2081SK 試料No.21（AMS-21）	種類:炭化材(広葉樹) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21490	グリッド:10C9a 遺構:2127SK 試料No.22（AMS-22）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21491	グリッド:10C11a 遺構:2173SK 試料No.23（AMS-23）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21492	グリッド:1B1 r 遺構:1200SI上面 試料No.24（AMS-24）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21493	グリッド:10B17p 遺構:1411SI下層 試料No.25（AMS-25）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21494	グリッド:10B17p 遺構:1411SI下層 試料No.26（AMS-26）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21495	グリッド:10B17p 遺構:1411SI下層 試料No.27（AMS-27）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21496	グリッド:10B16s 遺構:1253SI床直 試料No.28（AMS-28）	種類:炭化材(クリ-シイノキ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21497	グリッド:10B16s 遺構:1253SI床直 試料No.29（AMS-29）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21498	グリッド:10B17o 遺構:1464SI床直 試料No.30（AMS-30）	種類:炭化材(樹皮) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21499	グリッド:10B17p 遺構:1411SI下層 試料No.31（AMS-31）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21500	グリッド:10B17p 遺構:1411SI下層 試料No.32（AMS-32）	種類:炭化材(ツブラジイ-コナラ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)

第 18 表　測定資料と処理　4

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-21501	グリッド:10B15n 遺構:1454SI下層 試料No.33（AMS-33）	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21502	グリッド:10B15n 遺構:1454SI下層 試料No.34（AMS-34）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21503	グリッド:10C16a 遺構:1331SI床直 試料No.35（AMS-35）	種類:炭化材(クスノキ科) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21504	グリッド:10C16a 遺構:1331SI床直 試料No.36（AMS-36）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21505	グリッド:10C16a 遺構:1331SI床直 試料No.37（AMS-37）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21506	グリッド:10C17b 遺構:1346SK 試料No.38（AMS-38）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21507	グリッド:10C12a 遺構:1002SD 試料No.39（AMS-39）	種類:炭化材(モミ属) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21508	グリッド:10C7a 遺構:1861SI床直 試料No.40（AMS-40）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21509	グリッド:10C7a 遺構:1861SI床直 試料No.41（AMS-41）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21510	グリッド:10C7a 遺構:1861SI床直 試料No.42（AMS-42）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21511	グリッド:10C8 r 遺構:1907SI下層 試料No.43（AMS-43）	種類:炭化材(キハダ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21512	グリッド:10C10 r 遺構:1917SI床直 試料No.44（AMS-44）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21513	グリッド:10B10 r 遺構:1917SI床直 試料No.45（AMS-45）	種類:炭化材(クリ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21514	グリッド:10B13 r 遺構:1929SI床直 試料No.46（AMS-46）	種類:炭化材(スダジイ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21515	グリッド:10B13 r 遺構:1929SI床直 試料No.47（AMS-47）	種類:炭化材(スギ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-21516	グリッド:10B13 r 遺構:1929SI床直 試料No.48（AMS-48）	種類:炭化材(スギ) 試料の性状:部位不明 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N,塩酸:1.2N)
PLD-24861	グリッド:10B14a 遺構:1455SI 遺物No.288	種類:土器付着炭化物 付着部位: 甕体部内面 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N) サルフィックス処理
PLD-24862	グリッド:10C15h 遺構:3215SI床直 遺物No.1696	種類:土器付着炭化物 付着部位:中型壷底部外面 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N) サルフィックス処理
PLD-24863	グリッド:10D16e 遺構:6076SK 遺物No.2823	種類:土器付着炭化物 付着部位:甕体部外面 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N) サルフィックス処理
PLD-24864	グリッド:10C10 h 遺構:3404SI上層 遺物No.1794	種類:土器付着炭化物 付着部位:広口壷体部内面 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N) サルフィックス処理
PLD-24865	グリッド:10C10s 遺構:5785SI床直 遺物No.2581	種類:土器付着炭化物 付着部位:甕体部外面 状態:dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N) サルフィックス処理

第 19 表　放射性炭素年代測定と暦年較正の結果　1

測定番号	δ 13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1 σ)	14C 年代 (yrBP±1 σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-13942 0009SX	-28.99±0.13	908±19	910±20	1049AD(43.4%)1085AD 1124AD(12.8%)1137AD 1150AD(12.0%)1161AD	1039AD(93.8%)1170AD 1175AD(1.6%)1183AD
PLD-13943 0016SI	-27.61±0.19	1793±19	1795±20	176AD(8.1%)191AD 212AD(48.5%)255AD 300AD(11.6%)318AD	138AD(77.6%)258AD 284AD(17.8%)322AD
PLD-13944 0018SI	-26.39±0.11	1234±18	1235±20	711AD(35.7%)745AD 764AD(13.8%)778AD 792AD(6.8%)804AD 816AD(2.8%)823AD 841AD(9.1%)861AD	690AD(44.9%)749AD 761AD(15.7%)780AD 788AD(34.8%)875AD
PLD-13945 0019SI	-27.50±0.12	1297±19	1295±20	671AD(45.0%)710AD 746AD(23.2%)764AD	665AD(62.7%)723AD 740AD(32.7%)768AD
PLD-13946 0019SI	-26.04±0.13	1260±19	1260±20	694AD(61.9%)747AD 763AD(6.3%)768AD	681AD(95.4%)774AD
PLD-13947 0020SD下層	-27.26±0.13	2709±20	2710±20	894BC(28.9%)869BC 854BC(39.3%)823BC	901BC(95.4%)815BC
PLD-13948 0025SK	-27.80±0.23	3622±23	3620±25	2022BC(31.8%)1991BC 1984BC(36.4%)1950BC	2112BC(1.1%)2103BC 2036BC(94.3%)1911BC
PLD-13949 0032SK	-26.68±0.19	3613±22	3615±20	2018BC(23.6%)1995BC 1981BC(44.6%)1941BC	2031BC(95.4%)1906BC
PLD-13950 0033SK	-26.52±0.14	3965±22	3965±20	2559BC(23.3%)2536BC 2491BC(44.9%)2465BC	2570BC(38.3%)2515BC 2501BC(56.4%)2455BC 2417BC(0.7%)2410BC
PLD-13951 0111SK	-28.01±0.11	7070±26	7070±25	5996BC(25.2%)5974BC 5951BC(43.0%)5917BC	6006BC(95.4%)5901BC
PLD-13952 0121SI	-27.89±0.17	1836±20	1835±20	135AD(42.6%)179AD 187AD(25.6%)213AD	128AD(95.4%)236AD
PLD-13953 0121SI	-27.58±0.10	1819±21	1820±20	140AD(15.9%)159AD 166AD(27.0%)196AD 208AD(25.4%)235AD	130AD(95.4%)245AD
PLD-13954 0023SL	-27.43±0.17	148±20	150±20	1677AD(11.4%)1693AD 1727AD(28.9%)1766AD 1772AD(2.4%)1777AD 1800AD(9.1%)1812AD 1919AD(16.3%)1940AD	1667AD(15.6%)1700AD 1720AD(35.3%)1783AD 1796AD(11.2%)1819AD 1832AD(15.0%)1880AD 1915AD(18.3%)1948AD
PLD-13955 0023SL	-28.09±0.10	149±18	150±20	1678AD(10.9%)1692AD 1728AD(30.3%)1765AD 1774AD(1.5%)1776AD 1800AD(9.1%)1812AD 1920AD(16.5%)1940AD	1668AD(15.6%)1698AD 1725AD(37.4%)1781AD 1797AD(11.2%)1815AD 1834AD(12.3%)1878AD 1916AD(18.9%)1945AD
PLD-21445 3005SI床直	-27.48±0.16	1898±20	1900±20	81AD(68.2%)126AD	54AD(94.3%)139AD 160AD(0.4%)165AD 197AD(0.8%)206AD
PLD-21446 3005SI床直	-25.19±0.16	1885±20	1885±20	83AD(68.2%)130AD	67AD(90.8%)176AD 191AD(4.6%)211AD
PLD-21447 3742SI上層	-25.87±0.15	1865±19	1865±20	87AD(15.3%)106AD 121AD(40.6%)171AD 194AD(12.3%)210AD	82AD(95.4%)218AD
PLD-21448 3743SI下層	-24.87±0.14	1900±20	1900±20	80AD(68.2%)125AD	53AD(95.2%)138AD 199AD(0.2%)202AD
PLD-21449 3743SI下層	-24.25±0.13	1866±19	1865±20	86AD(17.8%)109AD 118AD(39.4%)170AD 194AD(10.9%)210AD	81AD(95.4%)218AD
PLD-21450 3742SI下層	-24.91±0.12	1841±19	1840±20	133AD(43.6%)178AD 188AD(24.6%)213AD	126AD(95.4%)237AD
PLD-21451 3742SI下層	-25.73±0.13	1889±19	1890±20	85AD(68.2%)127AD	64AD(93.1%)170AD 194AD(2.3%)209AD

第 20 表　放射性炭素年代測定と暦年較正の結果　2

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-21452 3742SI下層	-25.58±0.17	1859±20	1860±20	94AD(2.1%)97AD 125AD(46.2%)178AD 189AD(19.9%)213AD	85AD(95.4%)223AD
PLD-21453 3211SI床直	-26.31±0.13	1967±20	1965±20	16AD(68.2%)65AD	22BC(3.6%)11BC 2BC(91.8%)77AD
PLD-21454 3034SI床直	-27.33±0.14	1883±20	1885±20	84AD(68.2%)131AD	70AD(89.8%)176AD 191AD(5.6%)212AD
PLD-21455 3034SI床直	-27.47±0.12	1893±22	1895±20	82AD(68.2%)127AD	58AD(92.9%)170AD 194AD(2.5%)209AD
PLD-21456 3034SI床直	-28.99±0.11	1839±20	1840±20	134AD(42.8%)179AD 187AD(25.4%)213AD	126AD(95.4%)238AD
PLD-21457 4459SI床直	-26.48±0.19	1858±21	1860±20	125AD(68.2%)214AD	85AD(95.4%)225AD
PLD-21458 4459SI床直	-25.10±0.14	1911±20	1910±20	70AD(31.9%)90AD 99AD(36.3%)124AD	53AD(95.4%)131AD
PLD-21459 4459SI床直	-25.54±0.11	1911±21	1910±20	70AD(31.8%)90AD 99AD(36.4%)124AD	52AD(95.4%)132AD
PLD-21460 5545SI下層	-28.92±0.13	1872±21	1870±20	81AD(56.6%)140AD 158AD(4.4%)166AD 196AD(7.2%)208AD	78AD(95.4%)215AD
PLD-21461 5545SI下層	-26.94±0.11	1888±21	1890±20	81AD(68.2%)129AD	65AD(91.6%)174AD 192AD(3.8%)211AD
PLD-21462 5545SI下層	-25.93±0.12	1915±21	1915±20	66AD(36.2%)90AD 99AD(32.0%)124AD	30AD(1.9%)38AD 51AD(93.5%)130AD
PLD-21463 5050SL	-27.93±0.11	9426±33	9425±35	8752BC(41.6%)8699BC 8679BC(26.6%)8642BC	8789BC(95.4%)8626BC
PLD-21464 5649SI上層	-26.37±0.11	1878±21	1880±20	78AD(68.2%)138AD	73AD(95.4%)214AD
PLD-21465 5649SI上層	-27.56±0.15	2266±21	2265±20	392BC(52.2%)358BC 276BC(16.0%)259BC	397BC(56.8%)353BC 292BC(38.6%)231BC
PLD-21466 5649SI上層	-26.34±0.11	1861±19	1860±20	90AD(6.8%)100AD 124AD(44.2%)176AD 191AD(17.2%)212AD	85AD(95.4%)220AD
PLD-21467 5770SI下層	-26.55±0.15	1853±20	1855±20	128AD(45.6%)179AD 188AD(22.6%)213AD	86AD(7.7%)109AD 119AD(87.7%)231AD
PLD-21468 5785SI床直	-26.03±0.15	1862±20	1860±20	90AD(8.5%)101AD 123AD(43.8%)174AD 192AD(15.9%)211AD	84AD(95.4%)220AD
PLD-21469 5785SI床直	-28.51±0.17	1882±21	1880±20	81AD(68.2%)133AD	70AD(88.0%)179AD 187AD(7.4%)213AD
PLD-21470 5785SI床直	-29.53±0.12	1849±20	1850±20	129AD(45.9%)177AD 190AD(22.3%)213AD	87AD(4.8%)106AD 121AD(90.6%)234AD
PLD-21471 4300SK	-27.58±0.16	1887±20	1885±20	83AD(68.2%)129AD	66AD(91.7%)175AD 192AD(3.7%)211AD
PLD-21472 3002SI上層	-24.85±0.11	1843±19	1845±20	133AD(43.7%)179AD 188AD(24.5%)213AD	125AD(95.4%)236AD
PLD-21473 3002SI上層	-26.41±0.15	1892±21	1890±20	83AD(68.2%)127AD	59AD(93.0%)170AD 194AD(2.4%)209AD
PLD-21474 3002SI床直	-28.58±0.14	1807±20	1805±20	143AD(9.0%)155AD 168AD(22.2%)195AD 209AD(37.0%)243AD	132AD(92.8%)253AD 303AD(2.6%)314AD
PLD-21475 3580SL	-27.10±0.18	9513±32	9515±30	9114BC(14.2%)9081BC 9051BC(11.1%)9021BC 8841BC(42.8%)8758BC	9121BC(37.7%)9002BC 8920BC(57.7%)8740BC
PLD-21476 3590SL	-27.16±0.13	9547±31	9545±30	9119BC(44.1%)9006BC 8916BC(5.4%)8900BC 8853BC(18.7%)8803BC	9132BC(50.5%)8980BC 8931BC(44.9%)8769BC

第 21 表　放射性炭素年代測定と暦年較正の結果　3

測定番号	δ 13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	14C 年代 (yrBP±1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-21477 3590SL	-28.06±0.17	9563±32	9565±30	9121BC(42.3%)9003BC 8918BC(9.8%)8890BC 8872BC(16.1%)8823BC	9140BC(51.3%)8967BC 8956BC(44.1%)8786BC
PLD-21478 5060SL	-25.48±0.14	9458±32	9460±30	8791BC(64.2%)8709BC 8666BC(4.0%)8659BC	8827BC(95.4%)8633BC
PLD-21479 4041SK	-28.74±0.21	1980±22	1980±20	2AD(68.2%)56AD	40BC(95.4%)69AD
PLD-21480 3900ST	-24.61±0.14	141±18	140±20	1681AD(11.0%)1696AD 1726AD(20.5%)1763AD 1802AD(8.1%)1814AD 1837AD(3.2%)1844AD 1852AD(10.2%)1876AD 1918AD(15.2%)1938AD	1671AD(15.8%)1707AD 1719AD(28.3%)1779AD 1797AD(11.4%)1826AD 1832AD(21.9%)1884AD 1913AD(18.0%)1944AD
PLD-21481 3200SY	-26.97±0.14	127±18	125±20	1683AD(11.2%)1705AD 1720AD(8.0%)1734AD 1806AD(7.3%)1819AD 1833AD(32.1%)1880AD 1915AD(9.5%)1930AD	1681AD(27.6%)1739AD 1745AD(3.3%)1763AD 1802AD(49.8%)1893AD 1907AD(14.7%)1939AD
PLD-21482 1001SY	-27.25±0.13	85±19	85±20	1700AD(19.1%)1720AD 1819AD(12.9%)1833AD 1880AD(36.1%)1915AD	1694AD(25.6%)1728AD 1812AD(69.8%)1919AD
PLD-21483 1004SK	-25.52±0.13	91±18	90±20	1698AD(22.0%)1724AD 1816AD(15.3%)1834AD 1878AD(31.0%)1917AD	1694AD(26.5%)1728AD 1812AD(68.9%)1919AD
PLD-21484 1001SY焚口	-26.84±0.14	95±18	95±20	1697AD(23.9%)1725AD 1815AD(17.1%)1835AD 1877AD(15.3%)1896AD 1903AD(11.9%)1917AD	1693AD(26.7%)1728AD 1812AD(68.7%)1920AD
PLD-21485 1045SK	-26.47±0.15	3629±23	3630±25	2024BC(68.2%)1957BC	2116BC(3.6%)2098BC 2039BC(91.8%)1921BC
PLD-21486 1039SK	-25.51±0.16	3625±22	3625±20	2022BC(68.2%)1953BC	2113BC(1.7%)2101BC 2036BC(93.7%)1918BC
PLD-21488 1216SK	-24.86±0.14	3553±22	3555±20	1937BC(68.2%)1882BC	1962BC(80.4%)1872BC 1846BC(9.2%)1812BC 1802BC(5.8%)1777BC
PLD-21489 2081SK	-25.75±0.14	3611±24	3610±25	2020BC(23.8%)1993BC 1983BC(44.4%)1937BC	2031BC(95.4%)1900BC
PLD-21490 2127SK	-26.43±0.13	4160±22	4160±20	2872BC(12.0%)2850BC 2813BC(7.2%)2800BC 2793BC(3.0%)2786BC 2780BC(22.2%)2741BC 2730BC(21.5%)2694BC 2686BC(2.3%)2681BC	2877BC(19.0%)2835BC 2818BC(75.7%)2665BC 2644BC(0.7%)2640BC
PLD-21491 2173SK	-26.88±0.19	4331±23	4330±25	3009BC(17.3%)2987BC 2935BC(50.9%)2901BC	3014BC(95.4%)2897BC
PLD-21492 1200SI上面	-25.43±0.15	1839±20	1840±20	134AD(42.8%)179AD 187AD(25.4%)213AD	126AD(95.4%)238AD
PLD-21493 1411SI下層	-25.41±0.17	1876±19	1875±20	79AD(68.2%)138AD	75AD(95.4%)214AD
PLD-21494 1411SI下層	-25.73±0.16	1822±20	1820±20	140AD(16.1%)157AD 167AD(28.7%)196AD 208AD(23.4%)231AD	131AD(95.4%)241AD
PLD-21495 1411SI下層	-25.29±0.16	1789±20	1790±20	180AD(2.5%)186AD 214AD(47.3%)258AD 296AD(18.4%)321AD	138AD(20.1%)201AD 206AD(49.6%)260AD 279AD(25.7%)326AD
PLD-21496 1253SI床直	-26.08±0.20	1851±20	1850±20	129AD(46.0%)178AD 189AD(22.2%)213AD	87AD(6.2%)108AD 120AD(89.2%)233AD
PLD-21497 1253SI床直	-25.15±0.22	1839±19	1840±20	134AD(43.0%)178AD 188AD(25.2%)213AD	127AD(95.4%)236AD

第 22 表　放射性炭素年代測定と暦年較正の結果　4

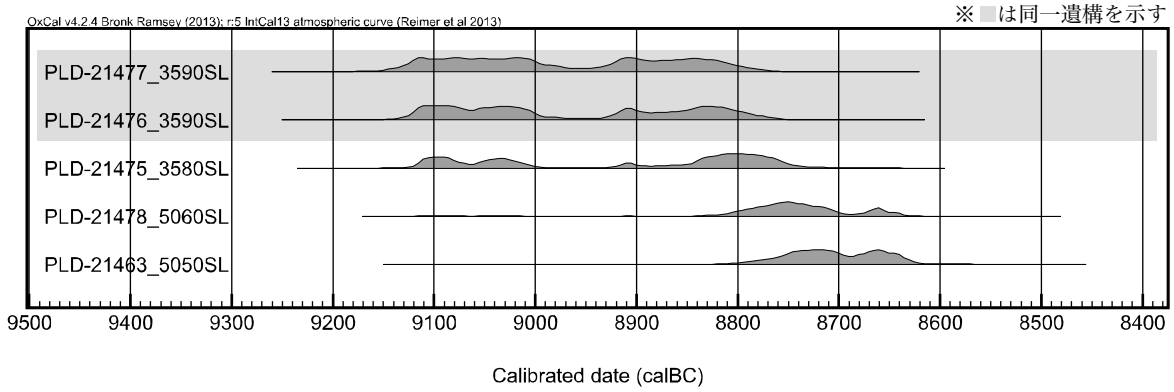
測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-21498 1464SI床直	-26.87±0.23	1842±20	1840±20	133AD(43.3%)179AD 187AD(24.9%)213AD	93AD(0.7%)97AD 125AD(94.7%)237AD
PLD-21499 1411SI下層	-25.71±0.20	1820±20	1820±20	140AD(15.8%)158AD 166AD(27.4%)196AD 208AD(25.0%)234AD	132AD(95.4%)242AD
PLD-21500 1411SI下層	-24.94±0.20	1845±20	1845±20	131AD(43.4%)180AD 186AD(24.8%)214AD	90AD(2.2%)100AD 124AD(93.2%)236AD
PLD-21501 1454SI下層	-24.74±0.15	1806±20	1805±20	143AD(8.7%)155AD 168AD(21.7%)195AD 209AD(37.8%)244AD	132AD(92.0%)254AD 302AD(3.4%)315AD
PLD-21502 1454SI下層	-25.57±0.19	1892±19	1890±20	85AD(68.2%)126AD	60AD(92.4%)140AD 154AD(1.5%)168AD 195AD(1.5%)208AD
PLD-21503 1331SI床直	-26.57±0.30	1854±20	1855±20	127AD(45.5%)179AD 187AD(22.7%)213AD	86AD(8.6%)110AD 115AD(86.8%)230AD
PLD-21504 1331SI床直	-25.63±0.24	1873±19	1875±20	81AD(60.1%)140AD 160AD(2.4%)165AD 197AD(5.8%)208AD	77AD(95.4%)214AD
PLD-21505 1331SI床直	-26.78±0.32	1859±20	1860±20	94AD(2.1%)97AD 125AD(46.2%)178AD 189AD(19.9%)213AD	85AD(95.4%)223AD
PLD-21506 1346SK	-25.46±0.19	3635±20	3635±20	2027BC(68.2%)1966BC	2119BC(4.9%)2096BC 2040BC(90.5%)1938BC
PLD-21507 1002SD	-25.02±0.19	1947±18	1945±20	27AD(19.2%)40AD 48AD(49.0%)75AD	5AD(91.9%)87AD 105AD(3.5%)120AD
PLD-21508 1861SI床直	-25.15±0.23	1966±19	1965±20	19AD(68.2%)64AD	22BC(2.9%)11BC 2BC(92.5%)78AD
PLD-21509 1861SI床直	-25.68±0.22	1920±18	1920±20	62AD(45.1%)88AD 104AD(23.1%)121AD	32AD(1.5%)37AD 52AD(93.9%)129AD
PLD-21510 1861SI床直	-25.66±0.17	1872±18	1870±20	82AD(59.7%)140AD 160AD(2.5%)165AD 197AD(6.0%)208AD	78AD(95.4%)214AD
PLD-21511 1907SI下層	-24.86±0.19	1870±19	1870±20	83AD(55.2%)141AD 157AD(5.3%)167AD 196AD(7.7%)208AD	80AD(95.4%)215AD
PLD-21512 1917SI床直	-25.58±0.17	1861±19	1860±20	90AD(6.8%)100AD 124AD(44.2%)176AD 191AD(17.2%)212AD	85AD(95.4%)220AD
PLD-21513 1917SI床直	-24.21±0.17	1890±19	1890±20	85AD(68.2%)127AD	63AD(93.3%)170AD 194AD(2.1%)209AD
PLD-21514 1929SI床直	-25.24±0.18	1851±19	1850±20	129AD(46.5%)177AD 190AD(21.7%)212AD	87AD(5.4%)106AD 121AD(90.0%)232AD
PLD-21515 1929SI床直	-24.59±0.23	1865±18	1865±20	87AD(15.3%)106AD 121AD(40.7%)171AD 194AD(12.2%)210AD	83AD(95.4%)217AD
PLD-21516 1929SI床直	-25.21±0.16	1931±19	1930±20	52AD(62.4%)86AD 110AD(5.8%)116AD	25AD(95.4%)126AD
PLD-24861 1455SI	-25.20±0.12	1805±18	1805±20	143AD(7.9%)155AD 168AD(20.8%)195AD 210AD(39.5%)244AD	133AD(93.4%)252AD 305AD(2.0%)312AD
PLD-24862 3215SI床直	-25.37±0.15	1895±18	1895±20	85AD(68.2%)126AD	58AD(95.0%)139AD 198AD(0.4%)204AD
PLD-24863 6076SK	-26.40±0.16	1878±17	1880±15	84AD(68.2%)133AD	75AD(88.7%)177AD 190AD(6.7%)212AD
PLD-24864 3404SI上層	-26.03±0.11	1839±18	1840±20	134AD(43.7%)178AD 189AD(24.5%)213AD	128AD(95.4%)233AD
PLD-24865 5785SI床直	-28.88±0.14	1869±18	1870±20	84AD(54.5%)141AD 157AD(5.6%)167AD 196AD(8.1%)208AD	80AD(95.4%)215AD

縄文時代

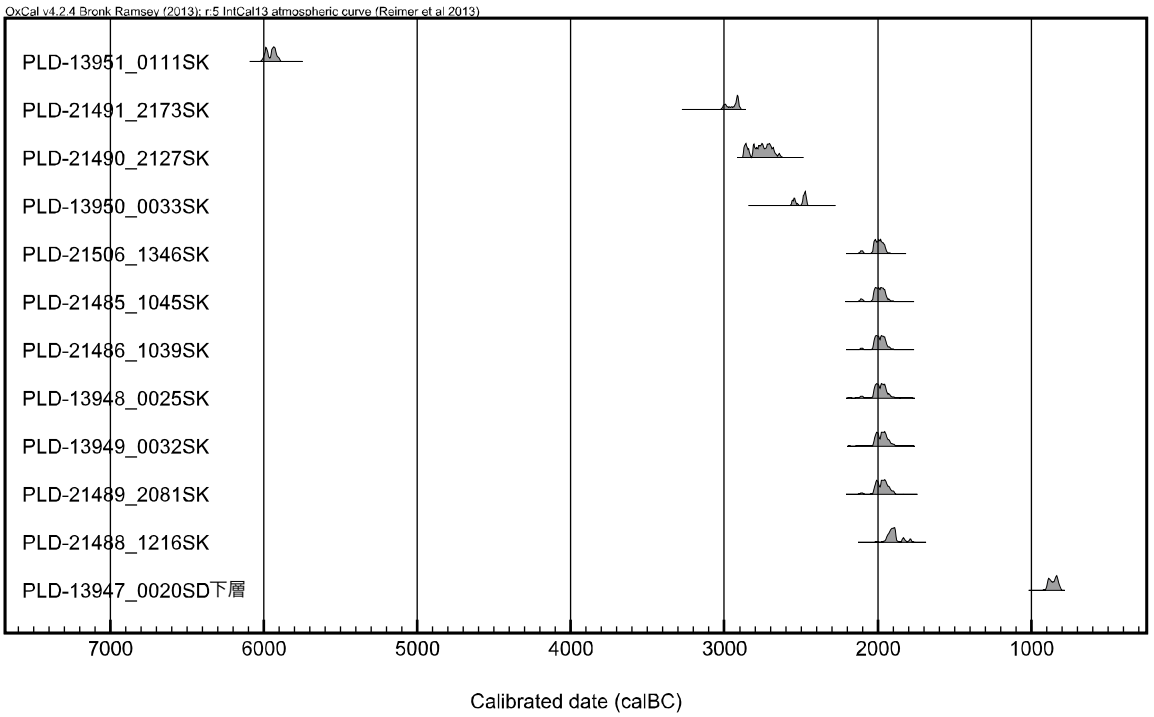
縄文時代早期前半　3590SL の PLD-21477 は 9140-8967 cal BC(51.3%) お よ び 8956-8786 cal BC(44.1%)、3590SL の PLD-21476 は 9132-8980 cal BC(50.5%) および 8931-8769 cal BC(44.9%)、3580SL の PLD-21475 は 9121-9002 cal BC(37.7%) お よ び 8920-8740 cal BC(57.7%)、5060SL の PLD-21478 は 8827-8633 cal BC(95.4%)、5050SL の PLD-21463 は 8789-8626 cal BC(95.4%) で、紀元前 9140 ～ 8620 年頃となった。これは、縄文時代早期前半に相当する。またこれらの測定結果を、第 36 図にまとめる。

縄文時代早期後半　0111SK の PLD-13951 は 6006-5901 cal BC(95.4%) で、紀元前 6010 ～ 5900 年頃となった。これは、縄文時代早期後半に相当する。

縄文時代中期後半　2173SK の PLD-21491 は 3014-2897 cal BC(95.4%)、2127SK の PLD-21490 は 2877-2835 cal BC(19.0%)、2818-2665 cal BC(75.7%)、2644-2640 cal BC(0.7%) で、紀元前 3020 ～ 2600 年頃となった。これは、縄文時代中期後半に相当する。



第36図　縄文時代（早期前半）のマルチプロット図



第37図　縄文時代（早期後半から晩期）のマルチプロット図

0033SK の PLD-13950 は 2570-2515 cal BC(38.3%)、2501-2455 cal BC(56.4%)、2417-2410 cal BC(0.7%) で、紀元前 2570 ～ 2410 年頃となった。これは、縄文時代後期初頭に相当する。　縄文時代後期初頭

1346SK の PLD-21506 は 2119-2096 cal BC(4.9%) および 2040-1938 calBC(90.5%)、1045SK の PLD-21485 は 2116-2098 cal BC(3.6%) および 2039-1921 calBC(91.8%)、1039SK の PLD-21486 は 2113-2101 cal BC(1.7%) および 2036-1918 calBC(93.7%)、0025SK の PLD-13948 は 2112-2103 cal BC(1.1%) および 2036-1911 calBC(94.3%)、0032SK の PLD-13949 は 2031-1906 cal BC(95.4%)、2081SK の PLD-21489 は 2031-1900 cal BC(95.4%)、1216SK の PLD-21488 は 1962-1872 cal BC(80.4%)、1846-1812 cal BC(9.2%)、1802-1777 cal BC(5.8%) で、紀元前 2040 ～ 1770 年頃となった。これは、縄文時代後期前葉に相当する。　縄文時代後期前葉

0020SD 下層の PLD-13947 は 901-815 cal BC(95.4%) で、紀元前 910 ～ 810 年頃となった。これは、縄文時代晩期後半に相当する。また、これら縄文時代の測定結果について、第 37 図にまとめる。　縄文時代晩期後半

弥生時代～古墳時代

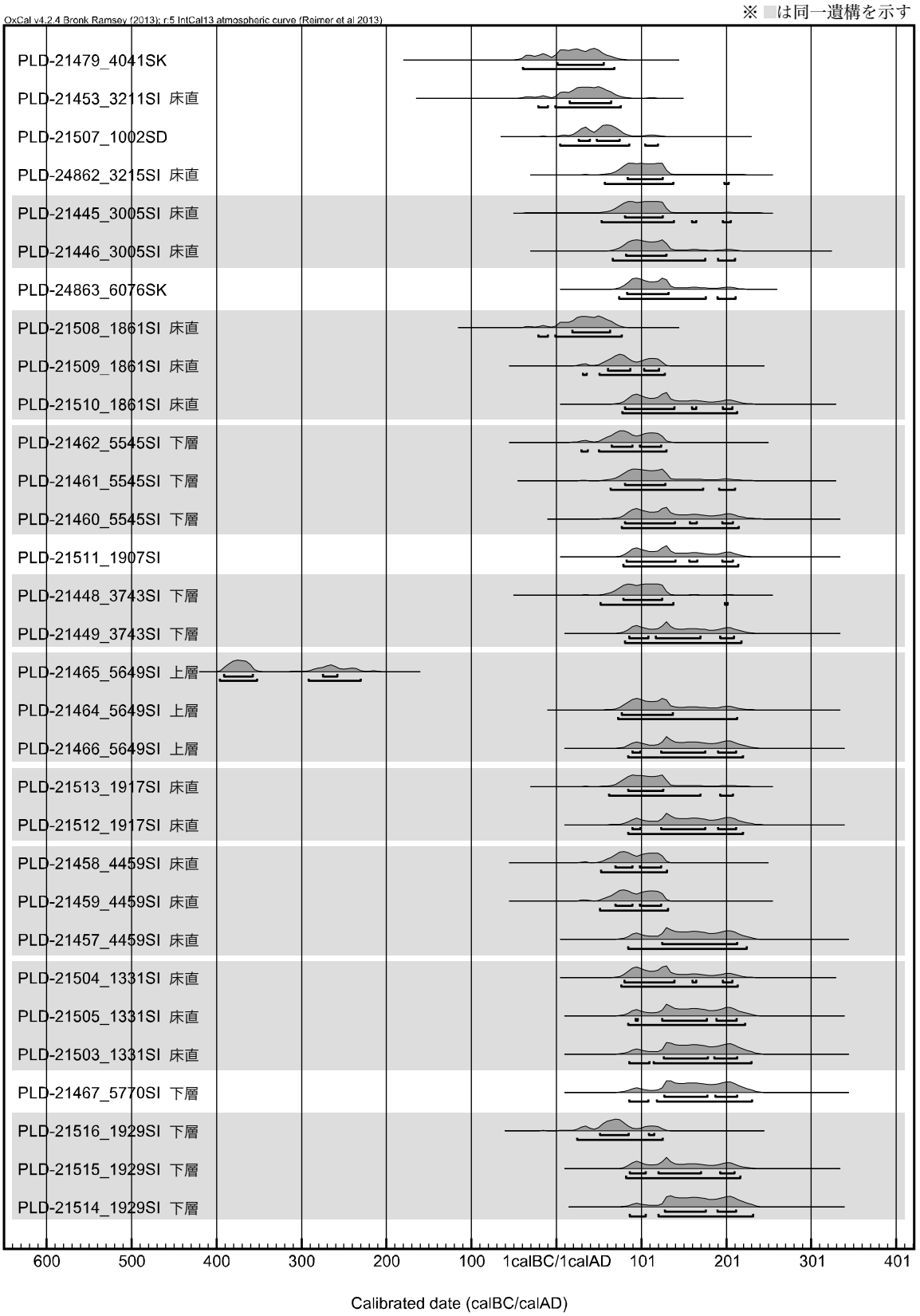
4041SK の PLD-21479 は 40 cal BC-69 cal AD(95.4%)、3211SI 床直の PLD-21453 は 22-11 cal BC(3.6%) および 2 cal BC-77 cal AD(91.8%)、1002SD の PLD-21507 は 5-87 cal AD(91.9%) および 105-120 cal AD(3.5%) で、紀元前 1 世紀後半～紀元後 2 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代後期に相当する。　弥生時代後期

3215SI（PLD-24862）、3005SI（PLD-21445）、6076SK（PLD-24863）、1861SI（PLD-21508、21510）、5545SI（PLD-21461 ～ 21461）、1907SI（PLD-21511）、3743SI（PLD-21448 ～ 21449）、5649SI（PLD-21464、21466）、1917SI（PLD-21512 ～ 21513）、4459SI（PLD-21457 ～ 21459）、1331SI（PLD-21503 ～ 21505）、5770SI（PLD-21467）、1929SI（PLD-21514、21516）、3404SI（PLD-24864）、5785SI（PLD-21465、24868 ～ 21470）、1253SI（PLD-21496 ～ 21497）、1464SI（PLD-21498）、3742SI（PLD-21447、PLD-21450 ～ 21452）、3742SI に付随する 4300SK（PLD-21471）、3034SI（PLD-21454 ～ 21456）、1200SI（PLD-21492）、0121SI（PLD-13952 ～ 13953）では、紀元前 1 世紀後半～紀元後 3 世紀中頃の暦年代を示した。これは、弥生時代後期～古墳時代早期に相当する。　弥生時代後期～古墳時代早期

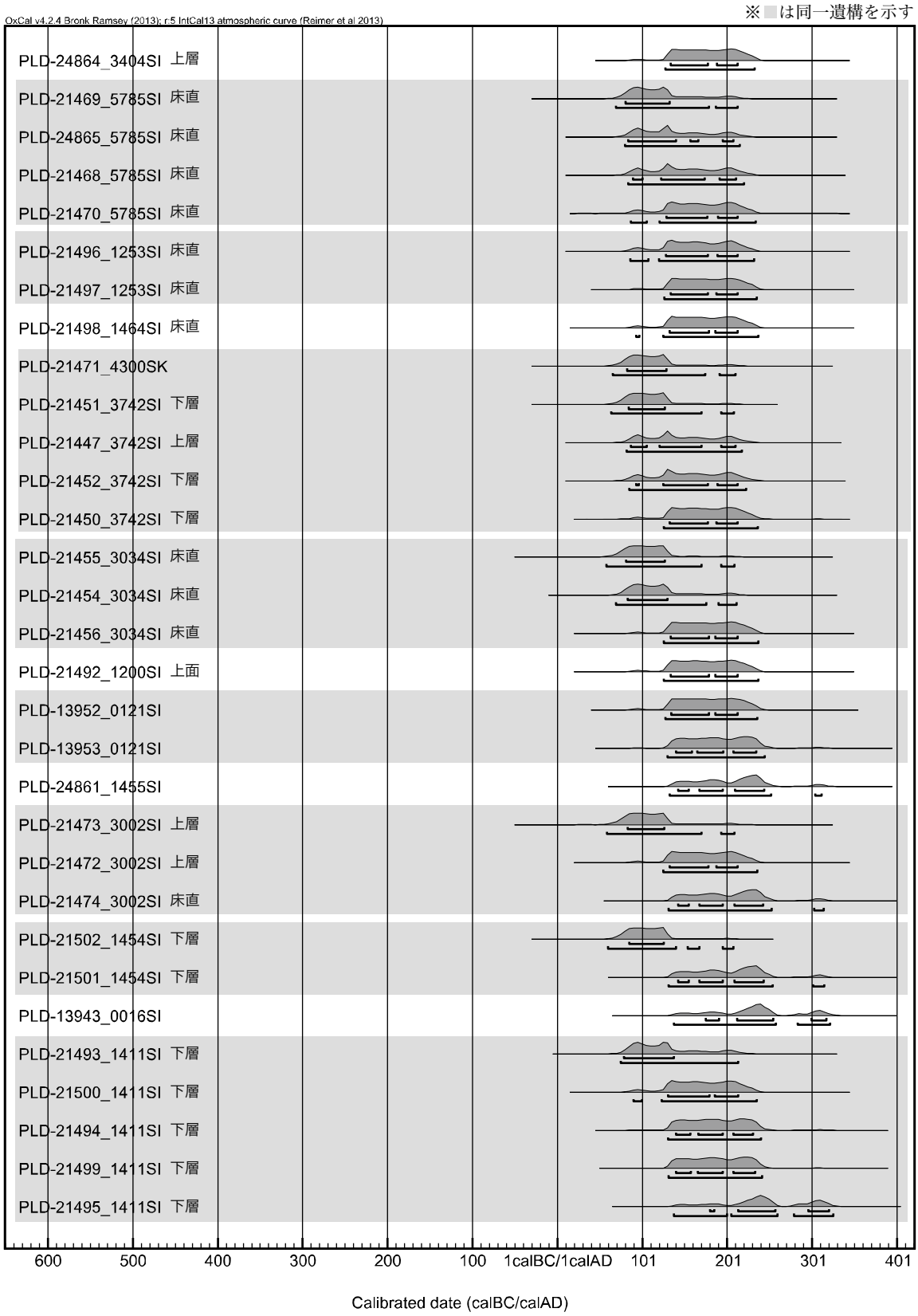
なお 5649SI では、上層の PLD-21465 が 397-353 cal BC(56.8%) および 292-231 cal BC(38.6%) で、弥生時代中期の暦年代を示し、5649SI で出土した他の試料と比較すると、時期が大きく異なっていた。PLD-21465 は上層から出土し、共伴遺物でも弥生時代中期中葉の土器が混入していることから、試料は遺構外から流れ込んだ炭化材であると考えられる。　弥生時代中期

1455SI（PLD-24861）、3002SI（PLD-21472 ～ 21474）、1454SI（PLD-21501 ～ 21502）、0016SI（PLD-13943）、1411SI（PLD-21493 ～ 21495、21499 ～ 21500）では、2 世紀前半～ 4 世紀前半の暦年代を示した。これは、弥生時代後期～古墳時代前期に相当する。　弥生時代後期～古墳時代前期

弥生時代～古墳時代の測定結果について、第 38・39 図にまとめる。



第38図　弥生・古墳時代のマルチプロット図　1



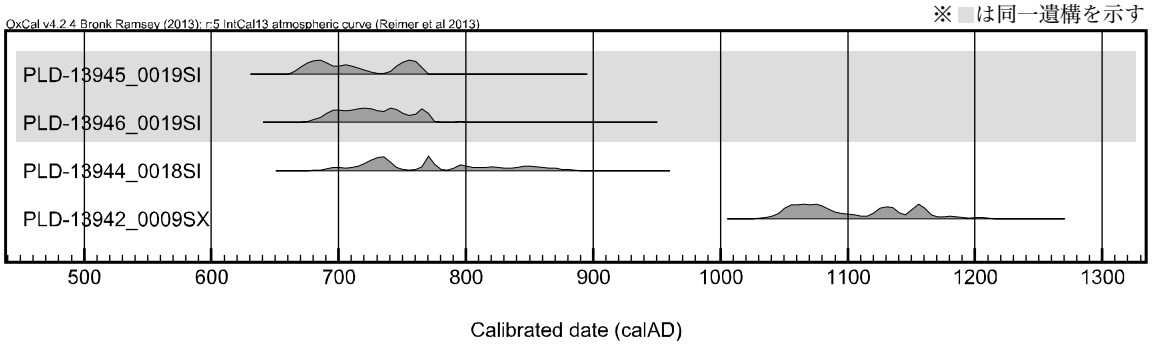
第39図　弥生・古墳時代のマルチプロット図　2

古代～中世

飛鳥～奈良時代　0019SI の PLD-13945 は 665-723 cal AD(62.7%) および 740-768 cal AD(32.7%)、PLD-13946 は 681-774 cal AD(95.4%) で、7 世紀後半～ 8 世紀末の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。

飛鳥～平安時代　0018SI の PLD-13944 は 690-749 cal AD(44.9%)、761-780 cal AD(15.7%)、788-875 cal AD(34.8%) で、7 世紀末～ 9 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～平安時代前期に相当する。

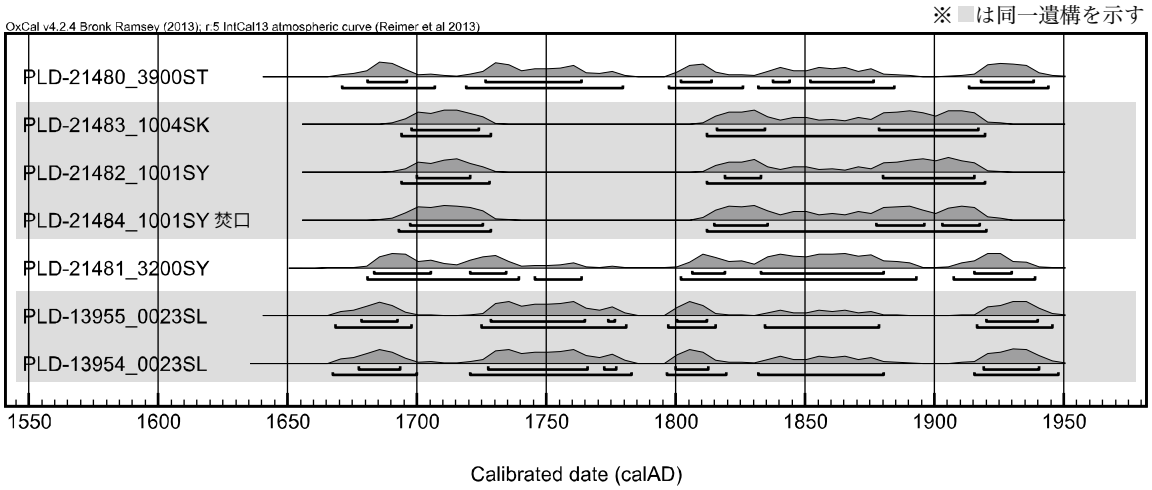
平安時代中～後期　0009SX の PLD-13942 は 1039-1170 cal AD(93.8%)、1175-1183 cal AD(1.6%) で、11 世紀前半～ 12 世紀後半となった。これは、平安時代中期～後期に相当する。これら飛鳥時代～平安時代の測定結果について、第 40 図にまとめる。



第40図　古代・中世のマルチプロット図

近世～近代

江戸時代後期以降　3900ST の PLD-21480 は 1671-1707 cal AD(15.8%)、1719-1779 cal AD(28.3%)、1797-1826 cal AD(11.4%)、1832-1884 cal AD(21.9%)、1913-1944 cal AD(18.0%)、1001SY に付随する、1004SK の PLD-21483 は 1694-1728 cal AD(26.5%) および 1812-1919 cal AD(68.9%)、1001SY では、PLD-21482 は 1694-1728 cal AD(25.6%) および 1812-1919 cal AD(69.8%)、焚口の PLD-21484 は 1693-1728 cal AD(26.7%)、1812-1920 cal AD(68.7%)、3200SY の PLD-21481 は 1681-1739 cal AD(27.6%)、1745-



第41図　近世以降のマルチプロット図

1763 cal AD(3.3%)、1802-1893 cal AD(49.8%)、1907-1939 cal AD(14.7%)、0023SL の PLD-13955 は 1668-1698 cal AD(15.6%)、1725-1781 cal AD(37.4%)、1797-1815 cal AD(11.2%)、1834-1878 cal AD(12.3%)、1916-1945 cal AD(18.9%)、0023SL の PLD-13954 は、1667-1700 cal AD(15.6%)、1720-1783 cal AD(35.3%)、1796-1819 cal AD(11.2%)、1832-1880 cal AD(15.0%)、1915-1948 cal AD(18.3%) で、17 世紀後半～ 20 世紀中頃の暦年代を示した。これは、江戸時代後期～昭和時代に相当する。

これら近世～近代の測定結果について、第 41 図にまとめる。

参考文献

赤塚次郎（2009）弥生後期から古墳中期（八王子古宮式から宇田式期）の暦年代．日本文化財科学会第26回大会実行委員会編「日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集」：14-20，日本文化財科学会．

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

藤尾慎一郎（2009）弥生時代の実年代．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第4巻弥生農耕のはじまりとその年代」：9-54，雄山閣．

金子直行（2008）条痕文系土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：138-145，アム・プロモーション．

小林謙一（2009）近畿地方以東の地域への拡散．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第4巻弥生農耕のはじまりとその年代」：55-82，雄山閣．

纐瀬　茂・高橋健太郎（2008）中富式・神明式土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：494-501，

工藤雄一郎（2012）旧石器・縄文時代の環境文化史―高精度放射性炭素年代測定と考古学―．373p，新泉社．

中村健二（2008）凸帯文系土器（中四国・近畿・東海地方）：798-805，アム・プロモーション．

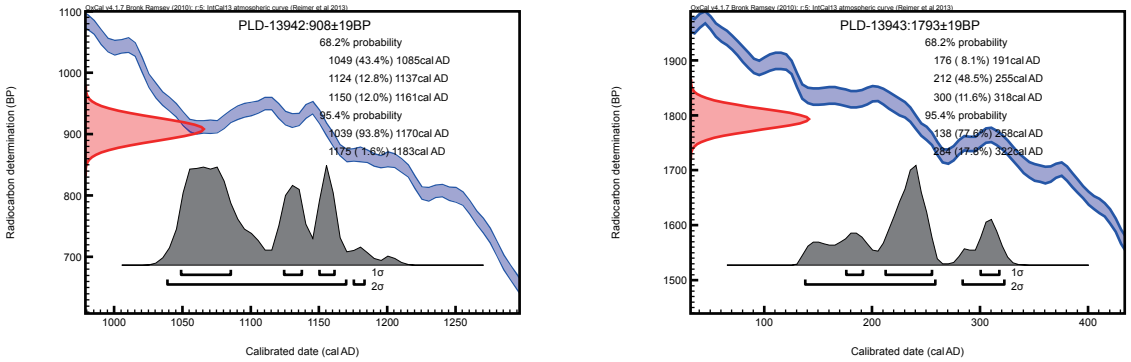
中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」：3-20，日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

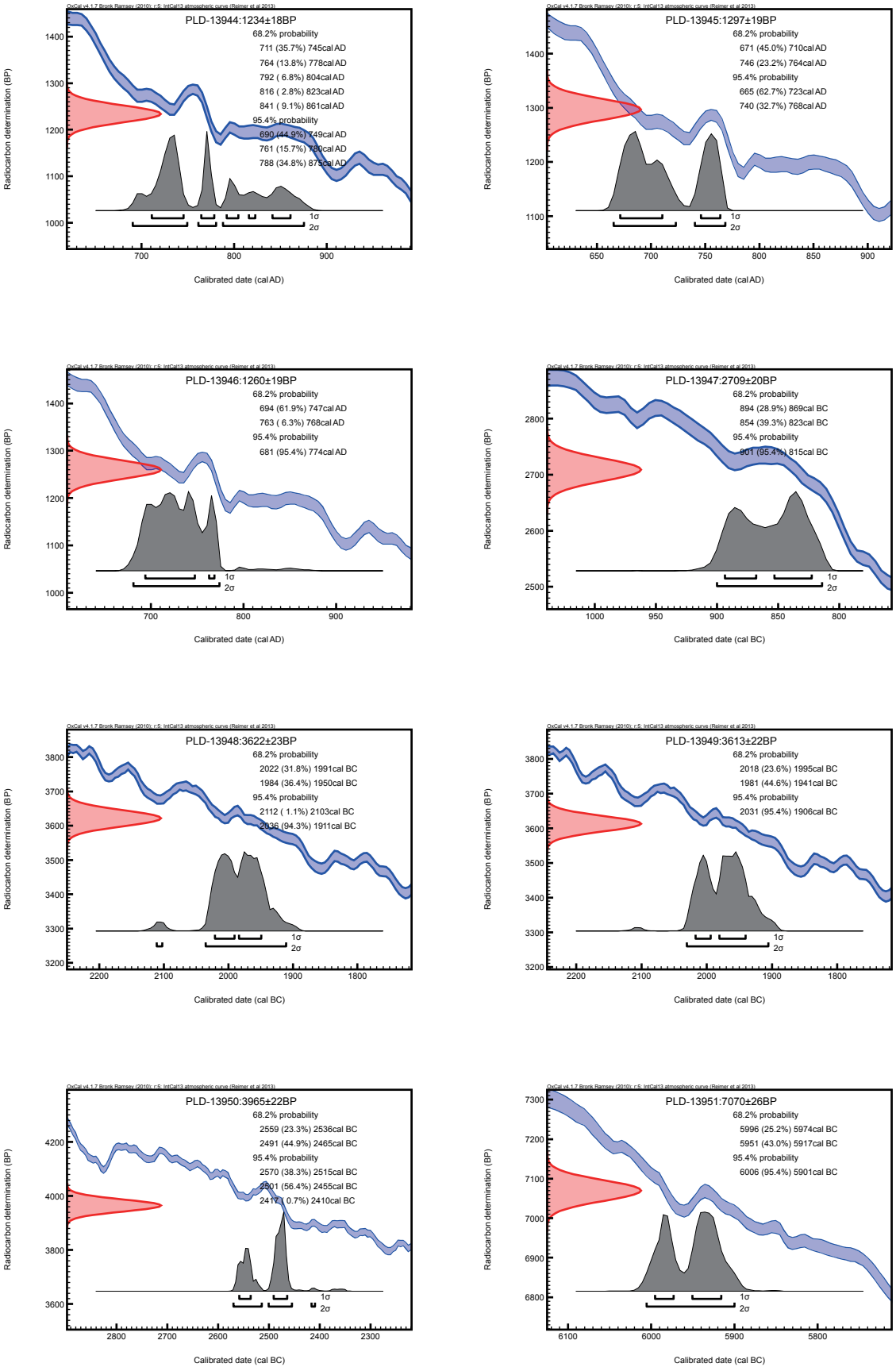
千葉　豊（2008）縁帯文土器．小林達雄編「総覧縄文土器」：642-649，アム・プロモーション．

山本直人（2007）東海・北陸における弥生時代の開始年代．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第2巻縄文時代から弥生時代へ」：35-44，雄山閣．

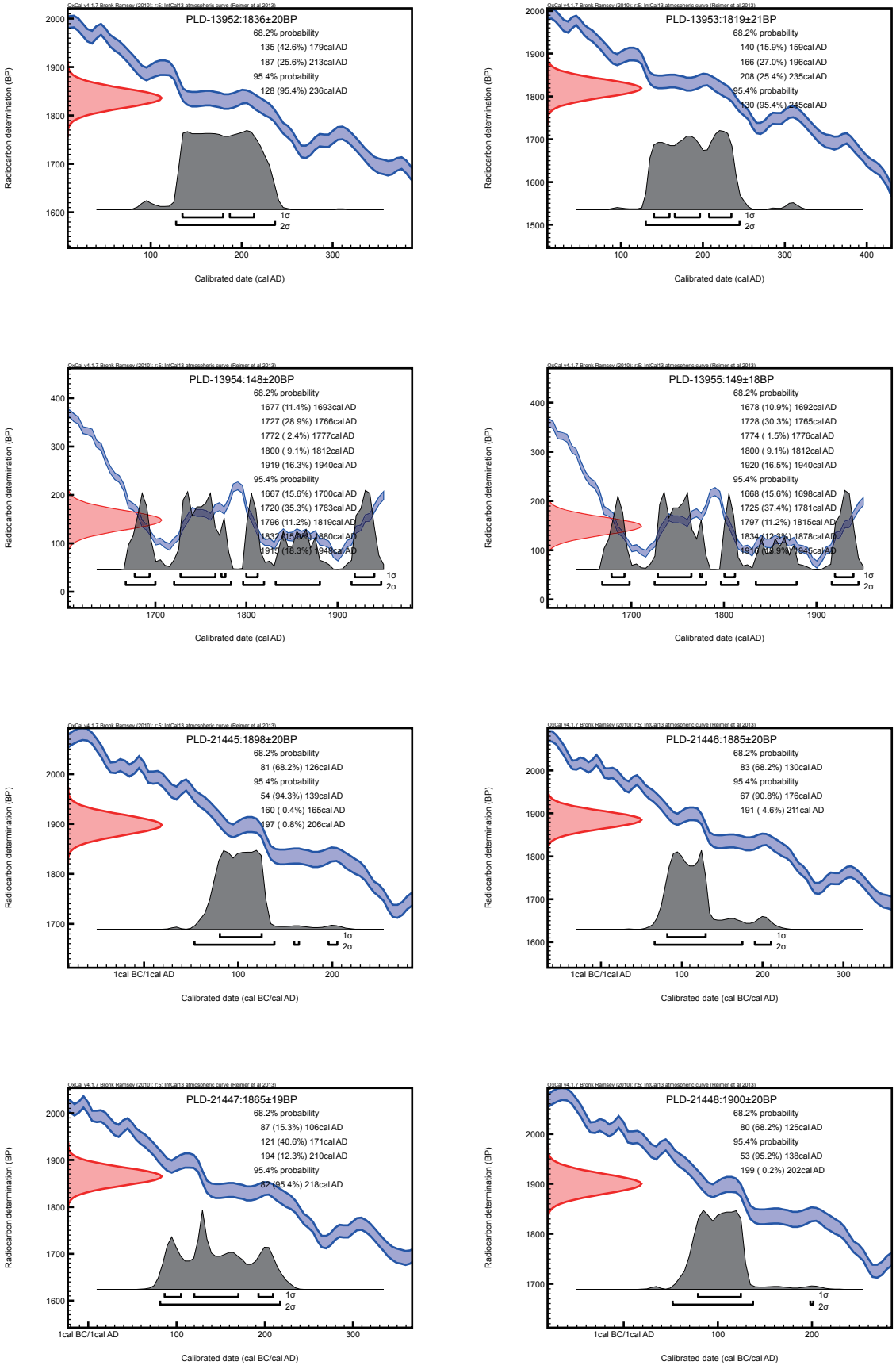
矢野健一（2008）押型文系土器（大川式・神宮寺式土器）．小林達雄編「総覧縄文土器」：154-161，アム・プロモーション．



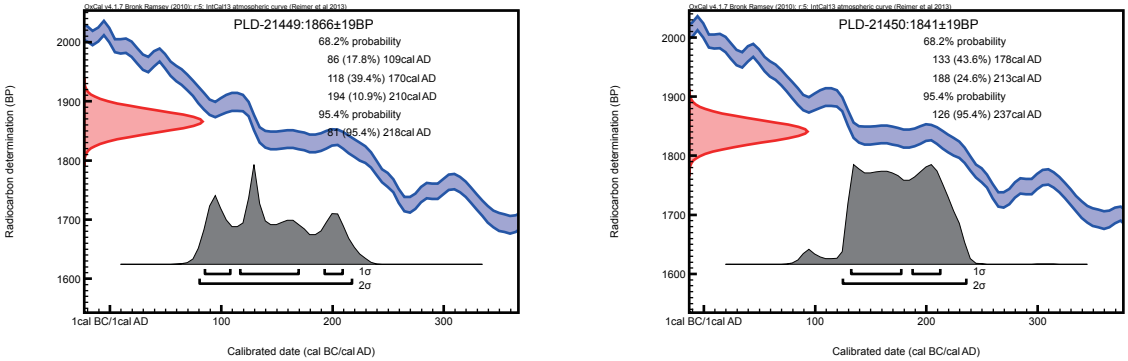
第42図　暦年較正結果　1

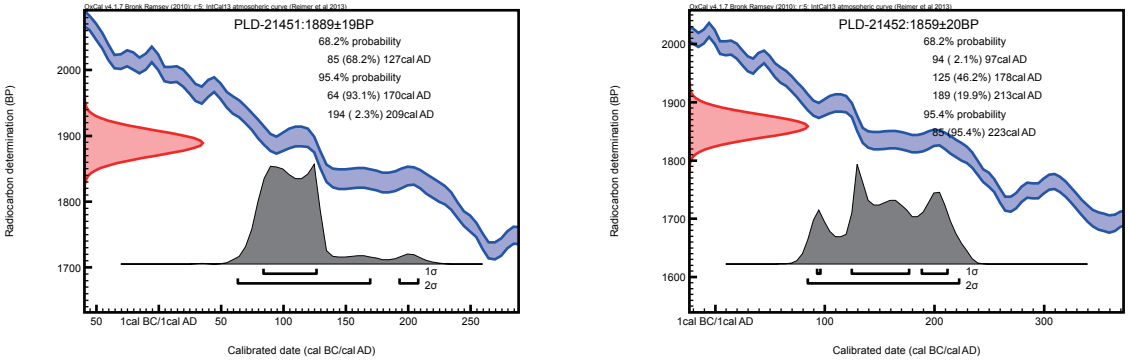


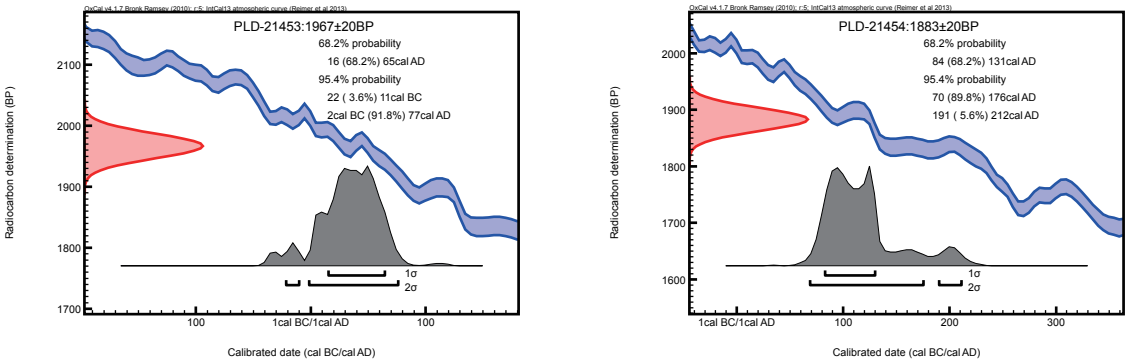
第43図　暦年較正結果　2

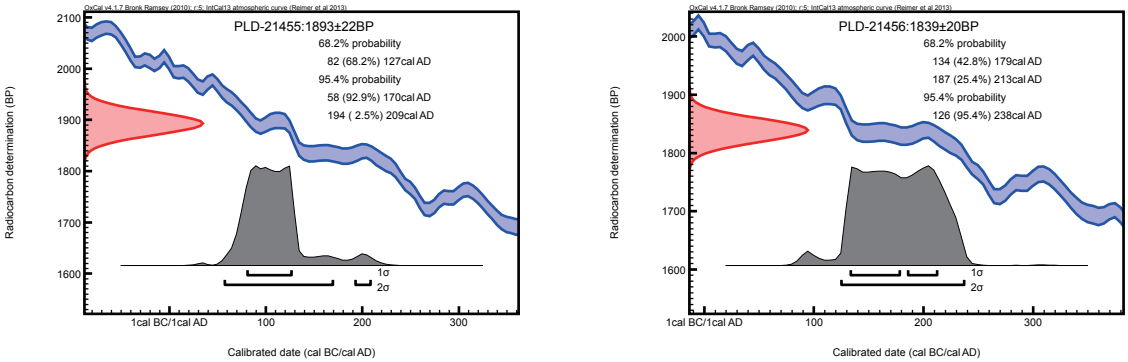


第44図　暦年較正結果　3

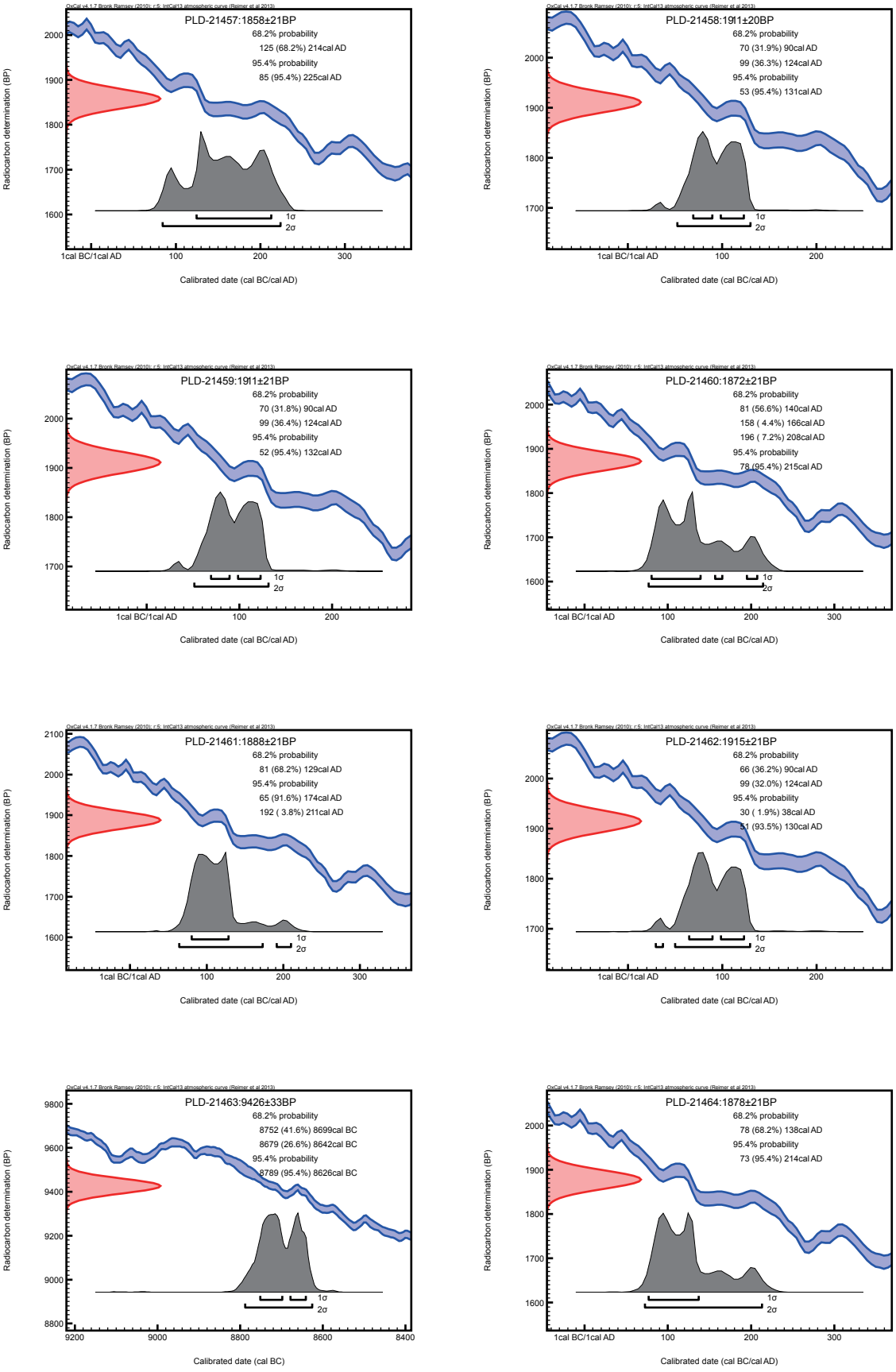




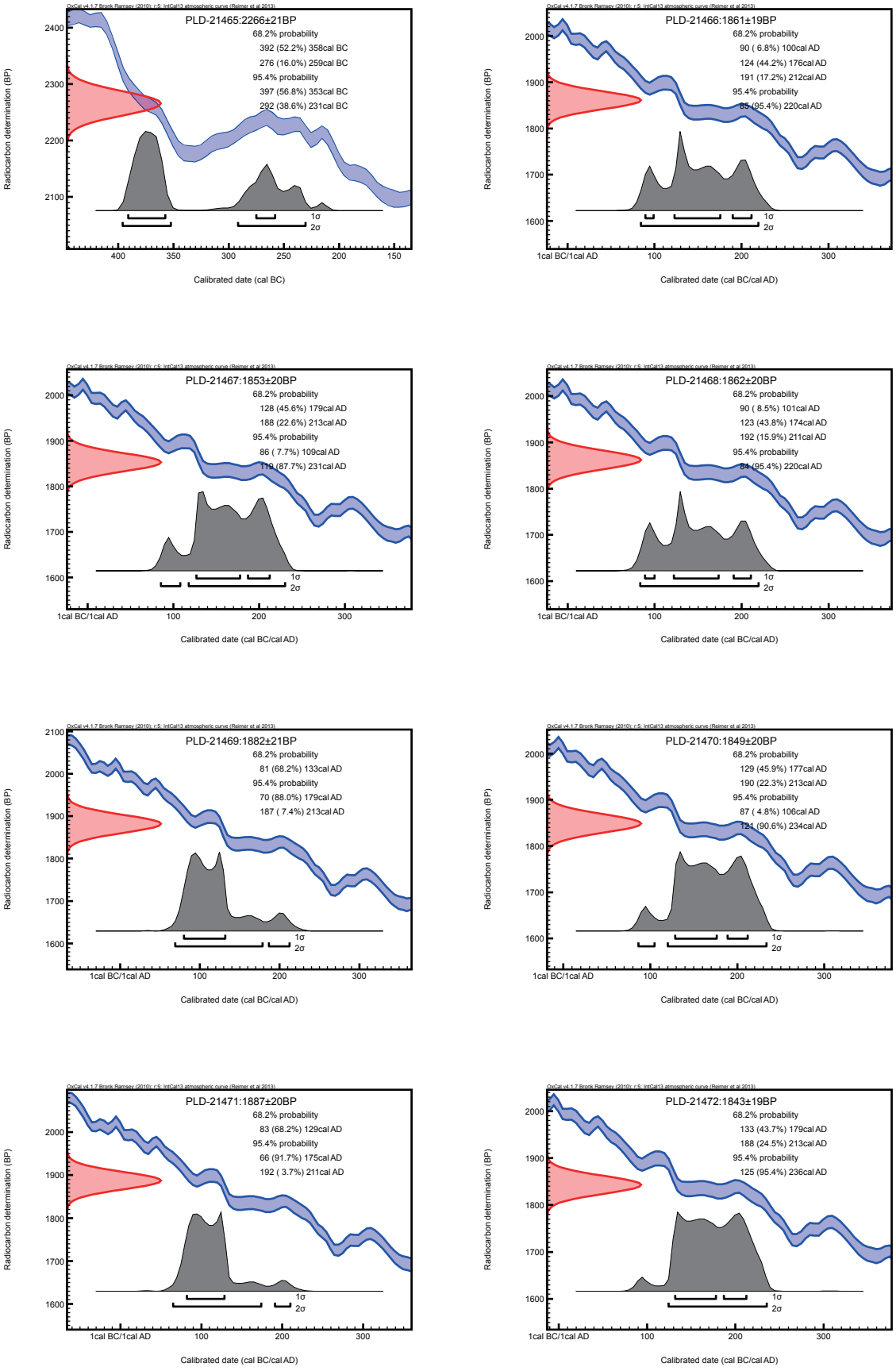




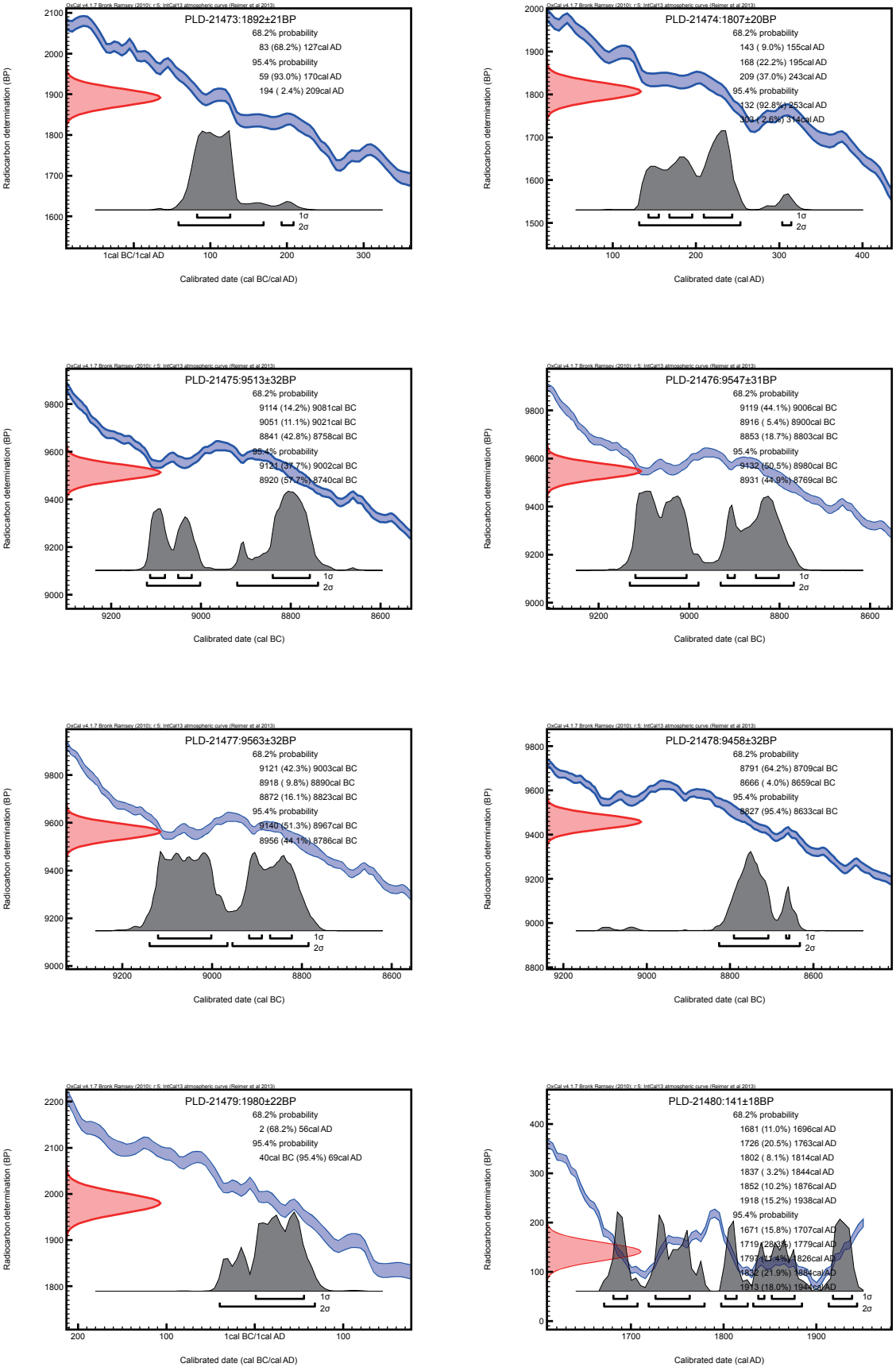
第45図　暦年較正結果　4



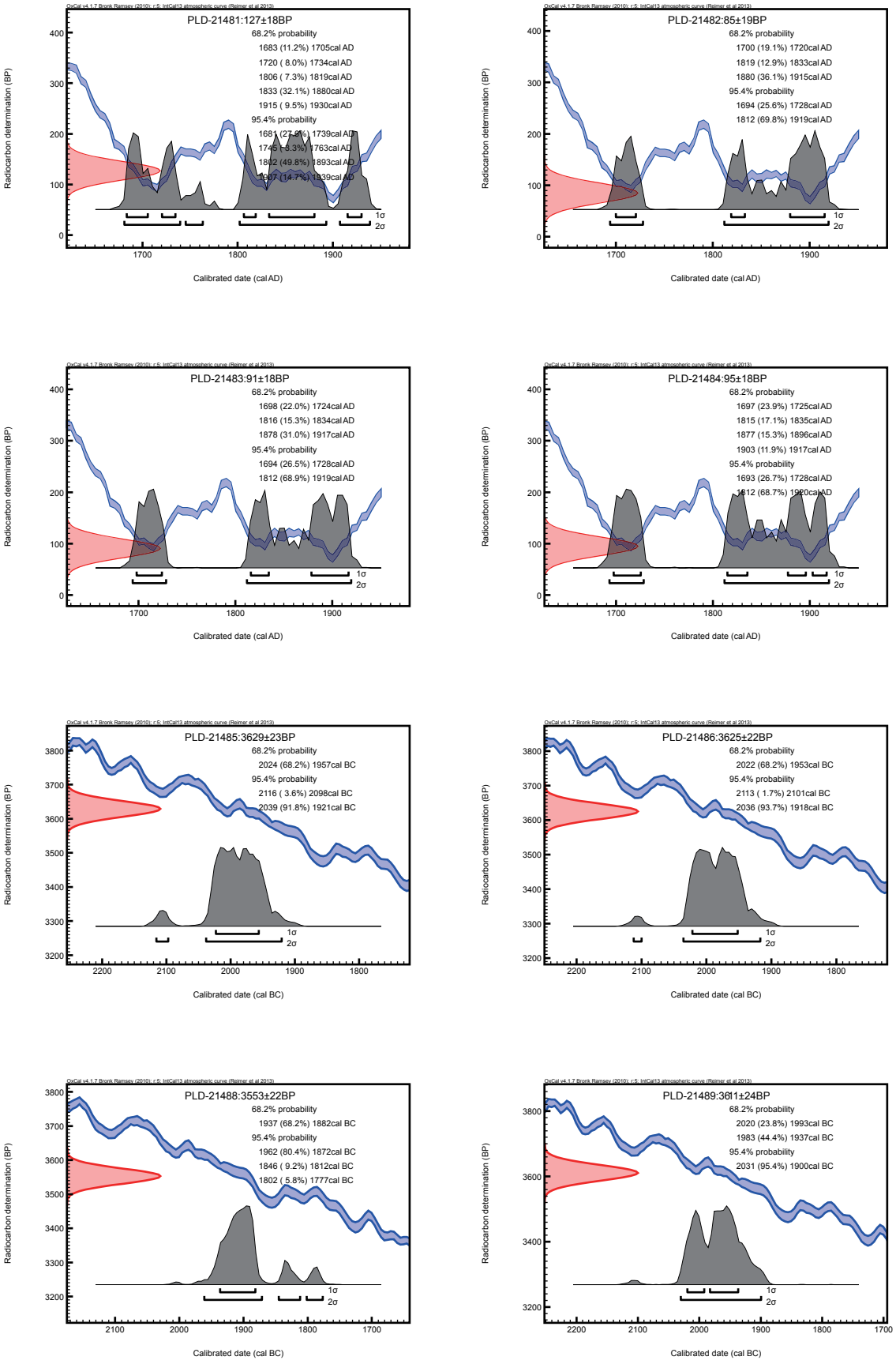
第46図　暦年較正結果　5



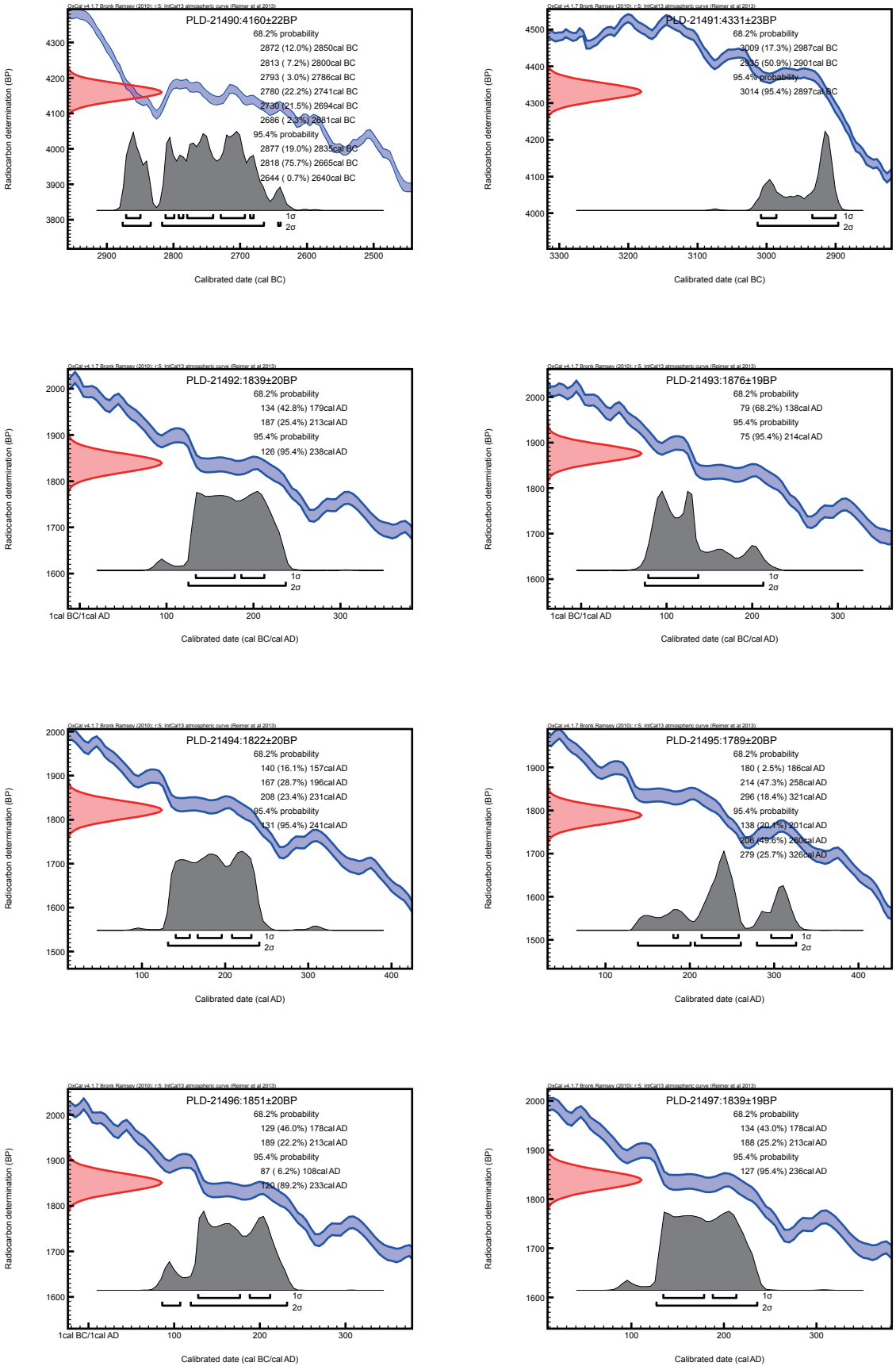
第47図　暦年較正結果　6



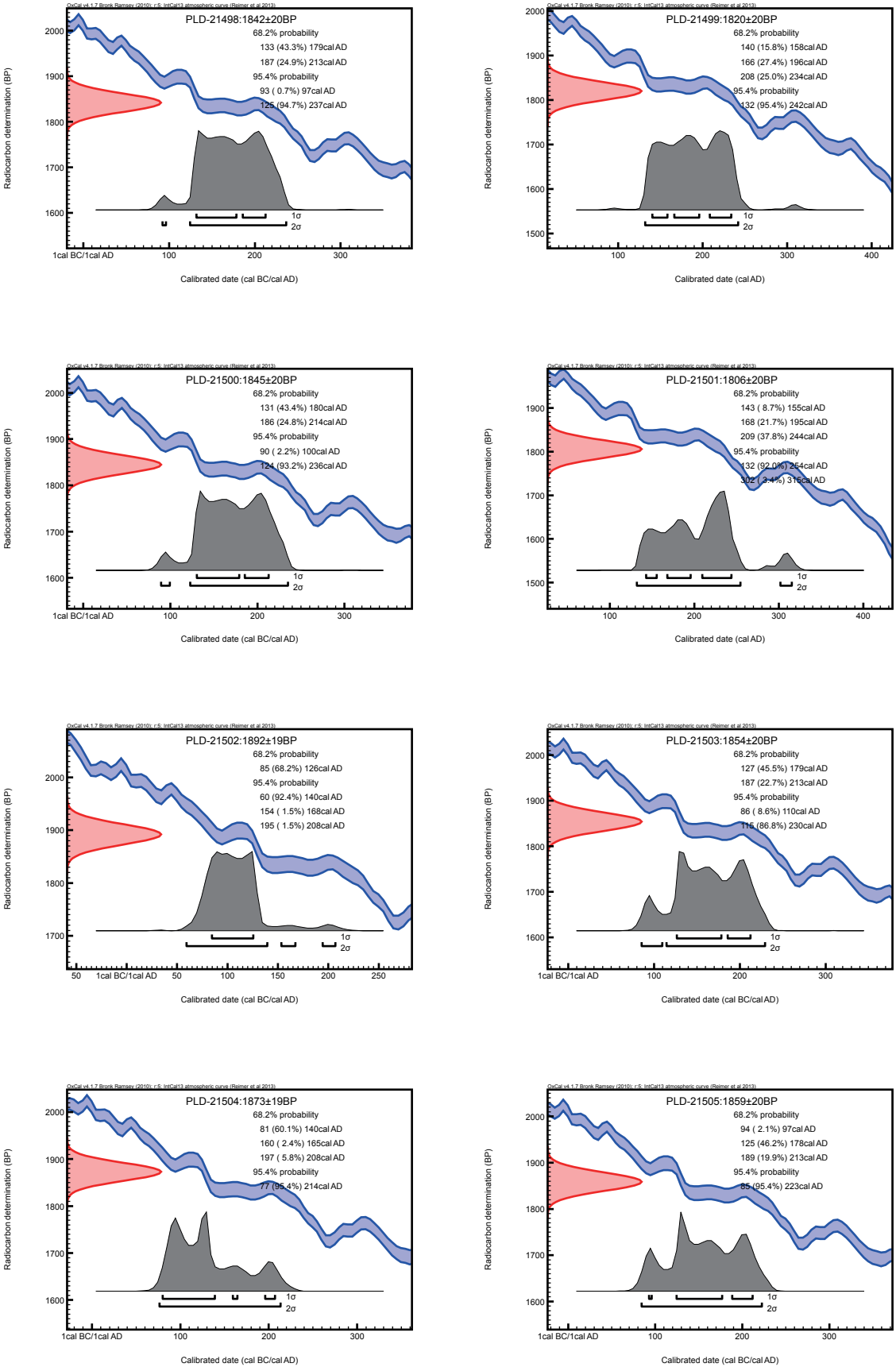
第48図　暦年較正結果　7



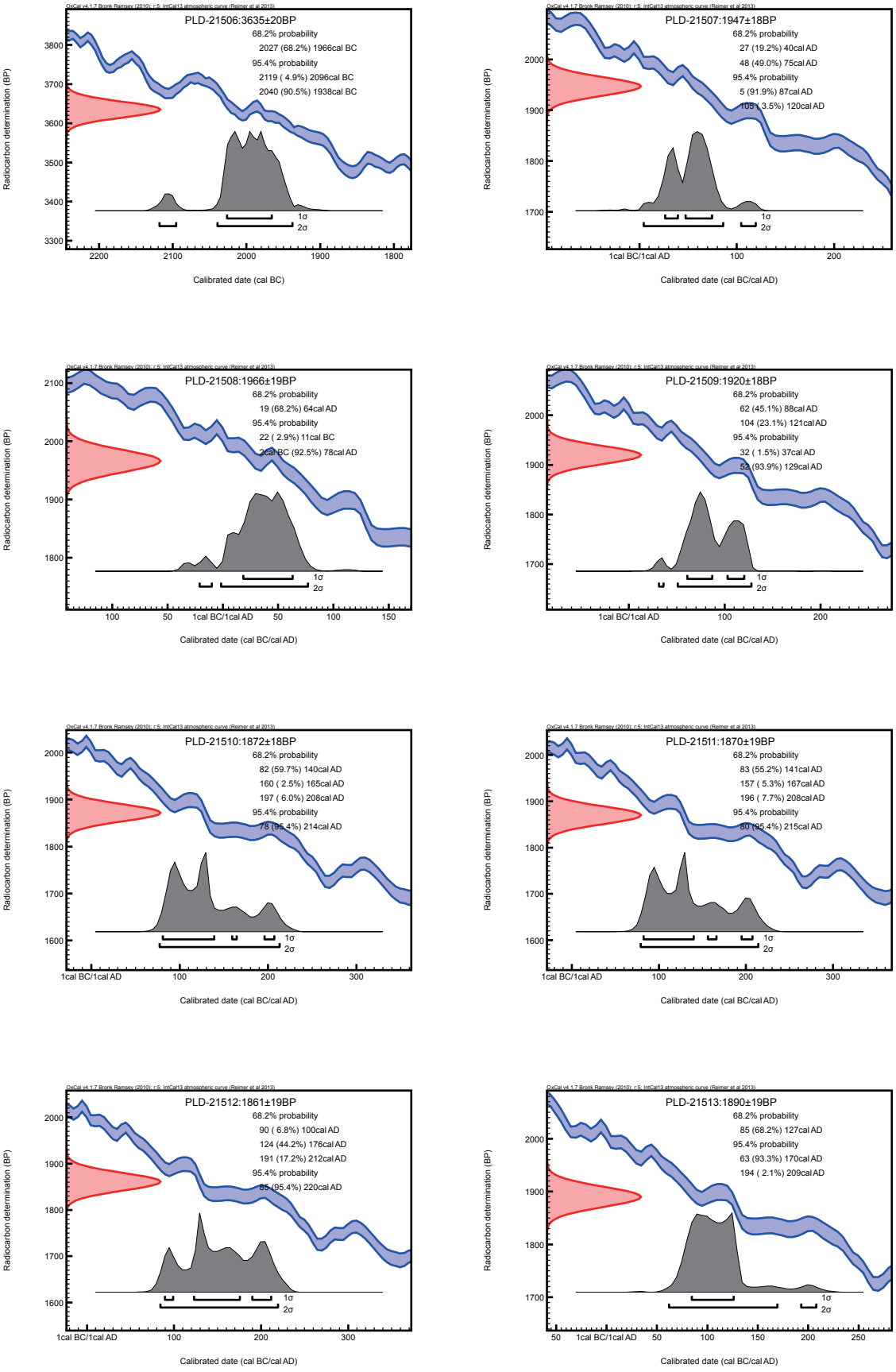
第49図　暦年較正結果　8



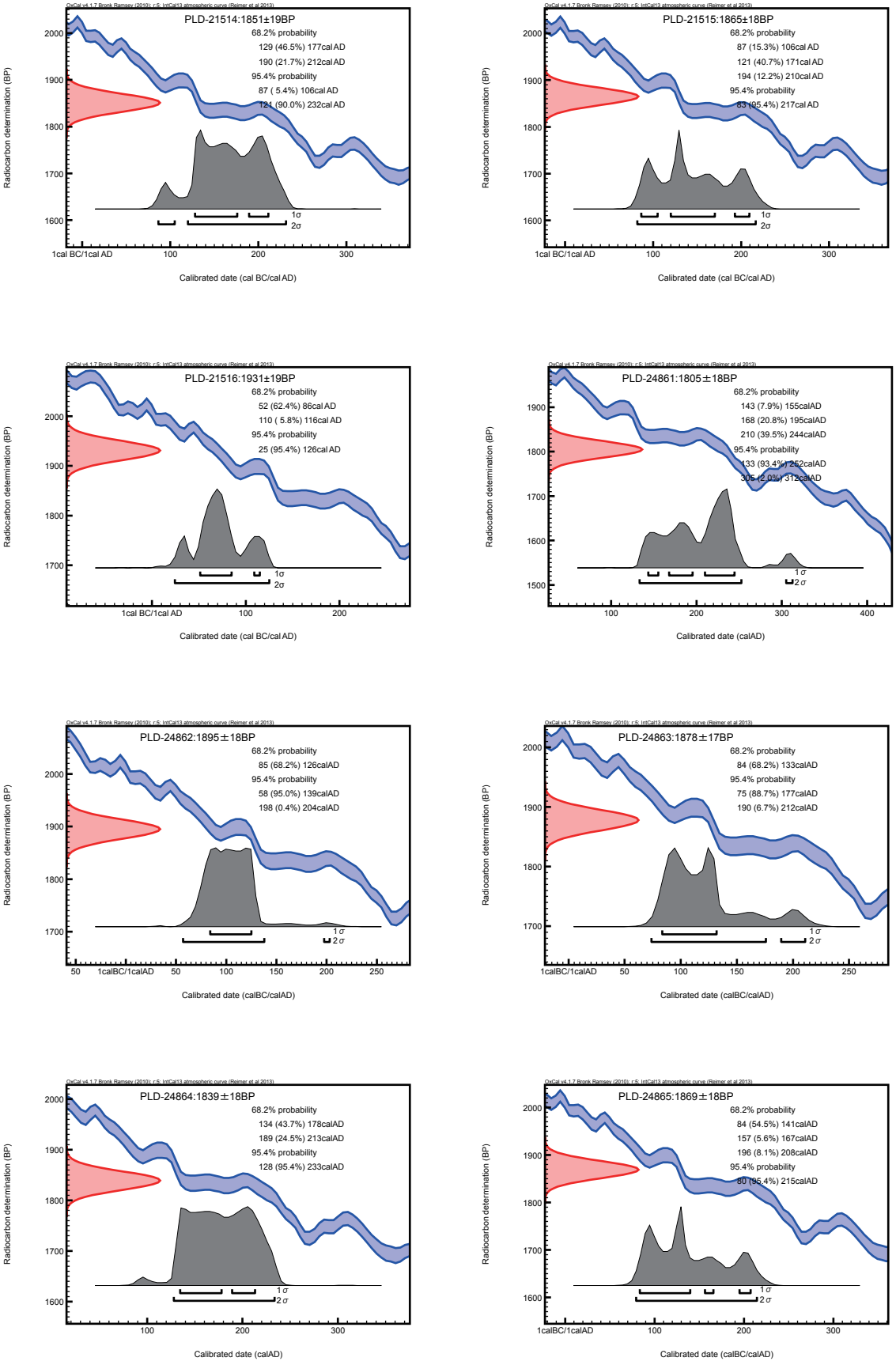
第50図　暦年較正結果　9



第51図　暦年較正結果　10



第52図　暦年較正結果　11



第53図　暦年較正結果　12

（２）石座神社遺跡出土のウマ

中村賢太郎（パレオ・ラボ）

１）はじめに

概要

石座神社遺跡は新城市大宮に所在し、連吾川と大宮川に挟まれた標高約 110m の台地に立地する。台地の北側縁辺には、石座神社の社地を区画したと思われる中世（古代に遡る可能性もあり）の大溝が巡る。大溝のやや北側の斜面にある土坑内からウマの骨が出土した。ここでは、ウマの部位同定結果や計測値を記載し、年齢、性別、体高の推定を示した上で、ウマ遺体の性格について考察する。

２）試料と方法

出土状況

試料は、大溝から北側へ約 5m 離れた斜面、10B 区 10C7r に位置する土坑 5631SK 出土のウマ１体である。5631SK は、南北に長軸を持つ、長さ約 1.3m、幅約 1.0m の長方形で、南端の覆土最下部から、上下顎の歯が並んで出土した。下顎の歯が下位にあり、直上から上顎の歯が出土し、上下の歯とも、南側に傾いていた。平面で見ると、東側から切歯、西側から臼歯が出土した。5631SK 内からは、上顎歯と下顎骨以外の部位は見られなかった。

時期

ウマ骨の他に 5631SK 内から出土した遺物は、山茶碗など土器の破片のみであった。山茶碗の形態から、時期は 12 世紀末から 13 世紀の初め頃と考えられる。

試料

試料は、保存処理が施され、上顎切歯、上顎左臼歯、上顎右臼歯、下顎切歯、下顎左臼歯、下顎右臼歯 (第２前臼歯～第２後臼歯)、下顎右第３後臼歯の６部分に分けて、樹脂で固められていた。

方法

部位同定には愛知県埋蔵文化財センター所蔵のウマ現生標本を使用した。歯の計測にはノギスを用い、0.1 ㎜単位まで計測した。

第 23 表　同定された部位と歯冠計測値

上顎			
左		右	
第1切歯		第1切歯	
第2切歯		第2切歯	
第3切歯		第3切歯	
第2前臼歯	46.3㎜	第2前臼歯	44.8mm
第3前臼歯	55.9㎜	第3前臼歯	52.9mm
第4前臼歯	53.2㎜	第4前臼歯	51.4mm
×		第1後臼歯	47.8mm
×		第2後臼歯	56.2mm
×		第3後臼歯	49.6mm
下顎			
左		右	
第1切歯		第1切歯	
第2切歯		第2切歯	
×		第3切歯	
第2前臼歯	40.2㎜	第2前臼歯	44.1㎜
第3前臼歯	47.9㎜	第3前臼歯	51.2mm
第4前臼歯	56.0㎜	第4前臼歯	57.4mm
第1後臼歯	54.6㎜	第1後臼歯	56.9mm
第2後臼歯	58.7㎜	第2後臼歯	60.6mm
×		第3後臼歯	61.1mm
左右の下顎臼歯の内側には下顎体の一部遺存			

注：「×」は欠落

３）結果

同定されたのはウマ (Equus caballus) の上顎歯と下顎骨であった。全て焼けていない生の状態であった。同定された歯種および歯冠計測値を第 23 表に示した。また、臼歯列長も計測し、値は本文中に記した。

左上顎

左上顎の歯は、第１～３切歯、第２～４前臼歯が認められた。左上顎の前臼歯列長は 89.8 ㎜であった。

右上顎

右上顎の歯は、第１～３切歯、第２～４前臼歯、第１～３後臼歯が認められた。右上顎の前臼歯列長は 89.0 ㎜、後臼歯列長は 73.5 ㎜、全臼歯列長は 162.5 ㎜であった。

左下顎

左下顎の歯は、第１～２切歯、第２

～４前臼歯、第１～２後臼歯が認められた。左下顎の前臼歯列長は 86.1 ㎜であった。

右下顎　右下顎の歯は、第１～３切歯、第２～４前臼歯、第１～３後臼歯が認められた。右下顎の前臼歯列長は 85.2 ㎜、後臼歯列長は 79.3 ㎜、全臼歯列長は 164.5 ㎜であった。

４）考察

年齢・性別　ウマの年齢は、臼歯の歯冠高から６歳前後と推定される。性別は、犬歯が無い点からおそらくメスと推定される。

体高　全臼歯列長からは頭蓋骨長が 460 ㎜前後と推定され、体高については推定された頭蓋骨長に基づくと 140 ㎝前後と推定される。

埋葬　左右の下顎臼歯内側に下顎体の一部が遺存していた点を除けば歯のみの出土であり、歯の並びが解剖学的な正位置を留めていた点から、元は頭蓋骨と下顎骨が 5631SK 内に存在し、埋没中の分解、溶解で歯以外が消失したと考えられる。さらに、5631SK 内の出土位置から、頭部は土坑南端にあり、頭頂をやや南に傾け、東側に吻部を向けた状態だったと考えられる。5631SK 内は南端を除くと遺物分布の空白があり、おそらくウマ頭部に続いて北側に頸部、胴部、四肢が連なっていたと推定される。つまり、食用に伴う解体と残滓の廃棄ではなく、5631SK 内にウマ遺体の全身が納められていたと推定される。

祭祀の可能性　石座神社の社地に近い点や、神社にウマ関連の伝承がある点から、ウマが何らかの祭祀の犠牲として 5631SK 内に納められたとの想定が可能である。ただし、歯以外の部位が無いため刺殺や斬首など人為的な殺害の痕跡は確認できない。また、5631SK 内から祭祀に関わると判断される遺物の出土も無い。

5631SK の南東約 10m でも同規模の土坑が検出され、そちらからは完形の土師器や六文銭など祭祀と判断される遺物が出土した。しかし２基の土坑が一連の行為の痕跡であるか明瞭ではなく、5631SK が祭祀関連と判断する直接の証拠とはならない。さらに、ウマが出土した SK5631 は大溝の北側斜面にあり、大溝が社地の区画とすれば、5631SK の位置は社地の区画外にあたる。ウマを犠牲とする祭祀と考えるには、直接の証拠が足りず、5631SK の位置を説明するのもやや難しい。

現在、大溝を東側に追っていくと、そのまま山道に繋がる。13 世紀の初め頃にも大溝が社地区画だけでなく道としても使われていた可能性が考えられる。仮に道としての利用を考えるならば、道中で倒れたウマを道の脇に葬った可能性も考えられる。

５）おわりに

12 世紀末から 13 世紀の初め頃の 5631SK では、ウマ（体高 140 ㎝前後、年齢６歳前後、性別はおそらくメス）のおそらく全身が埋められたと考えられた。ウマを土中に埋める契機は、ウマを犠牲とする祭祀や死んだウマの埋葬などが考えられた。

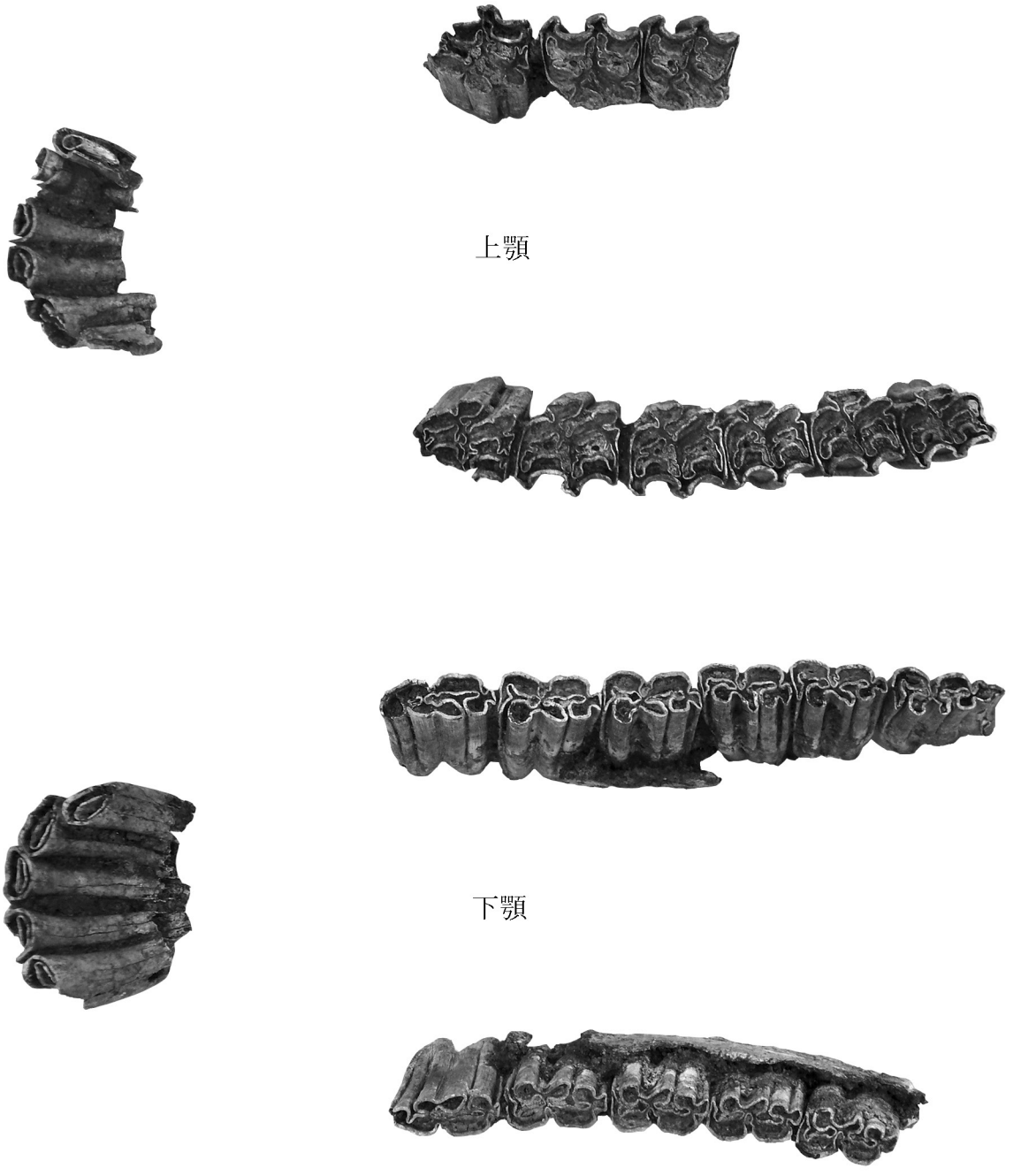
参考文献

林田重幸・山内忠平（1957）馬における骨長より体高の推定法．鹿児島大学農学部学術報告書，6，146-156.

松井章（2008）動物考古学．312p，京都大学学術出版会.

西本豊弘・松井章編（1999）考古学と動物学，210p，同成社.

西中川駿編（1991）古代遺跡出土骨から見たわが国の牛・馬の渡来時期とその経路に関する研究：平成2年度文部科学省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告．鹿児島大学農学部獣医学科.



第54図　石座神社遺跡5631SK出土のウマ

（3）炭素・窒素安定同位体比分析

山形秀樹・小林克也（パレオ・ラボ）

1）はじめに

概要

愛知県新城市に位置する石座神社遺跡より出土した獣骨（ウマ）および土器の付着炭化物を対象として、炭素と窒素の安定同位体比を測定した。また、炭素含有量と窒素含有量を測定して試料のC/N比を求めた。なお、土器付着炭化物について放射性炭素年代測定が、獣骨（ウマ）について部位同定や計測が行われている（同章（1）・（2）を参照）。

2）試料および方法

試料

試料は、石座神社遺跡から出土した獣骨1点と土器付着炭化物5点の計6点である。獣骨は5631SKから出土したウマの左下顎骨1点で、土器付着炭化物は、1455SIから出土した甕（288）、3404SI上層から出土した壷（1794）の内面付着炭化物2点と、3215SI床面直上から出土した壷（1696）、6076SKから出土した甕（2823）、5785SI床面直上から出土した甕（2581）の外面付着炭化物3点である。

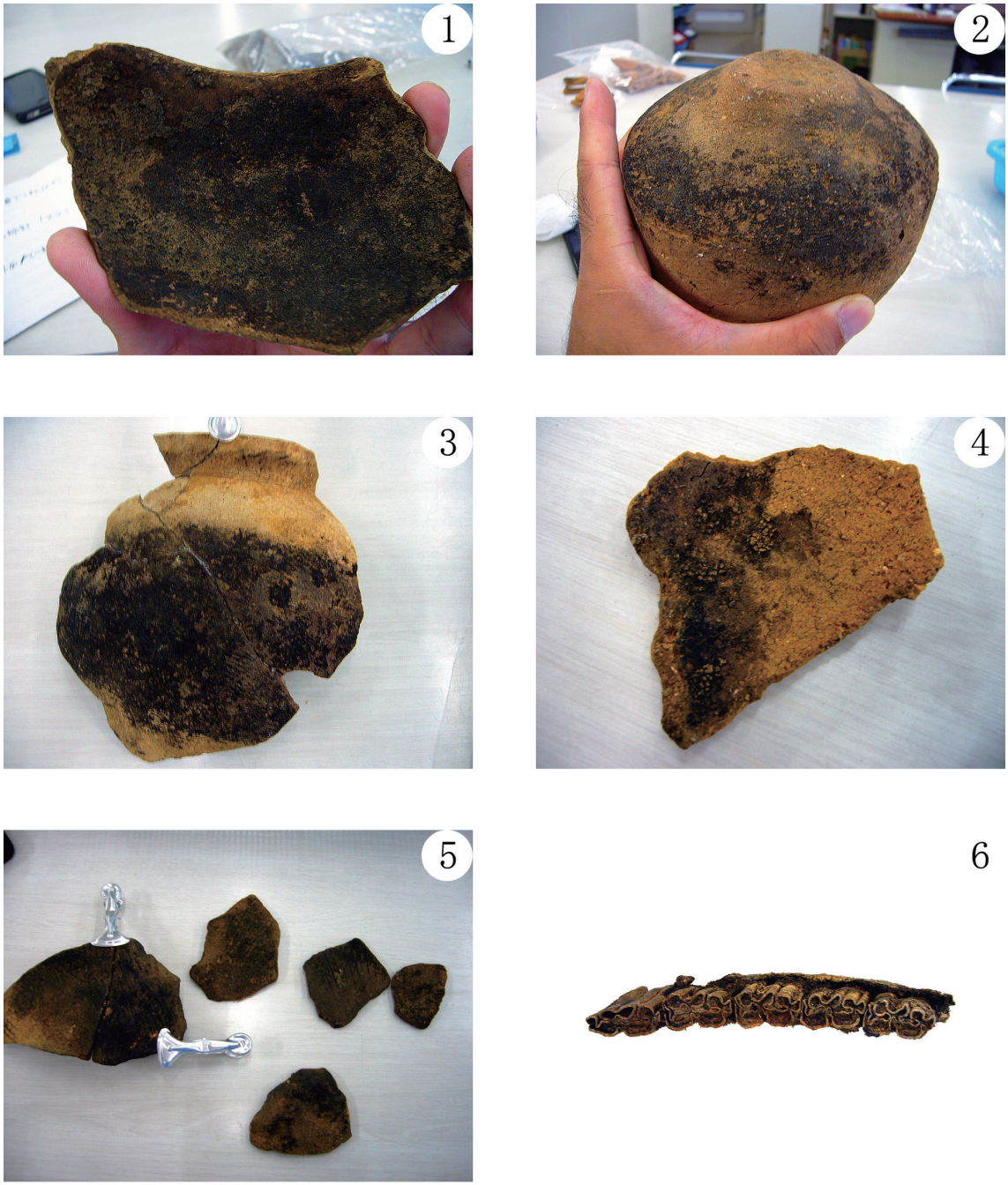
方法

測定を実施するにあたり、獣骨試料はコラーゲン抽出を行い、土器付着炭化物は酸・アルカリ・酸洗浄（HCl:1.2N, NaOH:0.1N）を施して試料以外の不純物を除去した後、測定を行った。炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）であるFlash EA1112（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。スタンダードは、アセトニトリル（キシダ化学製）を使用した。また、炭素安定同位体比（$\delta^{13}C_{PDB}$）および窒素安定同位体比（$\delta^{15}N_{Air}$）の測定には、質量分析計DELTA V（Thermo Fisher Scientific社製）を用いた。スタンダードは、炭素安定同位体比にはIAEA Sucrose（ANU）、窒素安定同位体比にはIAEA N1を使用した。

測定は、次の手順で行った。スズコンテナに封入した試料を、超高純度酸素と共に、EA内の燃焼炉に落とし、スズの酸化熱を利用して高温で試料を燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させる。次に還元カラムで窒素酸化物を還元し、水を過塩素酸マグネシウムでトラップ後、分離カラムでCO_2とN_2を分離し、TCDでそれぞれ検出・定量を行う。この時の炉および分離カラムの温度は、燃焼炉温度1000℃、還元炉温度680℃、分離カラム温度45℃である。分離したCO_2およびN_2はそのままHeキャリアガスと共にインター

第24表　分析結果一覧

試料番号	試料情報	$\delta^{13}C_{PDB}$ (‰)	$\delta^{15}N_{Air}$ (‰)	炭素含有量 (%)	窒素含有量 (%)	C/N比
288	遺構:1455SI 種類:土器付着炭化物（内面）	-24.3	1.46	56.2	5.15	12.7
1696	遺構:3215SI床直 種類:土器付着炭化物（外面）	-24.2	8.13	27.3	0.958	33.2
2823	遺構:6076SK 種類:土器付着炭化物（外面）	-25.9	9.87	42.1	1.71	28.7
1794	遺構:3404SI上層 種類:土器付着炭化物（内面）	-25.5	2.52	44.7	4.26	12.2
2581	遺構:5785SI床直 種類:土器付着炭化物（外面）	-27.4	8.57	17.2	0.549	36.5
ウマ	遺構：5631SK 種類:ウマ左下顎骨	-18.7	6.39	42.5	12.9	3.84



第55図　土器付着物の安定同位体比と炭素窒素比測定を行なった試料

1．288（甕体部内面）　2．1696（壷体部外面）
3．2823（甕体部外面）　4．1794（壷体部内面）
5．2581（甕体部外面）　6．ウマ（左下顎骨）

フェースを通して質量分析計に導入し、安定同位体比を測定した。

得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいて C/N 比を算出した。

３）結果

第 24 表に試料情報名と炭素安定同位体比、窒素安定同位体比、炭素含有量、窒素含有量、C/N 比を示す。第 56 図には炭素安定同位体比と窒素安定同位体比の関係、第 57 図には

炭素安定同位体比と C/N 比の関係を示した。

第 56 図において、土器付着炭化物２点（試料番号 :288・1794）は C_3 植物・草食動物の位置に、その他の土器付着炭化物３点（試料番号 :1696・2823・2581）はいずれも C_3 植物・草食動物付近のやや窒素安定同位体比の高い位置に、獣骨１点（試料番号 : ウマ）は C_3 植物・草食動物と海産物の中間付近の位置にプロットされた。

第 57 図において、288 と 1794 の土器付着炭化物は C_3 植物・草食動物の位置に、1696 と 2581 の土器付着炭化物はいずれも堅果類の位置に、2823 の土器付着炭化物は堅果類と土壌（黒色土）の間の位置に、獣骨（ウマ）は C_3 植物・草食動物よりも $\delta^{13}C$ の値が高い位置にプロットされた。

４）考察

甕（288）と壷（1794）の内面付着炭化物２点は、第 56 図と第 57 図のいずれにおいても C_3 植物・草食動物に相当する位置にプロットされ、C_3 植物・草食動物に由来すると推定される。

壷（1696）と甕（2581）の外面付着炭化物２点は、$\delta^{15}N$ が高く第 56 図では C_3 植物より上方に分布したが、C/N 比が 1696 では 33.2、2581 では 36.5 と高いことから、主に C_3 植物に由来すると推定される。

甕(2823)の外面付着炭化物は、$\delta^{15}N$ が高く第 56 図では C_3 植物より上方に分布したが、C/N 比が 28.7 で第 57 図では堅果類と土壌（黒色土）の間の位置にプロットされ、C_3 植物に由来すると推定される。

ウマ左下顎骨は、第 56 図で C_3 植物・草食動物よりも $\delta^{13}C$ の値が高い位置に、第 57 図でも C_3 植物・草食動物よりも $\delta^{13}C$ の値が高い位置にプロットされた。以上より、測定を行なったウマは、C_3 植物の他に C_4 植物も食していた可能性が考えられる。

なお、コラーゲンの C/N 比は、コラーゲンの保存状態を評価する指標として用いられ、一般的に骨コラーゲンの C/N 比は 2.9 ～ 3.6 の間に収まる（DeNiro, 1985）。ウマ左下顎骨から抽出したコラーゲンの C/N 比は 3.84 であり、一般的な C/N 比の範囲より僅かであるが高い。そのため、コラーゲンの汚染や劣化が僅かながらおこっている可能性があり、測定結果に影響を及ぼしている可能性がある。

参考文献

赤澤　威・南川雅男（1989）炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元．田中　琢・佐原　眞編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」：132-143，クバプロ．

DeNiro, M. J. (1985) Postmortem Preservation and Alteration of in vivo Bone Collagen Isotope Ratios in Relation to Palaeodietary Reconstruction. Nature, 317, 806-809.

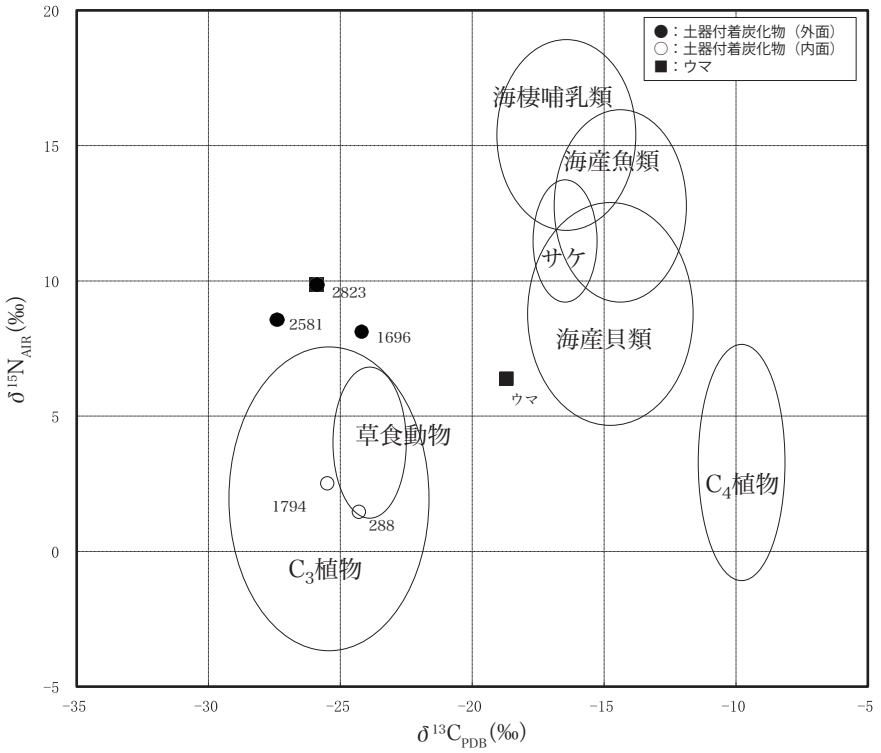
坂本　稔（2007）安定同位体比に基づく土器付着物の分析．国立歴史民俗博物館研究報告，137，305-315.

米田　穣（2008）丸根遺跡出土土器付着炭化物の同位体分析．豊田市郷土資料館編「丸根遺跡・丸根城跡」：261-263，豊田市教育委員会．

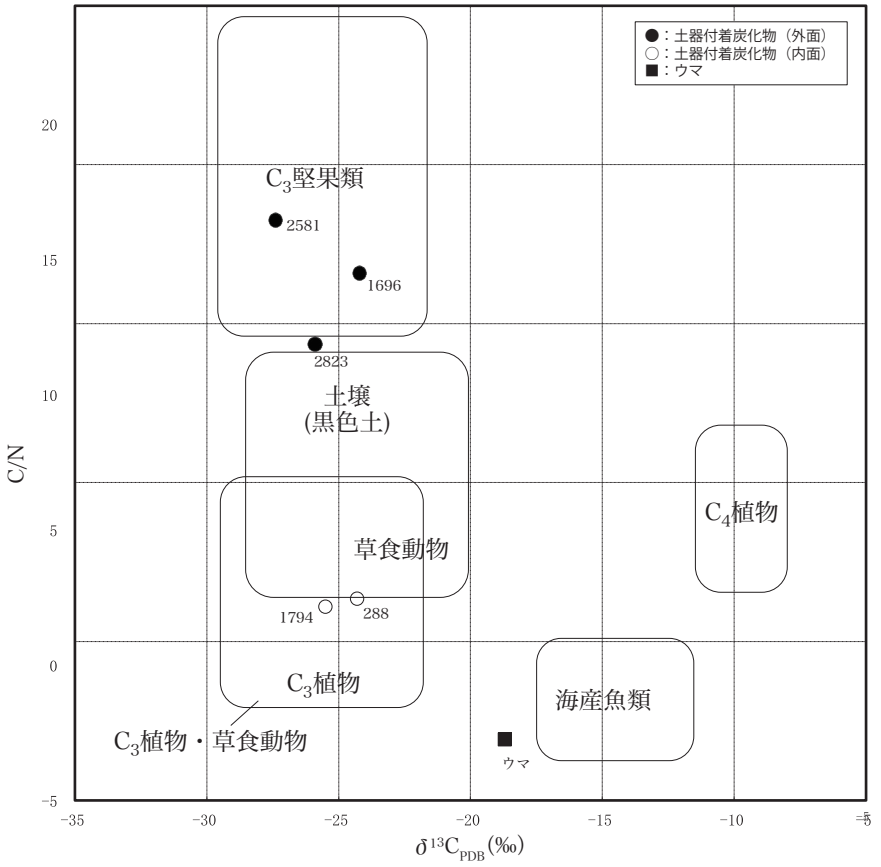
Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita, and T. Akazawa (2002) Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. Radiocarbon 44(2), 549-557.

吉田邦夫・宮崎ゆみ子（2007）煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究．平成16-18年度科学研究補助金基礎研究B（課題番号16300290）研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食植物の研究」，85-95.

吉田邦夫・西田泰民（2009）考古科学が探る火炎土器．新潟県立歴史博物館編「火焔土器の国　新潟」：87-99，新潟日報事業社．



第56図　炭素・窒素安定同位体比（吉田・西田2009に基づいて作成）



第57図　炭素安定同位体比とC/N比の関係（吉田・西田2009に基づいて作成）

（4）金属製品の産地推定

西田京平・平尾良光（別府大学文化財研究所）

1）はじめに

概要

愛知県埋蔵文化財センターから、石座神社遺跡の発掘調査で出土した資料の材料産地を推定する依頼があった。今回調査した資料は弥生時代の青銅器材料３点と、戦国時代の火縄銃弾丸５個であり、それぞれ時代と資料の持つ意味が異なるので、別々に考察することとした。

石座神社遺跡から出土した弥生・古墳時代青銅器

資料

本調査で取り扱った資料は第 25 表で示される 3 点で、弥生時代後期から古墳時代前期の遺物と推測されている。出土位層などを示す。これら資料から、少量の錆を採取し、化学組成による材料の性質と鉛同位体比分析による産地推定を行った。

弥生時代の青銅器

今までに、弥生時代青銅器に関する材料産地の解析から、次のような経緯が示されている[(1)]。弥生時代の前期後半から中期初頭（前 180 年頃？）に青銅器は朝鮮半島から日本へ流入したとされ、流入した青銅器は細形銅剣や細形銅矛などであった。近畿地方では初期の銅鐸（I 式銅鐸：菱環鈕銅鐸）などがその例であった。鉛同位体比の図（第 58 図と第 59 図）では朝鮮半島領域と示される範囲である。材料は朝鮮半島産だけであり、インゴットらしき青銅遺物は見つかっていない。しかし流入してからしばらくして、日本の中でも鋳造が始まったと言われる。その後、前 108 年以降に朝鮮半島産材料から中国産材料へと変化した。青銅製品の形式では中細形銅矛、あるいは II 式（外縁付鈕 1 式）銅鐸で、これらの形式のかなりの部分は朝鮮半島産材料を利用していたが、中国華北産材料も利用され始める。次の時代になると、中広形銅矛、あるいは銅鐸の II 式の 2 式などが製作されるようになり、中国華北産材料がその主流を占める。鉛同位体比の図（第 58 図と第 59 図）では華北産領域と示される範囲である。それ以降、第 III 式（偏平鈕）では中国華北産材料だけになる。これらの時代を弥生時代中期後半あるいは後期前半に置くかは議論のあるところである。弥生時代後期になって、広形銅矛あるいは第 IV 式（突線鈕銅鐸）の時代になると、材料は華北産材料の中でもどこか決まった鉱山 1 つだけの材料であるかの様相を呈する。すなわち、鉛同位体比的には一定の値を持つ青銅が利用されるようになる。それが、銅矛でも、銅鐸でも同じ傾向を示す。鉛同位体比図（第 58 図と第 59 図）では華北領域の ‘a’ ‘a’’ と示される。

こうした材料の流れは他の青銅器でも見られ、銅釧、銅鏃、銅鋤先などにも年代的な変化の類推が可能である。それ故、弥生時代の青銅材料は大きな流れと見た場合に、朝鮮半島産材料 → 中国華北産材料 → 中国華北 ‘a’ 領域へと変化すると推定できる。

古墳時代の青銅器

この傾向は古墳時代の青銅器になると一変する。古墳時代の青銅器はその初期から華南産の材料が用いられるようになる。鉛同位体比図（第 58 図と第 59 図）では華南領域と示される。古墳時代には華北産材料は全く現れない。それ故、弥生時代青銅器であるかどうかは、華北産材料であるか華南産材料であるかで、殆どの場合判別できる。

銅鏡

青銅器の中で銅鏡に関しては少々様相が異なる。前漢鏡には華北産材料が利用されてお

り、後漢鏡には華南産材料が主として利用されている。しかし鏡の種類によって、例えば方格規矩鏡、内行花文鏡などは年代との関連性に関する判断が難しい。後漢時代になっても、華北産材料と華南産材料が利用されるからである。

本調査における資料が青銅器の年代的な変遷の中でどの時代に位置し、発掘調査の年代観とどのように整合するのかに関して調べることができれば、本調査の意義は大きいこととなろう。

石座神社遺跡から出土した戦国時代の火縄銃の弾丸

火縄銃の弾丸は金属鉛でできていることが多く、一般的な大きさは直径約1 cmの球形である。今回の資料も概ねこのような大きさであり、材質であった。しかしながら、地中にある間に錆びて、白色の炭酸鉛で覆われていることが多い。

奈良時代の鉛生産

ここで、日本における鉛生産を歴史的に概観する[(2) (3)]。奈良時代になって、銅の生産と共に、鉛は日本で生産されるようになり、銅への添加物として利用された。少量ながら、釉薬、白色顔料などにも利用されたが、大部分の鉛は銅、あるいは青銅への添加物として利用されることが多かった。このことは皇朝十二銭で示されるように、鉛は青銅製品の主成分の一つとして加えられており、その発行枚数を考慮するとかなりの量にのぼる。皇朝十二銭に含まれる鉛は鉛同位体比の研究からすべて日本産の鉛が使用されていた事が判っている。皇朝十二銭の最後の1種は乾元大宝（初鋳963年）であり、この時には大きさが和同開珎よりも小さくなり（大きさで約70%、質量で約50%）、鉛濃度も50%を超えたという。これは日本における銅の生産が行き詰まったためで、代わりに鉛が加えられていることを示す。それ故、鉛の生産は十分にあったという事であろう。

平安時代後期

平安時代後期になって、日本産材料を用いた青銅は1150年以降殆どなくなり、鎌倉時代には中国産の青銅が殆どすべての青銅材料として利用されるようになる。それは経筒、鎌倉大仏、持念仏その他の青銅製品がすべて中国産の鉛同位体比を示すからである。その材料は中国から輸入した宋銭であると推測される。

室町時代

室町時代になると、日本における銅の生産が復活し、日明貿易における日本からの主輸出品は銅となる。日本国内では日本産と中国産の青銅が出まわる。おそらく、日本産の銅（青銅）には日本産の鉛が加えられたことを示唆する。このことは日本における鉛の生産は銅の使用量によって制御されていたとも言える。室町時代後期の1533年に灰吹き法という銀の製錬方法で鉛を大量に利用するようになり、また、1543年以降、鉄砲玉として鉛自体が大量に必要となる。

火縄銃の弾丸

火縄銃は1543年に種子島へ伝来して以来、日本の中では各大名が競ってこれを戦闘に取り入れた。この時に各大名は銀製錬のための鉛と鉄砲玉の鉛が必要であり、新しい鉛鉱山を開発したのであろう。歴史的には鉛鉱山の開発や増産は大変であったかも知れないが、鉛玉は確保できたのではないかと考えられる。しかし、火縄銃の弾丸に用いられた鉛玉に関する今までの研究から、鉄砲玉として用いられた鉛は鉄砲玉全体の、20 ～ 40%がタイ産の鉛、約20%が中国産、残りの約50%が日本産の鉛であることが判明した[(4)]。すなわち、用いられた鉄砲玉の約半数は外国産鉛であるという結論である。これは何を意味するのであろうか。もう一つの問題として、灰吹き法という銀生産に用いられた鉛の方が鉄砲玉よりもはるかに大量の鉛を必要としたであろう。このために国内で鉛を十分に供給できたか

どうかである。火縄銃の弾丸に日本産の鉛が50％しか利用できなかったことは銀製産の鉛もこのように足りなかったのであろうか。

火縄銃の火薬

ここで、火縄銃に大切な材料は鉛と火薬である。鉛のことは前述したので、火薬のことを考える。この火薬をどのように手に入れるかは鉛と同様に重大な問題であったろう。今までの研究で日本における火縄銃使用の初期には火薬を100％輸入していた。火薬は硝石と木炭と硫黄を混合して作ったいわゆる黒色火薬であり、中国で生産されていた。中国で硝石は採れたが、硫黄はそれ程産出できなかった。それ故、日本から輸入したとされている。日本では硝石が採れないので、硝石を中国あるいは東南アジアから輸入し、硫黄と炭素を混合することで火薬を生産したとされる。それ故、火薬そのものあるいは硝石を手に入れることが鉄砲を使用するための最重要事項であった。一方、当時の南蛮船あるいはジャンク船が日本の銀を求めて来港していたが、その時に日本では火薬（硝石）（鉛も？）を非常にほしがっていた。それ故、火薬（硝石）だけでなく、火薬（硝石）と鉛をセットとして売り込めば、その方が儲かったであろう。買い入れる大名も鉛と火薬がセットであれば、好都合であったろう。当時の東南アジアにはアユタヤ王国があり、鉛をふんだんに生産していたことが判っている。また文献にも硝石、あるいは鉛を運んだことがあちこちに散見する。そこで、火薬（硝石）を手に入れるためには鉛も一緒に買い込んだのではないだろうか。

三好・松永の戦い

鉄砲玉の解析例を挙げる。その一つは1567年に東大寺を挟んで起きた三好・松永の戦いがある。この時の鉄砲玉が東大寺南大門の仁王像で見つかった。５個の鉄砲玉の内３個の鉛同位体比を測定した。その結果１個が日本産材料、２個がタイ産の鉛であった。このことから、タイ産の鉛は早くから、日本へ流入していたと考えられる[(5)]。

長篠の戦い

その二つ目は長篠の戦いで用いられた鉄砲玉である[(6)]。長篠の戦いは1575年に織田・徳川連合軍と武田勝頼軍との間に起きた戦いである。この時の戦いで、織田軍は3000挺の鉄砲隊を用意し、３段撃ちという新戦法を応用したと言われる。3000挺の鉄砲と弾薬を織田軍はどのようにして用意したのであろうか。

これまでに、「設楽原を守る会」から12個の鉛玉に関して鉛同位体比測定を依頼され、その結果が出ている。それからすると、12個の鉛玉の内３個はタイ産の鉛（１個はタイと日本産鉛の混合）、７個が日本産の鉛（５個は未知の鉱山産であり、鉛同位体比が殆ど一致。２個は別の鉱山）、残りの２個が朝鮮半島（あるいは遼寧省産材料）であることが判った。それ故、織田信長はタイ産の鉛を輸入している大名の一人であり、他にどこの地域の鉛を利用しているかは意義の深い資料である。すなわち、領国内で新たな鉛鉱山を開いた可能性を示唆する。

長篠の戦いでどれだけの鉄砲玉が撃たれたかは判らないが、武田側か信長側かの弾丸が示唆している内容は大きい。それ故、今回の５個の鉄砲玉が今までの12個の鉄砲玉に加えて、どこの産地の材料が利用されているかを判断する上で、重要な資料である。そこで、これら資料に関して、鉛同位体比法を用いて材料産地を推定した。

２）鉛同位体比法

原理

地球が誕生したのは45.6億年前とされている。そして、この時にすべての元素の同位

体組成は地球上で元素毎にある値になっていて、地球のどこでも同じ値であったとされている。ほとんどの元素の同位体比は時間が経っても変化しなかったが、例外的ないくつかの元素は変化した。鉛はその例外的な元素の一つである。

鉛同位体

鉛（Pb）には ^{204}Pb,^{206}Pb,^{207}Pb,^{208}Pb の同位体があり、地球が誕生した時にできた岩石中に他の元素と一緒に含まれていた。時間が経つと岩石中に含まれていた ^{238}U は ^{206}Pb に、^{235}U は ^{207}Pb に、^{232}Th は ^{208}Pb に変化する。よって、U（ウラン）と Th（トリウム）が減少した量だけ鉛の量は増えてくる。各鉛同位体の量は岩石中の U、Th、Pb の量比および岩石中で Pb と U、Th が共存していた時間の長さによって、それぞれの増加量が異なるため、鉛同位体比の違いとして表わすことができる。それ故、同位体の量が地球の誕生から変わっていない ^{204}Pb 量と、変化した ^{206}Pb,^{207}Pb,^{208}Pb 量との比を調査し、これを世界の鉛鉱山の同位体比と比較することによって鉛の産地の違いを判別することができる(7)。

分析方法

鉛同位体比分析

鉛同位体比分析は研究対象となった資料から分析用の試料採取が必要な分析方法であるが、約 0.01 ㎎の微量でも測定可能であるので、文化財資料の形態損傷を最少限に分析することが可能である。本調査に於いて鉛同位体比分析を行うために、資料から錆を少量採取した。青銅資料に関しては、資料から剥落したと思われる錆編を採取し、鉄砲玉資料からは、表面の錆を微小量採取した。採取した試料に関しては次のような処理をして鉛同位体比を測定した。

分析方法

まず、試料をエタノールで洗浄した後、石英製ビーカーに入れ、硝酸で溶解した。これを蒸留水で約 5ml に希釈し、直流 2V で電気分解した。約 1 日の時間をかけて電気分解を続け、陽極に析出した二酸化鉛を硝酸と過酸化水素水で溶解した。この溶液から 0.2 ㎍の鉛を分取し、これにリン酸とシリカゲルを加えてレニウムフィラメント上に乗せた。以上のように準備したフィラメントを質量分析計（別府大学に設置されているサーモエレクトロン社の表面電離型質量分析計 MAT262）の中にセットし、条件を整え、鉛同位体比を 1200℃で測定した。また、同一条件で標準鉛試料 NBS-SRM981 を測定し、規格化した。

分析値の表し方

図式化の方法

一般的に鉛同位体比分析結果は分かりやすく、比較しやすくするために図式化して比較している。鉛には ^{204}Pb,^{206}Pb, ^{207}Pb, ^{208}Pb の独立した 4 つの同位体があり、同位体比は $^{206}Pb/^{204}Pb$, $^{207}Pb/^{204}Pb$, $^{208}Pb/^{204}Pb$, $^{204}Pb/^{206}Pb$, $^{207}Pb/^{206}Pb$, $^{208}Pb/^{206}Pb$, $^{204}Pb/^{207}Pb$, $^{206}Pb/^{207}Pb$, $^{208}Pb/^{207}Pb$, $^{204}Pb/^{208}Pb$, $^{206}Pb/^{208}Pb$, $^{207}Pb/^{208}Pb$ という 12 の方法で表現される。この方法の中で一番整った図で表現でき、４種類の同位体を含む $^{207}Pb/^{206}Pb - ^{208}Pb/^{206}Pb$（A 式図）と $^{206}Pb/^{204}Pb - ^{207}Pb/^{204}Pb$（B 式図）という２つの図を用いた表現方法がよく利用されている。

華北産と華南産

図式に表示した領域は馬淵久夫、平尾良光の研究によって次の基準で設定されている。中国の前漢時代、後漢時代・三国時代の銅鏡を分析して、これらを第 58 図と第 59 図の中にプロットすると、前漢時代の銅鏡と後漢・三国時代の銅鏡の材料が、はっきり区分されて分布する。そこで前漢時代の銅鏡が分布した領域は、他の出土資料と比較して華北産材料の領域と示され、後漢時代・三国時代の銅鏡が分布する領域は華南産材料の領域と示されている。弥生時代後期の突線鈕銅鐸や広形銅矛などの青銅器の中でもより後期とされ

ａ領域

る資料は華北産材料の領域の中で一定の範囲に集まって分布するので、この領域を特定領域 ‘a’ と ‘a’’ と表している。

日本産

日本産材料の領域を設定する場合、西暦 6 世紀頃までの遺物で日本産の材料を用いたと断定できる資料は今のところ確認できていないので、8 世紀以降に作られた銭貨と現代の鉛鉱山が示す分布を日本産材料の領域と設定している。

朝鮮半島産

朝鮮半島産材料の領域には、朝鮮半島で製作されたと考えられる多鈕細文鏡を用い、それらが示す分布領域を朝鮮半島産材料の範囲と設定している [(7)]。

鉛材料の産地は当然鉛鉱山が示す値から設定するべきであるが、文化財資料が製作された当時に利用された鉱山を探すことは無理であり、現実的にも限界がある。そのため、これまで分析した文化財資料から確認できる結果を基に鉛原料の産地を推定している。

3）結果

資料の記載は第 25 表、蛍光 X 線分析法で得られた化学組成は第 26 表 [(8) (9)]、質量分析法により得られた鉛同位体比は第 27 表で示される [(5)]。

第 25 表　鉄砲玉と青銅製品

資料名	遺物番号	グリッド	遺構・層位	分析番号
石座神社遺跡鉄砲玉-1	3572	10B7t	表採	BP5655
石座神社遺跡鉄砲玉-2	3571	10B5t	遺構外	BP5656
石座神社遺跡鉄砲玉-3	3570	10D15p	遺構外	BP5657
石座神社遺跡鉄砲玉-4	3573	10C9s	1900SD	BP5658
石座神社遺跡鉄砲玉-5	3569	10E17q	遺構外	BP5659
破鏡	3556	10C17d	3002SI	BP5671
板状青銅製品	3558	10C10e	4340SI上層	BP5672
銅鏃	3557	10C10s	5785SI下層	BP5673

第 26 表　蛍光X線法による資料の化学組成（質量%）

資料名	Fe	Cu	As	Ag	Sn	Sb	Pb	分析番号
石座神社遺跡鉄砲玉-1	0.34	-	-	-	-	-	99.66	BP5655
石座神社遺跡鉄砲玉-2	0.21	-	-	-	-	-	99.79	BP5656
石座神社遺跡鉄砲玉-3	1.75	-	-	-	-	-	98.25	BP5657
石座神社遺跡鉄砲玉-4	0.01	-	-	-	-	-	99.99	BP5658
石座神社遺跡鉄砲玉-5	0.52	-	-	-	-	-	99.48	BP5659
破鏡	1.14	12.46	0	0.19	80.93	0.95	4.34	BP5671
板状青銅製品	1.53	67.59	0	1.13	13.84	2.42	13.49	BP5672
銅鏃	0.22	82.38	0	1.09	5.49	1.63	9.19	BP5673

第 27 表　資料の鉛同位体比

資料名	$^{206}Pb/^{204}Pb$	$^{207}Pb/^{204}Pb$	$^{208}Pb/^{204}Pb$	$^{207}Pb/^{206}Pb$	$^{208}Pb/^{206}Pb$	分析番号
石座神社遺跡鉄砲玉-1	18.433	15.620	38.729	0.8474	2.1011	BP5655
石座神社遺跡鉄砲玉-2	18.492	15.628	38.777	0.8451	2.0969	BP5656
石座神社遺跡鉄砲玉-3	18.418	15.591	38.644	0.8465	2.0981	BP5657
石座神社遺跡鉄砲玉-4	18.370	15.590	38.613	0.8487	2.1019	BP5658
石座神社遺跡鉄砲玉-5	18.419	15.575	38.478	0.8456	2.0890	BP5659
破鏡	17.843	15.563	38.480	0.8722	2.1566	BP5671
板状青銅製品	17.743	15.549	38.433	0.8763	2.1660	BP5672
銅鏃	17.742	15.551	38.438	0.8765	2.1665	BP5673
誤差範囲(1σ)	±0.010	±0.010	±0.030	±0.0003	±0.0006	

４）考察

石座神社遺跡から出土した弥生・古墳時代青銅器

得られた化学組成から判断すると、これら青銅器には銅、スズ、鉛が主成分として検出された。青銅は錆びると化学元素濃度が著しく変化する。一般論として銅が溶出して減少し、スズと鉛は逆に濃縮する傾向がある。もちろんその場の条件に依存して、銅が濃縮する場合もあり得る。　主成分

今回の石座神社出土資料では特別な条件ではないようで、（破）鏡で銅が 12% という値はこのままの値が本来の数値ではなく、銅が溶出し、スズが濃縮した典型例であろう。その他の不純物成分が見られたことはこれら資料の材料が現代産ではなく、当時の材料であることを示唆する。

鉛同位体比を図に示すと第 58 図と第 59 図となった。これらの図から、板状青銅製品と銅鏃が両図で、‘a’ 領域に含まれた。このことから、青銅製品は弥生時代後半に利用された青銅製品（広形銅矛、第 IV 式銅鐸など）と同じ材料を利用していると推測される。それ故、これら資料は弥生時代の中でも終末期に近い頃の材料を用いていると判断される。また、破鏡は華北産材料領域に含まれたが、後漢時代の方格規矩鏡や内行花文鏡がこのような値を示すことがあり、３資料はほぼ同一の時代の資料であり、弥生時代後期、それも、より終末期に近い頃の資料であろう。　鉛同位体比

石座神社遺跡から出土した戦国時代の鉄砲玉

得られた化学組成から判断すると、この鉄砲玉は鉛製である。白い錆は炭酸鉛であろう。鉛製の丸い玉は火縄銃の弾丸以外に推測される製品は考えにくい。また発掘品であることから古い時代の資料であれば、長篠の戦いで利用された鉄砲玉の可能性が高い。それ故、長篠の戦いに関係ある鉄砲玉として考える。　化学組成

これら鉄砲玉の同位体比を第 60 図と第 61 図で示す。これらの図から、測定した５個の鉄砲玉は産地が少し違ってはいるがすべて日本産材料であると判断できる。鉄砲玉１～４は両図でほぼ一直線に並んでいるようにも見えるため、２種類の日本産材料を混合したとも見受けられる。その線から外れている鉄砲玉５は異なる材料と判断される。　鉛同位体比

５個の鉄砲玉を設楽原・長篠城から出土した鉄砲玉およびその他の鉄砲玉と比較してみる。第 62 図と第 63 図で示されるように、東大寺南大門の鉄砲玉（３個）は 1567 年の三好・松永の戦い、田中城跡の鉄砲玉（56 個）は九州熊本県の北部にある旧三加和町の田中城で、1587 年に土地の豪族である丹羽氏と豊臣秀吉との間にあった戦い、そして「設楽原を守る会」が提供してくださった織田・徳川軍と武田軍が戦った設楽原と長篠城から出土した鉄砲玉（12 個）を比較した。　鉄砲玉の比較

これらの資料の分布と、今回の５個の分布状態を比較判断すると、特に大きな違いはみられない。また、設楽原から出土した資料とも特に違いは見られない。それ故、今回測定した５個の鉄砲玉は特別な鉛を利用したのではなく、一般に利用されていた鉛であると判断できる。その中で、特徴的なことは今回の５個の鉛玉はすべて日本産材料であった。そして鉄砲玉２番目が前に測定された設楽原の鉄砲玉資料と重なった。前回測定した鉄砲玉 12 個のうち、７個が日本産であり、そのうち５個が第 62 図と第 63 図とで殆ど一箇所に集まった。この集まりの中に今回の２番目の鉄砲玉が含まれた。また、鉄砲玉５は田中城

の鉄砲玉（No.27）と重なっているので、これも関連性がありそうである。鉄砲玉５が例えば豊臣秀吉軍と関係があるならば、九州の田中城とも関連性があったとしてもおかしくはない。すなわちこれら鉄砲玉は織田軍側の鉄砲玉である可能性が高くなる。

長篠の戦い

長篠の戦いで用いられた鉄砲玉の 12 個が測定され、そのうちの３個がタイ産材料、２個が朝鮮半島あるいは遼寧省であった。すなわち 12 個中５個が外国産であった。それが今回の測定値を加えることになると、17 個中 12 個（75％）が日本産材料であり、５個（25％）が外国産材料となった。このことは外国産材料の比率が見かけ上、下がったことになるけれども、25％がまだ外国産であることは大きな問題点である。しかし比率を出して、統計的に取り扱うまでには鉄砲玉の数が集まっていない事は事実である。

鉄砲玉の材料産地のことから、銀製錬に用いられた鉛のことを類推することも大切であり、今回の鉄砲玉の持つ意義は大きい。

参考文献

（1）平尾良光，鈴木浩子：弥生時代青銅器の産地推定，『古代青銅の流通と鋳造』鶴山堂 （東京）,p163-208（1999）
（2）平尾良光：材料が語る中世―鉛同位体比測定からみた経筒―，『経筒が語る中世の世界』，別府大学文化財研究所企画シリーズ-１，共編：小田富士雄，平尾 良光，飯沼賢司，思文閣（京都）,ｐ21-33（2008）
（3）平尾良光,飯沼賢司：大航海時代における東アジア世界と日本の鉛流通の意義、『キリシタン大名の考古学』,別府大学文化財研究所企画シリーズ２,「ヒトとモノと環境が語る」別府大学文化財研究所・九州考古学会・大分県考古学会編、思文閣（京都）p144-166（2009）
（4）魯禔玹、西田京平、平尾良光：南蛮貿易と金属材料、『キリシタン大名の考古学』,別府大学文化財研究所企画シリーズ２、「ヒトとモノと環境が語る」別府大学文化財研究所・九州考古学会・大分県考古学会編、思文閣（京都）p131-141（2009）
（5） 平尾良光，榎本淳子：鉛製弾丸の自然科学的調査，釘・鋲の化学的調査，『東大寺南大門 国宝木造金剛力士立像修理報告書本文編』文化庁編，p142-p156（1993）
（6）西田京平,平尾良光：設楽原・長篠城から出土した鉛玉の意味,「設楽原を守る会」（2011年4月29日）で報告・発表。
（7） 平尾良光，榎本淳子：古代日本の青銅器の鉛同位体比，『古代青銅の流通と鋳造』,編集 平尾良光，鶴山堂（東京），p29-161（1999）
（8）大野克美，川瀬晃，中村利廣：『X線分析法』共立出版（東京）（1987）
（9）中井泉：『蛍光X線分析の実際』，日本分析化学会X線分析研究懇談会監修，朝倉書店（2005）

追記

板状青銅製品（3558）は銅鐸片の可能性も想定される（第３章第３節（17）を参照）。銅鏃（3557）と思われる青銅製品も含めて、測定された鉛同位体比は豊橋市西側遺跡出土銅鐸片、同瓜郷遺跡出土銅鐸片と近似した数値を示し、近畿式・三遠式銅鐸とほぼ同一の「規格品の原料」が使用されていることも想定されている（齊藤 2005）。

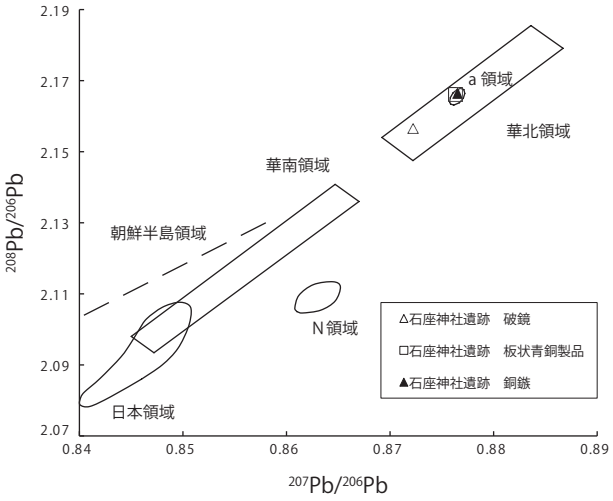
第 28 表　西側遺跡・瓜郷遺跡出土銅鐸片の鉛同位体比

資料名	$^{206}Pb/^{204}Pb$	$^{207}Pb/^{204}Pb$	$^{208}Pb/^{204}Pb$	$^{207}Pb/^{206}Pb$	$^{208}Pb/^{206}Pb$	分析番号
西側遺跡出土銅鐸片	17.757	15.567	38.471	0.877	2.167	B7701
瓜郷遺跡出土銅鐸片	17.777	15.564	38.466	0.876	2.164	B7703

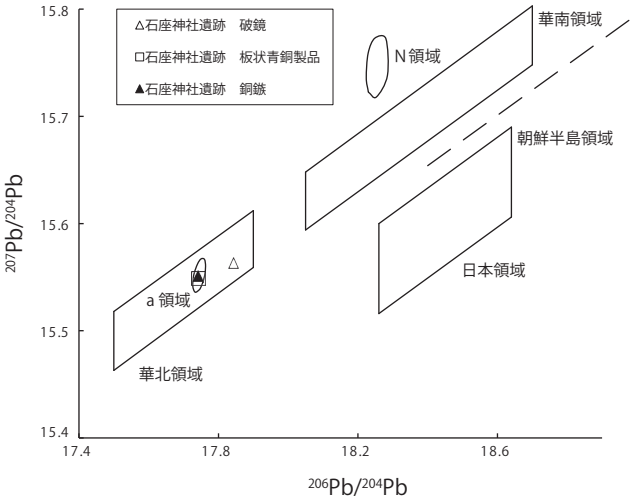
参考文献

齊藤努2005「西側遺跡・瓜郷遺跡出土銅鐸片の鉛同位体比測定結果」『西側遺跡（Ⅰ）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第82集　豊橋市教育委員会

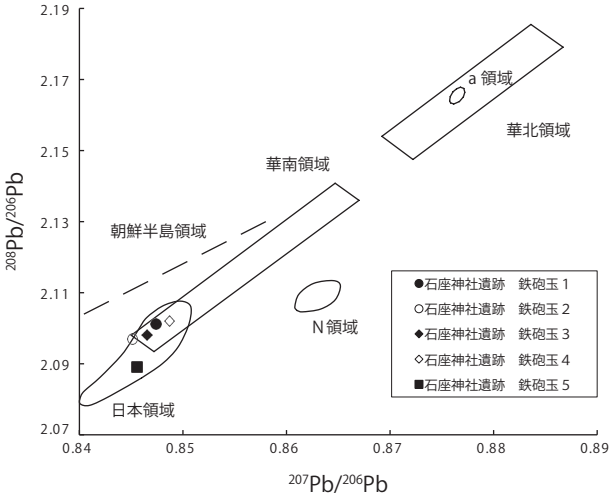
（早野浩二）



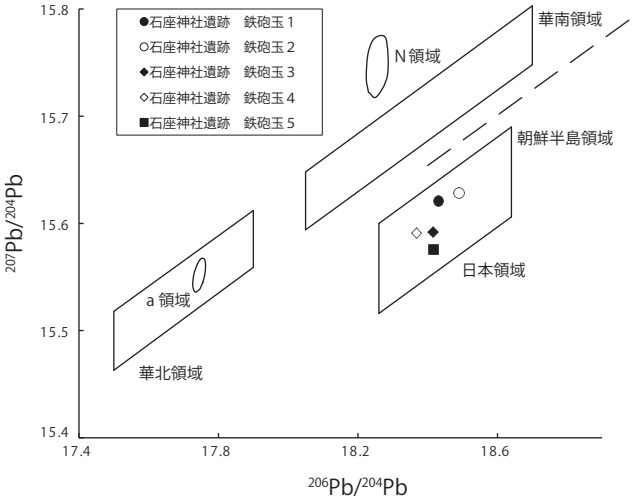
第58図　石座神社遺跡出土青銅器の鉛同位体比（Ａ式図）



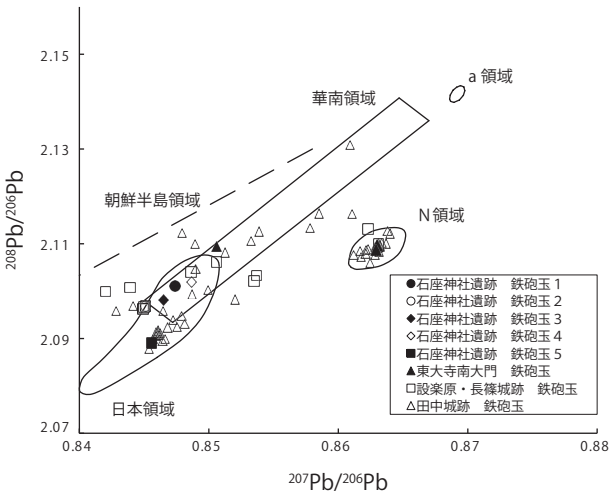
第59図　石座神社遺跡出土青銅器の鉛同位体比（Ｂ式図）



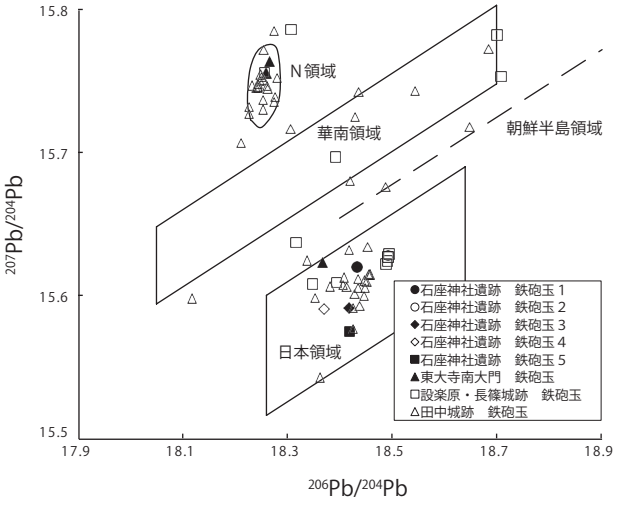
第60図　石座神社遺跡出土鉛玉の鉛同位体比（Ａ式図）



第61図　石座神社遺跡出土鉛玉の鉛同位体比（Ｂ式図）



第62図　設楽原他との鉄砲玉の鉛同位体比の比較（Ａ式図）



第63図　設楽原他との鉄砲玉の鉛同位体比の比較（Ｂ式図）

（5）土器に付着した赤色顔料の蛍光X線分析

堀木真美子

1）試料および分析方法

測定試料

分析を行った試料は、土器5点（1474・1653・1654・1968・2221）に付着した赤色顔料である。これらの赤色の物質をセロハンテープを用いて土器より剥離し、測定試料とした。

分析方法

測定は2箇所で実施した。測定機器は（株）堀場製作所製 XGT-5000 を用い、測定条件は、X線管電圧 50kV、測定時間 500 秒、照射径 100μm、雰囲気は大気である。

2）測定結果

第29表　各試料に認められた元素

	K	Ti	Fe	Mn	Cu	Hg
1474			○		○	○
1653		○	○	○		○
1654		○	○			○
1968	○	○	○		○	○
2221		○	○			○

測定結果

測定結果を第29表に示す。赤色顔料で認められた元素は、K(カリウム)、Ti(チタン)、Fe(鉄)、Mn(マンガン)、Cu（銅)、Hg(水銀)である。

水銀の検出

水銀が検出されたことから、分析を行った赤色顔料は朱であると判断した。

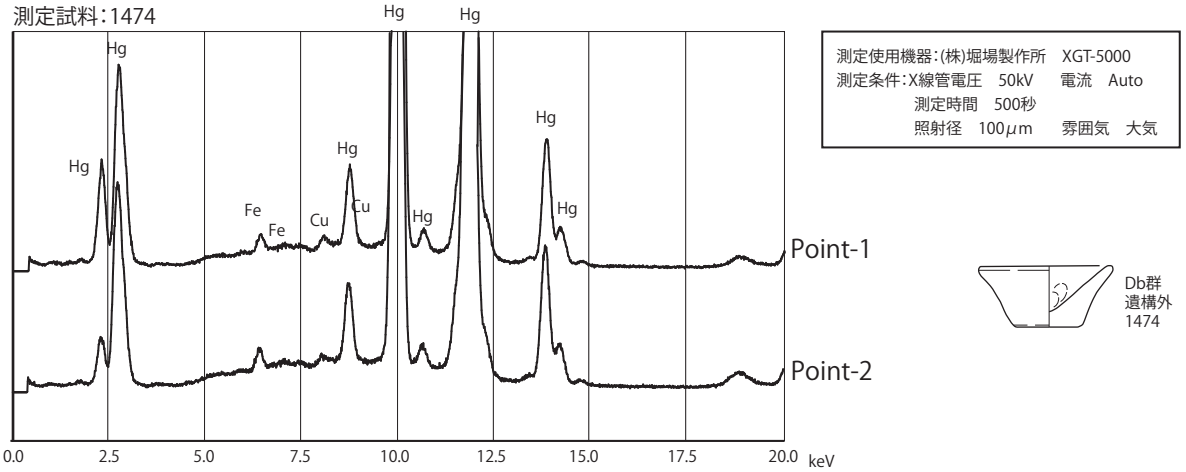
朱の産地推定

朱は、辰砂（硫化水銀）から作られた赤色顔料である。水銀は現在の元素分布をみても、限られた地域にしか分布していない。また石座神社遺跡のある愛知県東部は水銀の濃度は低い地域となる（今井ほか 2004)。また朱の産地推定の試みは硫黄同位体比分析や微量成分の分析などがなされている。その中でも、硫黄同位体比分析は中国産と国内産の識別に有効であるとされた（南ほか 2003)。今回の分析で確認された水銀については、遺跡周辺で採取することができないことから、他所からの持ち込みであることは確かである。今後は分析事例をふやし、水銀の移動経路の推測に役立てたい。

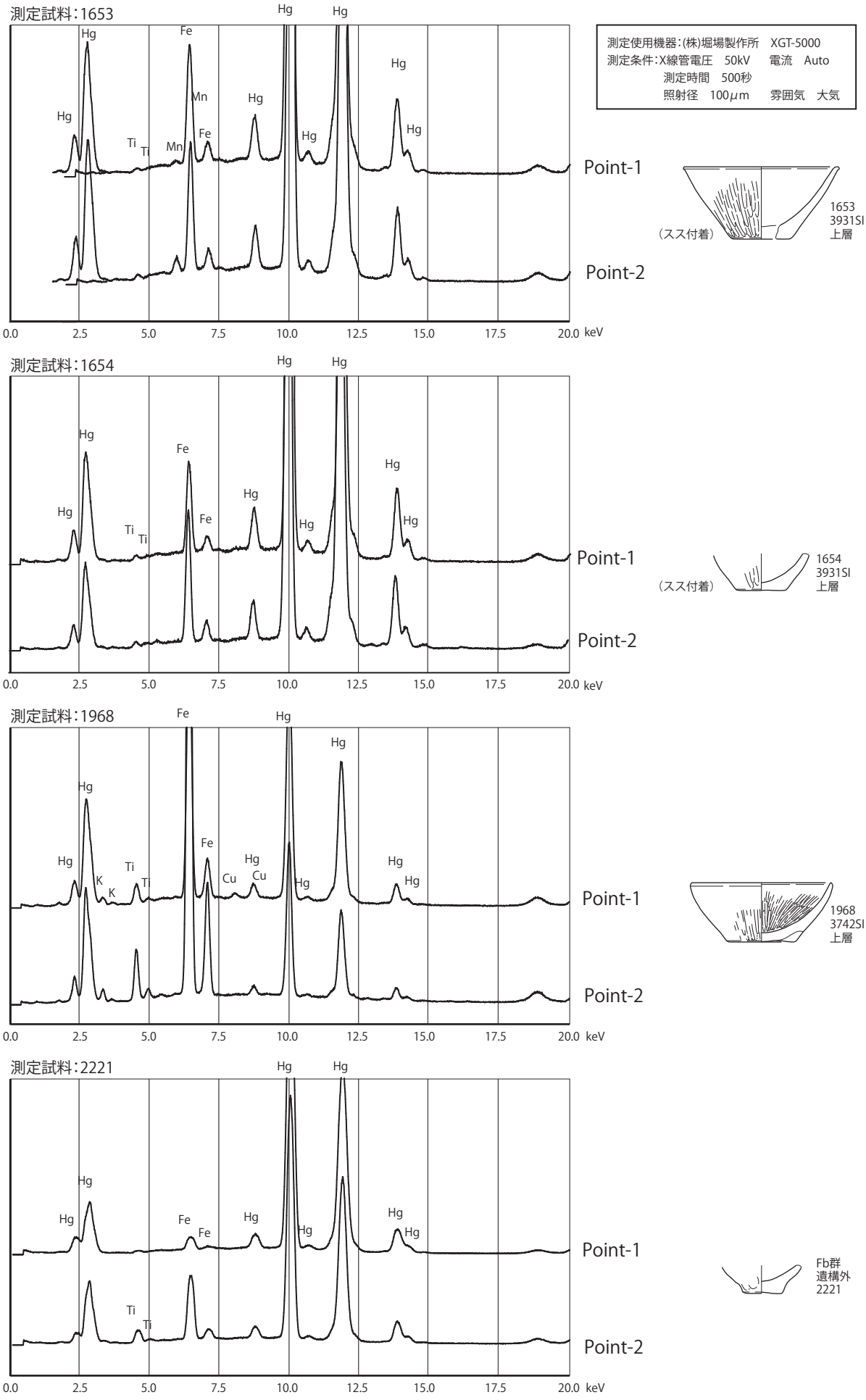
参考文献

南武志・今井亮・豊遙秋・冨田克敏・比佐陽一郎・岡山真知子・楊主明・今津節生（2003）：中国貴州省辰砂鉱石のイオウ同位体比測定,考古学と自然科学,第46号,67-74.

今井登・寺島茂・太田充恒・御子柴（氏家）真澄・岡井貴司・立花好子・富樫茂子・松久幸敬・金井豊・上岡晃・谷口政碩(2004）：日本の地球化学図,産業技術総合研究所地質調査総合センター,209p.



第64図　赤色顔料のスペクトル図　1



第65図　赤色顔料のスペクトル図　2

（６）黒曜石原産地の蛍光X線分析

（株）第四紀　地質研究所

１）実験条件

分析方法

分析はエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（日本電子製ＪＳＸ―３２００）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（ＦＰ法）による自動定量計算システムが採用されており、６Ｃ～９２Ｕまでの元素分析ができ、ハイパワーＸ線源（最大30 ｋＶ、４ｍＡ）の採用で微量試料～最大290mmφ×80mm Ｈまでの大型試料の測定が可能である。小型試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクＦＰ法でおこなった。ＦＰ法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、Ｘ線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件

実験条件はバルクＦＰ法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、Ｘ線管ターゲット素材＝Ｒｈ、加速電圧＝30 ｋＶ、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K,　P,　Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝０と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。地質学的には分析値の重量％は小数点以下２桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量％では小数点以下３～４桁の微量となり、小数点以下２桁では０と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下４桁を用いて化学分析結果を表示した。

分析対象元素

相関図の作成

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）でSiO2-Al2O3,Fe2O3-TiO2,K2O-CaOの各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の４組の組み合わせで図を作成した。

２）関東・中部・東海の黒曜石

長野県

長野県内に分布する黒曜石は、和田峠周辺の西餅屋、東餅屋、小深沢地区をあわせた和田峠系―１、男女倉５～７地区と星ケ塔地区をあわせた和田峠系―２、北八ケ岳の麦草峠周辺と冷山地区をあわせた蓼科系の３地域に分かれる。和田峠系の黒曜石はフォッサマグナ中央部の大規模流紋岩中に産する。高松山―虫倉山の南斜面を北西―南東方向に走る鷹山断層の南側での黒曜石はガスの抜けた気泡痕がなく、均質で、ハンマーでうち欠くと貝殻状に割れ、鋭利な刃先が打ち出される黒曜石である。この黒曜石を産する流紋岩は新生代第四紀の約70～130万年前に噴出、あるいは貫入したものである。麦草峠と冷山の黒曜石は第四紀に噴出した八ヶ岳火山群の丸山溶岩流に被覆された同じ流紋岩の中に形成されたもので、26～27万年前とされている。

和田峠系

Ａ）和田峠系―１

分布

ａ　長野県和田村西餅屋　西餅屋の黒曜石は和田峠の西側に隣接する標高1657ｍの山体を取り囲んでリング状に分布する。この黒曜石は現在、芙蓉パーライト（株）によって採石されている。試料は同社の採掘現場である坑道内で採取した。　坑道内の黒曜石岩体は全体として亀裂が多く、10～15cmの角礫状であるが一部に30～50cm大のものもある。黒曜石は黒色で気泡跡に乏しく、小片にすると透明性が高く、貝殻状に割れる。

特徴

ｂ　長野県和田村東餅屋　和田峠東の東餅屋の黒曜石は標高1500m付近の採石場跡の露頭に分布し、厚さ１～２cmの薄い黒曜石脈が流紋岩と互層して産する。黒曜石脈の厚いところでは15～20cm、黒色で気泡跡と亀裂が多く３～５cmの小角礫に分離する。　分布　特徴

ｃ　長野県和田村小深沢　小深沢の黒曜石は和田峠北のビーナスラインの道路沿い標高1600m付近に分布する。現在黒曜石はほとんど採掘され、その規模は定かではない。試料はこの採石場跡の法面から採取した。法面は高さ約30m、幅80～100mと広い。顆粒状の5mm±の黒曜石が厚さ約１～２cmの縞状の流紋岩中に互層して挟まっている。本来の黒曜石岩体はもっと大きいと推察される。その痕跡として段切りした法面で10～15cmの角礫状のものが採取される。この黒曜石は黒色で気泡跡に乏しく、貝殻状に割れる。　分布　特徴

Ｂ）和田峠系－２

ａ　長野県和田村男女倉　男女倉地区の黒曜石は男女倉川の東側、標高1300～1350mの斜面に分布し、北から男女倉－５、６、７とほぼ南北に分類されている。男女倉－５の黒曜石は標高1350mの山腹の南側斜面から沢に至る地すべり地内で採取される。この地すべり地末端を横断する林道の切通し法面（高さ約15m）に斜面上部から移動し、堆積した多量の黒曜石岩塊が露出している。黒曜石は黒色で50～60cmの亜円礫で気泡跡が点在する。男女倉－６は黒曜石の採石が行われた跡地で、黒曜石の岩塊は黒色でジョイントが多く、５～７cmの角礫状を呈し、気泡跡が多い。男女倉－７は林道路盤に露出するもので、男女倉－６と連続する黒曜石である。　分布　特徴

ｂ　長野県和田村星ケ塔　星ケ塔の黒曜石は和田峠東方、新和田トンネル諏訪側出口の東を流下する御料沢の上流域、標高1576mの山体にリング状に分布する。現在は山体北側斜面の標高1350～1400mで芙蓉パーライト（株）によって黒曜石が採石されている。黒曜石の試料採取は現在稼働中の採石場の岩体で行なった。黒曜石は幅20～25m、高さ約10～15mの岩体で、ジョイントが多く入り、10×５cm程度の角礫となるが大きなものでは50×30cmのものもある。黒曜石は黒色で気泡跡に乏しく、均質で、貝殻状に割れる。薄く割ると透明となる。　分布　特徴

ｃ　長野県長門町鷹山　鷹山の黒曜石は標高1350～1400mの鷹山部落の鷹山川沿いに河床堆積物として分布する。大きなものでは人頭大のものが採取されたといわれているが、現在はペンション脇の支流の小さな法面と支流の河床中で採取される。黒曜石は黒色、硬質で、打ち欠いた薄い断面では透明で、気泡跡に乏しく、均質で、貝殻状に割れる。　分布　特徴

Ｃ）蓼科系

麦草峠と冷山との間には丸山溶岩が広く分布し、両地域の黒曜石は異なる時期に生成したように見えるが冷山と麦草峠の黒曜石は同時期の流紋岩の中に生成したものである。冷山の黒曜石はサカサ川の上流域の標高約 1800 m付近に広く分布し、麦草峠の黒曜石は麦草峠（標高 2120 m）から白駒池駐車場の東側、国道 299 号の道路法面にかけての広い地域に分布する。両者の距離は直線距離で、約 3.0 ｋｍである。　蓼科系

ａ　長野県茅野市冷山　冷山の黒曜石は麦草峠の西斜面で、サカサ川の上流域の標高約1800m付近に広く分布している。露頭は高さ10～15m、幅50～70mの広い範囲で急崖をなす。露頭の下部では黒曜石は厚さ１～２cm、３～５mmの顆粒状を呈し、黒曜石と流紋岩との間で厚さ２～３cmの互層をなす。黒曜石は最上部では１ｍ＋の厚さを有し、　分布　特徴

黒色で気泡跡に乏しく、透明性が高い。岩塊では黒色であるが、貝殻状細片では透明となる。

分布　b　長野県八千穂村麦草峠　麦草峠の黒曜石は麦草峠（標高2120m）から白駒池駐車場の東側、国道299号の道路法面にかけての広い地域に分布する。露頭する黒曜石の岩体は

特徴　30×50mと大きく、黒曜石は黒色で気泡跡が点在し、露頭ではジョイントが多く５～８cm程度の角礫に分離する。この岩体を中心として斜面上部と下部では黒曜石は貧弱となり、流紋岩の中に３～５mmの顆粒状の黒曜石として互層する。

３）分析結果

第 30 表には分析結果、第 31 表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

和田峠系―２　１）Ｒｂ－Ｓｒ図（第 66 図）に示すように、和田峠系―１は検出されず、和田峠系―２が中心となる。

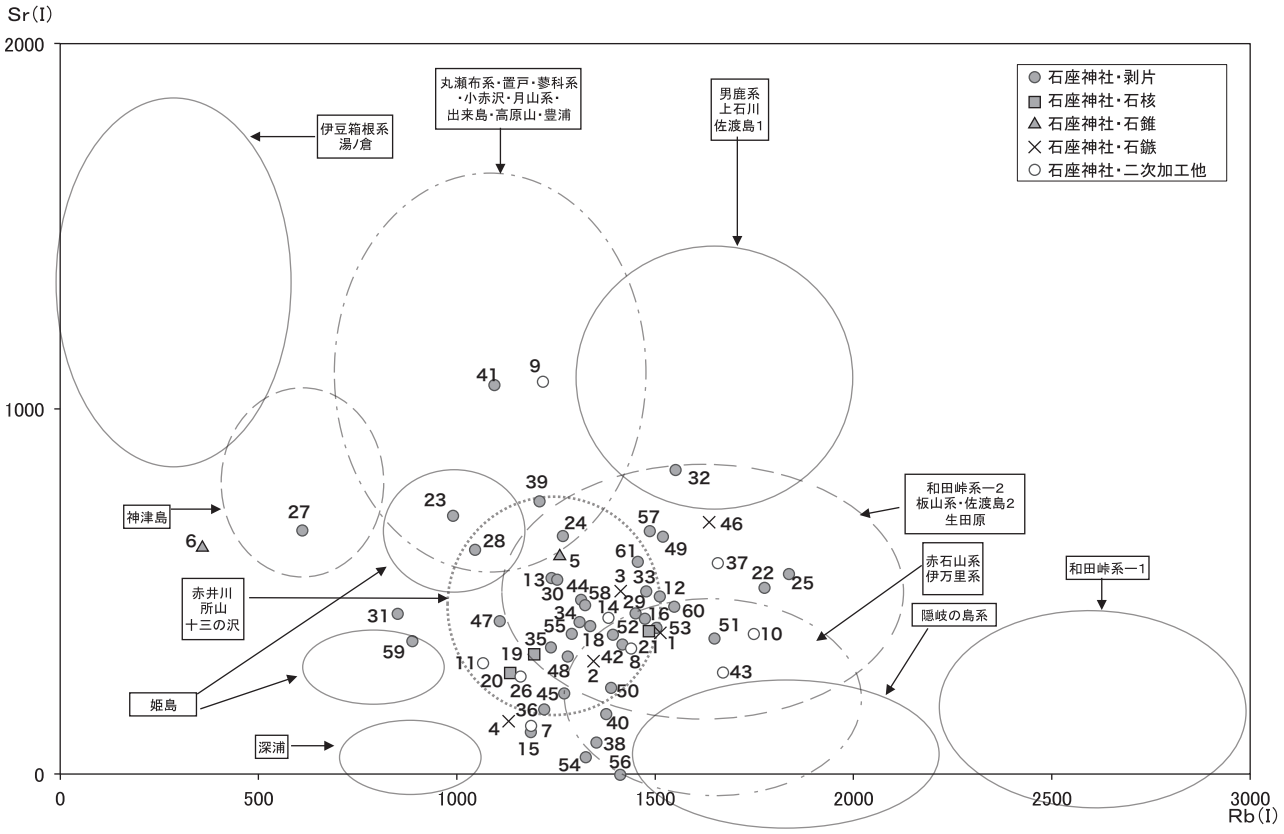
２）最も多く検出されたのは和田峠系―２で、61 個のうち 36 個が該当する。弱被熱・

神津島？・　和田峠系―２は 18 個、強被熱・和田峠系―２が２個である。神津島？が３個、月山系？

月山系？　２個である。

３）神津島と月山系については？マークを付けてある。これらは被熱して領域が幾分ずれることによるものである。

星ヶ塔　４）和田峠系―２のうち男女倉５は黒色でガスの抜けた小さな跡があり均質ではなく、透明感のある材質からすると石座神社遺跡の遺物は均質な星ヶ塔に近い。



第66図　石座神社遺跡Ｒｂ－Ｓｒ図

参考文献

井上　巖（2000）東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光Ｘ線分析（ＸＲＦ）、北越考古学、第１１号、23-38.
井上　巖（2001）テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第７号　23-51.
井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石　関東・中部・東海編
井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石　東北・北陸編
井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石　北海道編
井上　巖（2008）東北日本の原産地黒曜石写真集

第 30 表　分析結果一覧

試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2	Total	Rb(I)	Sr(I)	原産地	器　種	整理番号	登録番号
IK-1	2.8328	0.0000	11.1119	78.6399	0.6599	5.0242	0.5284	0.1437	0.1085	0.8939	0.0270	0.0070	0.0055	0.0173	100.0000	1514	383	和田峠系―２	石鏃	1537	3073
IK-2	3.0677	0.0000	11.3581	78.0122	0.5632	5.1705	0.5325	0.1636	0.1027	0.9820	0.0246	0.0058	0.0012	0.0159	100.0000	1340	309	和田峠系―２	石鏃	1535	3074
IK-3	2.6257	0.0000	14.6242	74.7176	0.5780	4.8849	0.5633	0.2933	0.1890	1.4611	0.0258	0.0094	0.0066	0.0211	100.0000	1407	501	弱被熱・和田峠系―２	石鏃	1248	3075
IK-4	3.1237	0.0000	11.0444	75.3661	0.6159	4.7997	3.7817	0.1574	0.1075	0.9606	0.0208	0.0028	0.0020	0.0176	100.0002	1127	147	和田峠系―２	石鏃	12	3076
IK-5	0.5614	0.0000	11.7656	80.3917	0.5787	4.2851	0.4695	0.1885	0.1213	1.5099	0.0441	0.0216	0.0147	0.0478	99.9999	1262	604	和田峠系―２	石錐	3042	3088
IK-6	3.1989	0.0000	11.2848	79.1527	0.5590	3.1997	0.8516	0.1999	0.1212	1.3552	0.0080	0.0145	0.0212	0.0332	99.9999	355	624	神津島	石錐	3076	3089
IK-7	3.8302	0.0000	11.0091	77.4649	0.5163	5.2106	0.6109	0.1613	0.0998	1.0497	0.0217	0.0024	0.0051	0.0180	100.0000	1188	129	和田峠系―２	スクレイパー	1548	3147
IK-8	2.7226	0.0000	11.1136	78.7274	0.6409	5.0070	0.4940	0.1534	0.1063	0.9840	0.0258	0.0063	0.0067	0.0121	100.0001	1442	344	和田峠系―２	スクレイパー	2238	3148
IK-9	2.0576	0.0000	12.1078	77.1651	0.5360	4.2319	0.7815	0.3722	0.0835	2.5713	0.0297	0.0269	0.0026	0.0339	100.0000	1211	1073	月山系？	使用痕のある剥片	2202	3149
IK-10	3.0934	0.0000	12.2356	76.8225	0.6232	5.2414	0.5993	0.1774	0.1105	1.0325	0.0323	0.0072	0.0030	0.0218	100.0001	1743	381	和田峠系―２	二次加工のある剥片	19	3179
IK-11	2.5941	0.0000	10.9547	79.1852	0.6344	4.8845	0.5094	0.1473	0.1213	0.9163	0.0183	0.0054	0.0104	0.0186	99.9999	1066	308	和田峠系―２	縦長剥片	27	3281
IK-12	2.5910	0.0000	10.8924	79.4860	0.6140	4.7840	0.4941	0.1158	0.1028	0.8681	0.0261	0.0086	0.0044	0.0127	100.0000	1513	488	和田峠系―２	剥片	2266	3282
IK-13	2.3509	0.0000	11.0177	79.5799	0.6429	4.7215	0.5334	0.1229	0.0983	0.8771	0.0218	0.0097	0.0081	0.0159	100.0001	1237	539	和田峠系―２	剥片	2513	3283
IK-14	2.6123	0.0000	11.4824	78.7991	0.5697	4.8536	0.5031	0.1493	0.0994	0.8806	0.0223	0.0071	0.0047	0.0164	100.0000	1382	429	和田峠系―２	使用痕のある剥片	179	3284
IK-15	3.1567	0.0000	12.2704	77.3503	0.6543	4.8249	0.5350	0.1424	0.1011	0.9280	0.0193	0.0020	0.0033	0.0122	99.9999	1187	120	和田峠系―２	剥片	840	3285
IK-16	2.4706	0.0000	11.5855	79.0106	0.5734	4.1441	0.4592	0.2304	0.1062	1.3492	0.0382	0.0112	0.0020	0.0192	99.9998	1476	425	弱被熱・和田峠系―２	剥片	611	3286
IK-17	2.9815	0.0000	10.9230	77.5396	0.6900	5.3597	0.6646	0.1508	0.1834	1.3823	0.0811	0.0039	0.0185	0.0217	100.0001	3412	160	弱被熱・和田峠系―２	剥片	17	3287
IK-18	2.9681	0.0000	11.5669	77.9146	0.6506	4.9857	0.5657	0.1291	0.1099	1.0540	0.0236	0.0074	0.0103	0.0142	100.0001	1331	405	弱被熱・和田峠系―２	剥片	290	3288
IK-19	2.0611	0.0000	10.8453	80.0708	0.6557	4.5699	0.5533	0.1327	0.1102	0.9326	0.0240	0.0068	0.0141	0.0235	100.0000	1195	329	和田峠系―２	石核	771	3289
IK-20	2.6665	0.0000	11.2810	78.1181	0.7200	5.3546	0.5716	0.1617	0.1017	0.9765	0.0201	0.0050	0.0078	0.0154	100.0000	1133	274	弱被熱・和田峠系―２	石核	845	3290
IK-21	2.3628	0.0000	11.3741	79.2073	0.6233	4.6793	0.5013	0.1473	0.0959	0.9510	0.0264	0.0071	0.0039	0.0204	100.0001	1481	390	和田峠系―２	石核	848	3291
IK-22	2.6764	0.0000	13.1169	76.4987	0.6148	4.8339	0.5181	0.1940	0.1179	1.3612	0.0336	0.0098	0.0034	0.0214	100.0001	1777	507	和田峠系―２	剥片	16	
IK-23	1.4805	0.0000	11.7556	76.6217	0.6054	7.6777	0.4762	0.1905	0.1167	1.0147	0.0199	0.0146	0.0032	0.0233	100.0000	989	708	強被熱・和田峠系―２	剥片	18	
IK-24	3.1388	0.0000	12.1793	77.3906	0.7549	4.6897	0.5095	0.1533	0.1117	1.0196	0.0214	0.0112	0.0051	0.0147	99.9998	1266	650	和田峠系―２	剥片	20	
IK-25	2.4364	0.0000	11.6161	78.2375	0.6729	5.0442	0.5994	0.1571	0.1226	1.0426	0.0357	0.0109	0.0028	0.0218	100.0000	1835	550	和田峠系―２	剥片	301	
IK-26	2.5709	0.0000	13.4174	76.0246	0.6921	5.3520	0.5973	0.1658	0.1094	1.0357	0.0168	0.0040	0.0029	0.0109	99.9998	1157	267	弱被熱・和田峠系―２	微細剥片	362	
IK-27	2.4372	0.0000	11.4742	79.2104	0.6802	3.5053	0.9034	0.1901	0.1326	1.4161	0.0116	0.0130	0.0072	0.0185	99.9998	610	670	神津島	剥片	371	
IK-28	2.7304	0.0000	11.0789	78.9900	0.6765	4.7250	0.5510	0.1431	0.1067	0.9491	0.0179	0.0108	0.0037	0.0170	100.0001	1045	615	和田峠系―２	剥片	434	
IK-29	2.5426	0.0000	11.2147	78.8262	0.7104	4.9534	0.5187	0.1281	0.1128	0.9458	0.0263	0.0082	0.0052	0.0076	100.0000	1452	441	和田峠系―２	剥片	518	
IK-30	3.5589	0.0000	11.7626	77.1912	0.6872	5.0088	0.5432	0.1293	0.1110	0.9506	0.0219	0.0095	0.0113	0.0144	99.9999	1253	532	和田峠系―２	剥片	828	
IK-31	3.3656	0.0000	12.1427	77.8292	0.6698	3.4387	0.9169	0.1686	0.1093	1.3241	0.0159	0.0084	0.0001	0.0107	100.0000	853	438	神津島？	剥片	836	
IK-32	3.0115	0.0000	10.9450	78.4877	0.6663	4.8292	0.7688	0.1371	0.1132	0.9710	0.0292	0.0161	0.0075	0.0174	100.0000	1549	833	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1280	
IK-33	2.9297	0.0000	11.0118	78.8556	0.6634	4.7178	0.5328	0.1266	0.1076	0.9973	0.0245	0.0085	0.0074	0.0171	100.0001	1478	501	和田峠系―２	剥片	1292	
IK-34	2.2180	0.0000	11.3132	79.3044	0.7290	4.6509	0.4653	0.1612	0.1066	0.9949	0.0239	0.0078	0.0058	0.0193	100.0003	1308	415	和田峠系―２	剥片	1310	
IK-35	1.5139	0.0000	15.0125	75.4094	0.6281	4.6377	0.5200	0.2581	0.1321	1.8428	0.0245	0.0070	0.0001	0.0138	100.0000	1237	345	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1346	
IK-36	2.6821	0.0000	12.5407	77.4669	0.7110	4.6250	0.4992	0.1560	0.1147	1.1588	0.0230	0.0034	0.0000	0.0191	99.9999	1219	178	和田峠系―２	剥片	1549	
IK-37	1.5641	0.0000	10.4025	78.0640	0.7117	7.5417	0.5089	0.1294	0.0991	0.9167	0.0319	0.0115	0.0048	0.0137	100.0000	1657	582	弱被熱・和田峠系―２	微細剥片	1594	
IK-38	2.8894	0.0000	11.3824	78.5059	0.7146	4.7481	0.4987	0.1428	0.1155	0.9559	0.0237	0.0016	0.0045	0.0171	100.0002	1350	88	和田峠系―２	剥片	1602	
IK-39	2.3713	0.0000	12.8477	77.1768	0.6674	4.8252	0.5157	0.1852	0.1265	1.2276	0.0226	0.0143	0.0059	0.0136	99.9998	1208	748	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1607	
IK-40	3.5016	0.0000	11.3770	77.7758	0.7057	4.7813	0.5544	0.1395	0.1077	0.9982	0.0260	0.0032	0.0075	0.0221	100.0000	1374	164	和田峠系―２	剥片	1613	
IK-41	2.3643	0.0000	13.3406	76.3241	0.5972	4.1516	0.7343	0.3190	0.0820	2.0057	0.0224	0.0222	0.0122	0.0243	99.9999	1096	1061	月山系？	剥片	1735	
IK-42	2.6314	0.0000	11.6779	78.3603	0.7059	4.6099	0.5136	0.1683	0.1188	1.1543	0.0276	0.0071	0.0050	0.0199	100.0000	1417	354	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1769	
IK-43	2.5890	0.0000	11.3185	78.5533	0.7081	4.7913	0.5540	0.1444	0.1041	1.1685	0.0332	0.0057	0.0079	0.0219	99.9999	1674	282	弱被熱・和田峠系―２	二次加工のある剥片	1778	
IK-44	2.6779	0.0000	11.1191	79.0031	0.6471	4.7047	0.5261	0.1634	0.1063	0.9820	0.0257	0.0096	0.0132	0.0218	100.0000	1309	475	和田峠系―２	剥片	1797	
IK-45	3.1457	0.0000	11.2602	78.2453	0.5869	4.8908	0.5585	0.1383	0.1155	1.0031	0.0229	0.0040	0.0152	0.0135	99.9999	1269	218	和田峠系―２	剥片	1883	
IK-46	1.9425	0.0000	11.8805	78.4650	0.6735	4.8394	0.5047	0.1890	0.1319	1.2944	0.0341	0.0147	0.0114	0.0189	100.0000	1637	689	弱被熱・和田峠系―２	石鏃	1960	
IK-47	2.7298	0.0000	10.9923	79.0206	0.7601	4.7922	0.5240	0.1416	0.1003	0.8952	0.0184	0.0071	0.0044	0.0139	99.9999	1110	417	和田峠系―２	剥片	1990	
IK-48	2.6712	0.0000	10.8995	79.1072	0.7185	4.8648	0.5302	0.1364	0.1081	0.9148	0.0225	0.0058	0.0050	0.0159	99.9999	1277	325	和田峠系―２	剥片	2048	
IK-49	2.0270	0.0000	11.4108	79.9146	0.7047	4.1583	0.4379	0.1548	0.1125	1.0062	0.0327	0.0143	0.0020	0.0240	99.9998	1520	649	和田峠系―２	剥片	2073	
IK-50	2.2398	0.0000	11.1485	78.8614	0.6293	5.1243	0.5866	0.1701	0.1326	1.0561	0.0252	0.0044	0.0086	0.0130	99.9999	1389	238	和田峠系―２	剥片	2154	
IK-51	2.1946	0.0000	11.7408	78.5278	0.6609	4.8704	0.5481	0.1633	0.1093	1.1181	0.0315	0.0072	0.0074	0.0207	100.0001	1649	370	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2211	
IK-52	3.5306	0.0000	12.7453	76.4272	0.7005	4.5973	0.5475	0.1601	0.1118	1.1299	0.0240	0.0067	0.0067	0.0125	100.0001	1395	380	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2301	
IK-53	2.6035	0.0000	11.5251	78.6433	0.7074	4.7151	0.5049	0.1461	0.1125	0.9835	0.0275	0.0075	0.0056	0.0181	100.0001	1501	401	和田峠系―２	剥片	2323	
IK-54	0.8688	0.0000	11.6689	77.0761	0.6876	7.7371	0.6195	0.1739	0.1208	0.9991	0.0254	0.0009	0.0081	0.0137	99.9999	1324	45	和田峠系―２	剥片	2405	
IK-55	1.3735	0.0000	11.6272	76.4237	0.7283	4.5997	3.8234	0.2334	0.1057	1.0332	0.0256	0.0078	0.0000	0.0184	99.9999	1289	384	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2586	
IK-56	1.8404	0.0000	11.4522	80.0672	0.2920	4.6738	0.5578	0.1098	0.1094	0.8620	0.0228	0.0000	0.0000	0.0125	99.9999	1413	0	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2725	
IK-57	1.8236	0.0000	10.2685	81.1075	0.6640	4.2141	0.5244	0.1215	0.1241	1.0814	0.0365	0.0167	0.0035	0.0142	100.0000	1484	664	弱被熱・和田峠系―２	剥片	3039	
IK-58	3.5793	0.0000	10.6248	78.9908	0.6509	4.5512	0.4817	0.1101	0.1057	0.8580	0.0229	0.0082	0.0047	0.0115	99.9998	1322	463	和田峠系―２	剥片	3040	
IK-59	1.1321	0.0000	11.3335	78.5368	0.6733	6.0249	1.1048	0.1242	0.0960	0.9309	0.0167	0.0070	0.0064	0.0134	100.0000	889	364	強被熱・和田峠系―２	剥片	3200	
IK-60	2.7817	0.0000	11.2153	79.0265	0.6623	4.6497	0.4967	0.1311	0.0970	0.8845	0.0280	0.0084	0.0028	0.0161	100.0001	1548	456	和田峠系―２	剥片	3264	
IK-61	2.9420	0.0000	11.1207	78.9718	0.6853	4.5958	0.4872	0.1456	0.1128	0.8779	0.0262	0.0107	0.0095	0.0146	100.0001	1454	579	和田峠系―２	剥片	3271	

第 31 表　原産地対比表

試料名	原産地	器　種	整理番号	登録銀号
IK-1	和田峠系―２	石鏃	1537	3073
IK-2	和田峠系―２	石鏃	1535	3074
IK-3	弱被熱・和田峠系―２	石鏃	1248	3075
IK-4	和田峠系―２	石鏃	12	3076
IK-5	和田峠系―２	石錐	3042	3088
IK-6	神津島	石錐	3076	3089
IK-7	和田峠系―２	スクレイパー	1548	3147
IK-8	和田峠系―２	スクレイパー	2238	3148
IK-9	月山系？	使用痕のある剥片	2202	3149
IK-10	和田峠系―２	二次加工のある剥片	19	3179
IK-11	和田峠系―２	縦長剥片	27	3281
IK-12	和田峠系―２	剥片	2266	3282
IK-13	和田峠系―２	剥片	2513	3283
IK-14	和田峠系―２	使用痕のある剥片	179	3284
IK-15	和田峠系―２	剥片	840	3285
IK-16	弱被熱・和田峠系―２	剥片	611	3286
IK-17	弱被熱・和田峠系―２	剥片	17	3287
IK-18	弱被熱・和田峠系―２	剥片	290	3288
IK-19	和田峠系―２	石核	771	3289
IK-20	弱被熱・和田峠系―２	石核	845	3290
IK-21	和田峠系―２	石核	848	3291
IK-22	和田峠系―２	剥片	16	
IK-23	強被熱・和田峠系―２	剥片	18	
IK-24	和田峠系―２	剥片	20	
IK-25	和田峠系―２	剥片	301	
IK-26	弱被熱・和田峠系―２	微細剥片	362	
IK-27	神津島	剥片	371	
IK-28	和田峠系―２	剥片	434	
IK-29	和田峠系―２	剥片	518	
IK-30	和田峠系―２	剥片	828	
IK-31	神津島？	剥片	836	
IK-32	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1280	
IK-33	和田峠系―２	剥片	1292	
IK-34	和田峠系―２	剥片	1310	
IK-35	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1346	
IK-36	和田峠系―２	剥片	1549	
IK-37	弱被熱・和田峠系―２	微細剥片	1594	
IK-38	和田峠系―２	剥片	1602	
IK-39	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1607	
IK-40	和田峠系―２	剥片	1613	
IK-41	月山系？	剥片	1735	
IK-42	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1769	
IK-43	弱被熱・和田峠系―２	二次加工のある剥片	1778	
IK-44	和田峠系―２	剥片	1797	
IK-45	和田峠系―２	剥片	1883	
IK-46	弱被熱・和田峠系―２	石鏃	1960	
IK-47	和田峠系―２	剥片	1990	
IK-48	和田峠系―２	剥片	2048	
IK-49	和田峠系―２	剥片	2073	
IK-50	和田峠系―２	剥片	2154	
IK-51	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2211	
IK-52	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2301	
IK-53	和田峠系―２	剥片	2323	
IK-54	和田峠系―２	剥片	2405	
IK-55	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2586	
IK-56	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2725	
IK-57	弱被熱・和田峠系―２	剥片	3039	
IK-58	和田峠系―２	剥片	3040	
IK-59	強被熱・和田峠系―２	剥片	3200	
IK-60	和田峠系―２	剥片	3264	
IK-61	和田峠系―２	剥片	3271	

試料名	原産地	器　種	遺物番号	登録番号
IK-1	和田峠系―２	石鏃	1537	3073
IK-2	和田峠系―２	石鏃	1535	3074
IK-4	和田峠系―２	石鏃	12	3076
IK-5	和田峠系―２	石錐	3042	3088
IK-7	和田峠系―２	スクレイパー	1548	3147
IK-8	和田峠系―２	スクレイパー	2238	3148
IK-10	和田峠系―２	二次加工のある剥片	19	3179
IK-11	和田峠系―２	剥片	27	3281
IK-12	和田峠系―２	剥片	2266	3282
IK-13	和田峠系―２	剥片	2513	3283
IK-14	和田峠系―２	剥片	179	3284
IK-15	和田峠系―２	剥片	840	3285
IK-19	和田峠系―２	石核	771	3289
IK-21	和田峠系―２	石核	848	3291
IK-22	和田峠系―２	剥片	16	
IK-24	和田峠系―２	剥片	20	
IK-25	和田峠系―２	剥片	301	
IK-28	和田峠系―２	剥片	434	
IK-29	和田峠系―２	剥片	518	
IK-30	和田峠系―２	剥片	828	
IK-33	和田峠系―２	剥片	1292	
IK-34	和田峠系―２	剥片	1310	
IK-36	和田峠系―２	剥片	1549	
IK-38	和田峠系―２	剥片	1602	
IK-40	和田峠系―２	剥片	1613	
IK-44	和田峠系―２	剥片	1797	
IK-45	和田峠系―２	剥片	1883	
IK-47	和田峠系―２	剥片	1990	
IK-48	和田峠系―２	剥片	2048	
IK-49	和田峠系―２	剥片	2073	
IK-50	和田峠系―２	剥片	2154	
IK-53	和田峠系―２	剥片	2323	
IK-54	和田峠系―２	剥片	2405	
IK-58	和田峠系―２	剥片	3040	
IK-60	和田峠系―２	剥片	3264	
IK-61	和田峠系―２	剥片	3271	
IK-9	月山系？	使用痕のある剥片	2202	3149
IK-41	月山系？	剥片	1735	
IK-6	神津島	石錐	3076	3089
IK-27	神津島	剥片	371	
IK-31	神津島？	剥片	836	
IK-23	強被熱・和田峠系―２	剥片	18	
IK-59	強被熱・和田峠系―２	剥片	3200	
IK-3	弱被熱・和田峠系―２	石鏃	1248	3075
IK-16	弱被熱・和田峠系―２	剥片	611	3286
IK-17	弱被熱・和田峠系―２	剥片	17	3287
IK-18	弱被熱・和田峠系―２	剥片	290	3288
IK-20	弱被熱・和田峠系―２	石核	845	3290
IK-26	弱被熱・和田峠系―２	微細剥片	362	
IK-32	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1280	
IK-35	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1346	
IK-37	弱被熱・和田峠系―２	微細剥片	1594	
IK-39	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1607	
IK-42	弱被熱・和田峠系―２	剥片	1769	
IK-43	弱被熱・和田峠系―２	二次加工のある剥片	1778	
IK-46	弱被熱・和田峠系―２	石鏃	1960	
IK-51	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2211	
IK-52	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2301	
IK-55	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2586	
IK-56	弱被熱・和田峠系―２	剥片	2725	
IK-57	弱被熱・和田峠系―２	剥片	3039	

（７）弥生時代後期から古墳時代前期の土器編年

１）編年の目的と意義、方法

弥生時代後期から古墳時代前期の集落の動態を明らかにする際の前提として、遺跡出土土器の編年を提示する。また、遺跡は弥生時代後期から古墳時代前期に間断なく継続し、検出した遺構・遺物の質量からしても、同時期に組成する器種の多くを網羅するものと考えられ、土器編年として資する部分も大きいと思われる。

集落の動態
土器編年

編年は集落の変遷に即した 10 期(11 期)区分とした。編年に際しては､安定して組成し、組列が比較的明確な有段高杯を型式分類し、遺構における共伴関係を参照しつつ、他の形式の型式組列を想定した。同時に遺構の遺構の先後関係、位置関係、遺物の出土状況との整合を図りながら遺構の帰属時期を可能な限り推定し、各形式の型式組列をも検証した。本来であれば、この作業を反復し、より精度を高める必要があるが、その作業はなお不十分である。また、周辺の遺跡の事例を可能な限り精査して検証に努める必要もある。今後の課題である。

10期（11 期）区分
型式分類
型式組列
出土状況の検証

２）器種（形式）分類

弥生時代後期から古墳時代前期の土器は、甕、壷、有孔鉢、（有孔鉢を除く）鉢、高杯各種から構成される。器種（形式）分類は第 67 図・第 32 表に示した。

構成

甕は大多数が脚台を付した台付甕で､口縁部の形状から「く字状口縁台付甕（く字甕)」、「有段口縁台付甕（有段口縁甕)」、「内彎口縁台付甕(内彎口縁甕)」、「縁帯口縁台付甕(縁帯口縁甕)」、「跳ね上げ口縁台付甕（跳ね上げ口縁甕)」、「Ｓ字状口縁台付甕（Ｓ字甕)」に区分した。底部が平底の甕については特に「平底甕」とし、さらに、体部外面に叩き調整が認められる平底甕については「叩き甕」とした。なお、台付甕の多くは「く字状口縁台付甕（く字甕)」で占められることから、原則として「く字状口縁台付甕（く字甕)」と脚台のみの個体等で形式の判別が困難な甕については単に「甕」と呼称する。

甕

壷は大型品を主体とする「広口壷」､中･小型品を主体とする「内彎口縁壷（瓢形壷)」､「小型丸底壷」、その他の中・小型品を主体とする「中・小型壷」に区分した。(有孔鉢を除く）鉢は大型品の「大型鉢」､中･小型品の「中･小型鉢」と「浅鉢」､小型容器の「小型鉢（椀)」に区分した。なお、底部中央に円孔を穿つ「有孔鉢」を鉢とは区別した。

壷

高杯は杯部に段を有し、大型品を主体とする「有段高杯」と、杯部が椀形で小型品を主体とする「椀形高杯」に区分した。「有段高杯」は弥生時代後期に組成する「有段高杯Ａ（山中型)」､弥生時代終末期から古墳時代前期に組成する「有段高杯Ｂ（欠山型)」､「椀形高杯」は終末期から前期初頭に組成する「椀形高杯Ａ（杯部口径＞脚径)」、前期前半以降に組成する「椀形高杯Ｂ（杯部口径＜脚径)」に区分した（後述)。なお､原則として「有段高杯」は「高杯」と呼称し、椀形高杯等、他の形式の高杯に対してのみ形式名を使用する。

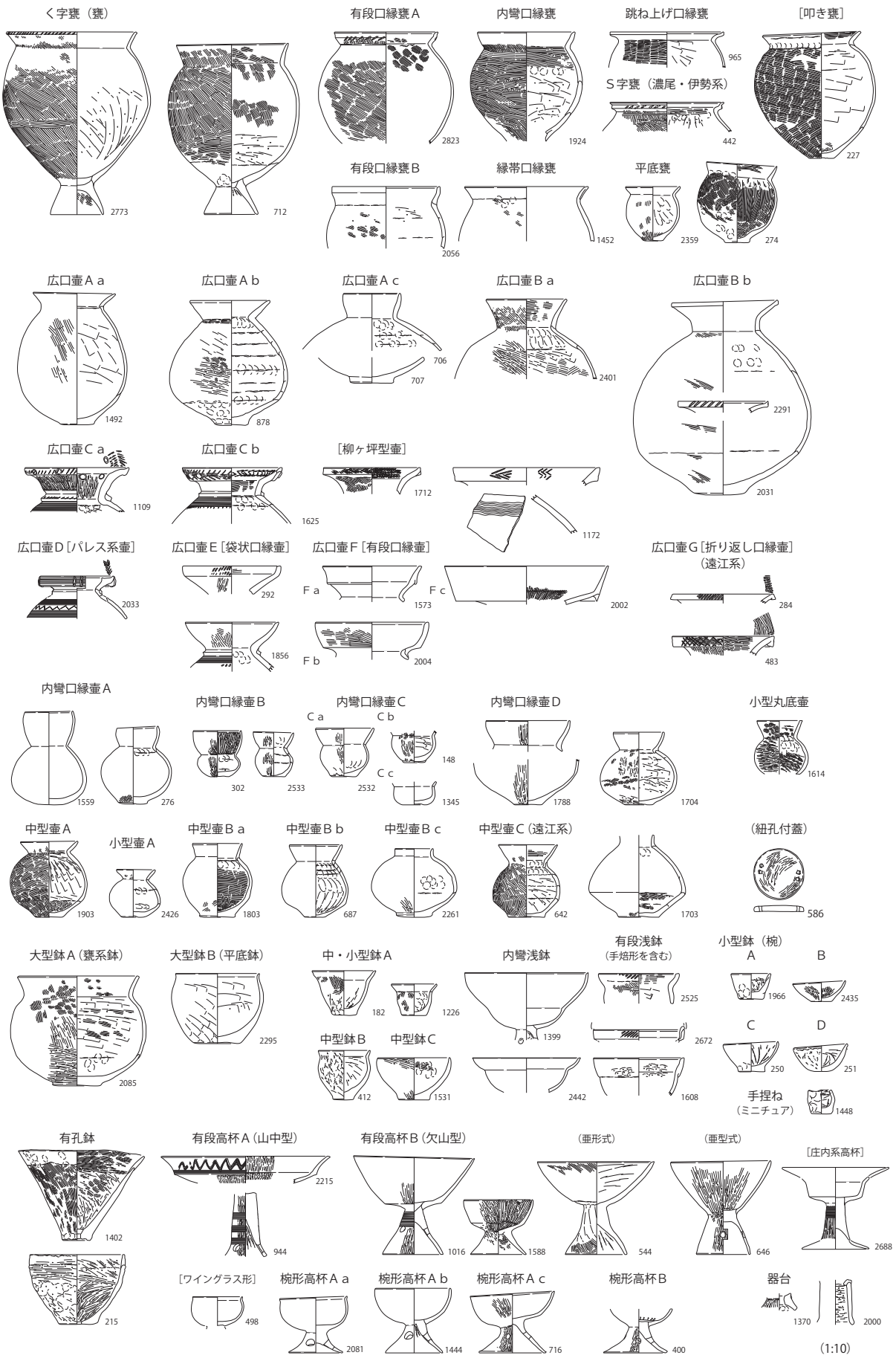
高杯

（小型器台を含む）器台、蓋は識別が可能な個体はほとんどなく、当遺跡においては原則として組成しない。周辺の遺跡の状況からも器台（小型器台）の本格的な受容は、前期後半（11 期）以降と思われる。

器台・蓋

その他、ミニチュア（手捏ね土器)、他の材質の器物各種を形象した土製品がある。

その他


く字甕（甕）
2773
712
有段口縁甕A
2823
内彎口縁甕
1924
跳ね上げ口縁甕
965
S字甕（濃尾・伊勢系）
442
［叩き甕］
227
有段口縁甕B
2056
縁帯口縁甕
1452
平底甕
2359
274
広口壺A a
1492
広口壺A b
878
広口壺A c
706
707
広口壺B a
2401
広口壺B b
2291
2031
広口壺C a
1109
広口壺C b
1625
［柳ヶ坪型壺］
1712
1172
広口壺D［パレス系壺］
2033
広口壺E［袋状口縁壺］
292
1856
広口壺F［有段口縁壺］
F a
1573
F c
2002
F b
2004
広口壺G［折り返し口縁壺］
（遠江系）
284
483
内彎口縁壺A
1559
276
内彎口縁壺B
302
2533
内彎口縁壺C
C a
C b
C c
2532
148
1345
内彎口縁壺D
1788
1704
小型丸底壺
1614
中型壺A
1903
小型壺A
2426
中型壺B a
1803
中型壺B b
687
中型壺B c
2261
中型壺C（遠江系）
642
1703
（紐孔付蓋）
586
大型鉢A（甕系鉢）
2085
大型鉢B（平底鉢）
2295
中・小型鉢A
182
1226
中型鉢B
412
中型鉢C
1531
内彎浅鉢
1399
2442
有段浅鉢
（手焙形を含む）
2525
2672
1608
小型鉢（椀）
A
1966
B
2435
C
250
D
251
手捏ね
（ミニチュア）
1448
有孔鉢
1402
215
有段高杯A（山中型）
2215
944
有段高杯B（欠山型）
1016
1588
（亜形式）
544
（亜型式）
646
［庄内系高杯］
2688
［ワイングラス形］
498
椀形高杯A a
2081
椀形高杯A b
1444
椀形高杯A c
716
椀形高杯B
400
器台
1370
2000
(1:10)

第67図　器種（形式）分類

第 32 表　器種（形式）・型式分類一覧

	器種・形式	細別形式	型式	分類要素
甕	く字状口縁台付甕（く字甕）			「く」字状に単純に外反する口縁部
	有段口縁台付甕	有段口縁甕 A		受口状の口縁部（加飾多い）
		有段口縁甕 B		受口状の口縁部（加飾少ない）
	内彎口縁台付甕			全体が内彎する口縁部
	縁帯口縁台付甕			縁帯状の口縁部（折り返しなどによる）
	跳ね上げ状口縁台付甕			強く折れる口縁部、端部は跳ね上げ状
	S 字状口縁台付甕（S 字甕）	（濃尾・伊勢系）		「S」字状に屈曲しながら外反する口縁部
	平底甕			平底の底部
	［叩き甕］			叩き調整の平底甕
壷	広口壷（大型壷）	広口壷Ａａ		単純に外反する口縁部、無花果形の体部
		広口壷Ａｂ		単純に外反する口縁部、球形か下膨れの体部
		広口壷Ａｃ		短頸直口口縁
		広口壷Ｂａ		直口口縁、端部に面
		広口壷Ｂｂ		外反または屈曲気味の口縁部、端部に面（加飾）
	［加飾広口壷］	広口壷Ｃａ		単純に外反する口縁部、端部に面（加飾）
		広口壷Ｃｂ		肥厚帯・垂下帯等によって口縁端部を拡張（加飾）
	［柳ヶ坪型壷］			広口壷Ｃで口縁部内外面に羽状刺突文
	［パレス系壷］	広口壷Ｄ（尾張系）		口縁部の端面に擬凹線と棒状浮文、内面に羽状文
	［袋状口縁壷］	広口壷Ｅ		袋状の口縁部
	［有段口縁壷］	広口壷Ｆａ		有段状の口縁部、頸部径小
		広口壷Ｆｂ		有段状の口縁部、頸部径大
		広口壷Ｆｃ		口縁部の段が明瞭に屈折
	［折り返し口縁壷］	広口壷Ｇ（遠江系）		口縁部先端を折り返す
	内彎口縁壷	内彎口縁壷Ａ（瓢形壷）		全体が内彎する口縁部、中型
		内彎口縁壷Ｂ		全体が内彎する口縁部、小型
		内彎口縁壷Ｃａ		小型広口、突出しない平底の底部
		内彎口縁壷Ｃｂ		小型広口、輪台状の底部
		内彎口縁壷Ｃｃ		小型広口、著しく扁平な体部
		内彎口縁壷Ｄ		やや大型、短頸の口縁部
	小型丸底壷			直口口縁、球形の体部（丸底の底部）
	その他の中・小型壷	中・小型壷Ａ		単純に外反する口縁部、球形または下膨れの体部
		中型壷Ｂａ		短く外傾する口縁部、寸胴に近いやや長い体部
		中型壷Ｂｂ		直口口縁、下位または中位が張る体部
		中型壷Ｂｃ		短頸直口口縁
		中型壷Ｃ（遠江系）		下位が屈曲または強く張る 無花果形の体部
有孔鉢（甑）				小さい底部、単孔
鉢	大型鉢	大型鉢Ａ（甕系鉢）		器形が甕に類似、突出する平底
		大型鉢Ｂ（平底鉢）		短い口縁部、突出しない平底
	中・小型鉢	中・小型鉢Ａ		口縁部と体部が分化
		中型鉢Ｂ（短頸鉢）		短く折れる口縁部
		中型鉢Ｃ（壷系鉢）		壷の体部下半と同じ器形
	浅鉢	内彎浅鉢		内彎して大きく開く口縁部
		有段浅鉢（手焙形を含む）		有段状の口縁部（手焙形土器を含む）
	小型鉢（椀）	小型鉢（椀）Ａ		肉厚の底部、わずかに外傾する体部
		小型鉢（椀）Ｂ		浅く開く体部
		小型鉢（椀）Ｃ		全体が彎曲して開く体部
		小型鉢（椀）Ｄ		底部が不明瞭、椀形
高杯	有段高杯	有段高杯 Ａ（山中型）	高杯Ａ１	相対的に深い杯部、杯部内面の段は曖昧
			高杯Ａ２	上半が大きく外反する杯部、加飾性に富む
			高杯Ａ３	上半が外傾する杯部、加飾性に乏しい
		有段高杯 Ｂ（欠山型）	高杯Ｂ１	杯部上位と下位の高さが近似、脚高12.6cm～
			高杯Ｂ２	上位が下位を大きく凌駕する深い杯部、脚高9.6～12.5cm
			高杯Ｂ３	杯部は上下に圧縮気味、脚高8.5～9.5cm
			高杯Ｂ４	底部が水平に近い深い杯部、脚高8.5～9.0cm
			高杯Ｂ５	杯部深さ8.0～9.0cm、脚高8.5cm前後
			高杯Ｂ６	杯部深さ7.0cm～8.0cm、脚高8.0cm前後
			高杯Ｂ７	杯部深さ7.0cm～9.0cm、脚高7.0cm～8.0cm
			高杯Ｂ８	杯部深さ6.0cm前後、脚高7.0cm前後
	（庄内系高杯）			杯部上半が大きく外傾、杯部下半に段
	椀形高杯	椀形高杯Ａａ		杯部口径＞脚径、杯部全体が彎曲
		椀形高杯Ａｂ		杯部口径＞脚径、 深い杯部
		椀形高杯Ａｃ		杯部口径＞脚径、 浅い杯部
		椀形高杯Ｂ		杯部口径＜脚径

3）各形式の細別、型式分類と組列

遺跡の 10 期（11 期）区分に応じて、各細別形式の型式分類と組列の概略を示す。

く字状口縁台付甕（「く字甕」または単に「甕」）—第78図

各属性

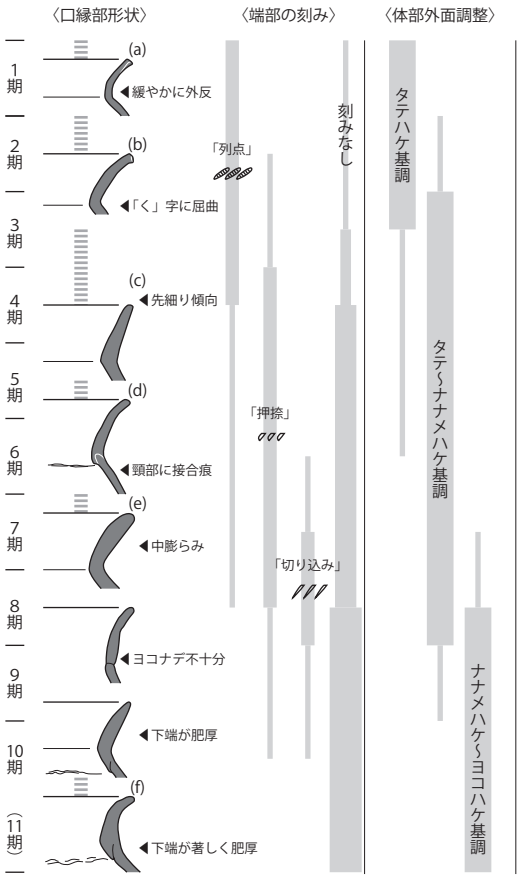
口縁部が「く」字状に単純に外反する甕は口縁端部の刻み（刺突）の有無、頸部から口縁部の形状と接合手法、体部の成形と調整、法量等の各属性の組み合わせから型式分類が可能であるが、煩雑となるのでここでは詳述せず、各属性の推移の概略のみを示す。

口縁端部の刻み

口縁端部の刻みにはハケ状工具による列点、ヘラ状工具の先端による押捺または鉄製刀子による鋭利な切り込みが認められる。１期から４期は前者主体で、５期以降は後二者にほぼ限定される。９期にはほぼ消失すると思われるが、10 期に帰属すると推定した平底甕に刻みを施した個体（1193）がある。鋭利な切り込みは８期を前後する時期に散見される。刻みの施文率、あるいは他の属性との相関関係について、客観的な分析結果を提示できないが、必ずしも段階的に低減する傾向は認められないようである。ただし、ヘラ状工具による押捺にほぼ限定される５期に一定程度、施文率が低減する傾向が認められる。

頸部から口縁部形状ａ
形状ｂ
形状ｃ
形状ｄ
形状ｅ

頸部から口縁部の形状と接合手法（第 68 図）については、１期の頸部から緩やかに外反する形状ａ（2156・2160）が、２期以降、頸部の屈曲が明瞭化した形状ｂ（2558・2773）に推移し、４期から５期には口縁部先端が先細りする形状ｃ（712・1912）に変化する。５期以降は、頸部に口縁部との接合痕が表面化する形状ｄが多くなる。７期以降、擬口縁状とした頸部には中位が中膨らみする口縁部（1441・222・1535）、ヨコナデが十分でない口縁部（1887・1536）、口縁部下端が肥厚する口縁部（1733・1593・929）が

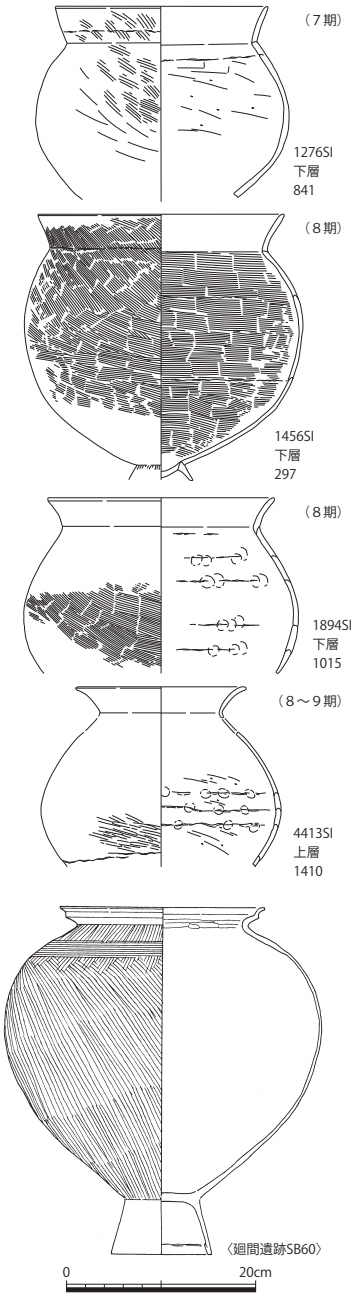


第68図　甕の型式変化と属性の相関

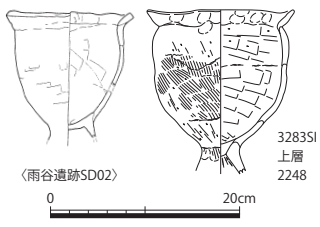
ハケ状工具による「列点」

ヘラ状工具による「押捺」

鉄製刀子による「切り込み」



第69図　大容量の甕（８期前後）



第70図　鉢状の甕（６期以降）

付されることが多い（以上、口縁部形状 e)。特に口縁部下端が著しく肥厚する形状 f（2662）は、10 期に後続する 11 期の南貝津遺跡 SB21 出土の個体に類似することから、前期後半に近い時期が想定される。

形状 f

体部の成形と調整

体部の成形と調整については、弥生時代中期末葉から後期にかけての調整手法（体部外面の長いタテハケ、体部内面のケズリ）から乖離する変化の方向性が想定される。特に体部外面の調整は、１期のタテハケを基調とする調整（2156）またはナデを基調とする調整（2330・2160)、２期から３期のやや斜行するハケ調整（2558)、４期から５期の部分的にヨコハケを重ねる調整（2773・712)、６期から７期のナナメハケを基調とする調整(1403・841)、８期以降のナナメハケからヨコハケを基調とする調整（297・1733・1676）への推移が想定される（第 68 図)。それに伴い、４期から５期には体部下位の接合単位が表面化する傾向（2082・712)、さらに、７・８期以降は体部内面の接合痕の表面化がより顕著になる傾向（1317・222・929）も認められる。

法量

体部球形・大容量

法量については、定量的な分析結果を提示できないが、特徴的な個体として、体部球形の大容量の甕（841・297・1015・1410）が認められ、８期を中心に組成する。これに関連して、ほぼ同時期と推定される廻間遺跡 SB60 に大容量の S 字甕が複数、組成することが想起され、広域に発露する現象とも目される（第 69 図)。

鉢状の甕

その他、特徴的な個体として（７期から）８期のほとんど窄まらない頸部から口縁部をほとんど未調整とする鉢状の甕（2248）がある。類似する個体は豊川市雨谷遺跡 SD02 に認められ、S 字甕 A 類が共伴することから、後述する台付甕の下半を鉢とした個体（347）も含め、６期以降に組成することが推測される（第 70 図)。

平底甕―第78図

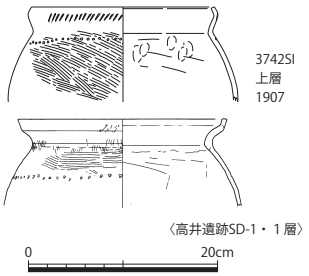
叩き甕

底部を平底とする平底甕は８期以降に組成する。８期の 1454SI に叩き甕（227）が伴うことから、叩き甕の移入によって、平底甕が組成する素地が形成されたとも考えられる。実際、1454SI において叩き甕に共伴する体部がやや細身で口縁部が内彎気味の平底甕（228）は底部が輪台状を呈し、色調や焼成の程度も叩き甕に類似する。以後、９期と 10 期を通じてやや細身の平底甕(603)、口縁部が内彎気味の平底甕(1193)が認められる。

有段口縁甕Ａ—第79図

加飾
口縁部形状

口縁部を有段（受口）状とする甕で、加飾を伴うことが多い。３期から６期に組成し（４・５期が主体）、口縁部上段が受口状に折れる一群（2168・2358・2581・1907）、口縁部先端が短く立ち上がる一群（2775・136・1239・1656・1919・1241・956）、口縁部先端に内傾する面をもつ一群（2341・1906・1902・2823・285）がそれぞれ推移する。体部外面に棒状工具の先端による列点を施した個体（1907）は、６期から７期に対応する豊橋市高井遺跡 SD- １・１層に類似する個体がある（第 71 図）。



第71図　有段口縁甕Ａの加飾

高井遺跡SD-1・１層

有段口縁甕Ｂ—第79図

加飾なし

口縁部を有段状（受口状）とする甕で、加飾を伴わない。有段口縁甕Ａとの系譜関係は不明であるが、６期以降に組成すると思われる。台付甕ではない個体を含む可能性もある。

内彎口縁台付甕（内彎口縁甕）—第79図

口縁部形状
諏訪遺跡SB014

口縁部全体が内彎する甕で、６期以降に組成すると思われる。内彎が比較的明瞭な一群（1784・2761・332）、内彎が不明瞭な一群（1924・1416）がある。後者は６期の諏訪遺跡 SB014 に類似した個体がある。10 期に対応すると思われる口縁部の内彎がほとんど認められない個体（1647）も同形式の範疇に含めた。

縁帯口縁台付甕（縁帯口縁甕）—第79図

上ノ川遺跡SB01

口縁部を折り返しなどにより縁帯状とする甕で、５期から９期に対応する上ノ川遺跡 SB01 に類似した個体がある。７期以降に確実に組成し、5770SI に底部を平底とする個体（2523）があることから、平底甕（または大・中型鉢）も含まれていると思われる。

Ｓ字状口縁台付甕（「Ｓ字甕」—第79図

Ａ類
Ｂ類古段階
Ｂ類新段階

口縁部が「Ｓ」字状に屈曲しながら外反する濃尾・伊勢系の甕で、搬入品が少なからず含まれていると思われる。全形が判明する個体はないが、口縁部が緩やかに外反し、押引き状の刺突を施すＳ字甕Ａ類（442・2482・2109・2931・1352）、口縁部の屈曲が明瞭で頸部内面にヨコハケを施すＳ字甕Ｂ類古段階（2579・2648・480・2933）、口縁部の屈曲が鈍化し、頸部内面のヨコハケを消失するＳ字甕Ｂ類新段階（540・2794・2889）に加えて脚台（823・481・2339・1299・2889・147・1188）を抽出した。

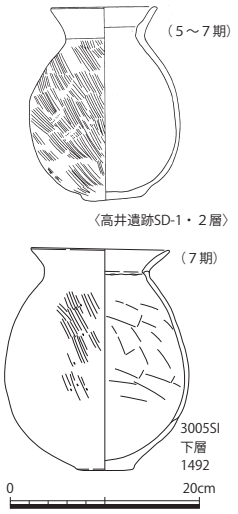
出現
高杯との共伴関係からの検証

高杯Ｂ２（833）を伴う５期の 1929SI 出土の脚台（823）から、５期にＳ字甕が伴う可能性もあるが、６期以降には確実に伴う。以下、高杯との共伴事例を参照すると、上層に７期または８期の高杯Ｂ５（449）が伴う 1330SI にＳ字甕Ａ類（442）、高杯Ｂ３（2107）を伴う６期の 4311SI にＳ字甕Ａ類（2109）、高杯Ｂ４（2567・2568）を伴う７期の 3622SI の上層にＢ類古段階（2579）、高杯Ｂ７（2890・2891）を伴う９期の 0121SI にＳ字甕Ｂ類新段階（2889）、高杯Ｂ７（2789）を伴う９期の 5909SI の上層にＳ字甕Ｂ類新段階（2794）が伴う。なお、10 期に後続する 11 期の南貝津遺跡 SB21 には頸部に沈線を施したＳ字甕Ｃ類古段階の良好な個体が伴う。これらから、およそ６期にＳ字甕Ａ類、７期にＳ字甕Ｂ類古段階、８期にＳ字甕Ｂ類古段階とＳ字甕Ｂ類新段階、９期から 10 期にＳ字甕Ｂ類新段階、10 期から 11 期にＳ字甕Ｃ類古段階が対応することが想定される。

広口壷（大型壷）―第80～82図

大型品を主体とする広口壷は、主として口縁部の形状により細別形式を設定した。なお、加飾を伴う（後述の「パレス系壷」、「柳ヶ坪型壷」を除く）広口壷については、特に「加飾広口壷」と呼称することがある。　形式の細別

広口壷Ａ　広口壷Ａは口縁部先端が先細りする形状で加飾しない。器形により広口壷Ａａ、広口壷Ａｂ、広口壷Ａｃに細別する。



第72図　広口壷Ａａ

広口壷Ａａは口縁部が単純に外反し、体部が無花果形を呈する一群（1492・306・318・2825・2826）で、７期以降、確実に組成する。なお、５期から７期に対応する高井 SD- 1・２層に類似する個体がある（第 72 図）。　広口壷Ａａ　高井遺跡SD-1・２層

広口壷Ａｂは口縁部が単純に外反し、体部が球形または下膨れを呈する一群（2025･878）で、全体に厚手の個体が多い。６期以降、一定量組成するが、５期以前は良好な個体が少ない。　広口壷Ａｂ

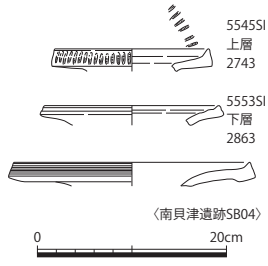
広口壷Ａｃは口縁部が短く直線的に外傾する形状の一群（1769・706・707・1493）で、５期から７期に多い形式と推定される。全体に厚手で、胎土や調整も粗悪な個体が多い。　広口壷Ａｃ

広口壷Ｂ　広口壷Ｂは口縁部先端に面をもつ形状で、全体に薄手の個体が多い。口縁部の形状により広口壷Ｂａ、広口壷Ｂｂに細別する。

広口壷Ｂａは口縁部が直線的に外傾する形状の一群で（2084・1688・827・2401・640･1543 等）、体部外面にミガキを施す個体が多い。終末期（４期から５期）は器壁が薄く、前期初頭から前期前半（８期から９期）に器壁が厚くなる傾向が認められる。また、頸部に突帯を付した直口壷（1120・601）は８期から９期に伴う個体としたが確実ではない。　広口壷Ｂａ

広口壷Ｂｂは全体に薄手で、加飾を伴うことがある。口縁部が単純に外反する一群（2586・2024 等）と、中位が屈折気味の一群（2031 等）がある。後者からは、６期から７期に体部上半を加飾する一群（1789・2535 等）、８期から 10 期に屈折する口縁部内面をヘラ、ハケ状工具による羽状刺突文で加飾する一群（340・2361・1860）、頸部に突帯を付す個体（853）が派生する。口縁部が屈折する形状で無文の個体（126）はより後出すると推測される。　広口壷Ｂｂ

広口壷Ｃ　広口壷Ｃは口縁端部の幅広の面を文様帯とする広口壷（加飾広口壷）で、端部の文様帯をほとんど拡張しない、またはわずかに拡張する広口壷Ｃａ、肥厚帯や垂下帯等によって拡張する広口壷Ｃｂに細別する。　加飾広口壷



第73図　加飾広口壷（６期）

広口壷Ｃａは弥生時代後期以降、加飾広口壷の主体を占める形式と思われるが、当遺跡において、５期以前の良好な個体はほとんど抽出されなかった。確実ではないが、終末期（５期）以前と推定される個体（1341・1362）は口縁端部の文様帯に擬凹線を施す。口縁部先端が上方にわずかに拡張され、内面が擬凹線状に窪む一群（2743・2863）は、６期に対応する南貝津遺跡 SB04 に類似した個体がある（第 73 図）。　広口壷Ｃａ　擬凹線文系　南貝津遺跡SB04

刺突文系

６期以降は口縁端部がわずかに垂下する一群（1615 等）、上方にわずかに拡張する一群（2370・1109・1107・2700 等）、ほとんど拡張しない一群（2389・2536・1397 等）で構成され、多くは口縁端部の文様帯にハケ状工具による単斜・羽状刺突文を施す。

広口壷Ｃｂ

広口壷Ｃｂは口縁部を有段状に拡張する形状（1878・2017）、口縁部が屈折する形状（1628）、口縁部内面の段の上位が彎曲する形状（1625・315）等、多様な形状が派生する。文様に関係する属性も多様で、相関関係を分析するには至っていないが、広口壷Ｃａを含めて、６期から９期と推定される羽状刺突文を多用する一群（2035・2037・2700・2389・2120・2144・210・1455・2175・1701・1012・1793・2816・1456・2218・2187）が 10 期の「柳ヶ坪型壷」（1712・1172）に集約される流れが想定される。なお、当遺跡において、二重口縁状の口縁部を付した柳ヶ型壷は出土していない。

柳ヶ坪型壷

パレス系壷（広口壷Ｄ）　拡張した口縁部先端に擬凹線文と棒状浮文、口縁部内面の文様帯に櫛、ヘラ状工具による羽状文を施す加飾壷（とその系列に属する加飾壷）を特に「パレス系壷」（広口壷Ｄ）と呼称する。尾張系で、赤彩されることがある。口縁部の形状により、Ｄ１、Ｄ２、Ｄ３、Ｄ４の４型式に分類する。

広口壷Ｄ１

Ｄ１は口縁部全体が緩やかに外反する形状（585）で、２期の 1181SI において出土している。Ｄ２は口縁部が大きく屈折する形状（1777・1053・2033 等）、Ｄ３は小さく屈折する一群（2034 等）で、屈折させた口縁部上面を幅広の文様帯とする。口縁部の屈折（文様帯の区画）は突帯によって強調されることがある。Ｄ２の体部の文様は直線文と波線文によって構成される（2033）。出土した 3306SI（1777）、3742SI（2033）から、Ｄ２は６期に対応することが想定され、Ｄ３はそれに後出する７期に対応することが予測される。

広口壷Ｄ２

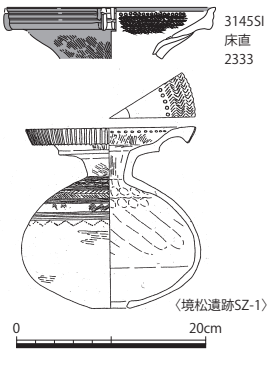
広口壷Ｄ３

Ｄ４は口縁部が屈折しない形状で、口縁部先端の擬凹線文帯をわずかに上方、または上下に拡張する（2333・258）。また、Ｄ４と同様の形状で、口縁部先端の擬凹線文帯が縮小した一群をＤ５とする（532 等）。Ｄ４、Ｄ５は口縁部内面の文様帯区画を欠き、施文しない個体（530・2620）も多く、羽状文が多状化した個体（2333・532）、さらにそれが乱れた個体（1792）もある。出土した 0121SI（2892）から、Ｄ５は９期、それに型式的に先行するＤ４は８期に対応することが想定される。なお、多条化した羽状文と竹管刺突文による口縁部内面の文様構成は、豊橋市境松遺跡 SZ-1 の加飾広口壷の文様構成とよく類似する（第 74 図）。

広口壷Ｄ４

広口壷Ｄ５

境松遺跡SZ-1



第74図　パレス系壷と関連資料

多様な属性の摂取

その他、棒状浮文上に刻みを加える個体（2620）、体部の文様帯として、波線文に単斜刺突文を組み合わせた個体（2465）、刺突列点文を加えた個体（1029）等、パレス壷とは異なる属性を取り入れた一群も９期から 10 期に対応することが想定される。

広口壷Ｅ１

広口壷Ｅ２

袋状口縁壷（広口壷Ｅ）　口縁部を袋状とする広口壷を広口壷Ｅとして、口縁部先端が受口状で加飾を伴う一群（292・1167・1765）を広口壷Ｅ１、頸部から口縁部が内彎しながら大きく開く一群（1856・2087・2146・2388・1794・144）を広口壷Ｅ２に細別する。良好な出土状況を示す個体は少ないが、広口壷Ｅ１が２期から３期、広口壷Ｅ２が３期から４期を中心として組成することを想定しておきたい。

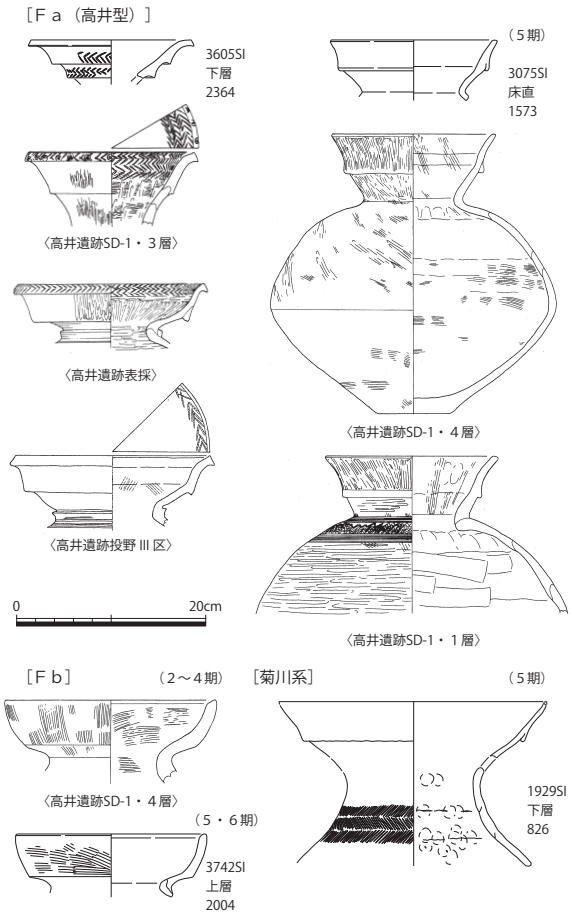
有段口縁壷（広口壷Ｆ）　有段口縁状の口縁部を付す広口壷で、頸部径が小さい広口壷Ｆａ、頸部径が大きい広口壷Ｆｂ、口縁部の段が明瞭に屈折する広口壷Ｆｃに細別する。

広口壷Ｆａは口縁部下位と上位が段を介して外反、外傾する。高井遺跡 SD-1・４層、同１層に典型的な個体がある（「高井型」有段口縁壷、第 75 図）。高井遺跡における出土状況は、３期から７期に対応することを示し、よく類似した個体（1573）が５期とした 3075SI において出土している。９期の 1226SI において出土した個体（934 の体部）は、６・７期とした 1378SI から口縁部が出土している。これらの一群をＦａ１とする。８期の 1454SI から出土した個体（238）を後出する型式をＦａ２として比較すると、６期以降、口縁部上位の外反と内面の段が失われ、口縁部先端が先細りする傾向が認められる。

「高井型」
広口壷Ｆａ１
広口壷Ｆａ２

広口壷Ｆｂは口縁部がわずかに外傾する程度で、筒状に近い。口径 18cm ～ 20cm 程度で段が明瞭な一群（2004・2003）をＦｂ１、口径 14cm ～ 17cm 程度で段が曖昧な一群（1518・237・305・625 等）をＦｂ３、両者の中間的な個体（1795）をＦｂ２とする。Ｆｂ１は２期から４期に対応する高井遺跡 SD-1・４層に類似する個体が認められるが、当遺跡における出土状況は５期から６期との対応を示す（第 75 図）。Ｆｂ３は口縁部を折り返して縁帯状とする個体（305・625）が認められ、製作上の位置は８期以降に散見される縁帯口縁甕に近い。出土状況も８期との対応を示すものが多い。両者の中間のＦｂ２の出土状況は７期との対応を示すことからも、Ｆｂ１（５期から６期）からＦｂ２（７期）を経て、Ｆｂ３（８期）に推移する流れが推定される。

広口壷Ｆｂ１
広口壷Ｆｂ３
広口壷Ｆｂ２



第75図　有段口縁壷（広口壷Ｆ）の諸例

広口壷Ｆｃは１個体（2002）が抽出されるのみで、3742SI においてＦｂ１と共伴する。系譜については明確でない。その他、多段化した口縁部にヘラ状工具による羽状刺突文を施した個体（2364）は 10 期の 3605SI から出土しているが、竪穴建物の覆土中には５期から６期の内彎口縁壷が混入していることから、それと同時期の可能性が高いと思われる。５期の 1929SI において出土している広口壷Ｆａ１に類似した有段口縁を付す遠江系（菊川系、後述）の大型壷（826）も含めると、５期に有段口縁を付した多様な形式が移入されていることを想定することも可能である（第 75 図）。

広口壷Ｆｃ
「菊川系」

体部の文様構成　口縁部の形状による広口壷の形式細別とは別に、（加飾広口壷の）体部の文様構成についても簡単に整理する。

文様の組み合わせ　体部の文様の多くは原則として櫛描直線文と他の文様との組み合わせによって構成される。直線文と組み合わされる文様として、櫛描文系の扇形文（2835）、山形文（542・2278･2227）、波状文（443）、振り幅が大きい波状文（2050）、刺突文系の単斜刺突文（278）、短羽状刺突文（2463）、貝殻腹縁刺突文（2049・1110）、円形刺突文（2053）、貼付文系の円形浮文（2090・2922・1497・1702・1551・1328・1199）等がある。なお、円形浮文は８期を前後して、円文の大きさが小さくなる傾向、一単位を構成する円文相互の間隔が狭くなる傾向が認められる。

Ａ種
Ｂ種
Ｃ種　これらの文様構成としては、直線文帯による波状文帯、刺突文帯等の分帯が明確なＡ種、直線文間に複数種の文様帯や無文帯を配し、直線文帯による分帯の原則を逸脱したＢ種、直線文帯の文様帯幅が著しく拡大したＣ種がある。また、上下に重ねた波状文、短羽状刺突文、円形浮文は文様構成Ｂ種とよく相関する。およそＡ種が後期から終末期（１期から５期）、Ｂ種が前期初頭（６期から８期）、Ｃ種が前期前半（９・10 期）に盛行する傾向は認められるが、必ずしもそれに適合しない個体もある。

内彎口縁壷（瓢形壷）―第83図

脚付内彎口縁壷
形式の細別　口縁部全体が内彎する中・小型の壷（いわゆる瓢形壷）で、一部を除いて底部は突出しない平底、または明確な底部を欠く。脚付（2001・500）はごく少ない。外面調整にタテミガキを多用する。法量と器形により中型の内彎口縁壷Ａ、小型の内彎口縁壷Ｂ、小型で頸部径が大きい内彎口縁壷Ｃ、中型からやや大型で頸部が短い内彎口縁壷Ｄに細別する。

口頸比・頸高比　内彎口縁壷Ａ　内彎口縁壷Ａは器高16cm～18cmの中型品で、終末期から前期初頭にかけて比較的安定して組成する。型式分類に際しては、口縁部が相対的に縮小する変化の方向性に着目して、頸部径に対する口縁部（最大）径の比率（以下、口頸比）、頸部径に対する口縁部高の比率（以下、頸高比）を参照した。

内彎口縁壷Ａ１　Ａ１は頸部から口縁部が大きく開き（口頸比 2.00 以上）、体部は中位が張る形状を呈する（469）。著しい短頸で明確な底部を欠く中型壷（2589）も、体部の形状は同型式に近い。

内彎口縁壷Ａ２　Ａ２は口頸部がやや縮小（口頸比 1.85 ～ 2.00）し、体部は最大径の少し下位が強く張る（2072・1849・281・2198）。

内彎口縁壷Ａ３　Ａ３は口頸部が漸次縮小し（口頸比 1.70 ～ 1.85）、体部はやや丸みを帯びる（2576・392）。

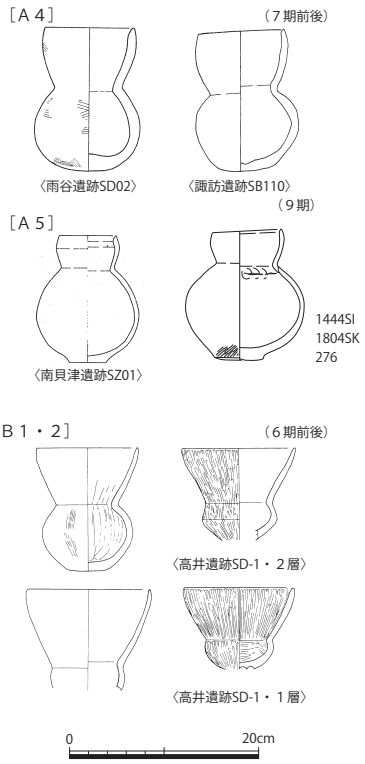
内彎口縁壷Ａ４　Ａ４は口頸部がさらに縮小する。口縁部の開きも小さく、口頸部高を頸部径が凌駕するようにもなる（口頸比 1.30 ～ 1.70・頸高比 0.75 ～ 1.00）。体部はより丸みを帯び、全体的な形状が「瓢形」に近くなる個体（1559）がある一方で、口縁部の内彎がかなり失われ、体部下位がやや強く張る個体（2527）も認められる。

内彎口縁壷Ａ５　Ａ５は頸部がより広く、短い（口頸比 1.30 以下・頸高比 0.75 以下）。球形の体部、突出する平底を呈する個体（276）、口頸部の内彎が完全に弛緩した個体（515）等、変容が著しい。後者は法量によると内彎口縁壷Ｄの範疇に含まれるが、型式的な位置を勘案して内彎口縁壷Ａ（の退化型式）とした。全面にハケ調整が表面化し、体部下位が強く張る個体（1696）も同型式に含まれると思われる。なお、1444SI 出土のＡ５（276）によく類似した個体が、南貝津遺跡 SZ01 において出土している（後述）。

南貝津遺跡SZ01

共伴関係の検証　出土状況を参照すると、５期の 3933SI にＡ２（1849）と高杯Ｂ２（1846・1847）

が共伴する事例、６期の高杯Ｂ４（377）を伴う1464SIの上層にＡ３（392）が伴う事例、高杯Ｂ６（2545・2550等）を多く伴う5770SIにＡ４（2527）が伴う事例（８期）、９期の1250SI上層にＡ５（515）と高杯Ｂ７（519）が伴う事例に加えて、６期の雨谷遺跡SD02にＡ４とＳ字甕Ａ類が共伴する事例、７期の諏訪遺跡SB110にＡ４と高杯Ｂ５が共伴する事例、９期の南貝津遺跡SZ01に（276に類似した）Ａ５と高杯Ｂ７が共伴する事例がある（第76図）。これらから、およそＡ１が４期、Ａ２が４期から５期、Ａ３が６期から７期、Ａ４が７期前後、Ａ５が９期から10期に対応する可能性が高いことが確かめられる。



第76図　内彎口縁壷の諸例

内彎口縁壷Ｂ　内彎口縁壷Ｂは器高７cm～９cmの小型品で、体部に対する口頸部の大きさ（体部高に対する口頸部高の比率、以下、体口比）により、口頸部高が体部高を凌駕する一群（体口比1.00以上）をＢ１（2801・302等）、口頸部高を体部高が凌駕するが、相対的に口頸部が大きい一群（体口比0.60～1.00）をＢ２（2708・2857・2287等）、相対的に口頸部が小さい一群（体口比0.60以下）をＢ３（2533等）に型式分類した。

体口比
内彎口縁壷Ｂ１
内彎口縁壷Ｂ２
内彎口縁壷Ｂ３

良好な出土状況を示す事例は少ないが、Ｂ１とＢ２が５期から７期に対応する高井遺跡SD-1・１層、同２層に多く含まれることから（第76図）、Ｂ１が５期、Ｂ２が６期から７期に対応することが想定される。型式的に後出するＢ３は、７期から８期の土器を多く含む5770SIにおいて出土していることから、７期から８期に対応することが想定される。

高井遺跡SD-1・１層・２層

内彎口縁壷Ｃ　内彎口縁壷Ｃは器高は８cm前後と内彎口縁壷Ｂに近似するが、頸部径は６cm前後の内彎口縁壷Ｂと比較して７cm～８cmと大きい。西遠江地域（伊場式）に組成する小型鉢に系譜する可能性もある。突出しない平底を呈する一群をＣａ、底部を輪台状とする一群をＣｂ、著しく体部が扁平なＣｃに細別する。

西遠江系小型鉢
内彎口縁壷Ｃａ
内彎口縁壷Ｃｂ
内彎口縁壷Ｃｃ

各形式とも型式分類に有意な属性を抽出することは難しいが、出土状況も踏まえると、Ｃａは内彎口縁壷Ｂと同様、５期から７期を中心に組成し、ＣｂとＣｃは８期から９期に組成することが想定される。底部を輪台状とするＣｂは叩き甕等、８期に顕在する平底の器種と製作技術上、近い位置にあることも予測される。

内彎口縁壷Ｄ　やや大型の内彎口縁壷Ｄは抽出される個体が少ない（1704・1788・2167）。前期初頭を中心として、一部は前期前半に伴うことが想定される。その他、内彎する口縁部がやや短く、頸部に突帯を付す個体（2008）、体部が球形に近い個体（1704）も認められる。

大型
頸部突帯
体部球形

内彎口縁壷の加飾　貝殻腹縁またはヘラ状工具による連弧文が、内彎口縁壷Ａ４（463・241・2472・1626）と内彎口縁壷Ｃ（2852）の両形式に認められる。相関する型式から、その盛行は６期から８期と推定される。

連弧文

小型丸底壷—第83図

ヨコミガキ　底部を欠くが、丸底が想定される小型の壷を小型丸底壷とした（1614）。直口口縁で、体部は球形を呈する。体部外面にヨコミガキを施す。共伴する土器から明確な時期を示すことは難しいが、９期に対応すると推定した。

その他の中・小型壷—第83図

形式の細別　内彎口縁壷と小型丸底壷を除く中・小型壷を器形により、口縁部がやや短く単純に外反し、体部が球形またはやや下膨れを呈する一群を中・小型壷Ａ、口縁部が直線的に短く外傾する一群を中型壷Ｂ、無花果形で体部下位が屈曲、または強く張る一群を中型壷Ｃに細別する。

中型壷Ａ１
中型壷Ａ２
中型壷Ａ３

中・小型壷Ａ　中型壷Ａは口径8.0cm～11.0cm、器高10.0cm～17.0cmの中型品で、さらに口径11.0cm前後、器高15.0cm以上のＡ１（800・296）、口径10.0cm前後、器高12.5cm～15.0cmのＡ２（1903・1425）、口径8.0cm～9.0cm、器高10.0cm～12.5cmのＡ３（2112・622）に型式分類した。Ａ１は相対的に底部が大きい安定した平底で、体部外面に曖昧なミガキを施す。Ａ２は体部が球形に近い。Ａ３は体部が下膨れを呈し、外面調整はヨコミガキを基調とする。出土状況からおよそ、Ａ１は後期から終末期（３期から４期）、Ａ２は終末期から前期初頭（５期から８期）、Ａ３は前期初頭から前期前半（７期から10期）に対応することが想定される。

小型壷Ａは口径 6.0 ～ 7.0cm、器高 7.0 ～ 9.0cm の小型品で、体部高に対する口縁部高の比率（体口比）により、相対的に口縁部が長いＡ１（体口比 0.25 以上、2426・2875)、口縁部が著しく短いＡ２（体口比 0.25 以下、2723・1595・510）に型式分類した。出土状況からおよそ、Ａ１は後期から前期初頭（６期以前)、Ａ２は前期初頭から前期前半（７期から 10 期）に対応することが想定される。

小型壷Ａ１
小型壷Ａ２

中型壷Ｂａ
中型壷Ｂｂ
中型壷Ｂｃ

中型壷Ｂ　中型壷Ｂは体部がやや長く寸胴に近い一群を中型壷Ｂａ（1687・1803等）、直口口縁で体部の下位または中位が張る一群を中型壷Ｂｂ（687・2357・1205・1206等）、口頸部が著しく短い一群を中型壷Ｂｃ（2261・411）に細別するが、細別形式間で各属性は相関しない。これらの形式は前期初頭から前期前半（６期以降）に盛行すると推定される。

遠江系（菊川系）　中型壷Ｃ　中型壷Ｃは体部下位が屈曲気味に強く張る器形の特徴から遠江系（菊川系）と考えられる。体部下位が著しく張り出す個体（1703）は、頸部が細く、底部は突出しない安定した平底である。体部下位がやや強く屈曲する個体（642）、屈曲がほとんど失われ、中型壷Ｂにも類似する個体（641）は1906SIにおいて共伴し、８期との対応が考えられる。

有孔鉢—第84図

濾過器　有孔鉢は濾過器としての用途が想定される。抽出された個体は少ない。安定した出土状況を示すものはさらに少ないが、深鉢形の個体（1402）が６期の 4459SI に、口縁部先端付近が外折するやや浅い鉢形の個体（2718）が 10 期の 5702SI に伴って出土している。底部は遺存しないが、後者に類似する９期の 3330SI 出土の鉢（2684）も有孔鉢の可能性がある。未調整部分が多い全体に粗雑な個体（215）は、後述する小型鉢（椀）Ｄとの製作上の類似から、前期前半（10・11 期）と推定した。

大型鉢―第84図

大型鉢は口縁部と体部の形状が甕に類似し、底部を突出した平底とする大型鉢Ａ（甕系鉢）、口縁部が相対的に短く、底部が突出しない安定した平底の大型鉢Ｂ（平底鉢）に細別する。前者はさらに口縁部の形状により、口縁部が単純に外反する大型鉢Ａ１、口縁部が内彎気味の大型鉢Ａ２に型式分類する。　形式の細別　型式分類

大型鉢Ａ１は４期の 3211SI に良好な個体がある（2085・2086）。４期を主体とする島田陣屋遺跡においても大型鉢が多く出土していることから、大型鉢Ａ１は４期を中心に組成することが推測される。５期の 1474SI に伴う個体（873）は粗製化する。　大型鉢Ａ１　島田陣屋遺跡

大型鉢Ａ２は口縁部形状が内彎口縁甕に類似することから、両形式は消長を同じくする可能性が高く、出土状況からも７期から９期を中心に組成することが確かめられる。その他、「甕系鉢」として、製作途上の台付甕の下半を鉢とした個体（347）が６期の 1409SI に伴う。　大型鉢Ａ２　その他の甕系鉢

中・小型鉢―第84図

後述する浅鉢を除く中・小型の鉢は、口縁部と体部が分化し、中型と小型で器形が共通する中・小型鉢Ａ、著しく頸部が短い中型鉢Ｂ（短頸鉢）、中型壷の体部下半と器形が共通する中型鉢Ｃ（壷系鉢）に細別する。　形式の細別

中・小型鉢Ａは、頸部から口縁部の形状と接合手法に注目して、頸部から連続して外折する口縁部を成形するＡ１（182･948）､頸部に口縁部との接合痕が表面化するＡ２（1582･1447・1226）、口縁部を折り返すＡ３（1365・1234）、口縁部が直立気味で体部との分化が曖昧なＡ４（2095・2860・254・1710）に型式分類する。出土状況からもＡ１は後期、Ａ２・Ａ４は終末期以降、Ａ３は前期初頭以降に対応することが想定される。　中・小型鉢Ａ１　中・小型鉢Ａ２　中・小型鉢Ａ３　中・小型鉢Ａ４

中型鉢Ｂは良好な個体が少なく、組成、型式変化は明確ではない。なお、10 期の 1411SI に伴う個体（412）は、後述する小型鉢（椀）Ｄと調整や胎土が類似する。　中型鉢Ｂ（短頸鉢）

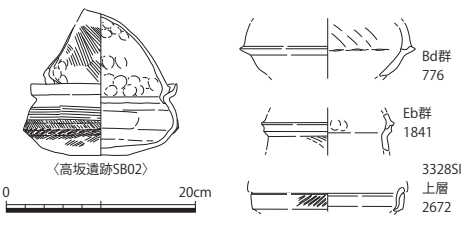
中型鉢Ｃは抽出された個体は少ないが、10 期に対応する南貝津遺跡 SB15 出土の類似の個体も勘案して、前期前半（９・10 期）に組成することを想定した。　中型鉢（壷系鉢）　南貝津遺跡SB15

浅鉢―第84図

浅鉢は口縁部が内彎して大きく開く内彎浅鉢、口縁部が有段状の有段浅鉢に細別する。　形式の細別

内彎浅鉢は脚付で口縁部が著しく大きく開く個体（1399）、底部が上げ底状の個体（1401）、扁平な個体（2442）がある。前二者は６期の 4459SI において共伴する。後者の扁平な個体は出土状況から明確な時期を示すことはできないが、10 期に対応するモリ下遺跡 6792SI において類似する個体が出土している。　内彎浅鉢　モリ下遺跡6792SI

有段浅鉢は加飾がある一群（2525 等）、段が曖昧でやや粗雑な一群（1608・2475 等）がある。前者の一群には手焙形土器（2672）が含まれる。出土状況は良好ではないが、７期から８期に対応することが想定され、８期に対応する豊川市高坂遺跡 SB02 には良好な出土事例がある（第 77 図）。後者の一群は著しく大型化した個体（1225）も含めて、８期から 10 期に対応することが想定される。　有段浅鉢　手焙形土器　高坂遺跡SB02



第77図　手焙形土器

小型鉢（椀）―第84図

形式の細別　小型鉢（椀）は口縁部と体部の区別を欠く小型容器で、やや厚い底部から体部がわずかに外傾する小型鉢（椀）A、体部が浅く開く小型鉢（椀）B、体部全体が彎曲して開く小型鉢（椀）C、底部が不明瞭な椀形の小型鉢（椀）Dに細別する。

小型鉢（椀）A　小型鉢（椀）Aは器高5.0～6.5cmの一群（896・1394・708・2612・680・520・1649等）、4.0～5.0cmの一群（184・1966・1967・1812・1003等）、3.0cm～4.0cmの一群（1344・326等）が各時期を通じて組成する。

小型鉢（椀）B　小型鉢（椀）Bは相対的に浅い一群（942・2435等）とやや深い一群（2209・1968・1533・252・1653等）がある。後者は口縁部先端をわずかに引き出す個体が多い。確実ではないが、前者が後期から前期初頭、後者が前期初頭から前期前半に組成する傾向が認められる。なお、小型鉢（椀）A・Bには朱精製用の鉢（1968・1653・1654）が少なからず含まれていることが、蛍光X線分析によって判明している（第4章（5）を参照）。

小型鉢（椀）C　小型鉢（椀）Cは口径に対して相対的に底径が小さい一群（789・352等）、大きい一群（127等）、両者の中間の一群（2740・250・325）がある。出土状況からは、およそ小さい一群が後期から前期初頭、中間の一群が前期初頭から前期前半、大きい一群が前期前半に対応することが想定される。

小型鉢（椀）D　小型鉢（椀）Dは外面を未調整とする粗雑な一群（251・413）で、前期初頭から前期前半（8期以降）に組成する。

有段高杯A―第85図

型式分類　杯部上半が外反し、脚部が大きく開く有段高杯A（いわゆる「山中型」有段高杯）は杯部の形状により、A1、A2、A3に型式分類した。脚部の加飾については、直線文帯と無文帯や刺突文帯を交互、多段に配する（分帯）構成、刺突文帯が分化、直線文帯が集約化する（非分帯）構成に区分した。後者は有段高杯Bに普遍的な直線文帯に推移する。

脚部の加飾

有段高杯A1　杯部が相対的に深く、杯部内面の段が曖昧な一群（989等）。

有段高杯A2　杯部上半が大きく外反し、加飾性に富む（2215・2273等）。脚部は上位が柱状で、脚裾付近は大きく開く（944等）。脚部の加飾は分帯構成を基本とする。

有段高杯A3　杯部上半が外傾し、加飾性に乏しい（1622・1726・1143）。脚部は中位付近から大きく開く（1623・1727等）。脚部の加飾は非分帯構成を基本とする。

有段高杯B―第85図

型式分類　杯部が内彎し、脚部が円錐形を呈する有段高杯B（いわゆる「欠山型」有段高杯）は安定して組成し、型式変化も明瞭であることから、編年の基軸として最も有効である。以下の型式分類に際しては、杯部上位と下位の相対的な高さ、杯部の口径に対する深さの比（口深比）、脚高の計測値を参照した。

杯部の上位と下位

口深比・脚高

有段高杯B1　杯部上位の高さが杯部下位の高さに近似する。脚部は柱状を呈する上位から大きく内彎して開く。脚高は著しく高い（脚高12.6cm以上）。

有段高杯B2　杯部は深く（杯部深さ9.0cm～10cm、口深比0.4前後）、上位が下位を大きく凌駕する。脚部は相対的に高く、大きく内彎して開く（脚高9.6cm～12.5cm）。

有段高杯B3　杯部はB2と同様の形態で、上下にやや圧縮気味となる。脚高が相対的に低い（脚高8.5cm～9.5cm）。

有段高杯Ｂ４　杯部下位をほとんど消失し、底部が水平に近い形態で（杯部下半の高さが杯部の10％以下）、杯部はＢ２、Ｂ３と同様に深い。脚部は相対的に高く、わずかに内彎する（脚高8.5cm～9.0cm）。

有段高杯Ｂ５　Ｂ４に類似するが、相対的に杯部が浅い（杯部深さ8.0cm～9.0cm、口深比0.4前後）。脚部は低く、内彎も弱い（脚高8.5cm前後）。

有段高杯Ｂ６　Ｂ４、Ｂ５に類似するが、より杯部が浅い（杯部深さ7.0cm～8.0cm、口深比0.3～0.4）。脚部は低く、内彎は痕跡程度のものが多い（脚高8.0cm前後）。

有段高杯Ｂ７　杯部は相対的に小さい（杯部深さ7.0cm～9.0cm、口深比0.3～0.5前後）。脚部は低く、直線的に開くものが多い（脚高7.0cm～8.0cm）。

有段高杯Ｂ８　杯部が小さく浅い（杯部深さ6.0cm前後、口深比0.3以下）。脚部はより低く、直線的に開くもの、外反気味のものでほぼ占められる（脚高7.0cm前後）。

その他の有段高杯―第85図

杯部口径が 12cm ～ 16cm 程度の小型品がある（1588・2421・1971・1297・1319 等）。杯部の形状は通有の有段高杯と同様の型式変化を示す。脚部の形状は椀形高杯に近い。　小型の有段高杯

また、有段高杯から派生した亜型式とも把握される個体が散見される。有段高杯Ａ３から派生したと思われる個体（1165）は器壁が著しく厚く、ハケ調整が表面化する。有段高杯Ｂ１から派生したと思われる一群（183・544）は、器壁が厚く杯部の段も曖昧で、脚部は透孔を欠く。杯部が深い椀形の個体（2078）は西遠江地域に散見される。大きく開く脚部は大型の椀形高杯の可能性もあるが、有段高杯と同様の杯部が伴うと思われる個体（2570）がある。その他、口径に対して著しく杯部が深い一群がある（646・117）。　亜型式（粗製）　深い椀形の杯部　大きく開く脚部　杯部が深い一群

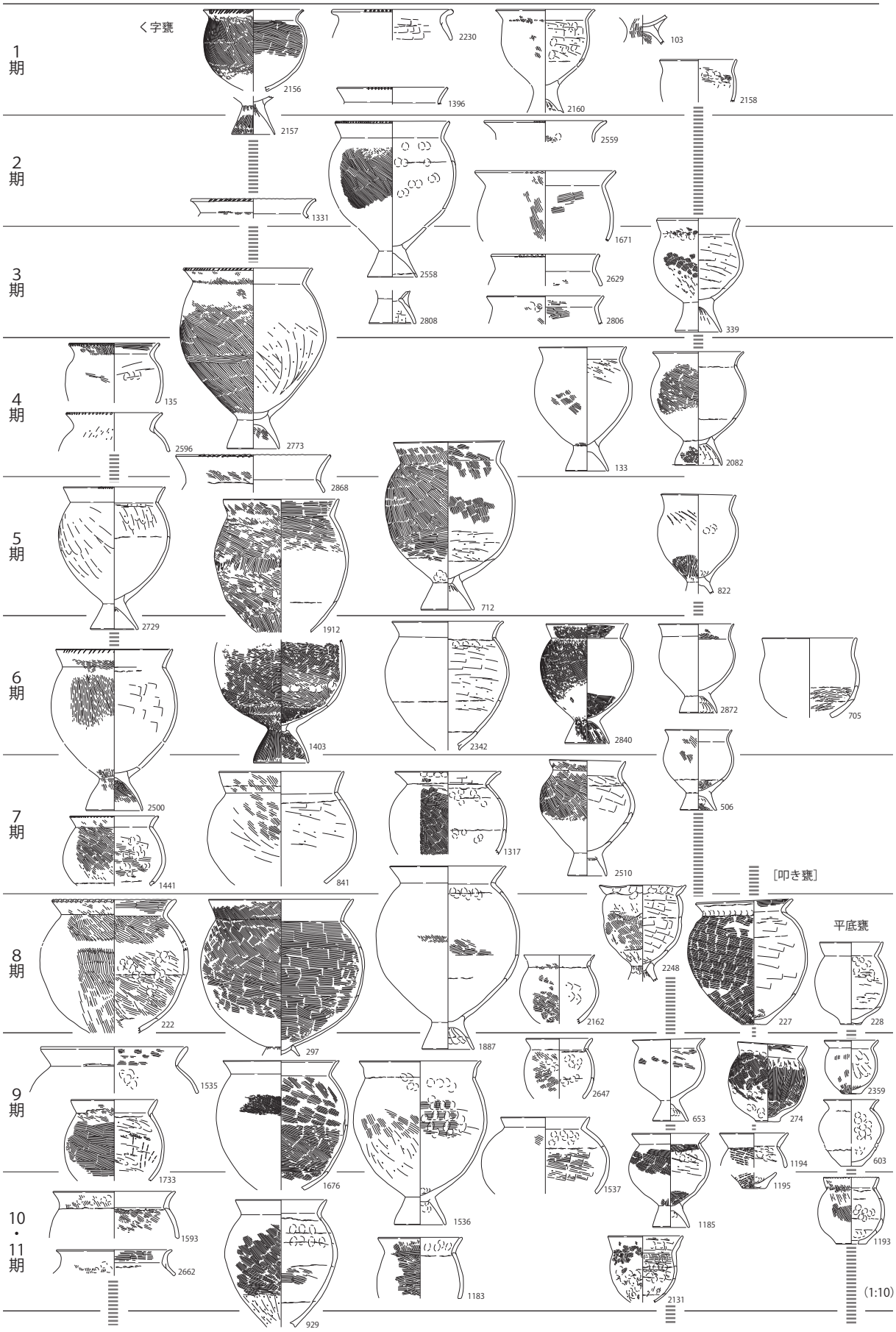
椀形高杯―第85図

椀形高杯は他の遺跡で大型品も散見されるが、当遺跡においてはその可能性がある個体（1850・1977）が６期にごくわずかに認められる程度で、明確に組成するのは小型品のみである。杯部口径が脚径を凌駕する椀形高杯Ａ、脚径が杯部口径を凌駕する椀形高杯Ｂに、さらに前者を杯部全体が大きく彎曲する椀形高杯Ａａ、杯部が深い半球形の椀形高杯Ａｂ、杯部が相対的に浅い椀形高杯Ａｃに細別する。椀形高杯Ａは後期の「ワイングラス形」高杯からの変化が想定されるが、後期における良好な個体はほとんどない。　小型品主体

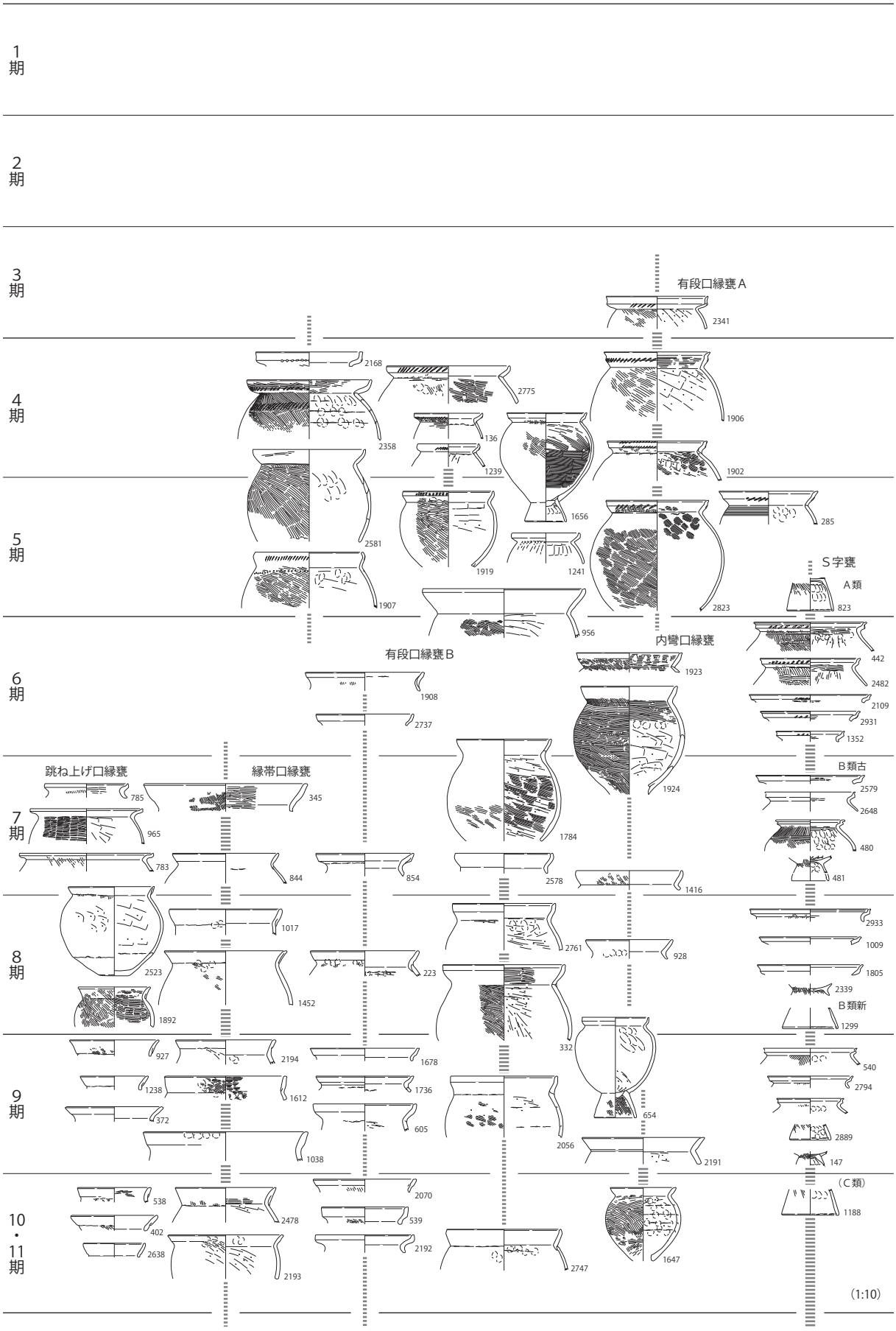
椀形高杯Ａ　椀形高杯Ａａは口縁部先端に内傾する面をもつものが多い（2081・141・874・957）。椀形高杯Ａｂは口縁部先端が先細りするものが多い（2583・1444・348・1973）。杯部が浅い椀形高杯Ａｃ（2584・716・2848・2847・1970）は杯部が深い椀形高杯Ａｂに後出する可能性もあるが、両者は４期の5785SIの床面直上において共伴する（2583・2584）。各形式は４期から５期に杯部底部付近の膨らみが消失し、５期から６期に円錐形を呈する脚部から上位が柱状で中位以下が大きく広がる脚部に変化する。　椀形高杯Ａａ　椀形高杯Ａｂ　椀形高杯Ａｃ

椀形高杯Ａａは６期以降、組成が不明瞭になる一方、椀形高杯Ａｂは脚部との接合部分から杯部が大きく外傾する型式（1512・1514）に変化して８期まで組成する。椀形高杯Ａｃは６期までは確実に組成し、著しく杯部口径が大きい型式（1970）に変化する。

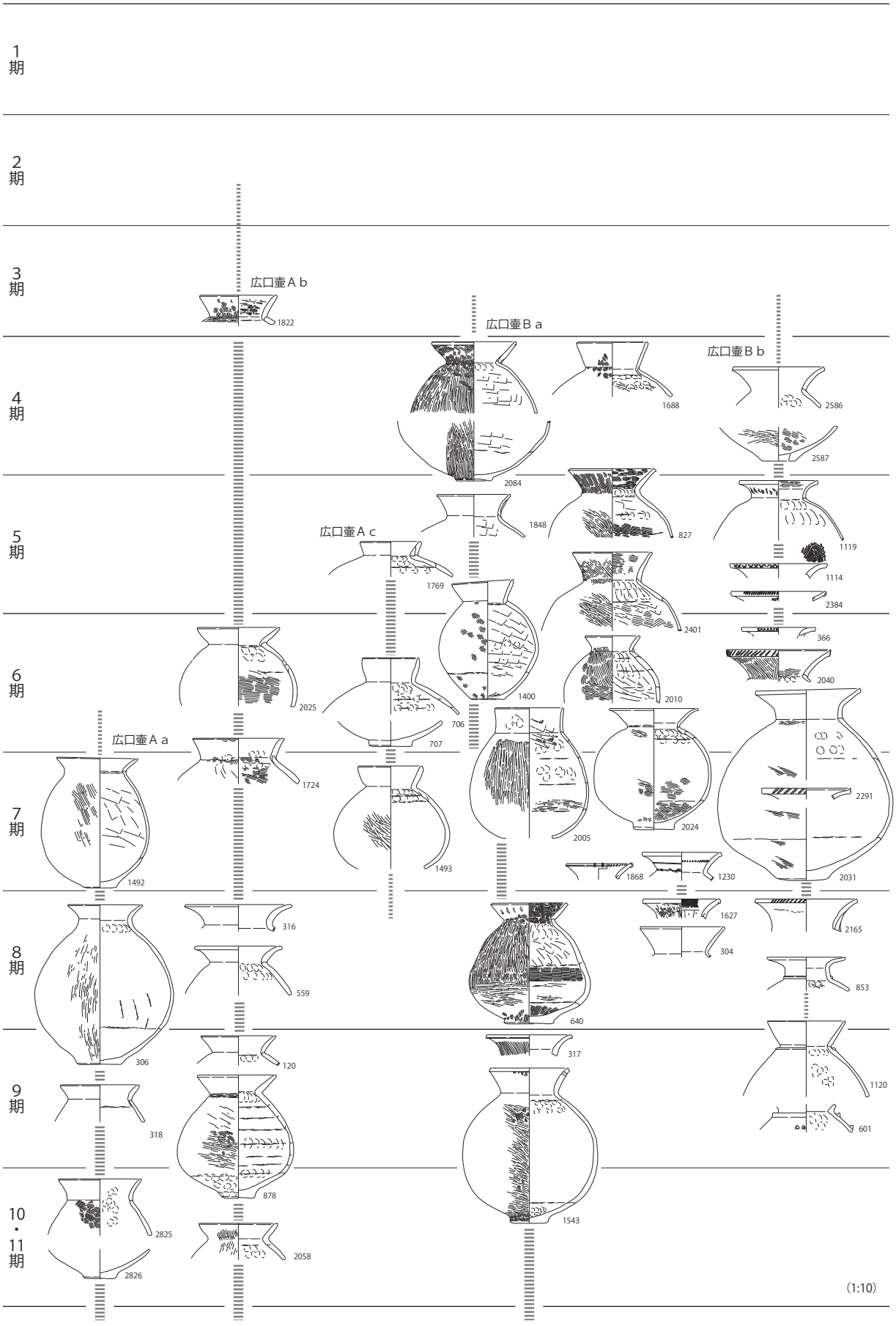
椀形高杯Ｂ　椀形高杯Ａとは異なる新出の形式で、10期には確実に組成することが確かめられる。大局として、前期初頭から前期前半にかけて椀形高杯Ａから椀形高杯Ｂへの交替が想定される。



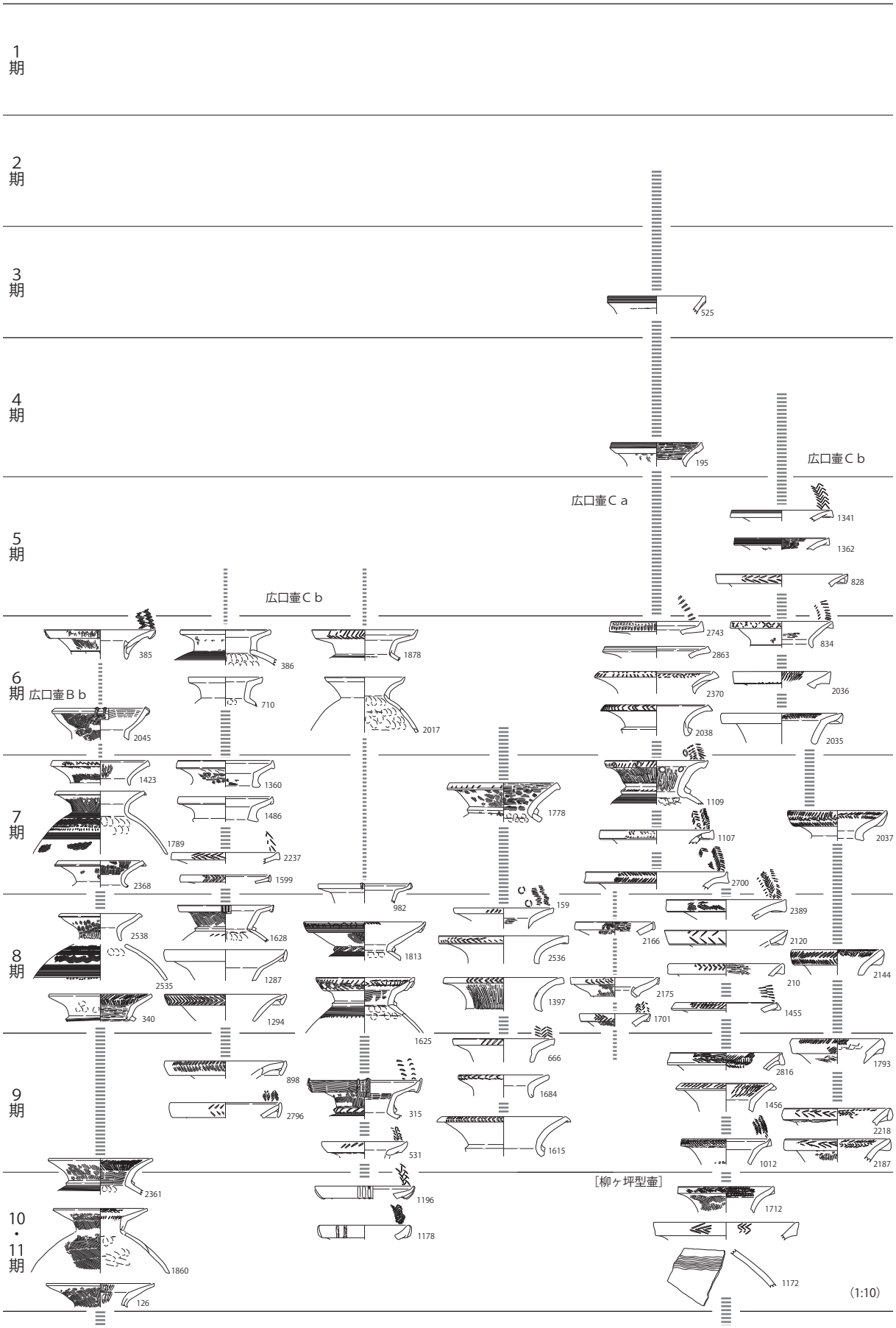
第78図　石座神社遺跡出土土器の編年（く字甕・平底甕）



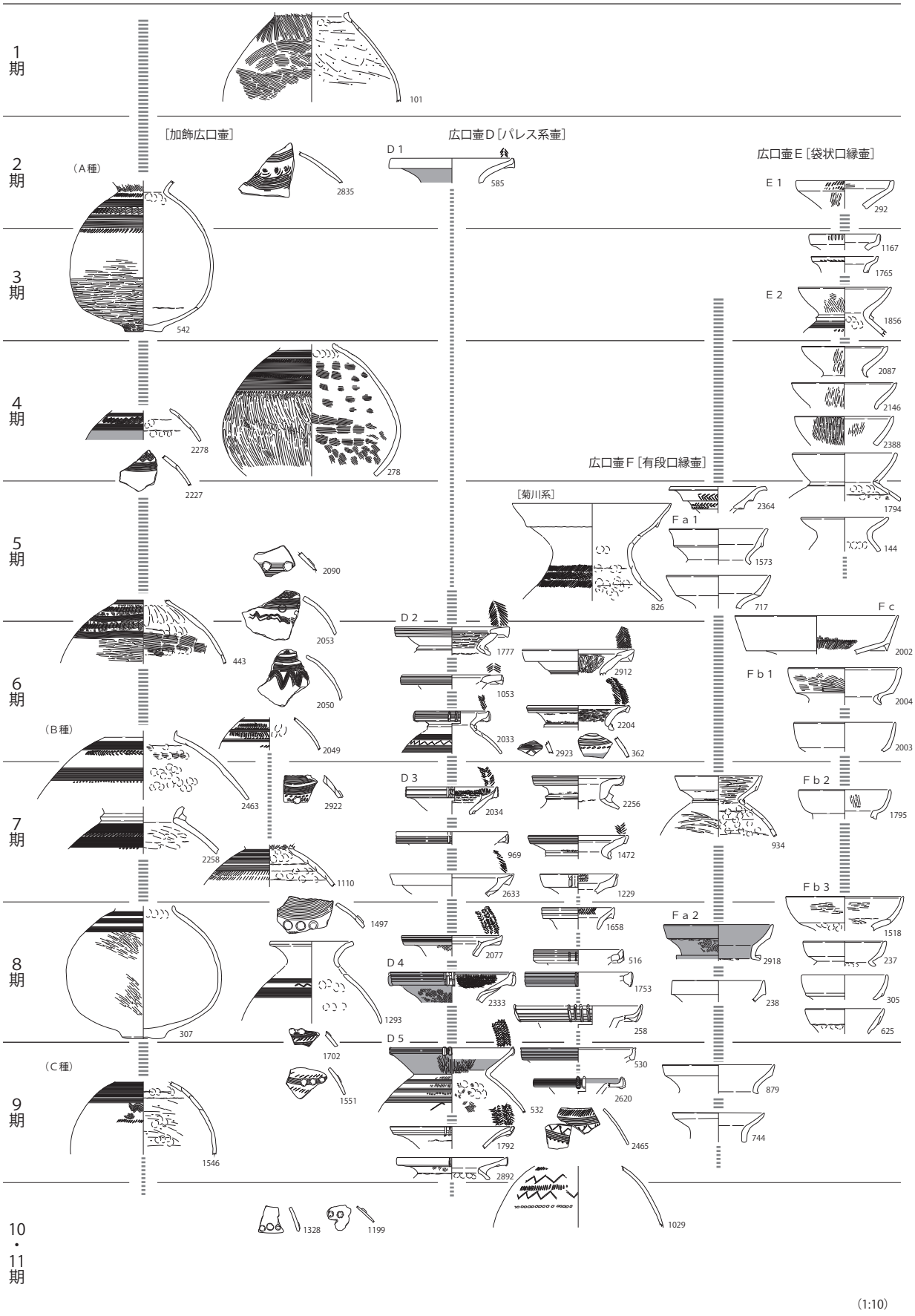
第79図　石座神社遺跡出土土器の編年（有段口縁甕・Ｓ字甕等）



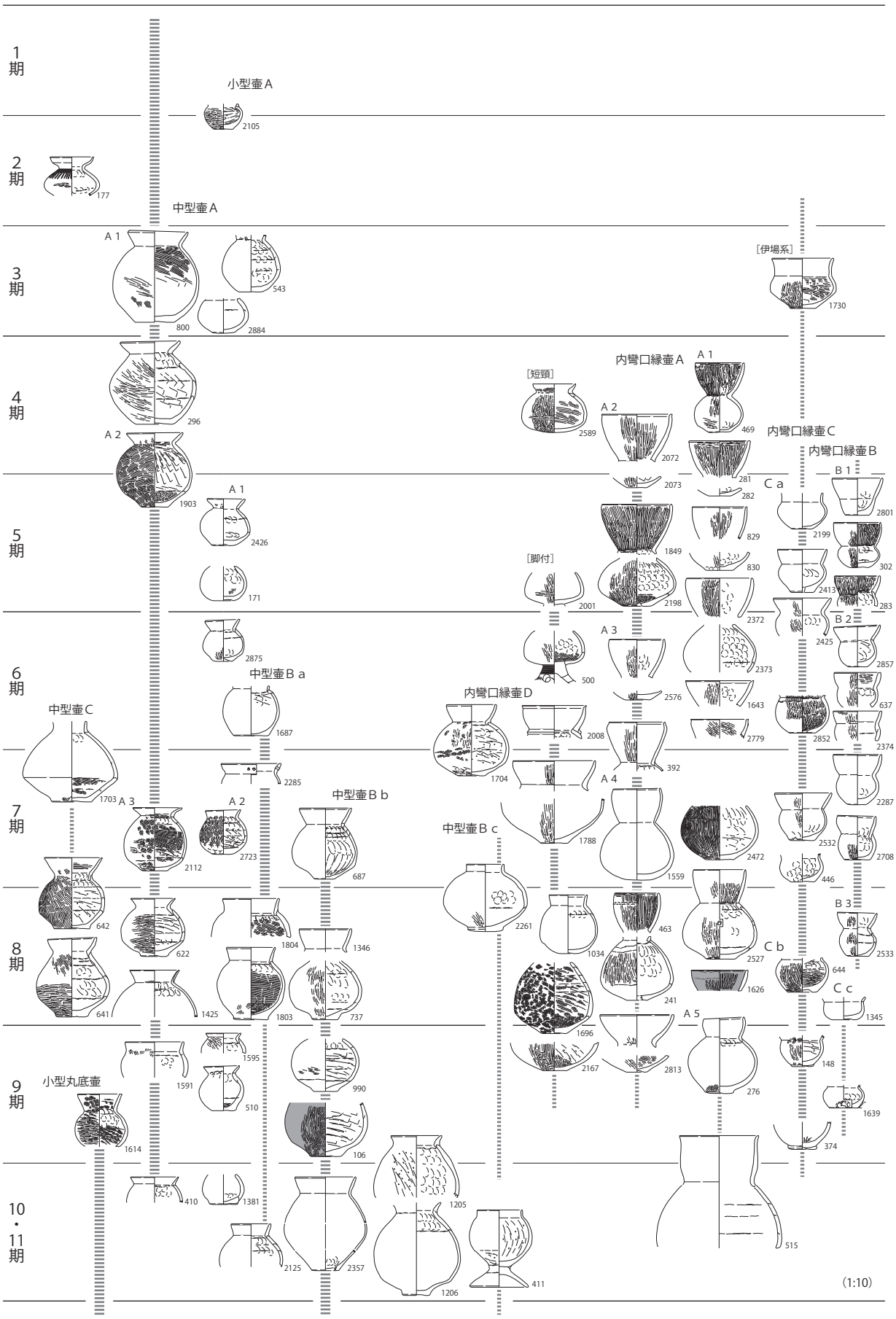
第80図　石座神社遺跡出土土器の編年（広口壷）



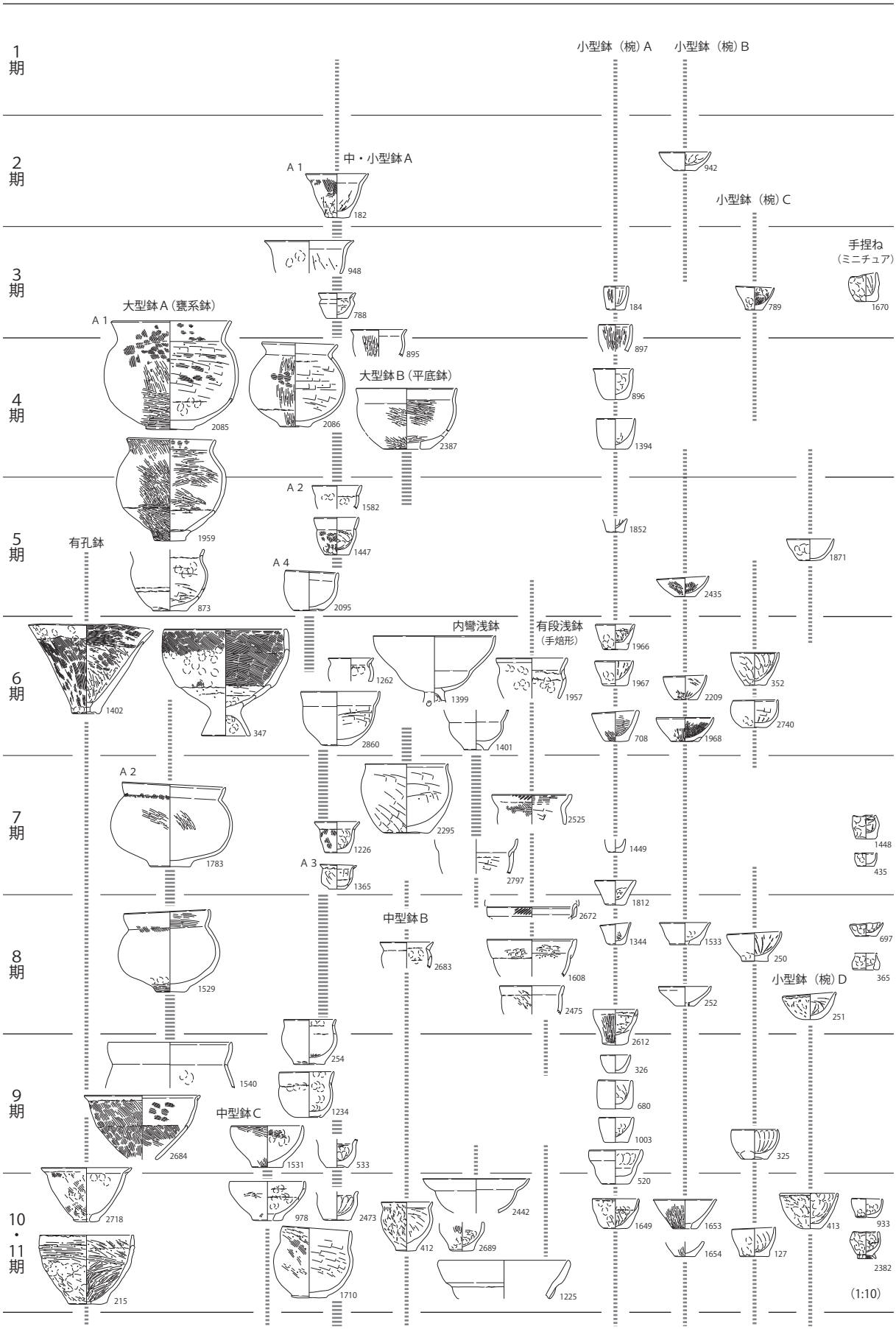
第81図　石座神社遺跡出土土器の編年（加飾広口壷）



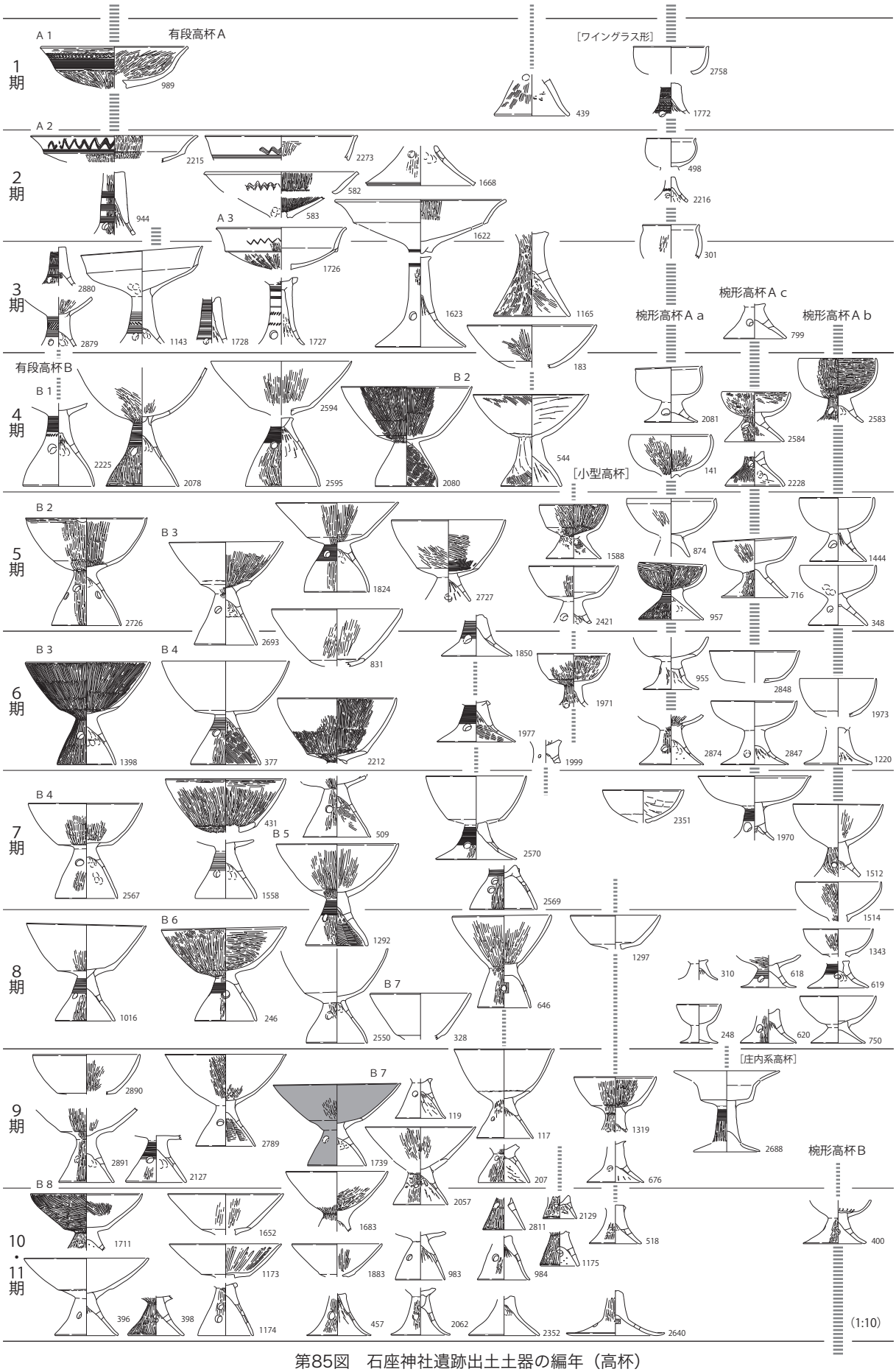
第82図　石座神社遺跡出土土器の編年（加飾広口壺・パレス系壺・袋状口縁壺・有段口縁壺等）



第83図　石座神社遺跡出土土器の編年（内彎口縁壷・中型壷・小型壷等）



第84図　石座神社遺跡出土土器の編年（鉢）



第85図　石座神社遺跡出土土器の編年（高杯）

4）遠江系土器・南関東系土器

西遠江系土器

西遠江系土器として、折り返し口縁壷（広口壷Ｇ）、有段（複合）口縁壷（1545・1884・2260・2833）、小型鉢（202・1730・2199）を抽出した（第 86 図）。

折り返し口縁壷（広口壷Ｇ）（結節）縄文

折り返し口縁壷（広口壷Ｇ）として、30 点以上を抽出した。これらには菊川式の広口壷、（鍔状口縁）高杯も含まれている可能性もある。口縁部の文様は、先端にヘラ状工具による刻み、内面に（結節）縄文を施す個体（2145・2755・2771・2786）、先端にハケ状工具による単斜刺突文を施す個体（112・163・284・916・1267）、口縁部先端と内面に櫛描波状文を施す個体（484）、先端にヘラ状工具による刻みを斜格子状に施す個体（483・1853・2046）、先端にハケ状工具による「×」刺突を施す個体（2598・2771・2903）等がある。加えて、広口壷Ｂｂの口縁部内面に結節縄文を施した個体（1114）がある。

有段（複合）口縁壷

有段（複合）口縁壷とした 1545 は大きく拡張した口縁部外面に多段化した羽状刺突文を施し、棒状浮文を付す。2260 は内彎する口縁部外面に多段化した羽状刺突文を施す。1884 は口縁部外面に棒状浮文を付し、刻みを加えた個体、2833 は棒状浮文が細い沈線に転化した個体である。2833 は後述する菊川式の広口壷(2834)と共伴して出土している。

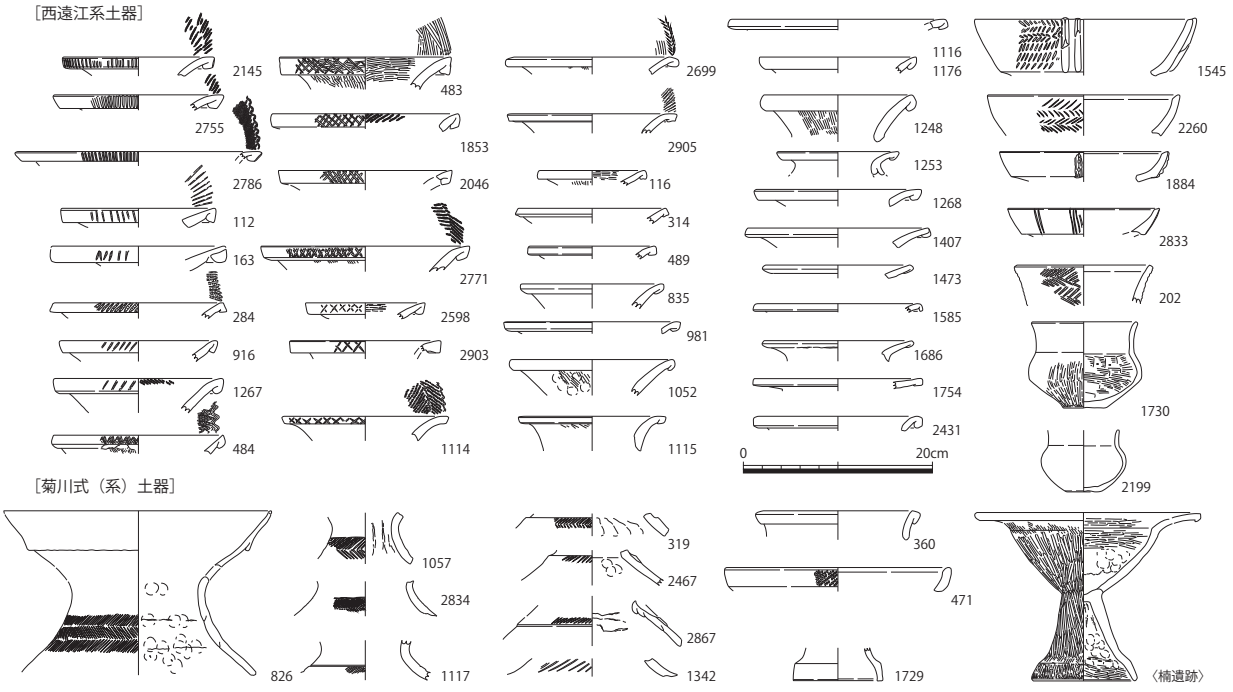
小型鉢

小型鉢は口縁部が外傾し、外面に多段化した羽状刺突文を施す個体（202）、口縁部が直立気味で体部中位が張る個体（1730）、頸部がやや締まり体部の張りが弱い個体（2199）がある。202 は２期の 1953SI 上層、1730 は３期の 3099SI において後述する菊川式の（鍔状口縁）高杯（1729）と共伴して出土している。2199 は５期の 3148SI に伴う。なお、2199 は小型壷の形状に近く、小型広口で突出しない平底の内彎口縁壷Ｃａに型式変化する。

3099SI

西遠江系土器の顕在化

上記の遺構における伴出から、西遠江地域との関係が顕在化する時期は後期後葉から終末期（３期から５期）が中心であると推察される。また、これらの西遠江土器は、丘陵頂部平坦面から西向き斜面に散在して分布する傾向が認められる。



第86図　遠江系土器

菊川式（系）土器

菊川式の範疇、またはその系譜に属する器種として、広口壷（319・826・1057・1117・1342・2467・2834・2867）、鉢（360・471）、高杯（1729）を抽出した（第 86 図）。

広口壷は頸部に「有段羽状文」を施すが、断面三角形状の突帯による明確な段が認められる個体（319・2467）と明確な段が認められない個体（826・1057・1117・2834）の両者がある。2467 は頸部に明確な段を有するが、文様を羽状ではなく単斜刺突とする。826 は口縁部を有段状とする大型品である。「有段羽状文」は頸部区画文が拡大したもので、下位の文様が省略されている個体（826・2467）があることからも、菊川式の後半期、３期から５期（篠原 2006）に対応すると考えられる。また、「有段羽状文」は菊川式土器分布圏の西部に多く、東部に少ないことも指摘されている。

広口壷

（有段）羽状文

鉢は折り返し口縁の鉢（360）、浅鉢（471）がある。後者は台付鉢または（鉢形）高杯の可能性もある。（鍔状口縁）高杯（1729）は有段状の脚部を抽出した。段が形骸化していない形態の特徴から、菊川様式中（中嶋 1988）以前に対応すると考えられる。同様の菊川式の（鍔状口縁）高杯は近隣の楠遺跡においても出土している。

鉢

高杯

当遺跡において良好な出土状況を示す個体は少ないが、（鍔状口縁）高杯（1729）は３期の 3099SI（西遠江系の小型鉢が共伴）、広口壷（826）は５期の 1929SI に伴う。菊川式に系譜すると考えられる中型壷Ｃが前期初頭（６期から８期）に伴うことも勘案すると、およそ菊川式の古相から中相が後期（３期以前）、菊川式の新相が終末期（４・５期）に対応し、菊川式（系）の終末は前期初頭（６期から８期）のいずれかの時期に求められる可能性が高い。また、これらの菊川式土器は西向き斜面（Ａ群、Ｂ群、Ｃ群）に分布がやや集中する傾向がある（遠江系土器については鈴木敏則氏に詳細なご教示を頂いた）。

3099SI

1929SI

併行関係

南関東系土器

南関東系土器として、（「久ヶ原式」系または「山田橋式」系）の（複合口縁）加飾広口壷（562）を抽出した。胎土中に砂粒を多く含む胎土で、搬入品の可能性が高いと思われる。

久ヶ原式･山田橋式

（複合口縁）加飾

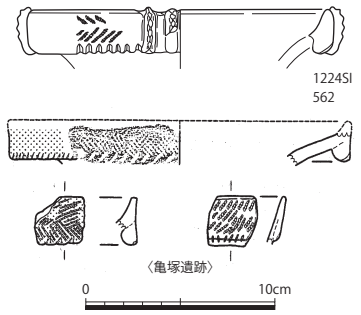
562 は（複合）口縁外面の文様帯に棒状浮文を付し、棒状浮文と文様帯下端に刻みを密に加える。文様帯には羽状縄文を施しているようにも思われるが、器表面の風化により断定は難しい。８期の 1224SI 覆土中の出土で、混入の可能性もあるが、８期と併行関係が想定される南武蔵南部地域における北川谷５期（古屋 2013）、房総地域の中台式（大村 2004）との対応を想定することも不可能ではない（南関東系土器については西川修一氏、古屋紀之氏に詳細なご教示を頂いた）。

広口壷

時期と併行関係

南関東系土器は安城市亀塚遺跡における出土が知られ（第 87 図）、今後、類例の増加も見込まれる。なお、亀塚遺跡においては南関東系土器に加えて、遠江・駿河系土器も出土している状況も石座神社遺跡と類似する。

亀塚遺跡



第87図　南関東系土器

５）様式的把握

弥生時代後期―１期・２期・３期

１期
２期
３期
吉竹遺跡071SI
吉竹遺跡047SI
構成

後期は遺構の著しい重複もあって、組成の内容を明確に示すことは難しいが、後期前葉の１期は2093SI、3186SI、1138SI、後期中葉の２期は1231SI、3097SI、1139SI、1181SI、3261SI、3621SI、後期後葉の３期は3099SI、3832SI、1251SI、0016SI、1200SI下面、1938SIから組成の一端が示される。また、近隣の吉竹遺跡071SI出土土器群は２期、同047SI出土土器群は３期の良好な一群で、相互補完が可能である。

主要な形式はく字甕、有段高杯Ａ（とワイングラス形高杯）、広口壷Ｃ（加飾広口壷）である。有段高杯は１期にＡ１（Ａ２）、２期にＡ２（Ａ３）、３期にＡ３（Ｂ１）が伴う。

弥生時代終末期―４期・５期

４期
５期
構成

４期は1200SI上面、3223SI、1957SI、5807SI、5785SI、3211SI、５期は1861SI上面、1474SI、3933SI、5545SI、1929SI、3742SI（５期から６期）が標識的な遺構である。加えて、新城市教育委員会調査SI１が（３期から）４期に対応する。

甕はく字甕に加えて有段口縁甕Ａが一定量組成する。有段高杯は有段高杯Ａから有段高杯Ｂに置換し、４期はＢ１、Ｂ２、５期はＢ２、Ｂ３が伴う。また、内彎口縁壷、大型（甕系）鉢、椀形高杯が主要な形式として組成する。

古墳時代前期初頭―６期・７期・８期

６期
７期
８期
構成

６期は4459SI、3747SI、1464SI、1490SI、3602SI、5500SI、７期は3622SI、1276SI、3076SI、3404SI、3388SI、5770SI（７期から８期）、８期は3005SI上層（下層は７期）、3006SI、3283SI、1224SI、1454SI、1906SIが標識的な遺構である。

甕はく字甕に加えて有段口縁甕Ｂ、内彎口縁甕、縁帯口縁甕、Ｓ字甕等の多様な形式によって構成される。広口壷Ｃ（加飾広口壷）の多くは擬凹線文系から、刺突文系に変化し、パレス系壷（広口壷Ｄ）も明確に伴う。有段高杯は６期にＢ３、Ｂ４、７期にＢ４、Ｂ５、８期にＢ５、Ｂ６が伴う。

古墳時代前期前半―９期・10期・（11期）

９期
10期（11期）
構成

９期は1444SI、1922SI、3079SI、3216SI、3121SI、0121SI、10期（11期）は1331SI、1411SI、1157SI、3931SI、3206SI、1176SIが標識的な遺構である。

甕は平底甕が一定量組成する。パレス系壷（広口壷Ｄ）、内彎口縁壷は退化し、段階的に組成から脱落する。有段高杯は９期にＢ６、Ｂ７、10期にＢ７、Ｂ８が伴う。椀形高杯は椀形高杯Ａ消滅し、椀形高杯Ｂに置換する。

既往の土器様式との対応

「寄道式」
「欠山式」
欠山第２貝塚
高井遺跡SD-1
４層以下
３層
２層
１層

弥生時代後期（１期・２期・３期）は概ね既往の「寄道式」に相当するが、詳細については精査が必要である。弥生時代終末期（４期・５期）は既往の「欠山式」が大きく重複すると思われるが、欠山第２貝塚出土土器は高杯Ｂ１、Ｂ２、Ｂ３、Ｂ４、Ｂ５、Ｂ６を含むことから、厳密には終末期から前期初頭（４期から８期）に対応する。また、「寄道式」から「欠山式」に対応する高井遺跡環濠SD-1出土土器（鈴木1996・1997）は高杯Ａ２、Ａ３、Ｂ１で構成される４層以下が２期から４期、高杯Ｂ１、Ｂ２で構成される３層が４期、Ｂ２、Ｂ３、Ｂ４、Ｂ５で構成され、Ｓ字甕Ａ類が伴う２層が５期から７期、高杯Ｂ３、Ｂ４、Ｂ５で構成される１層が６期から７期に対応する。これらの「欠山式」は後続する「元

屋敷式」との関係も含めてその扱いには問題が多く、地域固有の標識資料が希薄な前期前半（９･10 期）を含めた再構成が必要である。

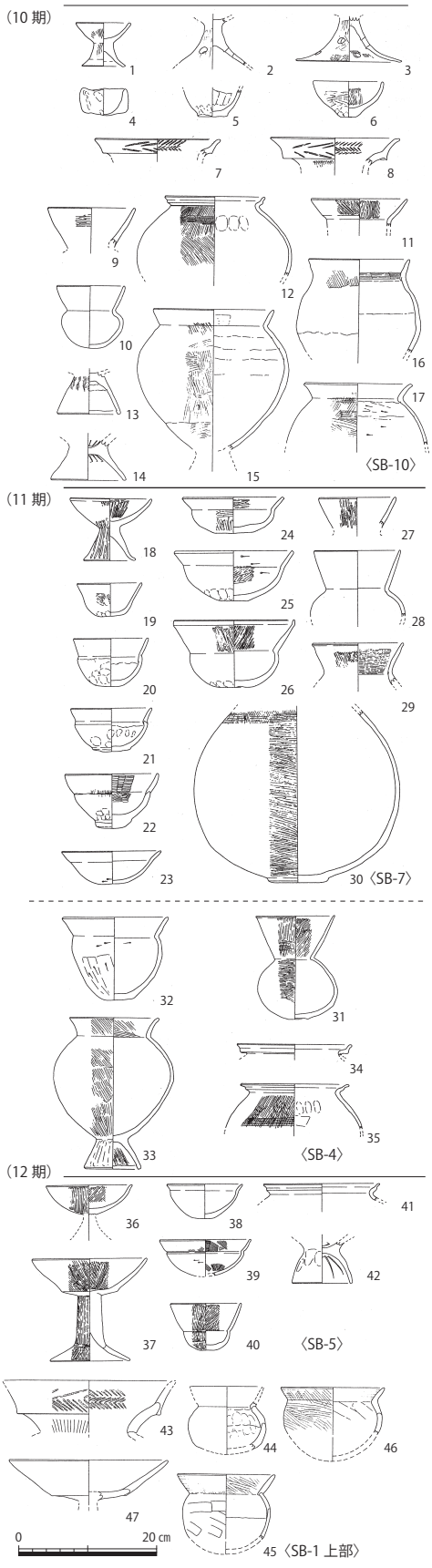
様式編年の再構成

前段までの様式的把握、既往の土器様式との対応における問題を踏まえると、豊川中・上流域における弥生時代終末期から古墳時代前期の固有の土器様式として、断上山丘陵の石座神社遺跡と南貝津遺跡出土土器群を基軸とした「断上山式」を別に設定し、弥生時代終末期を古段階、古墳時代前期初頭を中段階、古墳時代前期前半を新段階とすることも可能である。同時に、先行する弥生時代後期（中葉・後葉）は吉竹遺跡出土土器群を基軸とした「吉竹式」として把握することが適当であろう。また、後期から前期初頭の諏訪遺跡、終末期の島田陣屋遺跡、前期初頭から前期前半に対応するモリ下遺跡出土土器群等はこれらを補完する。

後続する様式

後続する古墳時代前期後半の組成の内容は豊川市宮沢遺跡出土土器群によって一定程度が把握される。宮沢遺跡は竪穴建物の重複関係、位置関係から SB-10 → SB-7 → SB-4 → SB-5 の変遷が示され、前期前半から前期後半への連続的な組成の変化を確認することが可能である（第 88 図）。

SB-10 は古相の柳ヶ坪型壷（７・８）、S 字甕Ｃ類古段階（12）等から石座神社遺跡 10 期に対応する。10 期に後続する時期を仮に 11 期、12 期とすると、10 期から 11 期に対応する SB-7 は浅鉢（23 ～ 26）が多く組成し、11 期から 12 期に対応する SB-4 に細かいヨコミガキを施した直口壷（31）、Ｓ字甕Ｃ類新段階（35）、12 期に対応する SB-5 に無透孔屈折（中実柱状）脚高杯（37）、有段鉢（39）、小型丸底壷（40）が伴う。以上の内容から、前期後半（11 期・12 期）に対応する様式を「宮沢式」として呼称する。



第88図　宮沢遺跡における土器群の推移

併行関係

尾張地域

有段高杯を主とした型式の比較、共伴するＳ字甕やパレス系壺から、尾張地域の編年（赤塚 1990・1994・1997・2002）との併行関係を整理する（第 33 表）。

弥生時代後期は、１期（後期前葉）が山中Ⅰ式以前、２期（後期中葉）が山中Ⅰ式から山中Ⅱ式、３期（後期後葉）が山中Ⅱ式に重複することが見込まれるが、詳細は不明な部分が多い。後続する弥生時代終末期は４期が廻間Ⅰ式０・１段階、５期が廻間Ⅰ式２・３段階に、古墳時代前期初頭は６期が廻間Ⅰ式４段階、７期が廻間Ⅱ式１・２段階、８期が廻間Ⅱ式３段階に、古墳時代前期前半は９期が廻間Ⅱ式４段階・廻間Ⅲ式１段階、10 期が廻間Ⅲ式２段階に、古墳時代前期後半は 11 期が廻間Ⅲ式３・４段階、12 期が松河戸Ⅰ式１段階との併行が想定される。畿内における編年（西村 2008）との併行関係については、すでに提示されている尾張地域との併行関係（早野 2013）を援用した。

畿内との併行関係

第 33 表　編年対比表

	畿内		尾張				石座神社遺跡	豊川中・上流域	三河
100	弥生時代後期前半		山中Ⅰ式	1 2 3	弥生時代後期	（　） 1期	Aa群2093SI Fa群3186SI Cb群1138SI		
			山中Ⅱ式	1 2 3		吉竹 2期	Cb群1231SI上面　Fb群3097SI　吉竹071SI Da群1139SI　Ae群1181SI Df群3261SI　Gc群3621SI		高井SD-1
150	弥生時代後期後半	古段階	廻間Ⅰ式	0 1 2 3		3期	Dg群3099SI　De群3832SI　吉竹047SI Cd群1251SI　Ka群0016SI　諏訪 SB114・SB101 Ae群1200SI下面　Ca群1938SI		4層以下
		中段階			弥生時代終末期	断上山（古） 4期	Ae群1200SI上面　Fc群3223SI　石座神社（市）SI1↑ Aa群1957SI　Ia群5807SI　南貝津 SB03・SB12 Gc群5785SI　Fa群3211SI　島田陣屋		3層
		新段階				5期	Bc群1861SI上面　Ca群1474SI　諏訪 SD01・SD04 Ec群3933SI　Hc群5545SI Ca群1929SI　Ec群3742SI↓		
200	庄内式	古段階	廻間Ⅱ式	0 1 2 3 4	古墳時代前期初頭	断上山（中） 6期	Db群4459SI　Fd群3747SI　南貝津 SB04 Ac群1464SI　Ac群1490SI　諏訪 SB014 Jb群3602SI　Jd群5500SI		2層
		中段階				7期	Gc群3622SI　Ga群1276SI　南貝津 SB10 Dc群3076SI　Ea群3404SI　諏訪 SB110 Fc群3388SI　Gc群5770SI↓　横山広畑		
250		新段階				8期	Dc群3005SI↑　Ce群3006SI　南貝津 SB19 Fc群3283SI　Ae群1224SI Ac群1454SI　Bb群1906SI		1層
	布留式	古段階	廻間Ⅲ式	1 2 3 4 1	古墳時代前期前半	断上山（新） 9期	Ac群1444SI↑　Bb群1922SI　南貝津 SZ01 Dc群3079SI　Df群3216SI　上ノ川 SB06 Dg群3121SI　Ka群0121SI　モリ下2410SI・2067SI		
300		中段階				10期	Cd群1331SI　Ad群1411SI　南貝津 SB15 Cd群1157SI　De群3931SI　モリ下3314SI・6792SI Df群3206SI　Cb群1176SI　宮沢 SB-10・SB-6		
					古墳時代前期後半	宮沢 （11期）		南貝津 SB21 宮沢 SB-7・SB-4	
350			松河戸Ⅰ式	1		（12期）		宮沢 SB-5・SB-1上部	

畿内庄内・布留式（西村 2008）／尾張（赤塚 1990・1994・1997・2002）／三河（鈴木 1996・1997）

参考文献

赤塚次郎1990「廻間式土器について」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集　財団法人愛知県埋蔵文化財センター
赤塚次郎1994「松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集　財団法人愛知県埋蔵文化財センター
赤塚次郎1997「廻間Ⅰ・Ⅱ式再論」『西上免遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第73集　財団法人愛知県埋蔵文化財センター
赤塚次郎2002「濃尾平野における弥生時代後期の土器編年」『八王子遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集　財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
大村直2004「山田橋遺跡群および市原台地周辺地域の後期弥生土器」『市原市山田橋大山台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第88集　財団法人市原市文化財センター
篠原和大2006「登呂式土器と雌鹿塚式土器―駿河湾周辺地域における弥生時代後期の地域色に関する予察―」『静岡県考古学研究』No.38　静岡県考古学会
鈴木敏則1996「三河の後期弥生土器の編年」『高井遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第26集　豊橋市教育委員会
鈴木敏則1997「三河･遠江から見た相模の後期弥生土器・前編」『西相模考古』第６号　西相模考古学会
中嶋郁夫1988「いわゆる「菊川式」と「飯田式」の再検討」『転機』２号　転機刊行会
西村歩2008「中河内地域の古式土師器編年と諸問題」『シンポジウム「邪馬台国時代の摂津・河内・和泉と大和」資料集』香芝市教育委員会・香芝市二上山博物館
早野浩二2013「「庄内式」の成立、「漆町４群」の画期と東海の土器編年」『東生』第２号　東日本古墳確立期土器検討会
古屋紀之2013「横浜市都筑区北川谷遺跡群における弥生時代後期～古墳時代前期の編年」『横浜市歴史博物館紀要』第17号　財団法人横浜市ふるさと歴史財団

遺跡文献

石座神社遺跡：新城市教育委員会2011『石座神社遺跡発掘調査報告書』
上ノ川遺跡：新城市教育委員会1999『上ノ川遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書第17集
雨谷遺跡：豊川市教育委員会1989『郷中・雨谷』
欠山遺跡：第３回東海埋蔵文化財研究会1986『欠山式土器とその前後』
亀塚遺跡：安城市教育委員会2007『亀塚遺跡II』安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第18集　安城市教育委員会
楠遺跡：新城市教育委員会1996『楠遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書X
高坂遺跡：財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2008『高坂遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第143集
境松遺跡：岩原剛2012「豊橋市境松遺跡SZ-1をめぐる評価―加飾壺・二重口縁壺・外来系土器を中心に―」三河考古学談話会定例会資料
島田陣屋遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1995『島田陣屋遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第58集
諏訪遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1989『諏訪遺跡・杉山端城跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第７集
高井遺跡：鈴木敏則1985「大清水遺跡の弥生土器―寄道式土器の再吟味―」『ホリデー考古』第３号　ホリデー考古刊行会／鈴木敏則1988「山中様式三河型（寄道様式）」『三河考古』創刊号　三河考古刊行会／豊橋市教育委員会1996『高井遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第26集／豊橋市教育委員会・株式会社イビソク2001『高井遺跡（II）・荒木２号墳・下角庵遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第57集
廻間遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集
南貝津遺跡：新城市教育委員会1989『南貝津遺跡』
宮沢遺跡：一宮町教育委員会1988『一宮東部地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II』／一宮町教育委員会1989『宮沢遺跡』
モリ下遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『モリ下遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第196集
横山広畑遺跡：新城市教育委員会2009『市内遺跡発掘調査報告書（II）』新城市埋蔵文化財調査報告書
吉竹遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『吉竹遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第191集

（８）弥生時代後期から古墳時代前期における竪穴建物の諸属性

はじめに

本節においては、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物 336 棟（新城市教育委員会調査の２棟を含む）の各属性を整理、分析する。

１）規模・主柱穴

長軸

長軸の計測が可能な竪穴建物は 274 棟がある。274 棟の長軸の平均値は 4.55m で、長軸の計測値によって示される竪穴建物の規模はその前後に正規分布を示す（第 89 図）。なお、長軸３mから６mの規模の竪穴建物が全体の約８割を占める。面積（長軸と短軸の計測値の積または長軸の２乗）の平均値は 21.0 ㎡で、最小が 3.4 ㎡（Ad 群 1495SI）、最大が 80.5 ㎡（Fb 群 3149SI）である。

主柱穴配置

主柱穴の有無の確認が可能な竪穴建物は 332 棟がある。主柱穴配置（「４本」）を確認した竪穴建物は、やや不確実な 37 棟（11.1％）を含めて 119 棟（35.8％）で、残りの 213 棟（64.2％）は主柱穴が認められない（「０本」）。

主柱穴配置と規模

主柱穴配置は規模と明確な相関が認められ、長軸 3.80 m以下の竪穴建物 82 棟中の 80 棟（97.6%）に主柱穴は認められず、長軸 6.00 m以上の竪穴建物 32 棟については、西向き斜面の Ae 群 1181SI（長軸 6.20 m）、Cc 群 1197SI（長軸 7.50 m）、Ca 群 1276SI（長軸 7.50m）を除いた 29 棟のいずれにも主柱穴配置を確認した（第 34 表）。これにより、

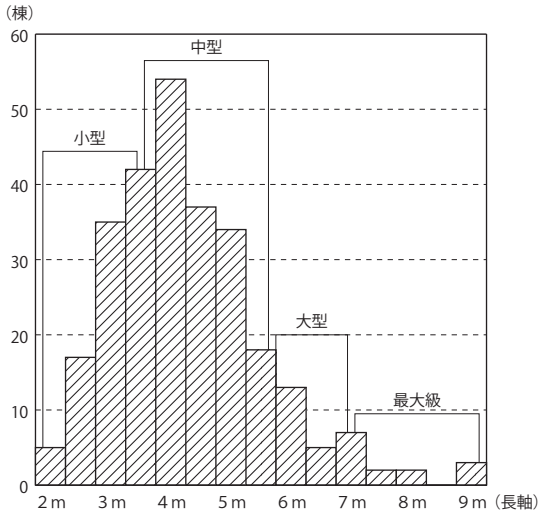
小型竪穴建物
大型竪穴建物

長軸 3.80 m以下を小型の竪穴建物、長軸 6.00 m以上を大型の竪穴建物、その中間を中型の竪穴建物として認識する。

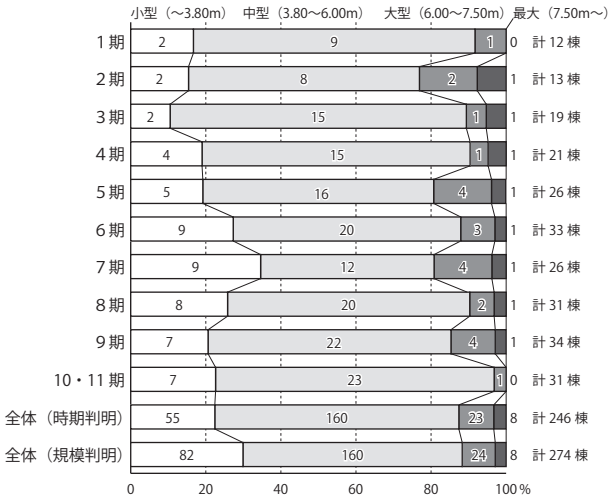
中型竪穴建物

長軸 3.80m 以上、6.00m 以下の中型の竪穴建物については、主柱穴配置が確認されるものと、確認されないものがほぼ同数を占める。中型の竪穴建物を規模によってさらに長軸 3.80 m以上 4.80 m以下の「中小型」、4.80 m以上 6.00 m以下の「中大型」に細分した結果、規模との一定の相関関係は認められるが、著しくは相違しない（第 34 表）。一方、竪穴建物の分布域と中型の竪穴建物の主柱穴配置の関係を示すと（第 35 表）、北東斜面と周辺地区のＪ群・Ｋ群・Ｌ群はいずれも主柱穴配置が認められず、西斜面下段のＡ

分布域との相関



第89図　規模（長軸）の度数分布



第90図　竪穴建物の規模による構成と時期の相関

群は主柱穴配置が認められない竪穴建物が多い。一方、平坦面中央のＦ群（73.7％）、平坦面北緩斜面のＥ群（80.0％）は主柱穴配置が確認されるものが多い。つまり、主柱穴配置の有無は竪穴建物の立地とも相関することが確かめられる。

第 34 表　主柱穴配置と規模（長軸）の相関

		0本		4本		合計
全体		213	64.2%	119	35.8%	332
小型	（長軸3.80m以下）	80	97.6%	2	2.4%	82
中型	（長軸3.80～6.00m）	78	48.8%	82	51.3%	160
中小型	（長軸3.80～4.80m）	48	53.9%	41	46.1%	89
中大型	（長軸4.80～6.00m）	30	42.3%	41	57.7%	71
大型	（長軸6.00m以上）	3	9.4%	29	90.6%	32
最大型	（長軸7.50m以上）	0	0.0%	8	100.0%	8

規模による構成

規模による竪穴建物の構成は、およそ小型が２割から３割、中型が６割から７割､大型が１割から２割で、各時期とも同様の構成で推移する（第 90 図）。ただ、７期（古墳時代前期初頭）は、小型と大型の比率がやや増加し、相対的に中型が少ない傾向を示す。

第 35 表　主柱穴配置と分布域の相関（中型竪穴建物）

		0本		4本		合計
A群	（西斜面下段）	15	65.2%	8	34.8%	23
B群	（北西斜面）	3	33.3%	6	66.7%	9
C群	（西斜面上段）	8	50.0%	8	50.0%	16
D群	（平坦面西緩斜面）	19	54.3%	16	45.7%	35
E群	（平坦面北緩斜面）	4	20.0%	16	80.0%	20
F群	（平坦面中央）	5	26.3%	14	73.7%	19
G群	（平坦面北東斜面）	6	60.0%	4	40.0%	10
H群	（平坦面南東斜面）	7	46.7%	8	53.3%	15
I群	（東斜面上段）	3	60.0%	2	40.0%	5
J･K･L群	（北東斜面・周辺地区）	8	100.0%	0	0.0%	8
合計		78	48.8%	82	51.3%	160

小型竪穴建物　主柱穴の有無（上屋の構造）を考慮して認識した長軸3.80m以下の小型竪穴建物は規模が判明する274棟中に82棟（29.9％）がある（第91図）。最小の竪穴建物は長軸2.10m、短軸1.60mのAd群1495SIであるが、地床炉の有無は不明である。長軸2.15m、短軸2.15mのEc群3947SIは床面のほぼ全面を調査したが、地床炉は検出されなかった。一方で、長軸2.25m、短軸2.00mの4790SIは明確に地床炉が検出されている。相対として小型竪穴建物に地床炉が不明確なものが多いが、顕著な傾向として指摘することは難しい。

最小

地床炉の有無

大型竪穴建物　前段の主柱穴の有無を考慮して、長軸6.00m以上の竪穴建物32棟を大型竪穴建物と認識したが、さらに、長軸7.50m以上（面積50㎡以上）、柱間4.0m以上の大型竪穴建物は８棟（Df群3261SI・3057SI、Ac群1455SI、Fa群3150SI、Ad群1464SI、Fc群3388SI、Fd群3145SI、Fb群3149SI）がある（第94図）。これらは主柱穴配置に加えて、全周する周溝等、一致する他の属性も多い。

Df 群 3261SI は２期、3261SI からの建て替え 3057SI は３期、Ac 群 1455SI は４期、Fa 群 3150SI は４期または５期、Ad 群 1464SI は６期、Fc 群 3388SI は７期、Fd 群 3145SI は８期、Fb 群 3149SI は９期で、各時期における最大規模の竪穴建物に相当する。これらの大型竪穴建物は集落の中心的な施設として機能した可能性がある。また、平坦面西緩斜面のＤ群、西向き斜面下段のＡ群から丘陵頂部平坦面中央のＦ群に移動し、Ｆ群に配置が固定化する傾向も認められる。

最大級の竪穴建物

最大規模の大型竪穴建物の平面形は後期（２・３期）の 3261SI･3057SI は隅円長方形（長短比 0.80 前後）、終末期から前期初頭（４期から７期）の 1455SI、3150SI、1464SI、3388SI は長方形または正方形（長短比 0.90 前後）､前期初頭から前期前半（８期から９期）の 3145SI、3149SI は角張った正方形（長短比 1.00 前後）に変化する。

平面形の変化

3149SI は各辺の周壁に壁柱穴をもつ壁立ち式の竪穴建物で、遺跡最大（長軸 9.10 m・短軸 8.85 m、柱間の長軸 5.00 m・同短軸 4.90 m）の大型竪穴建物である。一部の周壁

壁立ち式竪穴建物

に壁柱穴と思われる小柱穴が検出された Gb 群 3409SI（５期）、Ha 群 3791SI・3380SI（８・９期）、Gb 群 3407SI（10 期）も壁立ち式の竪穴建物の可能性がある。これらは 3149SI を含めて丘陵頂部の平坦面に分布し、各時期で最大、あるいはそれに次ぐ規模の竪穴建物として存在する。

２）拡張・建て替え

類型区分

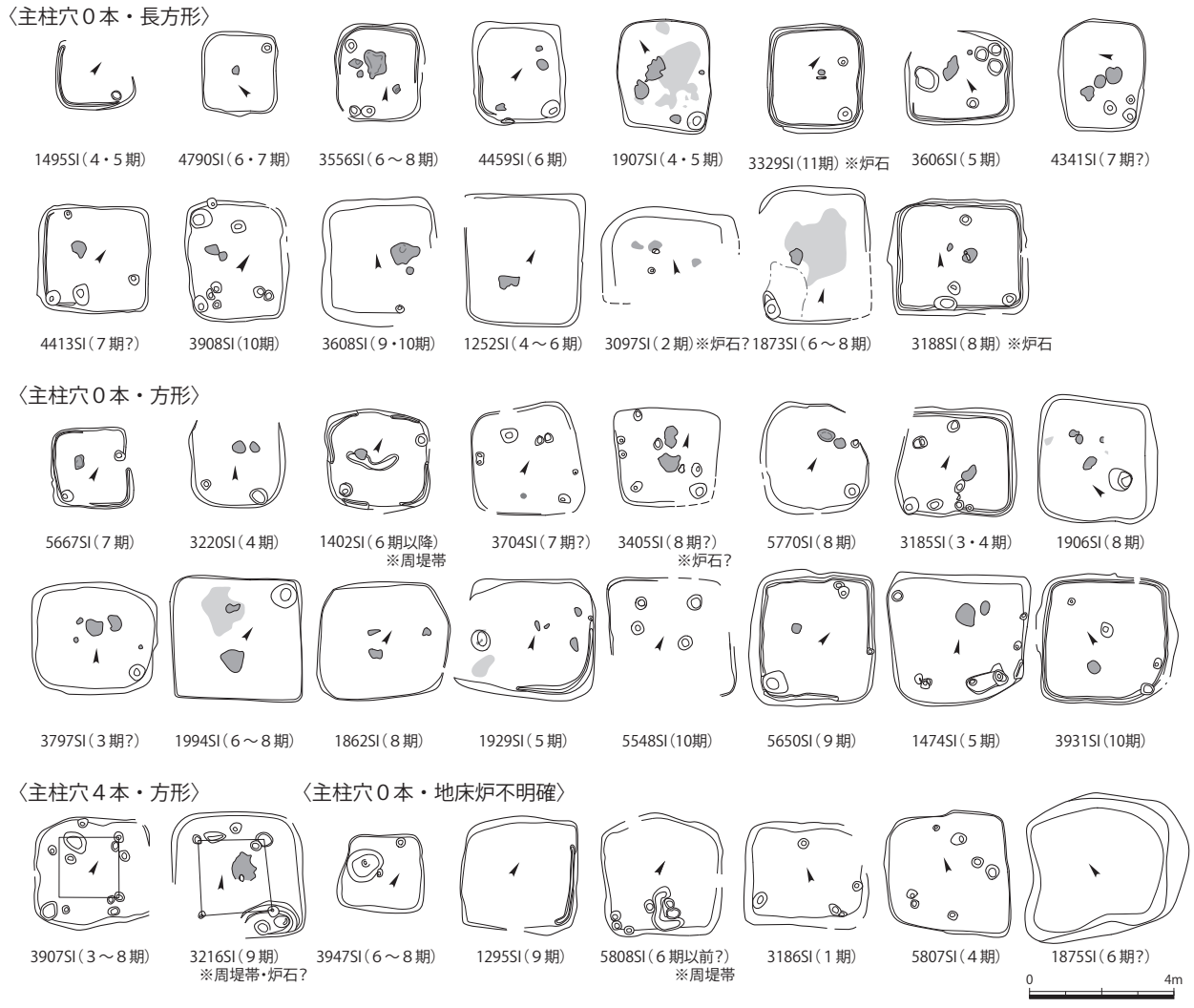
拡張・建て替えされた竪穴建物は 16 棟（１棟は２回の立て替え）がある。拡張・建て替えには、竪穴（掘り込み）を拡張する事例、竪穴を拡張せず、床面のみが再構築される事例がある。また、拡張・建て替えに伴い主柱穴配置を拡張する事例と、主柱穴配置を固定したままの事例がある。これらの造作に従って、拡張・建て替えを以下の４類型に分類した（第 95 図）。

3308SI・3261SI
2077SI・1967SI

Ａ類型　竪穴と主柱穴配置を拡張し、床面を再構築する造作（Ａ類型）として、Df群3308SI・3261SI（１・２期）、Ab群2077SI・1967SI（２・３期）の２例がある。なお、3261SIはさらに3057SIへの建て替えが認められる（後述のＣ類型）。

1270SI下面・上面
1930SI・1896SI
1732SI・1331SI

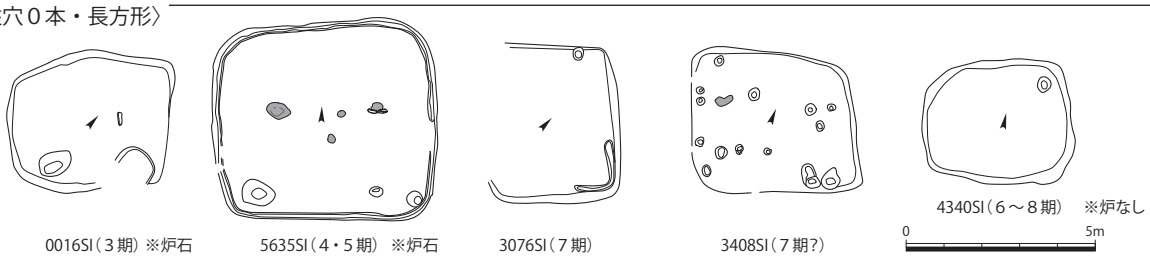
Ｂ類型　主柱穴配置を固定したまま竪穴を拡張し（主柱穴が確認されない竪穴建物を含む）、床面を再構築する造作（Ｂ類型）としては、Ae群1270SI下面・上面（６・７期）、Ba群1930SI・1896SI（８・９期）、Cd群1732SI・1331SI（９・10期）、Ea群



第91図　小型竪穴建物集成

〈主柱穴０本・長方形〉

（３期～８期）



0016SI（３期）※炉石　5635SI（４・５期）※炉石　3076SI（７期）　3408SI（７期?）　4340SI（６～８期）※炉なし

（８期～10期）

3669SI（８期）　5703SI（８期）　5909SI（９期）　3036SI（９・10期）　3651SI（10期）※炉石?　5547SI（10期）

〈主柱穴０本・方形〉

後期・終末期（３～５期）

1220SI（３期）　1991SI（４期）※炉石　5785SI（４期）※粘土　1140SI（４期）　3481SI（４・５期）　4360SI（５期?）

前期初頭・前期前半（６～10期）

3932SI（６期）　1196SI・1152SI（６・７期）※建て替え　1917SI（７期）　1454SI（８期）※炉石　4502SI（８期）　3029SI（８期）※炉石?

0121SI（９期）　4338SI（９期）　1872SI（９期）　1992SI（９・10期）　5633SI（10期）※炉石　4362SI（10期）

〈主柱穴４本・長方形〉

後期～前期初頭（３～６期）

3832SI（３期）　1861SI（４・５期）※建て替え　4174SI・4173SI（５・６期?）※拡張　3897SI・3306SI（５・６期）※拡張　3218SI（６期）

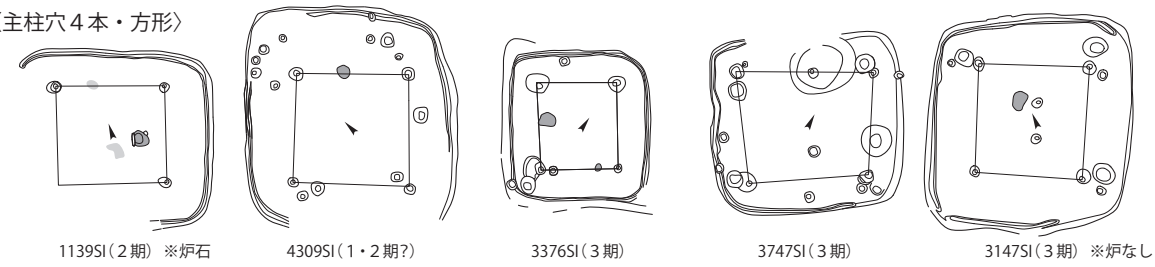
前期初頭・前半（７～10期）

3027SI（６・７期）※炉石　3283SI（８期）　1908SI（８期）※炉なし　1860SI（９・10期）　3378SI（11期）

第92図　中型竪穴建物集成　1

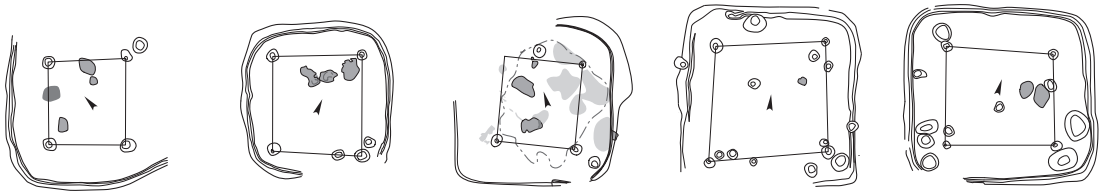
〈主柱穴４本・方形〉

後期（2・3期）

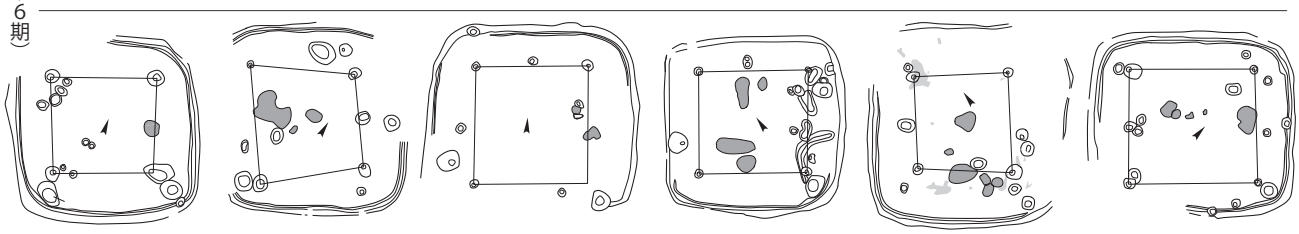


1139SI（２期）※炉石　4309SI（１・２期?）　3376SI（３期）　3747SI（３期）　3147SI（３期）※炉なし

終末期～前期初頭（4～6期）

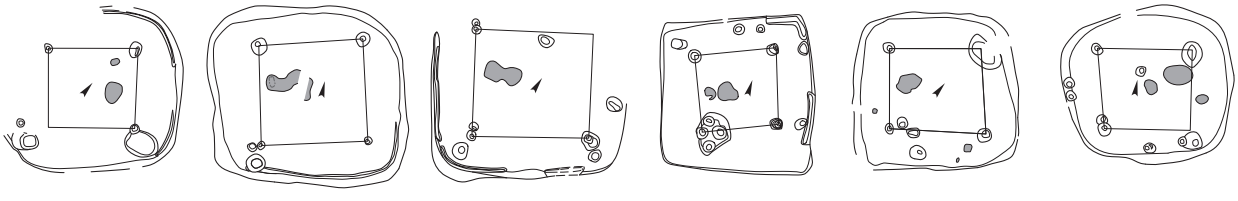


5705SI（１～４期）※粘土　5668SI（４期?）　1957SI（４期）※炉粘土　3211SI（４期）　3223SI（４期）

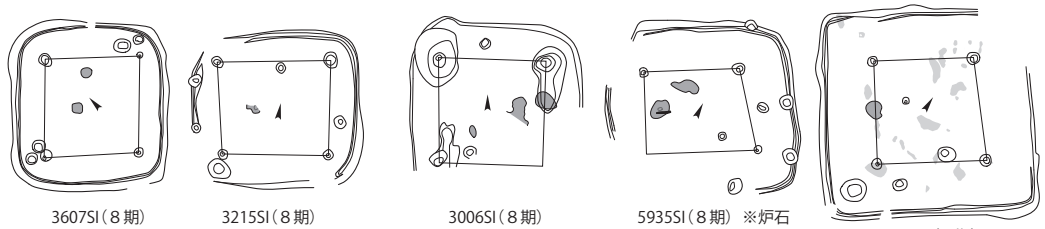


3004SI（５期）　3933SI（５期）　3375SI（５期）※炉石　3609SI（６期）※周堤帯　5649SI（６期）　3304SI（６期）

前期初頭（7・8期）

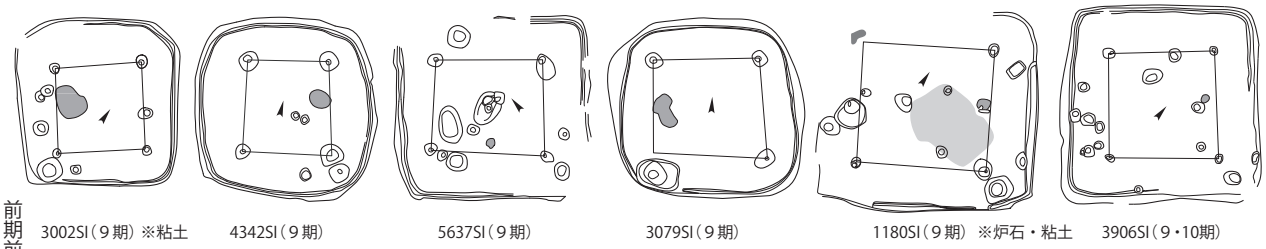


3205SI（７期）　3404SI（７期）　1410SI（７・８期）　1224SI（８期）　3711SI（８期?）　3005SI（８期）

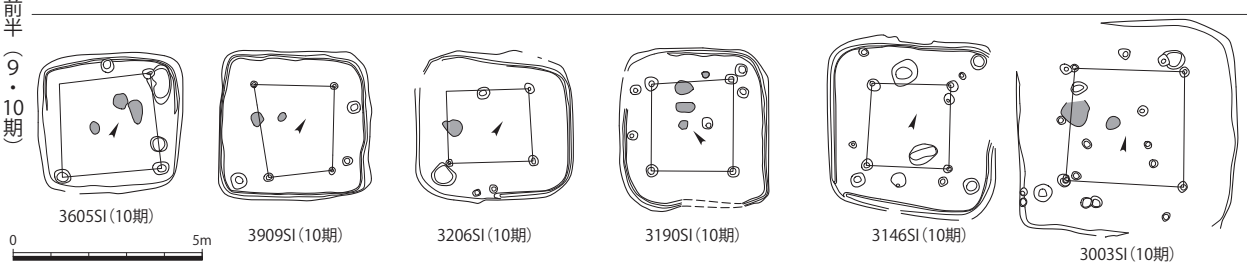


3607SI（８期）　3215SI（８期）　3006SI（８期）　5935SI（８期）※炉石　3743SI（８期）

前期前半（9・10期）



3002SI（９期）※粘土　4342SI（９期）　5637SI（９期）　3079SI（９期）　1180SI（９期）※炉石・粘土　3906SI（９・10期）



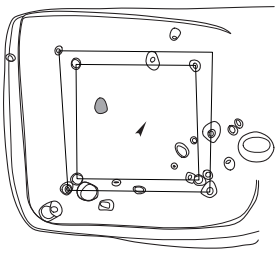
3605SI（10期）　3909SI（10期）　3206SI（10期）　3190SI（10期）　3146SI（10期）　3003SI（10期）

0　5m

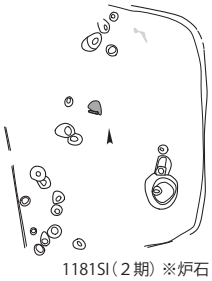
第93図　中型竪穴建物集成　2

〈大型〉　〈大型・主柱穴０本〉

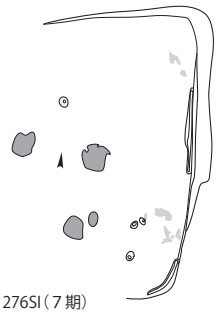
後期（２・３期）



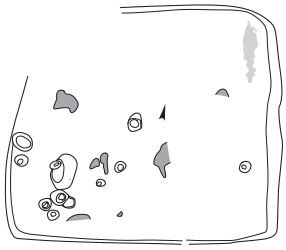
2077SI・1967SI（２・３期）※拡張



1181SI（２期）※炉石

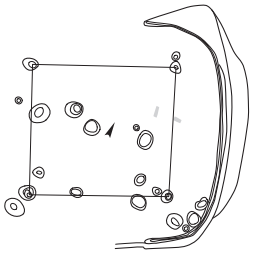


1276SI（７期）

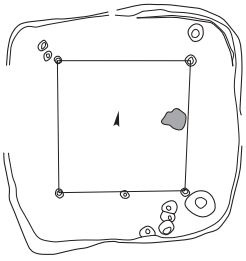


1197SI（９期）

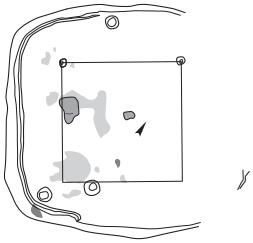
終末期（４・５期）



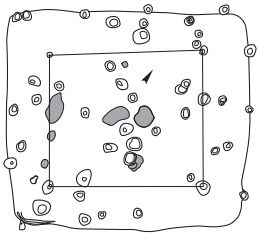
1253SI（４期）



4337SI（５期）

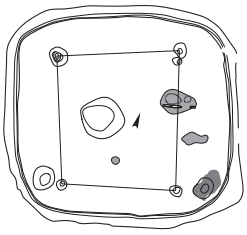


5545SI（５期）　※炉土器・粘土

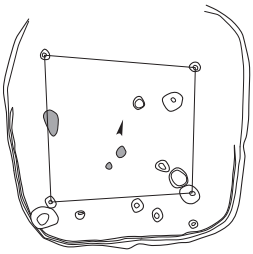


3409SI（５期）※壁立ち式？

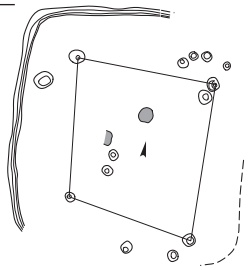
前期初頭（６・７期）



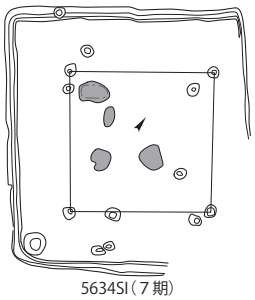
3742SI（６期）※炉石・粘土



4336SI（７期）

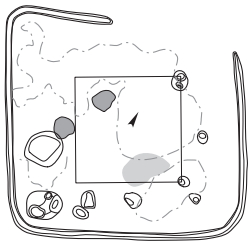


4311SI・4193SI（６・７期）

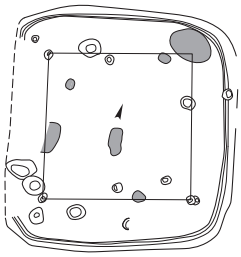


5634SI（７期）

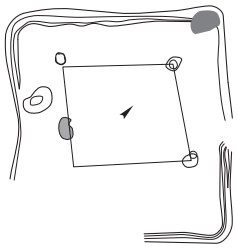
前期初頭・前半（８期以降）



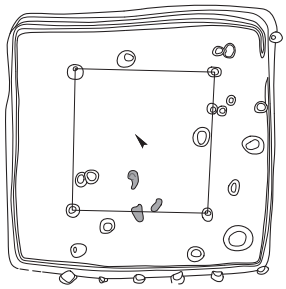
1277SI（８期）



3025SI（９期）

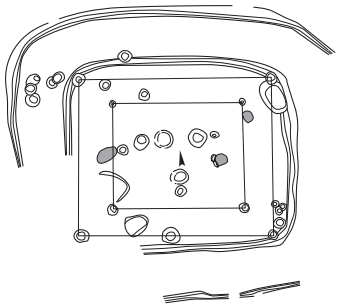


3121SI（９期）※粘土

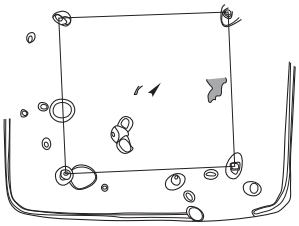


3791SI・3380SI（８・９期?）※拡張・壁立ち式？

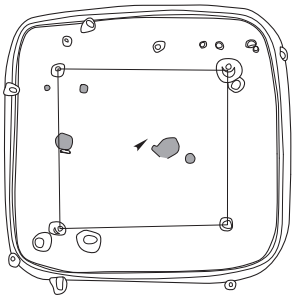
〈最大級〉



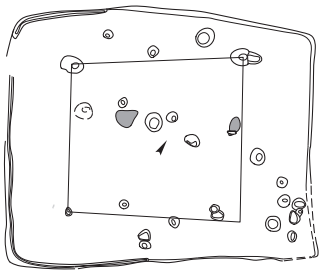
3308SI・3261SI・3057SI（１・２・３期）※拡張・建て替え



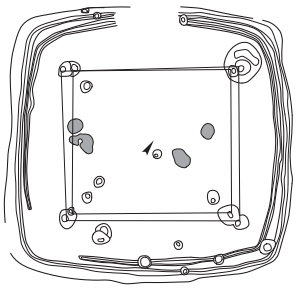
1455SI（４・５期）



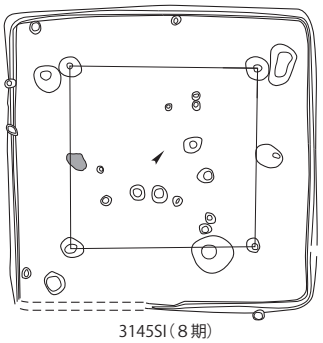
3150SI（５期?）　※炉石



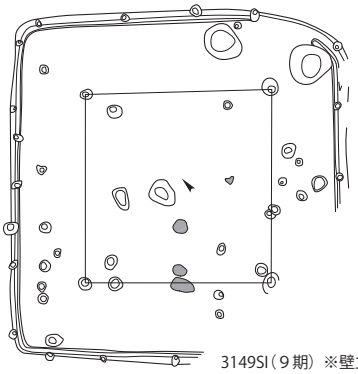
1464SI（６期）※炉石



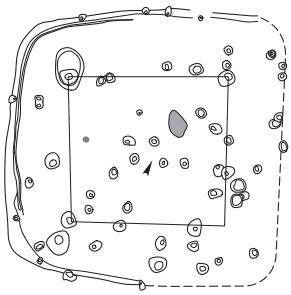
3623SI・3388SI（６・７期）※拡張



3145SI（８期）



3149SI（９期）※壁立ち式



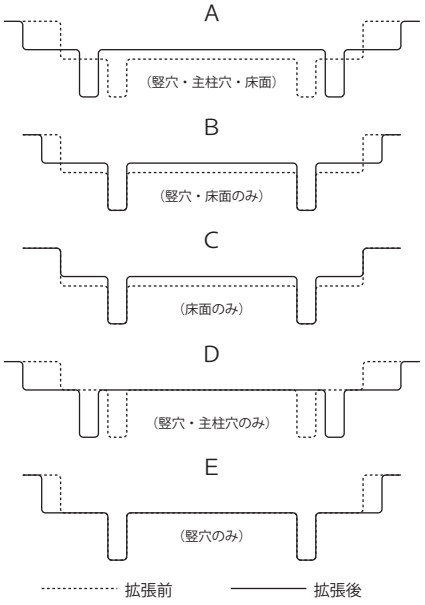
3407SI（10期）※壁立ち式？

0　5m

第94図　大型竪穴建物集成

3897SI・3306SI　3897SI・3306SI（５・６期）、Ec群4174SI・
4174SI・4173SI　4173SI（５・６期の可能性が高い）、Gc群
6054SI・3622SI　6054SI・3622SI（６・７期）の５例がある。

Ｃ類型　竖穴の平面形、主柱穴配置を変更せず（主柱穴が確認されない竖穴建物を含む）、床面
1200SI下面・上面　のみを再構築する造作（Ｃ類型）としては、Ae
1861SI下面・上面　群1200SI下面・上面（３・４期）、Bc群1861SI
1196SI・1152SI　下面・上面（４・５期）、Cd群1196SI・1152SI
3026SI下面・上面　（６・７期）、Ce群3026SI下面・上面（後期・
4311SI・4193SI　終末期）、Fa群4311SI・4193SI（６・７期）の
3308SI・3057SI　６例に加えて、Df群3308SIを拡張した3261SIの
5556SI・5546SI　3057SIへの建て替え（２・３期）がある。やや不明確であるが、Hc群5556SI・5546SI（１・２期の可能性が高い）もこの類型に含まれる可能性がある。



第95図　拡張・建て替え各類型模式図

3623SI・3388SI　Ｄ類型　床面は同一で、主柱穴配置と竖穴を拡張する造作（Ｄ類型）としては、Fc群3623SI・3388SI（６・７期）の１例がある。

3791SI・3380SI　Ｅ類型　床面は同一で、主柱穴を固定したまま竖穴を拡張する造作（Ｅ類型）としては、Ha群3791SI・3380SI（８・９期？）の１例がある。

Ａ類型は後期（１期から３期）の平面長方形の大型竖穴建物（Ａ群・Ｄ群中）に、Ｄ類型とＥ類型は前期初頭から前期前半（６期から９期）の平面方形の大型竖穴建物（Ｆ群・Ｈ群中）に相関する。一方、Ｂ類型は終末期から前期前半（５期から 10 期）に、Ｃ類型は後期から前期初頭（１期から７期）の中・小型の竖穴建物に相関する傾向がある。

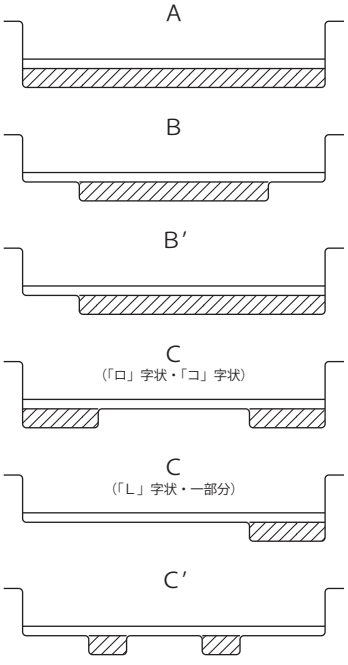
３）掘方

掘方は部分的なものも含めて 120 棟程度（全
類型区分　体の約 36％）に確認した。確認した掘方の形状、造作は以下の３類型に大別した（第 96・97 図）。

Ａ類型　竖穴建物の床下の全面を掘り下げる。
1852SI　10棟以上の竖穴建物に確認した。典型的な事例としてBd群1852SI（８期）がある。

Ｂ類型　竖穴建物の中央付近の床下を方形状に掘
1957SI・1991SI　り下げ、周壁沿いを段状に掘り残す。典型的な
4174SI　事例としてAa群1957SI（４期）、Ab群1991SI（４期）、Ec群4174SI（５期の可能性が高い）がある。また、いずれかの辺の周壁沿いを段状
3669SI　に掘り残すものもある（Ｂ’類型）。事例としては、Ea群3669SI（８期）等がある。

Ｃ類型　竖穴建物の周壁に沿って床下を溝状に掘り下げ、中央付近は台状に掘り残す。30棟から



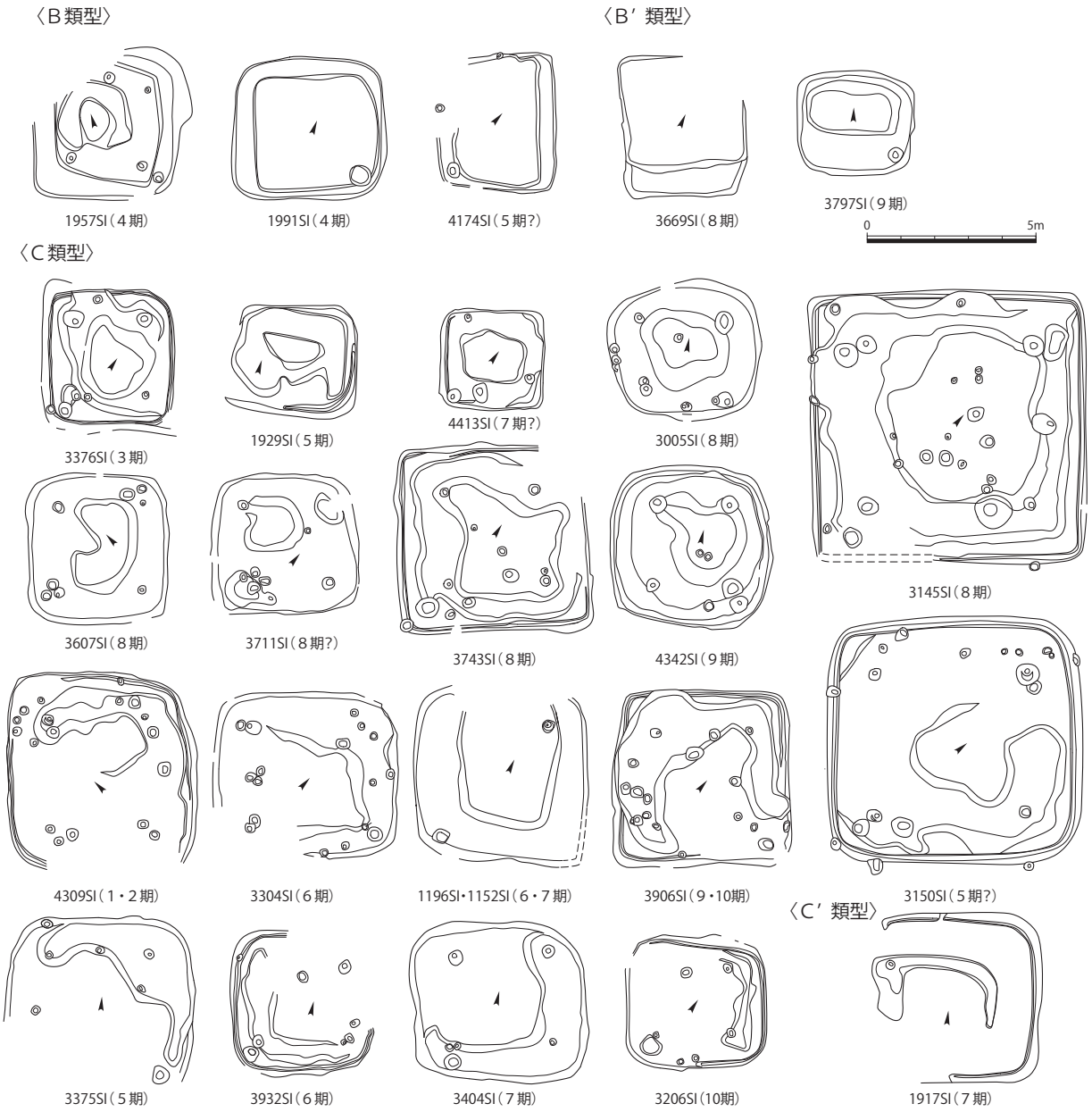
第96図　掘方各類型模式図

40棟の竪穴建物に確認した。溝は平面「ロ」字状、「コ」字状、「Ｌ」字状に掘り下げるものに加えて、いずれか一辺にのみ沿って、全体的または部分的に掘削するもの、隅付近のみを部分的に掘削するものがある。典型的な事例としてDc群3005SI（８期）、Dd群4342SI（９期）、Fa群3150SI（４・５期）、Ec群3906DI（９・10期）、Ea群3404SI（７期）がある。また、数は少ないが、竪穴建物の周壁沿いではなく、中央付近を溝状に掘り下げるものもある（C’類型）。事例としてはBd群1917SI（７期）がある。

3005SI・4342SI
3150SI・3906SI
3404SI
1917SI

上記の掘方の類型と竪穴建物の規模や構造、分布域、時期との明確な相関関係は認められないが、竪穴建物の中央付近の床下を方形状に掘り下げ、周壁沿いを段状に掘り残すB類型のAa群1957SIとAb群1991SIは、竪穴建物の規模や平面形が類似する。両者は近在し、時期も４期と推定されることから、構築に同じ集団が関与した可能性も想定される。

他との相関関係



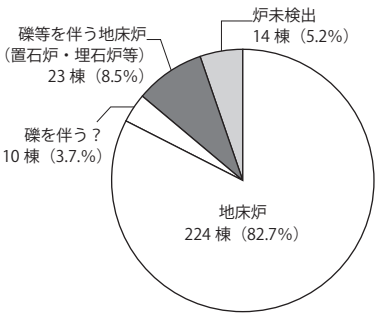
第97図　竪穴建物の掘方の諸例

4）地床炉

検出状況

地床炉は 257 棟（94.8%）の竪穴建物で確認した（第 98 図）。床面のほぼ全面を精査したにもかかわらず、炉が検出されなかった竪穴建物は 14 棟（5.2%）で、竪穴建物の一定の埋没後に掘削された竪穴状の掘り込み（再掘削）の可能性がある Ba 群 1931SI 等を除くと、Ec 群 3947SI（長軸 2.15 m・短軸 2.15 m）等、小型竪穴建物が多い（他に Ad 群 1295SI、Ec 群 3907SI、Fa 群 3186SI、Ha 群 3379SI、Ha 群 5808SI）。

小型竪穴建物

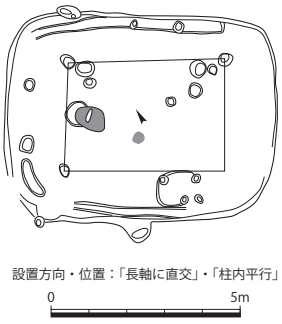


第98図　地床炉の検出状況

礫を伴う地床炉（置石・埋石炉）

地床炉に一石（または二石）の礫を置いた、あるいは埋めた炉（いわゆる「置石炉」、「埋石炉」）は 21 棟（7.7%）、（1 期を除く）各時期に 2 棟前後を確認した（第 36 表）。礫ではなく土器を埋めた地床炉（Hc 群 5545SI）、粘土を埋めた地床炉（Aa 群 1957SI）もある。地床炉との関係の判断が難しい例（単に地床炉付近で礫が検出された可能性がある例等）の 10 棟（3.7%）を含めたとしても、地床炉に礫が伴う比率は 1 割前後である。

土器・粘土



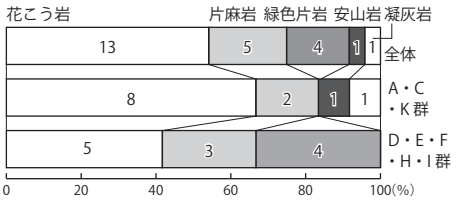
第99図　橋良遺跡SB11（中期後葉）

設置方向と位置

後期は 2 期の Ae 群 1181SI、Da 群 1139SI を典型として、礫は竪穴建物の長軸に対して直交方向に設置される。中期後葉の竪穴建物（第 99 図）からの連続性を示すものであろう。終末期以降は多くが竪穴建物の長軸に対して平行に設置される。位置についても、Da 群 1139SI が主柱穴間内、竪穴建物の中心からやや偏した中軸線上に設置される一方、

第 36 表　礫を伴う地床炉一覧

	群　遺構番号	時期	設置方向・位置	使用石材
11	Ab 1991SI	4 期	長軸に平行	花こう岩
23	Ac 1454SI	8 期	斜行	凝灰岩
31	Ad 1464SI	6 期	長軸に平行　・柱間直交	花こう岩
35	Ad 1329SI	7 期	長軸に平行　・柱間直交	花こう岩・安山岩
37	Ad 1330SI	6 期	平行	花こう岩・片麻岩
48	Ae 1200SI下面	3 期	平行	花こう岩
53	Ae 1181SI	2 期	長軸に直交	花こう岩
84	Cb 1349SI	（8 期）	平行	花こう岩
95	Cb 1180SI	9 期	長軸に平行　・柱間直交	片麻岩
118	Da 1139SI	2 期	長軸に直交　・柱内平行	緑色片岩
126	Da 3027SI	（6・7 期）	長軸に平行　・柱間直交	片麻岩
193	Eb 3375SI	5 期	長軸に平行　・柱間直交	花こう岩
213	Ec 3742SI	6 期	長軸に平行　・柱間直交	花こう岩・片麻岩
220	Fa 3188SI	8 期	長軸に直交	花こう岩
224	Fa 3150SI	（4・5 期）	長軸に平行　・柱間直交	緑色片岩
280	Ha 4991SI	5 期	長軸に平行　・柱間平行	緑色片岩
285	Ha 5635SI	（4・5 期）	長軸に平行	花こう岩
286	Ha 5633SI	10期	長軸に平行	片麻岩
289	Ha 3329SI	11期	長軸に直交	花こう岩
311	Ia 5935SI	8 期	長軸に平行　・柱間直交	緑色片岩
334	Kb 0016SI	3 期	長軸に直交	花こう岩
301	Hc 5545SI	5 期	長軸に平行　・柱間直交	（土器）
8	Aa 1957SI	4 期	平行　・柱内直交	（粘土）



第100図　地床炉に伴う礫の石材の比率

第 37 表　礫を伴う地床炉と分布域の相関

	地床炉	置石・埋石等	
A群（西斜面下段）	44	8	18.2%
B群（北西斜面）	17	0	0.0%
C群（西斜面上段）	30	2	6.7%
D群（平坦面西緩斜面）	58	2	3.4%
E群（平坦面北緩斜面）	24	2	8.3%
F群（平坦面中央）	29	2	6.9%
G群（平坦面北東斜面）	18	0	0.0%
H群（平坦面南東斜面）	29	5	17.2%
I群（東斜面上段）	11	1	9.1%
J群（北東斜面）	8	0	0.0%
K群（東部丘陵）	2	1	50.0%
L群（南東部丘陵）	1	0	0.0%
全体	271	23	8.5%

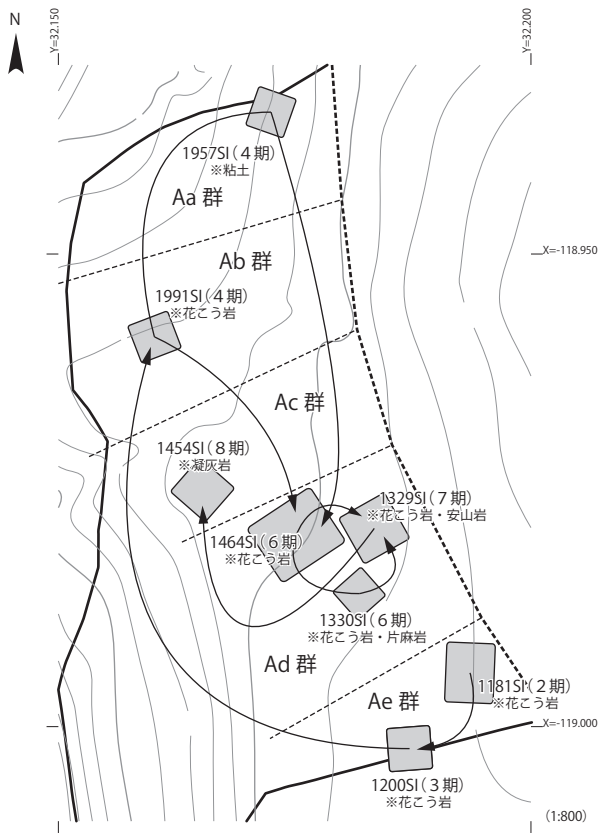
終末期以降は多くが主柱穴間（またはその近辺）の直交する方向に設置される。

使用石材

使用された礫の石材は13点の花こう岩（54.2％）が最も多く、以下、５点の片麻岩（20.8％）、４点の緑色片岩（16.7％）、１点の安山岩と凝灰岩（4.2％）がそれに続く。西向き斜面（A群・C群）は花こう岩が多くを占めるが、丘陵頂部の平坦面（D群・E群・F群・H群・I群）は花こう岩以外の石材が優勢である（第100図）。

分布

分布はA群が８棟（18.2％）、H群が５棟（17.2％）と多く、D群は２棟（3.4％）と少ない。B群、G群、J群は確認されない（第37表）。最も多いA群は２期のAe群1181SI（花こう岩）、３期のAe群1200SI下面（花こう岩）、４期のAb群1991SI（花こう岩）、Aa群1957SI（粘土）、６期のAd群1464SI（花こう岩）、Ad群1330SI（花こう岩・片麻岩）、７期のAd群1329SI（花こう岩・安山岩）、８期のAc群1454SI（凝灰岩）で礫を伴うことから、後期（２・３期）にAe群、終末期（４期）にAa・Ab群、前期初頭（６期から８期）にAc・Ad群に移動し、使用石材も変化することが確かめられる（第101図）。



第101図　竪穴建物A群における礫を伴う地床炉の動態

竪穴建物Ａ群

５）貯蔵穴

設置位置

貯蔵穴（様の土坑）は118棟の竪穴建物で126基を確認した。（竪穴建物の「主軸」方向に対応して呼称した）設置位置は北隅（「N」）が３基（2.4％）、北東隅（「NE」）が４基（3.2％）、東隅（「E」）が22基（17.5％）、南東隅（「SE」）が27基（21.4％）、南隅（「S」）が42基（33.3％）、南西隅（「SW」）が25基（19.8％）、西隅（「N」）が２基（1.6％）、北西隅（「NW」）が１基（0.8％）で、南西方向から東方向を明確に志向する。北東隅の２基、北隅の１基、北西隅の１基は１棟の竪穴建物に複数が設置されたもので、北隅とした3145SIの3779SKは遺構の形状から貯蔵穴ではない可能性、1994SIの2169SKは1993SIに伴う可能性、1199SIの1256SKは、竪穴建物自体が斜面を加工した段の可能性がある。西隅とした1253SIの1769SK、4362SIの4551SKは南西方向に近いことからしても、原則として西方向から北方向には設置されなかったと考えられる。遺跡において竪穴建物の方向（あるいは入口）に一定の法則性があったことを示唆するものであろう。

方向と法則性

遺跡文献

豊橋市教育委員会1994『橋良遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第18集

（9）弥生時代後期から古墳時代前期における集落の変遷

1）竪穴建物棟数の推移

各時期の集計

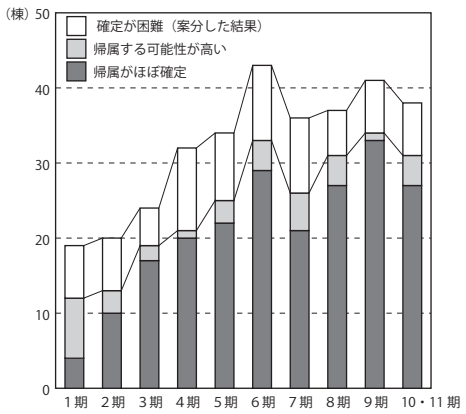
設定した時期区分に従って、拡張・建て替え等を含めた竪穴建物 336 棟（新城市教育委員会調査の２棟を含む）について、各時期の棟数を集計した（第 38 表）。出土土器や、竪穴の先後関係によって、時期をほぼ「確定」した竪穴建物は 210 棟、出土土器は少ないものの、先後関係、周囲の竪穴建物との位置関係から時期を「推定」した竪穴建物は 35 棟がある。一方、時期の確定が困難な竪穴建物は 80 棟、時期不明の竪穴建物は 11 棟がある。時期の確定が困難な竪穴建物については、帰属する可能性がある時期幅に応じて棟数を「案分」し、それを加算した棟数を各時期の「推定棟数」とした。

棟数の推移

各時期の竪穴建物を集計した結果、後期から終末期（１期から５期）にやや高い増加率で棟数は増加し、前期初頭から前期前半（６期から 10・11 期）は 40 棟前後（40± ４棟）で安定して推移することが示された（第 102 図）。先行する時期の竪穴建物の遺存状況、時期区分の前提としての土器編年の問題も考慮する必要があるが、傾向としては大過ないと思われる。

第 38 表　竪穴建物棟数の集計結果

	確定	推定	確定が困難	案分結果	推定棟数	増加率
1期	4	8	25	7	19	-
2期	10	3	25	7	20	5.3%
3期	17	2	21	5	24	20.0%
4期	20	1	36	11	32	33.3%
5期	22	3	27	9	34	6.3%
6期	29	4	29	10	39	14.7%
7期	21	5	28	10	36	-7.7%
8期	27	4	18	6	37	2.8%
9期	33	1	16	7	41	10.8%
10・11期	27	4	15	7	38	-7.3%
合計	210	35	240	79	324	（平均8.7%）
不明	11	-	-	-	総計335	



第102図　竪穴建物棟数の推移

2）集落の変遷

弥生時代後期（１期・２期・３期）―第103図

3308SI
3261SI
3057SI

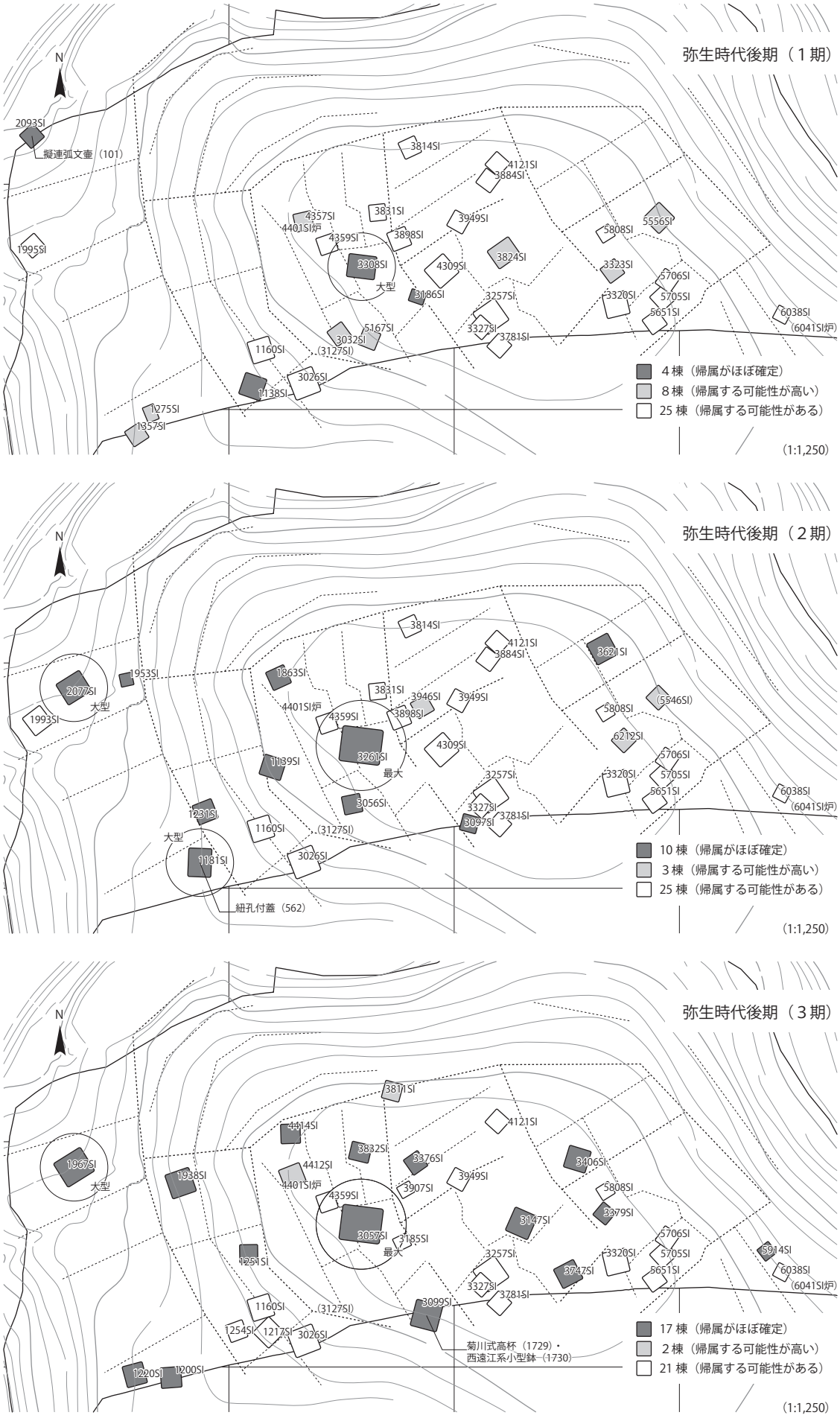
後期は１期に構築されたやや大型の Df 群 3308SI が２期に最大級の 3261SI に拡張され、３期にも同規模の 3057SI に立て替えられるように、平坦面西緩斜面を中心に集落が展開する。

2093SI

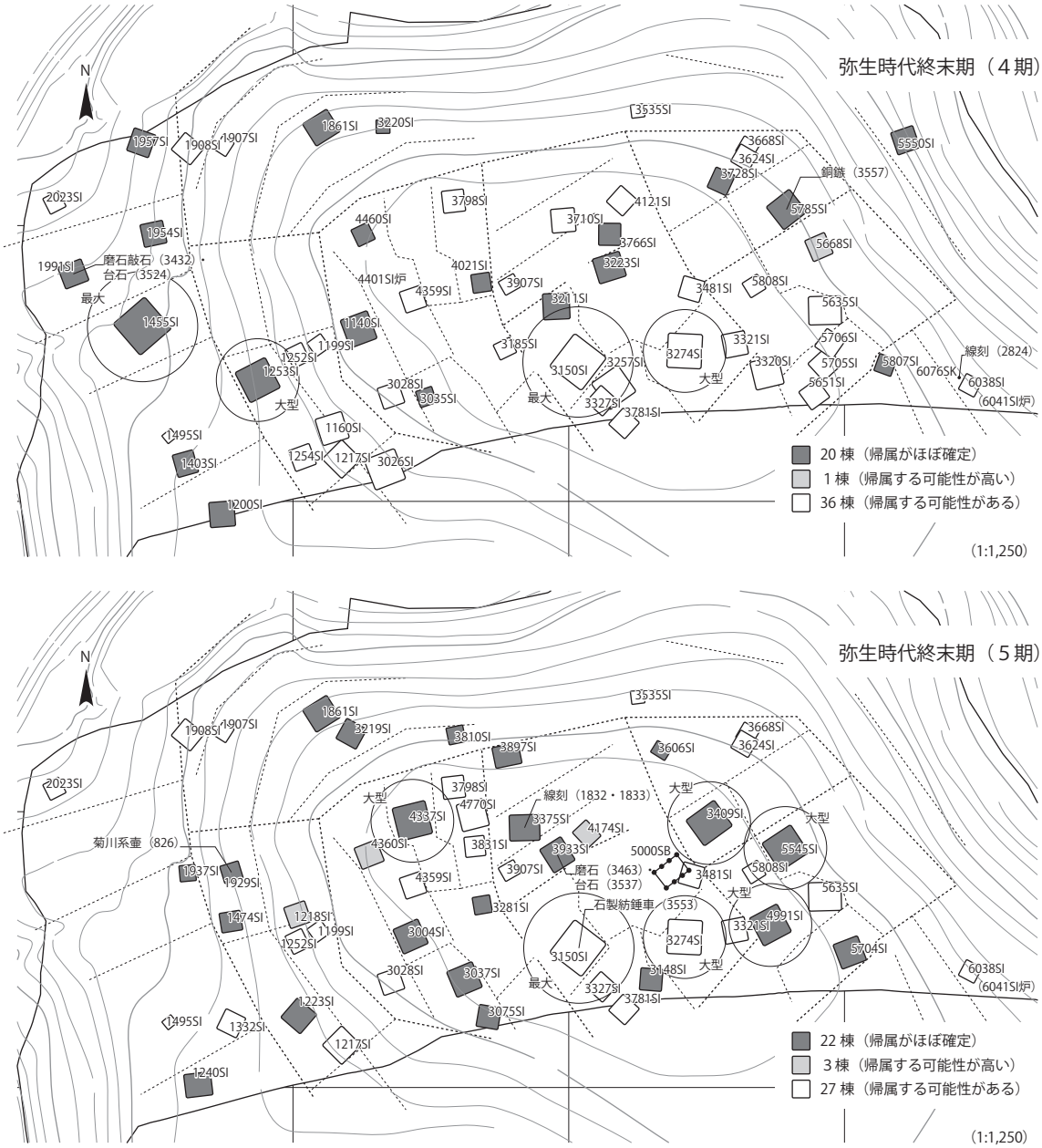
丘陵縁辺の Aa 群 2093SI は体部にハケを連弧文状に施した広口壺（101）の評価によっては、より以前に構築された可能性も考慮する必要がある。その他は、竪穴建物の著しい重複もあって、１期の遺構・遺物は断片的なものが多いが、当初の遺跡は丘陵の南西向きの緩斜面を中心とした比較的小規模な集落として形成されたと思われる。

2077SI・1181SI
1967SI
K群0016SI

２期は平坦面西緩斜面の大型竪穴建物 3261SI に加えて、西斜面下段にやや大型の Ab 群 2077SI、Ae 群 1181SI が構築され、Ab 群 2077SI は３期には 1967SI に拡張されるように、以後の丘陵平坦面と西斜面下段の大型竪穴建物をそれぞれ中心とした集落展開の方向性が顕在する。３期は丘陵頂部の平坦面のほぼ全域から北東斜面まで集落が拡大し、４



第103図　集落の変遷（弥生時代後期）



第104図　集落の変遷（弥生時代終末期）

L群SI 1（市）　期にかけて東部丘陵のK群（長頭貝津地区）から南部丘陵のL群（儀徳地区）の小規模な平坦面や緩斜面にまで竪穴建物が点在するようになる（Kb群0016SI・新城市教育委員会調査SI 1）。４期以降に形成される南貝津遺跡も含めて、断上山の一帯における集落の

3099SI　形成を３期から４期に想定することも可能であろう。３期のDg群3099SIに搬入された可能性が高い菊川式高杯（1729）と西遠江系小型鉢（1730）が共伴することは、集落拡大の一つの背景を示唆するものであろう。

弥生時代終末期（４・５期）—第104図

1455SI　４期は西斜面下段の大型竪穴建物が３期のAb群1967SIからAc群1455SIに移動し、

1253SI　同時期最大級となる。西斜面下段から北西斜面の各群にも竪穴建物が分布し、西斜面上段にはやや大型のCb群1253SIが構築される。また、丘陵頂部平坦面の中心を起点として、南西向きの緩斜面から北東斜面下段まで竪穴建物が列状に分布する傾向も読み取れる。

平坦面中央に分布する大型竪穴建物 Fa 群 3150SI は４期または５期と推定され、Fc 群中の大型掘立柱建物 5000SB は５期以前と推測されるが、平坦面中央における５期に帰属する竪穴建物が Fb 群 3148SI 以外に抽出されないことから、両者は５期に帰属する可能性がより高いと思われる。この想定は周辺に分布するやや大型の竪穴建物 Dd 群 4337SI、（壁立ち式の可能性がある）Gb 群 3409SI、Ha 群 4991SI、Hc 群 5545SI、４期または５期と推定される Fd 群 3274SI を含む平坦面中央を中心とした建物群の構成とも連関する。一方、西斜面下段における５期の大型竪穴建物は明確ではない。この時期まで竪穴建物は増加する傾向が継続し、それに伴って、平坦面中央を中心とした放射状、あるいは求心的な建物配置が志向、計画されたとも考えられる。

3150SI
5000SB
4337SI・3409SI
4991SI・5545SI
3274SI

同時期の特徴的な遺物としては、４期の Gc 群 5785SI に銅鏃（3557）、Ic 群 6076SK に線刻土器（2824）、５期の Ca 群 1929SI に菊川式（系）の有段口縁壺（826）、Eb 群 3375SI に線刻土器（1832・1833）がある。

特徴的な遺物

古墳時代前期初頭（６期・７期・８期）―第105図

６期には竪穴建物の棟数は最高の 40 棟前後にまで達したと推測され、それを示すように竪穴建物の分布域も北西斜面、北東斜面の下段にまで拡大する。最大級の竪穴建物は西斜面下段の Ad 群 1464SI で、平坦面中央にはやや大型の竪穴建物として Fa 群 4311SI と Fc 群 3623SI、その周辺には Ec 群 3742SI が分布する。７期には Fa 群 4311SI が 4193SI に建て替えられ、Fc 群 3623SI が 3388SI に拡張されたことは、平坦面中央に大型竪穴建物の分布が固定化したことを示す。

1464SI
4311SI・3263SI
3742SI

７期は拡張された Fc 群 3388SI が同時期の最大級で、隣接して立て替えされた Fa 群 4193SI、周囲に Dd 群 4336SI、Ha 群 5634SI がやや大型の竪穴建物として分布する。西斜面上段には Ca 群 1276SI が構築され、竪穴建物には鉄剣（3564）と小鉄片（3565）が伴っていたことからも、西斜面下段の中心的な建物として機能したことも推察される。

3388SI
4193SI・4336SI
5634SI・1276SI

丘陵東縁には布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物 6100SB が構築される。一方、丘陵西縁の Da 群は７期の竪穴建物が抽出されないことから、Da 群中に分布する掘立柱建物 4900SB、5200SB、5300SB を同時期の構築として想定することも不可能ではない。これらの掘立柱建物については、その構造、立地から、倉庫としての機能を想定するのが妥当であろう。とするなら、７期に丘陵縁辺に倉庫（群）が展開する集落景観を復原することも可能である。

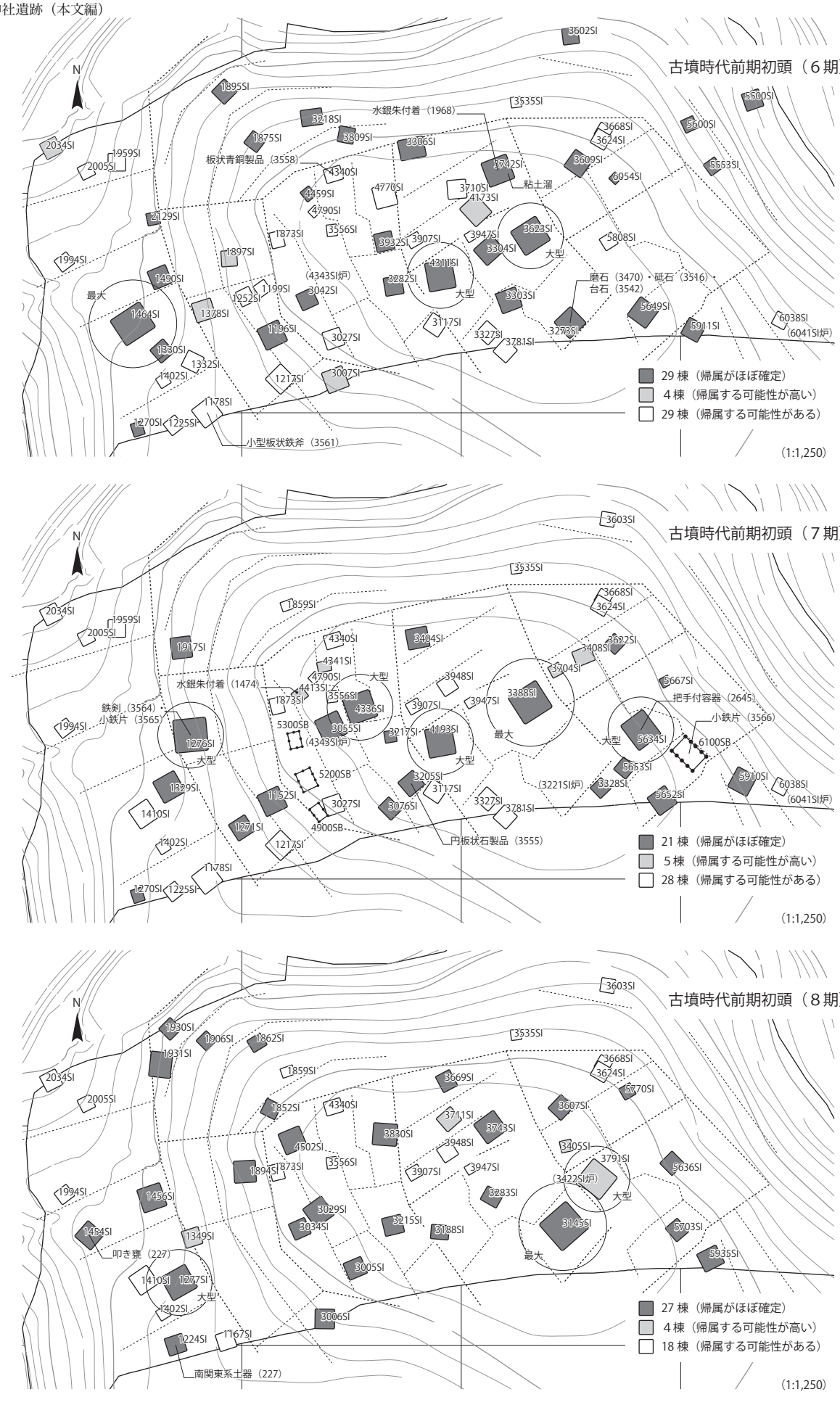
6100SB
掘立柱建物群

８期は平坦面中央に最大級の Fd 群 3145SI が構築され、やや近接するが、周辺のやや大型の竪穴建物 Ha 群 3791SI も同時期または近い時期の構築を推定した。西斜面下段にはやや大型の Ad 群 1277SI が構築される。また８期を前後して、埋没過程の斜面（1002SD）や竪穴建物（Gc 群 5770SI、Ac 群 1454SI、Ac 群 1456SI、Dc 群 3005SI、Fc 群 3283SI、Bb 群 1922SI 等）に大量の礫、土器が廃棄される。

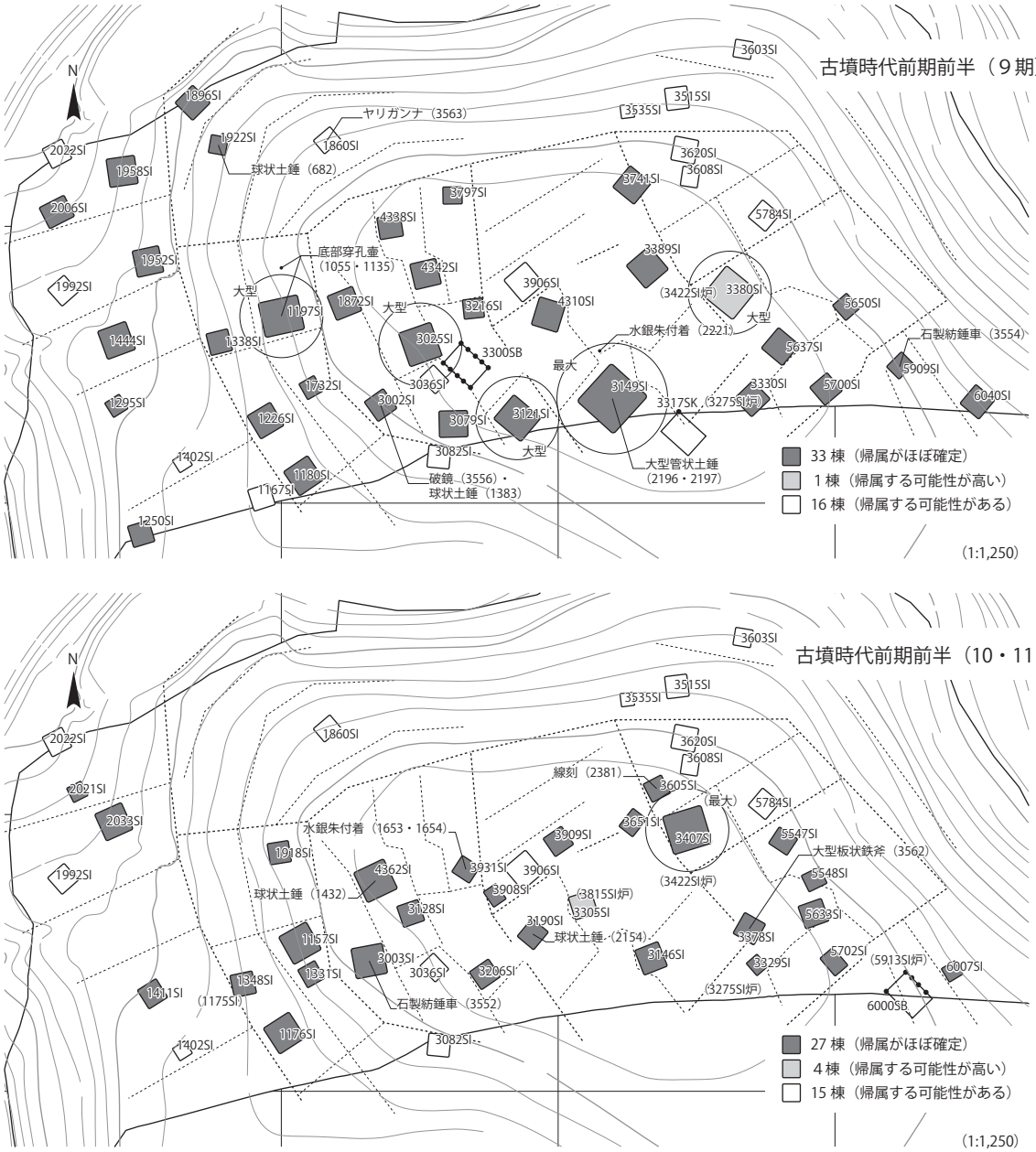
3145SI・3791SI
1277SI
礫、土器の廃棄

６期は Ae 群 1178SI に小型の板状鉄斧（3561）、Ec 群 3742SI に水銀朱付着土器（1968）、７期は Ca 群 1276SI に鉄剣（3564）と小鉄片（3565）、6100SB に小鉄片またはヤリガンナ（3566）が伴う。Db 群出土の水銀朱付着土器（1474）は確実ではないが、７期と推定される 4413SI に伴っていた可能性がある。前後する時期と推定される Dd 群 4340SI に銅鐸や銅鏃と原料を同じくする（あるいは銅鐸破片の可能性もある）板状青銅

特徴的な遺物



第105図　集落の変遷（古墳時代前期初頭）



第106図　集落の変遷（古墳時代前期前半）

製品（3558）が伴うこと、後続する前期前半にも水銀朱付着土器と鉄製品の出土が継続することからも、この時期、象徴的な財の入手に大きな変化が生じている可能性がある。　1454SI・1224SI
８期の Ac 群 1454SI に伴う叩き甕（227）、Ae 群 1224SI に伴う南関東系の（複合口縁）加飾広口壺（562）はこれらの財の広域流通、あるいは布掘り柱掘方をもつ掘立柱建物の移入に一定の示唆を与えるものであろう。

古墳時代前期前半（９・10期）―第106図

壁立ち式の Fb 群 3149SI が遺跡最大の竪穴建物として構築される。周辺にはやや大型の竪穴建物として、Db 群 3025SI、Dg 群 3121SI が分布し、Ha 群 3380SI も同時期の可能性が高い。西斜面上段にはやや大型の竪穴建物 Cc 群 1197SI が分布する。　3149SI　3025SI・3121SI　3380SI・1197SI

Df 群中の布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物 3300SB は８期の 3215SI に後出し、10期の 3206SI に近接することから、９・10 期間に存続したと理解されるが、前記の Db 群　3300SB

3025SI とも比較的近接することからも、短期間の存続を想定しない限り、時期の確定は難しい。なお、3300SB の方位（N-48° -E）が壁立ち式の大型竪穴建物 Fb 群 3149SI の方位（N-42.5° -W）とほぼ一致することは、両者の同時期または近接した時期の構築であることの傍証となる。また、3149SI の付近の土坑土坑 3317SK は大型掘立柱建物の柱穴の可能性がある。

3317SK

3002SI

破鏡（3556）が伴う Da 群 3002SI も同時期と推定される焼失竪穴建物で、大型建物にかかる集団の主宰による儀礼の可能性もある。その他の中小の竪穴建物は丘陵の西縁から斜面の各段に放射状に比較的整然と配置される。前段階に顕著に認められた土器廃棄も、建物配置の更新に伴う造成、整地に関係する可能性がある。

1197SI

その他、大型竪穴建物 1197SI 上層の覆土中と周辺の包含層中（1002SD 土器群）から焼成前底部穿孔壷（1055・1135）が出土している。古墳の築造との関係が注意される。

10・11 期は遺構の重複関係から 10 期に後出する時期として 11 期を見込んでいることからも、一時期の建物の棟数はより少ないと思われる。9 期には東部丘陵に Ka 群 0121SI が分布するが、10 期には分布域も縮小し、斜面の近辺にはほとんど遺構が分布しなくなる。

0121SI

3047SI

6000SB

最大級の竪穴建物は抽出されず、同時期最大の竪穴建物として、（壁立ち式の可能性がある）Gb 群 3407SI が平坦面中央の周辺に分布する。丘陵東縁の布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物 6000SB は建物の先後関係や位置関係から 10 期と推定したが、時期の確定はやはり難しい。

特徴的な遺物

前期初頭と同様、水銀朱付着土器（1653･1654）が De 群 3931SI、ヤリガンナ（3563）が Bc 群 1860SI、大型の板状鉄斧（3562）が Ha 群 3378SI に伴う。破鏡（3556）も含めてこれらは平坦面中央周辺に分布する中小の竪穴建物に伴う傾向がある。遺構には伴わないが、壁立ち式の大型竪穴建物 Fb 群 3149SI の周辺で出土した水銀朱付着土器（2221）も前期初頭から前期前半の所産と推定される。

生産用具

大型管状土錘

布留遺跡

寺野東遺跡

その他、壁立ち式の大型竪穴建物 3149SI 出土の大型管状土錘（2196・2197）に加えて、周辺の中小の竪穴建物に球状土錘（Bb 群 1922SI に 682、破鏡が伴う Da 群 3002SI に 1383、Db 群 4362SI に 1432、Fa 群 3190SI に 2154）、石製紡錘車（Ib 群 5909SI に 3554、Da 群 3003SI に 3552）といった生産用具が伴う傾向も同時に認められる。ただし、3149SI 出土の大型管状土錘（2197 の長さ 9.8cm･径 4.5 ～ 5.1cm、2196 の残存長 5.7cm･径 4.7cm）については、天理市布留遺跡の石列と埴輪によって区画された祭祀遺構に「筒形土製品」（長さ 9.5cm・径 4.0cm、長さ 7.8cm・径 3.4cm）が伴うこと、小山市寺野東遺跡の大型竪穴建物（長軸 8.0m、短軸 7.5m の SI033、遺跡最大、長軸 9.1 m、短軸 8.1 mの SI518）に同様の大型管状土錘（長さ 6.6cm・径 3.8cm、長さ 5.9cm・径 4.2cm）が伴うことも想起される（寺野東遺跡では他の遺構内外からも大型管状土錘、球状土錘が多数出土している）。今後、同時期の関連遺跡における類例の精査が必要である。

遺跡文献

寺野東遺跡：栃木県教育委員会・小山市教育委員会・財団法人栃木県文化振興事業団1997『寺野東遺跡 VI（古墳時代集落編）』栃木県埋蔵文化財調査報告第201集

布留遺跡：天理大学附属天理参考館1989『布留遺跡出土の埴輪』天理大学出版会／天理大学附属天理参考館1989『大布留遺跡展―物部氏の拠点集落を掘る―』（学）天理大学出版部

（10）弥生時代後期から古墳時代前期の特徴的な遺構と遺物

１）集落出土の破鏡（中国鏡）

出土破鏡の概要

破鏡（3556）は前期前半（９期）に帰属する竪穴建物 3002SI から出土した。詳細な出土状況は不明であるが、竪穴建物は長軸 4.35m、短軸 4.20m の規模で、焼失竪穴建物である。破鏡は漢鏡５期（岡村 1993）に帰属する方格規矩四神鏡を原鏡とする。

漢鏡４期

漢鏡５期

漢鏡６期

多紐無文鏡

東日本における集落出土の中国鏡の破鏡（第 39 表･第 107 図）としては、漢鏡４期（岡村 1984）に帰属する名古屋市高蔵遺跡の虺龍文鏡（１）、清須市朝日遺跡の虺龍文鏡（２）、羽咋市吉崎・次場遺跡の虺龍文鏡（３）、漢鏡５期に帰属する関市砂行遺跡の方格規矩四神鏡（４）、同大杉遺跡の内行花文鏡、南アルプス市長田口遺跡の内行花文鏡（７）、逗子市池子遺跡群の内行花文鏡（８）、山形市馬洗場Ｂ遺跡の内行花文鏡（９）、漢鏡６期前半に帰属する金沢市無量寺Ｂ遺跡の双頭龍文鏡（10）がある。これらに加えて、遼東半島から朝鮮半島の破鏡（再加工品）として、佐久市社宮司遺跡の多紐無文鏡（11）がある。これらは漢鏡４期に北部九州で創出された破鏡（の儀礼）が北陸地方や東海地方西部に及び、それに続いて漢鏡５期には破鏡がさらに東方に拡散する過程を示す（岡村 1999）。

砂行遺跡

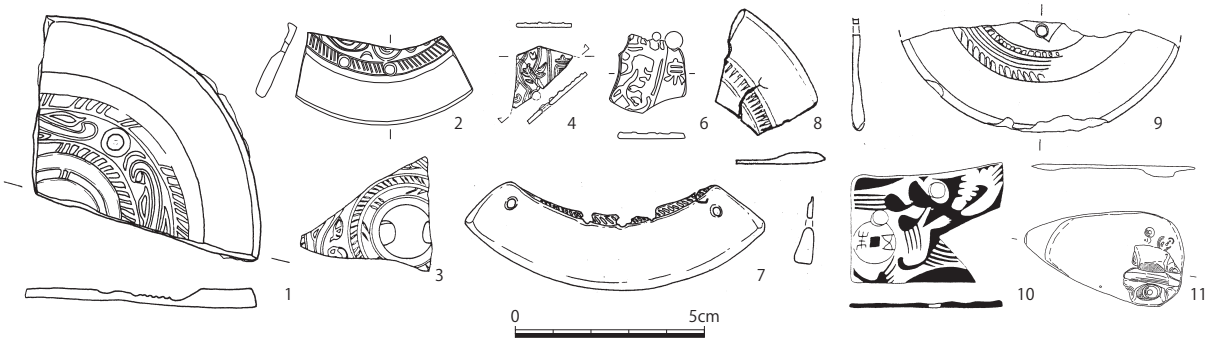
砂行遺跡は丘陵斜面に立地する集落で、破鏡は長軸 7.40m、短軸 5.65m 以上の大型竪穴建物（焼失建物）の床面から出土した。破鏡は方格規矩四神鏡ＶＡ式の内区の銘帯と四神の部分で、焼失竪穴建物における出土状況、鏡式が石座神社遺跡の破鏡に類似する。ただし、竪穴建物の時期は II―４期（廻間Ⅰ式２・３段階、石座神社遺跡５期に併行）で、９期の石座神社遺跡とは異なる。

池子遺跡群

池子遺跡群の破鏡は一辺 5.0 ｍの竪穴建物の覆土上層において大量の土器と鉄鏃２点（１点は短茎五角形式）、篦被付柳葉式銅鏃１点、有頭石錘１点を伴って出土している。共伴する土器は古墳時代前期後半に対応する。

第 39 表　東日本における集落出土の破鏡（舶載鏡）一覧

	遺跡名	所在	遺構	鏡種		文献
1	高蔵遺跡	愛知県名古屋市	第34次土坑SK44	虺龍文鏡	漢鏡４期	名古屋市教育委員会2003
2	朝日遺跡	愛知県清須市	99Ab区土坑SK01	虺龍文鏡	漢鏡４期	愛知県埋蔵文化財センター2007
3	吉崎・次場遺跡	石川県羽咋市	V―８号土坑上面	虺龍文鏡	漢鏡４期	石川県立埋蔵文化財センター1988
4	砂行遺跡	岐阜県関市	竪穴建物SBE01	方格規矩四神鏡	漢鏡５期	岐阜県文化財保護センター2000
5	大杉遺跡	岐阜県関市	竪穴建物覆土上層	内行花文鏡	漢鏡５期	
6	石座神社遺跡	愛知県新城市	竪穴建物3002SI	方格規矩四神鏡	漢鏡５期	愛知県埋蔵文化財センター2015
7	長田口遺跡	山梨県南アルプス市	５号溝状遺構（近世）	内行花文鏡	漢鏡５期	山梨県教育委員会1993
8	池子遺跡群	神奈川県逗子市	第２号竪穴住居址	内行花文鏡	漢鏡５期	神奈川県立埋蔵文化財センター1994
9	馬洗場Ｂ遺跡	山形県山形市	竪穴建物覆土	内行花文鏡	漢鏡５期	高橋2003
10	無量寺Ｂ遺跡	石川県金沢市	第３次ＢII区１号溝	双頭龍文鏡	漢鏡６期前半	金沢市教育委員会1986
11	社宮司遺跡	長野県佐久市	土器内に埋納	多紐無文鏡	遼東・朝鮮半島	柳田2012・小林2013



第107図　東日本における集落出土の破鏡（中国鏡）一覧

大杉遺跡
馬洗場Ｂ遺跡
長田口遺跡
特徴的な建物

また、大杉遺跡は竪穴建物の覆土上層からの出土で、遺跡では「田」字形の総柱建物が検出されている。馬洗場Ｂ遺跡の破鏡は竪穴建物の覆土中からの出土で、近隣の長表遺跡では近接棟持柱建物が検出されている（植松 2004）。長田口遺跡の破鏡は後世の遺構に混入して出土したが、遺跡では弥生時代後期後半から古墳時代初頭の長軸 12.0m、短軸 8.0m の大型竪穴建物を含めて、長軸８m 以上の大型竪穴建物が７棟（全体の 30.4％）検出されている。石座神社遺跡を含めたこれらの事例は漢鏡５期における破鏡の東方への拡散と特徴的な建物、大型建物を含む集落構成が相関していた可能性を示す。

２）鉄製品

器種
吉竹遺跡
上ノ川遺跡

鉄製品は古墳時代前期初頭から前期前半（６期から 10 期）の遺構から、小型の板状鉄斧（3561）、大型の板状鉄斧（3562）、ヤリガンナ（3563）、鉄剣（3564）、小鉄片（3565・3566）が出土した。同時期の集落遺跡出土の鉄製品としては器種、数量が比較的多い点は特筆される。近隣の吉竹遺跡における無茎三角形式の鉄鏃と袋状鉄斧、上ノ川遺跡における定角式鉄鏃の出土（第 108 図）も含め、小地域における鉄製品の流通・消費形態の具体相を示す資料体として一定の評価も可能である。

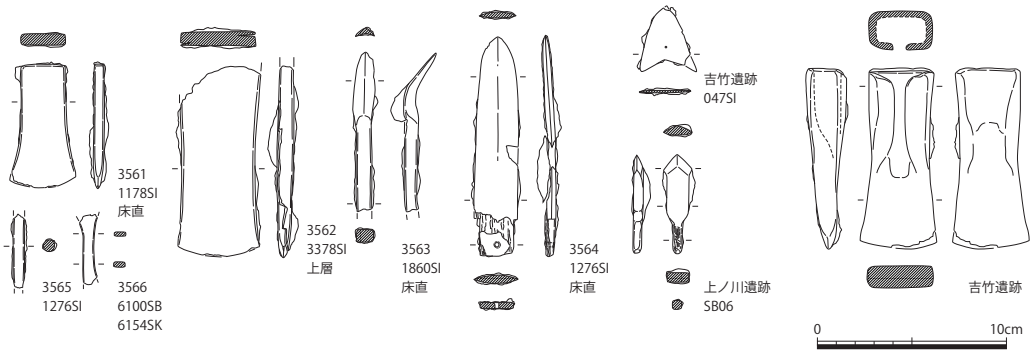
吉竹遺跡の鉄鏃は竪穴建物 047SI 出土で、弥生時代後期（石座神社遺跡３期）に帰属する。鏃身が 1.5mm とかなり薄く、他のほとんどの無茎鉄鏃と同様に鏨切りによる切断のみで製作されていることを示す（村上 1998）。対して、石座神社遺跡の断面円形、薄板状の小鉄片が鍛打による鉄器製作の素材、半製品または製作切片である可能性を想定するなら（松木 1999）、弥生時代後期から古墳時代前期初頭にかけて、鏨切りによる切断を主体とする技術体系から、鍛打による整形を取り入れた技術体系に推移したことを類推することも可能となる。さらに、古墳時代前期前半（９期）に帰属する上ノ川遺跡の定角式鉄鏃はより高度な製作技術を必要とする立体的な造形で、同時期、列島の広域に分布する。

鉄剣の分布

鉄剣は伊勢湾沿岸において分布が希薄とされる一方で（豊島 2005）、東遠江地域においては森町文殊堂遺跡ＭＣ群土坑墓ＭSF23・ＭＩ群土坑墓ＭSF70・ＭＯ群遺構外、磐田市梵天遺跡Ｈ地点墓・Ｉ地点墓、同竹之内原１号墓における出土が知られている。なお、文殊堂遺跡ＭＣ群土坑墓の鉄剣は鹿角製把を装着する鉄剣の西限を示す。

集落出土の鉄剣

石座神社遺跡は菊川式を含む遠江系土器が比較的多く抽出されること、伊勢湾沿岸に鉄剣が希薄であることから、出土した鉄剣は、東遠江地域との関連も類推されるが、鉄剣の出土状況は大きく異なる。また、鹿角製把の分布域に含まれないことも注意される。一方、



第108図　石座神社遺跡・周辺遺跡出土鉄製品

北部九州周辺地域以外の集落における鉄剣の出土例は、北陸地方の遺跡（金沢市塚崎遺跡、同西念・南新保遺跡、同岩出うわの遺跡）が知られる程度で、同地方においては「終末期」に墳墓に副葬される武器の主体が素環刀剣に置換することに伴い、集落における鉄剣の出土が顕在することが指摘されている（佐々木・林 2001）。

浪ノ上１号墳

これに関連して想起されるのが豊橋市浪ノ上１号墳と副葬された素環頭鉄剣である。舶載素環頭鉄刀の再加工品である素環頭鉄剣は、永平寺町乃木山古墳、福井市塚越古墳に副葬された例が知られる程度で、特徴的な墳丘と副葬品には共通する要素が多い。

いずれにせよ、石座神社遺跡周辺における鉄製品の出土によって、当地域における鉄器製作の技術的展開、広域流通、集落と墳墓における取り扱いの意味等を考察する多くの端緒が得られたことは特筆に値する。

３）大型建物（壁立ち式大型竪穴建物と布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物）

大型竪穴建物
前通遺跡

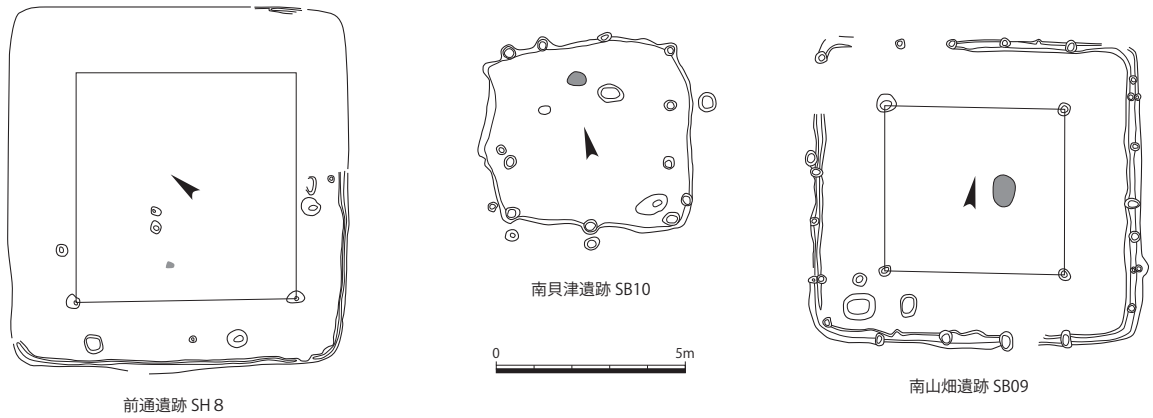
豊川流域における弥生時代後期から古墳時代前期の最大の竪穴建物は前通遺跡 SH8 で長軸 9.3m、短軸 8.8m を計測する（第 109 図）。長軸 9.10 m、短軸 8.85m を計測する石座神社遺跡 3149SI は同等の規模（柱間は前者が 5.8 m、後者が長軸 5.00m、短軸 4.90m で前者が大きい）で、各隅が角張った（丸みがない）正方形の平面形も類似する。前通遺跡 SH ８は終末期（石座神社遺跡４期）に対応し、終末期以降、石座神社遺跡に出現する平面正方形の大型竪穴建物の消長とも関連する。

壁立ち式竪穴建物
南貝津遺跡
浪ノ上遺跡

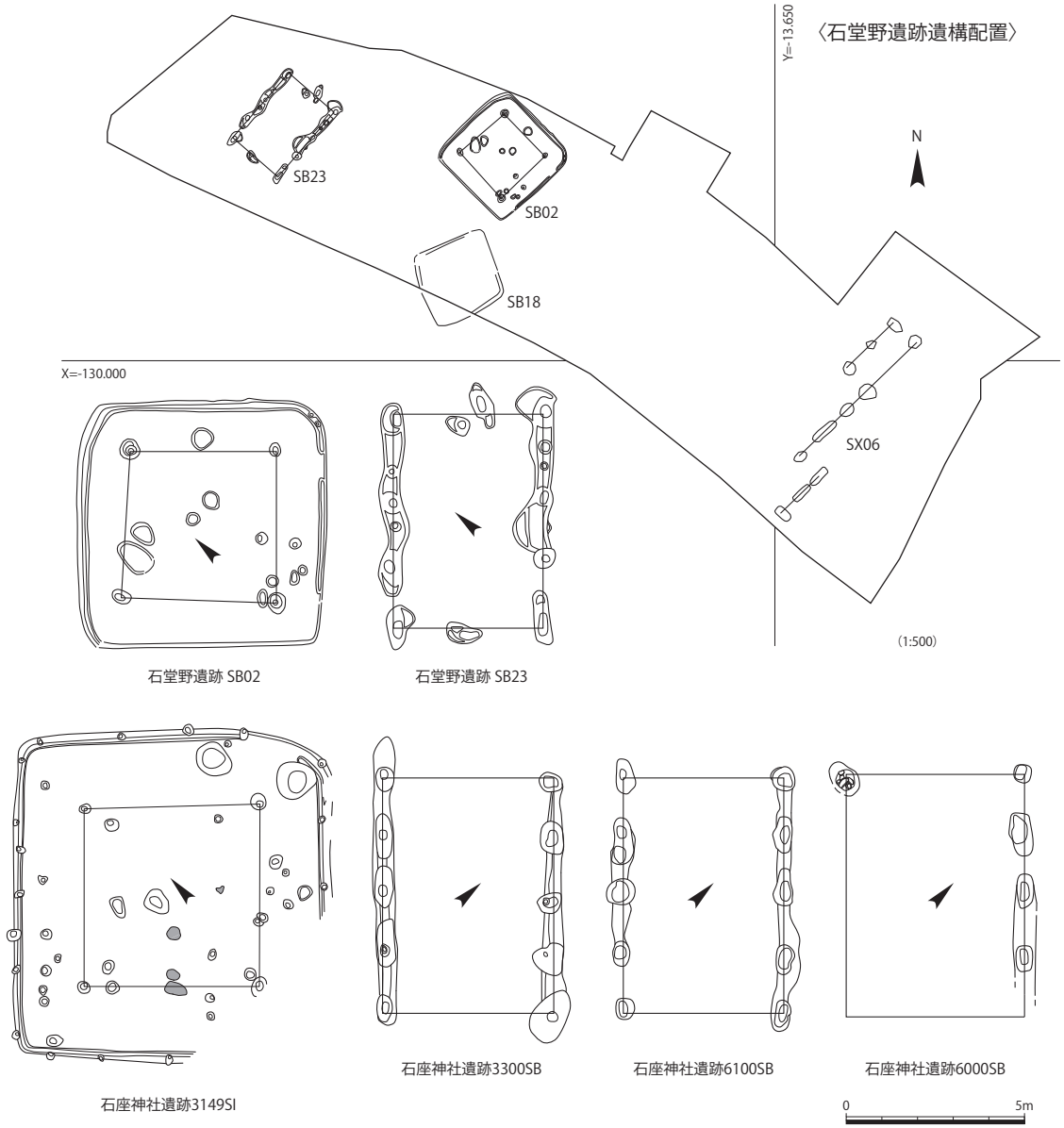
3149SI は周壁に壁柱穴をもつ壁立ち式の竪穴建物で、遺跡では他に壁立ち式の可能性がある竪穴建物として、3409SI（５期）、3791SI・3380SI（８・９期の可能性が高い）、3407SI（10 期）がある。壁立ち式の竪穴建物は、石座神社遺跡と同一丘陵上に立地する南貝津遺跡で１棟（SB10）、豊川流域においては浪ノ上遺跡で２棟（C区 SB16・B区 SB3）が確認されている（第 109 図）。南貝津遺跡 SB10 は長軸 5.2m、短軸 4.7m で７期に対応する。浪ノ上遺跡C区 SB16 は長軸 4.8m、短軸 4.6m、B区 SB3 は長軸 4.7m、短軸 4.6m でいずれも８期に対応する。石座神社遺跡 3149SI と異なり、これらの竪穴建物の規模はいずれも中型の竪穴建物に対応する。

西三河地域
高橋遺跡

また、壁立ち式の竪穴建物は、西三河地域で比較的多く確認されている（豊田市高橋遺跡で８棟、同南山畑遺跡で２棟、同栃原遺跡で１棟、第 109 図）。いずれも長軸６～８m



第109図　三河地域の大型竪穴建物と壁立ち式竪穴建物



第110図　石堂野遺跡と石座神社遺跡の大型建物

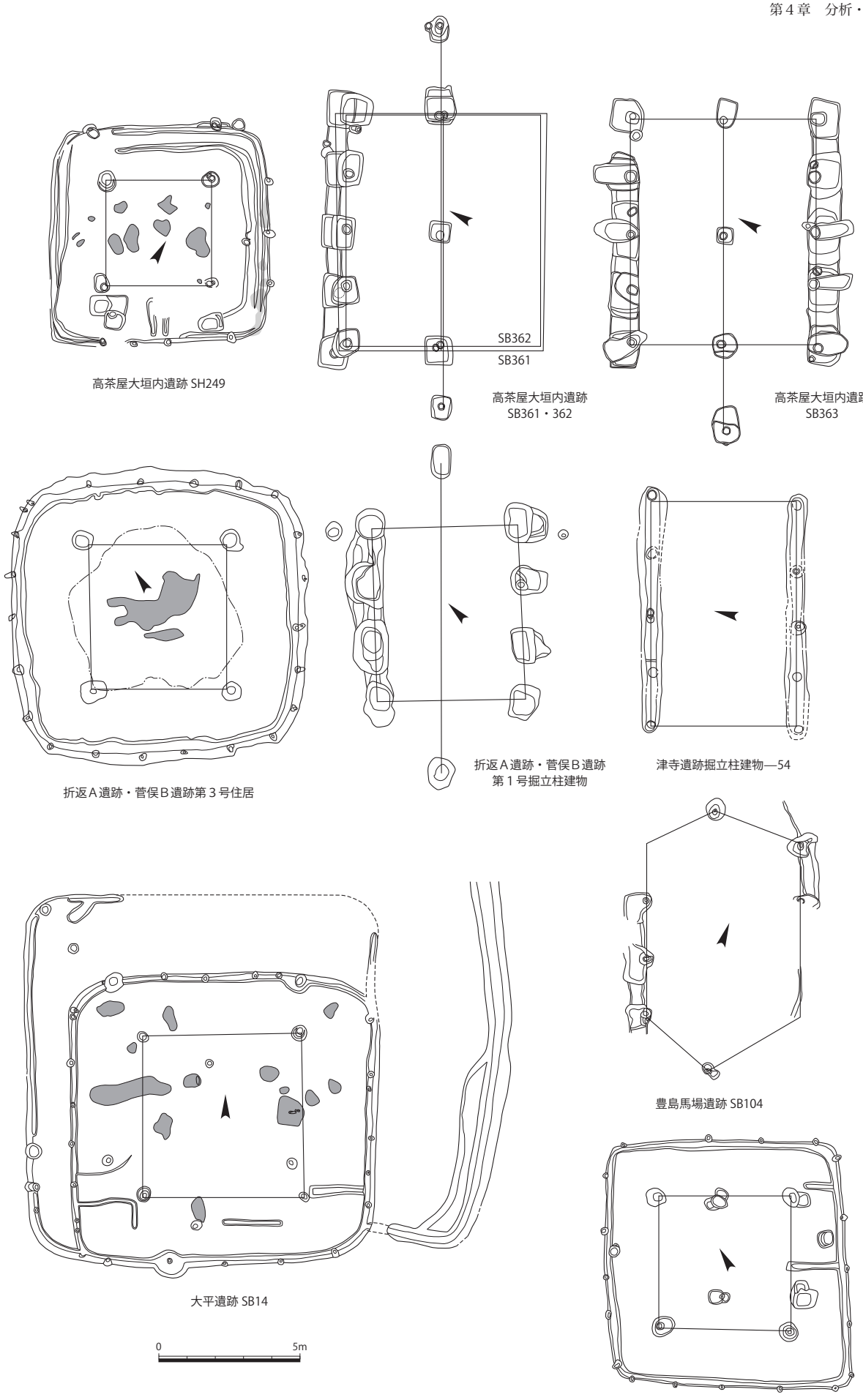
の大型竪穴建物で、後期から終末期の例が多いが、高橋遺跡では古墳時代中期、奈良時代の例も知られている。

布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物

前述の壁立ち式の大型竪穴建物に加えて、布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物として、3300SB、6100SB、6000SB の３棟を確認した。前節において示したように、3300SB は９期（から 10 期）に構築されたことが推測され、壁立ち式の大型竪穴建物 3149SI と同時に併存した可能性がある（第 110 図）。

布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物と壁立ち式の大型竪穴建物

布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物と前述の壁立ち式の大型竪穴建物によって集落の中心施設が構成される遺跡の例として津市高茶屋大垣内遺跡、いわき市折返Ａ遺跡・菅俣Ｂ遺跡がある（第 111 図）。これらの遺跡においては柵列や板塀等による方形の区画施設も確認されている。また、方形区画に布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物が伴う例として岡山市津寺遺跡、東京都北区豊島馬場遺跡等、方形区画に壁立ち式の大型竪穴建物が伴う例



第111図　「方形区画」に伴う大型建物

石堂野遺跡

として浜松市大平遺跡、矢板市堀越遺跡等がある（第 111 図）。なお、豊川市石堂野遺跡は前期初頭（７・８期）に対応する長軸 7.0m、短軸 6.9 mの大型竪穴建物 SB02（方位 N-46° -W）と、桁行４間（または３間）・6.0m、梁行１間（または２間）・4.2m の布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物 SB23（方位 N-49° -W）、柱穴列 SX06（方位 N-46° -W）

方形区画

による類似した構成を示す可能性がある（第 110 図）。これらの例から、布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物、（壁立ち式の）大型竪穴建物の両者、またはいずれかが集落の中心施設を構成し、それらに方形区画を伴うことも多いことが知られるが、石座神社遺跡は大型建物を区画する施設を認めることが難しい。

布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物 3300SB（・6100SB・6000SB）の規模と構造は、折返Ａ遺跡・菅俣Ｂ遺跡の棟持柱をもつ第１号掘立柱建物、津寺遺跡掘立柱建物―54、

折返Ａ遺跡・菅俣Ｂ遺跡

石堂野遺跡 SB23 に類似する（第 110・111 図）。折返Ａ遺跡・菅俣Ｂ遺跡第１号掘立柱建物は、桁行３間・6.2m、梁行１間・5.2m で規模が近似し、梁間の柱間が広い点が

石堂野遺跡

3300SB と類似するが、側柱の妻側外に棟持柱を有する点が異なる。石堂野遺跡 SB23 の

津寺遺跡

両妻側の柱穴も検出された位置から、棟持柱の可能性がある。津寺遺跡掘立柱建物―54 は、桁行４間・8.1m、梁間１間・5.2m で同じく規模が近似し、梁間の柱間が広く棟持柱の有無が明瞭でない点が 3300SB に類似する。

高茶屋大垣内遺跡

高茶屋大垣内遺跡の布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物 SB361・SB362・SB363 は、梁間が２間（以上）で、片側にのみ独立棟持柱を伴う点が異なる。規模も SB361 が桁行４間・8.2m、梁行２間以上・5.4m 以上、SB362 が桁行４間・8.3m、梁行２間・５m 以上、SB363 が桁行４間・８m、梁行２間・6.6m で、石座神社遺跡 3300SB 等と比較してより長大である。

折返Ａ遺跡・

壁立ち式の大型竪穴建物として例示した折返Ａ遺跡・菅俣Ｂ遺跡の第３号住居は一辺

菅俣Ｂ遺跡

10.5m の大型竪穴建物、高茶屋大垣内遺跡 SH249 は、遺跡最大、一辺 7.5m の大型竪穴

高茶屋大垣内遺跡

建物、大平遺跡 SB14B は長軸 13.2 m、短軸 12.4 mの大型竪穴建物 SB14A が立て替えにより長軸 10.8 m、短軸 10.4 mに縮小したもので、堀越遺跡大型建物は長軸 8.8m、短

大平遺跡

堀越遺跡

軸 8.6m の規模である（第 111 図）。いずれも各遺跡における最大級の規模の建物で、中心施設を構成する建物として明確であることが特徴である。

参考文献

植松暁彦2004「長表遺跡の古墳時代前期の棟持柱建物跡について」『研究紀要』第２号　山形県埋蔵文化財センター
岡村秀典1984「前漢境の編年と様式」『史林』第67巻第５号　史学研究会
岡村秀典1993「後漢鏡の編年」『国立歴史民俗博物館研究報告』第55集　国立歴史民俗博物館
岡村秀典1999『三角縁神獣鏡の時代』吉川弘文館
岡村秀典2011「青谷上寺地遺跡出土の漢鏡」『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告６　金属器』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告39　鳥取県埋蔵文化財センター
佐々木勝・林大智2001「北陸南西部地域における弥生時代の鉄製品」『補遺編』石川県考古資料調査・集成事業報告書　石川考古学研究会
豊島直博2005『弥生時代の鉄製刀剣』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
松木武彦1999「岡山地域における弥生時代鉄鏃の展開」『古代吉備』第21集　古代吉備研究会
村上恭通1998『倭人と鉄の考古学』青木書店

遺跡文献

朝日遺跡：財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2007『朝日遺跡VII』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第138集
池子遺跡群：神奈川県立埋蔵文化財センター1994『池子遺跡群Ⅰ』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告27
石堂野遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1987『石堂野遺跡』財団法人愛知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第１集
岩出うわの遺跡：佐々木勝・林大智2001「北陸南西部地域における弥生時代の鉄製品」『補遺編』石川県考古資料調査・集成事業報告書　石川考古学研究会
上ノ川遺跡：新城市教育委員会1999『上ノ川遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書17
馬洗場Ｂ遺跡：高橋敏2003「最北の破鏡―鏡片分布から見た古墳出現期の動態（予察）―」『研究紀要』創刊号　山形県埋蔵文化財センター
大平遺跡：財団法人浜松市文化協会1992『佐鳴湖西岸遺跡群』
長田口遺跡：山梨県教育委員会1993『長田口遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第82集
折返Ａ遺跡・菅俣Ｂ遺跡：いわき市教育委員会・財団法人いわき市教育文化事業団2003『折返A遺跡・菅俣B遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第95冊
西念・南新保遺跡：金沢市教育委員会1989『金沢市西念・南新保遺跡II』
社宮司遺跡：柳田康雄2012「銅鏡」『東日本の弥生時代青銅器祭祀の研究』雄山閣／小林青樹2013「戈形の象徴性」『栃木史学』第27号　国学院大学栃木短大史学会
砂行遺跡：財団法人岐阜県文化財保護センター2000『砂行遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第65集
高蔵遺跡：名古屋市教育委員会2003『埋蔵文化財調査報告書46　高蔵遺跡（第34次・第39次）』名古屋市文化財調査報告60
高茶屋大垣内遺跡：三重県埋蔵文化財センター2000『高茶屋大垣内遺跡（第３・４次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財調査報告184
高橋遺跡：堀克彦1997「豊田市高橋遺跡における集落の変遷」『三河考古』第10号　三河考古学談話会
竹之内原１号墓：磐田市教育委員会1992『竹之内１号墓遺跡』
塚越古墳：福井市立郷土歴史博物館・小羽山墳墓群研究会2010『小羽山墳墓群の研究』福井市立郷土歴史博物館研究報告
塚崎遺跡：石川県教育委員会1976『北陸自動車道関係埋蔵文化財調査報告書II』／佐々木勝・林大智2001「北陸南西部地域における弥生時代の鉄製品」『補遺編』石川県考古資料調査・集成事業報告書　石川考古学研究会
津寺遺跡：岡山県教育委員会・岡山県古代吉備文化財センター1998『津寺遺跡５』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告127
豊島馬場遺跡：東京都北区教育委員会1999『豊島馬場遺跡II』北区埋蔵文化財調査報告第25集
栃原遺跡：豊田市教育委員会2010『栃原遺跡』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第43集
浪ノ上遺跡・浪ノ上１号墳：豊橋市教育委員会1982「浪ノ上遺跡範囲確認調査」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第３集』／豊橋市教育委員会2009『浪ノ上Ⅰ』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第100集／豊橋市教育委員会2010『浪ノ上II』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第112集
乃木山古墳：まつおか古代フェスティバル実行委員会『発掘された北陸の古墳報告会資料集』
堀越遺跡：栃木県教育委員会・財団法人とちぎ生涯学習文化財団『堀越遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第287集
梵天遺跡：磐田市教育委員会2003『県道浜松袋井線緊急地方道道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
前通遺跡：豊川市教育委員会1991『前通遺跡』
南貝津遺跡：新城市教育委員会1989『南貝津遺跡』
南山畑遺跡：豊田市教育委員会1999『南山畑遺跡』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
無量寺Ｂ遺跡：金沢市教育委員会1986『金沢市文化財紀要』59
文殊堂遺跡：財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2006『森町円田丘陵の遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第167集
吉竹遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『吉竹遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告第191集
吉崎・次場遺跡：石川県立埋蔵文化財センター1988『吉崎・次場遺跡』

（11）古代・中近世の遺構と遺物

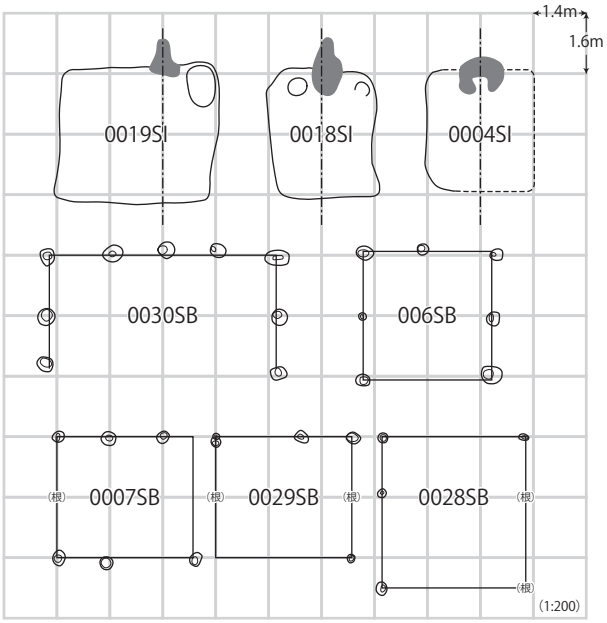
1）奈良時代の建物の規格

竪穴建物の規格

竪穴建物 0019SI、0018SI は南北辺の長さが 1：1、東西辺が 3：2 の長さで（0018SI が 0019SI の竈側部分の空間の規格にほぼ一致）、竈の中央を中軸線として分割される左右の空間を基準として平面形が決定されていることが推察される（第 112 図）。0004SI も 0018SI と同様の規格であった可能性が高い。

掘立柱建物の規格

さらに、0019SI の長辺は掘立柱建物の 3 間分、0019SI の短辺または 0018SI の長辺は掘立柱建物の 2 間分の長さにも一致または近似することから、竪穴建物の規格と掘立柱建物の柱間寸法も相互に関連していた可能性もある。



第112図　奈良時代建物の平面形の比較

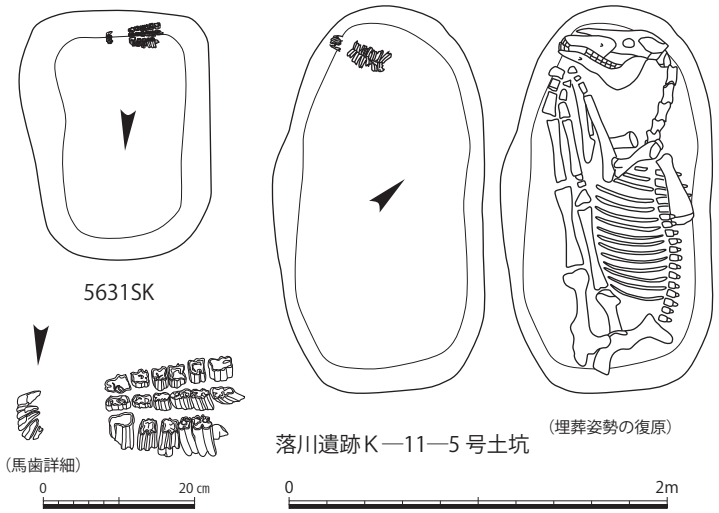
2）中近世の土坑墓・火葬施設

馬埋葬土坑
5631SK
落川遺跡
K—11—5 号土坑

12 世紀末葉から 13 世紀初頭と推定される馬埋葬土坑 5631SK と同様に、土坑の一端から馬の頭蓋部分（上下顎の歯と下顎骨の一部）が出土した遺構として、日野市落川遺跡Ｋ—11—5 号土坑がある（第 113 図）。落川遺跡Ｋ—11—5 号土坑は長軸 2.02m、短軸 1.10m、深さ 0.39m の土坑で、時期は「平安時代後期後半頃」と推測されている。遺体の計測値から比較される馬の大きさは「中小型の御崎馬」にほぼ一致する（金子 1995）。

埋葬姿勢の復原

5631SK は落川遺跡Ｋ—11—5 号土坑と比較すると長軸が短く、同土坑の金子浩昌による埋葬姿勢の復原を参考にすると、四肢に加えて首も押し曲げるようにして埋葬されたものと思われる（第 4 章（2）を参照）。



第113図　馬埋葬土坑5631SKと落川遺跡Ｋ—11—５号土坑

土坑墓6150SK

土坑墓 6150SK に類似した遺構は杉山遺跡に検出例がある（第 114 図）。杉山遺跡 SK3012 は長軸 1.2m、短軸 1.12m の方形土坑で、14 世紀から 15 世紀とされる同形同大の土師器皿 3 点が出土している。同 SK3020 は長軸 1.4m、短軸 0.92m の方形土坑で、土師器皿 1 点、寛永通宝（古寛永、新寛永を含む）7 点が出土していることから、時期は近世後半と推測される。6150SK は土坑の規模はやや小さいが、遺物出土状況はこれらの土坑に類似し、時期も両者の中間と理解しても不自然ではない。

杉山遺跡SK3012

杉山遺跡SK3020

火葬施設0023SL

火葬施設 0023SL は瀬戸市品野西遺跡において検出された火葬施設 SZC24 に土坑の規模や形状、使用状況に類似する点が多い（第 115 図）。なお、品野西遺跡の火葬施設を含めた中世墓群は 15 世紀前半から 16 世紀前半とされる。

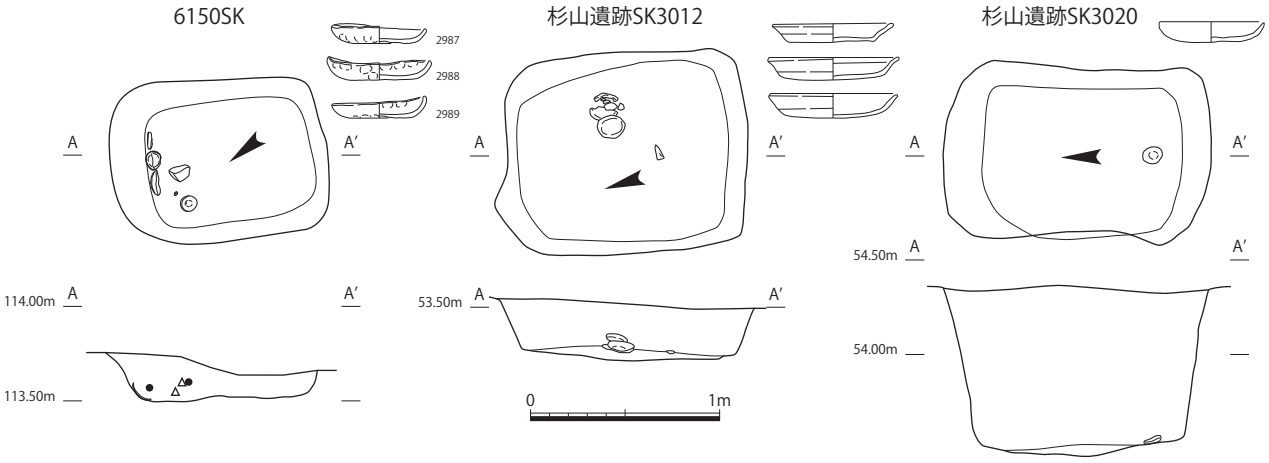
品野西遺跡

SZC24

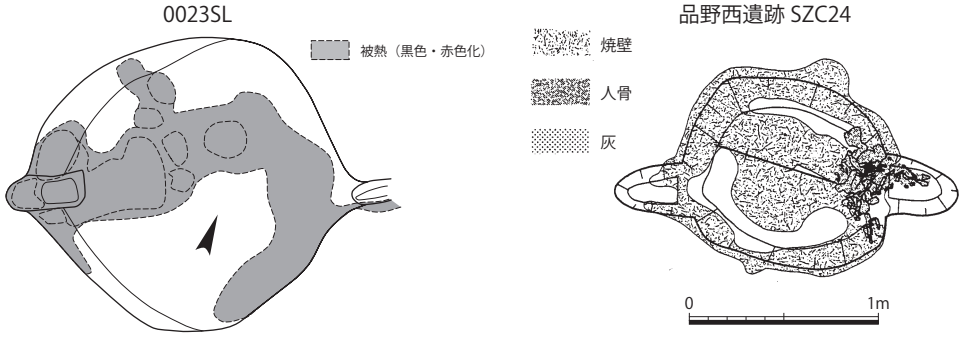
土坑墓3900ST・4000ST

火葬施設 0023SL は東向き斜面、火葬骨が出土した土坑墓 3900ST・4000ST は北向き斜面に離れて分布するが、両者は丘陵頂部の平坦面から約 10 m低い標高 107 m付近の丘陵中腹に位置し、放射性炭素年代測定の結果が示す年代範囲もほとんど一致する（第 4 章（1）を参照）。これらのことから、丘陵中腹には土坑墓と火葬施設からなる葬墓地が展開していたと考えられる。火葬施設が品野西遺跡の遺構に類似すること、近世には土葬が主流になることからすると、葬墓地の時期は 15 世紀から 16 世紀と考えられるが、炭化材や火葬骨の年代測定の結果は 18 世紀前後を示していることから、時期の確定には課題が残る。

時期の確定



第114図　土坑墓5631SKと杉山遺跡SK3012・SK3020



第115図　火葬施設0023SLと品野西遺跡SZC24

3）鉛製鉄砲玉

設楽原の鉄砲玉

設楽原において、鉄砲玉は計 17 点が採取されている（２点が所在不明、１点が鉄製、14 点が鉛製、第 40 表）。これらは連吾川右岸の石座神社遺跡に５点、大宮川右岸に３点、連吾川右岸の低地に３点、連吾川左岸の低地に１点、連吾川左岸の段丘上に５点が分布する（今泉他 1997・小林 2012・2013・中島他 2014）。遺跡から出土した鉄砲玉の直径は 11.20mm から 12.00mm（平均 11.71mm）、重量は 6.6 ｇから 9.4 ｇ（平均 8.4 ｇ）で、計測可能な 15 点の平均値（直径 11.74mm、重量 8.3 ｇ）に近似する。鉄砲玉の直径から推定される使用筒は４～５匁筒（鉄砲玉の直径が 11.1mm から 11.6mm）または 4.5～６匁筒（鉄砲玉の直径が 11.9 から 12.5mm）とされる（小林 2012）。

鉄砲玉の分布

直径・重量

鉛材料の産地

５点の鉄砲玉は鉛同位体比分析の結果、使用された鉛材料はいずれも「日本産材料」とされた（第４章（４）を参照）。設楽原で採集された５点と長篠城跡の発掘調査で出土した７点、計 12 点の鉛製鉄砲玉の測定結果によると、３点が「タイ産材料」、２点が「朝鮮半島あるいは遼寧省」、７点が「日本産材料」と推定されている。現状においては、「日本産材料」が優勢であるが、今後さらに測定数を増やすことが望まれる。

第 40 表　石座神社遺跡出土・設楽原採集の鉛製鉄砲玉一覧

		グリッド	出土遺構	発見時期	材質	直径(mm)	重量（g）	匁	鉛材料	備考
3569	「石座08A」玉	10E17q	検出	平成20年	鉛製	11.90	9.4	2.5	日本産	
3570	「石座08B」玉	10D15p	検出	平成21年	鉛製	12.00	9.1	2.4	日本産	
3571	「石座09B」玉	10B5t	検出	平成22年	鉛製	11.90	8.0	2.1	日本産	
3572	「石座10A」玉	10B7t	表採	平成23年	鉛製	11.55	9.1	2.4	日本産	
3573	「石座10B」玉	10C9s	1900SD	平成23年	鉛製	11.20	6.6	1.8	日本産	
	「峯田」玉	連吾川左岸低地		大正10年頃	鉛製	-	-	-	-	
	「本田」玉１	連吾川右岸		昭和37年	鉛製	9.80	5.1	1.4	日本産	潰れ
	「本田」玉２	連吾川右岸		昭和37年	鉄製	14.20	7.5	2.0	-	歪み
	「本田」玉３	連吾川左岸段丘上		平成３年	鉛製	11.20	8.0	2.1	-	凹み
	「山田」玉１	大宮川右岸		平成４年	鉛製	12.50	9.7	2.6	日本産	
	「山田」玉２	大宮川右岸		平成４年	鉛製	11.20	6.2	1.7	日本産	小穴２
	「山田」玉３	大宮川右岸		平成４年	鉛製	-	-	-	-	
	「後藤」玉	連吾川左岸段丘上		平成８年	鉛製	14.90	17.5	4.7	タイ・ソントー産	歪み
	「熊谷」玉１	連吾川左岸段丘上		平成９年	鉛製	11.10	7.3	1.9	日本産	小穴
	「熊谷」玉２	連吾川左岸段丘上		平成13年	鉛製	9.50	5.1	1.4	日本産	
	「高橋」玉	連吾川左岸段丘上		平成12年	鉛製	10.80	6.7	1.8	華南・朝鮮半島産	凹み多
	「神真鳥」玉	連吾川右岸		平成15年	鉛製	12.40	9.0	2.4	日本産	

文献

今泉正治・小林芳春1997「検証「設楽原の戦い」その１　白い玉が語るもの」『研究紀要』創刊号　設楽原歴史資料館

金子浩昌1995「脊椎動物遺体」『落川遺跡III［自然科学編］』日野市落川遺跡調査会

小林芳春2012「古戦場から出土した火縄銃の玉　その２　その後の出土と鉛の原産地」『研究紀要』第16号　新城市設楽原歴史資料館・新城市長篠城址史跡保存館

小林芳春2013「設楽原の鉄炮使用と鉛玉」『銃砲史研究』第371号　日本銃砲史学会

中島清・内藤彰・小林芳春2014「設楽原出土―17個の鉄砲玉」『戦国ウォーク　長篠・設楽原の戦い』黎明書房

遺跡文献

落川遺跡：日野市落川遺跡調査会1996『落川遺跡Ⅰ［遺構編―第二分冊―］』

品野西遺跡：財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター1997『品野西遺跡』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第13集

杉山遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1988『杉山遺跡』愛知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第５集

第５章　総括

弥生時代中期以前

縄文時代の遺構

縄文時代の遺構として、早期の炉穴６基、中期後半の竪穴建物１棟、陥穴と推定される土坑 50 基を検出した。放射性炭素年代測定の結果、陥穴と推定される土坑の多くは後期前葉に帰属することも判明した。縄文時代早期、中期は一定の居住を目的とした小規模な土地利用が志向されるが、後期は東西の低位段丘上に立地する石岸遺跡、大ノ木遺跡に集落が形成され、遺跡周辺は主として狩猟を中心とした活動領域であったことが想定される。

後期旧石器時代・縄文時代草創期石器群

上記の遺構に加えて、後期旧石器時代と縄文時代草創期の石器群、縄文時代早期・中期・後期・晩期、弥生時代前期・中期の土器と各時期の石器が出土した。特に後期旧石器時代のナイフ形石器、縄文時代草創期の有溝砥石（矢柄研磨器）、縄文時代前期の滑石製玦状耳飾り２点等の出土が注目される。

弥生時代後期から古墳時代前期

集落の展開

弥生時代後期前葉（１世紀）から古墳時代前期前半（３世紀後半）には、丘陵頂部の平坦面を中心として周辺の斜面まで、東西約 300m、南北約 100m の範囲に広く集落が展開する（第 116 図）。

集落の構成

集落は竪穴建物 336 棟、掘立柱建物８棟から構成され、長軸 7.50 m以上の大型竪穴建物８棟、布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物３棟をも含む。

環濠・方形周溝墓

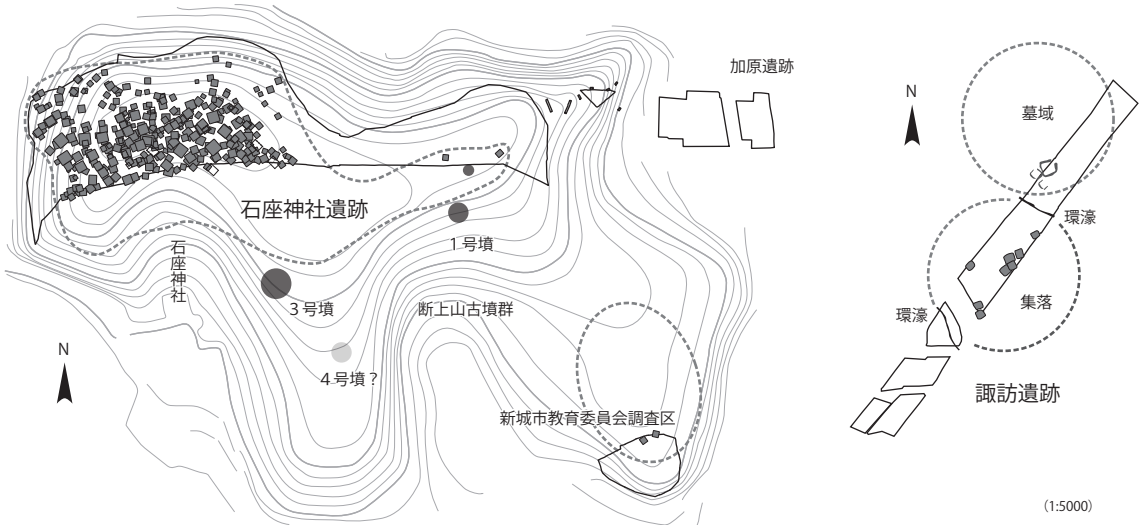
一方、環濠や集落内を区画する溝、方形周溝墓等の埋葬遺構は検出されていない。この点、集落に付随して環濠と方形周溝墓が検出されている諏訪遺跡（第 116 図）、豊川市山ノ奥遺跡等とは対照的である。

一時期（同時期）の竪穴建物数

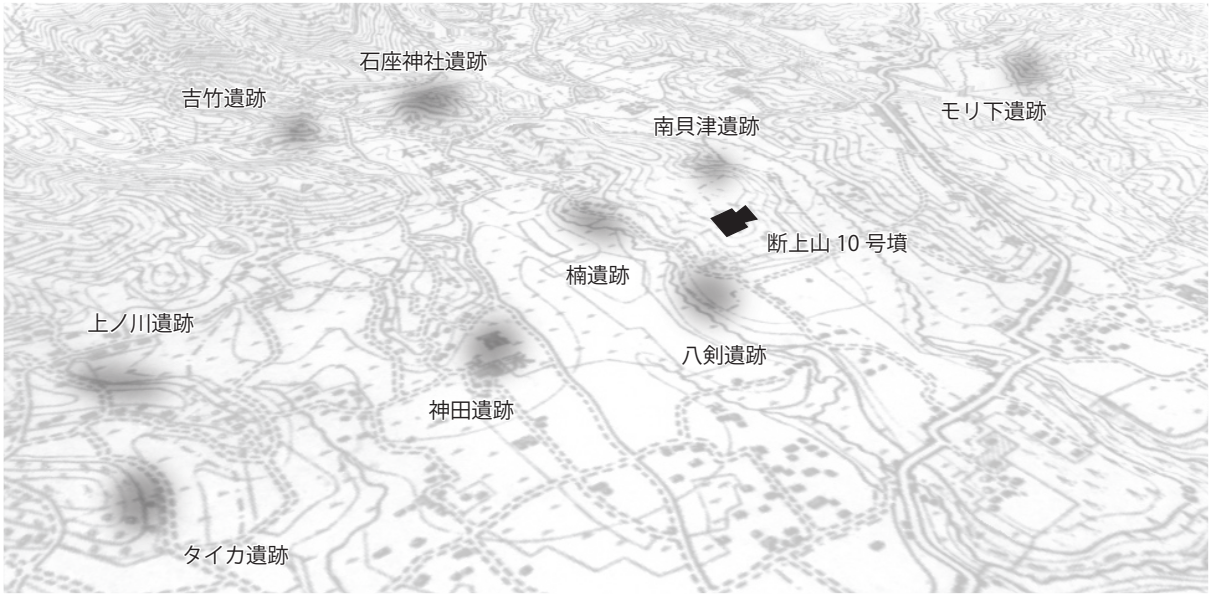
これらの遺構について、出土土器を基準にして１期から 10・11 期の 10 段階の遺構変遷を想定し、一時期に 20 棟前後から 40 棟前後の竪穴建物が推移することを示した。各時期に比定した竪穴建物を近接した時間幅における構築として、今回の発掘調査で遺跡の約半分の様相が判明したとすると、遺跡には一時期に 40 棟から 80 棟前後の竪穴建物が分布していたことが想定される。

集落人口の推計

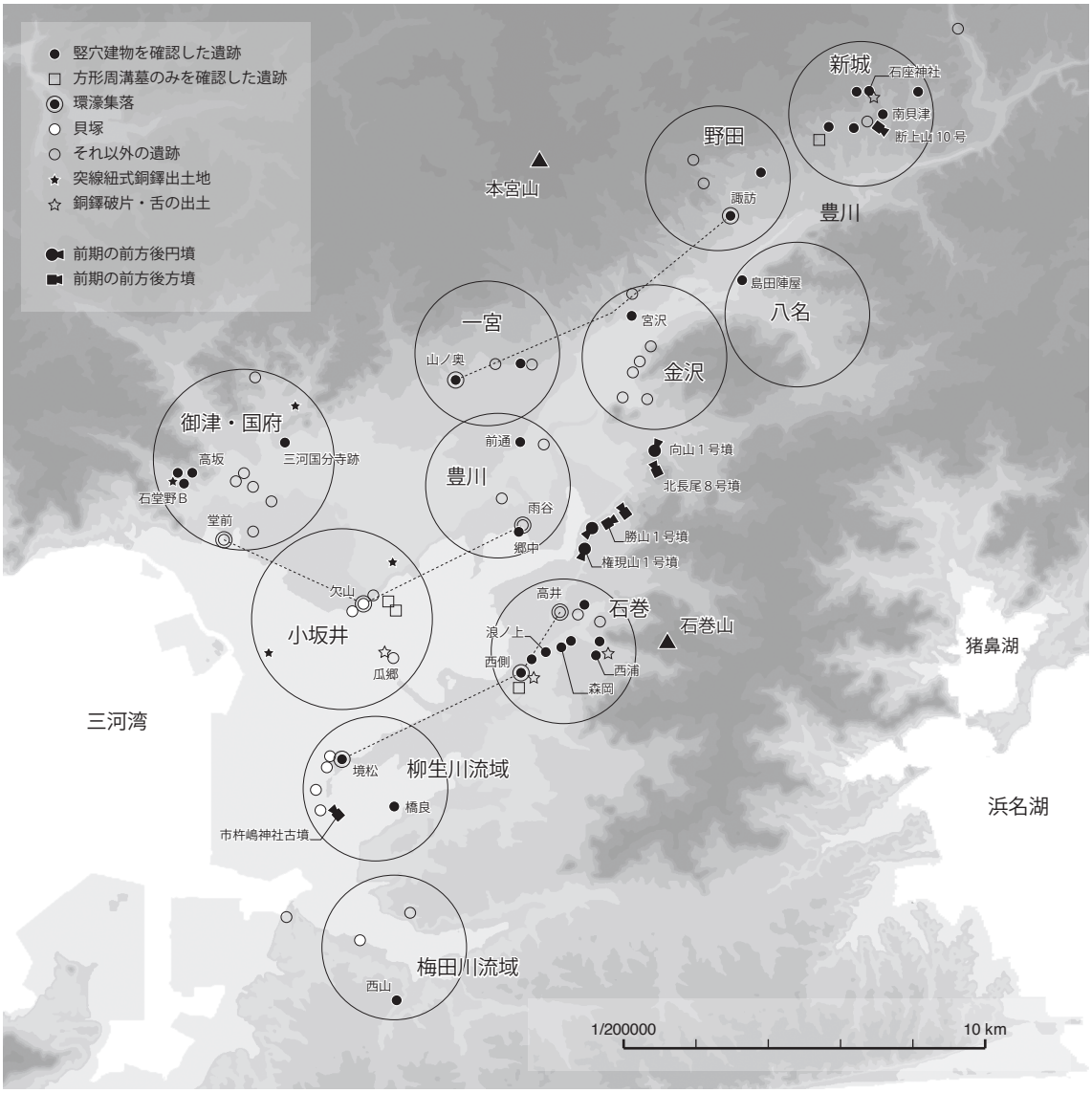
竪穴建物の９割以上は地床炉を布設することから、基本



第116図　石座神社遺跡と諏訪遺跡（環濠集落）の比較



第117図　「雁峰山麓の遺跡群」と断上山10号墳の位置関係



第118図　豊川流域における弥生時代後期から古墳時代前期の集落と前期古墳の分布

的に１棟の竪穴建物を１消費単位として、それに４人１世帯を想定すると、集落人口は200人から300人程度と推計される。

その他、これらの遺構にかかる基礎的な属性を整理、分析することを本報告の主眼とし、同時期の集落研究の基礎資料とした。また､竪穴建物に伴って良好に出土した土器も多く、土器編年の基礎資料としての活用度も高い。同時にAMS法による放射性炭素年代測定を綿密に実施した。今後、その成果を活用した集落論の展開も期待される。

集落研究
土器編年
年代測定

出土遺物としては、破鏡と鉄剣、板状鉄斧、ヤリガンナを含む鉄製品が注目される。これらの金属製品は単に器物の材質転換のみを意味するのではなく、新しい外部の世界観に地域社会が開かれたことを意味する。また、水銀朱付着土器は５点を確認した。

特徴的な出土遺物

破鏡は後漢代前半（１世紀後半）に製作された方格規矩四神鏡を分割したもので、破鏡が出土した竪穴建物3002SIは遺構の先後関係と出土土器から、古墳時代前期前半（９期、３世紀後半）と推定した。つまり、鏡の製作から破鏡に分割され、最終的に埋没するまでに約200年間を要したことになる。

破鏡

以上、遺跡は竪穴建物の著しい重複が示す集落への集住、大型竪穴建物と大型掘立柱建物を含む建物群の構成、破鏡や鉄剣等の特定個人の墳墓に副葬されることが多い象徴的な器物の出土（それに対して環濠や方形周溝墓の欠如）によって特徴付けられる。また、周辺には吉竹遺跡、南貝津遺跡、八剣遺跡、上ノ川遺跡、モリ下遺跡が各時期に消長し、「雁峰山麓の遺跡群」を形成する（第117図)。これらの諸特徴、現象は流域の土地開発の進展とそれに伴う集落の増大、利器の鉄器化と物資流通の拠点形成が一体として進行したことを背景として顕現したと考えられる。こうした地域社会の形成過程が同一丘陵に立地する前方後方墳の断上山10号墳の築造に帰結したのであろう。

雁峰山麓の遺跡群
断上山10号墳

それと前後して、豊川河口域（三河湾沿岸域）には市杵嶋神社古墳、下流域（石巻地区周辺）には勝山１号墳、権現山１・２号墳等の前方後方墳、前方後円墳が築造され、前者は若宮遺跡・境松遺跡を含む牟呂地区の遺跡群、後者は西側遺跡、高井遺跡、浪ノ上遺跡等の形成が深く関係していたことも容易に推察される（第118図)。これらの地域を含めた集落と古墳の動態を今後、詳細に比較検討する必要がある。

豊川流域

いずれにせよ、大規模な集落遺跡（大型集落、大集落）を拠点集落、豪族（首長）居館といった術語に充てるのみではなく、これらの諸様相の相関性を丁寧に説明することで、弥生時代後期から古墳時代前期の社会変化を見通すことが肝要である。石座神社遺跡はその可能性を大いに秘めていることは間違いない。

大規模集落

古代

丘陵の東向き斜面を利用した奈良時代の小規模な集落が形成される。集落は竪穴建物と掘立柱建物の数棟から構成され、建物相互には一定の規格性も確認した。

小規模な集落

中世以降

中世前半には丘陵を縦断する大溝1900SDが掘削される。他の中世（または近世）の遺構として、馬埋葬土坑を含む土坑墓、火葬施設等がある。その他、鉛製鉄砲玉が５点出土した。鉄砲玉の時期を特定することはできないが、設楽原周辺で発掘調査を通じて最初に検出した例として貴重である。これらの遺構・遺物は当地域の歴史叙述に欠かせない式内社石座神社、長篠・設楽原の戦いに関連する可能性がある。

大溝1900SD
鉛製鉄砲玉
式内社石座神社
長篠･設楽原の戦い

遺跡文献

市杵嶋神社古墳：豊橋市教育委員会1991『市杵嶋神社遺跡（Ⅰ）―市杵嶋神社貝塚・市杵嶋神社古墳―』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第13集
石座神社遺跡：新城市建設部・新城市教育委員会2011『石座神社遺跡発掘調査報告書』
上ノ川遺跡：新城市教育委員会1999『上ノ川遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書第17集
勝山１号墳等：豊橋市教育委員会1993『古墳測量調査（Ⅰ）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第17集
楠遺跡：新城市教育委員会1996『楠遺跡発掘調査報告書』新城市埋蔵文化財調査報告書Ⅹ
権現山１・２号墳：豊橋市教育委員会1997『権現山』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第35集
神田遺跡：新城市教育委員会2009『愛知県新城市八剣遺跡・新田遺跡発掘調査報告書』
諏訪遺跡：財団法人愛知県埋蔵文化財センター1989『諏訪遺跡・杉山端城跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第７集
タイカ遺跡：新城市教育委員会1979『上平井タイカ・豊栄真向遺跡』新城市誌資料13
高井遺跡：鈴木敏則1985「大清水遺跡の弥生土器―寄道式土器の再吟味―」『ホリデー考古』第３号　ホリデー考古刊行会／鈴木敏則1988「山中様式三河型（寄道様式）」『三河考古』創刊号　三河考古刊行会／豊橋市教育委員会1996『高井遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第26集／豊橋市教育委員会・株式会社イビソク2001『高井遺跡（II）・荒木２号墳・下角庵遺跡』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第57集
断上山10号墳：名古屋大学考古学研究室1974「断上９、10号墳」『重要遺跡指定促進調査報告―地形測量調査の概要―』愛知県教育委員会／柴垣勇夫1977「新城市断上９、10号墳発掘調査報告」『重要遺跡指定促進調査報告II』愛知県教育委員会／贄元洋1988「愛知県三河地方の前方後方墳」『古代』第86号早稲田大学考古学会／赤塚次郎1997「愛知県内前方後円（方）墳等の測量調査概要報告Ⅰ」『愛知県史研究』創刊号　愛知県／須川勝以2005「断上山古墳群」『愛知県史　資料編３　考古３　古墳』愛知県
浪ノ上遺跡：豊橋市教育委員会1982「浪ノ上遺跡範囲確認調査」『豊橋市埋蔵文化財調査報告書第３集』／豊橋市教育委員会2009『浪ノ上Ⅰ』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第100集／豊橋市教育委員会2010『浪ノ上II』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第112集
西側遺跡：豊橋市教育委員会『西側遺跡（Ⅰ）』豊橋市文化財調査報告書第82集／豊橋市教育委員会『眼鏡下池北遺跡（Ⅳ）・西側遺跡（Ⅵ）・西側古墓群（Ⅱ）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第113集／豊橋市教育委員会2010『西側遺跡（Ⅶ）・西側古墓群（Ⅲ）・洗島遺跡（Ⅲ）・眼鏡下池北遺跡（Ⅴ）・中郷遺跡（Ⅱ）』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第114集
南貝津遺跡：新城市教育委員会1989『南貝津遺跡』
モリ下遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『モリ下遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第196集
八剣遺跡：岩野見司・井上健・山本一二三・織田勇司1965「八剣遺跡」『豊川用水路関係遺跡調査報告』愛知県教育委員会／新城市教育委員会2009『愛知県新城市八剣遺跡・新田遺跡発掘調査報告書』
山ノ奥遺跡：豊川市教育委員会2008『山ノ奥遺跡』
吉竹遺跡：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『吉竹遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第191集

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
1	10C14n	3590SL	下層	縄文土器/深鉢			*5.0	押型文系土器
2	10C16p	5050SL		縄文土器/深鉢			*6.0	押型文系土器
3	10C16p	5050SL		縄文土器/深鉢			*4.3	押型文系土器
4	10B15o	検出		縄文土器/深鉢			*5.2	高山寺式
5	10B16r	検出		縄文土器/深鉢			*3.3	天神山式
6	10B18p	1410SI	掘方	縄文土器/深鉢			*2.4	天神山式
7	10C12h	検出		縄文土器/鉢	37.0		*4.0	山田平下層式
8	10B15p	検出		縄文土器/深鉢			*2.8	山田平下層式
9	10B14o	1790SI	掘方	縄文土器/深鉢			*3.5	山田平下層式
10	10B18p	1410SI	下層	縄文土器/深鉢			*2.4	山田平下層式
11	10C13o	検出		縄文土器/深鉢			*3.3	山田平下層式
12	10B17q	1329SI	下層	縄文土器/深鉢			*2.6	山田平下層式
13	10B17q	1329SI	下層	縄文土器/深鉢		23.8	*3.7	山田平下層式
14	10B15p	検出		縄文土器/深鉢			*2.5	山田平下層式
15	10B18q	検出		縄文土器/深鉢			*2.7	山田平下層式
16	10C10i	4314SK		縄文土器/台付深鉢			*5.2	神明式
17	10C10i	4314SK		縄文土器/台付深鉢			*3.4	神明式
18	10C10i	4314SK		縄文土器/台付深鉢			*3.0	神明式
19	10C10h	3001SI		縄文土器/台付深鉢			*6.4	神明式
20	10C10i	4314SK		縄文土器/台付深鉢			*4.0	神明式
21	10C10h	3001SI	床直	縄文土器/台付深鉢			*4.8	神明式
22	10C10h	3001SI	炉	縄文土器/台付深鉢		15.7	*11.5	神明式
23	10C10h	3001SI	炉	縄文土器/台付深鉢		10.9	*7.2	神明式
24	10B15p	検出		縄文土器/深鉢			*4.1	神明式
25	10B16q	検出		縄文土器/深鉢			*4.3	神明式
26	10C20b	1138SI	上層	縄文土器/深鉢			*4.0	神明式
27	10C8g	検出		縄文土器/深鉢		11.9	*6.0	神明式
28	10B18q	検出		縄文土器/深鉢			*3.9	中期後半
29	10B14o	1444SI	下層	縄文土器/深鉢			*2.9	中期後半
30	10B16q	検出		縄文土器/深鉢			*4.0	中期後半
31	10B16q	検出		縄文土器/深鉢			*3.8	中期後半
32	10B17q	検出		縄文土器/深鉢			*4.5	中期後半
33	10B14p	1459SI	下層	縄文土器/深鉢			*4.7	中期後半
34	10B15s	1338SI	トレンチ	縄文土器/深鉢			*3.9	中期後半
35	10B16q	検出		縄文土器/深鉢			*2.7	中期後半
36	10B15p	1455SI	下層	縄文土器/深鉢			*5.8	中期後半
37	10C8j	検出		縄文土器/深鉢			*3.5	中期後半
38	10B17q	検出		縄文土器/深鉢		9.8	*2.8	
39	10B16p	検出		縄文土器/深鉢			*4.0	後期前半？
40	10B15q	検出		縄文土器/深鉢			*5.4	後・晩期粗製
41	10B16p	検出		縄文土器/深鉢			*3.1	後期後葉
42	10B16p	検出		縄文土器/深鉢			*5.1	後期後葉
43	10B16q	検出		縄文土器/深鉢			*3.4	晩期前半
44	10B18p	1410SI	下層	縄文土器/深鉢			*2.5	晩期前半
45	10B14o	1455SI	下層	縄文土器/深鉢			*2.6	晩期前半
46	10B13q	検出		縄文土器/深鉢			*2.5	晩期前半
47	10B12n	検出		縄文土器/深鉢			*2.4	晩期前半
48	10B15p	検出		縄文土器/深鉢	19.8		*3.4	晩期初頭精製
49	10B17p	1410SI		縄文土器/浅鉢			*5.9	晩期前葉精製
50	10B16q	検出		縄文土器/鉢	10.6		*3.8	晩期前葉？
51	10C12s	5546SI	下層	弥生土器/深鉢			*5.3	樫王式
52	10C13n	3388SI	下層	弥生土器/深鉢			*3.7	樫王式
53	10C12s	5546SI	下層	弥生土器/深鉢			*2.9	樫王式
54	10C17m	3149SI	上層	弥生土器/深鉢			*2.8	樫王式
55	10C14r	3378SI	トレンチ	弥生土器/深鉢			*3.2	樫王式
56	10C15o	検出		弥生土器/深鉢			*4.2	樫王式
57	10D7d	5550SI	上層	弥生土器/深鉢			*3.5	樫王式
58	10C14q	3379SI	上層	弥生土器 /甕			*4.4	水神平式
59	10C12o	3481SI	下層	弥生土器 /深鉢(甕)			*5.4	樫王/水神平式
60	10C11c	5545SI	下層	弥生土器 /深鉢(甕)			*4.1	樫王/水神平式
61	10C16l	3150SI	上層	弥生土器 /深鉢(甕)			*3.4	樫王/水神平式
62	10C13m	3389SI	上層	弥生土器 /深鉢(甕)			*4.5	樫王/水神平式
63	10B16q	検出		弥生土器 /深鉢(甕)			*4.4	樫王/水神平式
64	10C14n	3147SI	上層	弥生土器 /深鉢(甕)			*4.9	樫王/水神平式
65	10C13s	5548SI	上層	弥生土器 /深鉢(甕)			*3.7	樫王/水神平式
66	10C12s	5556SI	掘方	弥生土器 /深鉢(甕)			*4.2	樫王/水神平式
67	10C10i	3404SI	上層	弥生土器 /深鉢(甕)			*4.5	樫王/水神平式
68	10C15o	3145SI	下層	弥生土器 /深鉢(甕)			*6.1	樫王/水神平式
69	10C12l	3223SI	上層	弥生土器 /深鉢(甕)			*5.3	樫王/水神平式
70	10C13n	3388SI	下層	弥生土器 /深鉢(甕)			*9.1	樫王/水神平式
71	10C15n	4566SK		弥生土器 /深鉢(甕)			*7.4	樫王/水神平式
72	10D13a	5650SI	上層	弥生土器 /壺			*2.8	遠賀川系
73	10C14f	3261SI	下層	内傾口縁土器	10.4		*4.4	岩滑式
74	10C11c	1863SI	下層	弥生土器 /壺	14.4		*2.4	岩滑式
75	10B14q	1490SI	床直	弥生土器 /壺			*3.0	岩滑式
76	10C10d	4414SI	掘方	弥生土器 /壺			*3.3	岩滑式
77	10B15p	検出		弥生土器 /甕		7.5	*3.6	中期
78	10E14s	0128SD		弥生土器 /甕	20.2		*2.9	瓜郷式
79	10C14j	3211SI	上層	弥生土器 /甕	29.4		*3.6	瓜郷式
80	10C19a	1180SI	上層	弥生土器 /甕	21.4		*3.7	瓜郷式
81	10C10f	3798SI	下層	弥生土器 /甕			*2.5	瓜郷式
82	10C11p	3409SI	床直	弥生土器 /甕			*4.1	瓜郷式
83	10C11s	5668SI	下層	弥生土器 /甕			*2.4	瓜郷式
84	10C16r	5649SI	上層	弥生土器 /甕			*1.4	瓜郷式
85	10C16f	検出		弥生土器 /甕			*1.2	瓜郷式
86	10C14c	検出		弥生土器 /甕			*2.7	瓜郷式
87	10C10f	3798SI	下層	弥生土器 /甕			*1.5	瓜郷式
88	10C13m	3388SI	下層	弥生土器 /甕			*3.4	瓜郷式
89	10C13c	検出		弥生土器 /甕			*3.4	瓜郷式
90	10C12s	5546SI	下層	弥生土器 /甕			*2.8	瓜郷式
91	10C9g	3797SI	上層	弥生土器 /甕		6.4	*3.4	瓜郷式
92	10C16m	3149SI	下層	弥生土器 /甕		5.8	*2.1	瓜郷式
93	10C13o	3481SI	下層	弥生土器 /甕		5.8	*3.0	瓜郷式
94	10C11o	3562SK	下層	弥生土器 /太頸壺	30.0		*4.3	瓜郷式
95	10C19a	1138SI	上層	弥生土器 /壺			*1.3	瓜郷式
96	10C8h	3306SI	下層	弥生土器 /壺	15.2		*2.1	瓜郷式
97	10C16r	5649SI	上層	弥生土器 /壺			*3.6	瓜郷式
98	10C6o	3515SI	上層	弥生土器 /壺			*5.2	瓜郷式
99	10C13m	検出		弥生土器 /壺			*4.6	古井式
100	10B16p	検出		弥生土器/壺			*3.0	古井式
101	10B9l	2093SI	床直	広口壺			*16.0	擬連弧文
102	10B9l	2093SI	床直	中型壺		4.8	*1.5	
103	10B9l	2093SI	床直	甕			*5.4	
104	10B9l	2034SI	下層	甕	21.4		*6.3	
105	10B9l	2034SI	下層	甕	15.6		*6.3	
106	10B9l	2034SI	床直	中型(内彎口縁)壺		5.8	*9.9	木葉痕
107	10B9l	2034SI	拡張	加飾広口壺			*7.0	
108	10B9l	2034SI	下層	小型鉢(椀)		5.3	*2.7	
109	10B9l	2034SI	拡張	中型壺		4.1	*1.7	
110	10B9l	2034SI	上層	広口壺	15.6		*1.5	紐孔
111	10B8m	2022SI	下層	甕	21.8		*3.5	
112	10B8m	2022SI	下層	折り返し口縁壺	16.4		*2.0	遠江系
113	10B8m	2022SI	拡張	甕	15.6		*4.5	
114	10B10l	2023SI	床直	甕	17.6		*7.1	
115	10B10l	2023SI	ベルト	甕		9.0	*5.4	
116	10B10m	2005SI	下層	折り返し口縁壺	11.6		*1.6	遠江系
117	10B10l	2006SI		高杯	18.0	10.2	16.1	
118	10B10m	2006SI	床直	高杯			*5.9	
119	10B10l	2006SI		高杯		9.0	*7.2	
120	10B10l	2006SI	ベルト	広口壺	13.5		*5.4	
121	10B10l	2006SI		甕		7.7	*5.7	
122	10B10l	2006SI	上層	加飾広口壺	14.9		*2.5	
123	10B10l	2006SI	2118SK	甕		6.4	*4.4	
124	10B10m	2021SI	掘方	加飾広口壺	20.6		*2.8	
125	10B10m	2021SI	掘方	有段口縁甕B	17.6		*3.2	
126	10B10m	2021SI	下層	広口壺	19.4		*4.3	
127	10B10m	2021SI	上層	小型鉢(椀)	7.8	5.3	5.3	
128	10B10m	2021SI	上層	小型鉢(椀)	7.6	5.0	4.9	
129	10B10m	2021SI	上層	小型鉢(椀)	7.6	5.5	4.1	
130	10B10m	2021SI	上層	小型鉢(椀)	7.0	5.0	4.1	
131	10B10m	2021SI	上層	甕		8.7	*6.1	
132	10B10m	2021SI	上層	甕		8.6	*6.6	
133	10B8o	1957SI	床直	甕	15.7	7.7	22.4	
134	10B8o	1957SI	床直	甕	20.2		*3.9	
135	10B8o	1957SI	下層	甕	16.4		*10.7	
136	10B8o	1957SI	下層	有段口縁甕A	12.2		*5.6	
137	10B8o	1957SI	下層	甕			*5.8	
138	10B8o	1957SI	下層	加飾広口壺			*4.3	
139	10B7o	1957SI	下層	高杯	20.6		*2.3	
140	10B8o	1957SI	下層	高杯	18.4		*5.0	
141	10B7o	1957SI	床直	椀形高杯A	14.4		*7.8	
142	10B7o	1957SI	下層	高杯			*8.3	
143	10B8o	1957SI	上層	高杯			*6.1	
144	10B8o	1957SI	上層	袋状口縁壺	15.8		*6.1	
145	10B9o	1958SI	下層	甕	15.2		*3.8	
146	10B8o	1958SI	下層	甕		8.9	*5.4	
147	10B9o	1958SI	下層	S字甕			*2.6	
148	10B9o	1958SI	下層	内彎口縁壺C		3.9	*5.7	
149	10B9o	1958SI	下層	小型壺		3.9	*3.7	
150	10B9o	1958SI	下層	小型壺		4.1	*2.9	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
151	10B8o	1958SI	下層	中型壷		4.5	*1.7	
152	10B8o	1958SI	下層	中型壷		5.8	*1.6	
153	10B8o	1958SI	下層	椀形高杯B			*3.5	
154	10B8o	1958SI	下層	高杯			*4.4	
155	10B8o	1958SI	下層	高杯			*6.4	
156	10B8o	1958SI	上層	甕		5.3	*5.0	
157	10B8o	1958SI	上層	壷		5.4	*4.7	
158	10B8o	1958SI	上層	広口壷		7.2	*3.2	
159	10B8o	1958SI	上層	加飾広口壷	18.0		*3.8	
160	10B8o	1958SI	上層	高杯			*5.1	
161	10B9o	1959SI	下層	小型壷		3.8	*2.6	
162	10B8o	検出	Aa群	有孔鉢		6.0	*3.6	
163	10B10n	検出	Aa群	折り返し口縁壷	18.4		*1.3	遠江系
164	10B13l	1993SI	掘方	広口壷	13.6		*6.2	
165	10B13l	1993SI		広口壷		3.2	*1.7	
166	10B13l	1994SI	床直	高杯			*2.2	
167	10B13l	1995SI	2175SK	中型壷		3.8	*3.6	
168	10B12l	1991SI	床直	甕	21.4		*6.0	
169	10B13l	1991SI	床直	高杯			*8.4	
170	10B13l	1991SI	床直	高杯			*6.2	
171	10B12o	1991SI	上層	小型壷		3.6	*6.3	
172	10B11o	2033SI	下層	高杯			*4.5	
173	10B11o	2033SI	下層	広口壷		11.4	*2.0	
174	10B11o	2033SI	上層	広口壷	14.4		*2.1	
175	10B11o	2033SI	上層	広口壷		7.9	*3.0	木葉痕
176	10B11o	2033SI	上層	甕		10.0	*7.5	
177	10B11m	2077SI	掘方	小型加飾広口壷	7.8		*7.0	
178	10B12n	2077SI	掘方	広口壷			*4.1	
179	10B12n	2077SI	掘方	甕			*2.0	
180	10B12m	2077SI	2141SK	甕		9.6	*5.6	1967SI
181	10B12m	2077SI	2141SK	中型鉢		4.9	*6.0	1967SI
182	10B12m	2077SI	2141SK	中型鉢	11.4	4.4	7.9	1967SI
183	10B12m	1967SI	床直	高杯	23.2		*8.7	
184	10B11n	1967SI	下層	小型鉢(椀)	4.5	3.2	4.3	
185	10B11n	1967SI	下層	内彎口縁壷A		3.8	*2.1	
186	10B11n	1967SI	下層	広口壷		7.4	*8.5	
187	10B11n	1967SI	下層	広口壷		7.2	*4.3	
188	10B11n	1967SI	下層	加飾広口壷	21.6		*3.7	
189	10B12m	1967SI	下層	有段口縁壷	23.2		*3.1	
190	10B12n	1967SI	上層	甕	20.4		*2.8	
191	10B12n	1967SI	上層	有段口縁甕A	19.6		*2.6	
192	10B12m	1967SI	上層	甕		8.6	*6.3	
193	10B12m	1967SI	上層	甕		7.1	*6.1	
194	10B12n	1967SI	上層	加飾広口壷	15.8		*1.8	
195	10B11p	1954SI	上層	加飾広口壷	16.8		*4.4	
196	10B11p	1954SI	上層	高杯			*8.2	
197	10B11p	1953SI	下層	甕	16.3		*3.9	
198	10B11p	1953SI	下層	広口壷		6.8	*2.7	
199	10B11p	1953SI	下層	加飾広口壷	19.0		*3.0	
200	10B11o	1953SI	上層	加飾広口壷	12.8		*1.8	
201	10B12p	1953SI	上層	加飾広口壷			*5.5	
202	10B11o	1953SI	上層	小型鉢	14.6		*4.3	西遠江(伊場)系
203	10B11p	1953SI	上層	高杯			*9.6	
204	10B12p	1952SI	下層	甕		8.5	*6.3	
205	10B12p	1952SI	下層	甕		7.8	*5.1	
206	10B12o	1952SI	下層	甕		6.1	*5.0	
207	10B12p	1952SI	下層	高杯		9.3	*6.9	
208	10B12p	1952SI	下層	中型壷		4.0	*4.0	
209	10B12p	1952SI	下層	加飾広口壷	18.6		*3.3	
210	10B12p	1952SI	上層	加飾広口壷	21.0		*2.3	
211	10B11q	2129SI	下層	高杯			*7.0	
212	10B11q	2129SI		広口壷	16.0		*5.7	
213	10B12q	2129SI		広口壷		8.7	*5.2	木葉痕
214	10B11q	2129SI	上層	加飾広口壷			*9.8	
215	10B12k	2062SK	Ab群	有孔鉢	16.9	6.9	12.4	
216	10B14l	1900SD	Ab群	中型鉢		5.2	*6.0	
217	10B12q	1900SD	Ab群	小型鉢		3.8	*3.3	
218	10B12m	検出	Ab群	広口壷	15.4		*2.0	紐孔
219	10B14l	1900SD	Ab群	広口壷		12.2	*4.0	
220	10B12n	検出	Ab群	中型壷		5.3	*2.0	
221	10B12n	検出	Ab群	小型高杯		6.2	*4.0	
222	10B15m	1454SI	下層	甕	22.0		*24.0	
223	10B15m	1454SI	下層	甕	19.0		*4.6	
224	10B15n	1454SI	下層	甕	19.0		*16.2	
225	10B15m	1454SI	下層	甕	17.4		*13.0	
226	10B15m	1454SI	下層	甕	15.8		*13.2	
227	10B15n	1454SI	下層	叩き甕	17.6	4.4	22.4	近畿系
228	10B15n	1454SI	下層	平底甕	11.2	3.6	14.8	叩き甕類似
229	10B15m	1454SI	下層	甕		10.0	*7.8	
230	10B16m	1454SI	下層	甕		9.4	*7.1	
231	10B15n	1454SI	下層	甕		7.6	*6.7	
232	10B16m	1454SI	下層	甕		6.0	*4.4	
233	10B15n	1454SI	下層	甕		7.2	*3.6	
234	10B15m	1454SI	下層	広口壷		7.6	*16.7	
235	10B15n	1454SI	下層	広口壷		5.8	*4.6	
236	10B15n	1454SI	下層	加飾広口壷			*5.4	
237	10B15m	1454SI	下層	有段口縁壷	14.8		*4.5	
238	10B16m	1454SI	下層	広口壷	16.2		*3.8	
239	10B15n	1454SI	下層	広口壷			*8.5	
240	10B16m	1454SI	下層	広口壷		5.4	*6.5	
241	10B16n	1454SI	下層	内彎口縁壷A		3.6	*11.6	連弧文
242	10B15m	1454SI	下層	広口壷		5.0	*3.0	
243	10B16n	1454SI	下層	広口壷		6.4	*2.0	
244	10B16n	1454SI	下層	小型鉢(椀)		4.0	*1.6	
245	10B15m	1454SI	下層	小型鉢(椀)		3.6	*1.9	
246	10B15m	1454SI	下層	高杯	22.4	11.2	16.7	
247	10B15n	1454SI	下層	高杯		9.8	*13.7	
248	10B16n	1454SI	下層	椀形高杯A	8.0	6.8	7.0	
249	10B15n	1454SI	下層	椀形高杯A	3.8	2.6	3.7	
250	10B16m	1454SI	下層	小型鉢(椀)	9.8	4.8	5.2	
251	10B16m	1454SI	下層	小型鉢(椀)	9.6	2.4	4.6	
252	10B15n	1454SI	上層	小型鉢(椀)	9.4	3.4	3.5	
253	10B15n	1454SI	1449SK	高杯		10.8	*9.7	
254	10B14n	1444SI	床直	中型鉢	9.6	5.8	8.1	
255	10B15n	1444SI	下層	有孔鉢		1.4	*3.2	
256	10B15n	1444SI	下層	小型鉢(椀)		3.0	*2.9	
257	10B15o	1444SI	下層	加飾広口壷	21.6		*2.5	
258	10B14o	1444SI	下層	パレス系壷	22.2		*3.1	
259	10B15o	1444SI	下層	広口壷		8.0	*2.3	
260	10B14o	1444SI	下層	広口壷		6.0	*2.1	
261	10B15n	1444SI	下層	広口壷		4.6	*1.9	
262	10B15o	1444SI	下層	広口壷		8.2	*4.1	木葉痕
263	10B15o	1444SI	上層	中型鉢		3.6	*4.3	
264	10B14n	1444SI	上層	広口壷		6.2	*3.8	
265	10B14o	1444SI	上層	平底甕		5.0	*3.8	叩き甕類似
266	10B15o	1444SI	上層	小型壷		3.4	*1.3	
267	10B15o	1444SI	下層	高杯	22.2		*5.1	
268	10B14o	1444SI	下層	小型高杯			*2.5	
269	10B14o	1444SI	上層	椀形高杯A		11.1	*4.1	
270	10B14o	1444SI	上層	甕		5.7	*3.9	
271	10B15o	1444SI	上層	甕		11.2	*8.7	
272	10B14o	1444SI	上層	甕		7.4	*7.2	
273	10B15n	1444SI	1804SK	平底甕	11.0	5.0	14.0	
274	10B15n	1444SI	1804SK	平底甕	12.6	4.6	14.0	
275	10B15n	1444SI	1804SK	甕	13.6		*17.3	
276	10B15n	1444SI	1804SK	内彎口縁壷A	7.4	5.2	13.6	
277	10B14p	1455SI	床直	甕		11.0	*7.1	
278	10B14p	1455SI	床直	加飾広口壷			*23.4	
279	10B14p	1455SI	下層	甕	22.2		*10.3	
280	10B14o	1455SI	下層	甕	22.4		*4.1	
281	10B14p	1455SI	下層	内彎口縁壷A	11.2		*6.7	
282	10B14p	1455SI	下層	内彎口縁壷A		4.2	*1.9	
283	10B14o	1455SI	下層	内彎口縁壷B	8.4		*5.5	
284	10B14p	1455SI	下層	折り返し口縁壷	18.6		*1.7	遠江系
285	10B14o	1455SI	上層	有段口縁甕A	18.8		*6.0	
286	10B14o	1455SI	上層	甕	14.8		*5.5	
287	10B14p	1455SI	上層	甕	14.0		*5.6	
288	10B14o	1455SI	上層	甕	20.8		*10.5	
289	10B14p	1455SI	上層	袋状口縁壷	17.6		*5.0	
290	10B14o	1455SI	上層	袋状口縁壷	16.6		*5.3	
291	10B17o	1455SI	掘方	小型鉢(椀)	9.8		*4.3	
292	10B14p	1455SI	下層	高杯	22.0		*6.5	
293	10B15o	1455SI	トレンチ	高杯	20.6		*9.1	
294	10B14p	1455SI	上層	高杯			*3.2	
295	10B14p	1455SI	上層	高杯	25.4		*3.8	
296	10B14p	1455SI	1785SK	中型壷	10.9	6.6	15.1	
297	10B14q	1456SI	下層	甕	26.0		*28.1	
298	10B14q	1456SI	下層	甕	18.0		*19.3	
299	10B14q	1456SI	下層	甕		8.5	*5.9	
300	10B14q	1456SI	下層	甕		7.6	*4.3	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
301	10B14q	1456SI	下層	ワイングラス形高杯	10.2		*6.2	
302	10B14q	1456SI	下層	内彎口縁壺B	8.4	3.3	8.2	底部線刻
303	10B14q	1456SI	下層	広口壺		5.8	*2.3	
304	10B14q	1456SI	下層	広口壺	15.2		*5.5	
305	10B14q	1456SI	下層	有段口縁壺	17.4		*4.4	
306	10B14q	1456SI	下層	広口壺	13.5	8.1	28.9	
307	10B14q	1456SI	下層	加飾広口壺		7.6	*23.6	
308	10B14q	1456SI	下層	広口壺		8.8	*10.3	木葉痕
309	10B14q	1456SI	下層	高杯		10.2	*8.4	
310	10B14p	1456SI	下層	椀形高杯A			*3.7	
311	10B15p	1456SI	下層	高杯	24.4		*3.2	
312	10B14q	1456SI	掘方	加飾広口壺	18.6		*1.4	
313	10B14p	1456SI	掘方	有段口縁甕A	14.8		*2.7	
314	10B14q	1456SI	掘方	折り返し口縁壺	16.4		*1.6	遠江系
315	10B14q	検出	Ac群	加飾広口壺	20.0		*7.0	
316	10B14q	検出	Ac群	広口壺	19.0		*4.8	
317	10B14q	検出	Ac群	広口壺	15.4		*3.8	
318	10B14q	1456SI	上層	広口壺	14.2		*7.7	
319	10B14q	検出	Ac群	広口壺			*2.0	東遠江(菊川)系
320	10B14q	1456SI	上層	広口壺		7.0	*4.8	
321	10B14q	1456SI	上層	広口壺		11.2	*4.3	
322	10B14q	1456SI	上層	広口壺		5.8	*2.9	
323	10B14q	1456SI	上層	広口壺		5.4	*3.8	
324	10B14q	1456SI	上層	中型壺		5.6	*2.8	
325	10B14q	検出	Ac群	小型鉢(椀)	8.4	4.6	5.3	
326	10B14q	検出	Ac群	小型鉢(椀)	5.4	2.4	3.2	
327	10B14q	検出	Ac群	ワイングラス形高杯	11.2		*4.9	
328	10B14q	検出	Ac群	高杯	17.8		*8.3	
329	10B14q	1456SI	上層	高杯			*8.1	
330	10B14q	1456SI	上層	高杯			*6.6	
331	10B14q	検出	Ac群	高杯		9.0	*7.9	
332	10B14q	検出	Ac群	内彎口縁甕	21.8		*13.7	
333	10B14o	1456SI	上層	甕	21.2		*4.5	
334	10B14q	1456SI	上層	甕	12.2		*7.9	
335	10B14q	検出	Ac群	甕	20.4		*7.4	
336	10B14q	1456SI	上層	甕	21.2		*6.1	
337	10B14q	検出	Ac群	S字甕			*2.0	
338	10B14q	検出	Ac群	叩き甕			*2.2	
339	10B14q	1456SI	1813SK	甕	15.0	8.4	20.4	
340	10B14q	1456SI	1813SK	加飾広口壺	18.6		*5.0	
341	10B15q	1490SI	床直	加飾広口壺			*14.4	
342	10B15q	1490SI	床直	広口壺		7.8	*3.7	
343	10B14q	1490SI	下層	加飾広口壺	14.4		*2.5	
344	10B14p	1490SI	上層	加飾広口壺			*4.7	
345	10B15q	1490SI	上層	縁帯口縁甕	29.4		*5.0	
346	10B15q	1490SI	1815SK	高杯	23.4		*9.5	
347	10B15q	1490SI	1815SK	大型(甕系)鉢	21.8	8.8	19.2	1456SIと接合
348	10B13p	1937SI	床直	椀形高杯A	13.8	10.8	10.8	
349	10B13q	1937SI	床直	加飾広口壺			*9.2	
350	10B13p	1937SI	下層	加飾広口壺			*9.0	
351	10B13q	1937SI	下層	広口壺		6.9	*4.1	
352	10B13q	1937SI	上層	小型鉢(椀)	8.7	3.8	5.9	
353	10B15q	検出	Ac群	甕	19.4		*11.6	
354	10B16n	検出	Ac群	高杯			*7.6	近畿系
355	10B13q	検出	Ac群	小型鉢(椀)		2.5	*1.9	
356	10B15p	検出	Ac群	有孔鉢		4.2	*4.6	
357	10B13p	検出	Ac群	小型鉢(椀)	7.8	4.8	5.2	
358	10B15p	検出	Ac群	小型鉢(椀)	9.6	4.2	4.5	
359	10B15p	検出	Ac群	広口壺	21.2		*4.7	
360	10B15q	検出	Ac群	鉢	17.4		*3.4	東遠江(菊川)系
361	10B15p	検出	Ac群	広口壺	12.6		*3.0	
362	10B15q	検出	Ac群	パレス系壺			*3.7	
363	10B18p	1410SI	下層	直口壺	10.2		*4.2	
364	10B18p	1410SI	下層	加飾広口壺			*3.8	
365	10B18p	1410SI	下層	小型鉢(椀)		4.4	*2.6	
366	10B17p	1410SI	上層	加飾広口壺	15.2		*1.4	
367	10B17p	1410SI	上層	内彎口縁甕B	17.4		*2.1	
368	10B18p	1410SI	上層	甕			*5.1	
369	10B18p	1410SI	上層	高杯			*6.7	
370	10B18p	1410SI	トレンチ	焼成粘土塊	長5.9	幅4.0	高2.7	重44.0g
371	10B18p	1410SI	上層	加工円板	長2.9	幅2.8	高0.9	重6.1g
372	10B17o	1295SI	下層	縁帯口縁甕	17.6		*2.7	
373	10B17n	1295SI	下層	広口壺	13.0		*4.1	
374	10B17n	1295SI	掘方	内彎口縁壺C		5.2	*5.0	
375	10B18p	1495SI	上層	有段口縁甕A	14.8		*3.3	
376	10B18p	1495SI	上層	内彎口縁壺A	12.0		*3.6	
377	10B16p	1464SI	床直	高杯	23.0	12.6	18.6	
378	10B16p	1464SI	床直	甕		9.0	*11.9	
379	10B17p	1464SI	床直	高杯			*5.7	
380	10B17p	1464SI	床直	椀形高杯A		12.5	*7.2	
381	10B16p	1464SI	床直	甕		9.8	*6.2	
382	10B17p	1464SI	下層	加飾広口壺			*1.9	
383	10B17p	1464SI	トレンチ	甕		7.6	*6.0	
384	10B17p	1464SI	トレンチ	甕		10.8	*6.4	
385	10B17p	1464SI	トレンチ	加飾広口壺	19.8		*5.3	
386	10B16p	1464SI	トレンチ	加飾広口壺	16.0		*6.5	
387	10B16p	1464SI	トレンチ	広口壺	15.2		*4.9	
388	10B17p	1464SI	トレンチ	広口壺		9.4	*5.1	
389	10B17p	1464SI	トレンチ	広口壺		8.8	*5.2	
390	10B17p	1464SI	トレンチ	広口壺		7.7	*3.0	
391	10B17p	1464SI	上層	小型鉢(椀)		5.2	*3.1	
392	10B17o	1464SI	上層	内彎口縁壺A	10.2		*8.8	
393	10B16p	1464SI	上層	広口壺	17.0		*2.9	
394	10B16p	1464SI	上層	広口壺	12.3		*5.5	
395	10B16p	1464SI	上層	甕		4.8	*4.5	
396	10B17p	1411SI	床直	高杯	22.4	11.4	13.9	
397	10B17p	1411SI	床直	高杯		10.8	*8.7	
398	10B17p	1411SI	床直	高杯		10.2	*7.1	
399	10B17p	1411SI	床直	椀形高杯B		8.2	*6.8	
400	10B17p	1411SI	床直	高杯		11.4	*7.7	
401	10B17p	1411SI	床直	高杯			*6.7	
402	10B17p	1411SI	下層	縁帯口縁甕	15.4		*2.8	
403	10B17p	1411SI	床直	甕		8.4	*5.1	
404	10B17p	1411SI	床直	甕		8.8	*5.8	
405	10B17o	1411SI	上層	甕		9.6	*6.3	
406	10B17p	1411SI	床直	甕		6.4	*3.9	
407	10B17p	1411SI	床直	甕	10.2		*8.0	
408	10B17p	1411SI	床直	甕	10.0		*7.8	
409	10B17p	1411SI	下層	壷	9.4		*4.8	
410	10B17p	1411SI	下層	中型壺	8.6		*3.7	
411	10B17p	1411SI	床直	中型壺	8.2	10.6	14.0	
412	10B17p	1411SI	床直	中型鉢	9.0	3.8	8.9	
413	10B17p	1411SI	床直	小型鉢(椀)	10.6	3.0	6.4	
414	10B17p	1411SI	床直	中型鉢		5.8	*5.8	
415	10B17o	1411SI	床直	小型鉢(椀)		4.8	*4.3	
416	10B17p	1411SI	床直	小型鉢(椀)		5.2	*4.2	
417	10B17p	1411SI	下層	ミニチュア？			*2.2	
418	10B17p	1411SI	下層	小型壺		2.8	*1.2	
419	10B17p	1411SI	床直	広口壺	18.6		*3.4	
420	10B17p	1411SI	下層	高杯			*2.8	
421	10B17p	1411SI	下層	加飾広口壺	13.2		*1.8	
422	10B17p	1411SI	床直	広口壺		7.8	*3.0	
423	10B17p	1411SI	床直	広口壺		6.8	*2.4	
424	10B17p	1411SI	下層	袋状口縁壺	14.2		*2.6	
425	10B17p	1411SI	上層	加飾広口壺	20.6		*5.0	
426	10B17p	1411SI	上層	広口壺	16.4		*2.5	
427	10B17p	1411SI	上層	高杯	17.0		*4.1	1410SIと接合
428	10B18p	1411SI	1696SK	壷		5.0	*1.3	
429	10B16q	1329SI	床直	甕	19.6		*4.2	
430	10B17q	1329SI	トレンチ	甕		9.8	*7.2	
431	10B16q	1329SI	床直	高杯	21.6		*9.7	
432	10B16q	1329SI	下層	高杯			*5.8	
433	10B17q	1329SI	下層	高杯			*6.2	
434	10B17q	1329SI	床直	広口壺	16.2		*4.2	
435	10B16q	1329SI	床直	小型鉢(椀)	4.0	3.0	2.4	
436	10B17q	1329SI	下層	広口壺	18.4		*3.8	
437	10B17q	1329SI	上層	広口壺	19.6		*4.8	
438	10B16q	1329SI	上層	内彎口縁壺A			*5.1	
439	10B16q	1329SI	上層	高杯		13.5	*6.7	
440	10B17q	1329SI	1816SK	高杯			*3.7	
441	10B17q	1329SI	1816SK	甕		8.4	*6.5	
442	10B18q	1330SI	掘方	S字甕	20.2		*5.3	A類
443	10B17p	1330SI	掘方	加飾広口壺			*11.5	
444	10B18p	1330SI	上層	甕	13.8		*5.3	
445	10B18q	1330SI	上層	甕		6.3	*9.4	
446	10B17p	1330SI	上層	内彎口縁壺C		4.2	*5.2	
447	10B18q	1330SI	上層	広口壺		16.0	*3.2	
448	10B18q	1330SI	上層	高杯			*6.7	
449	10B17p	1330SI	上層	高杯		10.2	*9.5	
450	10B18p	1404SX		甕	17.2		*12.2	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
451	10B18p	1404SX		甕	20.0		*9.1	
452	10B17p	1404SX		加飾広口壷	14.2		*2.7	
453	10B18p	1404SX		広口壷	15.6		*8.4	
454	10B18p	1404SX		広口壷		6.8	*4.9	
455	10B18p	1404SX		広口壷		7.6	*4.4	
456	10B18p	1404SX		広口壷		7.8	*3.2	
457	10B18p	1404SX		高杯		11.3	*7.6	
458	10B18o	1277SI	下層	甕	27.6		*8.3	
459	10B18r	1277SI	床直	甕		6.2	*7.7	
460	10B18r	1277SI	下層	小型鉢(椀)		4.6	*2.6	
461	10B17t	1277SI	上層	甕	12.6		*6.4	
462	10B17t	1277SI	上層	広口壷	14.6		*5.6	
463	10B18r	1277SI	1447SK	内彎口縁壷A	8.0		*7.2	連弧文
464	10B17q	1175SI	下層	椀形高杯B			*5.8	
465	10B17q	1175SI		広口壷	18.2		*3.0	
466	10B17q	1175SI	上層	広口壷		6.0	*2.1	
467	10B19s	1332SI	上層	加飾広口壷			*2.2	
468	10B10p	1403SI	上層	中型壷		5.4	*1.5	
469	10B20q	1403SI	1417SK	内彎口縁壷A	8.9	4.1	12.7	
470	10B19q	1403SI	1417SK	甕		8.3	*8.3	
471	10B19q	1402SI	下層	鉢			*2.6	東遠江(菊川)系
472	10B19q	1402SI	下層	甕			*3.1	
473	10B18r	1451SK		加飾広口壷	17.4		*1.7	
474	10B18r	1451SK		甕		10.0	*6.6	
475	10B17o	検出	Ad群	有段口縁甕A	18.4		*3.7	
476	10B16o	検出	Ad群	甕			*2.1	
477	10B16p	検出	Ad群	甕		9.6	*5.4	
478	10B16o	検出	Ad群	甕			*5.2	
479	10B18q	検出	Ad群	S字甕	14.4		*2.7	A類
480	10B17o	検出	Ad群	S字甕	12.4		*5.6	B類古
481	10B17o	検出	Ad群	S字甕			*3.0	
482	10B19q	検出	Ad群	叩き甕		4.0	*2.5	近畿系
483	10B17n	検出	Ad群	折り返し口縁壷	18.2		*3.4	遠江系
484	10B14o	検出	Ad群	折り返し口縁壷	17.8		*2.0	遠江系
485	10B18p	検出	Ad群	加飾広口壷	16.0		*2.2	
486	10B16p	検出	Ad群	加飾広口壷	28.0		*4.0	
487	10B16p	検出	Ad群	広口壷	16.0		*6.1	
488	10B18p	検出	Ad群	広口壷	12.4		*2.5	
489	10B16o	検出	Ad群	折り返し口縁壷	13.2		*1.4	遠江系
490	10B18r	検出	Ad群	広口壷	16.0		*4.8	
491	10B18p	検出	Ad群	広口壷	17.0		*5.7	
492	10B16p	検出	Ad群	内彎口縁壷A	8.0		*3.5	
493	10B18r	検出	Ad群	小型壷	7.4		*3.8	
494	10B17o	検出	Ad群	内彎口縁壷B		3.5	*2.8	
495	10B18p	検出	Ad群	小型壷		3.5	*3.1	
496	10B18q	検出	Ad群	中型鉢		2.2	*4.3	
497	10B17q	検出	Ad群	ミニチュア？		3.6	*2.8	
498	10B17p	検出	Ad群	ワイングラス形高杯	8.8		*5.2	
499	10B17o	検出	Ad群	椀形高杯A		9.8	*6.0	
500	10B17o	検出	Ad群	脚付内彎口縁壷			*9.5	
501	10B17r	検出	Ad群	高杯		10.4	*8.2	
502	10B17o	検出	Ad群	高杯		12.8	*6.8	
503	10B17o	検出	Ad群	高杯		10.6	*7.5	
504	10B17o	検出	Ad群	高杯		12.6	*7.8	
505	10B16q	検出	Ad群	蓋？	長*7.9	幅4.0	高3.5	重*88.9g
506	1B1p	1270SI	下層	甕	12.0	6.6	14.4	
507	1B1p	1270SI	下層	加飾広口壷			*7.0	
508	1B1r	1270SI		高杯		12.2	*11.0	
509	1B1r	1270SI	1340SK	甕	13.4		*4.4	
510	1B2p	1250SI	床直	小型壷	6.4	4.4	8.1	
511	1B1p	1250SI	下層	中型壷	10.0		*4.0	
512	1B1p	1250SI	下層	広口壷		6.2	*2.8	
513	1B1p	1250SI	上層	広口壷		4.2	*2.2	
514	1B1p	1250SI	上層	広口壷		9.2	*19.7	
515	1B1p	1250SI	上層	内彎口縁壷A	14.2		*20.4	
516	1B2p	1250SI		パレス系壷	15.6		*2.4	
517	1B2p	1250SI	下層	小型高杯			*4.6	
518	1B2p	1250SI		小型高杯		9.4	*7.0	
519	1B1p	1250SI	上層	高杯		8.8	*7.9	
520	1B2o	1250SI	上層	小型鉢(椀)	9.6	5.2	6.2	
521	1B2p	1250SI		甕	19.2		*5.1	
522	1B1p	1250SI	上層	甕	18.4		*5.2	
523	1B1p	1250SI	上層	甕	18.0		*3.2	
524	1B1p	1250SI	上層	甕		7.4	*6.0	
525	1B1p	1220SI	床直	加飾広口壷	17.6		*3.3	
526	1B1q	1220SI	下層	加飾広口壷			*2.6	
527	1B1q	1220SI	下層	広口壷		6.4	*2.6	
528	1B1q	1220SI		中型壷		5.4	*2.7	
529	1B1p	1220SI		中型壷		6.0	*2.8	
530	1B1p	1220SI	上層	パレス系壷	20.6		*2.2	
531	1B1p	1220SI	上層	加飾広口壷	15.2		*2.5	
532	1B1p	1220SI	上層	パレス系壷	21.8		*11.6	
533	1B1p	1220SI	上層	小型鉢		3.8	*5.1	
534	1B1q	1220SI	下層	高杯	24.6		*4.9	
535	1B1p	1220SI	上層	高杯			*5.3	
536	10B20p	1220SI	下層	甕	23.4		*5.4	
537	1B1p	1220SI	上層	甕	15.4		*3.8	
538	1B1p	1220SI	上層	縁帯口縁甕	13.2		*2.7	
539	1B1p	1220SI	上層	有段口縁甕B	15.6		*3.1	
540	1B1p	1220SI		S字甕			*2.5	B類新
541	1B1q	1220SI	1529SK	蓋？	長*5.9	幅3.6	高3.0	重*62.5g
542	1B1r	1200SI下面	下層	加飾広口壷		6.8	*26.9	底部線刻
543	1B1r	1200SI下面	下層	中型壷		4.4	*10.3	
544	1B1r	1200SI上面	床直	高杯	20.8	11.0	16.5	
545	1B1r	1200SI上面	床直	甕	19.8		*3.9	
546	1B1r	1200SI上面	床直	広口壷	21.0		*1.4	
547	1B1r	1200SI上面	床直	高杯	24.6		*3.4	
548	1B1r	1224SI	下層	甕	22.8		*6.7	
549	10B20r	1224SI	上層	甕	16.4		*3.0	
550	1B1r	1224SI	下層	甕	20.0		*25.0	
551	1B1q	1224SI	下層	甕	21.8		*11.8	
552	10B20r	1224SI	下層	甕		17.4	*3.8	
553	1B1q	1224SI	下層	甕		9.0	*6.4	
554	10B20r	1224SI	下層	甕		9.4	*6.7	
555	10B19s	1224SI	下層	甕		6.8	*4.2	
556	1B1r	1224SI	下層	甕		6.6	*3.7	
557	1B1r	1224SI	下層	甕		6.0	*3.2	
558	1B1q	1224SI	下層	高杯	23.6		*10.4	
559	1B1q	1224SI	下層	広口壷	15.6		*8.7	
560	10B20r	1224SI	下層	加飾広口壷	21.6		*5.0	
561	10B19s	1224SI	下層	広口壷	16.0		*3.6	
562	10B20q	1224SI	ベルト	有段(複合)口縁壷	16.0		*2.4	南関東系
563	10B20r	1224SI	下層	広口壷		6.4	*3.7	
564	1B1r	1224SI		平底甕		6.0	*3.5	
565	10B20r	1224SI	下層	中型鉢		4.0	*3.2	
566	1B1r	1224SI	上層	甕	22.0		*4.0	
567	10B20r	1224SI	上層	小型壷		3.6	*1.2	
568	1B1q	1224SI	上層	加飾広口壷	17.6		*2.5	
569	1B1r	1224SI	1255SK	甕		8.2	*5.9	
570	1B1q	1240SI	床直	袋状口縁壷	16.0		*2.7	
571	1B1q	1240SI	ベルト	甕	15.6		*4.4	
572	1B1q	1240SI	ベルト	椀形高杯A	15.6		*6.3	
573	1B1r	1225SI	下層	甕	16.2		*12.6	
574	1B1r	1225SI	下層	甕		8.0	*6.5	
575	1B1r	1225SI	下層	甕	14.8		*13.2	
576	1B1r	1225SI		甕	19.4		*3.7	
577	10B20t	1181SI	床直	有段口縁甕A	17.2		*3.2	
578	10B19s	1181SI	掘方	甕	15.4		*4.5	
579	10B19s	1181SI	床直	甕			*3.3	
580	10B20t	1181SI	掘方	甕		6.4	*5.3	
581	10B20s	1181SI	上層	甕			*4.6	
582	10B17t	1181SI	掘方	高杯	27.0		*4.0	
583	10B20t	1181SI	掘方	高杯			*3.8	
584	10B20t	1181SI	床直	高杯			*3.6	
585	10B19s	1181SI	掘方	パレス系壷	21.6		*4.5	
586	10B20s	1181SI	床直	紐孔付蓋	9.0	9.0	1.1	
587	1B1s	1178SI	掘方	甕	18.4		*4.4	
588	1B1s	1178SI	掘方	広口壷	16.4		*3.0	
589	1B1s	1178SI	掘方	壷		6.0	*3.4	
590	1B1s	1178SI	掘方	内彎口縁壷A		3.4	*1.6	
591	10B20s	1167SI		庄内式甕	17.6		*2.0	近畿系
592	10B20t	1167SI		広口壷	15.2		*1.7	
593	10B20t	1167SI	上層	甕			*9.6	
594	1B1s	1167SI	掘方	甕		9.0	*6.7	
595	10B20t	1167SI	掘方	中型壷		4.8	*1.8	
596	10B20t	1167SI	掘方	中型壷		5.0	*1.5	
597	10B20r	1587SK	Ae群	加飾広口壷	17.2		*1.2	
598	1B1q	1419SK	Ae群	甕		8.8	*7.4	
599	1B1r	検出	Ae群	器種不明		4.2	*2.3	
600	10B6q	1896SI	床直	甕	19.0		*8.6	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
601	10B6q	1896SI	下層	加飾広口壷			*5.1	
602	10B6q	1896SI	上層	広口壷	11.4		*4.6	
603	10B6r	1896SI	下層	平底甕		3.8	*3.5	
604	10B6r	1896SI	下層	高杯			*3.8	
605	10B6r	1896SI	1926SK	有段口縁甕B	18.4		*4.9	
606	10B8q	1931SI	下層	縁帯口縁甕	18.4		*6.0	
607	10B8q	1931SI	下層	内彎口縁甕	13.0		*2.0	
608	10B8q	1931SI	下層	甕		7.5	*6.3	
609	10B8q	1931SI	下層	甕		8.0	*5.7	
610	10B8q	1931SI	下層	甕		8.9	*5.4	
611	10B7q	1931SI	下層	甕		8.0	*5.5	
612	10B7q	1931SI	下層	甕		10.3	*6.5	
613	10B7q	1931SI	下層	甕		9.4	*6.4	
614	10B8q	1931SI		甕		7.7	*5.1	
615	10B8q	1931SI	下層	高杯		10.3	*8.4	
616	10B8q	1931SI	下層	高杯		9.3	*7.1	
617	10B8q	1931SI	床直	椀形高杯A			*7.2	
618	10B7q	1931SI	下層	椀形高杯A		10.0	*5.9	
619	10B8q	1931SI	下層	椀形高杯A		11.0	*4.9	
620	10B8q	1931SI	下層	椀形高杯A		10.0	*6.2	
621	10B8q	1931SI	上層	高杯			*6.6	
622	10B8q	1931SI	床直	中型壷	8.0	5.0	10.6	
623	10B8q	1931SI	下層	加飾広口壷	22.0		*3.1	
624	10B8q	1931SI	下層	加飾広口壷	13.0		*1.3	
625	10B8q	1931SI	下層	有段口縁壷	14.2		*4.6	
626	10B8q	1931SI	下層	広口壷		7.0	*3.9	
627	10B7q	1931SI	下層	広口壷		7.7	*3.0	
628	10B8q	1931SI	下層	広口壷		7.2	*2.8	
629	10B8q	1931SI	トレンチ	広口壷		8.0	*3.6	
630	10B8q	1931SI	下層	広口壷		7.2	*2.0	
631	10B8q	1931SI	上層	広口壷		7.0	*2.3	
632	10B8q	1908SI	1932SK	内彎口縁甕	9.1		*2.2	
633	10B6t	1895SI	下層	S字甕	14.8		*1.1	A類
634	10B6t	1895SI	下層	甕	11.6		*4.9	
635	10B6t	1895SI	下層	甕	10.4		*2.2	
636	10B6t	1895SI	下層	広口壷		6.2	*3.1	
637	10B6t	1895SI	下層	内彎口縁壷B	8.4		*6.3	
638	10B6t	1895SI	上層	広口壷		6.8	*4.1	
639	10B6t	1895SI	上層	小型鉢(椀)		3.2	*2.5	
640	10B7s	1906SI	下層	広口壷	13.8	9.0	21.8	
641	10B7s	1906SI	下層	中型壷	8.9	5.9	14.2	東遠江(菊川)系
642	10B7s	1906SI	下層	中型壷	10.5	6.5	12.9	東遠江(菊川)系
643	10B7s	1906SI	下層	中型壷		4.2	*9.9	
644	10B6s	1906SI	下層	内彎口縁壷C		5.5	*6.2	
645	10B7s	1906SI	下層	加飾広口壷	16.6		*2.1	
646	10B7s	1906SI	下層	高杯	17.8	9.6	16.6	
647	10B7s	1906SI	下層	高杯			*5.3	
648	10B7s	1906SI	下層	甕		5.3	*3.5	
649	10B7s	1906SI	下層	甕		7.0	*4.4	
650	10B7s	1906SI	下層	甕		9.5	*7.2	
651	10B7s	1906SI	下層	甕		9.6	*6.4	
652	10B7s	1906SI	1928SK	甕			*6.2	
653	10B8r	1922SI	下層	甕	13.0	6.5	14.7	
654	10B8r	1922SI	下層	有段口縁甕B	12.0	7.6	18.1	
655	10B8r	1922SI	下層	甕	15.2		*6.7	
656	10B8r	1922SI	下層	甕	21.6		*8.2	
657	10B8r	1922SI		内彎口縁甕	18.4		*3.7	
658	10B8r	1922SI	下層	甕	19.7		*7.2	
659	10B8r	1922SI	下層	甕		8.7	*9.8	
660	10B8r	1922SI	下層	甕		11.1	*7.4	
661	10B8r	1922SI		甕		8.0	*5.1	
662	10B8r	1922SI	下層	広口壷	16.0		*8.2	
663	10B8r	1922SI	下層	広口壷	12.2		*5.0	
664	10B7r	1922SI	下層	広口壷			*2.4	
665	10B8r	1922SI	下層	広口壷		6.8	*4.1	
666	10B8r	1922SI	下層	加飾広口壷	18.2		*4.3	
667	10B7r	1922SI		加飾広口壷			*6.9	
668	10B8r	1922SI		パレス系壷			*3.0	
669	10B8r	1922SI	上層	広口壷		7.2	*4.3	
670	10B8r	1922SI	上層	加飾広口壷	19.0		*4.3	
671	10B8r	1922SI	上層	加飾広口壷			*3.5	
672	10B8r	1922SI	下層	高杯	23.8		*7.3	
673	10B8r	1922SI	下層	高杯			*5.7	
674	10B8r	1922SI		高杯			*5.5	
675	10B8r	1922SI		高杯			*5.4	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
676	10B8r	1922SI	下層	小型高杯		10.2	*7.4	
677	10B8r	1922SI	下層	高杯		10.0	*9.3	
678	10B8r	1922SI	上層	高杯		8.8	*7.5	
679	10B8r	1922SI	上層	高杯			*5.2	
680	10B8r	1922SI	下層	小型鉢(椀)		5.2	*5.2	
681	10B8r	1922SI		小型鉢(椀)		4.0	*2.3	
682	10B8r	1907SI	上層	球状土錘	長2.3	幅2.3	高2.3	重4.3g
683	10B11r	1917SI	床直	甕		9.0	*6.2	
684	10B10r	1917SI	床直	甕		10.1	*6.4	
685	10B10r	1917SI	下層	甕		7.5	*4.7	
686	10B11r	1917SI		甕	11.4		*5.9	
687	10B11r	1917SI	下層	中型壷	9.4	3.8	12.9	
688	10B10r	1917SI	上層	加飾広口壷	18.0		*2.6	
689	10B10r	1917SI	上層	広口壷		7.7	*3.2	
690	10B10r	1917SI	床直	高杯	23.4		*5.4	
691	10B11r	1917SI	下層	椀形高杯A	14.6		*3.7	
692	10B10r	1917SI	下層	椀形高杯A			*5.9	
693	10B10r	1917SI	上層	高杯			*6.1	
694	10B10r	1917SI	下層	中型鉢		5.8	*6.0	
695	10B10r	1917SI	上層	小型鉢		5.2	*3.8	
696	10B10r	1917SI	上層	中型壷		5.0	*1.6	
697	10B10r	1917SI	上層	小型鉢(椀)	6.0	4.0	2.5	
698	10B9t	2128SI	床直	鳥形土製品	4.1		*3.3	重24.4g
699	10C7d	3220SI	上層	甕		8.0	*5.3	
700	10C7d	3220SI	上層	高杯		13.1	*7.3	
701	10C7c	3218SI	下層	広口壷	20.0		*5.1	
702	10C7d	3218SI	下層	広口壷		6.2	*6.1	
703	10C7d	3218SI	下層	甕			*3.3	
704	10C7d	3218SI	上層	甕	12.4		*4.0	
705	10C8a	1875SI	下層	甕	17.2		*14.5	
706	10C8a	1875SI	下層	広口壷	10.4		*10.2	
707	10C8a	1875SI	下層	広口壷		7.8	*4.7	
708	10C8a	1875SI	上層	小型鉢(椀)	8.6	4.4	5.3	
709	10C8a	1875SI	上層	内彎口縁壷B		3.6	*3.9	
710	10C8a	1875SI	上層	広口壷	13.4		*5.3	
711	10C8a	1875SI	上層	内彎口縁壷A		3.8	*2.0	
712	10C7a	1861SI	床直	甕	19.8	9.6	20.3	
713	10C7a	1861SI	床直	甕		9.9	*11.3	
714	10C7b	1861SI	床直	広口壷		3.4	*3.4	
715	10C7b	1861SI	床直	内彎口縁壷B		3.6	*1.9	
716	10C7b	1861SI	床直	椀形高杯A	15.0	12.0	10.5	
717	10C7a	1861SI	下層	有段口縁壷	18.6		*5.9	
718	10C7b	1861SI	上層	広口壷			*4.9	
719	10C7a	1861SI	上層	中型壷		4.4	*3.2	
720	10C7a	1862SI	床直	高杯			*8.0	
721	10C7a	1862SI	床直	内彎口縁壷A		4.2	*4.2	
722	10C7a	1862SI	上層	広口壷		6.3	*2.0	木葉痕
723	10C7a	1862SI	上層	甕		6.8	*4.5	
724	10C7a	1862SI	掘方	甕	17.8		*4.5	
725	10C8b	1860SI	上層	中型壷		5.4	*5.3	
726	10C7b	1860SI	上層	広口壷		6.4	*2.9	
727	10C8b	3219SI	トレンチ	高杯		13.4	*12.6	
728	10C8c	3219SI	下層	広口壷		7.2	*3.5	
729	10C8b	3219SI	トレンチ	中型壷		5.0	*2.2	
730	10C8c	3219SI	上層	広口壷		5.0	*2.7	
731	10C10b	1852SI	下層	甕	21.8		*5.9	
732	10C10b	1852SI	下層	甕	13.6		*7.4	
733	10C10b	1852SI	下層	甕		8.3	*5.8	
734	10C10b	1852SI	上層	甕		8.7	*5.2	
735	10C10b	1852SI	下層	中型鉢		5.3	*3.7	
736	10C10b	1852SI	上層	中型壷		4.1	*3.9	
737	10C10b	1852SI	下層	中型壷		4.5	*10.7	
738	10C10b	1852SI	下層	中型壷		5.0	*12.0	
739	10C10b	1852SI	下層	中型壷		4.6	*3.8	
740	10C10b	1852SI	下層	中型壷		5.7	*2.1	
741	10C10b	1852SI	床直	広口壷	14.0		*4.5	
742	10C10b	1852SI	下層	広口壷		6.5	*2.4	木葉痕
743	10C10b	1852SI	下層	広口壷		6.5	*3.4	
744	10C10b	1852SI	上層	広口壷	16.3		*4.8	
745	10C10b	1852SI	上層	広口壷		5.8	*3.8	
746	10C10b	1852SI	トレンチ	高杯	28.0		*5.6	
747	10C10b	1852SI	下層	高杯	18.6		*8.1	
748	10C10b	1852SI	下層	高杯		10.0	*10.5	
749	10C10b	1852SI	下層	高杯		9.3	*9.1	
750	10C10b	1852SI	下層	椀形高杯A	13.8	9.6	8.5	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
751	10C8e	3809SI	床直	高杯	24.2		*7.6	
752	10C8f	3809SI	床直	加飾広口壷			*9.6	
753	10C8e	3809SI	上層	内彎口縁甕	18.8		*2.7	
754	10C8e	3809SI	上層	内彎口縁甕	16.0		*2.9	
755	10C8e	3809SI	上層	加飾広口壷			*5.7	
756	10C8f	3810SI	下層	広口壷		6.6	*2.8	
757	10C8f	3810SI	上層	広口壷		5.4	*3.6	
758	10C8f	3810SI	下層	有段口縁甕A	24.6		*3.5	
759	10C8g	3810SI	上層	縁帯口縁甕	16.6		*3.5	
760	10C8g	3810SI	上層	縁帯口縁甕	22.0		*3.5	
761	10C8g	3810SI	上層	甕	18.4		*5.9	
762	10C8g	3810SI	上層	甕	16.2		*3.2	
763	10C8g	3810SI	上層	甕		8.9	*6.7	
764	10B11q	1920SK	Ba群	小型鉢(椀)	7.6	5.3	6.5	
765	10B9q	1899SK	Ba群	中型壷		5.0	*3.0	
766	10B10q	1916SK	Ba群	加飾広口壷	16.0		*4.5	
767	10B10q	1916SK	Ba群	甕			*2.6	
768	10B9s	1876SX		甕	15.4		*9.7	
769	10B9t	1876SX		甕		6.4	*3.7	
770	10B8t	1876SX		広口壷	15.0		*3.8	
771	10B9t	1876SX		広口壷	15.4		*4.1	
772	10C8a	検出	Bc群	高杯		12.0	*8.4	
773	10C8g	検出	Bd群	高杯	20.6		*11.9	
774	10C7i	1900SD	Bd群	加飾広口壷			*4.4	
775	10C11a	検出	Bd群	広口壷		9.0	*6.1	
776	10C9d	検出	Bd群	手焙形土器			*5.6	
777	10C8e	1900SD	Bd群	小型鉢(椀)		7.0	*2.0	
778	10D10a	1900SD	Bd群	有孔鉢		2.9	*3.3	
779	10C8f	1900SD	Bd群	甕		7.6	*5.6	
780	10C9c	検出	Bd群	甕		8.8	*4.8	
781	10C8g	検出	Bd群	甕		8.0	*6.0	
782	10C8f	1900SD	Bd群	甕		10.3	*6.2	
783	10B12s	1938SI	下層	跳ね上げ口縁甕	24.2		*3.3	
784	10B12s	1938SI	下層	甕			*7.0	
785	10B12s	1938SI	上層	跳ね上げ口縁甕	15.0		*2.6	
786	10B12s	1938SI	上層	甕	16.6		*8.0	
787	10B12s	1938SI	下層	甕		7.0	*4.6	
788	10B12s	1938SI	下層	小型鉢	6.8	4.0	4.6	
789	10B13s	1938SI	下層	小型鉢(椀)	7.0	3.4	*4.1	
790	10B12r	1938SI	下層	高杯			*5.7	
791	10B12s	1938SI	下層	壷	17.6		*5.2	
792	10B12s	1938SI	下層	高杯			*5.8	
793	10B12s	1938SI	上層	高杯			*5.8	
794	10B12r	1938SI	下層	甕	11.6		*3.2	
795	10B12s	1938SI	上層	内彎口縁壷B	7.0	4.8	*9.0	
796	10B13s	1938SI	上層	ミニチュア？			*1.5	
797	10B13r	1938SI	2174SK	加飾広口壷	17.8		*4.9	
798	10B13r	1938SI	2174SK	有段口縁甕B	22.0		*4.0	
799	10B12s	1938SI	2086SK	椀形高杯A		11.3	*6.3	
800	10B12s	1938SI	2086SK	中型壷	10.9	7.0	16.3	
801	10B13s	1923SI	上層	内彎口縁甕	19.6		*2.8	
802	10B13s	1923SI	下層	甕	24.4		*3.0	
803	10B13s	1923SI	上層	甕	14.4		*6.5	
804	10B13s	1923SI	上層	甕		9.0	*7.1	
805	10B13s	1923SI	上層	高杯			*5.8	
806	10B12s	1923SI	上層	加飾広口壷	22.5		*1.7	
807	10B12s	1923SI	上層	有段口縁壷	14.2		*3.9	
808	10B13s	1923SI	下層	広口壷	13.4		*4.3	
809	10B13s	1923SI	上層	内彎口縁壷A	8.0		*3.5	
810	10B12s	1923SI	上層	中型壷	13.0		*5.3	
811	10B13s	1923SI	下層	パレス系壷			*4.5	
812	10B12s	1923SI	上層	内彎口縁壷D		4.0	6.5	
813	10B13s	1923SI	上層	広口壷		6.5	*3.7	木葉痕
814	10B12s	1923SI	上層	中型鉢			*4.6	
815	10B13s	1923SI	上層	中型鉢		4.0	*4.2	
816	10B13s	1923SI	上層	中型鉢		4.3	*3.5	
817	10B12s	1923SI	上層	内彎口縁壷B		3.8	*2.5	
818	10B12s	1923SI	上層	高杯	22.4		*4.5	
819	10B13s	1923SI	上層	高杯			*4.7	
820	10B12s	1923SI	上層	土製紡錘車	長4.3	幅4.2	高1.9	重18.8g
821	10B12r	1929SI	床直	甕	19.0		*16.0	
822	10B13r	1929SI	床直	甕	13.6		*17.9	
823	10B13r	1929SI	床直	S字甕		8.4	*6.0	
824	10B13s	1929SI	下層	甕		9.8	*6.9	
825	10B12r	1929SI	下層	甕		8.4	*5.6	
826	10B13s	1929SI	下層	有段口縁壷			*17.2	東遠江(菊川)系
827	10B13q	1929SI	床直	広口壷	15.2		*13.8	
828	10B12s	1929SI	下層	加飾広口壷	23.8		*2.3	
829	10B13s	1929SI	下層	内彎口縁壷A	10.0		*5.9	
830	10B13s	1929SI	下層	内彎口縁壷A	5.0		*3.4	
831	10B13r	1929SI	下層	高杯	25.6		*10.4	
832	10B12s	1929SI	下層	高杯			*6.5	
833	10B13r	1929SI	床直	高杯		11.4	*10.6	
834	10B13s	1929SI	上層	加飾広口壷	18.0		*4.8	
835	10B13s	1929SI	上層	折り返し口縁壷	15.1		*2.6	遠江系
836	10B13s	1929SI	上層	広口壷		11.4	*3.0	
837	10B12s	1929SI	上層	広口壷		7.0	*3.0	
838	10B13s	1929SI	上層	小型鉢		2.8	*2.7	
839	10B13s	1929SI	上層	椀形高杯A		10.6	*5.6	
840	10B13s	1929SI	上層	焼成粘土塊	長5.1	幅4.4	高2.5	重44.8g
841	10B15s	1276SI	下層	甕	22.4		*20.0	
842	10B14r	1276SI	下層	甕	20.4		*8.3	
843	10B13s	1276SI		縁帯口縁甕	17.4		*6.5	
844	10B13s	1276SI	上層	甕	19.0		*5.5	
845	10B13s	1276SI	上層	甕	17.6		*5.3	
846	10B13s	1276SI	上層	甕	17.4		*3.8	
847	10B13s	1276SI	上層	甕	11.0		*7.8	
848	10B14s	1276SI	下層	甕		7.7	*5.8	
849	10B13r	1276SI	床直	甕		9.3	*6.6	
850	10B13s	1276SI	上層	甕		8.4	*6.3	
851	10B14r	1276SI	下層	広口壷		8.0	*3.6	
852	10B15s	1276SI	上層	加飾広口壷	13.6		*2.4	
853	10B13s	1276SI	上層	広口壷	14.2		*6.1	
854	10B13s	1276SI	上層	広口壷	17.4		*4.1	
855	10B13s	1276SI	上層	中型壷		5.8	*2.2	
856	10B15s	1276SI	上層	加飾広口壷			*3.2	
857	10B13s	1276SI	下層	内彎口縁壷A		3.6	*8.1	
858	10B14s	1276SI	下層	内彎口縁壷A	8.2		*4.8	
859	10B13s	1276SI	上層	内彎口縁壷A		3.8	*3.7	
860	10B13s	1276SI	上層	中型壷		4.0	*1.7	
861	10B13s	1276SI	上層	中型壷		5.6	*1.6	
862	10B13s	1276SI	上層	内彎口縁壷B	7.4		*5.5	
863	10B13s	1276SI	上層	小型鉢		4.6	*4.6	
864	10B14s	1276SI		高杯			*5.8	
865	10B14s	1276SI		高杯			*5.1	
866	10B14s	1276SI		高杯			*6.5	
867	10B14s	1276SI		高杯			*4.8	
868	10B13s	1276SI	上層	椀形高杯		9.4	*5.4	
869	10B13s	1276SI	上層	高杯			*7.6	
870	10B15s	1276SI	上層	椀形高杯			*5.6	
871	10B15s	1474SI	床直	甕	18.0		*19.6	
872	10B15s	1474SI	床直	甕			*16.0	
873	10B15s	1474SI	床直	大型(甕系)鉢		6.2	*11.0	
874	10B15s	1474SI	床直	椀形高杯A	16.0		*10.3	
875	10B14r	1474SI	床直	高杯			*5.0	
876	10B15s	1474SI	床直	椀形高杯A		10.8	*7.5	
877	10B15s	1474SI		甕	15.0		*3.9	
878	10B15s	1338SI	床直	広口壷	14.2	6.0	22.2	
879	10B15s	1338SI	上層	有段口縁壷	19.8		*5.2	
880	10B15s	1338SI	上層	有段口縁甕B	15.6		*2.3	
881	10B14s	検出	Ca群	加飾広口壷	16.0		*18.7	
882	10B14r	検出	Ca群	広口壷	16.2		*4.1	
883	10B12r	検出	Ca群	広口壷			*3.6	
884	10B15r	検出	Ca群	内彎口縁壷A		5.0	*5.3	
885	10B15r	検出	Ca群	内彎口縁壷B		4.0	*3.4	
886	10B14r	検出	Ca群	高杯		9.6	*6.9	
887	10B13s	検出	Ca群	椀形高杯B		10.6	*3.4	
888	10B16s	1253SI	床直	甕	27.4		*6.4	
889	10B16s	1253SI	床直	甕		7.9	*5.9	
890	10B16t	1253SI		甕	24.4		*9.3	
891	10B16t	1253SI	下層	甕		8.2	*5.8	
892	10B16t	1253SI	下層	縁帯口縁甕	16.0		*9.4	
893	10B16t	1253SI	下層	縁帯口縁甕	14.8		*3.3	
894	10B16s	1253SI	上層	甕	15.6		*6.5	
895	10B17s	1253SI	下層	小型鉢	10.2		*4.9	
896	10B16t	1253SI	下層	小型鉢(椀)	7.2	4.0	5.6	
897	10B17s	1253SI	下層	小型鉢(椀)	6.0		*4.9	
898	10B16t	1253SI	下層	加飾広口壷	22.0		*2.6	
899	10B16t	1253SI	下層	広口壷	19.6		*3.1	
900	10B15t	1253SI	上層	広口壷		8.5	*4.1	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
901	10B16t	1253SI	上層	広口壷		10.9	*4.3	
902	10B16s	1253SI	床直	高杯	22.2		*6.9	
903	10B16s	1253SI	床直	高杯			*8.2	
904	10B16t	1253SI	下層	高杯			*6.1	
905	10B16t	1253SI	上層	高杯		8.6	*7.9	
906	10B17s	1253SI	1769SK	甕	16.8		*9.2	
907	10B17s	1253SI	1769SK	加飾広口壷			*4.7	
908	10B16t	1347SX		甕		16.0	*3.2	
909	10B16t	1347SX		広口壷	15.4		*5.0	
910	10B15s	1347SX	上層	中型壷		6.2	*4.0	
911	10B15t	1347SX	上層	内彎口縁壷A		4.6	*2.5	
912	10B15t	1347SX		広口壷		8.2	*12.5	
913	10B16t	1347SX		小型鉢		6.2	*3.1	
914	10B16t	1347SX		小型鉢(椀)		4.0	*2.3	
915	10B15s	1347SX		高杯		11.6	*9.5	
916	10B16t	1336SX		折り返し口縁壷	16.6		*1.3	遠江系
917	10B16t	1336SX		高杯	18.4		*4.0	
918	10B16s	1378SI	下層	甕		7.8	*4.5	
919	10B16s	1378SI	上層	甕	11.8		*5.3	
920	10B16s	1378SI	上層	高杯	15.8		*4.4	
921	10B16t	1378SI	1502SK	高杯			*6.4	
922	10B16s	1378SI	1779SK	高杯			*4.7	
923	10B15s	1349SI	下層	中型壷		4.4	*3.2	
924	10B16r	1349SI	下層	中型壷		5.2	*2.6	
925	10B15r	1349SI	上層	椀形高杯			*3.9	
926	10B16s	1349SI	上層	甕		9.4	*5.5	
927	10B15r	1349SI	上層	縁帯口縁甕	16.0		*2.9	
928	10B16s	1349SI	1728SK	内彎口縁甕	17.4		*3.5	
929	10B16s	1348SI	下層	甕	16.4		*23.0	
930	10B17s	1348SI	下層	甕		10.0	*6.4	
931	10B17s	1348SI	下層	中型壷		4.0	*2.4	
932	10B17s	1348SI	下層	広口壷		8.0	*3.5	
933	10B17s	1348SI	上層	小型鉢(椀)	5.6	3.6	3.4	
934	10B17t	1226SI	下層	有段口縁壷	15.4		*10.9	
935	10B18t	1226SI	下層	広口壷		7.6	*3.2	
936	10B17t	1226SI	下層	中型壷		4.8	*1.7	
937	10B17t	1226SI	下層	縁帯口縁甕	23.4		*3.0	
938	10B17t	1231SI	床直	甕		8.6	*6.3	
939	10B17t	1231SI	床直	甕		9.0	*6.3	
940	10B17t	1231SI	床直	甕		9.4	*7.1	
941	10B17t	1231SI	床直	甕		9.0	*6.8	
942	10B17t	1231SI	床直	小型鉢(椀)	9.2	3.6	3.4	
943	10B17t	1231SI	床直	中型鉢		4.2	*6.5	
944	10B17t	1231SI	床直	高杯			*11.2	
945	10B17t	1231SI	下層	甕		7.6	*5.9	
946	10B18t	1231SI	ベルト	甕		8.8	*6.4	
947	10B17t	1231SI	上層	甕		8.4	*5.0	
948	10B17t	1231SI	上層	中型鉢	16.0		*5.9	
949	10B18t	1231SI	ベルト	中型鉢		4.8	*4.4	
950	10B17t	1231SI	上層	高杯			*4.5	
951	10B17t	1231SI	上層	広口壷		8.0	*3.2	木葉痕
952	10B17t	1231SI	上層	広口壷		5.8	*1.7	
953	10C17a	1223SI	床直	広口壷		8.0	*5.5	
954	10C18a	1223SI	床直	広口壷		9.8	*3.5	
955	10C17a	1223SI	下層	椀形高杯A		10.0	*9.4	
956	10C18a	1223SI	1294SK	有段口縁甕B	29.4		*8.8	
957	10C18a	1223SI	1294SK	椀形高杯A	12.2	11.6	10.1	
958	10C18a	1223SI	1294SK	広口壷	13.4		*3.8	
959	10C18b	1207SX	床直	広口壷	12.4		*2.9	
960	10B18t	1207SX	下層	甕		8.2	*5.5	
961	10C18a	1207SX	上層	甕			*3.8	
962	10C18a	1207SX	上層	高杯			*4.7	
963	10C18a	1207SX	上層	高杯			*4.6	
964	10C18b	1207SX	上層	高杯			*6.0	
965	10C18a	1271SI	下層	跳ね上げ口縁甕	20.0		*6.3	
966	10C18a	1271SI	ベルト	甕	19.8		*3.1	
967	10C18a	1271SI		中型鉢		4.6	*2.6	
968	10B19t	1271SI	上層	中型鉢		5.3	*3.1	
969	10C14a	1260SK	Cc群	パレス系壷	22.0		*1.5	
970	10C14a	1260SK	Cc群	縁帯口縁甕	15.4		*3.6	
971	10B19t	1271SI	1334SK	平底甕		6.4	*4.9	
972	10C19a	1176SI	下層	甕	19.4		*4.4	
973	10C19a	1176SI	下層	甕	23.2		*4.7	
974	10C19a	1176SI	下層	甕		8.0	*5.9	
975	10C19a	1176SI	上層	甕	21.6		*6.7	
976	10C18a	1176SI	上層	甕	16.4		*3.7	
977	10C18a	1176SI	上層	甕	16.0		*3.2	
978	10C18a	1176SI	下層	中型(壷系)鉢		5.6	*7.0	
979	10C18a	1176SI	掘方	広口壷		6.0	*6.0	
980	10C19a	1176SI		広口壷		5.6	*5.6	
981	10C18a	1176SI	下層	折り返し口縁壷	18.6		*1.8	遠江系
982	10C18a	1176SI	下層	加飾広口壷	16.4		*3.6	
983	10C18a	1176SI	床直	高杯		8.8	*8.7	
984	10C19a	1176SI	下層	高杯		9.4	*7.9	
985	10C18a	1176SI	下層	高杯			*7.3	
986	10C19a	1176SI	上層	高杯			*5.5	
987	10C19a	1176SI	上層	高杯			*6.4	
988	10C19a	1176SI	1266SK	椀形高杯A	17.6		*3.1	
989	10C20b	1138SI	床直	高杯	26.4		*7.6	
990	10C20b	1180SI	床直	中型壷		4.4	*9.6	
991	10C20b	1180SI	床直	広口壷		7.0	*2.3	
992	10C19a	1180SI	下層	広口壷		6.0	*3.4	
993	10C19a	1180SI	下層	中型壷		5.0	*2.7	
994	10C19b	1180SI	下層	中型壷		6.0	*2.4	
995	10C19b	1180SI	下層	広口壷		17.6	*2.8	
996	10C19a	1180SI	下層	加飾広口壷			*4.7	
997	10C19a	1180SI	下層	高杯			*5.3	
998	10C19a	1180SI	下層	甕		9.4	*6.3	
999	10C19b	1180SI	上層	中型壷		4.6	*3.7	
1000	10C19a	1180SI	上層	広口壷	12.8		*4.5	
1001	10C19a	1180SI	上層	加飾広口壷			*2.1	
1002	10C19b	1180SI	上層	高杯			*7.3	
1003	10C19b	1180SI	上層	小型鉢(椀)	6.1	4.2	4.5	
1004	10C18a	1211SK	Cb群	甕			*2.5	
1005	10B16s	1780SK	Cb群	中型壷		4.2	*2.5	
1006	10B16s	1797SK	Cb群	中型壷		5.5	*3.3	
1007	10B17s	1718SK	Cb群	甕	17.4		*2.5	
1008	10B18s	1686SK	Cb群	中型壷		4.3	*3.0	
1009	10B16r	検出	Cb群	S字甕	18.4		*1.4	B類新
1010	10B16s	検出	Cb群	縁帯口縁甕	20.4		*7.2	
1011	10C19a	検出	Cb群	内彎口縁甕	12.6		*6.2	
1012	10B16s	検出	Cb群	柳ヶ坪型壷	16.4		*4.6	
1013	10B17s	検出	Cb群	加飾広口壷	18.0		*3.5	
1014	10C18a	検出	Cb群	高杯		11.2	*10.0	
1015	10C12a	1894SI	下層	甕	24.0		*18.6	
1016	10C13a	1894SI	下層	高杯	21.5	10.8	17.8	
1017	10C13a	1894SI	下層	縁帯口縁甕	20.2		*4.7	
1018	10C12a	1894SI	下層	内彎口縁甕	12.0		*4.9	
1019	10C13a	1894SI	下層	甕	17.0		*2.8	
1020	10C13a	1894SI	下層	甕	13.6		*3.0	
1021	10C13a	1894SI	下層	内彎口縁甕	13.2		*4.8	
1022	10C13a	1894SI	下層	甕		8.2	*4.7	
1023	10C12a	1894SI	下層	甕		6.6	*4.0	
1024	10C13a	1894SI	下層	広口壷	18.0		*4.8	
1025	10C12t	1894SI	下層	椀形高杯A			*4.7	
1026	10C13a	1894SI	下層	高杯			*5.3	
1027	10C12a	1894SI	床直	小型鉢(椀)		4.3	*3.1	
1028	10C12a	1894SI	上層	中型壷		4.6	*1.8	
1029	10C12t	1918SI	床直	パレス系壷			*11.0	
1030	10C12t	1918SI	床直	広口壷		7.1	*14.0	
1031	10C12t	1918SI	床直	甕		8.0	*4.2	
1032	10C12t	1918SI	床直	高杯			*5.3	
1033	10C12t	1918SI	上層	中型壷		5.0	*1.7	
1034	10B12t	1918SI	2107SK	内彎口縁壷A	6.9	3.6	10.6	
1035	10C14a	1218SI	床直	椀形高杯A	15.8		*4.4	
1036	10B13t	1897SI		高杯			*5.5	
1037	10B13t	1897SI		小型鉢(椀)		4.4	*2.7	
1038	10C13a	1218SI	下層	甕	29.6		*5.3	
1039	10C14a	1197SI		縁帯口縁甕	21.6		*6.9	
1040	10C13a	1197SI	ベルト	甕	16.2		*7.1	
1041	10C13a	1197SI	下層	内彎口縁甕	13.8		*6.0	
1042	10B13t	1197SI	上層	有段口縁甕B	20.4		*3.9	
1043	10B14t	1197SI	上層	甕	17.6		*2.7	
1044	10C14a	1197SI	上層	甕		6.5	*4.0	
1045	10C13a	1197SI	上層	甕		5.4	*3.2	
1046	10B13t	1197SI	上層	叩き甕		3.8	*2.7	
1047	10C14a	1197SI	掘方	有孔鉢		5.6	*2.6	
1048	10C13a	1197SI	下層	加飾広口壷	22.6		*4.0	
1049	10B15t	1197SI	ベルト	加飾広口壷	17.2		*2.8	
1050	10C14a	1197SI	下層	加飾広口壷	18.4		*3.8	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
1051	10B13t	1197SI	下層	広口壷	16.6		*4.1	
1052	10C14a	1197SI	下層	折り返し口縁壷	17.2		*3.8	遠江系
1053	10C14a	1197SI	上層	パレス系壷	18.4		*1.7	
1054	10C14a	1197SI	上層	広口壷	16.8		*4.0	
1055	10B14t	1197SI	下層	広口壷		8.6	*5.8	焼成前底部穿孔
1056	10C14a	1197SI	上層	広口壷		6.2	*7.6	
1057	10C14a	1197SI	トレンチ	広口壷			*5.4	東遠江(菊川)系
1058	10C14a	1197SI	上層	広口壷	14.6		*5.1	
1059	10B13t	1197SI	上層	広口壷		6.0	*3.7	
1060	10B13t	1197SI	上層	広口壷		7.6	*2.8	
1061	10B13t	1197SI	上層	広口壷		6.8	*2.8	
1062	10C14a	1197SI	上層	広口壷			*3.0	
1063	10C13a	1197SI	下層	中型壷		3.6	*3.5	
1064	10C13a	1197SI	下層	中型壷		5.4	*3.5	
1065	10C13a	1197SI	下層	中型壷		4.2	*2.0	
1066	10C14a	1197SI	下層	中型壷		4.6	*2.2	
1067	10C14a	1197SI	上層	中型壷		5.4	*1.8	
1068	10C14a	1197SI	上層	小型鉢(椀)		3.8	*2.7	
1069	10C14a	1197SI	掘方	中型壷		4.4	*2.1	
1070	10C14a	1197SI	下層	高杯	21.8		*9.1	
1071	10C13a	1197SI	下層	高杯	19.4		*6.2	
1072	10C13a	1197SI	下層	高杯	18.0		*7.1	
1073	10B14t	1197SI		高杯		8.1	*7.2	
1074	10B13t	1197SI	下層	高杯		10.2	*8.8	
1075	10B13t	1197SI	上層	高杯		11.0	*8.4	
1076	10B14t	1197SI	上層	高杯		9.0	*8.5	
1077	10C13a	1197SI	下層	椀形高杯A			*4.7	
1078	10C14a	1197SI	下層	椀形高杯A		10.8	*6.4	
1079	10C14a	1197SI	ベルト	焼成粘土塊	長6.6	幅3.6	高3.5	重63.2g
1080	10C13a	1002SD		甕	14.6		*21.1	
1081	10C13a	1002SD		有段口縁甕A	20.4		*9.0	
1082	10C13a	1002SD	上層	有段口縁甕B	17.2		*2.8	
1083	10C13a	1002SD		有段口縁甕B	18.2		*5.7	
1084	10C13a	1002SD		甕	27.2		*8.1	
1085	10C13a	1002SD		甕	23.2		*9.7	
1086	10C13a	1002SD		甕	21.6		*10.9	
1087	10C13a	1002SD		甕	20.0		*10.5	
1088	10C13a	1002SD		甕	19.6		*16.4	
1089	10C13a	1002SD		甕	20.6		*8.5	
1090	10C13a	1002SD		甕			*4.0	
1091	10C13a	1002SD		甕	16.8		*12.5	
1092	10C13a	1002SD	下層	甕	19.6		*7.7	
1093	10C13a	1002SD		甕	15.4		*15.4	
1094	10C13a	1002SD		甕	16.2		*9.0	
1095	10C14a	1002SD		甕		8.8	*7.3	
1096	10C12b	1002SD	上層	甕		7.6	*6.0	
1097	10C13a	1002SD		甕		6.4	*5.1	
1098	10C13a	1002SD		甕		9.0	*5.5	
1099	10C13a	1002SD		甕		8.4	*9.1	
1100	10C13a	1002SD		甕		9.2	*7.2	
1101	10C12b	1002SD	上層	甕		8.4	*6.6	
1102	10C13a	1002SD		甕		9.2	*5.7	
1103	10C13b	1002SD	上層	甕		8.2	*6.0	
1104	10C13a	1002SD		甕		8.8	*5.6	
1105	10C13a	1002SD		甕		7.2	*4.4	
1106	10C14a	1002SD		甕		9.2	*4.8	
1107	10C13a	1002SD		加飾広口壷	17.6		*2.6	
1108	10C13a	1002SD	下層	加飾広口壷	21.0		*2.9	
1109	10C13a	1002SD		加飾広口壷	18.6		*7.9	
1110	10C13a	1002SD		加飾広口壷			*7.5	
1111	10C12a	1002SD		加飾広口壷			*9.5	
1112	10C13a	1002SD		加飾広口壷			*16.5	
1113	10C13a	1002SD		加飾広口壷			*17.0	
1114	10C13a	1002SD		加飾広口壷	26.0		*2.5	口縁部結節縄文
1115	10C13a	1002SD	下層	折り返し口縁壷	15.2		*3.7	遠江系
1116	10C12a	1002SD	下層	折り返し口縁壷	23.4		*1.0	遠江系
1117	10C13a	1002SD	上層	広口壷			*4.3	東遠江(菊川)系
1118	10C13a	1002SD		広口壷	16.2		*10.1	
1119	10C13a	1002SD		広口壷	14.2		*11.5	
1120	10C12a	1002SD		広口壷	13.8		*13.7	
1121	10C13b	1002SD	上層	広口壷	18.0		*4.0	
1122	10C13a	1002SD		広口壷	16.4		*3.7	
1123	10C12a	1002SD	下層	広口壷	11.0		*1.8	
1124	10C12a	1002SD	下層	広口壷	11.0		*2.2	
1125	10C12a	1002SD	上層	広口壷	11.6		*2.0	
1126	10C13b	1002SD	上層	広口壷	12.0		*3.0	
1127	10C13a	1002SD		広口壷	16.6		*4.3	
1128	10C13a	1002SD		広口壷	12.6	6.3	16.5	
1129	10C13a	1002SD		広口壷	11.6		*11.9	
1130	10C12a	1002SD		広口壷			*7.1	
1131	10C13a	1002SD		広口壷		7.4	*13.0	
1132	10C13a	1002SD		広口壷		6.8	*5.6	
1133	10C13a	1002SD		広口壷		9.0	*12.3	
1134	10C13a	1002SD		広口壷		7.6	*5.5	
1135	10B12t	1002SD	上層	広口壷		6.4	*2.7	底部穿孔
1136	10C12a	1002SD		広口壷		7.6	*3.6	
1137	10C13a	1002SD		広口壷		4.0	*2.4	
1138	10C13a	1002SD		広口壷		4.8	*2.5	
1139	10C13a	1002SD		広口壷		7.0	*2.4	木葉痕
1140	10C13a	1002SD	上層	広口壷		3.9	*2.4	
1141	10C12a	1002SD	下層	内彎口縁壷A		13.2	*4.6	
1142	10C13a	1002SD		内彎口縁壷A		4.8	*6.9	
1143	10C13a	1002SD		高杯	22.0		*16.7	
1144	10B14t	検出	Cc群	高杯			*3.7	棒状浮文
1145	10C13a	1002SD		高杯	25.2		*11.0	
1146	10B14t	1002SD	上層	高杯	29.4		*7.1	
1147	10C13a	1002SD		高杯			*13.7	
1148	10C13a	1002SD		高杯		11.5	*12.7	
1149	10C13a	1002SD		高杯		11.2	*10.7	
1150	10C13a	1002SD		高杯		12.4	*10.8	
1151	10C13a	1002SD		高杯		12.0	*10.9	
1152	10C12a	1002SD	下層	高杯		10.2	*7.3	
1153	10C13a	1002SD		縁帯口縁甕(鉢)	14.4		*10.0	
1154	10C13a	1002SD	下層	縁帯口縁甕(鉢)		12.0	*3.5	
1155	10B12t	1002SD	上層	中型鉢		5.2	*5.0	
1156	10C12a	1002SD	上層	中型鉢		4.7	*3.0	
1157	10C13a	1002SD		小型鉢		4.2	*5.2	
1158	10C13a	1002SD		小型壷		2.9	*4.2	
1159	10C13b	1002SD	上層	小型壷		3.2	*2.5	
1160	10B12t	1002SD	上層	楕円形土器	8.6	5.4	3.0	木製容器の転写
1161	10C14a	1002SD		球状土錘	長2.8	幅2.7	高2.7	重16.6g
1162	10C14a	1002SD		球状土錘	長2.8	幅2.8	高2.8	重6.6g
1163	10B12t	1002SD	上層	焼成粘土塊	長9.7	幅6.8	高4.5	重170.2g
1164	10B14t	1594SK	Cc群	高杯		10.1	*6.5	
1165	10C16a	1251SI	床直	高杯		13.8	*15.2	
1166	10C16a	1251SI	床直	小型壷		5.4	*2.7	
1167	10C16b	1251SI		袋状口縁壷	12.2		*2.9	
1168	10C15a	1252SI	床直	小型壷		2.4	*2.5	
1169	10C15a	1252SI	上層	小型鉢		3.8	*2.5	
1170	10C15a	1252SI		パレス系壷			*6.6	
1171	10C15b	1199SI		加飾広口壷			*6.7	
1172	10C15b	1157SI	床直	柳ヶ坪型壷			*3.2	
1173	10C16a	1157SI	床直	高杯	20.1		*6.1	
1174	10C15a	1157SI	床直	高杯		10.0	*9.5	
1175	10C15b	1157SI	下層	小型高杯		7.1	*6.3	
1176	10C15a	1157SI	下層	折り返し口縁壷	16.6		*1.7	遠江系
1177	10C15a	1157SI	下層	広口壷		4.6	*2.1	
1178	10C15b	1157SI	上層	加飾広口壷			*2.6	
1179	10C16a	1157SI	上層	小型鉢		4.2	*2.4	
1180	10C15b	1157SI	上層	小型鉢		4.2	*2.4	
1181	10C15b	1157SI	上層	甕		7.0	*3.9	
1182	10C16a	1157SI	上層	甕		7.0	*5.7	
1183	10C16a	1157SI	上層	甕	15.0		*11.0	
1184	10C16b	1331SI	床直	甕	14.8		*10.4	
1185	10C17b	1331SI	床直	甕	13.8	6.6	16.9	
1186	10C16b	1331SI	床直	甕	16.0		*10.1	
1187	10C16b	1331SI	床直	甕	16.0		*9.1	
1188	10C16b	1331SI	床直	S字甕		10.4	*4.7	
1189	10C16a	1331SI	床直	甕		7.8	*6.3	
1190	10C16b	1331SI	床直	甕			*5.1	
1191	10C17b	1331SI	床直	甕		5.0	*3.9	
1192	10C16a	1331SI	上層	甕	16.4		*4.2	
1193	10C17b	1331SI	床直	平底甕	10.0	5.4	12.0	
1194	10C16b	1331SI	トレンチ	叩き甕	12.4		*6.3	
1195	10C17b	1331SI	ベルト	叩き甕		4.0	*3.0	
1196	10C16b	1331SI	床直	加飾広口壷	18.0		*2.3	
1197	10C17b	1331SI	上層	加飾広口壷			*1.8	
1198	10C16a	1331SI	床直	加飾広口壷	9.0		*3.5	
1199	10C16b	1331SI	上層	加飾広口壷			*2.8	
1200	10C17b	1331SI	ベルト	広口壷	7.4		*2.7	紐孔

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
1201	10C16b	1331SI	床直	広口短頸壷			*2.8	紐孔
1202	10C16a	1331SI	床直	中型鉢		5.2	*4.7	
1203	10C17b	1331SI	床直	中型壷		4.6	*1.7	
1204	10C16a	1331SI	床直	中型壷		3.8	*2.4	
1205	10C16b	1331SI	床直	中型壷	9.2		*9.2	
1206	10C17b	1331SI	床直	中型壷		5.0	*16.8	
1207	10C17b	1331SI	ベルト	中型壷		4.8	*3.7	
1208	10C16a	1331SI	上層	中型鉢	9.2		*4.4	
1209	10C16b	1331SI	上層	小型鉢		3.4	*2.5	
1210	10C16b	1331SI	上層	小型鉢(椀)		4.0	*2.2	
1211	10C16a	1331SI	上層	中型壷		5.0	*2.4	
1212	10C16a	1331SI	上層	広口壷		4.4	*2.7	
1213	10C16a	1331SI	床直	高杯			*4.8	
1214	10C16b	1331SI	床直	高杯			*4.9	
1215	10C16a	1331SI	床直	甕		8.0	*6.6	
1216	10C16a	1331SI	上層	高杯			*6.7	
1217	10C17b	1196SI	床直	高杯			*4.6	
1218	10C17b	1196SI	下層	高杯			*6.6	
1219	10C17b	1196SI	下層	高杯			*7.3	
1220	10C17b	1196SI	下層	椀形高杯A		12.2	*6.7	
1221	10C17b	1196SI	ベルト	高杯	26.4		*3.1	1152SI
1222	10C17b	1196SI	ベルト	小型鉢		4.0	*2.4	1152SI
1223	10C17b	1152SI	下層	甕	23.0		*4.5	
1224	10C17b	1152SI	ベルト	甕			*5.4	
1225	10C17b	1152SI		有段浅鉢	23.2		*6.9	
1226	10C17b	1152SI		小型鉢	8.0	4.4	5.6	
1227	10C17b	1152SI		内彎口縁壷A		2.8	*2.4	
1228	10C17b	1152SI		中型壷		5.4	*2.7	
1229	10C17b	1152SI		パレス系壷	13.6		*3.5	
1230	10C17b	1152SI		加飾広口壷	14.4		*5.2	
1231	10C17b	1152SI	下層	広口壷	13.2		*4.2	
1232	10C17b	1152SI	ベルト	高杯			*4.4	
1233	10C17b	1152SI		高杯			*5.9	
1234	10C17a	1732SI	床直	中型鉢	9.8	4.0	8.2	
1235	10C16a	1732SI	下層	中型壷	10.2		*2.6	
1236	10C16a	1732SI	下層	小型鉢(椀)		3.6	*2.3	
1237	10C17a	1732SI	下層	小型鉢(椀)	4.6		*2.4	
1238	10C16a	1732SI	下層	縁帯口縁甕	12.2		*2.5	
1239	10C16a	1732SI	下層	有段口縁甕A	11.0		*5.2	
1240	10C16a	1732SI	下層	有段口縁甕B	15.6		*4.7	
1241	10C16b	1732SI	下層	有段口縁甕B	12.4		*5.5	
1242	10C16b	1732SI	下層	椀形高杯B			*2.9	
1243	10C15a	1607SK	Cd群	高杯			*11.4	
1244	10C16b	1195SK	Cd群	甕	14.0		*3.3	
1245	10C16a	1569SK	Cd群	有段口縁甕A	11.8		*2.1	
1246	10C18b	1233SK	Cd群	中型壷		6.4	*2.9	
1247	10C18c	3020SK	Cd群	広口壷		7.2	*3.1	
1248	10C18c	3008SD	Cd群	折り返し口縁壷	15.6		*5.0	遠江系
1249	10C17b	1002SD	上層	甕	19.4		*3.0	
1250	10C16a	検出	Cd群	有段口縁甕B	15.2		*4.5	
1251	10C17b	1002SD		甕		8.8	*4.4	
1252	10C15b	1002SD		広口壷	15.2		*4.3	
1253	10C16a	検出	Cd群	折り返し口縁壷	12.6		*2.5	遠江系
1254	10C15b	1002SD		広口壷		6.0	*2.8	
1255	10C17b	1002SD	上層	小型鉢(椀)		4.2	*3.7	
1256	10C17b	1002SD	上層	小型鉢(椀)	9.2	5.0	4.3	
1257	10C15b	1002SD		高杯		8.1	*8.3	
1258	10C19e	3007SI	下層	椀形高杯A			*6.2	
1259	10C19e	3007SI	下層	椀形高杯A		10.3	*7.6	
1260	10C19e	3007SI	下層	高杯			*4.9	
1261	10C19e	3007SI	下層	椀形高杯A			*5.3	
1262	10C19e	3007SI	下層	小型鉢	8.2		*4.2	
1263	10C19d	3007SI	下層	広口壷	15.8		*3.2	
1264	10C19e	3007SI	下層	広口壷	17.6		*3.6	
1265	10C19e	3007SI	下層	広口壷	15.4		*2.2	
1266	10C19e	3007SI	下層	広口壷	12.0		*4.6	
1267	10C19e	3007SI	上層	折り返し口縁壷	18.0		*3.6	遠江系
1268	10C19e	3007SI	上層	折り返し口縁壷	17.8		*1.8	遠江系
1269	10C19e	3007SI	床直	広口壷		6.2	*6.4	
1270	10C19e	3007SI	下層	広口壷		6.6	*3.8	
1271	10C19e	3007SI	上層	広口壷		7.6	*4.6	
1272	10C19e	3007SI	下層	広口壷		7.5	*3.3	
1273	10C19d	3007SI	下層	広口壷		6.0	*2.2	
1274	10C19e	3007SI	下層	内彎口縁壷A		3.8	*2.3	
1275	10C19e	3007SI	上層	中型壷		5.6	*2.2	
1276	10C19e	3007SI	上層	中型壷		4.0	*2.2	
1277	10C19e	3007SI	上層	内彎口縁壷B		4.0	*1.5	
1278	10C19e	3007SI	下層	甕	17.4		*4.3	
1279	10C19e	3007SI	上層	甕	15.6		*4.2	
1280	10C19e	3007SI	トレンチ	甕		7.5	*6.8	
1281	10C19e	3007SI	トレンチ	甕		6.3	*3.3	
1282	10C19d	3026SI	床直	広口壷		7.0	*2.4	
1283	10C19d	3026SI	下層	甕		9.4	*6.8	
1284	10C19d	3006SI	下層	甕		7.8	*7.1	
1285	10C19d	3026SI	下層	高杯			*6.3	
1286	10C19d	3006SI	上層	高杯		8.4	*7.0	
1287	10C19d	3026SI	上層	広口壷	21.8		*5.7	
1288	10C19d	3006SI	床直	甕	18.0		*15.5	
1289	10C19d	3006SI	床直	甕		7.5	*6.0	
1290	10C20d	3006SI	床直	甕		8.5	*6.7	
1291	10C19d	3006SI	床直	甕		7.3	*5.7	
1292	10C19d	3006SI	床直	高杯	22.0	11.0	18.3	
1293	10C19d	3006SI	床直	加飾広口壷	14.5		*14.2	
1294	10C19d	3006SI	床直	加飾広口壷	22.0		*4.9	
1295	10C20d	3006SI	床直	広口壷		7.6	*4.8	
1296	10C19d	3006SI	下層	高杯		9.0	*8.7	
1297	10C19d	3006SI	下層	小型高杯	16.2		*6.2	
1298	10C19d	3006SI	下層	広口壷	17.8		*3.2	
1299	10C19d	3026SI	下層	S字甕		10.0	*3.8	
1300	10C19d	3006SI	上層	中型鉢	12.2		*5.4	
1301	10C19d	3006SI	上層	甕	19.4		*3.9	
1302	10C19d	3006SI	上層	内彎口縁壷A		4.0	*3.9	
1303	10C19d	3006SI	上層	中型壷		7.4	*1.4	
1304	10C19d	3006SI	上層	中型壷		4.8	*1.8	
1305	10C19d	3006SI	上層	中型壷		5.8	*2.3	
1306	10C19d	3006SI	上層	中型壷		7.8	*2.7	
1307	10C19f	3082SI	下層	中型壷		4.3	*4.6	
1308	10C19f	3082SI	トレンチ	小型壷		3.4	*3.3	
1309	10C18f	3077SK	Ce群	甕	18.8		*3.1	
1310	10C18f	3077SK	Ce群	広口壷		8.2	*2.4	
1311	10C18f	3077SK	Ce群	甕		9.3	*7.3	
1312	10C18f	3021SX	Ce群	甕		8.3	*6.9	
1313	10C19f	3021SX	Ce群	高杯			*7.1	
1314	10C12b	1873SI	上層	高杯			*6.7	
1315	10C13b	1873SI	ベルト	広口壷		8.0	*4.8	
1316	10C13b	1873SI	上層	広口壷		6.4	*2.3	
1317	10B13b	1873SI	1892SK	甕	19.2		*15.0	
1318	10C14c	1872SI	床直	高杯		8.8	*8.6	
1319	10C14c	1872SI	床直	小型高杯	14.6		*9.5	
1320	10C13c	1872SI	下層	高杯	21.2		*3.9	
1321	10C13c	1872SI	下層	加飾広口壷	16.0		*4.2	
1322	10C13c	1872SI	下層	内彎口縁壷A	8.4		*4.3	
1323	10C13c	1872SI	上層	高杯			*8.2	
1324	10C13c	1872SI	上層	高杯	26.4		*3.6	
1325	10C14c	1872SI	上層	甕			*2.6	
1326	10C14c	1872SI	上層	甕			*2.6	
1327	10C13c	1872SI	上層	中型壷		6.0	*2.5	
1328	10C13c	1872SI	上層	加飾広口壷			*4.2	
1329	10C13c	1872SI	4887SK	高杯	22.8		*7.0	
1330	10C15c	1139SI	上層	小型鉢		3.2	*3.6	
1331	10C15c	1139SI	4920SK	甕	11.4		*3.5	
1332	10C15c	1140SI	下層	高杯	22.6		*5.0	
1333	10C15c	1140SI	下層	高杯	23.0		*4.2	
1334	10C15c	1140SI	下層	高杯			*5.0	
1335	10C15c	1140SI	下層	椀形高杯A			*4.3	
1336	10C14c	1140SI	下層	有段口縁甕A	19.0		*1.7	
1337	10C15c	1140SI	下層	内彎口縁壷A	16.4		*6.6	
1338	10C14c	1140SI	下層	小型壷		4.0	*2.9	
1339	10C14c	1140SI	上層	中型壷		5.0	*2.7	
1340	10C14c	1140SI	上層	加飾広口壷			*1.2	
1341	10C14c	1140SI	上層	加飾広口壷	18.4		*2.0	
1342	10C14c	1140SI	上層	広口壷			*1.9	東遠江(菊川)系
1343	10C15c	3034SI	床直	小型高杯	12.6		*5.0	
1344	10C15c	3034SI	床直	小型鉢(椀)	5.6	3.1	3.8	
1345	10C15c	3034SI	床直	内彎口縁壷C		4.9	*4.1	
1346	10C15c	3034SI	掘方	内彎口縁壷A	9.6		*4.3	
1347	10C15c	3034SI	トレンチ	甕		7.7	*4.9	
1348	10C15c	3034SI	上層	甕		8.8	*5.2	
1349	10C15c	3034SI	上層	甕		6.0	*4.6	
1350	10C15c	3034SI	上層	甕		5.8	*3.7	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
1351	10C15d	3042SI	床直	椀形高杯A			*8.0	
1352	10C15d	3042SI	上層	S字甕	12.4		*1.9	A類
1353	10C16d	3003SI	下層	内彎口縁壷C		4.2	*1.7	
1354	10C16d	3003SI	下層	広口壷		8.3	*3.0	
1355	10C17d	3003SI	下層	高杯			*5.5	
1356	10C16d	3003SI	上層	甕		7.2	*4.5	
1357	10C16c	3003SI	上層	高杯	24.2		*9.4	
1358	10C16c	3003SI	上層	甕	24.8		*2.8	
1359	10C16d	3003SI	上層	有段口縁甕B	15.4		*1.4	
1360	10C17e	3027SI	床直	広口壷	17.2		*4.8	
1361	10C17e	3027SI	床直	広口壷		7.6	*3.0	
1362	10C17e	3027SI	上層	加飾広口壷	17.2		*2.2	
1363	10C17e	3027SI		加飾広口壷			*14.6	
1364	10C17e	3027SI		小型壷		3.6	*2.0	底部線刻
1365	10C17e	3027SI	掘方	小型鉢	6.6	3.0	4.4	
1366	10C17e	3027SI	下層	高杯			*6.7	
1367	10C17e	3027SI	下層	叩き甕			*4.0	3005SIと同一
1368	10C17d	3027SI	3413SK	甕		9.0	*6.0	
1369	10C16d	3028SI	掘方	中型壷		5.6	*1.7	
1370	10C17d	3002SI	下層	器台			*3.0	
1371	10C17d	3002SI	下層	高杯			*6.6	
1372	10C17d	3002SI	下層	高杯			*3.0	
1373	10C17d	3002SI	上層	高杯			*3.7	
1374	10C17d	3002SI	下層	甕		5.7	*3.9	
1375	10C17d	3002SI	下層	甕			*3.9	
1376	10C17d	3002SI	トレンチ	甕		8.6	*5.4	
1377	10C17d	3002SI	上層	甕	15.6		*3.3	
1378	10C17d	3002SI	下層	広口壷	19.4		*1.2	
1379	10C17d	3002SI	下層	内彎口縁壷A	15.0		*4.6	
1380	10C17d	3002SI	上層	中型壷		5.6	*1.9	
1381	10C17d	3002SI	上層	小型壷		5.2	*5.5	
1382	10C17e	3002SI	床直	不明土製品	1.4		*1.8	重5.0g
1383	10C17e	3002SI	床直	球状土錘	長2.9	幅3.0	高2.8	重23.4g
1384	10C17d	5100SB	3033SK	広口壷		6.6	*3.7	
1385	10C15c	4999SK	Da群	広口壷		6.2	*3.1	
1386	10C16d	検出	Da群	高杯	23.8		*2.8	
1387	10C18c	検出	Da群	ミニチュア？			*3.0	
1388	10C11c	1863SI	上層	広口壷			*7.3	
1389	10C11c	1863SI	上層	小型鉢(椀)		3.7	*1.9	底部線刻
1390	10C11c	1863SI	上層	甕		9.8	*6.3	
1391	10C11c	1863SI	上層	甕		4.8	*2.7	
1392	10C10c	4414SI	下層	壷			*3.0	
1393	10C10c	4460SI	床直	高杯			*5.9	
1394	10C10c	4460SI	床直	小型鉢(椀)	6.8	4.5	5.5	
1395	10C10c	4460SI	床直	小型鉢		3.8	*2.1	
1396	10C11e	4502SI		甕	20.0		*3.1	
1397	10C10c	4502SI	下層	加飾広口壷	21.7		*6.1	
1398	10C10d	4459SI	下層	高杯	22.5	10.6	18.4	
1399	10C10d	4459SI	下層	脚付内彎浅鉢	21.9		*12.0	
1400	10C10d	4459SI	下層	広口壷	11.1	6.2	11.6	
1401	10C11d	4459SI	下層	内彎浅鉢		4.4	*7.2	
1402	10C10d	4459SI	下層	有孔鉢	22.5	5.0	16.0	
1403	10C10d	4459SI	下層	甕		10.0	*22.2	
1404	10C11d	4790SI	床直	甕		6.3	*9.0	
1405	10C11d	4790SI	下層	広口壷		7.1	*2.7	
1406	10C11d	4790SI	上層	甕	22.0		*10.0	
1407	10C12d	4357SI	上層	折り返し口縁壷	19.6		*2.1	遠江系
1408	10C12c	4360SI	床直	甕		9.2	*7.3	
1409	10C12d	4360SI	下層	加飾広口壷	14.8		*3.0	
1410	10C12c	4413SI	下層	広口壷	20.2		*3.4	
1411	10C12c	4413SI	上層	甕	18.0		*19.0	4359SIと接合
1412	10C12c	4413SI	上層	高杯			*4.7	
1413	10C12d	4413SI	上層	小型鉢(椀)		3.8	*2.1	
1414	10C12c	4413SI	上層	加飾広口壷			*7.9	
1415	10C12c	4413SI	上層	広口壷		8.9	*3.8	
1416	10C13d	3055SI	下層	内彎口縁甕	18.8		*3.5	4362SIと接合
1417	10C14l	3055SI		甕	16.6		*3.5	
1418	10C14e	3055SI		甕	21.6		*6.6	
1419	10C14l	3055SI		高杯			*5.8	
1420	10C14e	3055SI		壷		5.8	*2.8	
1421	10C13e	3055SI	下層	小型壷		3.0	*1.8	
1422	10C17f	3055SI	上層	中型壷		6.8	*4.2	
1423	10C14l	3055SI		加飾広口壷	17.8		*4.5	
1424	10C14e	3055SI		袋状口縁壷	16.0		*2.1	
1425	10C17f	3055SI	上層	中型壷	9.0		*8.5	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
1426	10C13d	4362SI	床直	高杯			*6.1	
1427	10C13d	4362SI	下層	広口壷	14.0		*4.2	
1428	10C13d	4362SI	下層	加飾広口壷	19.8		*2.4	
1429	10C13d	4362SI	上層	高杯			*7.1	
1430	10C13d	4362SI	上層	広口壷		5.2	*1.7	
1431	10C12d	4362SI	上層	甕	21.8		*5.2	
1432	10C13c	4362SI	掘方	球状土錘	長2.1	幅2.1	高1.6	重19.7g
1433	10C14d	4362SI	4551SK	高杯	22.4		*6.0	
1434	10C14d	4362SI	4551SK	甕		7.9	*6.9	
1435	10C14l	3128SI	床直	高杯		10.0	*8.5	
1436	10C14l	3128SI	床直	中型鉢		4.7	*5.1	
1437	10C12e	3556SI	床直	広口壷		6.6	*5.9	木葉痕
1438	10C12d	3556SI	下層	広口壷		6.2	*2.1	
1439	10C12d	3556SI	下層	広口壷		5.4	*4.1	
1440	10C12d	3556SI	下層	甕	13.6		*9.1	
1441	10C12d	3556SI	下層	甕	16.0		*12.5	
1442	10C15e	3004SI	下層	高杯	20.4		*4.0	
1443	10C15e	3004SI	下層	高杯			*5.1	
1444	10C15e	3004SI	下層	椀形高杯A	13.6	10.2	11.5	
1445	10C15e	3004SI	下層	甕		8.3	*5.1	
1446	10C15e	3004SI	下層	甕		7.2	*5.9	
1447	10C15e	3004SI	下層	小型鉢	4.1	4.5	6.8	
1448	10C15d	3004SI	下層	小型鉢(椀)	4.2	3.4	4.3	
1449	10C15e	3004SI	下層	小型鉢(椀)		2.6	*2.4	
1450	10C15e	3004SI	下層	広口壷		6.4	*2.0	
1451	10C15e	3004SI	上層	広口壷		5.8	*3.2	
1452	10C15d	3029SI	床直	縁帯口縁甕	22.0		*9.7	
1453	10C14d	3029SI	下層	小型壷		4.0	*1.1	
1454	10C15d	3029SI	下層	小型鉢(椀)		3.2	*2.4	
1455	10C14d	3029SI	上層	加飾広口壷	19.6		*1.8	
1456	10C14d	3029SI	上層	加飾広口壷	18.0		*5.2	
1457	10C14d	3029SI	上層	有段口縁甕A	18.0		*2.9	
1458	10C15d	3029SI	上層	甕		7.3	*3.9	
1459	10C15d	3029SI	上層	甕		7.7	*5.8	
1460	10C14d	3029SI	上層	高杯			*6.3	
1461	10C15d	3029SI	3458SK	甕		10.0	*8.9	
1462	10C14f	3025SI	下層	甕	27.2		*5.5	
1463	10C15e	3025SI	下層	内彎口縁甕	17.2		*2.5	
1464	10C15e	3025SI	下層	高杯			*12.0	
1465	10C14f	3025SI	下層	加飾広口壷			*4.3	
1466	10C15e	3025SI	下層	中型壷		6.0	*1.5	
1467	10C15f	3025SI	上層	広口壷		8.5	*2.4	
1468	10C15e	3025SI	トレンチ	加飾広口壷			*5.4	
1469	10C14e	3025SI	トレンチ	加飾広口壷			*2.5	
1470	10C14e	4975SK	Db群	内彎口縁壷A	7.6		*5.5	
1471	10C14e	4975SK	Db群	椀形高杯A	15.0		*5.7	
1472	10C14e	検出	Db群	加飾広口壷	18.0		*4.4	
1473	10C11d	検出	Db群	折り返し口縁壷	15.8		*1.4	遠江系
1474	10C12c	検出	Db群	小型鉢(椀)	7.0	3.7	3.2	水銀朱付着
1475	10C17f	3056SI	床直	広口壷		6.3	*5.9	
1476	10C17f	3056SI	下層	広口壷		5.9	*2.4	木葉痕
1477	10C16f	3056SI	上層	広口壷		8.6	*3.0	
1478	10C16f	3056SI	上層	広口壷	20.0		*4.4	
1479	10C16f	3056SI	上層	高杯			*7.2	
1480	10C16g	3037SI	下層	甕	19.6		*4.0	
1481	10C16g	3037SI	下層	縁帯口縁甕	17.6		*4.1	
1482	10C17g	3037SI	上層	甕	23.8		*11.7	
1483	10C17g	3037SI	上層	加飾広口壷			*3.0	
1484	10C16g	3037SI	上層	中型壷		4.2	*3.9	
1485	10C17g	3037SI	上層	高杯			*4.7	
1486	10C17e	3035SI	下層	広口壷	17.0		*4.6	
1487	10C17e	3035SI	下層	広口壷		10.6	*4.5	
1488	10C16f	3036SI	下層	甕	19.6		*5.6	
1489	10C16f	3036SI	下層	広口壷			*4.6	
1490	10C16f	3036SI	下層	広口壷		6.8	*2.4	
1491	10C16f	3036SI	掘方	中型壷	12.0		*3.8	
1492	10C17f	3005SI	下層	広口壷	14.5	6.0	23.4	
1493	10C17e	3005SI	下層	広口壷	11.3		*18.5	
1494	10C17f	3005SI	トレンチ	広口壷	13.1		*5.3	
1495	10C17f	3005SI	上層	広口壷	18.0		*5.6	
1496	10C17f	3005SI	トレンチ	加飾広口壷	12.2		*1.9	
1497	10C17f	3005SI	上層	加飾広口壷			*6.5	
1498	10C17f	3005SI	上層	加飾広口壷	23.0		*3.3	
1499	10C17f	3005SI	上層	広口壷		6.2	*7.0	
1500	10C17f	3005SI	上層	広口壷		4.8	*3.9	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
1501	10C17f	3005SI	上層	広口壷		10.7	*17.6	
1502	10C17f	3005SI	上層	広口壷		8.2	*6.8	
1503	10C17f	3005SI	上層	広口壷		7.2	*3.8	
1504	10C17f	3005SI	上層	広口壷		8.4	*2.7	
1505	10C17f	3005SI	上層	広口壷		8.4	*3.0	
1506	10C17f	3005SI	上層	広口壷		5.0	*2.0	
1507	10C17f	3005SI	上層	広口壷		9.0	*3.5	
1508	10C17f	3005SI	上層	広口壷		6.8	*3.0	
1509	10C18f	3005SI	上層	広口壷		6.9	*2.4	
1510	10C17f	3005SI	上層	中型壷		4.6	*1.6	
1511	10C17f	3005SI	上層	中型壷		5.2	*2.7	
1512	10C17f	3005SI	床直	椀形高杯A	16.0		*13.1	
1513	10C17f	3005SI	下層	椀形高杯A			*7.2	
1514	10C17f	3005SI	上層	椀形高杯A	15.6		*7.1	
1515	10C17f	3005SI	上層	椀形高杯A			*4.2	
1516	10C17f	3005SI	上層	椀形高杯A		10.9	*7.6	
1517	10C17f	3005SI	上層	高杯	22.4		*10.4	
1518	10C17f	3005SI	上層	有段口縁壷	21.2		*6.2	
1519	10C17e	3005SI	下層	甕	18.4		*22.6	
1520	10C17f	3005SI	下層	甕	19.0		*14.5	
1521	10C17e	3005SI	下層	甕		10.2	*7.5	1522と同一？
1522	10C17f	3005SI	下層	甕	19.0		*11.0	1521と同一？
1523	10C17f	3005SI	上層	甕	18.2		*15.7	
1524	10C17f	3005SI	上層	甕	16.6		*3.3	
1525	10C17f	3005SI	上層	甕	17.6		*10.6	
1526	10C17f	3005SI	上層	甕	14.2		*6.8	
1527	10C17f	3005SI	上層	甕		10.0	*4.6	
1528	10C17f	3005SI	上層	甕		8.6	*5.8	
1529	10C17e	3005SI	下層	大型(甕系)鉢	15.4	5.3	14.5	
1530	10C17f	3005SI	上層	有孔鉢		3.0	*3.1	
1531	10C17f	3005SI	上層	中型壷	12.8	5.6	7.5	
1532	10C17f	3005SI	上層	中型(壷系)鉢		3.4	*4.4	
1533	10C17f	3005SI	トレンチ	小型鉢(椀)	9.2	5.6	*4.0	
1534	10C17f	3005SI	3419SK	広口壷		7.0	*2.5	
1535	10C18f	3079SI	床直	甕	26.2		*8.3	
1536	10C17g	3079SI	床直	甕	21.8	9.3	29.4	
1537	10C18f	3079SI	床直	甕	16.0		*10.0	
1538	10C18g	3079SI	床直	甕		7.2	*5.0	
1539	10C18f	3079SI	床直	甕		7.6	*5.3	
1540	10C17g	3079SI	下層	内彎口縁甕	22.2		*8.3	
1541	10C18f	3079SI	上層	甕	17.8		*5.8	
1542	10C18g	3079SI	上層	有孔鉢		5.0	*6.3	
1543	10C18f	3079SI	床直	広口壷	14.5	7.0	28.0	木葉痕
1544	10C18f	3079SI	床直	広口壷		6.1	*3.0	
1545	10C18f	3079SI	下層	有段(複合)口縁壷	23.0		*6.0	西遠江(伊場)系
1546	10C17g	3079SI	下層	加飾広口壷			*13.0	
1547	10C18f	3079SI	下層	広口壷		5.8	*4.0	
1548	10C18g	3079SI	下層	中型壷		15.2	*3.5	
1549	10C18f	3079SI	下層	中型鉢		4.0	*4.5	
1550	10C18f	3079SI	上層	広口壷		8.2	*3.4	
1551	10C18g	3079SI	上層	加飾広口壷			*4.8	
1552	10C18f	3079SI	床直	高杯		10.2	*8.1	
1553	10C18f	3079SI	床直	高杯			*7.4	
1554	10C18f	3079SI	床直	高杯			*8.3	
1555	10C17g	3079SI	下層	高杯			*4.8	
1556	10C18g	3079SI	下層	高杯		10.0	*7.2	
1557	10C17g	3079SI	上層	椀形高杯A		10.6	*8.2	
1558	10C17g	3079SI	上層	高杯		11.0	*10.6	
1559	10C17h	3076SI	床直	内彎口縁壷A	8.5	4.4	16.5	
1560	10C17g	3076SI	下層	広口壷		5.4	*2.7	
1561	10C17g	3076SI	トレンチ	広口壷		7.0	*3.7	
1562	10C17g	3076SI	上層	広口壷		5.2	*3.6	
1563	10C17g	3076SI	トレンチ	中型鉢		4.6	*3.9	
1564	10C17h	3076SI	上層	内彎口縁壷A	11.4		*3.3	
1565	10C18h	3076SI	床直	有段口縁甕A	18.6		*2.2	
1566	10C17g	3076SI	下層	甕			*7.3	
1567	10C17g	3076SI	下層	甕		9.3	*5.3	
1568	10C17g	3076SI	トレンチ	甕		9.1	*6.9	
1569	10C17h	3076SI	上層	甕		8.2	*5.0	
1570	10C17g	3076SI	下層	椀形高杯A	19.4		*5.3	
1571	10C17g	3076SI	トレンチ	椀形高杯A			*7.3	
1572	10C18f	3075SI	床直	甕		8.4	*5.9	
1573	10C18f	3075SI	床直	有段口縁壷	17.6		*6.5	
1574	10C18h	3075SI	上層	広口壷		9.3	*3.7	
1575	10C18g	検出	Dc群	広口壷	17.4		*3.3	
1576	10C17g	検出	Dc群	広口壷		6.5	*3.5	
1577	10C16f	検出	Dc群	中型鉢		4.3	*2.9	
1578	10C18g	検出	Dc群	小型鉢(椀)		4.5	*2.3	
1579	10C16f	検出	Dc群	甕		7.5	*5.8	
1580	10C9e	4340SI	下層	広口壷		7.8	*2.2	
1581	10C10e	4340SI	上層	加飾広口壷			*5.1	
1582	10C10d	4341SI	下層	小型鉢	9.0		*4.2	
1583	10C10d	4341SI	下層	中型壷		4.4	*2.3	
1584	10C10d	4341SI	下層	内彎口縁壷D		5.4	*4.4	
1585	10C10d	4341SI	上層	折り返し口縁壷	17.8		*1.0	遠江系
1586	10C11e	4337SI	下層	甕	20.0		*3.5	
1587	10C11e	4337SI	下層	広口壷	13.8		*5.4	4338SIと接合
1588	10C11e	4337SI	下層	小型高杯	12.4	9.8	9.7	4338SIと接合
1589	10C11c	4337SI	4822SK	小型鉢(椀)	7.8	3.4	4.5	
1590	10C11d	4338SI	炉	甕		9.0	*5.7	
1591	10C11d	4338SI	下層	甕	10.6		*6.5	
1592	10C10d	4338SI	上層	甕		9.2	*5.7	
1593	10C10e	4338SI	上層	甕	22.0		*8.5	
1594	10C10d	4338SI	床直	内彎口縁壷A		5.0	*3.5	
1595	10C11d	4338SI	下層	小型壷	6.4		*3.6	
1596	10C10d	4338SI	上層	中型壷		3.8	*2.3	
1597	10C10d	4338SI	上層	中型壷		5.6	*1.6	
1598	10C10d	4338SI	上層	小型壷		4.0	*1.6	
1599	10C10d	4338SI	上層	加飾広口壷	16.3		*1.5	
1600	10C10d	4338SI	上層	内彎口縁壷A	11.0		*4.1	
1601	10C13f	4336SI	掘方	高杯	20.6		*9.7	
1602	10C13f	4336SI	下層	高杯			*4.2	
1603	10C13f	4336SI	下層	高杯			*6.2	
1604	10C13f	4336SI	上層	椀形高杯B	12.0		*3.5	
1605	10C13f	4336SI	下層	広口壷		7.4	*2.1	
1606	10C12e	4336SI	上層	加飾広口壷			*3.3	
1607	10C13f	4336SI	下層	内彎口縁甕	19.0		*2.5	
1608	10C13f	4336SI	上層	有段浅鉢	16.0		*6.2	
1609	10C13f	4342SI	下層	甕	12.6		*6.7	
1610	10C12f	4342SI	上層	甕			*9.1	
1611	10C12f	4342SI	掘方	広口壷	18.0		*3.4	
1612	10C10g	3797SI	床直	縁帯口縁甕	22.0		*4.3	
1613	10C10g	3797SI	床直	甕	17.2	8.2	*11.1	
1614	10C10g	3797SI	床直	小型丸底壷	8.0		*9.6	
1615	10C10g	3797SI	床直	加飾広口壷	24.0		*7.1	
1616	10C10g	3797SI	下層	有段口縁甕A	22.2		*5.4	
1617	10C9g	3797SI	上層	甕	17.0		*6.2	
1618	10C9g	3797SI	上層	加飾広口壷			*4.9	
1619	10C9g	3797SI	上層	広口壷		7.1	*3.5	
1620	10C9g	3797SI	上層	高杯			*3.3	
1621	10C10g	3797SI	掘方	甕		11.2	*6.7	
1622	10C11f	3832SI	床直	高杯	30.8		*9.7	
1623	10C11f	3832SI	床直	高杯		16.2	*16.2	
1624	10C11g	3832SI	下層	高杯	21.6		*9.4	3830SIに帰属
1625	10C11g	3832SI	下層	加飾広口壷	17.8		*17.5	3830SIに帰属
1626	10C11g	3832SI	下層	内彎口縁壷A	10.4		*3.8	3830SIに帰属
1627	10C11f	3832SI	下層	加飾広口壷	14.0		*3.6	
1628	10C11f	3832SI	下層	加飾広口壷	17.0		*6.7	3830SIに帰属
1629	10C11f	3832SI	下層	広口壷		7.4	*3.6	
1630	10C11f	3832SI	下層	広口壷		6.4	*2.8	
1631	10C11g	3832SI	上層	加飾広口壷			*4.5	
1632	10C11f	3832SI	下層	甕	16.0		*3.3	3830SIに帰属
1633	10C11f	3832SI	下層	甕		10.0	*6.2	
1634	10C11g	3832SI	上層	甕	19.8	8.6	*10.8	
1635	10C10g	4770SI	上層	甕	18.0		*4.5	
1636	10C10g	4770SI	上層	甕	19.6		*3.6	
1637	10C10g	4770SI	上層	甕		8.4	*5.8	
1638	10C10g	4770SI	上層	甕			*6.0	
1639	10C10g	3830SI	上層	内彎口縁壷C		5.2	*4.2	二(三)連土器？
1640	10C11f	3830SI	上層	広口壷		6.0	*2.3	
1641	10C11f	3830SI	上層	小型鉢		4.0	*2.9	
1642	10C12g	3831SI	掘方	加飾広口壷			*4.0	
1643	10C13g	3932SI	下層	内彎口縁壷A	12.2		*4.7	
1644	10C13g	3932SI	下層	中型壷		4.4	*2.7	
1645	10C13g	3932SI	下層	高杯			*5.2	
1646	10C13g	3931SI	床直	甕		6.5	*12.0	
1647	10C13h	3931SI	下層	内彎口縁甕	11.8		*13.2	
1648	10C12g	3931SI	下層	広口壷	13.2		*4.4	
1649	10C12g	3931SI	下層	小型鉢(椀)	8.5	4.2	5.4	
1650	10C12g	3931SI	上層	内彎口縁甕			*2.2	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
1651	10C12g	3931SI	上層	甕		6.8	*4.3	
1652	10C13g	3931SI	上層	高杯	20.8		*7.5	
1653	10C13g	3931SI	上層	小型鉢(椀)	11.4	4.4	5.3	水銀朱/ススi付着
1654	10C13g	3931SI	上層	小型鉢(椀)		3.6	*2.7	水銀朱/ススi付着
1655	10C13g	3931SI	上層	加飾広口壷			*2.8	
1656	10C13h	4021SI	4823SK	有段口縁甕A	14.3	7.5	19..5	
1657	10C12f	検出	Dd群	平底甕		4.9	*8.5	
1658	10C13f	検出	Dd群	パレス系壷	12.8		*4.0	
1659	10C10d	検出	Dd群	加飾広口壷			*6.1	
1660	10C11e	検出	Dd群	広口壷	13.8		*2.7	
1661	10C11e	検出	Dd群	袋状口縁壷	15.0		*4.5	
1662	10C11e	検出	Dd群	広口壷		7.7	*2.1	
1663	10C9e	検出	Dd群	甕		6.4	*4.8	
1664	10C9e	検出	Dd群	叩き甕		4.2	*2.3	
1665	10C11e	4651SK	Dd群	甕		10.1	*6.0	
1666	10C12g	4190SK	De群	甕		6.5	*3.3	
1667	10C15g	3261SI	床直	広口壷		6.2	*2.8	
1668	10C14f	3261SI	床直	高杯		19.6	*7.1	
1669	10C13g	3261SI	上層	小型鉢		55.8	*1.9	
1670	10C15g	3261SI	上層	小型鉢(椀)	4.8	3.0	5.2	
1671	10C13g	3261SI	上層	甕	25.2		*12.7	
1672	10C14g	3057SI	床直	高杯			*7.0	
1673	10C14f	3057SI	下層	中型壷		6.8	*2.5	
1674	10C15g	3057SI	下層	甕	24.0		*6.8	
1675	10C14g	3057SI	下層	甕	25.2		*4.8	
1676	10C14h	3216SI	床直	甕	20.8		*23.2	
1677	10C13g	3216SI	床直	高杯		9.7	*8.0	
1678	10C13g	3216SI	下層	有段口縁甕B	19.6		*2.3	
1679	10C13h	3216SI	下層	高杯		9.2	*8.8	
1680	10C13g	3216SI	下層	高杯		10.0	*7.3	
1681	10C13h	3216SI	下層	広口壷		6.9	*2.5	
1682	10C14g	3216SI	上層	甕		9.0	*6.2	
1683	10C13h	3216SI	上層	高杯	18.4		*10.8	
1684	10C13h	3216SI	上層	加飾広口壷	16.2		*4.1	
1685	10C14g	3217SI	下層	広口壷		5.4	*1.8	
1686	10C14g	3217SI	上層	折り返し口縁壷	16.0		*2.2	遠江系
1687	10C15g	3282SI	床直	中型壷		6.5	*9.0	
1688	10C15h	3185SI	床直	広口壷	12.8		*9.8	
1689	10C15h	3185SI	床直	甕		8.5	*5.8	
1690	10C15h	3185SI	床直	不明土製品		11.9	*3.3	重*321.3g
1691	10C15g	3215SI	床直	甕	12.0	7.5	16.5	
1692	10C15g	3215SI	床直	甕		6.0	*8.0	
1693	10C15h	3215SI	床直	椀形高杯A		11.8	*6.8	
1694	10C15g	3215SI	床直	高杯		10.2	*9.0	
1695	10C15h	3215SI	下層	高杯	19.8		*3.6	
1696	10C15h	3215SI	床直	内彎口縁壷A		4.4	*12.9	
1697	10C15h	3215SI	床直	広口壷		6.4	*2.4	
1698	10C15g	3215SI	下層	広口壷		9.0	*4.2	
1699	10C15h	3215SI	下層	中型壷		4.4	*1.9	
1700	10C15g	3215SI	下層	広口壷		7.4	*2.3	
1701	10C15h	3215SI	下層	加飾広口壷	12.8		*2.3	
1702	10C14h	3215SI	下層	加飾広口壷			*2.8	
1703	10C16h	3205SI	床直	中型壷		7.2	*14.6	東遠江(菊川)系
1704	10C17h	3205SI	床直	内彎口縁壷D	9.1	5.2	12.9	
1705	10C17h	3205SI	床直	広口壷		7.0	*3.1	
1706	10C16h	3205SI	下層	甕	21.6		*5.8	
1707	10C16h	3205SI	3310SK	中型壷		4.7	*4.8	
1708	10C16h	3205SI	3310SK	甕		9.4	*6.5	
1709	10C16h	3205SI	3309SK	中型壷		6.4	*2.9	
1710	10C16i	3206SI	床直	中型鉢	12.4	6.4	12.9	
1711	10C18h	3206SI	床直	高杯	20.0		*10.2	
1712	10C18h	3206SI	床直	柳ヶ坪型壷	17.4		*4.6	
1713	10C17h	3206SI	床直	甕		8.8	*5.4	
1714	10C16h	3206SI	上層	甕		8.3	*5.3	
1715	10C17h	3206SI	5163SK	甕		6.8	*4.6	
1716	10C16g	3300SB	3040SD	広口壷		6.8	*2.2	
1717	10C16g	3300SB	3040SD	甕		9.0	*7.0	
1718	10C16g	3300SB	3040SD	高杯	20.0		*2.4	
1719	10C16g	3300SB	3040SD	高杯	23.8		*7.4	
1720	10C15h	3300SB	5135SK	甕		6.0	*4.2	
1721	10C15g	3300SB	5134SK	中型壷		6.0	*4.6	
1722	10C14f	3468SK	Df群	内彎口縁壷A	8.4		*3.7	
1723	10C16g	検出	Df群	甕	15.6		*6.8	
1724	10C17i	3117SI	床直	広口壷	16.6		*8.3	
1725	10C16i	3117SI	上層	甕	17.6		*11.4	
1726	10C18i	3099SI	下層	高杯	13.4		*7.6	1728と同一？
1727	10C18i	3099SI	下層	高杯			*12.0	
1728	10C18i	3099SI	トレンチ	高杯			*8.4	1726と同一？
1729	10C18i	3099SI	下層	(鍔状口縁)高杯		9.6	*9.6	東遠江(菊川)系
1730	10C18i	3099SI	下層	小型鉢	11.2	4.5	9.1	西遠江(伊場)系
1731	10C18i	3099SI	下層	広口壷		7.8	*3.3	
1732	10C18i	3099SI	下層	広口壷		6.4	*1.9	
1733	10C18i	3121SI	床直	甕	15.5		*14.6	
1734	10C17i	3121SI	下層	布留式(系)甕	18.0		*6.0	近畿系
1735	10C17i	3121SI	下層	甕	15.6		*4.7	
1736	10C17i	3121SI	下層	有段口縁甕B	17.6		*2.8	
1737	10C18i	3121SI	床直	高杯	20.6		*4.5	
1738	10C17i	3121SI	下層	高杯		10.2	*8.6	
1739	10C17i	3121SI	下層	高杯	22.9	10.5	14.8	
1740	10C18i	3121SI	下層	高杯			*5.2	
1741	10C17i	3121SI	下層	パレス系壷	14.6		*1.8	
1742	10C18i	3121SI	トレンチ	広口壷	16.3		*6.6	
1743	10C18j	3121SI	上層	広口壷		16.0	*2.7	
1744	10C17i	3121SI	上層	広口壷		6.0	*1.8	
1745	10C18j	3098SI	下層	中型壷	10.6		*6.3	
1746	10C18j	3098SI	上層	甕		8.0	*4.7	
1747	10C18j	3098SI	上層	高杯	23.6		*9.0	
1748	10C17i	3136SK	Dg群	袋状口縁壷	19.4		*4.2	
1749	10C18i	3263SK	Dg群	高杯			*5.9	
1750	10C18i	3263SK	Dg群	広口壷		6.2	*3.1	
1751	10C18h	検出	Dg群	焼成粘土塊	長5.9	幅2.5	高1.9	重27.0g
1752	10C14f	検出	Dg群	内彎口縁壷B		3.8	*3.7	
1753	10C14g	検出	Dg群	パレス系壷	19.0		*2.6	
1754	10C17h	検出	Dg群	折り返し口縁壷	18.0		*1.1	遠江系
1755	10C17i	検出	Dg群	広口壷		8.4	*4.3	
1756	10C17h	検出	Dg群	広口壷		6.1	*2.7	
1757	10C8h	3811SI	下層	高杯			*6.3	
1758	10C8h	3811SI	上層	高杯		12.0	*9.2	
1759	10C8h	3811SI	下層	小型鉢(椀)	8.0	3.9	*4.6	
1760	10C8h	3811SI	上層	小型壷		2.8	*1.7	
1761	10C8h	3811SI	床直	広口壷		5.0	*2.9	
1762	10C8h	3811SI	上層	広口壷		6.0	*2.4	
1763	10C8h	3811SI	上層	加飾広口壷			*6.3	
1764	10C8h	3811SI	上層	広口壷	18.0		*4.1	
1765	10C8h	3811SI	上層	袋状口縁壷	12.0		*2.9	
1766	10C8h	3811SI	上層	甕	17.4		*3.8	
1767	10C9i	3814SI	下層	内彎口縁壷A	12.0		*2.6	
1768	10C8h	3897SI	下層	甕			*4.8	
1769	10C8h	3897SI	下層	広口壷	11.0		*6.4	
1770	10C8h	3306SI	床直	高杯		12.9	*11.1	
1771	10C8h	3306SI	上層	椀形高杯A		11.9	*5.0	
1772	10C8i	3306SI	上層	高杯			*5.5	
1773	10C8i	3306SI	上層	高杯			*4.8	
1774	10C9h	3306SI	上層	椀形高杯A		12.6	*3.2	
1775	10C8i	3306SI	上層	椀形高杯	11.2		*3.2	
1776	10C8h	3306SI	下層	広口壷	16.8		*2.7	
1777	10C8i	3306SI	上層	パレス系壷	24.0		*5.1	
1778	10C8i	3306SI	上層	加飾広口壷	20.3		*7.0	
1779	10C8i	3306SI	上層	広口壷		7.4	*3.3	
1780	10C8i	3306SI	上層	広口壷		7.2	*3.4	
1781	10C8i	3306SI	上層	広口壷		6.2	*1.9	
1782	10C8i	3306SI	上層	広口壷		4.2	*1.3	
1783	10C8i	3306SI	上層	大型(甕系)鉢	18.6	7.4	15.2	
1784	10C8i	3306SI	上層	内彎口縁甕	17.0		*18.4	
1785	10C8i	3306SI	上層	縁帯口縁甕	16.0		*7.3	
1786	10C8i	3306SI	上層	甕	18.4		*4.7	
1787	10C8i	3306SI	上層	甕		9.0	*5.9	
1788	10C10i	3404SI	床直	内彎口縁壷D	15.0	5.0	*13.6	
1789	10C10l	3404SI	下層	加飾広口壷	16.4		*11.3	
1790	10C10h	3404SI	下層	広口壷		8.6	*2.6	
1791	10C9h	3404SI	下層	広口壷		5.6	*1.7	
1792	10C10i	3404SI	上層	パレス系壷	20.0		*3.8	
1793	10C10i	3404SI	上層	加飾広口壷	17.0		*4.5	
1794	10C10h	3404SI	上層	袋状口縁壷	18.6		*8.7	
1795	10C10i	3404SI	トレンチ	有段口縁壷	16.6		*5.2	
1796	10C10h	3404SI	上層	広口壷		6.8	*2.4	
1797	10C10i	3404SI	上層	広口壷		5.3	*2.6	
1798	10C9h	3404SI	上層	広口壷		6.7	*2.1	木葉痕
1799	10C10i	3404SI	上層	広口壷		6.0	*4.5	
1800	10C10i	3404SI	トレンチ	広口壷		6.9	*2.7	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
1801	10C10i	3404SI	上層	広口壷		5.8	*1.2	
1802	10C10i	3404SI	上層	広口壷		6.4	*2.8	
1803	10C9i	3404SI	上層	中型壷	8.9	6.4	13.1	
1804	10C9i	3404SI	上層	中型壷	10.2		*7.1	
1805	10C9h	3404SI	上層	S字甕	19.0		*1.9	B類新
1806	10C10i	3404SI	上層	甕		7.3	*7.2	
1807	10C10h	3404SI	上層	甕			*12.6	
1808	10C10i	3404SI	上層	高杯			*4.8	
1809	10C10i	3404SI	上層	高杯			*8.0	
1810	10C10i	3404SI	上層	高杯			*7.1	
1811	10C10i	3404SI	上層	椀形高杯			*5.6	
1812	10C10h	3404SI	上層	小型鉢(椀)	7.4	3.8	4.5	
1813	10C8j	3669SI	下層	加飾広口壷	21.8		*6.9	
1814	10C9j	3669SI	下層	加飾広口壷			*5.1	
1815	10C9j	3669SI	下層	椀形高杯A			*5.4	
1816	10C8j	3669SI	トレンチ	高杯			*5.3	
1817	10C8j	3669SI	掘方	高杯			*5.5	
1818	10C8h	検出	Ea群	甕	18.8		*5.8	
1819	10C9h	検出	Ea群	甕		7.2	*4.9	
1820	10C9h	検出	Ea群	広口壷		6.6	*2.3	木葉痕
1821	10C11h	3376SI	床直	甕	19.6		*9.8	
1822	10C12i	3376SI	床直	広口壷	14.0		*5.5	
1823	10C12i	3376SI	下層	有段口縁甕B	18.0		*2.1	
1824	10C11i	3375SI	床直	高杯	22.0	11.6	16.1	
1825	10C11i	3375SI	床直	甕		7.6	*4.5	
1826	10C11i	3375SI	上層	縁帯口縁甕	18.8		*5.3	
1827	10C11i	3375SI	上層	甕		7.9	*4.9	
1828	10C11i	3375SI	上層	高杯			*5.1	
1829	10C11i	3375SI	上層	高杯			*6.4	
1830	10C11i	3375SI	上層	広口壷		6.6	*5.3	
1831	10C11i	3375SI	トレンチ	広口壷		7.2	*2.3	
1832	10C10l	検出	Ec群	広口壷			*5.0	体部線刻
1833	10C11i	3375SI	トレンチ	広口壷			*5.2	体部線刻
1834	10C10k	3710SI	掘方	甕			*4.9	
1835	10C10k	3710SI	上層	加飾広口壷			*3.8	
1836	10C10j	3711SI	上層	中型鉢		4.8	*3.6	
1837	10C10j	3711SI	上層	広口壷		7.0	*2.1	
1838	10C10j	3711SI	上層	加飾広口壷			*4.7	
1839	10C12h	4307SK	Eb群	中型鉢		5.2	*2.6	
1840	10C10h	検出	Eb群	広口壷		7.4	*2.6	
1841	10C9k	検出	Eb群	手焙形土器			*3.9	
1842	10C13h	3907SI	下層	加飾広口壷	15.8		*1.3	
1843	10C13h	3907SI	下層	広口壷		6.4	*4.0	
1844	10C12i	3907SI	下層	加飾広口壷			*4.6	
1845	10C13j	3933SI	床直	広口壷		8.1	*14.9	
1846	10C12j	3933SI	床直	高杯		12.2	*10.7	
1847	10C12j	3933SI	床直	高杯		11.3	*11.1	
1848	10C12j	3933SI	下層	広口壷	13.2		*7.4	3949SIと接合
1849	10C13j	3933SI	下層	内彎口縁壷A	12.8		*9.0	
1850	10C12j	3933SI	下層	高杯		12.7	*7.5	
1851	10C12j	3933SI	下層	小型鉢(椀)		3.2	*1.9	
1852	10C12j	3933SI	下層	小型鉢(椀)		3.2	*2.4	
1853	10C11j	3948SI	掘方	折り返し口縁壷	20.0		*1.9	遠江系
1854	10C11j	3948SI	掘方	椀形高杯A	18.4		*3.9	
1855	10C12i	3906SI	床直	甕	16.0		*5.8	
1856	10C12i	3906SI	床直	袋状口縁壷	16.6		*8.3	3909SIと同一
1857	10C13i	3906SI	下層	甕		17.0	*4.3	
1858	10C13i	3906SI	上層	有孔鉢		4.4	*3.2	
1859	10C12i	3906SI	掘方	高杯			*6.7	
1860	10C13h	3908SI	床直	加飾広口壷	17.0		*11.5	
1861	10C13h	3908SI	床直	広口壷		8.5	*7.2	
1862	10C13h	3908SI	床直	甕		9.6	*6.4	
1863	10C13h	3908SI	床直	甕		8.4	*5.5	
1864	10C13h	3908SI	床直	甕			*5.5	
1865	10C13h	3908SI	床直	甕			*3.7	
1866	10C13h	3908SI	床直	高杯			*5.0	
1867	10C14h	3908SI	下層	椀形高杯			*4.3	
1868	10C12k	3949SI	上層	加飾広口壷	12.0		*3.1	
1869	10C12k	3949SI	下層	甕		6.3	*4.2	
1870	10C12k	3949SI	4426SK	甕			*5.8	
1871	10C11k	4174SI	掘方	小型鉢(椀)	8.5	4.0	3.9	
1872	10C12k	4174SI	掘方	甕		9.8	*6.2	
1873	10C11k	4173SI	下層	甕	18.0		*5.0	1874と同一？
1874	10C11k	4173SI	上層	甕		10.3	*11.3	1873と同一？
1875	10C11k	4173SI	上層	高杯			*6.0	
1876	10C13k	3947SI	床直	甕		8.8	*6.6	
1877	10C13k	3947SI	トレンチ	椀形高杯A			*7.2	
1878	10C12k	3947SI	4435SK	加飾広口壷	19.0		*5.6	
1879	10C12k	3947SI	4435SK	椀形高杯		9.6	*2.2	
1880	10C11k	3909SI	床直	甕		7.2	*5.1	
1881	10C12j	3909SI	下層	高杯		9.4	*7.3	
1882	10C12k	3909SI	下層	高杯	22.0		*3.3	
1883	10C11k	3909SI	下層	高杯	16.2		*6.0	
1884	10C12j	3909SI	上層	有段(複合)口縁壷	17.8		*3.2	西遠江(伊場)系
1885	10C11j	3909SI	上層	中型鉢		7.1	*7.5	
1886	10C11j	3909SI	上層	パレス系壷		7.0	*1.1	
1887	10C10l	3743SI	下層	甕	21.0	10.2	24.7	
1888	10C10k	3743SI	下層	甕	23.2		*5.8	
1889	10C11l	3743SI	下層	甕	15.2		*3.8	
1890	10C11k	3743SI	下層	有段口縁甕A	15.4		*2.1	
1891	10C11l	3743SI	下層	有段口縁甕A	14.4		*1.6	
1892	10C10l	3743SI	上層	縁帯口縁甕	13.0		*7.2	
1893	10C11k	3743SI	下層	広口壷		7.2	*4.4	
1894	10C10k	3743SI	下層	広口壷		6.6	*5.2	
1895	10C10k	3743SI	下層	広口壷		7.4	*2.2	
1896	10C10l	3743SI	下層	広口壷		6.9	*3.4	
1897	10C11l	3743SI	下層	広口壷		5.2	*2.0	
1898	10C11k	3743SI	下層	中型壷		4.8	*2.2	
1899	10C11k	3743SI	下層	中型壷		4.9	*2.8	
1900	10C11k	3743SI	下層	中型壷		5.4	*10.4	
1901	10C10k	3743SI	上層	中型壷		5.0	*3.7	
1902	10C11l	3766SI	4399SK	有段口縁甕A	18.0		*6.1	
1903	10C11l	3766SI	4399SK	中型壷	10.3	4.9	13.5	
1904	10C10l	3742SI	上層	庄内式甕？	31.0		*5.2	近畿系？
1905	10C10l	3742SI	下層	甕	21.0		*2.9	
1906	10C10l	3742SI	下層	有段口縁甕A	19.0		*12.4	
1907	10C10l	3742SI	上層	有段口縁甕A	19.4		*10.1	
1908	10C10m	3742SI	上層	有段口縁甕B	21.2		*3.3	
1909	10C9m	3742SI	上層	内彎口縁甕	20.4		*13.2	
1910	10C10l	3742SI	下層	甕	16.6		*8.3	
1911	10C10l	3742SI	下層	甕	22.8		*13.7	
1912	10C9l	3742SI	下層	甕	20.8		*23.9	
1913	10C10l	3742SI	下層	甕	22.2		*3.2	
1914	10C9l	3742SI	上層	内彎口縁甕	20.0		*8.2	
1915	10C10l	3742SI	上層	甕	25.0		*3.5	
1916	10C9l	3742SI	上層	甕	22.4		*4.1	
1917	10C9l	3742SI	上層	甕	18.4		*7.0	
1918	10C10l	3742SI	下層	甕		10.4	*12.7	
1919	10C10l	3742SI	下層	有段口縁甕A	16.2		*13.6	
1920	10C10l	3742SI	上層	有段口縁甕A	17.4		*2.0	
1921	10C10l	3742SI	上層	有段口縁甕A	16.6		*2.1	
1922	10C9l	3742SI	上層	有段口縁甕A	17.0		*3.1	
1923	10C10l	3742SI	下層	内彎口縁甕	19.0		*3.5	
1924	10C10l	3742SI	上層	内彎口縁甕	17.4		*19.4	
1925	10C10l	3742SI	上層	甕	16.4		*3.5	
1926	10C10l	3742SI	上層	甕	13.6		*18.1	
1927	10C10l	3742SI	床直	甕		10.4	*6.2	
1928	10C10l	3742SI	床直	甕		10.2	*6.5	
1929	10C10l	3742SI	下層	甕		9.5	*5.8	
1930	10C10l	3742SI	下層	甕		8.7	*6.8	
1931	10C10l	3742SI	下層	甕		8.6	*6.1	
1932	10C10l	3742SI	下層	甕		8.6	*7.6	
1933	10C10l	3742SI	上層	甕		7.9	*8.0	
1934	10C9l	3742SI	上層	甕		8.1	*8.3	
1935	10C10m	3742SI	上層	甕		9.8	*6.1	
1936	10C10l	3742SI	上層	甕		9.6	*5.3	
1937	10C9l	3742SI	上層	甕		8.4	*5.4	
1938	10C10l	3742SI	上層	甕		9.2	*5.8	
1939	10C10l	3742SI	上層	甕		9.2	*6.7	
1940	10C10l	3742SI	上層	甕		9.8	*6.6	
1941	10C10l	3742SI	上層	甕		8.9	*6.2	
1942	10C9l	3742SI	上層	甕		7.8	*6.0	
1943	10C9l	3742SI	上層	甕		8.2	*6.7	
1944	10C9m	3742SI	トレンチ	甕		8.1	*6.1	
1945	10C9l	3742SI	トレンチ	甕		8.1	*5.5	
1946	10C10l	3742SI	トレンチ	甕		8.4	*5.7	
1947	10C9l	3742SI	上層	甕		7.0	*7.3	
1948	10C10l	3742SI	上層	甕		7.8	*5.3	
1949	10C9l	3742SI	上層	甕		7.5	*5.2	
1950	10C10l	3742SI	下層	甕		7.2	*4.9	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
1951	10C10m	3742SI	上層	甕		7.2	*4.9	
1952	10C10l	3742SI	下層	甕		7.5	*4.8	
1953	10C9l	3742SI	上層	甕		7.2	*5.2	
1954	10C9l	3742SI	上層	甕		6.4	*3.9	
1955	10C10l	3742SI	下層	甕		5.5	*3.4	
1956	10C10l	3742SI	下層	中型鉢	10.9		*7.5	
1957	10C10l	3742SI	下層	有段浅鉢	12.8		*7.3	
1958	10C9l	3742SI	上層	中型鉢	16.4		*5.7	
1959	10C10l	3742SI	上層	大型(甕系)鉢	16.1	5.6	18.6	
1960	10C10l	3742SI	下層	中型鉢		4.8	*3.4	
1961	10C10l	3742SI	下層	中型鉢		4.0	*2.4	
1962	10C10l	3742SI	上層	中型鉢		6.2	*3.7	底部粘土付着
1963	10C10l	3742SI	上層	中型鉢		5.0	*3.9	
1964	10C10l	3742SI	上層	中型鉢		4.7	*2.9	
1965	10C9l	3742SI	上層	中型鉢		4.2	*2.4	
1966	10C10l	3742SI	上層	小型鉢(椀)		4.3	*4.5	底部線刻
1967	10C9l	3742SI	上層	小型鉢(椀)	7.0	4.7	4.5	
1968	10C10l	3742SI	上層	小型鉢(椀)	10.4	5.1	*4.3	水銀朱付着
1969	10C9l	3742SI	下層	椀形高杯A	19.0		*4.5	
1970	10C9l	3742SI	上層	椀形高杯A	20.2		*10.6	
1971	10C10l	3742SI	下層	小型高杯	13.1		*9.4	
1972	10C9l	3742SI	上層	小型高杯			*6.1	
1973	10C10l	3742SI	下層	椀形高杯A	13.8		*6.9	
1974	10C10l	3742SI	下層	椀形高杯A			*6.1	
1975	10C9l	3742SI	上層	椀形高杯A			*6.4	
1976	10C10l	3742SI	上層	椀形高杯A			*4.6	
1977	10C10l	3742SI	上層	椀形高杯A		14.0	*7.4	
1978	10C10l	3742SI	上層	椀形高杯A		13.0	*7.4	
1979	10C10l	3742SI	上層	椀形高杯A			*7.9	
1980	10C10l	3742SI	上層	椀形高杯A		11.2	*6.5	
1981	10C10l	3742SI	下層	高杯	23.6		*8.6	
1982	10C10l	3742SI	下層	高杯			*6.9	
1983	10C10l	3742SI	上層	高杯	21.2		*6.8	
1984	10C10l	3742SI	上層	高杯			*10.3	
1985	10C9l	3742SI	上層	高杯	22.2		*8.7	
1986	10C9l	3742SI	上層	高杯		12.0	*12.8	
1987	10C10l	3742SI	下層	高杯			*7.1	
1988	10C9m	3742SI	上層	高杯		11.7	*11.8	
1989	10C10l	3742SI	上層	高杯			*5.0	
1990	10C10l	3742SI	上層	高杯		11.6	*9.9	
1991	10C10l	3742SI	上層	高杯		10.6	*11.8	
1992	10C10l	3742SI	トレンチ	高杯		12.0	*11.1	
1993	10C9m	3742SI	上層	高杯		13.4	*11.2	
1994	10C10l	3742SI	上層	高杯		12.5	*9.7	
1995	10C10l	3742SI	上層	高杯		10..8	*7.5	
1996	10C9l	3742SI	上層	高杯		11.7	*8.3	
1997	10C10l	3742SI	上層	高杯		12.2	*10.2	
1998	10C9l	3742SI	上層	高杯		9.8	*8.0	
1999	10C9l	3742SI	上層	高杯			*4.2	
2000	10C9l	3742SI	上層	器台			*8.1	
2001	10C10l	3742SI	上層	脚付内彎口縁壷			*5.8	
2002	10C9l	3742SI	上層	有段口縁壷	28.6		*6.9	
2003	10C10l	3742SI	下層	有段口縁壷	18.2		*5.2	
2004	10C10l	3742SI	上層	有段口縁壷	20.2		*6.2	
2005	10C10l	3742SI	上層	直口壷	12.4		*23.5	
2006	10C10l	3742SI	下層	内彎口縁壷B		4.0	*2.2	
2007	10C9l	3742SI	上層	内彎口縁壷B		2.0	*7.1	
2008	10C10l	3742SI	上層	内彎口縁壷D	11.6		*6.1	
2009	10C9l	3742SI	上層	広口壷	12.0		*2.9	
2010	10C9l	3742SI	上層	広口壷	9.9		*12.1	
2011	10C9l	3742SI	下層	広口壷	14.6		*4.3	
2012	10C10l	3742SI	下層	広口壷	7.8		*5.0	
2013	10C10l	3742SI	下層	広口壷	16.2		*6.5	
2014	10C10l	3742SI	上層	広口壷	18.2		*7.3	
2015	10C9l	3742SI	上層	広口壷	18.0		*4.7	
2016	10C10m	3742SI	上層	広口壷	17.8		*2.5	
2017	10C10l	3742SI	上層	広口壷	14.4		*10.0	
2018	10C10l	3742SI	下層	広口壷		8.2	*2.9	木葉痕
2019	10C10l	3742SI	下層	広口壷		9.0	*3.7	木葉痕
2020	10C9l	3742SI	上層	広口壷		7.8	*3.1	
2021	10C10l	3742SI	上層	広口壷		5.8	*3.8	
2022	10C10l	3742SI	上層	広口壷		7.5	*4.7	
2023	10C10l	3742SI	上層	広口壷		6.6	*4.2	木葉痕
2024	10C10l	3742SI	上層	広口壷	16.1	7.4	21.8	
2025	10C10l	3742SI	上層	広口壷	14.9		*14.2	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
2026	10C9l	3742SI	上層	壷			*8.8	
2027	10C9m	3742SI	トレンチ	広口壷		7.2	*8.0	
2028	10C10l	3742SI	上層	広口壷		9.2	*7.8	木葉痕
2029	10C10l	3742SI	下層	広口壷		8.9	*8.9	
2030	10C10l	3742SI	上層	広口壷		7.8	*4.2	
2031	10C10l	3742SI	上層	広口壷	18.6	9.0	34.4	
2032	10C10l	3742SI	下層	広口壷		8.8	*7.5	
2033	10C10l	3742SI	上層	パレス系壷	13.8		*7.6	
2034	10C9l	3742SI	上層	パレス系壷	16.6		*4.9	
2035	10C10l	3742SI	上層	加飾広口壷	21.9		*5.6	
2036	10C9m	3742SI	トレンチ	加飾広口壷	17.6		*3.0	
2037	10C10l	3742SI	上層	加飾広口壷	18.0		*5.5	
2038	10C10l	3742SI	下層	加飾広口壷	20.0		*5.5	
2039	10C10l	3742SI	下層	加飾広口壷	18.2		*3.9	
2040	10C10l	3742SI	下層	加飾広口壷	18.8		*5.9	
2041	10C10l	3742SI	下層	加飾広口壷	17.8		*6.8	
2042	10C10l	3742SI	下層	加飾広口壷	14.2		*2.4	
2043	10C9l	3742SI	上層	加飾広口壷	17.4		*5.2	
2044	10C9l	3742SI	上層	加飾広口壷	15.4		*4.3	
2045	10C10l	3742SI	上層	加飾広口壷	17.6		*6.0	
2046	10C9l	3742SI	上層	折り返し口縁壷	18.2		*1.5	遠江系
2047	10C10l	3742SI	床直	加飾広口壷		11.5	*18.7	木葉痕
2048	10C10l	3742SI	下層	加飾広口壷			*6.8	
2049	10C9l	3742SI	上層	加飾広口壷			*5.9	
2050	10C10l	3742SI	上層	加飾広口壷			*10.2	
2051	10C10l	3742SI	上層	加飾広口壷			*4.6	
2052	10C10l	3742SI	上層	加飾広口壷			*8.6	
2053	10C10l	3742SI	上層	加飾広口壷			*8.8	
2054	10C10l	3742SI	4300SK	甕	18.0		*4.7	
2055	10C10l	3741SI	床直	有段口縁甕A	12.0		*2.1	
2056	10C10l	3741SI	床直	内彎口縁甕	19.2		*11.1	
2057	10C9m	3741SI	床直	高杯	19.8	9.8	*12.8	
2058	10C9m	3741SI	上層	広口壷	14.2		*6.6	
2059	10C9n	3741SI	5197SK	高杯		8.7	*9.5	
2060	10C9n	3741SI	5197SK	甕			*11.4	
2061	10C11m	3651SI	下層	高杯	24.6		*3.4	
2062	10C11m	3651SI	下層	高杯		10.7	*8.5	
2063	10C11m	3651SI	下層	高杯			*8.2	
2064	10C11m	3651SI	下層	甕	18.6		*6.8	
2065	10C11m	3651SI	下層	椀形高杯			*3.6	
2066	10C11m	3651SI	下層	椀形高杯			*5.8	
2067	10C11m	3651SI	下層	広口壷		11.0	*7.5	
2068	10C11m	3651SI	下層	中型壷		5.0	*2.3	木葉痕
2069	10C11m	3651SI	下層	小型壷		5.0	*2.2	
2070	10C11m	3651SI	上層	有段口縁甕B	18.4		*2.4	
2071	10C11m	3651SI	上層	甕	14.0		*4.2	
2072	10C11m	3651SI	上層	内彎口縁壷A	12.8		*8.6	
2073	10C11m	3651SI	上層	内彎口縁壷A		3.2	*3.1	
2074	10C11m	3651SI	上層	加飾広口壷	13.6		*3.6	
2075	10C11m	3651SI	上層	広口壷	18.0		*3.1	
2076	10C11m	検出	Ec群	有段口縁甕A	21.0		*3.5	
2077	10C13h	検出	Ec群	パレス系壷	18.0		*3.8	
2078	10C13j	3211SI	床直	高杯		13.1	*21.3	西遠江系
2079	10C13j	3211SI	床直	高杯	23.0	10.2	18.4	
2080	10C13j	3211SI	床直	高杯	23.5	11.2	17.9	
2081	10C13j	3211SI	床直	椀形高杯A	12.0	9.6	10.1	
2082	10C13j	3211SI	床直	甕	16.4	8.5	20.4	
2083	10C13j	3211SI	床直	広口壷		6.9	*4.7	
2084	10C13j	3211SI	床直	広口壷		6.0	*23.7	
2085	10C13j	3211SI	床直	大型(甕系)鉢	21.7	8.7	19.5	
2086	10C13j	3211SI	床直	大型(甕系)鉢	13.6	5.5	15.3	
2087	10C14j	3211SI	下層	袋状口縁壷	15.2		*5.5	
2088	10C14j	3211SI	上層	広口壷	16.8		*4.0	
2089	10C13j	3211SI	上層	広口壷	18.0		*1.8	
2090	10C13j	3211SI	ベルト	加飾広口壷			*3.3	
2091	10C14j	3211SI	上層	広口壷		8.9	*5.8	
2092	10C14j	3211SI	上層	広口壷		5.8	*2.5	
2093	10C13j	3211SI	ベルト	広口壷		5.6	*2.9	
2094	10C14j	3211SI	上層	広口壷		4.4	*1.3	
2095	10C13j	3211SI	上層	中型鉢	9.6	5.3	7.3	
2096	10C14k	3211SI	上層	高杯			*4.8	
2097	10C14j	3211SI	上層	椀形高杯A			*4.4	
2098	10C14j	3211SI	上層	甕		9.2	*6.2	
2099	10C14k	3211SI	上層	甕		8.2	*5.8	
2100	10C13j	3211SI	上層	甕	18.0		*11.8	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
2101	10C13j	3211SI	上層	甕	16.0		*8.1	
2102	10C14k	3211SI	上層	甕	19.8		*4.7	
2103	10C13j	3211SI	上層	甕	13.4		*3.2	
2104	10C14j	3211SI	上層	縁帯口縁甕	11.7		*2.2	
2105	10C15j	4309SI	床直	小型壷		4.6	*4.6	
2106	10C14j	4309SI	下層	小型壷		4.4	*1.2	
2107	10C14i	4311SI	床直	高杯		11.8	*10.4	
2108	10C14i	4311SI	上層	椀形高杯A		10.0	*6.5	
2109	10C14j	4311SI	トレンチ	S字甕	21.8		*1.5	A類
2110	10C14i	4311SI	上層	甕	12.8		*2.5	
2111	10C14i	4311SI	上層	甕		6.4	*3.9	
2112	10C14i	4193SI	床直	中型壷	8.9	5.0	11.5	
2113	10C14i	4193SI	床直	甕		9.3	*5.8	
2114	10C14i	4193SI	床直	甕		7.8	*4.9	
2115	10C14i	4193SI	上層	甕		8.4	*5.8	
2116	10C14i	4193SI	上層	甕		8.5	*5.6	
2117	10C14i	4193SI	上層	甕	38.0		*5.9	
2118	10C14i	4193SI	上層	中型鉢		5.0	*2.6	
2119	10C14i	4193SI	上層	小型鉢		4.0	*3.0	
2120	10C14i	4193SI	上層	加飾広口壷	22.0		*2.7	
2121	10C14i	4193SI	上層	高杯			*6.2	
2122	10C14j	4310SI	床直	広口壷		7.0	*2.7	
2123	10C14j	4310SI	下層	広口壷		5.6	*9.0	
2124	10C13j	4310SI	上層	内彎口縁壷A		4.3	*1.3	
2125	10C13k	4310SI	上層	中型壷	7.2		*7.8	
2126	10C13k	4310SI	上層	中型壷		5.0	*4.0	
2127	10C14k	4310SI	下層	高杯		10.9	*8.4	
2128	10C13k	4310SI	上層	高杯		10.5	*7.9	
2129	10C14k	4310SI	上層	小型高杯		6.1	*4.2	
2130	10C15j	3190SI	床直	甕	12.2	7.1	18.4	
2131	10C15j	3190SI	床直	甕	13.4		*12.0	
2132	10C15j	3190SI	トレンチ	甕		7.6	*6.0	
2133	10C15j	3190SI	トレンチ	甕		8.0	*5.0	
2134	10C15j	3190SI	下層	甕		9.8	*5.0	
2135	10C14j	3190SI	上層	甕		6.6	*5.4	
2136	10C15i	3190SI	上層	甕	19.0		*4.0	
2137	10C15j	3190SI	上層	甕	21.6		*6.1	
2138	10C15j	3190SI	床直	高杯		13.1	*13.1	
2139	10C15j	3190SI	床直	高杯		10.5	*8.6	
2140	10C15i	3190SI	トレンチ	高杯		10.6	*7.9	
2141	10C15j	3190SI	下層	高杯			*4.1	
2142	10C14i	3190SI	上層	高杯			*4.0	
2143	10C15j	3190SI	下層	庄内系高杯			*4.7	近畿系
2144	10C15j	3190SI	床直	加飾広口壷	16.6		*4.5	
2145	10C15j	3190SI	下層	折り返し口縁壷	16.0		*2.0	遠江系
2146	10C15i	3190SI	トレンチ	袋状口縁壷	18.8		*4.7	
2147	10C14j	3190SI	上層	広口壷	11.6		*8.0	
2148	10C15j	3190SI	下層	広口壷		9.6	*4.0	
2149	10C15i	3190SI	上層	広口壷		6.6	*10.9	
2150	10C14j	3190SI	上層	パレス系壷		7.4	*3.4	木葉痕
2151	10C15i	3190SI	上層	広口壷		7.2	*2.6	
2152	10C14j	3190SI	上層	広口壷		5.2	*2.2	
2153	10C15i	3190SI	上層	広口壷		5.0	*2.6	
2154	10C15j	3190SI	下層	球状土錘	長2.8	幅3.0	高*1.6	重11.1g
2155	10C15i	3190SI	4605SK	甕	19.0		*3.8	
2156	10C15i	3186SI	床直	甕	18.0		*14.9	
2157	10C15i	3186SI	床直	甕	18.0		*14.9	
2158	10C15i	3186SI	下層	甕	14.0		*7.7	
2159	10C15h	3186SI	下層	甕	24.0		*6.7	
2160	10C15h	3186SI	上層	甕	17.8		*17.5	
2161	10C15h	3186SI	上層	加飾広口壷	24.0		*2.2	
2162	10C15j	3188SI	下層	甕			*11.5	
2163	10C15i	3188SI	上層	甕	23.8		*10.9	
2164	10C15j	3188SI	上層	甕			*5.9	
2165	10C15j	3188SI	下層	加飾広口壷	18.4		*5.9	
2166	10C15j	3188SI	上層	加飾広口壷	12.4		*2.4	
2167	10C15j	3188SI	上層	内彎口縁壷D		4.4	*5.1	
2168	10C16k	3150SI	下層	有段口縁甕A	19.0		*2.6	
2169	10C15k	3150SI	上層	有段口縁甕B	17.8		*2.9	
2170	10C16j	3150SI	下層	甕		7.4	*4.7	
2171	10C15l	3150SI	上層	甕	23.6		*2.7	
2172	10C15k	3150SI	上層	広口壷	18.4		*2.6	
2173	10C15k	3150SI	上層	広口壷		7.2	*2.5	
2174	10C15j	3150SI	3237SK	広口壷		10.6	*4.4	
2175	10C16j	検出	Fa群	加飾広口壷	16.0		*3.6	
2176	10C17j	検出	Fa群	広口壷		7.4	*2.8	
2177	10C17j	検出	Fa群	小型鉢		4.0	*3.2	
2178	10C17j	検出	Fa群	甕		9.1	*5.9	
2179	10C17l	3149SI	床直	高杯			*5.7	
2180	10C17l	3149SI	下層	高杯		13.0	*3.5	
2181	10C16l	3149SI	上層	高杯			*4.4	
2182	10C16l	3149SI	上層	蓋			*3.1	
2183	10C16l	3149SI	上層	有孔鉢		5.4	*4.5	
2184	10C17l	3149SI	上層	甕		4.0	*2.6	
2185	10C16m	3149SI	下層	加飾広口壷	17.0		*4.1	
2186	10C17m	3149SI	トレンチ	加飾広口壷	22.0		*2.5	
2187	10C17m	3149SI	上層	加飾広口壷	19.2		*4.2	
2188	10C17l	3149SI	下層	広口壷		5.8	*2.3	
2189	10C16l	3149SI	上層	広口壷		5.6	*1.6	
2190	10C17m	3149SI	上層	広口壷		7.6	*2.6	
2191	10C16m	3149SI	下層	内彎口縁甕	22.0		*4.8	
2192	10C17m	3149SI	上層	縁帯口縁甕	17.8		*3.2	
2193	10C17m	3149SI	上層	有段口縁甕B	20.6		*7.9	
2194	10C16m	3149SI	掘方	縁帯口縁甕	18.0		*4.3	
2195	10C17m	3149SI	上層	縁帯口縁甕		8.7	*6.3	
2196	10C17l	3149SI	下層	大型管状土錘	長*5.7	幅*4.7	高*2.0	重52.2g
2197	10C17m	3149SI	上層	大型管状土錘	長9.8	幅5.1	高4.5	重264.3g
2198	10C16n	3148SI	床直	内彎口縁壷A		5.3	*8.8	
2199	10C16n	3148SI	床直	内彎口縁壷C		3.6	*6.5	西遠江系小型鉢
2200	10C16n	3148SI	下層	中型鉢	11.6		*8.4	
2201	10C16n	3148SI	下層	甕		7.0	*4.6	
2202	10C17n	3148SI	トレンチ	甕	17.8		*4.2	
2203	10C16m	3148SI	上層	甕		7.8	*6.3	
2204	10C16n	3148SI	上層	加飾広口壷	18.4		*4.5	
2205	10C16n	3148SI	上層	加飾広口壷			*4.0	
2206	10C16n	3149SI	上層	広口壷		6.6	*4.2	
2207	10C17n	3149SI	上層	広口壷		6.6	*4.3	
2208	10C17n	3148SI	トレンチ	広口壷		7.0	*2.0	
2209	10C16m	3148SI	上層	小型鉢(椀)	7.8	7.8	4.4	
2210	10C17n	3148SI	上層	高杯			*8.9	
2211	10C16n	3148SI	上層	高杯	21.2		*8.2	
2212	10C15m	3303SI	床直	高杯	21.4		*11.8	
2213	10C15l	3303SI	床直	甕		9.7	*5.8	
2214	10C15m	3303SI	3943SK	甕		4.4	*5.1	
2215	10C17k	3097SI	床直	高杯	30.0		*4.8	
2216	10C17k	3097SI	下層	高杯			*4.5	
2217	10C17k	3097SI	床直	広口壷		7.1	*2.4	
2218	10C18k	3097SI	トレンチ	加飾広口壷	20.0		*3.1	
2219	10C18k	3097SI	トレンチ	甕	20.8		*6.2	
2220	10C17k	検出	Fb群	叩き甕？	9.6		*5.0	
2221	10C15l	検出	Fb群	小型鉢(椀)		3.0	*2.1	水銀朱付着
2222	10C16l	検出	Fb群	中型壷		5.6	*2.3	
2223	10C17k	検出	Fb群	有孔鉢		5.0	*3.3	
2224	10C16l	検出	Fb群	甕		6.7	*4.8	
2225	10C12l	3223SI	床直	高杯		12.8	*14.9	
2226	10C12l	3223SI	床直	広口壷		8.8	*4.5	
2227	10C12l	3223SI	下層	加飾広口壷			*5.5	
2228	10C12l	3223SI	4398SK	椀形高杯A		10.3	*6.3	
2229	10C14k	3305SI	床直	器種不明	18.2		*4.5	
2230	10C14k	3305SI	下層	甕	22.0		*5.5	
2231	10C14k	3305SI	トレンチ	高杯			*4.1	
2232	10C13k	3305SI	上層	有段口縁甕A	24.2		*5.9	
2233	10C14m	3824SI	掘方	甕	14.0		*4.1	
2234	10C13l	3304SI	床直	高杯			*7.2	
2235	10C13l	3304SI	下層	中型鉢		4.6	*6.4	
2236	10C13l	3304SI	上層	高杯			*6.4	
2237	10C13l	3304SI	上層	加飾広口壷	19.0		*2.0	
2238	10C13l	3304SI	上層	加飾広口壷	18.4		*1.8	
2239	10C13l	3304SI	上層	甕	24.0		*4.5	
2240	10C13l	3304SI	4373SK	甕		8.0	*8.0	
2241	10C13l	3304SI	4373SK	甕			*5.1	
2242	10C13l	3304SI	4373SK	甕		5.1	*5.1	
2243	10C13l	3304SI	4373SK	甕		6.8	*4.1	
2244	10C13l	3304SI	4373SK	甕		3.5	*2.3	
2245	10C14l	3283SI	上層	甕	25.6		*5.6	
2246	10C14l	3283SI	上層	甕	15.8		*6.5	
2247	10C14l	3283SI	上層	甕	19.4		*14.8	
2248	10C14l	3283SI	上層	(鉢状)甕	15.6		*17.3	
2249	10C14l	3283SI	上層	甕	19.0		*5.7	
2250	10C14l	3283SI	上層	甕	20.8		*4.5	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
2251	10C14l	3283SI	上層	甕		9.2	*9.4	
2252	10C14l	3283SI	上層	甕		8.0	*6.1	
2253	10C14l	3283SI	上層	甕		8.6	*6.5	
2254	10C14l	3283SI	上層	甕		7.6	*6.6	
2255	10C14l	3283SI	上層	甕		7.0	*4.2	
2256	10C14l	3283SI	上層	パレス系壷	16.6		*6.0	
2257	10C14l	3283SI	上層	広口壷	17.6		*4.5	
2258	10C14l	3283SI	上層	加飾広口壷			*8.5	
2259	10C14l	3283SI	上層	加飾広口壷			*3.9	
2260	10C14l	3283SI	上層	有段(複合)口縁壷	20.4		*4.3	西遠江(伊場)系
2261	10C14l	3283SI	上層	中型壷	6.8	6.4	*12.2	
2262	10C14l	3283SI	上層	中型壷			*6.9	
2263	10C14l	3283SI	上層	広口壷		9.3	*4.0	
2264	10C14l	3283SI	上層	広口壷		5.3	*3.2	
2265	10C14l	3283SI	上層	広口壷		6.2	*3.1	
2266	10C14l	3283SI	上層	広口壷		6.9	*1.9	
2267	10C14l	3283SI	上層	広口壷		6.0	*1.9	
2268	10C14l	3283SI	上層	中型壷		5.4	*2.4	
2269	10C14l	3283SI	上層	小型壷		2.6	*1.8	
2270	10C14l	3283SI	上層	小型鉢(椀)		2.8	*1.4	
2271	10C14l	3283SI	上層	内彎口縁壷B		2.0	*2.4	
2272	10C14l	3283SI	上層	高杯	28.0		*5.2	
2273	10C14l	3283SI	上層	高杯	27.4		*4.5	
2274	10C14l	3283SI	上層	高杯	22.6		*9.3	
2275	10C14l	3283SI	上層	高杯			*7.8	
2276	10C14l	3283SI	上層	高杯			*6.6	
2277	10C14l	3283SI	上層	高杯			*7.9	
2278	10C13o	3481SI	下層	加飾広口壷			*5.8	
2279	10C13m	3623SI	掘方	高杯			*7.2	
2280	10C12n	3388SI	床直	椀形高杯A			*6.1	
2281	10C12n	3388SI	下層	高杯			*7.8	
2282	10C13n	3388SI	床直	甕		8.2	*5.8	
2283	10C12m	3388SI	下層	甕		9.7	*6.5	
2284	10C12n	3388SI	上層	甕		11.2	*6.2	
2285	10C13n	3388SI	下層	中型壷	10.8		*3.7	紐孔
2286	10C13m	3388SI	下層	中型壷		4.2	*1.8	
2287	10C13n	3388SI	下層	内彎口縁壷B	8.8	3.6	9.1	
2288	10C12m	3388SI	下層	小型壷			*5.3	北陸系？
2289	10C13n	3388SI	下層	小型壷		4.0	*1.7	
2290	10C13m	3388SI	下層	筒形容器		-	*4.5	
2291	10C13m	3388SI	下層	加飾広口壷	16.0		*2.0	
2292	10C12n	3388SI	上層	広口壷		7.6	*5.1	
2293	10C13m	3388SI	上層	加飾広口壷			*2.3	
2294	10C12n	3388SI	3801SK	甕		8.2	*6.2	36S3SI
2295	10C13m	3388SI	4022SK	大型(平底)鉢	14.9	8.5	*12.5	4104SKと接合
2296	10C13m	3388SI	4022SK	甕		9.2	*5.7	36S3SI
2297	10C13n	3388SI	4022SK	甕		8.4	*6.6	36S3SI
2298	10C13n	3388SI	4022SK	甕		7.9	*5.8	36S3SI
2299	10C13m	3388SI	4022SK	甕			*5.3	36S3SI
2300	10C13m	3389SI	トレンチ	甕	19.8		*10.0	
2301	10C12m	3389SI	上層	広口壷	16.4		*2.8	
2302	10C12m	3389SI	上層	広口壷		8.6	*2.5	
2303	10C12n	3389SI	上層	広口壷	10.4		*4.3	3388SIと接合
2304	10C12m	3389SI	上層	加飾広口壷			*5.3	
2305	10C12m	3389SI	上層	高杯			*6.3	
2306	10C12m	3389SI	上層	器種不明			*1.8	
2307	10C14m	3147SI	床直	高杯	26.4		*7.3	
2308	10C14m	3147SI	下層	高杯			*8.8	
2309	10C14m	3147SI	下層	高杯			*8.0	
2310	10C14m	3147SI	下層	高杯(器台)		16.4	*5.3	北陸系？
2311	10C14m	3147SI	上層	高杯	25.0		*2.4	
2312	10C14m	3147SI	上層	高杯			*4.7	
2313	10C14m	3147SI	上層	高杯			*5.4	
2314	10C15p	3147SI	上層	高杯			*4.4	
2315	10C14m	3147SI	床直	広口壷		8.4	*3.1	
2316	10C14m	3147SI	下層	小型鉢		3.4	*2.6	
2317	10C14m	3147SI	掘方	広口壷		4.6	*1.9	
2318	10C14n	3147SI	上層	中型鉢		5.6	*3.3	
2319	10C16o	3147SI	上層	小型鉢(椀)		2.6	*1.3	
2320	10C14m	3147SI	下層	大型鉢	23.4		*2.9	
2321	10C14m	3147SI	上層	器種不明	20.6		*3.9	
2322	10C14n	3147SI	上層	甕	19.6		*8.7	
2323	10C14n	3147SI	上層	甕	22.6		*7.0	
2324	10C16o	3147SI	上層	内彎口縁甕	21.0		*4.0	
2325	10C16o	3147SI	上層	有段口縁甕A	20.8		*1.9	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
2326	10C14m	3147SI	上層	甕(鉢)	17.6		*9.9	片口付
2327	10C14n	3147SI	上層	叩き甕		4.4	*5.3	近畿系
2328	10C13n	3388SI	4015SK	甕		7.8	*5.8	
2329	10C13n	3388SI	4015SK	甕		4.6	*5.5	
2330	10C13n	5000SB	4354SK	甕			*5.4	
2331	10C14m	4427SK	Fc群	高杯		12.4	*8.8	
2332	10C14l	表土	Fc群	広口壷		6.6	*3.2	
2333	10C15n	3145SI	床直	パレス系壷	22.0		*5.5	
2334	10C15o	3145SI	床直	広口壷		8.6	*2.0	
2335	10C15o	3145SI	下層	広口壷		5.6	*1.8	
2336	10C15p	3145SI	下層	広口壷		6.3	*1.8	
2337	10C15n	3145SI	床直	甕	16.2		*8.7	
2338	10C15o	3145SI	下層	有段口縁甕B	22.4		*1.6	
2339	10C15o	3145SI	下層	S字甕			*2.1	
2340	10C15n	3274SI	下層	高杯	22.0		*5.3	
2341	10C17o	3747SI	下層	有段口縁甕A	18.2		*5.8	
2342	10C16o	3273SI	床直	甕	20.1		*23.2	
2343	10C16p	3273SI	上層	甕		7.7	*5.4	
2344	10C17o	3273SI	床直	広口壷		7.8	*11.6	
2345	10C17o	3273SI	下層	広口壷		4.4	*2.6	
2346	10C16o	3273SI	上層	広口壷		5.4	*1.8	
2347	10C16o	3273SI	上層	広口壷		6.2	*3.9	
2348	10C17p	3273SI	下層	高杯	21.0		*5.3	
2349	10C16o	3273SI	下層	高杯			*3.9	
2350	10C16p	3273SI	床直	高杯	24.0		*9.4	
2351	10C16o	3273SI	上層	小型高杯	14.6		*5.9	
2352	10C16n	3146SI	床直	高杯		12.8	*7.1	
2353	10C16n	3146SI	床直	高杯			*5.4	
2354	10C16n	3146SI	下層	高杯			*4.0	
2355	10C16n	3146SI	下層	甕		6.0	*4.4	
2356	10C16n	3146SI	上層	高杯			*6.1	
2357	10C16n	3146SI	下層	中型壷	11.0	5.0	*13.1	
2358	10C15p	3321SI	床直	有段口縁甕A	22.4		*10.7	
2359	10C17o	3317SK	Fd群	平底甕	9.6	3.6	9.7	
2360	10C16o	検出	Fd群	小型鉢(椀)		3.5	*2.5	
2361	10C10n	3605SI	床直	加飾広口壷	18.8		*6.6	
2362	10C10n	3605SI	床直	広口壷		6.9	*3.9	
2363	10C9n	3605SI	下層	加飾広口壷	19.4		*2.7	
2364	10C10n	3605SI	下層	有段口縁壷	17.4		*4.1	
2365	10C9n	3605SI	下層	椀形高杯A	19.6		*4.7	
2366	10C10n	3605SI	下層	広口壷	19.7		*2.8	
2367	10C10n	3605SI	下層	広口壷	15.0		*4.5	
2368	10C10n	3605SI	上層	広口壷	16.4		*4.8	
2369	10C10n	3605SI	上層	加飾広口壷	20.4		*5.5	
2370	10C10n	3605SI	上層	加飾広口壷	12.4		*4.2	
2371	10C10n	3605SI	下層	広口壷		8.1	*4.0	木葉痕
2372	10C10n	3605SI	下層	内彎口縁壷A	11.8		*7.0	
2373	10C10n	3605SI	下層	内彎口縁壷A			*8.7	
2374	10C10n	3605SI	下層	内彎口縁壷B	8.8		*5.4	
2375	10C10n	3605SI	下層	甕	25.6		*2.9	
2376	10C10n	3605SI	下層	内彎口縁甕	17.0		*2.6	
2377	10C9n	3605SI	下層	高杯			*4.4	
2378	10C10n	3605SI	上層	高杯			*5.5	
2379	10C10n	3605SI	上層	高杯			*4.6	
2380	10C10n	3605SI	上層	高杯			*6.6	
2381	10C10n	3605SI	上層	広口壷			*6.4	体部線刻
2382	10C10n	3605SI	上層	小型鉢(椀)	4.8	3.4	4.9	
2383	10C8n	3606SI	床直	甕	16.8		*8.1	3609SIと接合
2384	10C8n	3606SI	床直	加飾広口壷	17.2		*1.8	
2385	10C8o	3620SI	床直	内彎口縁甕	21.2		*12.1	
2386	10C8o	3620SI	下層	甕			*4.5	
2387	10C9p	3728SI	3912SK	大型(平底)鉢	18.2	8.4	11.0	
2388	10C9p	3728SI	3912SK	袋状口縁壷	17.6		*5.2	
2389	10C10o	3607SI	下層	加飾広口壷	21.4		*3.6	
2390	10C10o	3607SI	下層	小型鉢(椀)		3.4	*2.2	
2391	10C9o	3608SI	下層	小型高杯			*3.5	
2392	10C9o	3608SI	下層	高杯			*2.4	
2393	10C9p	3609SI	床直	高杯	24.3		*11.0	
2394	10C9q	3609SI	下層	高杯			*3.8	
2395	10C9p	3609SI	上層	高杯	25.2		*11.0	
2396	10C9p	3609SI	上層	高杯			*5.6	
2397	10C9p	3609SI	上層	高杯			*4.3	
2398	10C9p	3609SI	上層	椀形高杯A	12.8		*6.2	
2399	10C9p	3609SI	上層	甕	13.4		*9.0	
2400	10C9p	3609SI	上層	甕	7.8		*5.8	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
2401	10C9p	3609SI	上層	広口壷	14.4		*14.3	
2402	10C9p	3609SI	上層	加飾広口壷	18.4		*4.1	
2403	10C9p	3609SI	上層	加飾広口壷			*4.1	
2404	10C9p	3609SI	下層	ミニチュア？			*2.7	
2405	10C7q	3668SI	上層	甕			*4.1	
2406	10C10n	3887SK	Ga群	広口壷		7.2	*3.3	
2407	10C9n	4227SK	Ga群	高杯		9.0	*6.1	
2408	10C8r	検出	Ga群	小型鉢(椀)		3.4	*2.2	
2409	10C12p	3406SI	床直	広口壷		6.4	*18.8	
2410	10C11p	3406SI	トレンチ	広口壷		5.0	*2.6	
2411	10C12p	3406SI	上層	広口壷		6.8	*2.5	
2412	10C12p	3406SI	上層	加飾広口壷			*4.2	
2413	10C12p	3406SI	上層	内彎口縁壷C	9.0	4.5	7.8	
2414	10C11q	3406SI	上層	内彎口縁壷B		4.0	*4.5	
2415	10C12p	3406SI	上層	甕	22.0		*3.5	
2416	10C11p	3406SI	トレンチ	甕	16.8		*6.8	
2417	10C12p	3406SI	上層	有段口縁甕A	18.0		*1.8	
2418	10C12p	3406SI	上層	甕		4.6	*3.8	
2419	10C12p	3406SI	上層	高杯			*4.1	
2420	10C12p	3406SI	上層	高杯			*4.5	
2421	10C11p	3409SI	床直	小型高杯	16.0		*10.4	
2422	10C11p	3409SI	床直	椀形高杯A	14.0		*5.8	
2423	10C11p	3409SI	床直	高杯			*4.0	
2424	10C11o	3409SI	下層	高杯			*3.8	
2425	10C11p	3409SI	下層	内彎口縁壷C	10.6		*7.0	
2426	10C11p	3409SI	下層	小型壷	6.9	4.4	8.5	
2427	10C11p	3409SI	上層	中型壷		4.4	*2.7	
2428	10C11o	3409SI	上層	中型壷		5.1	*2.0	
2429	10C11p	3409SI	上層	広口壷		8.0	*2.9	
2430	10C11p	3409SI	上層	中型鉢		5.8	*4.6	
2431	10C11o	3409SI	上層	折り返し口縁壷	17.8		*1.5	遠江系
2432	10C11p	3409SI	下層	甕		7.7	*5.4	
2433	10C11p	3409SI	上層	有段口縁甕A	24.0		*2.1	
2434	10C11o	3409SI	上層	甕	14.4		*5.0	
2435	10C12p	3409SI	4038SK	小型鉢(椀)	9.4	3.8	3.7	
2436	10C12p	3409SI	4038SK	甕		9.2	*5.3	
2437	10C12p	3409SI	4038SK	内彎口縁甕	22.0		*5.7	
2438	10C12o	3405SI	床直	甕		7.9	*6.4	
2439	10C11o	3405SI	下層	甕		9.0	*5.8	
2440	10C11o	3405SI	下層	広口壷	21.0		*3.2	
2441	10C11o	3405SI	下層	広口壷		8.5	*2.3	
2442	10C11o	3405SI	上層	内彎浅鉢	19.2		*5.2	
2443	10C11o	3704SI	下層	甕			*2.6	
2444	10C10p	3408SI	上層	甕		6.6	*3.6	
2445	10C12o	3407SI	床直	広口壷		8.0	*9.7	
2446	10C11o	3407SI	下層	広口壷	12.0		*4.6	
2447	10C11o	3407SI	下層	柳ヶ坪型壷			*5.3	
2448	10C11o	3407SI	床直	甕		12.0	*7.4	
2449	10C11o	3407SI	下層	甕		9.1	*6.9	
2450	10C11o	3407SI	下層	甕		10.0	*7.1	
2451	10C11o	3407SI	下層	甕		8.4	*6.9	
2452	10C11o	3407SI	下層	内彎口縁甕	16.6		*2.7	
2453	10C11o	3407SI	下層	甕		7.4	*6.8	
2454	10C12o	3407SI	4097SK	加飾広口壷	21.6		*1.8	
2455	10C12o	3407SI	4097SK	甕		8.0	*5.1	
2456	10C11o	3562SK	Gb群	広口壷	19.0		*3.8	
2457	10C11p	4274SK	Gb群	甕		10.6	*6.9	
2458	10C12o	3407SI	上層	加飾広口壷	19.2		*2.2	
2459	10C12o	3407SI	上層	有段口縁壷	20.8		*4.2	
2460	10C12o	3407SI	上層	袋状口縁壷	19.6		*4.2	
2461	10C11o	3407SI	上層	袋状口縁壷	15.2		*4.0	紐孔
2462	10C11o	3407SI	上層	有段口縁壷	16.6		*3.6	
2463	10C11o	3407SI	上層	加飾広口壷			*12.3	
2464	10C11o	3407SI	上層	加飾広口壷			*17.2	
2465	10C12o	3407SI	上層	パレス系壷			*6.4	3605SIと同一
2466	10C12o	3407SI	上層	パレス系壷			*3.5	
2467	10C12o	3407SI	上層	広口壷			*3.0	東遠江(菊川)系
2468	10C11o	3407SI	上層	広口壷		9.0	*5.2	
2469	10C11o	3407SI	上層	広口壷		7.0	*1.8	
2470	10C12o	3407SI	上層	加飾広口壷			*11.4	3409SIと同一
2471	10C11o	3407SI	上層	中型壷		6.4	*9.3	
2472	10C11o	3407SI	上層	内彎口縁壷A		5.0	*9.8	連弧文
2473	10C11o	3407SI	上層	小型鉢		5.0	*5.2	
2474	10C11o	3407SI	上層	小型鉢		4.2	*3.6	
2475	10C11o	3407SI	上層	中型鉢	11.6		*5.2	
2476	10C11o	3407SI	上層	甕	20.8		*7.2	
2477	10C12o	3407SI	上層	甕	11.2		*3.0	
2478	10C11o	3407SI	上層	縁帯口縁甕	18.0		*6.3	
2479	10C12o	3407SI	上層	甕	15.0		*4.0	
2480	10C12o	3407SI	上層	有段口縁甕B	24.0		*3.4	
2481	10C12o	3407SI	上層	内彎口縁甕	17.6		*2.9	
2482	10C12o	3407SI	上層	S字甕	18.0		*5.0	A類
2483	10C11o	3407SI	上層	甕			*5.1	
2484	10C11o	3407SI	上層	甕		9.0	*5.4	
2485	10C11o	3407SI	上層	甕		9.0	*5.6	
2486	10C11o	3407SI	上層	甕		9.8	*6.7	
2487	10C11o	3407SI	上層	器種不明		5.5	*3.3	
2488	10C11p	3407SI	上層	椀形高杯A	16.4		*4.2	
2489	10C12o	3407SI	上層	高杯	26.2		*3.3	3651SIと同一
2490	10C11o	3407SI	上層	椀形高杯A		7.8	*5.2	
2491	10C12o	3407SI	上層	高杯			*4.0	
2492	10C11o	3407SI	上層	椀形高杯A			*4.6	
2493	10C11o	3407SI	上層	椀形高杯A			*4.8	
2494	10C9r	5770SI	下層	有段口縁甕A	25.0		*4.2	
2495	10C9r	5770SI	下層	甕	19.2		*3.8	
2496	10C9r	5770SI	下層	甕	18.2		*7.7	
2497	10C9r	5770SI	下層	甕		9.8	*8.8	
2498	10C9r	5770SI	上層	内彎口縁甕	19.2		*2.9	
2499	10C9r	5770SI	上層	縁帯口縁甕	19.6		*3.8	
2500	10C9r	5770SI	上層	甕	21.0	9.4	33.0	
2501	10C9r	5770SI	上層	甕	24.2		*5.6	
2502	10C9r	5770SI	上層	甕	17.8		*8.0	
2503	10C9r	5770SI	上層	甕	19.2		*16.4	
2504	10C9r	5770SI	上層	甕	23.9		*13.9	
2505	10C9r	5770SI	上層	甕	19.0		*7.0	
2506	10C9r	5770SI	上層	甕			*22.3	
2507	10C9r	5770SI	上層	甕		10.0	*8.8	
2508	10C9r	5770SI	上層	甕	14.3		*9.4	
2509	10C9r	5770SI	上層	甕	14.4		*8.4	
2510	10C9r	5770SI	上層	甕	13.7	7.0	20.9	
2511	10C9r	5770SI	上層	甕	16.8	9.0	*25.0	
2512	10C9r	5770SI	上層	内彎口縁甕	14.6		*6.7	
2513	10C9r	5770SI	下層	甕		8.2	*5.3	
2514	10C9r	5770SI	下層	甕		8.6	*6.3	
2515	10C9r	5770SI	上層	甕		8.4	*6.8	
2516	10C9r	5770SI	上層	甕		8.4	*5.0	
2517	10C9r	5770SI	上層	甕		11.4	*6.6	
2518	10C9r	5770SI	上層	甕		7.4	*5.7	
2519	10C9r	5770SI	上層	甕		8.0	*5.2	
2520	10C9r	5770SI	上層	甕		10.0	*5.4	
2521	10C9r	5770SI	上層	甕		5.6	*4.8	
2522	10C9r	5770SI	上層	甕		6.0	*3.0	
2523	10C9r	5770SI	上層	縁帯口縁(平底)甕	15.4	5.2	16.0	
2524	10C9r	5770SI	上層	平底甕	13.8	5.9	14.1	
2525	10C9r	5770SI	下層	有段浅鉢	14.4		*5.3	
2526	10C9r	5770SI	下層	広口壷		6.2	*3.1	
2527	10C9r	5770SI	下層	内彎口縁壷A	9.6	5.4	16.2	
2528	10C9r	5770SI	上層	中型壷		7.2	*7.4	
2529	10C9r	5770SI	上層	中型壷		5.3	*9.1	
2530	10C9r	5770SI	下層	中型鉢		4.0	*4.7	底部線刻
2531	10C9r	5770SI	下層	小型壷		4.3	*7.2	
2532	10C9r	5770SI	上層	内彎口縁壷C	10.4	8.6	4.9	
2533	10C9r	5770SI	上層	内彎口縁壷B	7.2	4.0	8.0	
2534	10C9r	5770SI	上層	広口壷		10.7	*5.0	木葉痕
2535	10C9r	5770SI	上層	加飾広口壷			*6.5	
2536	10C9r	5770SI	下層	加飾広口壷	23.4		*5.0	
2537	10C9r	5770SI	上層	加飾広口壷	23.0		*7.5	
2538	10C9r	5770SI	上層	広口壷	15.0		*4.8	
2539	10C9r	5770SI	上層	器種不明			*2.5	
2540	10C9r	5770SI	下層	高杯	20.6		*10.4	
2541	10C9r	5770SI	下層	高杯	21.0		*7.7	
2542	10C9r	5770SI	下層	高杯	18.4		*6.8	
2543	10C9r	5770SI	下層	高杯		10.6	*14.4	
2544	10C9r	5770SI	下層	高杯			*13.3	
2545	10C9r	5770SI	下層	高杯		10.6	*11.2	
2546	10C9r	5770SI	下層	高杯			*5.7	
2547	10C9r	5770SI	上層	高杯			*8.8	
2548	10C9r	5770SI	上層	高杯			*4.2	
2549	10C9r	5770SI	上層	高杯		13.7	*10.9	
2550	10C9r	5770SI	上層	高杯		11.0	*17.0	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
2551	10C9r	5770SI	上層	高杯			*6.0	
2552	10C9r	5770SI	上層	高杯			*4.9	
2553	10C9r	5770SI	上層	高杯			*7.3	
2554	10C9r	5770SI	上層	高杯		10.0	*9.4	
2555	10C9r	5770SI	上層	高杯		11.0	*7.1	
2556	10C9r	5770SI	上層	高杯			*5.3	
2557	10C9r	5770SI	上層	高杯		11.8	*2.1	
2558	10C10q	3621SI	床直	甕	20.6	9.0	*28.0	
2559	10C10q	3621SI	床直	甕	22.0		*3.8	
2560	10C10r	5784SI	床直	甕	19.2		*8.4	
2561	10C10r	5784SI	下層	甕	18.4		*3.3	
2562	10C10r	5784SI	下層	内彎口縁甕	17.6		*2.7	
2563	10C10r	5784SI	下層	有段口縁甕A	16.8		*2.0	
2564	10C10r	5784SI	下層	内彎口縁壷A	10.0		*4.6	
2565	10C10r	5784SI	下層	内彎口縁壷A	4.8		*3.5	
2566	10C10r	5784SI	上層	加飾広口壷			*2.5	
2567	10C10q	3622SI	床直	高杯	20.6	11.2	17.1	
2568	10C10q	3622SI	床直	高杯		11.0	*10.3	
2569	10C10q	3622SI	床直	高杯		12.0	*7.9	
2570	10C10q	3622SI	床直	高杯	18.0	15.0	*15.0	
2571	10C10q	3622SI	下層	高杯	23.4		*7.2	
2572	10C10q	3622SI	上層	椀形高杯			*5.1	
2573	10C10r	3622SI	上層	椀形高杯			*4.8	
2574	10C10r	3622SI	下層	広口壷	19.0		*1.6	
2575	10C10q	3622SI	下層	広口壷		7.2	*2.6	
2576	10C10q	3622SI	上層	内彎口縁壷A	10.0	4.4	*8.7	
2577	10C10r	3622SI	上層	小型鉢(椀)		3.2	*1.3	
2578	10C10r	3622SI	上層	内彎口縁甕	17.6		*3.6	
2579	10C10q	3622SI	上層	S字甕	19.4		*1.5	B類古
2580	10C10q	3622SI	上層	甕		9.0	*5.6	
2581	10C10s	5785SI	床直	有段口縁甕A	20.2		*16.7	
2582	10C10s	5785SI	床直	甕		8.7	*6.2	
2583	10C10r	5785SI	床直	椀形高杯A	14.0		*11.5	
2584	10C10s	5785SI	床直	椀形高杯A	12.5	10.7	9.0	
2585	10C10s	5785SI	床直	高杯			*6.4	
2586	10C10r	5785SI	床直	広口壷	16.2		*8.4	
2587	10C10s	5785SI	床直	広口壷		6.0	*6.0	
2588	10C10s	5785SI	床直	広口壷		7.2	*4.1	
2589	10C10s	5785SI	床直	短頸壷	7.8	-	8.8	
2590	10C10r	5785SI	下層	高杯	20.2		*2.1	
2591	10C10r	5785SI	下層	高杯			*5.7	
2592	10C9s	5785SI	下層	甕			*4.3	
2593	10C10s	5785SI	上層	甕		10.2	*7.7	
2594	10C10r	5785SI	上層	高杯	25.2		*9.7	
2595	10C10s	5785SI	上層	高杯		13.5	*12.3	
2596	10C10r	5785SI	6018SK	甕	17.4		*7.1	
2597	10C10s	6023SK	Gc群	広口壷		6.9	*3.2	
2598	10C9r	検出	Gc群	折り返し口縁壷	12.6		*1.7	遠江系
2599	10C9r	検出	Gc群	広口壷		7.6	*3.5	
2600	10C9r	検出	Gc群	小型鉢(椀)		4.1	*4.3	
2601	10C9s	検出	Gc群	甕		7.0	*4.8	
2602	10C13q	3380SI	床直	甕	18.2		*4.0	
2603	10C13q	3380SI	床直	甕		7.3	*6.0	
2604	10C13q	3380SI	床直	甕		7.0	*4.1	
2605	10C13q	3380SI	床直	甕			*4.2	
2606	10C13p	3380SI	床直	壷	10.0		*3.5	
2607	10C13p	3380SI	床直	広口壷		7.8	*3.8	
2608	10C13p	3380SI	床直	中型壷		5.0	*3.4	
2609	10C13p	3380SI	床直	広口壷		6.4	*2.4	
2610	10C13p	3380SI	床直	広口壷		5.6	*2.3	
2611	10C13p	3380SI	掘方	内彎口縁壷A			*4.1	
2612	10C13q	3380SI	掘方	小型鉢(椀)	8.0	4.6	6.4	
2613	10C13q	3380SI	下層	甕		6.2	*3.7	
2614	10C13q	3380SI	下層	高杯		6.6	*7.0	
2615	10C13p	3380SI	下層	椀形高杯A		11.0	*5.8	
2616	10C13q	3380SI	下層	広口壷		7.0	*1.9	
2617	10C13q	3380SI	下層	中型鉢		4.8	*2.1	
2618	10C14q	3380SI	上層	甕		9.8	*6.0	
2619	10C13q	3380SI	上層	結合器台			*1.8	
2620	10C13q	3380SI	上層	パレス系壷	16.4		*1.2	
2621	10C13p	3380SI	上層	広口壷	20.2		*1.7	
2622	10C12p	3380SI	上層	小型鉢		3.4	*3.0	
2623	10C13p	3380SI	上層	中型壷		6.0	*2.4	
2624	10C14q	3380SI	上層	中型壷		6.3	*4.0	
2625	10C13p	3380SI	上層	中型壷		5.8	*2.4	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
2626	10C13p	3380SI	上層	小型鉢		5.2	*2.2	
2627	10C13q	3380SI	上層	中型鉢		4.9	*2.7	
2628	10C13q	3380SI	上層	小型鉢		3.6	*2.0	
2629	10C14q	3379SI	トレンチ	甕	19.6		*5.7	4991SIと同一
2630	10C14q	3379SI	上層	甕	16.0		*3.8	
2631	10C14q	3379SI	上層	袋状口縁壷	15.6		*5.6	
2632	10C14q	3379SI	上層	高杯			*7.8	
2633	10C14r	4991SI	下層	パレス系壷			*3.8	
2634	10C15r	5653SI	下層	広口壷		6.6	*3.9	
2635	10C16r	5653SI	上層	広口壷		7.2	*3.2	
2636	10C16r	5653SI	上層	甕	21.0		*9.6	
2637	10C14r	3378SI	床直	甕		7.4	*4.5	
2638	10C14r	3378SI	下層	甕	11.2		*2.5	
2639	10C14r	3378SI	下層	甕	14.2		*8.7	
2640	10C14s	3378SI	下層	高杯		17.6	*8.1	
2641	10C14r	3378SI	下層	中型壷	5.4		*2.3	
2642	10C15r	5637SI	下層	高杯		10.4	*8.9	
2643	10C15r	5637SI	下層	広口壷		5.7	*1.7	
2644	10C15r	5637SI	下層	甕		6.4	*4.3	
2645	10C15s	5637SI	下層	把手付容器	長*18.4	幅*8.5	高1.5	木製容器の転写
2646	10C15s	5637SI	5852SK	中型鉢		5.3	*4.9	底部線刻
2647	10C14r	5637SI	5974SK	甕	12.0		*10.8	
2648	10C13s	5634SI	下層	S字甕			*3.3	B類古
2649	10C14r	5634SI	下層	甕	19.6		*4.9	
2650	10C14s	5634SI	下層	椀形高杯A		6.6	*2.9	
2651	10C14s	5634SI	下層	広口壷	6.2		*3.2	
2652	10C14s	5634SI	上層	甕		7.1	*3.9	
2653	10C14s	5634SI	上層	甕		5.6	*2.9	
2654	10C14s	5634SI	上層	広口壷		6.1	*3.2	
2655	10C14t	5635SI	下層	小型鉢(椀)	9.6		*4.0	
2656	10C14s	5635SI	上層	甕	17.2		*3.9	
2657	10C14t	5633SI	下層	甕	19.4		*2.8	
2658	10C14t	5633SI	下層	甕	16.4		*6.4	
2659	10C14s	5633SI	下層	広口壷	13.0		*4.9	
2660	10C14t	5633SI	下層	高杯	25.0		*4.4	
2661	10C14t	5633SI	下層	高杯			*5.4	
2662	10C14s	5633SI	上層	甕	20.8		*4.7	
2663	10C14t	5633SI	上層	壷	11.8		*4.7	
2664	10C14t	5633SI	上層	椀形高杯A	19.8		*4.0	
2665	10C14t	5633SI	上層	椀形高杯A			*4.3	
2666	10C14t	5633SI	上層	広口壷	16.0		*3.9	
2667	10C14t	5633SI	5954SK	甕		8.0	5.9	
2668	10C16q	3320SI	下層	広口壷	20.8		*2.9	
2669	10C16r	3320SI	5850SK	甕		8.8	*7.2	
2670	10C17q	3328SI	床直	甕	14.6		*12.3	
2671	10C16q	3328SI	上層	庄内式甕	19.0		*1.9	
2672	10C16q	3328SI	上層	手焙形土器	16.2		*2.5	
2673	10C16r	3329SI	下層	甕	26.0		*4.0	
2674	10C16r	3329SI	下層	甕	19.6		*3.7	
2675	10C16q	3329SI	下層	内彎口縁壷A		5.8	*1.9	
2676	10C16q	3329SI	下層	内彎口縁壷A	12.2		*6.0	
2677	10C16r	3329SI	下層	広口壷		7.2	*3.8	
2678	10C16r	3329SI	5804SK	広口壷	16.8		*5.6	
2679	10C17q	3330SI	床直	甕		7.5	*5.2	
2680	10C16r	3330SI	下層	甕		6.4	*3.7	
2681	10C16r	3330SI	下層	甕	16.4		*3.0	
2682	10C17q	3330SI	上層	甕	14.8		*7.8	
2683	10C17r	3330SI	下層	中型鉢	9.4		*4.7	
2684	10C17q	3330SI	下層	有孔鉢	21.9		*11.5	
2685	10C17r	3330SI	下層	高杯			*4.4	
2686	10C17q	3330SI	下層	高杯			*8.2	
2687	10C17q	3330SI	下層	高杯	19.4		*5.0	
2688	10C17q	3330SI	下層	庄内系高杯			*11.2	近畿系
2689	10C13q	3421SK	Ha群	小型鉢		4.2	*5.2	
2690	10C15q	5075SK	Ha群	甕		9.6	*6.4	
2691	10C13p	5082SK	Ha群	広口壷		5.6	*2.6	
2692	10C15r	5800SK	Ha群	広口壷		8.2	*2.9	
2693	10C15r	5708SK	Ha群	高杯	20.5	11.4	18.6	
2694	10C15q	検出	Ha群	小型鉢(椀)	11.4	4.4	4.5	
2695	10C16r	検出	Ha群	広口壷		7.3	*2.6	
2696	10C15r	検出	Ha群	有段口縁甕A	17.0		*2.9	
2697	10C17p	検出	Ha群	甕		9.8	*5.6	
2698	10C16s	5651SI	下層	甕		7.7	*5.5	
2699	10C16s	5649SI	上層	折り返し口縁壷	18.3		*1.8	遠江系
2700	10C16r	5649SI	上層	加飾広口壷	26.0		*3.2	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
2701	10C17t	5652SI	床直	甕		8.6	*5.0	
2702	10C17t	5652SI	床直	甕		4.3	*4.2	
2703	10C17s	5652SI	下層	甕	11.6		*6.3	
2704	10C17t	5652SI	下層	甕	21.4		*5.6	
2705	10C17t	5652SI	下層	広口壷		5.8	*2.4	
2706	10C17t	5652SI	上層	広口壷	14.4		*4.4	
2707	10C17t	5652SI	5844SK	甕	17.0		*11.0	
2708	10C17t	5652SI	5844SK	内彎口縁壷B	6.9	4.7	8.1	
2709	10D15a	5704SI	床直	甕	23.4		*10.7	
2710	10D16a	5704SI	5797SK	甕		8.0	*5.0	
2711	10C16t	5705SI	下層	広口壷		7.2	*3.0	
2712	10C16t	5705SI	5830SK	広口壷			*10.5	
2713	10D16a	5703SI	床直	甕	22.8		*10.5	
2714	10C15t	5703SI	床直	椀形高杯A	19.2		*5.3	
2715	10C15t	5703SI	下層	甕	17.8		*2.9	
2716	10C15t	5703SI	上層	甕	18.4		*3.6	
2717	10D15a	5703SI	トレンチ	内彎口縁壷A	10.6		*6.4	
2718	10C16t	5702SI	床直	有孔鉢	16.2	4.7	9.7	
2719	10D16a	5702SI	下層	甕			*4.0	
2720	10D16a	5702SI	下層	中型鉢		4.7	*2.3	
2721	10C16t	5702SI	下層	高杯			*5.3	
2722	10C17t	5700SI	下層	中型鉢		4.4	*3.8	
2723	10D15a	6100SB	6154SK	小型壷	6.4	4.0	8.1	
2724	10D15b	6100SB	6151SK	甕		8.9	*4.7	
2725	10D15a	検出	Hb群	小型鉢(椀)		3.0	*2.3	
2726	10C12r	5545SI	床直	高杯	21.8	12.5	*19.4	
2727	10C12r	5545SI	床直	高杯	20.4		*14.6	
2728	10C12r	5545SI	床直	高杯	22.4		*6.5	
2729	10C12r	5545SI	床直	甕	18.4	8.6	25.6	
2730	10C12r	5545SI	下層	椀形高杯A	14.4		*4.7	
2731	10C12r	5545SI	下層	高杯			*4.0	
2732	10C12r	5545SI	下層	甕	21.8		*6.4	
2733	10C12r	5545SI	上層	高杯			*6.1	
2734	10C12r	5545SI	上層	高杯			*8.5	
2735	10C12r	5545SI	上層	甕	24.4		*5.4	
2736	10C12r	5545SI	上層	甕	20.0		*5.5	5547SIと同一
2737	10C12r	5545SI	上層	内彎口縁甕	17.6		*2.1	
2738	10C12r	5545SI	上層	有段口縁甕A	15.2		*2.2	
2739	10C12r	5545SI	上層	甕		8.4	*5.1	
2740	10C12r	5545SI	上層	小型鉢(椀)	8.2	4.3	5.0	
2741	10C12r	5545SI	上層	中型壷	9.4		*4.2	
2742	10C12r	5545SI	上層	加飾広口壷			*4.1	
2743	10C12r	5545SI	上層	加飾広口壷	17.0		*2.4	
2744	10C12r	5545SI	上層	広口壷		8.9	*3.4	
2745	10C12r	5545SI	上層	広口壷		8.2	*2.4	木葉痕
2746	10C12r	5545SI	5876SK	甕		9.8	*6.6	
2747	10C11s	5547SI	下層	有段口縁甕B	20.4		*8.4	
2748	10C11s	5547SI	下層	甕		8.0	*6.3	
2749	10C11s	5547SI	下層	甕			*2.8	
2750	10C11s	5547SI	上層	甕			*4.3	
2751	10C11s	5547SI	下層	高杯			*5.1	
2752	10C12s	5547SI	下層	中型壷		5.4	*2.7	
2753	10C11t	5547SI	下層	中型鉢		4.8	*2.0	
2754	10C12s	5547SI	下層	広口壷		5.4	*1.9	
2755	10C11s	5547SI	上層	折り返し口縁壷	18.0		*1.6	遠江系
2756	10C12t	5667SI	下層	内彎口縁壷A	8.4		*6.1	
2757	10C12t	5667SI	下層	小型鉢		4.4	*2.0	
2758	10C12s	5556SI	下層	ワイングラス形高杯	13.6		*5.0	
2759	10C12s	5546SI	トレンチ	高杯			*3.4	
2760	10D12a	5636SI	床直	広口壷	14.2	6.8	26.9	
2761	10D12a	5636SI	床直	内彎口縁甕	18.6		*8.5	
2762	10D12a	5636SI	床直	甕	15.0		*6.5	
2763	10C12t	5636SI	下層	甕	13.2		*5.1	2834SIと同一
2764	10C12t	5636SI	下層	甕		9.8	*5.1	5548SIと接合
2765	10C12t	5636SI	下層	高杯			*3.0	
2766	10C13t	5548SI	下層	高杯	27.6		*5.1	
2767	10D13a	5650SI	下層	高杯	24.8		*7.7	
2768	10D13a	5650SI	下層	高杯			*5.4	
2769	10D13a	5650SI	上層	中型壷		4.6	*2.2	
2770	10D12a	5574SK	Hc群	甕		8.5	*7.0	
2771	10D13b	5578SK	Hc群	折り返し口縁壷	22.0		*2.7	遠江系
2772	10C12t	検出	Hc群	加飾広口壷	19.2		*1.7	
2773	10D16b	5807SI	下層	甕	23.3	9.5	32.5	
2774	10D16b	5807SI	下層	甕	24.6		*3.6	
2775	10D16b	5807SI	下層	有段口縁甕A	22.2		*6.8	
2776	10D16b	5807SI	下層	高杯	23.8		*6.5	
2777	10D16b	5807SI	下層	中型壷	12.0		*4.9	
2778	10D17a	5911SI	下層	中型壷	11.2		*4.9	2780と同一？
2779	10D17a	5911SI	下層	内彎口縁壷A	10.4		*3.5	
2780	10D17a	5911SI	下層	中型壷		6.4	*3.0	2778と同一？
2781	10D17a	5911SI	下層	甕	14.0		*3.3	
2782	10D16b	5935SI	床直	高杯			*5.6	
2783	10D17b	5935SI	下層	高杯			*5.3	
2784	10D17b	5935SI	床直	甕		11.0	*8.3	
2785	10D17b	5935SI	下層	甕		10.2	*8.7	
2786	10D17b	5935SI	下層	折り返し口縁壷	26.0		*1.1	遠江系
2787	10D16b	5688SK	Ia群	高杯	18.6		*3.2	
2788	10D16b	6083SK	Ia群	甕	13.6		*4.3	
2789	10D16b	5909SI	床直	高杯	21.7	10.7	16.5	
2790	10D16c	5909SI	床直	甕		8.6	*5.5	
2791	10D15c	5909SI	下層	甕	12.8		*5.0	
2792	10D15c	5909SI	下層	広口壷		6.2	*3.0	
2793	10D16c	5909SI	下層	広口壷		8.0	*2.3	
2794	10D15c	5909SI	上層	S字甕	15.2		*2.1	B類新
2795	10D16c	5909SI	上層	広口壷		6.6	*3.1	
2796	10D16c	5909SI		加飾広口壷	20.2		*3.7	
2797	10D17c	5910SI	下層	内彎浅鉢			*5.9	
2798	10D16c	5910SI	下層	内彎口縁壷A		3.8	*1.4	
2799	10D16c	5910SI	下層	甕	10.0		*3.0	
2800	10D16c	5910SI	下層	甕		9.0	*7.4	
2801	10D16c	6000SB	5936SK	内彎口縁壷B	9.2	4.2	6.7	
2802	10D17c	6000SB	6015SD	縁帯口縁甕	13.6		*2.8	
2803	10D16d	検出	Ib群	パレス系壷	19.6		*4.4	
2804	10D17e	検出	Ib群	広口壷		6.9	*2.9	
2805	10D16d	検出	Ib群	広口壷		7.0	*3.4	
2806	10D16d	5914SI	下層	甕	21.0		*5.2	
2807	10D16d	5914SI	下層	甕		8.2	*5.9	
2808	10D16d	5914SI	下層	甕		8.4	*6.0	
2809	10D16d	5914SI	下層	広口壷		6.6	*2.9	
2810	10D16d	5914SI	下層	高杯			*5.9	
2811	10D16e	6007SI	下層	高杯		7.6	*5.8	
2812	10D16f	6040SI	床直	甕	15.8		*4.9	
2813	10D16f	6040SI	床直	内彎口縁壷A	13.4	3.6	*8.9	
2814	10D17e	6040SI	床直	広口壷		5.5	*3.0	
2815	10D17e	6040SI	下層	甕		7.7	*5.7	
2816	10D17f	6040SI	下層	加飾広口壷	21.0		*3.2	
2817	10D17e	6040SI	下層	高杯			*6.0	
2818	10D17f	6040SI	下層	高杯	19.8		*3.3	
2819	10D17f	6040SI	上層	広口壷		8.0	*3.9	
2820	10D17f	6040SI	上層	内彎口縁壷C		5.3	*6.9	
2821	10D17f	6040SI	上層	内彎口縁壷C		5.0	*6.7	
2822	10D17f	6040SI	下層	棒状土製品	長*5.7	幅1.1	高1.1	重*7.7g
2823	10D16e	6076SK	Ic群	有段口縁甕A	18.4		*19.8	
2824	10D16e	6076SK	Ic群	高杯		11.8	*6.4	脚部線刻
2825	10C6o	3515SI	床直	広口壷			*10.2	
2826	10C6o	3515SI	床直	広口壷			*5.3	
2827	10C6o	3515SI	床直	広口壷			*3.0	
2828	10C6o	3515SI	床直	中型壷			*1.4	
2829	10C6o	3515SI	床直	甕		7.0	*7.6	
2830	10C6o	3515SI	下層	高杯			*5.0	
2831	10C6o	3515SI	上層	広口壷		8.9	*2.3	
2832	10C6o	3515SI	上層	中型壷		4.6	*2.0	
2833	10C6o	3515SI	上層	有段(複合)口縁壷	16.0		*2.7	西遠江(伊場)系
2834	10C6o	3515SI	上層	広口壷			*3.7	東遠江(菊川)系
2835	10C6o	3515SI	上層	加飾広口壷			*5.6	
2836	10C6o	3515SI	上層	甕		7.3	*5.1	
2837	10C6o	3515SI	上層	椀形高杯			*5.3	
2838	10C6m	3535SI	上層	広口壷		8.0	*3.2	
2839	10C7s	検出	Ja群	有段口縁甕B	16.6		*2.3	
2840	10C3o	3602SI	床直	甕	14.8	8.0	21.5	
2841	10C3o	3602SI	下層	叩き甕？	14.6		*6.7	
2842	10C3o	3602SI	下層	甕	12.8		*3.7	
2843	10C3o	3602SI	下層	甕	17.0		*3.5	
2844	10C3p	3602SI	下層	内彎口縁甕	17.0		*2.8	
2845	10C3p	3602SI	下層	甕			*5.7	
2846	10C3o	3602SI	下層	甕		7.8	*4.7	
2847	10C3P	3602SI	下層	椀形高杯A	15.4	12.2	11.4	
2848	10C3o	3602SI	下層	椀形高杯A	16.2		*5.7	
2849	10C4o	3602SI	下層	高杯	21.8		*5.0	
2850	10C3o	3602SI	下層	高杯			*5.2	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
2851	10C3o	3602SI	下層	有段口縁甕B	19.2		*3.0	
2852	10C3p	3602SI	下層	内彎口縁壺C		4.7	*6.8	連弧文
2853	10C3o	3602SI	下層	中型壺	5.4	4.0	*5.3	
2854	10C3p	3602SI	上層	中型壺		4.0	*2.5	
2855	10C3p	3602SI	3934SK	甕		9.8	*6.5	
2856	10C4q	3603SI	下層	内彎口縁甕	19.0		*3.4	
2857	10D8a	5600SI	床直	内彎口縁壺B	8.5	3.7	7.6	
2858	10D7a	5600SI	上層	加飾広口壺			*4.2	
2859	10D8a	5555SI	上層	高杯			*2.8	
2860	10D9b	5553SI	床直	大型(平底)鉢	14.2	5.4	9.7	
2861	10D9b	5553SI	下層	甕	24.6		*6.0	
2862	10D10b	5553SI	下層	広口壺			*6.5	
2863	10D10b	5553SI	下層	広口壺	19.4		*3.1	
2864	10D10b	5553SI	下層	広口壺		6.0	*2.1	
2865	10C9t	検出	Jc群	中型壺		4.8	*4.6	
2866	10D10d	検出	Jc群	加飾広口壺			*2.8	
2867	10D10d	検出	Jc群	広口壺			*4.8	東遠江(菊川)系
2868	10D7d	5550SI	上層	甕	27.8		*6.8	
2869	10D7b	5550SI	上層	甕		10.0	*6.9	
2870	10D8c	5550SI	上層	高杯			*6.3	
2871	10D8c	5550SI	上層	甕		7.0	*3.5	
2872	10C6c	5500SI	床直	甕	13.6	6.8	16.0	
2873	10C6d	5500SI	床直	甕	17.6		*12.3	
2874	10C6c	5500SI	床直	椀形高杯A		11.6	*9.1	
2875	10C6c	5500SI	床直	小型壺	6.4	3.0	7.6	
2876	10D7b	5506SK	Jd群	加飾広口壺	16.6		*2.2	
2877	10E16m	0016SI		甕	17.2		*2.7	
2878	10E16m	0016SI		高杯	24.0		*4.3	
2879	10E16m	0016SI		高杯			*8.8	
2880	10E16m	0016SI		高杯			*6.6	
2881	10E16m	0016SI		高杯			*3.5	
2882	10E16m	0016SI		中型壺		5.2	*3.6	
2883	10E16m	0016SI		中型壺		4.0	*2.5	
2884	10E16m	0016SI	SP2	小型壺		4.0	*6.4	
2885	10E16f	0121SI	下層	甕	21.2		*7.7	
2886	10E17f	0121SI		甕	18.4		*5.3	
2887	10E16f	0121SI	下層	甕			*4.8	
2888	10E16f	0121SI	下層	甕		9.0	*3.7	
2889	10E16f	0121SI		S字甕	12.0	7.0	*7.6	B類新
2890	10E17f	0121SI		高杯	19.2		*7.2	
2891	10E17f	0121SI		高杯		10.0	*23.3	
2892	10E17f	0121SI		パレス系壺	19.4		*4.1	
2893	10E16f	0121SI		小型鉢		2.6	*2.4	
2894	10E16f	0121SI	下層	中型鉢		3.6	*4.4	
2895	10E16f	0121SI		中型壺		3.4	*3.8	
2896	10E17f	0121SI	SP1	中型壺		4.2	*11.6	
2897	10E16c	0139SX		広口壺			*17.6	
2898	10E16l	0001SX		小型鉢(椀)	5.2		*2.6	
2899	10E17g	0021SD		高杯			*4.5	
2900	10D15m	検出	Ka群	広口壺		4.8	*2.7	
2901	10B19m	検出	西斜面	加飾広口壺	21.0		*2.7	
2902	10B20m	検出	西斜面	加飾広口壺	18.0		*4.1	
2903	10B19m	1005SD	上層	加飾広口壺	16.0		*1.3	
2904	10B18m	1005SD		加飾広口壺	20.0		*2.8	
2905	10B18m	検出	西斜面	折り返し口縁壺	17.8		*2.1	遠江系
2906	10B17m	1005SD		加飾広口壺			*3.5	
2907	10B18n	検出	西斜面	加飾広口壺	18.8		*3.1	
2908	10B20k	検出	西斜面	加飾広口壺			*2.2	
2909	1B2n	検出	西斜面	加飾広口壺			*2.2	
2910	10B19n	1106SK		加飾広口壺	20.0		*2.8	
2911	10B20l	検出	西斜面	加飾広口壺	18.0		*2.0	
2912	10B18o	検出	西斜面	パレス系壺	20.0		*4.6	
2913	10B17m	1005SD	西斜面	パレス系壺			*4.4	
2914	10B19o	検出	西斜面	加飾広口壺	19.2		*4.1	
2915	10B20n	検出	西斜面	加飾広口壺	13.6		*4.4	
2916	10B19o	検出	西斜面	広口壺	15.0		*5.0	
2917	10B18o	検出	西斜面	広口壺	14.0		*3.6	
2918	10B19m	1005SD	上層	有段口縁壺	19.4		*6.4	
2919	10B18m	1005SD		広口壺	19.2		*2.2	
2920	10B18o	検出	西斜面	広口壺	17.2		*5.0	
2921	10B19m	1005SD	上層	加飾広口壺			*5.9	
2922	10B20m	検出	西斜面	加飾広口壺			*3.9	
2923	1B1o	検出	西斜面	パレス系壺			*2.4	
2924	10B17m	1123SK		広口壺		7.4	*2.0	
2925	10B17m	1122SK		広口壺		7.0	*1.9	

登録番号	グリッド	遺構	層位等	器種	口径	底径	器高	備考
2926	10B18o	検出	西斜面	内彎口縁壺A		3.8	*3.3	
2927	10B19m	1005SD		内彎口縁甕	19.4		*2.7	
2928	10B19n	検出	西斜面	縁帯口縁甕	23.4		*4.2	
2929	10B18n	検出	西斜面	有段口縁甕A	18.4		*5.2	
2930	10B20n	検出	西斜面	有段口縁甕A	24.4		*4.2	
2931	10B18n	1166SD		S字甕	18.0		*1.8	A類
2932	1B3n	検出	西斜面	有段口縁甕A	24.2		*5.1	
2933	10B20o	検出	西斜面	S字甕	21.6		*2.3	B類古
2934	10B20n	1005SD	上層	甕		10.0	*6.3	
2935	10B19n	1088SK		甕		8.6	*6.2	
2936	10B18n	検出	西斜面	甕		9.4	*5.8	
2937	1B1o	検出	西斜面	S字甕			*3.0	
2938	10B20m	1005SD	上層	高杯		11.6	*10.7	
2939	10B18m	1117SK		高杯			*5.4	
2940	10B18n	1164SK		高杯		8.2	*5.4	
2941	10B18m	1172SK		高杯			*5.0	
2942	10B19n	検出	西斜面	有孔鉢		5.8	*1.9	
2943	10B18n	検出	西斜面	加工円板	長4.7	幅4.7	高0.9	重19.7g
2944	10B18o	検出	西斜面	土製紡錘車	長5.6	幅5.6	高1.3	重38.9g
2945	-	検出		有段口縁甕A			*1.7	
2946	-	表土		甕	16.2		*7.6	
2947	-	表土		甕		6.6	*4.7	
2948	-	表採		高杯		12.0	*7.5	
2949	-	表採		高杯		6.6	*5.5	
2950	-	表採		小型鉢(椀)	10.6	4.8	5.2	
2951	-	表土		加飾広口壺	19.0		*5.0	
2952	-	表採		パレス系壺	10.6		*2.4	
2953	-	表採		内彎口縁壺D	11.0		*4.9	
2954	-	表土		加飾広口壺			*3.9	
2955	-	検出		パレス系壺			*11.0	
2956	-	表採		広口壺		8.0	*4.6	
2957	-	排土		広口壺		8.4	*2.9	木葉痕
2958	-	表土		広口壺		5.2	*3.3	
2959	-	表土		内彎口縁壺A		4.4	*4.3	
2960	-	表採		内彎口縁壺A		4.6	*3.0	
2961	10E11p	0019SI		須恵器/蓋	15.2	-	3.9	
2962	10E11p	0019SI		須恵器/有台杯	15.8		*3.3	
2963	10E11p	0019SI		須恵器/長頸瓶	8.4		*3.3	
2964	10E11q	0019SI		須恵器//鉢？		15.0	*4.1	
2965	10E11q	0019SI		須恵器/甕			*10.5	
2966	10E11p	0019SI		須恵器/甕	*24.0		*2.1	
2967	10E17r	検出		須恵器/無台杯	13.4	-	4.3	
2968	10E17n	0014SP		須恵器/有台杯		7.8	*1.4	
2969	10D10a	1900SD	上層	須恵器/蓋	17.6		*1.4	
2970	10B14n	1900SD		須恵器/甕			*4.4	
2971	10B14n	1900SD	上層	須恵器/甕			*5.1	
2972	10B14n	1900SD	上層	須恵器/甕			*7.3	
2973	-	表土		須恵器/蓋	19.0		*1.1	
2974	10C15a	検出		須恵器/蓋	13.2		*2.4	
2975	10D13b	検出		須恵器/有台杯		11.4	*1.5	
2976	10E15n	検出		須恵器/有台杯		9.2	*1.3	
2977	-	検出		須恵器/無台杯		7.0	*1.2	
2978	-	表土		土師器/甕	13.0		*5.8	
2979	10C4j	検出		須恵器/鉢	22.4		*4.3	
2980	10D15b	検出		須恵器/鉢		16.0	*3.0	
2981	10D15b	検出		須恵器/瓶類			*6.9	
2982	10E16n	検出		須恵器/碗	15.2		*2.9	
2983	10E11p	検出		須恵器/碗		6.6	*1.6	
2984	10D15q	0129SD		土師器/皿	14.0	9.0	3.3	ロクロ調整
2985	10B13o	1900SD		土師器/皿	13.2	7.0	3.3	ロクロ調整
2986	10C10t	1900SD		土師器/皿	8.6	-	3.8	手捏ね
2987	10C9s	6150SK		土師器/皿	10.0	-	2.1	手捏ね
2988	10C9s	6150SK		土師器/皿	11.0	-	2.5	手捏ね
2989	10C9s	6150SK		土師器/皿	10.0	-	2.3	手捏ね
2990	10C7s	5631SK		山茶碗/碗	14.8		*2.9	
2991	10C3j	3530SK		山茶碗/碗	7.2		*2.1	ヘラ記号「一」
2992	10D14q	検出		山茶碗/皿		7.4	*1.6	ロクロ調整
2993	10B16o	検出		山茶碗/碗		7.8	*1.7	
2994	10B10q	検出		古瀬戸緑釉小皿	9.2		*2.0	灰釉
2995	10E16m	検出		土師器/鍋	22.6		*6.1	
2996	-	表採		山茶碗/碗		6.2	*2.9	
2997	-	表採		山茶碗/碗		8.2	*2.0	
2998	-	表採		渥美蓮弁文壺			*7.4	
2999	10B14s	1001SY		近世施釉/碗	10.0		*4.2	
3000	10C9c	3200SY		常滑土管	16.0		*27.0	

登録番号	整理番号	器種	分類	グリッド	遺構	層位等	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3001	1337	剥片		10E14h	0124SX		熔結凝灰岩	4.80	2.69	1.18	7.2	
3002	1409	剥片		10E11e	0124SX		熔結凝灰岩	4.41	2.44	0.94	6.2	
3003	1343	剥片		10E11f	0124SX		熔結凝灰岩	2.82	1.46	0.54	1.6	
3004	1349	剥片		10E11f	0124SX		熔結凝灰岩	3.09	2.98	1.10	8.4	
3005	1336	剥片		10E14h	0124SX		熔結凝灰岩	5.85	4.17	1.92	34.3	
3006	1352	石核		10E11f	0124SX		熔結凝灰岩	3.27	3.11	1.57	16.1	
3007	1422	剥片		10E13g	0124SX		凝灰岩	5.14	4.29	1.58	25.1	
3008	1351	削器		10E11f	0124SX		凝灰岩	5.77	3.61	1.55	21.4	
3009	1348	剥片		10E11f	0124SX		チャート	2.01	1.46	0.22	0.7	
3010	1400	ナイフ形石器		10D16o	0130SX		熔結凝灰岩	4.06	1.61	0.77	3.2	
3011	1445	剥片		10D15o	0130SX		凝灰岩	1.73	1.44	0.39	0.5	
3012	1382	剥片		10D15n	0130SX		熔結凝灰岩	2.62	1.45	0.41	1.1	
3013	1367	剥片		10D15n	0130SX		熔結凝灰岩	5.17	3.36	0.95	12.2	
3014	1359	剥片		10D14m	0130SX		熔結凝灰岩	4.54	3.69	0.98	16.3	
3015	1374	石核		10D15n	0130SX		熔結凝灰岩	2.94	2.55	1.04	5.8	
3016	1368	剥片		10D15n	0130SX		凝灰岩	3.88	4.99	1.53	16.2	
3017	1392	剥片		10D15n	0130SX		凝灰岩	2.37	4.75	0.84	9.8	
3018	1396	剥片		10D16n	0130SX		凝灰岩	4.46	2.65	0.94	4.6	
3019	1397	剥片		10D16n	0130SX		凝灰岩	4.56	3.63	1.33	15.6	
3020	1365	剥片		10D15n	0130SX		凝灰岩	3.90	2.81	1.39	8.5	
3021	1360	石核		10D14m	0130SX		熔結凝灰岩	3.91	3.60	2.58	25.2	
3022	1371	石核		10D15n	0130SX		熔結凝灰岩	4.02	2.81	2.28	10.8	
3023	1407	石核		10D14l	0130SX		凝灰岩	3.49	3.05	2.86	30.9	
3024	1433	石核		10D14n	0130SX		凝灰岩	6.14	6.70	4.20	160.3	
3025	1456	削器		10E16f	検出		熔結凝灰岩	8.47	3.16	1.10	14.3	
3026	1294	剥片		10E16o	0009SX		凝灰岩	3.80	1.83	0.95	3.4	
3027	1411	剥片		10E12b	検出		熔結凝灰岩	3.78	2.13	0.32	1.8	
3028	1470	剥片		10E15i	検出		熔結凝灰岩	3.61	4.26	1.11	10.6	
3029	1429	剥片		10E14b	検出		熔結凝灰岩	3.83	5.11	1.37	18.0	
3030	1431	剥片		10E14c	検出		熔結凝灰岩	3.11	2.56	0.81	6.1	
3031	1303	剥片		10E16m	0016SI		熔結凝灰岩	3.98	3.10	1.24	15.6	
3032	1331	剥片		10E16f	0121SI		熔結凝灰岩	3.54	3.50	0.99	6.3	
3033	1317	剥片		10E16h	0021SD		熔結凝灰岩	3.89	2.99	0.56	3.8	
3034	1299	剥片		10E16o	0013SK		凝灰岩	2.24	1.88	0.61	1.7	
3035	1460	剥片		10E10r	検出		安山岩	3.86	3.08	0.98	14.4	
3036	1476	剥片		10E17h	検出		下呂石	2.03	3.48	0.82	5.2	
3037	1448	石核		10E16e	検出		熔結凝灰岩	4.18	4.72	2.79	36.3	
3038	1449	石核		10E16f	検出		熔結凝灰岩	5.77	5.28	2.46	44.3	
3039	1469	石核		10E15f	検出		熔結凝灰岩	5.48	2.88	2.57	25.5	
3040	1453	石核		10E17q	検出		熔結凝灰岩	7.16	3.78	2.28	38.2	
3041	1413	石核		10E12b	検出		熔結凝灰岩	5.53	2.95	2.41	28.1	
3042	1424	石核		10E14a	検出		凝灰岩	6.86	4.74	2.64	0.6	
3043	1405	石核		-	南壁		凝灰岩	4.43	4.57	2.01	40.1	
3044	1408	丸ノミ形石斧	局部磨製石斧？	10D17m	検出		安山岩	13.63	4.81	3.31	225.2	草創期以前？
3045	1491	矢柄研磨器		10E16f	0121SI		砂質凝灰岩	9.01	*3.19	*1.34	53.2	
3046	1	有舌尖頭器	柳又形	10B17p	1464SI		溶結凝灰岩	3.47	2.86	0.69	4.2	
3047	3164	有舌尖頭器		10C16k	3150SI	下層	凝灰岩	3.51	2.70	0.71	5.3	
3048	1533	有舌尖頭器		10C13q	3261SI	上層	凝灰岩	4.11	2.36	0.78	3.7	
3049	2	木葉形尖頭器		10B16s	検出		溶結凝灰岩	*4.83	3.55	1.18	16.0	
3050	1532	木葉形尖頭器		10C14j	3211SI	上層	凝灰岩	3.94	2.51	0.73	3.8	
3051	3	使用痕のある剥片	縦長剥片	10B18t	検出		溶結凝灰岩	*3.61	2.70	1.13	10.5	草創期以前？
3052	7	石鏃	凹基 無茎	10B17q	1329SI		熔結凝灰岩	1.62	1.06	0.28	0.3	
3053	8	石鏃	凹基 無茎	10B18q	1330SI		熔結凝灰岩	2.07	*1.54	0.37	0.5	
3054	3034	石鏃	凹基 無茎	10C12i	4752SK		熔結凝灰岩	1.92	1.28	0.36	0.4	
3055	6	石鏃	凹基 無茎	10B19r	1272SK		熔結凝灰岩	2.37	1.28	0.35	0.6	
3056	1536	石鏃	凹基 無茎	10C15e	3025SI	上層	熔結凝灰岩	2.24	1.55	0.46	0.6	
3057	1542	石鏃	凹基 無茎	10C15g	検出		熔結凝灰岩	1.90	1.67	0.52	0.7	
3058	1541	石鏃	平基 無茎	10C15e	検出		熔結凝灰岩	1.68	1.53	0.38	0.4	
3059	1032	石鏃	平基 無茎	10C18a	1176SI	掘方	熔結凝灰岩	2.54	2.09	0.56	3.4	
3060	3079	石鏃	凹基 無茎	10D17c	5912SK		凝灰岩	*1.73	1.45	0.39	0.6	
3061	609	石鏃	凹基 無茎	10B19r	検出		凝灰岩	1.47	1.75	0.41	0.6	
3062	3075	石鏃	平基 無茎	10B10m	2005SI	上層	凝灰岩	*2.38	1.73	0.34	0.9	
3063	10	石鏃	凹基 無茎	10B15m	1454SI	下層	安山岩	1.70	1.28	0.27	0.4	
3064	3078	石鏃	凹基 無茎	10C7h	5631SK		安山岩	1.78	1.39	0.33	0.6	
3065	844	石鏃	凹基 無茎	10B18p	1410SI		安山岩	1.60	2.10	0.31	1.1	
3066	14	石鏃	凹基 無茎	10B15p	検出		安山岩	2.70	1.35	0.35	1.0	
3067	15	石鏃	平基 無茎	-	表採		安山岩	*2.19	1.22	0.36	1.1	
3068	1543	石鏃	凹基 無茎	10C15n	検出		下呂石	1.67	1.34	0.39	0.6	
3069	1540	石鏃	凹基 無茎	10C8q	検出		下呂石	2.12	1.22	0.30	0.5	
3070	1539	石鏃	凹基 無茎	10C16q	3320SI	上層	下呂石	2.43	1.87	0.46	1.6	
3071	3059	石鏃	凹基 無茎	10C10r	5785SI	下層	チャート	1.62	1.37	0.30	0.6	
3072	63	石鏃	凹基 無茎	10C7b	1861SI	床直	チャート	1.82	1.98	0.49	1.8	
3073	1537	石鏃	凹基 無茎	10C14l	3283SI	床直	黒曜石	2.21	1.49	0.29	0.6	
3074	12	石鏃	凹基 無茎	1B1p	1250SI		黒曜石	*1.21	1.68	0.30	0.5	
3075	1248	石鏃	凹基 無茎	10B18o	検出		黒曜石	1.05	1.14	0.28	0.2	

登録番号	整理番号	器種	分類	グリッド	遺構	層位等	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3076	1535	石鏃	凹基 無茎	10C15d	3003SI	床直	黒曜石	2.09	1.51	0.29	0.7	
3077	837	石鏃	凸基 有茎	10C15a	1157SI		熔結凝灰岩	2.55	1.58	0.33	1.2	
3078	1538	石鏃	平基 有茎	10C15g	3215SI	床直	熔結凝灰岩	1.90	1.24	0.49	0.9	
3079	9	石鏃	凸基 有茎	10B16p	1464SI	堀方	熔結凝灰岩	3.24	1.17	0.44	0.9	
3080	11	石鏃	凸基 有茎	10C13a	1894SI	下層	安山岩	2.87	1.30	0.42	1.1	五角形鏃
3081	13	石鏃	凸基 有茎	10C14a	1260SK		安山岩	*2.32	1.68	0.40	1.3	五角形鏃
3082	3031	石鏃	凸基 有茎	10C11d	4337SI	堀方	安山岩	2.69	1.37	0.57	1.5	
3083	3181	石鏃	凸基 有茎	10C11m	3651SI	上層	安山岩	2.53	1.41	0.63	1.5	
3084	1926	石鏃	凸基 有茎	10C14l	3283SI	下層	安山岩	1.64	1.57	0.67	1.9	
3085	5	石錐		10C7c	1861SI		熔結凝灰岩	2.95	1.24	0.59	2.3	
3086	1545	石錐		10C14q	トレンチ		熔結凝灰岩	2.35	1.98	0.80	2.3	摘みあり
3087	1544	石錐		10C13g	3380SI	床直	安山岩	4.14	1.02	0.76	3.1	棒状
3088	3042	石錐		10C12k	検出		黒曜石	1.58	1.59	0.77	2.0	
3089	3076	石錐		10C13b	1873SI		黒曜石	1.94	1.55	0.58	1.6	
3090	385	尖頭器		10B16q	1329SI		凝灰岩	6.00	3.71	0.35	35.2	被熱あり
3091	81	尖頭器		10B13q	1937SI	下層	熔結凝灰岩	3.48	2.26	0.70	5.8	
3092	1211	尖頭器		10B11m	2077SI	掘方	安山岩	2.09	2.15	0.73	3.6	
3093	3093	尖頭器		10B16t	1253SI	上層	安山岩	3.43	1.72	0.67	3.6	
3094	22	石匙	縦形	10C18b	検出		安山岩	5.82	2.09	1.44	14.7	石匙様の摘み？
3095	2247	石匙	縦形	10C14c	4362SI	下層	安山岩	8.23	2.59	0.79	13.6	
3096	321	石匙	横形	10B14o	1444SI	下層	凝灰岩	3.58	4.78	1.12	15.2	
3097	1580	石匙	横形	10C11c	1863SI	上層	熔結凝灰岩	1.94	4.14	0.55	4.0	
3098	23	石匙	横形	10B14q	検出		熔結凝灰岩	3.54	4.67	0.86	10.6	
3099	25	石匙	横形	10B17n	検出		熔結凝灰岩	3.69	4.01	1.19	7.6	製作途上？
3100	29	石匙	横形	10B17p	1410SI	上層	熔結凝灰岩	*2.27	*4.16	*0.52	3.5	
3101	28	石匙	横形	10B17q	1330SI	堀方	熔結凝灰岩	5.32	2.77	0.60	8.8	
3102	92	石匙	横形	10B12n	1967SI	下層	熔結凝灰岩	2.76	3.38	0.57	5.0	
3103	26	石匙	横形	10B18p	検出		熔結凝灰岩	2.74	*2.73	0.55	4.2	
3104	1546	石匙	横形	10C15o	3145SI	下層	熔結凝灰岩	2.55	5.64	0.93	9.8	
3105	30	石匙	横形	10C17b	1861SI		チャート	3.34	4.88	0.64	9.8	
3106	1723	石匙	横形	10C18f	3079SI	上層	チャート	2.39	2.85	0.76	4.4	
3107	2060	スクレイパー		10C13o	3481SI	下層	熔結凝灰岩	2.50	3.80	0.76	5.9	
3108	3069	スクレイパー		10B17q	1329SI	上層	熔結凝灰岩	3.10	5.17	1.36	18.4	
3109	1047	スクレイパー		10C13a	1218SI	上層	熔結凝灰岩	3.51	2.66	1.03	7.8	
3110	1724	スクレイパー		10C18f	3079SI	上層	熔結凝灰岩	5.05	4.78	0.92	20.1	
3111	1994	スクレイパー		10C13q	3380SI	上層	熔結凝灰岩	4.03	4.43	1.01	20.8	
3112	377	スクレイパー		10B14t	1197SI	掘方	熔結凝灰岩	3.23	4.41	1.13	16.8	
3113	1964	スクレイパー		10C11i	3375SI	上層	熔結凝灰岩	5.27	3.03	1.04	15.2	
3114	1790	スクレイパー		10C17l	3149SI	上層	熔結凝灰岩	3.53	4.44	1.40	16.6	
3115	2258	スクレイパー		10C11d	4790SI	下層	熔結凝灰岩	2.02	3.66	1.11	8.8	
3116	3144	スクレイパー		10C15d	3003SI	上層	熔結凝灰岩	5.10	3.15	1.01	8.6	
3117	422	使用痕のある剥片		1B1q	1224SI	上層	熔結凝灰岩	2.96	1.97	0.69	2.8	
3118	760	使用痕のある剥片		10B18q	検出		熔結凝灰岩	3.47	2.71	0.72	6.2	
3119	1067	使用痕のある剥片		10B18r	1272SK		熔結凝灰岩	2.39	1.55	0.82	2.4	
3120	1763	使用痕のある剥片		10C14n	3147SI	上層	熔結凝灰岩	4.46	2.40	0.78	7.3	
3121	1783	使用痕のある剥片		10C17m	3149SI	上層	熔結凝灰岩	3.54	2.97	1.00	9.4	
3122	1925	使用痕のある剥片		10C14l	3283SI	下層	熔結凝灰岩	2.55	1.61	0.50	2.0	
3123	1848	使用痕のある剥片		10C15h	3186SI	下層	熔結凝灰岩	4.21	2.17	0.87	5.6	
3124	1246	使用痕のある剥片		10B17s	検出		熔結凝灰岩	2.43	3.45	1.09	4.6	
3125	1837	使用痕のある剥片		10C15k	3150SI	上層	熔結凝灰岩	6.26	4.22	1.25	35.0	
3126	1547	スクレイパー		10C11d	4341SI	上層	熔結凝灰岩	3.08	4.35	1.08	11.2	
3127	1662	スクレイパー		10C19d	3006SI	上層	熔結凝灰岩	3.34	2.11	0.83	7.8	
3128	1718	スクレイパー		10C18g	3079SI	上層	凝灰岩	3.61	5.25	1.24	20.8	
3129	3096	スクレイパー		10B13r	1276SI	下層	凝灰岩	3.90	2.18	0.68	6.6	
3130	229	スクレイパー		10C19a	1138SI	下層	凝灰岩	2.89	2.99	0.76	7.2	
3131	176	スクレイパー		10C16a	1679SK		凝灰岩	3.99	3.23	1.19	10.4	
3132	1958	スクレイパー		10C13l	3304SI	下層	凝灰岩	5.31	2.96	0.96	12.5	
3133	2227	スクレイパー		10C12f	4342SI	掘方	凝灰岩	4.94	5.27	5.27	22.9	
3134	336	スクレイパー		10B14q	1456SI	下層	凝灰岩	3.31	3.59	1.07	12.4	
3135	2740	スクレイパー		10D17b	5935SI	上層	凝灰岩	4.44	2.76	0.69	8.1	
3136	503	スクレイパー		10B14o	1455SI	上層	凝灰岩	5.47	3.55	1.10	20.2	
3137	404	スクレイパー		10B15s	1338SI	上層	凝灰岩	4.95	3.41	0.63	10.4	
3138	1011	使用痕のある剥片		10C17b	1002SD	上層	凝灰岩	9.09	5.03	1.29	64.4	
3139	1329	スクレイパー		10E16i	0026SD		凝灰岩	2.74	2.39	0.94	5.0	
3140	1070	スクレイパー		10B18r	1272SK		凝灰岩	5.31	3.55	0.93	18.2	
3141	447	スクレイパー		10B14s	1276SI		凝灰岩	2.94	3.42	1.12	7.4	
3142	724	スクレイパー		10B17p	検出		凝灰岩	3.59	4.25	1.13	16.9	
3143	634	スクレイパー		10B14q	検出		凝灰岩	2.27	2.22	0.68	2.6	
3144	3150	使用痕のある剥片		10C14e	3055SI	上層	安山岩	2.37	1.88	0.59	2.1	
3145	100	スクレイパー		10B18r	1272SK		安山岩	3.37	5.07	1.81	26.6	
3146	1148	使用痕のある剥片		10B10m	2021SI	下層	凝灰岩	3.17	2.95	0.92	6.4	
3147	1548	スクレイパー		10C17f	3005SI	上層	黒曜石	1.56	1.66	0.51	1.3	
3148	2238	スクレイパー		10C13d	4362SI	下層	黒曜石	3.19	2.62	0.77	5.7	
3149	2202	使用痕のある剥片		10C15j	4309SI		黒曜石	2.58	2.02	0.77	3.3	
3150	150	楔形石器		10B10q	1376SK		安山岩	1.16	1.91	0.74	1.8	

登録番号	整理番号	器種	分類	グリッド	遺構	層位等	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3151	488	楔形石器		10B14q	1444SI	下層	安山岩	4.30	2.04	1.12	7.7	
3152	1220	楔形石器		10B13p	検出		チャート	2.71	2.52	1.46	10.7	
3153	633	刃器		10B14q	検出		紅簾石片岩	9.99	3.57	0.50	25.1	
3154	1301	刃器		10E16m	0016SI		泥質凝灰岩	3.99	8.65	0.96	36.4	
3155	32	刃器		10B16o	検出		熔結凝灰岩	9.15	10.49	2.27	129.3	
3156	1946	刃器		10C16q	3330SI	下層	熔結凝灰岩	7.54	6.69	1.60	73.2	
3157	1659	刃器		10C19d	3006SI	下層	熔結凝灰岩	5.91	8.02	1.16	47.4	
3158	118	刃器		10B20m	1005SD	上層	安山岩	7.47	3.59	0.95	26.2	
3159	177	刃器		10B18p	1696SK		安山岩	7.93	5.93	1.66	47.2	
3160	819	刃器		-	表土		安山岩	6.59	4.95	1.40	49.3	
3161	1534	二次加工のある剥片		10C12f	4342SI	掘方	熔結凝灰岩	3.49	1.93	0.77	3.8	
3162	513	二次加工のある剥片		10B15p	1455SI	下層	熔結凝灰岩	4.49	3.27	1.35	16.1	
3163	1876	二次加工のある剥片		10C14j	3211SI	上層	熔結凝灰岩	3.64	2.33	0.76	5.9	
3164	4	二次加工のある剥片		10B14s	1001SY		溶結凝灰岩	*2.09	1.40	0.64	1.5	
3165	772	二次加工のある剥片		10B18r	検出		熔結凝灰岩	2.75	2.26	0.94	5.2	
3166	1582	二次加工のある剥片		10C13c	1872SI	上層	熔結凝灰岩	2.79	2.67	1.11	7.0	
3167	1361	二次加工のある剥片		10D14m	0130SX		熔結凝灰岩	2.35	3.02	1.30	5.7	
3168	332	二次加工のある剥片		10B14p	1455SI		熔結凝灰岩	3.42	2.48	1.07	7.7	
3169	832	二次加工のある剥片		10B18p	1404SX		凝灰岩	3.94	2.68	0.76	6.7	
3170	1276	二次加工のある剥片		10B20q	検出		凝灰岩	2.25	1.97	0.53	1.6	
3171	622	二次加工のある剥片		10B14n	検出		凝灰岩	2.17	1.81	0.56	1.9	
3172	1012	二次加工のある剥片		10C13b	1002SD	上層	安山岩	2.97	1.87	0.74	4.2	
3173	291	二次加工のある剥片		10B18p	1410SI		安山岩	3.08	2.48	1.21	6.8	石鏃製作途上、瘤状残存部
3174	3074	二次加工のある剥片		10B14t	1197SI	上層	安山岩	3.30	1.96	0.63	3.7	石鏃製作途上？
3175	765	二次加工のある剥片		10B18q	検出		安山岩	3.07	2.39	1.05	5.9	石鏃製作途上
3176	1175	二次加工のある剥片		10B11m	2077SI	掘方	安山岩	3.02	2.93	1.03	8.1	
3177	577	二次加工のある剥片		10B12n	検出		チャート	4.30	2.71	1.14	12.3	
3178	3037	二次加工のある剥片		10C9d	検出		チャート	1.94	1.47	0.55	1.7	
3179	19	二次加工のある剥片		10C17a	1207SI	上層	黒曜石	*0.79	*1.70	*0.65	1.2	
3180	2297	異形石器		10C9e	検出		安山岩	3.86	1.98	0.70	5.6	
3181	27	剥片	縦長	10B18p	検出		熔結凝灰岩	6.60	3.32	1.21	21.8	
3182	2266	剥片		10C5j	検出		熔結凝灰岩	5.34	2.33	1.69	13.6	
3183	2513	剥片		10C16p	検出		熔結凝灰岩	5.56	2.39	1.59	21.6	
3184	571	剥片		10B11l	検出		熔結凝灰岩	2.58	2.34	0.77	3.8	
3185	82	剥片		10B11o	1952SI	下層	熔結凝灰岩	4.43	2.88	1.43	15.4	
3186	94	剥片		10B11n	1967SI	下層	熔結凝灰岩	3.61	1.99	0.93	6.2	
3187	2345	剥片		10C11d	検出		熔結凝灰岩	4.23	3.58	1.17	9.5	
3188	2017	剥片		10C13n	3388SI	下層	熔結凝灰岩	4.78	2.24	1.82	12.8	
3189	2445	剥片		10C14f	検出		熔結凝灰岩	3.03	2.41	1.46	7.6	
3190	2221	剥片		10C11e	4337SI	上層	熔結凝灰岩	3.18	4.03	4.03	25.6	
3191	1577	剥片		10C14c	1140SI	上層	熔結凝灰岩	3.35	4.54	1.25	16.1	
3192	1733	剥片		10C17k	3097SI	下層	熔結凝灰岩	4.61	4.26	0.96	19.5	
3193	3085	剥片		10C16a	1157SI	下層	熔結凝灰岩	3.41	3.48	1.26	13.5	
3194	1976	剥片		10C12i	3376SI	上層	熔結凝灰岩	2.22	1.78	0.52	1.7	
3195	1037	剥片		1B1s	1178SI	床直	熔結凝灰岩	2.85	2.99	0.67	3.5	
3196	1667	剥片		10C19e	3007SI	上層	熔結凝灰岩	2.30	2.42	0.58	3.3	
3197	1253	剥片		10B18o	検出		熔結凝灰岩	2.06	2.44	0.55	2.0	
3198	592	剥片		10B15p	検出		熔結凝灰岩	2.97	2.14	0.93	8.0	
3199	123	剥片		10B15q	検出		熔結凝灰岩	1.96	2.01	0.47	1.7	
3200	324	剥片		10B14r	1276SI	上層	熔結凝灰岩	2.60	3.36	0.84	8.4	
3201	268	石核		10B18q	1330SI		熔結凝灰岩	5.33	2.28	1.81	12.9	
3202	2312	石核		10C9o	検出		熔結凝灰岩	6.66	4.61	2.49	58.7	
3203	730	石核		10B17q	検出		熔結凝灰岩	3.24	2.62	1.33	6.8	
3204	1158	石核		10B12n	2077SI	掘方	熔結凝灰岩	4.63	7.44	3.25	88.6	
3205	2298	石核		10C9f	検出		熔結凝灰岩	4.13	5.65	2.22	48.4	
3206	473	石核		10B17n	1295SI	下層	熔結凝灰岩	1.88	4.33	1.11	6.2	
3207	145	石核		10B19q	1355SK		熔結凝灰岩	5.90	4.25	2.90	70.3	
3208	702	石核		10B16r	検出		熔結凝灰岩	5.46	3.55	2.81	44.5	
3209	2381	石核		10C12d	検出		松脂岩	4.26	5.63	3.78	85.1	
3210	1177	石核		10B11m	2077SI	掘方	熔結凝灰岩	2.34	2.37	1.07	5.3	
3211	1172	石核		10B11m	2077SI	掘方	熔結凝灰岩	3.16	3.82	1.87	15.9	
3212	2507	石核		10C16m	検出		熔結凝灰岩	5.86	6.26	1.40	41.6	
3213	419	石核		1B1r	1224SI		熔結凝灰岩	3.48	3.37	1.87	12.5	
3214	614	石核		10C10b	検出		熔結凝灰岩	3.91	2.47	2.37	24.0	旧石器
3215	2002	石核		10C12m	3388SI	下層	熔結凝灰岩	4.76	4.17	3.54	52.5	
3216	1782	石核		10C17n	3149SI	上層	熔結凝灰岩	3.70	2.51	1.74	16.4	
3217	1840	石核		10C15h	3215SI	下層	熔結凝灰岩	4.88	6.80	3.15	90.3	
3218	1747	石核		10C16n	3146SI	下層	熔結凝灰岩	4.95	4.52	2.08	37.9	
3219	1746	石核		10C16m	3146SI	上層	熔結凝灰岩	3.75	3.06	2.67	26.9	
3220	1743	石核		10C14o	3145SI	下層	熔結凝灰岩	4.15	5.39	2.35	50.5	
3221	1700	石核		10C16g	3040SD		熔結凝灰岩	2.75	2.64	1.63	8.2	
3222	2718	石核		10C10r	5784SI	上層	熔結凝灰岩	5.04	3.95	0.98	22.2	
3223	2604	石核		10C16r	3329SI	下層	熔結凝灰岩	4.95	4.23	2.26	26.9	
3224	2420	石核		10C13j	検出		熔結凝灰岩	3.16	4.94	2.00	25.2	
3225	2036	石核		10C11q	3406SI	上層	熔結凝灰岩	3.64	3.52	2.30	18.9	

登録番号	整理番号	器種	分類	グリッド	遺構	層位等	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3226	1750	石核		10C16n	3146SI	上層	熔結凝灰岩	3.91	4.30	2.40	30.9	
3227	231	石核		10C15a	1157SI		熔結凝灰岩	3.18	3.53	1.71	17.4	
3228	695	石核		10B16q	検出		熔結凝灰岩	3.26	2.13	1.12	6.5	
3229	21	石核		10B18p	1330SI	掘方	熔結凝灰岩	3.00	2.40	1.79	14.5	草創期以前？
3230	394	石核		10B18p	1330SI	上層	熔結凝灰岩	3.52	2.77	1.18	11.3	
3231	1170	剥片	縦長様	10B11m	2077SI	掘方	凝灰岩	4.06	1.20	0.59	2.3	
3232	491	剥片	縦長様	10B14o	1444SI	下層	凝灰岩	4.30	1.82	0.96	6.6	
3233	2545	剥片		10C17j	検出		凝灰岩	3.42	1.80	0.68	2.4	
3234	570	剥片		10B10t	検出		凝灰岩	3.29	2.43	0.73	5.5	
3235	1278	剥片		10B20s	検出		凝灰岩	2.89	3.04	0.98	5.6	
3236	337	剥片		10B16p	1464SI		凝灰岩	5.97	3.84	1.35	24.4	
3237	652	剥片		10B15p	検出		凝灰岩	3.63	4.16	0.85	13.9	
3238	485	剥片		10B18r	1436SK		凝灰岩	3.52	4.19	1.06	20.2	
3239	841	剥片		10C13a	1218SI		凝灰岩	8.76	5.59	2.00	65.7	
3240	604	剥片		10B17t	検出		凝灰岩	3.19	4.83	1.21	15.0	
3241	363	剥片		10B20s	1178SI	床直	凝灰岩	3.36	4.08	1.43	16.8	
3242	546	剥片		10B17o	1464SI	床直	凝灰岩	5.60	3.36	1.22	12.7	
3243	656	剥片		10B15p	検出		凝灰岩	3.50	4.21	1.32	14.5	
3244	566	剥片		10B12r	検出		凝灰岩	4.23	7.39	1.77	49.7	
3245	718	剥片		10B17p	検出		凝灰岩	4.01	4.36	1.12	14.5	
3246	821	剥片		-	表採		凝灰岩	4.02	3.26	1.30	13.9	
3247	545	石核		10B17o	1464SI	下層	凝灰岩	4.88	2.68	2.22	24.2	
3248	2071	石核		10C11m	3651SI	上層	凝灰岩	5.35	8.10	3.91	118.9	
3249	2511	石核		10C16o	検出		凝灰岩	6.44	5.53	2.81	75.6	
3250	2668	石核		10C13s	5634SI	下層	凝灰岩	4.84	2.85	2.93	44.4	
3251	1125	石核		10B16p	1464SI	掘方	凝灰岩	2.17	5.30	1.00	7.7	
3252	1165	石核		10B11m	2077SI	掘方	凝灰岩	3.22	2.63	1.67	14.0	
3253	2360	石核		10C11i	検出		凝灰岩	2.93	2.87	2.13	15.4	
3254	2701	石核		10C16r	5653SI	下層	凝灰岩	4.64	6.26	3.64	95.9	
3255	587	石核		10B15p	検出		凝灰岩	4.22	4.18	2.54	45.4	
3256	53	石核		10B15p	検出		安山岩	4.00	9.50	1.72	53.8	
3257	522	剥片		10B14o	1455SI	掘方	安山岩	5.35	3.53	1.07	19.5	
3258	2755	剥片		10C11s	検出		安山岩	3.69	3.74	0.63	8.3	
3259	471	剥片		10B17r	検出		安山岩	3.87	4.92	1.23	23.7	
3260	1059	剥片		1B1p	1270SI		安山岩	3.97	4.62	0.87	18.0	
3261	2259	剥片		10C13c	4906SK		安山岩	4.41	2.49	0.65	6.3	
3262	1145	剥片		10B10l	2006SI		安山岩	4.33	2.81	1.20	14.1	
3263	2556	剥片		10C17o	検出		安山岩	2.79	4.10	1.09	10.2	
3264	666	剥片		10B15q	検出		安山岩	3.26	1.89	0.98	6.4	
3265	352	石核		10B15r	1474SI	下層	安山岩	3.60	3.68	1.68	20.1	
3266	267	石核		10B17q	1329SI	下層	安山岩	4.71	7.94	2.87	87.4	
3267	820	石核		-	表土		安山岩	5.00	3.58	1.69	32.0	
3268	1030	石核		10B18n	1166SD		安山岩	5.13	5.44	2.72	42.7	
3269	1290	石核		-	排土中		安山岩	4.31	4.39	2.13	44.4	
3270	868	大型剥片石器石核		10B18r	1272SK		安山岩	11.40	12.71	6.48	1030.0	
3271	1906	剥片		10C13f	3261SI	上層	チャート	2.70	1.60	0.41	2.4	
3272	2738	剥片		10D17a	5911SI	下層	チャート	2.24	2.02	0.51	2.3	
3273	1118	剥片		10B18r	1436SK		チャート	3.81	2.25	1.34	11.2	
3274	1271	剥片		10B19r	検出		チャート	2.91	1.30	0.79	2.8	
3275	1052	剥片		10C18a	1223SI	下層	チャート	3.19	1.72	1.01	5.3	
3276	2737	剥片		10D17a	5911SI	下層	チャート	2.77	3.21	1.29	13.2	
3277	155	剥片		10B19q	1384SK		チャート	2.97	3.61	1.02	9.2	
3278	584	石核		10B14o	検出		チャート	5.34	2.83	1.16	22.7	
3279	3014	石核		10C8h	3306SI	上層	チャート	3.50	4.15	1.48	14.4	
3280	2516	石核		10C16q	検出		チャート	3.08	4.29	1.22	19.2	
3281	3237	剥片	縦長様	10C17k	検出		黒曜石	2.37	1.15	0.63	1.5	
3282	712	剥片		10B17o	検出		黒曜石	3.68	3.28	1.18	9.1	
3283	2995	剥片		10C10i	3001SI	堀方	黒曜石	2.93	1.78	0.58	3.4	
3284	179	剥片		10C17b	1732SI	下層	黒曜石	3.34	2.95	1.28	7.9	
3285	840	剥片		10C14a	1197SI		黒曜石	3.59	3.99	0.79	7.8	
3286	611	剥片		10B20p	検出		黒曜石	1.59	3.08	0.93	3.0	
3287	17	剥片		10C18a	1207SI	上層	黒曜石	1.59	2.07	0.89	2.1	
3288	290	剥片		10B20p	1403SI		黒曜石	1.90	1.94	0.95	2.4	
3289	771	石核		10B18r	検出		黒曜石	2.30	2.10	1.42	5.6	
3290	845	石核		10B19s	1631SK		黒曜石	1.75	3.52	1.14	7.6	
3291	848	石核		10B12t	2057SK		黒曜石	2.24	3.25	1.53	9.1	
3292	783	剥片		10B19q	検出		下呂石	2.00	2.95	0.72	3.8	
3293	504	剥片		10B15p	1455SI	下層	下呂石	2.04	1.81	0.72	2.3	
3294	2502	剥片		10C16l	検出		瑪瑙	2.66	3.07	0.37	2.8	
3295	2605	剥片		10C16r	3329SI	下層	瑪瑙	1.65	3.28	0.69	4.6	
3296	465	剥片		10B18q	1277SI	掘方	オパール	2.39	3.04	0.98	7.7	
3297	2309	剥片		10C9i	検出		オパール	1.92	1.88	0.34	1.3	
3298	3229	剥片		10C14m	検出		オパール	1.61	3.04	0.30	1.2	
3299	3077	剥片		10C13q	5086SK		松脂岩	4.37	4.51	0.99	11.2	
3300	776	両極打撃のある石器		10B18r	検出		凝灰岩	6.69	6.95	1.69	91.3	

登録番号	整理番号	器種	分類	グリッド	遺構	層位等	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3301	816	両極打撃のある石器		10C20a	検出		凝灰岩	5.16	5.07	1.40	37.5	
3302	1277	両極打撃のある石器		10B20s	検出		凝灰岩	5.80	6.39	1.85	62.5	
3303	3052	打製石斧	撥形	10C14r	5634SI	床直	緑色片岩	24.60	7.10	3.64	814.8	
3304	33	打製石斧	短冊形	-	表土		緑色片岩	14.28	5.08	2.02	166.7	
3305	36	打製石斧	短冊形	10B17p	検出		緑色片岩	*8.35	5.13	2.02	115.7	
3306	2332	打製石斧	短冊形	10C10i	検出		緑色片岩	10.34	6.71	0.77	103.8	
3307	2000	打製石斧	短冊形	10C12m	3388SI	上層	緑色片岩	10.77	5.55	1.34	107.5	
3308	2712	打製石斧	短冊形	10C16t	5702SI	下層	緑色片岩	8.88	4.74	0.60	41.7	
3309	3025	打製石斧		10C17o	3273SI	床直	緑色片岩	6.38	11.10	2.07	184.1	
3310	2661	打製石斧	短冊形	10D7a	5600SI	下層	緑色片岩	11.21	4.12	1.59	134.2	
3311	2599	打製石斧	短冊形	-	排土中		緑色片岩	12.99	5.11	2.09	191.4	
3312	3045	打製石斧	撥形	10C15g	検出		緑色片岩	8.26	4.80	1.30	71.9	
3313	35	打製石斧	短冊形	10B17o	検出		緑色片岩	8.38	5.43	1.72	115.6	
3314	1551	打製石斧	短冊形	10C16f	3036SI	下層	緑色片岩	*8.72	4.21	0.76	56.9	
3315	1553	打製石斧	短冊形	10C9n	3307SX	上層	緑色片岩	*8.55	4.59	1.49	94.1	
3316	2566	打製石斧	短冊形	10C17p	検出		緑色片岩	6.64	3.73	0.71	23.7	
3317	2574	打製石斧	短冊形	10C18g	検出		緑色片岩	8.22	3.40	0.68	32.3	
3318	1801	打製石斧		10C15i	3150SI	掘方	緑色片岩	7.42	4.19	0.89	43.4	
3319	1555	打製石斧	短冊形	10C11s	5668SI	下層	緑色片岩	*6.49	4.70	0.81	37.6	
3320	42	打製石斧	短冊形	10C19a	1138SI	上層	緑色片岩	7.83	4.10	1.57	75.2	
3321	1335	打製石斧	短冊形	10E17f	0121SI	SP2	緑色片岩	*8.25	5.30	1.90	110.9	
3322	3011	打製石斧	短冊形	10C19e	3007SI	上層	片麻岩	12.86	6.38	2.53	252.4	
3323	3046	打製石斧	短冊形	10C15g	検出		片麻岩	9.91	5.16	1.05	87.8	
3324	220	打製石斧	撥形	10B14m	1900SD		片麻岩	10.11	5.20	1.38	93.6	
3325	1557	打製石斧	撥形	10C17f	検出		片麻岩	8.68	4.87	1.42	62.1	
3326	1550	打製石斧		10C18f	3021SX		泥質片岩	*7.58	5.64	2.61	141.1	
3327	838	打製石斧	短冊形	10C20b	1180SI		結晶片岩	8.53	3.46	1.41	53.9	
3328	847	打製石斧	短冊形	10C12a	1894SI	上層	結晶片岩	15.20	5.56	3.41	377.1	
3329	2584	打製石斧	短冊形	-	表採		黒色片岩	9.21	4.05	1.03	60.9	
3330	985	打製石斧		10B20r	検出		泥質凝灰岩	*5.81	6.78	1.77	112.7	
3331	2595	打製石斧	短冊形	-	表採		泥質凝灰岩	5.94	3.42	1.17	25.3	
3332	1552	打製石斧	短冊形	10C14l	3283SI	上層	泥質凝灰岩	*10.81	7.05	1.02	119.9	
3333	1313	打製石斧		10E12n	0020SD		泥質凝灰岩	*8.88	*5.13	2.09	101.6	
3334	2577	打製石斧		10C19e	検出		泥質凝灰岩	*5.96	6.50	2.39	123.4	
3335	1554	打製石斧	撥形	10C10h	3404SI	下層	泥質凝灰岩	7.25	5.42	1.57	58.7	
3336	44	打製石斧	短冊形	10B15o	1455SI		泥質凝灰岩（只持）	10.68	4.21	1.91	103.1	
3337	839	打製石斧	短冊形	10C20a	1180SI		凝灰岩	11.23	3.50	2.00	75.9	
3338	1980	打製石斧	短冊形	10C14q	3379SI	上層	凝灰岩	7.91	4.59	1.71	75.9	
3339	43	打製石斧	撥形	10B17o	検出		凝灰岩	11.60	7.31	3.82	290.2	肉厚
3340	3058	打製石斧	短冊形	10C12s	5791SK	上層	安山岩	12.70	4.14	1.41	83.6	
3341	1558	打製石斧	短冊形	10C17i	検出		安山岩	*14.48	8.65	3.85	565.2	厚手
3342	457	打製石斧	短冊形	10B18q	1277SI	床直	安山岩	5.29	3.25	6.97	11.6	
3343	2164	打製石斧		10C10q	3832SI	上層	安山岩	7.33	5.85	1.23	56.5	
3344	3041	打製石斧	撥形	10C10j	検出		安山岩	8.61	5.44	2.89	134.6	
3345	3105	打製石斧	短冊形	10B15o	1444SI		安山岩	7.55	4.16	1.50	58.7	
3346	37	打製石斧	短冊形	10B17r	検出		変塩基性岩	14.87	7.96	4.44	844.0	肉厚
3347	813	打製石斧	短冊形	10C18a	検出		変塩基性岩	8.17	5.41	1.03	64.7	
3348	41	打製石斧	撥形	10B15n	1454SI	上層	変塩基性岩	*7.44	5.67	1.85	92.0	
3349	3056	打製石斧		10C10r	5785SI	上層	変塩基性岩	6.59	4.98	1.28	58.4	
3350	216	礫器		10B19m	1005SD		泥質凝灰岩（只持）	8.14	8.53	3.62	259.5	
3351	217	礫器		10B18r	1272SK		泥質凝灰岩（只持）	6.79	9.80	2.71	217.8	
3352	31	礫器		10B14q	検出		泥質凝灰岩	9.44	13.36	3.66	602.0	
3353	1157	礫器		10B12n	2077SI	掘方	泥質凝灰岩	6.55	8.18	4.29	242.3	
3354	2812	礫器		10C18i	3121SI	下層	泥質凝灰岩	6.15	5.66	2.26	104.0	打製石斧様
3355	1751	礫器		10C17n	3146SI	下層	凝灰岩	12.69	8.82	3.95	472.5	
3356	2090	大型剥片石器		10C10o	3607SI	上層	凝灰岩	*5.35	5.71	1.79	54.8	
3357	208	大型剥片石器		10C17b	1002SD	上層	凝灰岩	*6.82	5.94	2.15	77.0	
3358	3049	大型剥片石器		10D16g	1900SD		凝灰岩	12.54	5.48	4.03	252.7	
3359	1908	大型剥片石器		10C15g	3261SI	床直	凝灰岩	*5.64	5.73	1.84	88.8	
3360	2758	礫器		10C12t	検出		凝灰岩	5.29	11.63	2.33	166.0	
3361	334	礫器		10B15p	1455SI	下層	凝灰岩	8.40	10.63	4.32	414.2	
3362	2300	礫器		10C9g	検出		凝灰岩	5.88	7.32	3.69	152.0	
3363	620	礫器		-	表採		凝灰岩	7.59	11.28	3.77	342.2	
3364	282	礫器		10B15s	1338SI	上層	凝灰岩	8.30	6.57	3.34	186.2	
3365	607	礫器		10B19g	検出		凝灰岩	8.50	8.36	3.32	246.4	
3366	1784	礫器		10C17m	3149SI	上層	凝灰岩	8.67	7.52	3.59		
3367	742	礫器		10B17r	検出		凝灰岩	7.20	8.18	2.76	213.1	
3368	209	礫器		10C13a	1002SD	上層	凝灰岩	8.12	7.43	2.33	157.8	
3369	2184	礫器		10C13g	3931SI	上層	砂質凝灰岩	6.88	7.13	4.84	235.3	
3370	3054	礫器		10D13a	5650SI	下層	凝灰質砂岩	11.15	8.16	3.65	397.1	
3371	234	礫器		10C15b	1157SI	上層	安山岩	6.12	5.01	3.06	107.4	
3372	2501	礫器		10C16l	検出		安山岩	5.73	7.52	3.05	131.5	
3373	2237	大型剥片		10C13d	4362SI	上層	安山岩	6.14	6.33	6.33	53.7	
3374	1421	大型剥片		10E13f	検出		安山岩	8.08	9.52	3.72	228.6	古相？
3375	477	礫器		10B19q	1403SI	掘方	安山岩	5.19	8.69	2.87	128.5	

登録番号	整理番号	器種	分類	グリッド	遺構	層位等	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3376	1697	礫器		10C16g	3037SI	上層	安山岩	5.25	6.38	4.33	161.1	
3377	278	大型剥片石器		10B15s	1338SI		安山岩	*6.59	8.37	2.91	172.3	
3378	3061	礫器		10D16c	5910SI	下層	安山岩	7.23	5.13	3.68	114.7	
3379	945	大型剥片		10B12r	検出		安山岩	19.00	11.33	6.00	1410.0	
3380	1727	大型剥片		10C19f	3082SI	上層	安山岩	5.70	6.67	1.80	72.7	
3381	367	大型剥片		10B20t	1181SI	床直	安山岩	7.53	4.49	1.15	37.5	
3382	2580	大型剥片		10C20c	検出		安山岩	6.32	6.46	1.98	86.6	
3383	904	礫器		10B12m	1991SI		変塩基性岩	7.49	13.01	2.83	476.0	
3384	2789	大型剥片石器		10D14e	検出		変塩基性岩	9.11	5.29	1.21	69.6	
3385	1920	礫器		10C14l	3283SI	上層	変塩基性岩	6.80	8.08	3.74	259.7	
3386	2153	礫器		10C10f	3798SI	下層	珪質岩	6.92	6.73	3.03	136.7	
3387	133	大型剥片		10B18r	1272SK		塩基性岩	5.54	4.71	1.40	36.7	
3388	376	礫器		10C14a	1197SI	床直	長石	5.60	5.03	3.17	87.6	
3389	2994	磨製石斧	定角式	10C10h	3001SI	堀方	塩基性岩	6.15	5.05	2.43	142.3	
3390	52	磨製石斧	定角式	10C14b	1199SI		凝灰岩	*6.01	4.57	1.90	78.3	
3391	3043	磨製石斧	非定角式	10C13i	検出		塩基性岩	11.01	4.11	2.12	179.2	
3392	48	磨製石斧	非定角式	10B17q	1329SI		変塩基性岩	19.20	5.94	3.96	648.0	
3393	1561	磨製石斧	非定角式	10C10l	3742SI	下層	変塩基性岩	*14.37	4.49	3.61	354.0	
3394	45	磨製石斧	非定角式	-	表採		変塩基性岩	13.01	4.06	2.26	194.5	
3395	2795	磨製石斧	非定角式	10C12j	3933SI	上層	変塩基性岩	9.71	4.86	3.78	284.5	欠損後に使用
3396	1560	磨製石斧	非定角式	10C10h	3404SI		変塩基性岩	11.74	4.64	3.09	277.6	
3397	3057	磨製石斧	非定角式	10C10r	5785SI	下層	塩基性岩類	8.19	3.99	2.88	129.5	製作途上？
3398	3066	磨製石斧	非定角式	10D12a	検出		変塩基性岩	8.19	5.13	2.84	176.0	
3399	1563	磨製石斧	非定角式	10C12n	3388SI	床直	変塩基性岩	*8.03	*2.95	2.01	75.3	
3400	47	磨製石斧	非定角式	10B20s	1181SI	堀方	変塩基性岩	10.55	4.19	2.74	203.8	
3401	1562	磨製石斧	非定角式	10C14r	検出		片麻岩	9.79	4.02	1.48	113.9	
3402	50	磨製石斧	非定角式	10B16p	1464SI	下層	変塩基性岩	10.48	2.26	1.50	46.5	小型
3403	2085	磨製石斧製作途上品	非定角式	10C9n	3605SI	下層	変塩基性岩	*7.38	5.61	2.17	138.8	
3404	2788	磨製石斧製作途上品	非定角式	10D14b	検出		変塩基性岩	11.07	5.80	4.38	414.8	
3405	972	磨製石斧製作途上品	非定角式	10B17r	検出		変塩基性岩	15.30	4.25	0.38	348.0	
3406	46	磨製石斧製作途上品	非定角式	10C12a	1002SD	下層	変塩基性岩	*9.12	5.72	3.21	230.7	
3407	514	磨製石斧製作途上品		10B14p	1455SI	下層	変塩基性岩	*7.04	4.85	4.03	164.5	
3408	829	磨製石斧製作途上品		10B10l	2023SI		変塩基性岩	*8.71	5.42	3.00	217.9	
3409	1287	磨製石斧製作途上品		-	表採		変塩基性岩	4.36	9.96	2.67	129.9	
3410	2883	磨製石斧製作途上品		10C16h	検出		変塩基性岩	13.22	2.67	1.74	115.8	
3411	61	磨石敲石類	敲石	-	表土		軽石	8.77	6.55	4.42	244.9	凹み明瞭
3412	872	磨石敲石類	敲石	10C16b	1331SI	下層	塩基性岩	8.86	6.68	4.11	390.0	
3413	2870	磨石敲石類	敲石	10C12h	検出		花こう岩	6.58	5.34	4.51	229.8	
3414	1150	磨石敲石類	敲石	10B11o	2033SI	上層	片麻岩	13.20	7.13	3.77	460.7	凹み明瞭
3415	2886	磨石敲石類	敲石	10C16i	検出		砂質凝灰岩	*6.93	4.53	2.55	97.0	凹み明瞭
3416	934	磨石敲石類	敲石	10C17b	1331SI		花こう岩	11.85	10.41	5.01	662.0	凹み明瞭
3417	1488	磨石敲石類	敲石？	10E12o	0020SD		花こう岩	8.78	7.89	5.26	398.6	溝状に凹む
3418	928	磨石敲石類	磨石＋敲石	10B11n	1967SI	下層	安山岩	7.61	7.00	4.88	358.0	
3419	914	磨石敲石類	敲石	10B13s	1923SI	上層	片麻岩	11.10	9.04	4.00	598.0	凹み明瞭
3420	3053	磨石敲石類	磨石＋敲石	10C14s	5634SI	上層	変塩基性岩	6.31	5.64	3.93	229.5	
3421	1139	磨石敲石類	敲石	10C8a	1875SI	下層	片麻岩	8.50	7.77	5.22	463.7	凹み明瞭
3422	2899	磨石敲石類	敲石	10C17h	検出		変塩基性岩	11.33	3.19	2.73	161.1	棒状（パンチ？）
3423	926	磨石敲石類	敲石	10B12n	1967SI	下層	花こう岩	*6.84	4.81	3.02	145.1	
3424	1573	石棒石刀類	石刀	10C17g	検出		緑色片岩	13.51	3.94	1.88	151.5	
3425	3016	石棒石刀類	石剣	10C12p	3406SI	上層	緑色片岩	15.80	3.24	2.47	208.0	
3426	1574	石棒石刀類	石刀？	10C15c	1139SI	下層	黒色片岩	5.95	2.45	1.49	29.2	
3427	3005	石棒石刀類	石刀？	10C17l	3149SI	床直	変塩基性岩	7.31	2.20	1.39	32.5	
3428	55	石棒石刀類	石刀	10B20k	検出		片麻岩	*6.01	2.64	1.43	35.1	
3429	3017	石製品		10C11p	3406SI	床直	塩基性岩	9.53	2.91	2.45	126.9	
3430	1570	玦状耳飾り		10B17q	1404SX		滑石	3.81	1.17	0.70	6.5	
3431	1571	玦状耳飾り		10B18r	検出		滑石	4.40	1.28	0.90	9.9	
3432	900	磨石敲石類	磨石＋敲石	10B12m	1991SI	床直	花こう岩	10.73	10.10	6.12	996.0	凹み明瞭
3433	905	磨石敲石類	磨石＋敲石	10B12m	1991SI		変塩基性岩	6.96	9.74	3.49	394.0	
3434	927	磨石敲石類	磨石	10B12n	1967SI	下層	砂岩	*13.25	11.99	6.53	1500.0	
3435	899	磨石敲石類	敲石	10B13o	1973SK		砂質凝灰岩	*8.90	4.06	3.29	146.0	
3436	888	磨石敲石類	磨石	10B14q	1456SI	床直	花こう岩	10.37	8.71	9.55	1110.0	
3437	889	磨石敲石類	敲石	10B14q	1456SI		花こう岩	10.03	8.71	4.87	518.0	凹み明瞭
3438	918	磨石敲石類	敲石	10B13p	1937SI	下層	片麻岩	12.80	5.12	4.02	446.0	
3439	891	磨石敲石類	敲石	10B17p	1464SI	床直	花こう岩	12.87	4.70	3.87	414.0	
3440	62	磨石敲石類	磨石＋敲石	10B17q	1464SI	下層	花こう岩	11.03	9.96	5.51	904.4	
3441	874	磨石敲石類	敲石	10B19r	1332SI		凝灰岩	*13.40	6.45	3.86	312.0	凹み明瞭
3442	954	磨石敲石類？	磨石？	10B15p	検出		凝灰岩	11.14	9.05	2.18	264.0	
3443	961	磨石敲石類	磨石	10B16p	検出		凝灰岩	10.10	8.87	5.31	522.0	
3444	861	磨石敲石類	磨石＋敲石	1B1n	1224SI	床直	片麻岩	12.00	10.38	4.85	982.0	
3445	987	磨石敲石類	磨石	10B20r	検出		砂質凝灰岩	12.52	7.22	4.65	556.0	
3446	907	磨石敲石類	磨石＋敲石	10B7q	1908SI	上層	片麻岩	6.14	6.07	4.78	270.0	
3447	906	磨石敲石類	磨石＋敲石	10B8q	1980SI	上層	花こう岩	9.29	7.27	5.68	590.0	
3448	910	磨石敲石類？	磨石？	10B10q	1917SI	上層	安山岩	11.96	9.86	6.71	1115.0	
3449	2854	磨石敲石類	磨石	10C8b	検出		片麻岩	12.40	8.41	6.06	930.7	
3450	2852	磨石敲石類	磨石	10C7d	検出		花こう岩	12.35	10.30	6.90	1255.8	

登録番号	整理番号	器種	分類	グリッド	遺構	層位等	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3451	54	磨石敲石類	磨石	10B14s	検出		角閃石	*8.18	4.17	3.23	186.0	
3452	865	磨石敲石類	敲石	10B16t	1253SI		花こう岩	*10.32	8.51	5.37	628.0	
3453	965	磨石敲石類	磨石	10B16s	検出		砂質凝灰岩	*7.75	*4.55	3.82	177.0	
3454	871	磨石敲石類	磨石	10C16b	1331SI	床直	花こう岩	9.01	7.51	5.49	620.0	
3455	2996	磨石敲石類	磨石＋敲石	10C17f	3005SI	下層	塩基性岩	17.30	5.90	4.25	663.1	
3456	2997	磨石敲石類	磨石＋敲石	10C17f	3005SI	下層	塩基性岩	14.42	5.61	3.36	498.6	
3457	2847	磨石敲石類	磨石	10C10d	4338SI	上層	砂岩	13.47	10.89	4.41	409.0	
3458	2848	磨石敲石類	磨石＋敲石	10C10e	4340SI	下層	片麻岩	9.74	8.39	3.85	488.8	
3459	2850	磨石敲石類	磨石	10C11d	4341SI	堀方	花こう岩	12.01	7.55	7.12	988.8	
3460	3032	磨石敲石類	磨石	10C14c	1140SI	下層	片麻岩	10.22	5.39	2.38	242.2	
3461	2829	磨石敲石類	磨石	10C16h	3206SI	上層	凝灰岩	*7.49	*4.74	3.01	110.8	
3462	1566	磨石敲石類	磨石	10C10j	3711SI	下層	花こう岩	9.91	3.68	3.38	202.5	
3463	3027	磨石敲石類	磨石	10C13j	3933SI	床直	凝灰質砂岩	15.36	6.29	4.97	725.7	
3464	3035	磨石敲石類	磨石	10C10l	5150SK		アプライト	14.78	10.70	9.25	2093.2	
3465	3007	磨石敲石類	磨石＋敲石	10C15j	3190SI	床直	花こう岩	9.38	9.79	5.69	715.1	
3466	2826	磨石敲石類	敲石	10C16i	3117SI	下層	変塩基性岩	15.09	6.22	2.23	391.8	
3467	2900	磨石敲石類	敲石	10C17j	検出		変塩基性岩	7.79	6.68	2.10	177.1	扁平
3468	2831	磨石敲石類	磨石	10C14l	3283SI		アプライト	7.77	5.11	3.74	216.9	
3469	2813	磨石敲石類	敲石	10C15o	3145SI	下層	砂質凝灰岩	*3.85	*4.06	3.15	62.0	
3470	3013	磨石敲石類	敲石	10C16o	3273SI	床直	凝灰質砂岩	3.88	9.40	3.35	142.3	
3471	2840	磨石敲石類	磨石	10C11o	3405SI	上層	変塩基性岩	9.95	4.52	2.59	188.8	
3472	2915	磨石敲石類	磨石	10C14s	5633SI	上層	砂岩	13.59	*6.06	6.23	634.5	
3473	2942	磨石敲石類	磨石	10C16r	5653SI	床直	花こう岩	11.23	10.48	8.10	1500.0	
3474	2925	磨石敲石類	磨石	10D17f	6040SI	下層	片麻岩	7.10	5.88	4.84	284.9	
3475	3064	磨石敲石類	磨石	10D16f	6040SI	床直	片麻岩	3.78	3.33	1.67	25.6	
3476	1511	磨石敲石類	磨石	10E11f	0124SX		花こう岩	12.93	8.98	9.16	1415.0	
3477	1493	磨石敲石類	磨石＋敲石	10E17f	0121SI	SP2	変塩基性岩	13.43	5.99	2.76	432.0	
3478	1492	磨石敲石類	磨石	10E17f	0121SI	床直	花こう岩	13.73	9.73	4.86	936.0	
3479	1530	磨石敲石類	磨石	-	表採		花こう岩	11.09	*8.41	9.14	1070.0	
3480	2909	磨石敲石類	磨石	10D12b	1900SD	上層	安山岩	*11,38	9.87	7.15	1335.6	
3481	895	砥石	手持砥石	10B12q	1900SD		泥質凝灰岩	13.68	4.67	2.90	300.0	
3482	1531	砥石	手持砥石	-	検出		凝灰岩	*6.02	2.93	1.86	45.5	
3483	941	砥石	手持砥石	10B15n	1444SI	上層	安山岩	9.99	7.27	6.12	600.0	
3484	318	砥石	手持砥石	10B14o	1444SI	下層	凝灰岩	11.65	0.47	1.44	110.6	
3485	57	砥石	手持砥石	10B15n	1454SI		片麻岩	8.17	3.81	0.97	53.9	
3486	60	砥石	置砥石	10B17p	1696SK		凝灰岩	21.50	9.26	8.07	1709.2	
3487	951	砥石	置砥石？	10B15o	検出		泥質凝灰岩	*6.42	9.17	5.75	456.0	
3488	980	砥石	手持砥石	10B18s	検出		片麻岩	9.83	4.79	2.25	184.2	
3489	56	砥石	手持砥石	10B19o	検出		泥岩	8.70	4.57	2.61	107.2	
3490	978	砥石	手持砥石	10B18p	検出		凝灰岩	*3.8	3.62	1.06	14.7	
3491	859	砥石	置砥石	1B1r	1200SI下面	床直	緑色片岩	16.90	9.82	2.54	698.0	
3492	919	砥石	置砥石	10B12r	1938SI	下層	凝灰岩	*9.56	7.49	6.78	630.0	
3493	1131	砥石	置砥石	10B14t	1599SK		凝灰岩	*8.67	4.19	5.26	195.6	
3494	2998	砥石	置砥石	10C19d	3006SI	床直	安山岩	23.10	13.22	8.83	2912.7	
3495	2907	砥石	手持砥石	10C19e	検出		変塩基性岩	9.51	3.28	1.56	81.4	
3496	2889	砥石	手持砥石	10C17c	検出		凝灰岩	13.47	8.27	4.91	585.4	
3497	3004	砥石	置砥石	10C18f	3079SI	床直	片麻岩	18.70	15.06	5.27	2426.6	
3498	3026	砥石	手持砥石	10C13g	3932SI	上層	凝灰質泥岩	13.54	2.03	1.04	20.0	
3499	1892	磨製石斧	定角式	10C13h	3216SI	上層	塩基性岩	2.82	3.47	1.39	16.2	
3500	3008	砥石	置砥石	10C16h	3205SI	床直	片麻岩	12.60	20.50	1.98	622.6	
3501	3010	砥石	手持砥石	10C16h	3205SI	床直	凝灰質砂岩	3.00	2.18	8.26	5.3	
3502	3047	砥石	手持砥石	10C15h	検出		凝灰質砂岩	8.69	4.56	2.39	143.9	
3503	1569	砥石	置砥石	10C17h	検出		凝灰岩	20.30	9.03	4.89	1209.1	
3504	1568	砥石	置砥石	10C11l	3743SI	床直	緑色片岩	12.70	8.31	2.62	557.8	
3505	2866	砥石	置砥石	10C11k	検出		砂質凝灰岩	*18.20	*16.50	3.39	1388.7	
3506	2250	砥石	置砥石	10C13j	4429SK		変塩基性岩	10.45	4.74	2.10	173.7	
3507	2933	砥石	置砥石	10C11i	3375SI	床直	片麻岩	23.80	18.60	8.11	5000.0	
3508	1904	砥石	手持砥石	10C17i	3121SI	下層	砂質凝灰岩	6.60	6.06	2.75	92.0	
3509	3021	砥石	置砥石	10C11j	3710SI	床直	片麻岩	13.39	9.08	7.53	2334.5	
3510	1567	砥石	置砥石	10C15k	3150SI	下層	凝灰岩	13.17	*8.34	4.65	543.2	
3511	1852	砥石	置砥石	10C15j	3188SI	上層	緑色片岩	9.08	9.99	0.95	142.3	
3512	1855	砥石	手持砥石	10C14i	3190SI	上層	凝灰岩	*7.91	4.64	2.65	75.1	
3513	2846	砥石	手持砥石	10C15j	4309SI	上層	安山岩	6.40	5.75	5.83	338.5	
3514	3028	砥石	手持砥石	10C14j	4309SI	床直	安山岩	15.36	4.95	3.96	354.7	
3515	3029	砥石	置砥石	10C14j	4309SI	床直	片麻岩	16.70	9.73	1.73	412.9	
3516	2932	砥石	置砥石	10C16o	3273SI	床直	凝灰岩	14.80	9.20	9.20	1000.0	
3517	3018	砥石	置砥石	10C16p	3483SK		片麻岩	23.70	12.29	1.85	1017.7	
3518	2945	砥石	置砥石	10C16r	5653SI	床直	凝灰岩	16.50	19.00	5.68	2000.0	
3519	2914	砥石	手持砥石	10C12t	5667SI	下層	凝灰岩	13.09	4.68	4.91	302.2	
3520	2648	砥石	手持砥石	10C12s	5545SI	下層	凝灰岩	10.60	3.70	2.23	122.1	
3521	2923	砥石	手持砥石	10D16c	5909SI	下層	凝灰岩	*8.94	4.59	5.26	268.8	
3522	1334	砥石	手持砥石	10E16f	0121SI	下層	泥質凝灰岩	7.17	4.66	1.22	43.1	
3523	898	石皿台石類	台石	10B9o	1958SI	床直	塩基性岩	22.90	13.10	4.15	2000.0	
3524	901	石皿台石類	台石	10B12m	1991SI	床直	凝灰岩	25.30	16.50	5.97	4000.0	
3525	875	石皿台石類	台石	10B19r	1332SI		ハンレイ岩	*16.90	9.94	5.14	1290.0	

登録番号	整理番号	器種	分類	グリッド	遺構	層位等	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3526	857	石皿台石類	台石	10C20b	1180SI	床直	花こう岩	24.40	22.20	6.74	5500.0	
3527	1003	石皿台石類	台石	10B7s	1906SI		凝灰岩	20.80	20.30	9.90	4500.0	
3528	1006	石皿台石類	台石	10B15r	1338SI	床直	砂質凝灰岩	28.50	23.50	9.50	8500.0	
3529	853	石皿台石類	台石	10C16a	1157SI	床直	砂質凝灰岩	*23.00	*11.69	6.49	3000.0	
3530	2948	石皿台石類	台石	10C15c	1139SI	下層	花こう岩	31.00	14.50	7.50	4500.0	
3531	2928	石皿台石類	台石	10C14c	1872SI	床直	砂質凝灰岩	26.00	22.40	6.71	4500.0	
3532	3003	石皿台石類	台石	10C18f	3079SI	床直	花こう岩	17.00	8.24	7.35	1635.8	
3533	2940	石皿台石類	台石	10C11e	4337SI	床直	砂質凝灰岩	333.30	24.90	7.17	10500.0	
3534	2931	石皿台石類	台石	10C15g	3215SI	床直	砂質凝灰岩	28.00	*19.60	13.88	12000.0	切断？
3535	2929	石皿台石類	台石	10C18i	3121SI	床直	片麻岩	*19.20	12.35	4.86	1500.0	
3536	2930	石皿台石類	台石	10C17i	3121SI	床直	花こう岩	30.90	24.90	8.56	10500.0	
3537	2939	石皿台石類	台石	10C13j	3933SI	床直	花こう岩	15.36	14.99	9.07	4500.0	
3538	2950	石皿台石類	台石	10C10l	3742SI	上層	安山岩	*12.51	*21.00	8.57	1500.0	
3539	2952	石皿台石類	台石	10C11k	3743SI	床直	花こう岩	37.80	25.60	12.50	21000.0	
3540	2934	石皿台石類	台石	10C13n	3388SI	床直	花こう岩	22.30	13.30	8.62	4000.0	
3541	2935	石皿台石類	台石	10C12n	3389SI	床直	花こう岩	32.50	31.60	7.50	7500.0	
3542	2938	石皿台石類	台石	10C17o	3273SI	床直	片麻岩	26.60	17.80	5.99	5000.0	
3543	2944	石皿台石類	台石	10C14s	5634SI	床直	凝灰岩	22.70	13.50	6.44	2500.0	
3544	2937	石皿台石類	台石	10C9n	3605SI	床直	花こう岩	25.90	22.20	6.92	7000.0	
3545	2991	石皿台石類	台石？	10C14t	5635SI	炉	花こう岩	22.80	7.90	9.31	1943.7	凹みあり
3546	2943	石皿台石類	台石	10C12r	5545SI	床直	花こう岩	33.40	28.50	9.20	14500.0	
3547	2955	石皿台石類	台石	10C12r	5545SI	下層	花こう岩	28.20	28.20	12.00	17000.0	
3548	2947	石皿台石類	台石	10C11t	5668SI	床直	片麻岩	23.30	12.78	5.42	2500.0	
3549	1490	石皿台石類	台石？	10E17f	0121SI	下層	片麻岩	*12.60	*9.48	3.59	754.0	
3550	3067	石皿台石類	台石	10E16m	0016SI	上層	花こう岩	41.20	37.30	11.00	31000.0	
3551	2941	石皿台石類	台石	10C18g	3079SI	床直	花こう岩	31.00	25.50	6.90	10000.0	
3552		石製紡錘車		10C15d	3003SI	上層	砂質凝灰岩	*4.15	*2.04	0.68	4.6	
3553	1564	石製紡錘車		10C15k	3150SI	上層	凝灰岩	*3.46	*2.60	0.76	6.1	
3554		石製紡錘車		10D15c	5909SI	下層	砂質凝灰岩	*3.32	*2.37	0.75	5.8	
3555	1565	石製品		10C16i	3205SI	床直	凝灰岩	5.59	*4.90	0.95	31.0	

登録番号		器種	分類等	グリッド	遺構	層位等	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
3556		破鏡	方格規矩四神鏡	10C17d	3002SI		青銅製品	2.10	1.80	0.13	2.1	
3557		銅鏃		10C10s	5785SI	下層	青銅製品	*3.20	*1.20	0.40	3.2	
3558		板状青銅製品		10C10e	4340SI	上層	青銅製品	*6.50	*4.20	0.25	16.6	
3559		銅滴または青銅滓		10B20m	西斜面		青銅製品製作関連	1.90	1.80	0.75	3.6	
3560		銅滴または青銅滓		10B20m	西斜面		青銅製品製作関連	1.90	1.15	0.60	2.6	
3561		板状鉄斧	川越Ａ２型	10B20s	1178SI	床直	鉄製品	6.50	3.40	0.60	31.4	
3562		板状鉄斧	川越Ａ１型	10C15r	3378SI	上層	鉄製品	*10.1	4.30	0.70	109.1	
3563		ヤリガンナ	古瀬IIa類	10C7c	1860SI	床直	鉄製品	*8.50	1.20	0.90	12.0	
3564		鉄剣		10B14s	1276SI	床直	鉄製品	11.70	2.30	0.50	32.5	木質
3565		小鉄片		10B14s	1276SI	床直	鉄製品	*3.90	0.60	0.60	2.1	
3566		小鉄片（ヤリガンナ）		10D15a	6145SK		鉄製品	*3.70	*1.00	0.20	1.5	
3567		不明鉄製品		10C17m	3149SI	下層	鉄製品	*9.20	*2.60	0.40	21.1	混入の可能性
3568		刀子		10C15e	検出		鉄製品・青銅製品	*8.90	1.40	0.70	17.8	
3569		鉛製鉄砲玉	「石座08A玉」	10E17q	検出		鉛製品	11.90			9.4	
3570		鉛製鉄砲玉	「石座08Ｂ玉」	10D15p	検出		鉛製品	12.00			9.1	
3571		鉛製鉄砲玉	「石座09Ｂ玉」	10B5t	検出		鉛製品	11.90			8.0	
3572		鉛製鉄砲玉	「石座10A玉」	10B7t	表採		鉛製品	11.55			9.1	
3573		鉛製鉄砲玉	「石座10Ｂ玉」	10C9s	1900SD	上層	鉛製品	11.20			6.6	
3574		銭貨	淳化元寶（行書）	10D16p	0134SD		青銅製品	2.30			2.6	北宋（初鋳990年）
3575		銭貨（銹着）	景徳元寶（真書）	10D4c	検出		青銅製品	2.40			16.4	北宋（初鋳1004年）
3576		銭貨	天聖元寶（篆書）	10C9s	6150SK		青銅製品	2.40			2.2	北宋（初鋳1023年）
3577		銭貨	永楽通寶（真書）	10C9s	1900SD	上層	青銅製品	2.50			2.2	明（初鋳1408年）
3578		銭貨	永楽通寶（真書）	10B20s	検出		青銅製品	2.40			2.2	明（初鋳1408年）
3579		銭貨	文久永宝（真書）	10E16m	検出		青銅製品	2.70			3.9	江戸（1863年）

ふりがな	いわくらじんじゃいせき
書名	石座神社遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第189集
編著者名	早野浩二 川添和暁 中村賢太郎 山形秀樹 小林克也 西田京平 平尾良光 堀木真美子他
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2015年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
いわくらじんじゃいせき 石座神社遺跡	あいちけんしんしろし 愛知県新城市 おおみやあざきつねづか 大宮字狐塚	23221	76045	34度 55分 38秒	137度 31分 10秒	2007.05.14 ～2007.06.13 2008.09.09 ～2009.03.24 2009.08.06 ～2010.03.31 2010.05.21 ～2011.03.14	400 5,200 4,720 10,330	第二東海 自動車道 横浜 名古屋線

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石座神社 遺跡	集落	旧石器時代	小支谷	石器	ナイフ形石器を含む 旧石器の出土
		縄文時代	炉穴・竪穴建物・土坑	縄文土器・石器・石製品	有溝砥石、玦状耳飾り ２点、石刀の出土
		弥生時代	竪穴建物	弥生土器	弥生時代後期から古墳 時代前期の大規模集落
		古墳時代	竪穴建物・掘立柱建物	土師器・石製品・金属製品	大型竪穴・掘立柱建物 破鏡・鉄製品の出土
		古代	竪穴建物・掘立柱建物	土師器・須恵器	斜面に立地する集落
		中世・戦国	大溝・土坑墓	土師器・山茶碗・金属製品	馬埋葬土坑 鉄砲玉５点の出土
		近世・近代	炭焼窯	陶器	

文書番号	発掘届出(19埋セ第2号・2007.4.6/20埋セ第32号・2008.6.24/21埋セ第10号・2009.4.1/21埋セ第136号・2010.3.10) 通知(19教生第154号・2007.4.25/20教生第952号・2008.7.10/21教生第142号・2009.4.15/21教生第2581号・2010.3.23) 終了届・保管証・発見届(19埋セ第36号・2007.6.18/20埋セ第125号・2009.4.2/21埋セ第151号・2010.4.2/22埋セ267号・2011.3.25) 鑑査結果通知(21教生第317号・2009.5.14/22教生第547号・2010.6.11/23教生第45号・2011.4.7)

要約	断上山丘陵上、東西約300m、南北約100mの範囲に弥生時代後期から古墳時代前期の集落が展開する。集落は竪穴建物334棟、掘立柱建物８棟から構成され、建物群には大型竪穴建物、布掘り柱掘方をもつ大型掘立柱建物も含まれる。検出された建物群は集落研究の基礎資料、良好に出土した土器群は土器編年の基準資料としての価値が高い。破鏡と鉄剣、鉄斧、ヤリガンナ等の豊富な鉄製品、水銀朱付着土器５点の出土も注目される。集落の展開は同一丘陵上の前方後方墳の断上山10号墳の築造に帰結する。その他、縄文時代の玦状耳飾り２点、設楽原の戦いに関連した可能性がある鉛製鉄砲玉５点が出土した。

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第189集

石　座　神　社　遺　跡

（第１分冊　本文編）

2015年３月31日

発行　公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷　西濃印刷株式会社